三菱重工

ビル空調システム

室内ユニット

技 術 資 料

天井埋込形4方向吹出し（FDT）
天井埋込形4方向吹出し小容量（FDTC）
天井埋込形2方向吹出し（FDTW）
天井埋込形1方向吹出し（FDTS）
天埋カセテリア（FDR）
高静圧ダクト形（FDU）
天吊形（FDE）
壁掛形（FDK）
床置形ダクト形（FDAS）
給気処理ユニット（FDU-F）

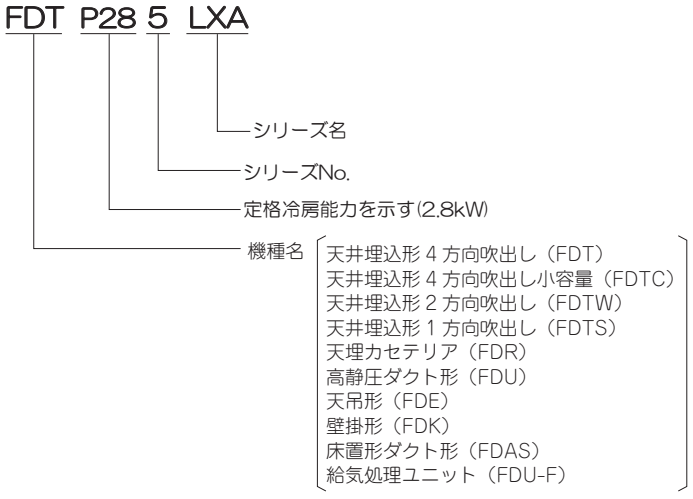
本資料は人感センサ対応の室内ユニットおよびFDASに関する事項を記載しております。
その他の室内ユニットおよび室外ユニットについては，2018・2019年冷熱ハンドブック設計・施工編およびサービス編をご覧ください。

4-542-1-D
'19-7 発　行

目　次

1. 仕　　様（運転特性）…… 2
2. 外　形　図 …… 38
3. 電気配線図 …… 86
4. 送風機特性 …… 107
5. 気流分布 …… 130
6. 運　転　音 …… 156
7. 塗　装　色 …… 164
8. 防振設計用参考資料 …… 168
9. 据付関連事項 …… 172
10. マイコン運転制御機能 …… 331
11. 電装品故障診断要領 …… 363
12. 別売品 …… 424

● 形式名称の見方



1. 仕　様

天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

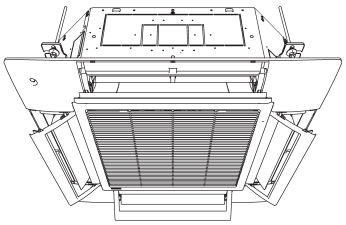
項目 ＼ 形式				FDTP285LXA	FDTP365LXA	FDTP455LXA
電源				単相 200V 50/60Hz		
能力(1)	冷房能力		kW	2.8	3.6	4.5
	暖房能力			3.2	4.0	5.0
定格冷房時の顕熱比				0.98	0.96	0.81
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：48，急：46，強：45，弱：44	P急：48，急：46，強：45，弱：44	P急：49，急：48，強：46，弱：44
	音圧レベル			P急：33，急：31，強：29，弱：27	P急：34，急：31，強：29，弱：27	P急：35，急：33，強：31，弱：27
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：236 × 840 × 840(7)，パネル：35 × 950 × 950		
製品質量			kg	本体：20，標準パネル：5		
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：15，急：14，強：12，弱：10	P急：16，急：14，強：12，弱：10	P急：17，急：15，強：13，弱：10
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	58 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			──（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			──（組込不可能）		
	加湿器			──（気化式加湿器取付可能）(6)		
高性能フィルタ				──（組込可能）(6)		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				──		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）		
		ガス管		φ 9.52（フレア接続）	φ 12.7（フレア接続）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1)　冷房・暖房能力は日本工業規格（ JIS B 8616：2015 ）条件により運転した値です。
(2)　運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2015 ）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3)　運転音（音圧）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2006 ）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4)　パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(5)　エアフレックスパネル・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネルには，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しています。
(6)　お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-5AW）使用時は，本オプションとの組合せはできません。騒音は弱で約 1dB(A)高くなります。
(7)　お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-5AW）使用時は，外形寸法の本体高さが110mm 高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）

■パネル形式（オートスイング付）

区　分	パネル色	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン	専用ワイヤレスリモコン	
標準パネル	T-PSA-5AW	5	LA-T-5W	RCN-D5	－	PJF000Z535
	T-PSA-5ASB		LA-T-5SB			PJF000Z536
	T-PSA-5AC		－	－		
エアフレックスパネル	T-PSAE-5AW	6	LA-T-5W	RCN-D5		PJF000Z537
	T-PSAE-5ASB		LA-T-5SB			
ラクリーナパネル	T-PSCL-5AW	7	LA-T-5W		ラクリーナパネル専用 CRC-L	PJF000Z538
	T-PSCL-5ASB		LA-T-5SB			
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-5AW	12	LA-T-5W			

天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

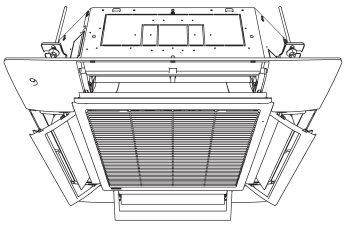
項目 ＼ 形式						
				FDTP565LXA	FDTP715LXA	FDTP805LXA
電源				単相 200V 50/60Hz		
能力(1)	冷房能力		kW	5.6	7.1	8.0
	暖房能力			6.3	8.0	9.0
定格冷房時の顕熱比				0.81	0.84	0.79
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：54，急：48，強：46，弱：44	P急：61，急：50，強：48，弱：44	P急：61，急：54，強：51，弱：46
	音圧レベル			P急：38，急：33，強：31，弱：27	P急：47，急：35，強：32，弱：28	P急：47，急：38，強：35，弱：30
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：236 × 840 × 840(7)，パネル：35 × 950 × 950		
製品質量			kg	本体：21.5，標準パネル：5		
熱交換器	空気形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：20，急：16，強：13，弱：11	P急：28，急：17，強：14，弱：12	P急：28，急：19，強：17，弱：13
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	58 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）(6)		
高性能フィルタ				——（組込可能）(6)		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）	φ 9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ 12.7（フレア接続）	φ 15.88（フレア接続）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IP コード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力は日本工業規格（ JIS B 8616：2015 ）条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2015 ）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2006 ）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(5) エアフレックスパネル・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネルには，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しています。
(6) お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-5AW）使用時は，本オプションとの組合せはできません。騒音は弱で約 1dB(A)高くなります。
(7) お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-5AW）使用時は，外形寸法の本体高さが110mm 高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）

■パネル形式（オートスイング付）

区分	パネル色	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン	専用ワイヤレスリモコン	
標準パネル	T-PSA-5AW	5	LA-T-5W	RCN-D5	–	PJF000Z535
	T-PSA-5ASB		LA-T-5SB			PJF000Z536
	T-PSA-5AC		–	–		
エアフレックスパネル	T-PSAE-5AW	6	LA-T-5W	RCN-D5	ラクリーナパネル専用 CRC-L	PJF000Z537
	T-PSAE-5ASB		LA-T-5SB			
ラクリーナパネル	T-PSCL-5AW	7	LA-T-5W			PJF000Z538
	T-PSCL-5ASB		LA-T-5SB			
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-5AW	12	LA-T-5W			

天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

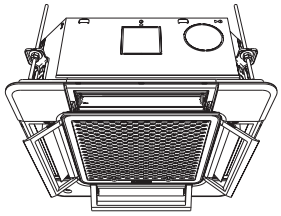
項目 ＼ 形式							
				FDTP905LXA	FDTP1125LXA	FDTP1405LXA	FDTP1605LXA
電源				単相 200V 50/60Hz			
能力(1)	冷房能力		kW	9.0	11.2	14.0	16.0
	暖房能力			10.0	12.5	16.0	18.0
定格冷房時の顕熱比				0.85	0.81	0.75	0.69
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急:64, 急:53, 強:51, 弱:47	P急:65, 急:54, 強:52, 弱:47	P急:65, 急:57, 強:53, 弱:47	P急:65, 急:57, 強:55, 弱:48
	音圧レベル			P急:49, 急:38, 強:36, 弱:31	P急:49, 急:39, 強:37, 弱:31	P急:49, 急:42, 強:39, 弱:32	P急:49, 急:42, 強:39, 弱:33
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：298 × 840 × 840(7)，パネル：35 × 950 × 950			
製品質量			kg	本体：25, 標準パネル：5			
熱交換器	空気形式			アルミフィン＆銅チューブ式			
	冷媒制御			電子膨張弁			
送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）× 1			
	風量		m^3/min	P急:37, 急:25, 強:22, 弱:15	P急:38, 急:26, 強:23, 弱:17	P急:38, 急:28, 強:25, 弱:18	P急:38, 急:29, 強:26, 弱:19
	機外静圧		Pa	0			
	電動機	定格出力	W	58 × 1			
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）			
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（65 × 112 ダクト接続）			
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G			
	温度調節			マイコン式サーモスタット			
	表示			液晶表示〈リモコン〉			
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉			
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）			
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）			
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）(6)			
高性能フィルタ				——（組込可能）(6)			
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
外部制御用出力機能				——			
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）			
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ			
防振装置				送風用電動機：防振ゴム			
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼			
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）			
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）			
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能			
IPコード				IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力は日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は，日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(5) エアフレックスパネル・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネルには，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しています。
(6) お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-5AW）使用時は，本オプションとの組合せはできません。騒音は弱で約 1dB(A)高くなります。
(7) お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-5AW）使用時は，外形寸法の本体高さが110mm 高くなります。（詳細は外形図をご覧ください。）

■パネル形式（オートスイング付）

区分	パネル色	質量(kg)	ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン	専用ワイヤレスリモコン	
標準パネル	T-PSA-5AW	5	LA-T-5W	RCN-D5	−	PJF000Z535
	T-PSA-5ASB		LA-T-5SB			PJF000Z536
	T-PSA-5AC		−	−		
エアフレックスパネル	T-PSAE-5AW	6	LA-T-5W	RCN-D5		PJF000Z537
	T-PSAE-5ASB		LA-T-5SB			
ラクリーナパネル	T-PSCL-5AW	7	LA-T-5W		ラクリーナパネル専用 CRC-L	PJF000Z538
	T-PSCL-5ASB		LA-T-5SB			
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-5AW	12	LA-T-5W			

天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

項目 ＼ 形式						
				FDTCP225LXA	FDTCP285LXA	FDTCP365LXA
電源				単相 200V 50/60Hz		
能力(1)	冷房能力		kW	2.2	2.8	3.6
	暖房能力			2.5	3.2	4.0
定格冷房時の顕熱比				0.66	0.66	0.65
運転音	パワーレベル（冷/暖）		dB(A)	P急：49/49，急：48/46，強：46/43，弱：43/39		P急:54/53,急:52/50,強:48/46,弱:43/40
	音圧レベル			P急：35，急：32，強：29，弱：25		P急：39，急：36，強：31，弱：26
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：248 × 570 × 570, パネル：10× 620× 620		
製品質量			kg	本体：13, パネル：3.0		本体：14, パネル：3.0
空気熱交換	形式			アルミフィン&銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：9，急：8，強：7，弱：6		P急：10，急：9，強：8，弱：6
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	50 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（100 × 100 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（組込不可能）		
高性能フィルタ				——（組込不可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
冷媒封入量			kg	——		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）		
		ガス管		φ 9.52（フレア接続）		φ 12.7（フレア接続）
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

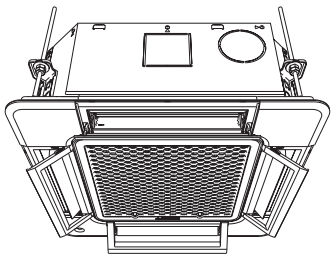
注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2015 ）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2006 ）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) エアフレックスパネルは，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しております。
リモコン RC-DX3B または RCN-D5 から設定します。

■パネル（別売品）

パネル形式	パネル色	（マンセル近似）	ワイヤレスキット形式
TC-PSAE-5AW	ファインスノー	（8.0Y9.3/0.1 近似）	LA-TC-5W

PJF000Z582

天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

項目 ＼ 形式					
				FDTCP455LXA	FDTCP565LXA
電源				単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	4.5	5.6
	暖房能力			5.0	6.3
定格冷房時の顕熱比				0.66	0.66
運転音	パワーレベル（冷/暖）		dB(A)	P急：58/57，急：54/53，強：52/50，弱：45/43	P急：60/60，急：58/57，強：54/52，弱：48/46
	音圧レベル			P急：43，急：39，強：36，弱：28	P急：47，急：43，強：39，弱：31
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：248 × 570 × 570，パネル：10× 620× 620	
製品質量			kg	本体：14，パネル：3.0	
空気熱交換	形式			アルミフィン&銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）× 1	
	風量		m^3/min	P急：12，急：10，強：9，弱：7	P急：14，急：12，強：10，弱：8
	機外静圧		Pa	0	
	電動機	定格出力	W	50 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）	
	新鮮空気取入口			側板を利用して可能（100 × 100 ダクト接続）	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）	
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）	
	加湿器			——（組込不可能）	
高性能フィルタ				——（組込不可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				——	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
冷媒封入量			kg	——	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）	
		ガス管		φ 12.7（フレア接続）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2015 ）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は，日本工業規格（ JIS B 8616：2006 ）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) エアフレックスパネルは，ドラフト防止機能・人感センサを搭載しております。
リモコン RC-DX3B または RCN-D5 から設定します。

■パネル（別売品）

パネル形式	パネル色	（マンセル近似）	ワイヤレスキット形式
TC-PSAE-5AW	ファインスノー	（8.0Y9.3/0.1 近似）	LA-TC-5W

PJF000Z582

天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

項目 ＼ 形式				FDTWP225LXA	FDTWP285LXA	FDTWP365LXA	FDTWP455LXA
電源				単相 200V 50/60Hz			
能力(1)	冷房能力		kW	2.2	2.8	3.6	4.5
	暖房能力			2.5	3.2	4.0	5.0
定格冷房時の顕熱比				0.82	0.82	0.82	0.78
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：57，急：53，強：49，弱：46			
	音圧レベル			P急：42，急：38，強：34，弱：31			
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：325 × 820 × 620, パネル：20 × 1120 × 680			
製品質量			kg	本体：20, 標準パネル：8.5, ラクリーナパネル：10			本体：21, 標準パネル：8.5, ラクリーナパネル：10
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式			
	冷媒制御			電子膨張弁			
送風装置	形式・台数			ターボファン式（モータ直結）× 1			
	風量		m^3/min	P急：14.5，急：12，強：10，弱：9			
	機外静圧		Pa	0			
	電動機	定格出力	W	30 × 1			35 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）			
	新鮮空気取入口			側面を利用して可能（100 × 200 ダクト接続）			
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G			
	温度調節			マイコン式サーモスタット			
	表示			液晶表示〈リモコン〉			
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉			
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）			
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）			
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）			
高性能フィルタ				——（組込可能）			
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
外部制御用出力機能				——			
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）			
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ			
冷媒封入量			kg	——			
防振装置				送風用電動機：防振ゴム			
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼			
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）		φ 6.35（フレア接続）	
		ガス管		φ 9.52（フレア接続）		φ 12.7（フレア接続）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能			
IPコード				IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) 別売品

ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン形式	人感センサ
LA-TW	RCN-D5	LB-TW-6W

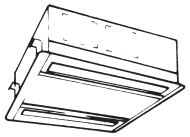
■パネル（別売品）

仕様 ＼ ユニット形式	標準タイプ	ラクリーナパネル
	オートスイング付	オートスイング付
FDTWP225LXA ～ 455LXA	TW-PSA-27W	TW-PSL-27W

PJB001Z823

PJB001Z824

天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

項目 ＼ 形式						
				FDTWP565LXA	FDTWP715LXA	FDTWP805LXA
電源				単相 200V 50/60Hz		
能力(1)	冷房能力		kW	5.6	7.1	8.0
	暖房能力			6.3	8.0	9.0
定格冷房時の顕熱比				0.72	0.71	0.68
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：57，急：53，強：49，弱：46	P急：58，急：54，強：50，弱：47	P急：61，急：56，強：54，弱：50
	音圧レベル			P急：42，急：38，強：34，弱：31	P急：42，急：38，強：34，弱：31	P急：45，急：40，強：38，弱：34
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：325 × 820 × 620，パネル：20 × 1120 × 680		
製品質量			kg	本体：21，標準パネル：8.5，ラクリーナパネル：10	本体：23，標準パネル：8.5，ラクリーナパネル：10	
空気熱交換	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			ターボ式（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：14.5，急：12，強：10，弱：9		P急：16.5，急：13，強：12，弱：10
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	35 × 1	40 × 1	50 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	新鮮空気取入口			側面を利用して可能（100 × 200 ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能）		
高性能フィルタ				——（組込可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
冷媒封入量			kg	——		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）	φ 9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ 12.7（フレア接続）	φ 15.88（フレア接続）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) 別売品

ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン形式	人感センサ
LA-TW	RCN-D5	LB-TW-6W

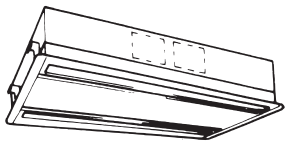
■パネル（別売品）

仕様 ＼ ユニット形式	標準タイプ	ラクリーナパネル
	オートスイング付	オートスイング付
FDTWP565LXA ～ 805LXA	TW-PSA-27W	TW-PSL-27W

PJB001Z823

PJB001Z824

天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

項目 ＼ 形式							
				FDTWP905LXA	FDTWP1125LXA	FDTWP1405LXA	FDTWP1605LXA
電源				単相 200V 50/60Hz			
能力(1)	冷房能力		kW	9.0	11.2	14.0	16.0
	暖房能力			10.0	12.5	16.0	18.0
定格冷房時の顕熱比				0.76	0.76	0.69	0.67
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急:63, 急:60, 強:56, 弱:52	P急:63, 急:60, 強:56, 弱:52	P急:63, 急:60, 強:56, 弱:52	P急:63, 急:60, 強:56, 弱:52
	音圧レベル			P急:48, 急:45, 強:41, 弱:37	P急:48, 急:45, 強:41, 弱:37	P急:48, 急:45, 強:41, 弱:37	P急:48, 急:45, 強:41, 弱:37
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：325 × 1535 × 620，パネル：20 × 1835 × 680			
製品質量			kg	本体：35，標準パネル：13，ラクリーナパネル：15			本体:37, 標準パネル:13, ラクリーナパネル:15
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式			
	冷媒制御			電子膨張弁			
送風装置	形式・台数			ターボ式(モータ直結)× 2			
	風量		m^3/min	P急：31，急：27，強：23，弱：20			
	機外静圧		Pa	0			
	電動機	定格出力	W	35 × 2			40 × 2
	エアフィルタ			プラスチックネット(洗浄可能)			
	新鮮空気取入口			側面を利用して可能（100 × 200 ダクト接続）			
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G			
	温度調節			マイコン式サーモスタット			
	表示			液晶表示〈リモコン〉			
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉			
加湿器加熱器	補助電気ヒータ			——(組込不可能)			
	温水・蒸気ヒータ			——(組込不可能)			
	加湿器			——(気化式加湿器取付可能)			
高性能フィルタ				——(組込可能)			
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ(CnT：6P，CnTA：2P)を保有(室内基板上)			
外部制御用出力機能				——			
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ(CnT：6P)を保有(室内基板上)			
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ			
冷媒封入量			kg	——			
防振装置				送風用電動機：防振ゴム			
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼			
配管寸法(室内側)	冷媒配管(外径)	液管	mm	φ 9.52(フレア接続)			
		ガス管		φ 15.88(フレア接続)			
	排水管			VP25(I.D.25，O.D.32)の排水管接続可能			
IPコード				IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) 別売品

ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン形式	人感センサ
LA-TW	RCN-D5	LB-TW-6W

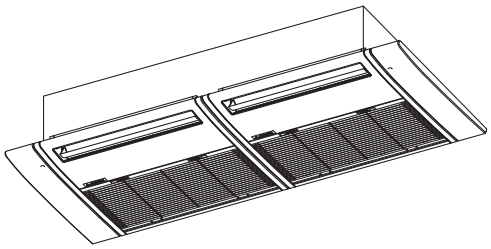
■パネル（別売品）

仕様 ＼ ユニット形式	標準タイプ	ラクリーナパネル
	オートスイング付	オートスイング付
FDTWP905LXA ～ 1605LXA	TW-PSA-47W	TW-PSL-47W

PJB001Z823

PJB001Z824

天井埋込形 1 方向吹出し（FDTS）

項目 ＼ 形式							
				FDTSP455LXA	FDTSP565LXA	FDTSP715LXA	FDTSP805LXA
電源				単相 200V 50/60Hz			
能力(1)	冷房能力		kW	4.5	5.6	7.1	8.0
	暖房能力			5.0	6.3	8.0	9.0
定格冷房時の顕熱比				0.66	0.68	0.65	0.65
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：57，急：55，強：53，弱：50	P急：60，急：57，強：54，弱：51	P急：64，急：61，強：56，弱：51	P急：65，急：61，強：56，弱：51
	音圧レベル			P急：42，急：40，強：38，弱：35	P急：44，急：41，強：38，弱：35	P急：49，急：46，強：41，弱：36	P急：50，急：46，強：41，弱：36
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	本体：220 × 1150 × 565，パネル：35 × 1460 × 650			
製品質量			kg	本体：27，標準パネル：6		本体：28，標準パネル：6	
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式			
	冷媒制御			電子膨張弁			
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 4			
	風量		m^3/min	P急：13，急：12，強：11，弱：9.5	P急：14.5，急：12.5，強：11，弱：9.5	P急：17，急：15，強：12，弱：10	P急：18，急：15，強：12，弱：10
	機外静圧		Pa	0			
	電動機	定格出力	W	35 × 1	50 × 1	70 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）			
	新鮮空気取入口			背面を利用して可能			
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G			
	温度調節			マイコン式サーモスタット			
	表示			液晶表示〈リモコン〉			
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉			
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）			
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）			
	加湿器			——（組込不可能）			
高性能フィルタ				——（組込不可能）			
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
外部制御用出力機能				——			
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）			
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ			
冷媒封入量			kg	——			
防振装置				送風用電動機：防振ゴム			
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼			
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）		φ 9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ 12.7（フレア接続）		φ 15.88（フレア接続）	
	排水管			VP25(ID.25，O.D.32) の排水管接続可能			
IPコード				IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。

(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。

(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(5) 別売品

ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン形式	人感センサ（個別設置形）
LA-TS	RCN-D5	LB-KIT

(6) ユニットの据付形態により下記のオプション部品が必要です。（※印部品は三菱重工冷熱㈱扱いです。）

仕様 ＼ ユニット形式	標準仕様（直吹き）	下がり天井仕様	
	オートスイング付	オートスイング無	吹出グリル※
全形式	TS-PSA-3AW	TS-PNA-3AW	HA06241（含む吹出ダクト）

PJC001Z429

PJC001Z430

天埋カセテリア（FDR）

項目 ＼ 形式				 （サイレントパネル）	 （キャンバスパネル）	（注）FDRP225LXA は吹出口が 1 スポット仕様です。
				FDRP225LXA	FDRP285LXA	FDRP365LXA
据付形態(5)	サイレントパネル仕様			形式：R-PNS-2AW		
	キャンバスパネル仕様			形式：R-PNC-2AW		
電源				単相 200V 50/60Hz		
能力(1)	冷房能力		kW	2.2	2.8	3.6
	暖房能力			2.5	3.2	4.0
定格冷房時の顕熱比				0.96	0.85	0.87
運転音	サイレントパネル使用	パワーレベル	dB(A)	P急：60, 急：58, 強：56, 弱：54	P急：60, 急：58, 強：56, 弱：55	P急：64, 急：60, 強：58, 弱：57
		音圧レベル		P急：39, 急：37, 強：35, 弱：33	P急：39, 急：37, 強：35, 弱：34	P急：43, 急：39, 強：37, 弱：36
	キャンバスパネル使用	パワーレベル		P急：61, 急：59, 強：57, 弱：55	P急：61, 急：59, 強：57, 弱：56	P急：65, 急：61, 強：59, 弱：58
		音圧レベル		P急：40, 急：38, 強：36, 弱：34	P急：40, 急：38, 強：36, 弱：35	P急：44, 急：40, 強：38, 弱：37
外形寸法（高さ×幅×奥行）	サイレントパネル使用		mm	本体：348 × 750 × 635, パネル：20 × 1040 × 750		
	キャンバスパネル使用(6)			本体：(348 ＋α) × 750 × 635, パネル：20 × 864 × 585		
製品質量	サイレントパネル使用		kg	本体：29, パネル：10		
	キャンバスパネル使用			本体：29, パネル：7.6		
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：10, 急：9, 強：8, 弱：7		P急：13, 急：10, 強：9, 弱：8
	機外静圧		Pa	最小：10, 最大：100（リモコンから設定）		
	電動機	定格出力	W	100 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 224：1 スポット接続，284, 364：2 スポット接続）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：1.1㎏/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	サイレントパネル：850 以下（天井面より），キャンバスパネル：850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（組込可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）		
		ガス管		φ 9.52（フレア接続）		φ 12.7（フレア接続）
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(6) キャンバスパネル使用時は下記のキャンバスダクト（別売品：三菱重工冷熱㈱扱い）が必要です。

ユニット形式	キャンバスダクト品番
FDRP225LXA, 285LXA, 365LXA	HA01503

PJG000Z492
PJG000Z493

(7) キャンバスパネル使用時の本体高さはキャンバスダクト分が＋αされます。

天埋カセテリア（FDR）

項目 ＼ 形式				 （サイレントパネル）	 （キャンバスパネル）
				FDRP455LXA	FDRP565LXA
据付形態(5)	サイレントパネル仕様			R-PNS-2AW	
	キャンバスパネル仕様			R-PNC-2AW	
電源				単相 200V 50/60Hz	
能力(1)	冷房能力		kW	4.5	5.6
	暖房能力			5.0	6.3
定格冷房時の顕熱比				0.78	0.71
運転音	サイレントパネル使用	パワーレベル	dB(A)	P急：64，急：60，強：58，弱：57	
		音圧レベル		P急：43，急：39，強：37，弱：36	
	キャンバスパネル使用	パワーレベル		P急：65，急：61，強：59，弱：58	
		音圧レベル		P急：44，急：40，強：38，弱：37	
外形寸法（高さ×幅×奥行）	サイレントパネル使用		mm	本体：348 × 750 × 635，パネル：20 × 1040 × 750	
	キャンバスパネル使用(6)			本体：(348 + α) × 750 × 635，パネル：20 × 864 × 585	
製品質量	サイレントパネル使用		kg	本体：29，パネル：10	
	キャンバスパネル使用			本体：29，パネル：7.6	
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1	
	風量		m^3/min	P急：13，急：10，強：9，弱：8	
	機外静圧		Pa	最小：10，最大：100（リモコンから設定）	
	電動機	定格出力	W	100 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）	
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 2 スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続	
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加熱器・加湿器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）	
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：1.1㎏/h）	
排水	ドレンポンプ			標準装備	
	ドレンアップ高さ		mm	サイレントパネル：850 以下（天井面より），キャンバスパネル：850 以下（ユニット下面より）	
高性能フィルタ				——（組込可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				——	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）	
		ガス管		φ 12.7（フレア接続）	
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

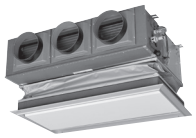
(6) キャンバスパネル使用時は下記のキャンバスダクト（別売品：三菱重工冷熱㈱扱い）が必要です。

ユニット形式	キャンバスダクト品番
FDRP455LXA，565LXA	HA01503

PJG000Z492
PJG000Z493

(7) キャンバスパネル使用時の本体高さはキャンバスダクト分が＋αされます。

天埋カセテリア（FDR）

項目 ＼ 形式				 （サイレントパネル）	 （キャンバスパネル）	
				FDRP715LXA	FDRP805LXA	FDRP905LXA
据付形態(5)	サイレントパネル仕様			R-PNS-3AW		
	キャンバスパネル仕様			R-PNC-3AW		
電源				単相 200V 50/60Hz		
能力(1)	冷房能力		kW	7.1	8.0	9.0
	暖房能力			8.0	9.0	10.0
定格冷房時の顕熱比				0.83	0.78	0.74
運転音	サイレントパネル使用	パワーレベル	dB(A)	P急：68，急：64，強：60，弱：52		
		音圧レベル		P急：47，急：43，強：39，弱：31		
	キャンバスパネル使用	パワーレベル		P急：69，急：65，強：61，弱：53		
		音圧レベル		P急：48，急：44，強：40，弱：32		
外形寸法（高さ×幅×奥行）	サイレントパネル使用		mm	本体：348 × 950 × 635，パネル：20 × 1240 × 750		
	キャンバスパネル使用(6)			本体：（348 ＋ α）× 950 × 635，パネル：20 × 1064 × 585		
製品質量	サイレントパネル使用		kg	本体：34，パネル：11.4		
	キャンバスパネル使用			本体：34，パネル：9.3		
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2		
	風量		m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10		
	機外静圧		Pa	最小：10，最大：100（リモコンから設定）		
	電動機	定格出力	W	130 × 1		
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 3 スポット接続）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加熱器・加湿器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：2.0㎏/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	サイレントパネル：850 以下（天井面より），キャンバスパネル：850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（組込可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）		
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）		
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(6) キャンバスパネル使用時は下記のキャンバスダクト（別売品：三菱重工冷熱㈱扱い）が必要です。

ユニット形式	キャンバスダクト品番
FDRP715LXA，805LXA，905LXA	HA01490

PJG000Z492
PJG000Z493

(7) キャンバスパネル使用時の本体高さはキャンバスダクト分が＋αされます。

天埋カセテリア（FDR）

項目 ＼ 形式				 （サイレントパネル）	 （キャンバスパネル）
				FDRP1125LXA	FDRP1405LXA
据付形態(5)	サイレントパネル仕様			R-PNS-4AW	
	キャンバスパネル仕様			R-PNC-4AW	
電源				単相 200V 50/60Hz	
能力(1)	冷房能力		kW	11.2	14.0
	暖房能力			12.5	16.0
定格冷房時の顕熱比				0.79	0.73
運転音	サイレントパネル使用	パワーレベル	dB(A)	P急：70，急：65，強：62，弱：56	P急：71，急：67，強：62，弱：57
		音圧レベル		P急：49，急：44，強：41，弱：35	P急：50，急：46，強：41，弱：36
	キャンバスパネル使用	パワーレベル		P急：71，急：66，強：63，弱：57	P急：72，急：68，強：63，弱：58
		音圧レベル		P急：50，急：45，強：42，弱：36	P急：51，急：47，強：42，弱：37
外形寸法（高さ×幅×奥行）	サイレントパネル使用		mm	本体：348 × 1368 × 738，パネル：20 × 1658 × 850	
	キャンバスパネル使用(6)			本体：(348 + α) × 1368 × 738，パネル：20 × 1484 × 585	
製品質量	サイレントパネル使用		kg	本体：54，パネル：17	
	キャンバスパネル使用			本体：54，パネル：13.5	
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3	
	風量		m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19	P急：39，急：32，強：25，弱：20
	機外静圧		Pa	最小：10，最大：100（リモコンから設定）	
	電動機	定格出力	W	100+130 × 1	100+200 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）	
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 4 スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続	
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加熱器・加湿器	補助電気ヒータ			―（組込不可能）	
	加湿器			―（気化式加湿器取付可能，加湿量：2.8㎏/h）	―（気化式加湿器取付可能，加湿量：3.0㎏/h）
排水	ドレンポンプ			標準装備	
	ドレンアップ高さ		mm	サイレントパネル：850 以下（天井面より），キャンバスパネル：850 以下（ユニット下面より）	
高性能フィルタ				―（組込可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				―	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）	
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) パネルの外形寸法は天井から露出する部分の寸法を示し天井内部分は本体高さに含まれます。
(3) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(4) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(5) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

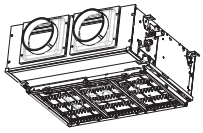
(6) キャンバスパネル使用時は下記のキャンバスダクト（別売品：三菱重工冷熱㈱扱い）が必要です。

ユニット形式	キャンバスダクト品番
FDRP1125LXA，1405LXA	HA01484

PJG000Z492
PJG000Z493

(7) キャンバスパネル使用時の本体高さはキャンバスダクト分が＋αされます。

■天井リターン変換キット組合せ仕様
天埋カセテリア（FDR）

項目＼形式				FDRP225LXA	FDRP285LXA	FDRP365LXA
					（注）FDRP225LXA は吹出口が 1 スポット仕様です。	
フィルタキット				R-FL-2A		
電源				**単相 200V 50/60Hz**		
(1)能力	**冷房能力**		kW	**2.2**	**2.8**	**3.6**
	暖房能力			**2.5**	**3.2**	**4.0**
定格冷房時の顕熱比				**0.96**	**0.85**	**0.87**
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：64，急：62，強：60，弱：58	P急：64，急：62，強：60，弱：59	P急：70，急：66，強：63，弱：61
	音圧レベル			P急：43，急：41，強：39，弱：37	P急：43，急：41，強：39，弱：38	P急：49，急：45，強：42，弱：40
外形寸法	**高さ×幅×奥行**		mm	**(280 + 37) × 750 × 635**		
製品質量			kg	**29 + 2.1**		
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1		
	風量		m^3/min	P急：10，急：9，強：8，弱：7		P急：13，急：10，強：9，弱：8
	機外静圧(4)		Pa	最小：15，最大：95（リモコンから設定）		
	電動機	**定格出力**	W	**100 × 1**		
装置	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 224：1 スポット接続，284，364：2 スポット接続）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
加湿器	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：1.1kg/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（組込可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	**液管**	mm	**φ 6.35（フレア接続）**		
		ガス管		**φ 9.52（フレア接続）**		**φ 12.7（フレア接続）**
	排水口			**VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能**		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

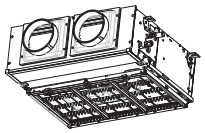
ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(5) 天井リターン設置仕様の場合は，標準機に対し機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）		15	25	35	45	55	65	75	85	95
リモコンの設定（Pa）	FDRP225，285，365LXA	10	20	30	40	50	60	70	80	90

PJG000Z494

天埋カセテリア（FDR）

項目 ＼ 形式					
				FDRP455LXA	FDRP565LXA
フィルタキット				R-FL-2A	
電源				**単相 200V 50/60Hz**	
(1)能力	**冷房能力**		kW	**4.5**	**5.6**
	暖房能力			**5.0**	**6.3**
定格冷房時の顕熱比				**0.78**	**0.71**
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：70，急：66，強：63，弱：61	P急：70，急：66，強：63，弱：61
	音圧レベル			P急：49，急：45，強：42，弱：40	P急：49，急：45，強：42，弱：40
外形寸法	**高さ×幅×奥行**		mm	**(280 + 37) × 750 × 635**	
製品質量			kg	**29 + 2.1**	
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1	
	風量		m^3/min	P急：13，急：10，強：9，弱：8	
	機外静圧(4)		Pa	最小：15，最大：95（リモコンから設定）	
	電動機	**定格出力**	W	100 × 1	
装置	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）	
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 2 スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続	
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加熱器	補助電気ヒータ			―（組込不可能）	
加湿器	加湿器			―（気化式加湿器取付可能，加湿量：1.1kg/h）	
排水	ドレンポンプ			標準装備	
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）	
高性能フィルタ				―（組込可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				―	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	**液管**	mm	**φ 6.35（フレア接続）**	
		ガス管		**φ 12.7（フレア接続）**	
	排水口			**VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能**	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

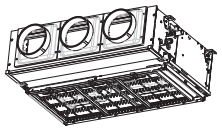
ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(5) 天井リターン設置仕様の場合は，標準機に対し機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）		15	25	35	45	55	65	75	85	95
リモコンの設定（Pa）	**FDRP455，565LXA**	10	20	30	40	50	60	70	80	90

PJG000Z494

天埋カセテリア（FDR）

項目 ＼ 形式						
				FDRP715LXA	FDRP805LXA	FDRP905LXA
フィルタキット				R-FL-3A		
電源				**単相 200V 50/60Hz**		
(1) 能力	**冷房能力**		kW	**7.1**	**8.0**	**9.0**
	暖房能力			**8.0**	**9.0**	**10.0**
定格冷房時の顕熱比				**0.83**	**0.78**	**0.74**
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：74，急：70，強：66，弱：58		
	音圧レベル			P急：53，急：49，強：45，弱：37		
外形寸法	**高さ×幅×奥行**		mm	**(280 + 37) × 950 × 635**		
製品質量			kg	**34 + 2.6**		
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2		
	風量		m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10		
	機外静圧(4)		Pa	最小：20，最大：100（リモコンから設定）		
	電動機	**定格出力**	W	**130 × 1**		
装置	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）		
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 3 スポット接続）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
加湿器	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：2.0kg/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（組込可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	**液管**	mm	**φ 9.52（フレア接続）**		
		ガス管		**φ 15.88（フレア接続）**		
	排水口			**VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能**		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

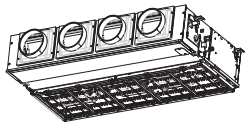
ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(5) 天井リターン設置仕様の場合は，標準機に対し機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）		20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	FDRP715，805，905LXA	10	20	30	40	50	60	70	80	90

PJG000Z494

天埋カセテリア（FDR）

項目 ＼ 形式					
				FDRP1125LXA	FDRP1405LXA
フィルタキット				R-FL-4A	
電源				単相 200V 50/60Hz	
能力(1)	冷房能力		kW	11.2	14.0
	暖房能力			12.5	16.0
定格冷房時の顕熱比				0.79	0.73
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：77，急：72，強：68，弱：62	P急：78，急：74，強：68，弱：63
	音圧レベル			P急：56，急：51，強：47，弱：41	P急：57，急：53，強：47，弱：42
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	(280 + 37) × 1368 × 738	
製品質量			kg	54 + 3.3	
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3	
	風量		m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19	P急：39，急：32，強：25，弱：20
	機外静圧(4)		Pa	最小：20，最大：100（リモコンから設定）	
	電動機	定格出力	W	100 + 130 × 1	100 + 200 × 1
装置	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）	
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 4 スポット接続）	
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜，背面φ 150㎜フレキシブルダクト接続 / 排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続	
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加熱器	補助電気ヒータ			―（組込不可能）	
加湿器	加湿器			―（気化式加湿器取付可能，加湿量：2.8kg/h）	―（気化式加湿器取付可能，加湿量：3.0kg/h）
排水	ドレンポンプ			標準装備	
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）	
高性能フィルタ				―（組込可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				―	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				キャビネット：断熱材	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）	
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(5) 天井リターン設置仕様の場合は，標準機に対し機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）		20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	FDRP1125，1405LXA	10	20	30	40	50	60	70	80	90

PJG000Z494

高静圧ダクト形（FDU）

項目 ＼ 形式								
				FDUP225LXA	FDUP285LXA	FDUP365LXA	FDUP455LXA	FDUP565LXA
電源				単相 200V 50/60Hz				
(1) 能力	冷房能力		kW	2.2	2.8	3.6	4.5	5.6
	暖房能力			2.5	3.2	4.0	5.0	6.3
定格冷房時の顕熱比				0.96	0.96	0.87	0.78	0.71
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：66，急：61，強：59，弱：56				
	音圧レベル			P急：40，急：35，強：33，弱：30				
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	280 × 750 × 635				
製品質量			kg	29				
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式				
	冷媒制御器			電子膨張弁				
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1				
	風量		m^3/min	P急：13，急：10，強：9，弱：8				
	機外静圧		Pa	最小：10，最大：200（リモコンから設定）				
	電動機	定格出力	W	100 × 1				
	エアフィルタ			——（現地手配）				
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ125㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ125㎜フレキシブルダクト接続				
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G				
	温度調節			マイコン式サーモスタット				
	表示			液晶表示〈リモコン〉				
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉				
加湿器加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）				
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）				
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：1.1kg/h）				
排水	ドレンポンプ			標準装備				
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）				
高性能フィルタ				——（取付可能）				
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）				
外部制御用出力機能				——				
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）				
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ				
防振装置				送風用電動機：防振ゴム				
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付				
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）				
		ガス管		φ 9.52（フレア接続）		φ 12.7（フレア接続）		
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能				
IPコード				IPX0				

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

PJG000Z529

高静圧ダクト形（FDU）

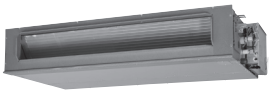
項目 ＼ 形式						
				FDUP715LXA	FDUP805LXA	FDUP905LXA
電源				単相 200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力		kW	7.1	8.0	9.0
	暖房能力			8.0	9.0	10.0
定格冷房時の顕熱比				0.83	0.78	0.74
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：68，急：62，強：58，弱：52		
	音圧レベル			P急：44，急：38，強：34，弱：28		
外形寸法			mm	280 × 950 × 635		
製品質量			kg	34		
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2		
	風量		m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10		
	機外静圧		Pa	最小：10，最大：200（リモコンから設定）		
	電動機	定格出力	W	130 × 1		
	エアフィルタ			——（現地手配）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ125㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			ー（気化式加湿器取付可能，加湿量：2.0kg/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（取付可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）		
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）		
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

PJG000Z529

高静圧ダクト形（FDU）

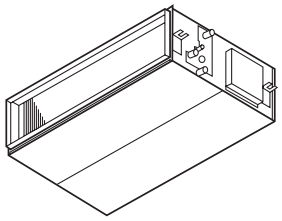
項目 ＼ 形式						
				FDUP1125LXA	FDUP1405LXA	FDUP1605LXA
電源				単相 200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力		kW	11.2	14.0	16.0
	暖房能力			12.5	16.0	18.0
定格冷房時の顕熱比				0.79	0.73	0.74
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：70，急：65，強：62，弱：57	P急：71，急：67，強：61，弱：57	P急：74，急：67，強：62，弱：57
	音圧レベル			P急：45，急：40，強：37，弱：32	P急：46，急：42，強：36，弱：32	P急：49，急：42，強：37，弱：32
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	280 × 1368 × 738		
製品質量			kg	54		
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3		
	風量		m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19	P急：39，急：32，強：26，弱：20	P急：48，急：35，強：28，弱：22
	機外静圧		Pa	最小：10，最大：200（リモコンから設定）		
	電動機	定格出力	W	100+130 × 1	100+200 × 1	
	エアフィルタ			——（現地手配）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量 1124：2.8kg/h，1404：3.0kg/h，1604：3.6kg/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（取付可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）		
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）		
	排水口			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

PJG000Z529

高静圧ダクト形（FDU）

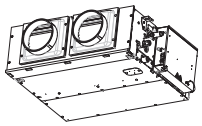
項目 ＼ 形式					
				FDUP2245LXA	FDUP2805LXA
電源				単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	22.4	28.0
	暖房能力			25.0	31.5
定格冷房時の顕熱比				0.91	0.78
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：77，急：74，強：71，弱：68	
	音圧レベル			P急：55，急：52，強：49，弱：46	
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	379 × 1600 × 893	
製品質量			kg	89	
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3	
	風量		m^3/min	P急：80，急：72，強：64，弱：56	
	機外静圧		Pa	定格：100，最小：10，最大:200（リモコンから設定）	
	電動機	定格出力	W	130 + 350	
	エアフィルタ			―（現地手配）	
	新鮮空気取入口			吸込ダクト接続	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			―（組込不可能）	
	温水・蒸気ヒータ			―（組込不可能）	
	加湿器			―（気化式加湿器取付可能，加湿量：5.8kg/h）	
高性能フィルタ				―（取付可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ(CnT：6P，CnTA：2P)を保有(室内基板上)	
外部制御用出力機能				―	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ(CnT：6P)を保有(室内基板上)	
保護機能			kg	ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
冷媒封入量				―	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（ろう付接続）	φ 9.52（ろう付接続）
		ガス管		φ 19.05（ろう付接続）	φ 22.22（ろう付接続）
	排水管			VP25(I.D.25，O.D.32)の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

PJG000Z529

■丸ダクト変換キット組合せ仕様
高静圧ダクト形（FDU）

項目＼形式				 （注）FDUP225LXA は吹出口が 1 スポット仕様です。				
				FDUP225LXA	FDUP285LXA	FDUP365LXA	FDUP455LXA	FDUP565LXA
丸ダクト変換キット形式				U-UM-1A	U-UM-2A			
電源				**単相 200V 50/60Hz**				
能力(1)	**冷房能力**		kW	**2.2**	**2.8**	**3.6**	**4.5**	**5.6**
	暖房能力			**2.5**	**3.2**	**4.0**	**5.0**	**6.3**
定格冷房時の顕熱比				**0.96**	**0.96**	**0.87**	**0.78**	**0.71**
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：66，急：61，強：59，弱：56				
	音圧レベル			P急：40，急：35，強：33，弱：30				
外形寸法	**高さ×幅×奥行**		mm	**280 × 750 × 635**				
製品質量			kg	**29**				
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式				
	冷媒制御器			電子膨張弁				
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 1				
	風量		m^3/min	P急：13，急：10，強：9，弱：8				
	機外静圧(4)		Pa	最小：10，最大：100（リモコンから設定）				
	電動機	**定格出力**	W	**100 × 1**				
	エアフィルタ			——（現地手配）				
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト× 224：1 スポット接続，284 ～ 564：2 スポット接続）				
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続				
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G				
	温度調節			マイコン式サーモスタット				
	表示			液晶表示〈リモコン〉				
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉				
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）				
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）				
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：1.1kg/h）				
排水	ドレンポンプ			標準装備				
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）				
高性能フィルタ				——（取付可能）				
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P, CnTA：2P）を保有（室内基板上）				
外部制御用出力機能				——				
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）				
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ				
防振装置				送風用電動機：防振ゴム				
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付				
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	**液管**	mm	**φ 6.35（フレア接続）**				
		ガス管		**φ 9.52（フレア接続）**		**φ 12.7（フレア接続）**		
	排水口			**VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能**				
IPコード				IPX0				

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

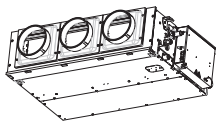
ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(5) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対し機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

必要な機外静圧(Pa)		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	FDUP225LXA	20	30	40	50	70	80	90	100	120	130
	FDUP285, 365,455,565LXA	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120

PJG000Z530

高静圧ダクト形（FDU）

項目 ＼ 形式						
				FDUP715LXA	FDUP805LXA	FDUP905LXA
丸ダクト変換キット形式				U-UM-3A		
電源				**単相 200V 50/60Hz**		
(1) **能力**	**冷房能力**		kW	**7.1**	**8.0**	**9.0**
	暖房能力			**8.0**	**9.0**	**10.0**
定格冷房時の顕熱比				**0.83**	**0.78**	**0.74**
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：68，急：62，強：58，弱：52		
	音圧レベル			P急：44，急：38，強：34，弱：28		
外形寸法	**高さ×幅×奥行**		mm	**280 × 950 × 635**		
製品質量			kg	**34**		
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2		
	風量		m^3/min	P急：24，急：19，強：15，弱：10		
	機外静圧(4)		Pa	最小：10，最大：100（リモコンから設定）		
	電動機	**定格出力**	W	**130 × 1**		
	エアフィルタ			——（現地手配）		
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト × 3 スポット接続）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：2.0kg/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（取付可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	**液管**	mm	**φ 9.52（フレア接続）**		
		ガス管		**φ 15.88（フレア接続）**		
	排水口			**VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能**		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。

(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(4) 別売品

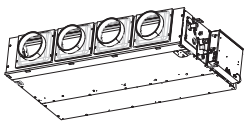
ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(5) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対し機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	FDUP715, 805, 905LXA	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

PJG000Z530

高静圧ダクト形（FDU）

項目 ＼ 形式						
				FDUP1125LXA	FDUP1405LXA	FDUP1605LXA
丸ダクト変換キットキット形式				U-UM-4A		
電源				**単相 200V 50/60Hz**		
(1) **能力**	**冷房能力**		kW	**11.2**	**14.0**	**16.0**
	暖房能力			**12.5**	**16.0**	**18.0**
定格冷房時の顕熱比				**0.79**	**0.73**	**0.74**
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：70，急：65，強：62，弱：57	P急：71，急：67，強：61，弱：57	P急：74，急：67，強：62，弱：57
	音圧レベル			P急：45，急：40，強：37，弱：32	P急：46，急：42，強：36，弱：32	P急：49，急：42，強：37，弱：32
外形寸法	**高さ×幅×奥行**		mm	**280 × 1368 × 738**		
製品質量			kg	**54**		
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 3		
	風量		m^3/min	P急：36，急：28，強：25，弱：19	P急：39，急：32，強：26，弱：20	P急：48，急：35，強：28，弱：22
	機外静圧(4)		Pa	最小：10，最大：100（リモコンから設定）		
	電動機	**定格出力**	W	**100+130 × 1**	**100+200 × 1**	
	エアフィルタ			——（現地手配）		
	吹出口			前面（φ 200 フレキシブルダクト× 4 スポット接続）		
	新鮮空気取入口			新鮮外気取入：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続／排気：側面φ 125㎜フレキシブルダクト接続		
運転調整	リモートコントローラ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）		
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）		
	加湿器			——（気化式加湿器取付可能，加湿量：1124：2.8kg/h，1404：3.0kg/h，1604：3.6kg/h）		
排水	ドレンポンプ			標準装備		
	ドレンアップ高さ		mm	850 以下（ユニット下面より）		
高性能フィルタ				——（取付可能）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）		
保護機能				ファンモータ　：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				キャビネット：断熱材付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	**液管**	mm	**φ 9.52（フレア接続）**		
		ガス管		**φ 15.88（フレア接続）**		
	排水口			**VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能**		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。

(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(4) 別売品

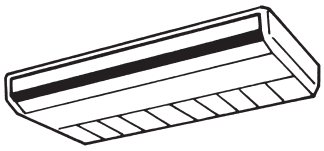
ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

(5) 丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対し機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	FDUP1125LXA	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110
	FDUP1405LXA	30	40	50	60	70	80	90	110	120	130
	FDUP1605LXA	40	50	60	70	80	90	100	110	130	140

PJG000Z530

天吊形（FDE）

項目 ＼ 形式							
				FDEP365LXA	FDEP455LXA	FDEP565LXA	FDEP715LXA
電源				単相 200V 50/60Hz			
(1) 能力	冷房能力		kW	3.6	4.5	5.6	7.1
	暖房能力			4.0	5.0	6.3	8.0
定格冷房時の顕熱比				0.72	0.70	0.65	0.70
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急：60, 急：51, 強：44, 弱：39	P急：60, 急：51, 強：49, 弱：44		P急：60, 急：51, 強：48, 弱：45
	音圧レベル			P急：46, 急：38, 強：31, 弱：26	P急：46, 急：38, 強：36, 弱：31		P急：47, 急：39, 強：37, 弱：32
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	210 × 1070 × 690			210 × 1320 × 690
製品質量			kg	28			33
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式			
	冷媒制御器			電子膨張弁			
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 2			両吸込多翼遠心式（モータ直結）× 4
	風量		m³/min	P急：13, 急：10, 強：7, 弱：5.5	P急：13, 急：10, 強：9, 弱：7		P急：20, 急：15, 強：13, 弱：10
	機外静圧		Pa	0			
	電動機	定格出力	W	30 × 1			50 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）			
	新鮮空気取入口			不可能			
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G			
	温度調節			マイコン式サーモスタット			
	表示			液晶表示〈リモコン〉			
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉			
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）			
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）			
	加湿器			——（気化式加湿器組込可能）			
高性能フィルタ				——（組込可能）			
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）			
外部制御用出力機能				——			
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）			
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護			
冷媒封入量			kg	——			
防振装置				送風用電動機：防振ゴム			
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼			
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）			φ 9.52（フレア接続）
		ガス管		φ 12.7（フレア接続）			φ 15.88（フレア接続）
	排水管			VP20（I.D.20，O.D.26）の排水管接続可能			
IPコード				IPX0			

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。

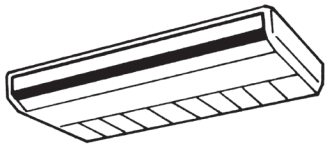
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(3) 運転音（音圧レベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に部屋に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(4) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が３速（急・強・弱）となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定（P急・急・強）としてください。

PFA004Z091

天吊形（FDE）

項目 ＼ 形式						
				FDEP805LXA	FDEP905LXA	FDEP1125LXA
電源				単相200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力		kW	8.0	9.0	11.2
	暖房能力			9.0	10.0	12.5
定格冷房時の顕熱化				0.68	0.66	0.69
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急:63, 急:52, 強:49, 弱:46		P急:61, 急:58, 強:54, 弱:50
	音圧レベル			P急:49, 急:39, 強:37, 弱:32		P急:45, 急:42, 強:38, 弱:34
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	210×1320×690		250×1620×690
製品質量			kg	33		43
空気熱交換器	形式			アルミフィン&銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式(モータ直結)×4		
	風量		m^3/min	P急:22, 急:15, 強:13, 弱:10		P急:28, 急:25, 強:21, 弱:16.5
	機外静圧		Pa	0		
	電動機	定格出力	W	55×1		43×1
	エアフィルタ			プラスチックネット(洗浄可能)		
	新鮮空気取入口			不可能		
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿器加熱器	補助電気ヒータ			——(組込不可能)		
	温水・蒸気ヒータ			——(組込不可能)		
	加湿器			——(気化式加湿器組込可能)		
高性能フィルタ				——(組込可能)		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ(CnT：6P，CnTA：2P)を保有(室内基板上)		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示･異常表示出力用コネクタ(CnT：6P)を保有(室内基板上)		
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護		
冷媒封入量			kg	——		
防振装置				送風用電動機：防振ゴム		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼		
配管寸法(室内側)	冷媒配管(外径)	液管	mm	φ9.52(フレア接続)		
		ガス管		φ15.88(フレア接続)		
	排水管			VP20(I.D.20，O.D.26)の排水管接続可能		
IPコード				IPX0		

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。

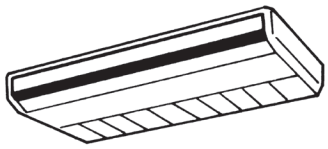
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(3) 運転音（音圧レベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に部屋に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(4) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が３速（急・強・弱）となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定（P急・急・強）としてください。

PFA004Z091

天吊形（FDE）

項目 ＼ 形式					
				FDEP1405LXA	FDEP1605LXA
電源				単相200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	14.0	16.0
	暖房能力			16.0	18.0
定格冷房時の顕熱化				0.66	0.65
運転音	パワーレベル		dB(A)	P急:64, 急:59, 強:56, 弱:51	P急:65, 急:62, 強:56, 弱:52
	音圧レベル			P急:48, 急:43, 強:40, 弱:35	P急:49, 急:46, 強:40, 弱:36
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	250×1620×690	
製品質量			kg	43	
空気熱交換器	形式			アルミフィン&銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式(モータ直結)×4	
	風量		m^3/min	P急:32, 急:26, 強:23, 弱:17	P急:34, 急:30, 強:23, 弱:18
	機外静圧		Pa	0	
	電動機	定格出力	W	80 × 1	90 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット(洗浄可能)	
	新鮮空気取入口			不可能	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			―(組込不可能)	
	温水・蒸気ヒータ			―(組込不可能)	
	加湿器			―(気化式加湿器組込可能)	
高性能フィルタ				―(組込可能)	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ(CnT：6P，CnTA：2P)を保有(室内基板上)	
外部制御用出力機能				―	
遠方表示用出力機能				運転表示･異常表示出力用コネクタ(CnT：6P)を保有(室内基板上)	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護	
冷媒封入量			kg	―	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
配管寸法(室内側)	冷媒配管(外径)	液管	mm	φ9.52(フレア接続)	
		ガス管		φ15.88(フレア接続)	
	排水管			VP20(I.D.20，O.D.26)の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力および電気特性はJIS B 8616：2015条件によります。

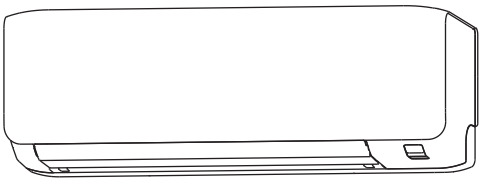
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(3) 運転音（音圧レベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に部屋に据付けた場合は周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(4) ワイヤレスリモコン使用時は風量設定が３速（急・強・弱）となります。P急モードをご使用の場合は高天井設定（P急・急・強）としてください。

PFA004Z091

壁掛形（FDK）

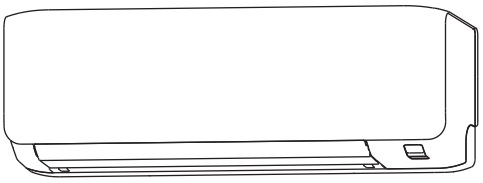
項目 ＼ 形式					
				FDKP285LXA	FDKP365LXA
電源				単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	2.8	3.6
	暖房能力			3.2	4.0
定格冷房時の顕熱比				0.77	0.76
運転音	パワーレベル	冷房	dB(A)	P急：54，急：52，強：47，弱：45	P急：57，急：54，強：49，弱：47
		暖房		P急：54，急：52，強：47，弱：45	P急：57，急：54，強：49，弱：47
	音圧レベル	冷房		P急：38，急：36，強：32，弱：28	P急：40，急：38，強：33，弱：28
		暖房		P急：38，急：36，強：32，弱：28	P急：40，急：38，強：33，弱：28
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	290 × 870 × 230	
製品質量			kg	11	11.5
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			横断流式（モータ直結）× 1	
	風量		m^3/min	P急：8.5，急：8，強：6，弱：5	P急：11，急：10，強：8，弱：7
	機外静圧		Pa	0	
	電動機	定格出力	W	42 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）	
	新鮮空気取入口			不可能	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）	
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）	
	加湿器			——（組込不可能）	
高性能フィルタ				——（組込不可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				——	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，凍結防止サーモ	
冷媒封入量			kg	——	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）	φ 6.35（フレア接続）
		ガス管		φ 9.52（フレア接続）	φ 12.7（フレア接続）
	排水管			VP16（I.D.16，O.D.22）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力は日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン形式	人感センサ（個別設置形）
LA-SK	RCN-D5K	LB-KIT

PHA001Z140

壁掛形（FDK）

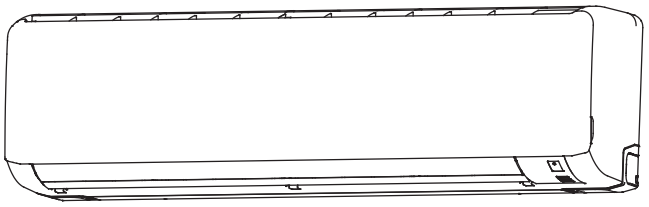
項目 ＼ 形式					
				FDKP455LXA	FDKP565LXA
電源				単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	4.5	5.6
	暖房能力			5.0	6.3
定格冷房時の顕熱比				0.74	0.70
運転音	パワーレベル	冷房	dB(A)	P急：57，急：56，強：52，弱：49	P急：57，急：56，強：53，弱：49
		暖房		P急：57，急：56，強：52，弱：49	P急：60，急：58，強：53，弱：49
	音圧レベル	冷房		P急：43，急：41，強：36，弱：33	P急：43，急：41，強：36，弱：33
		暖房		P急：43，急：41，強：36，弱：33	P急：44，急：42，強：37，弱：33
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	290 × 870 × 230	
製品質量			kg	11.5	
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			横断流式（モータ直結）× 1	
	風量	冷房	m^3/min	P急：12，急：11，強：9，弱：8	P急：12，急：11，強：9，弱：8
		暖房			P急：13，急：12，強：10，弱：8
	機外静圧		Pa	0	
	電動機	定格出力	W	42 × 1	
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）	
	新鮮空気取入口			不可能	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）	
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）	
	加湿器			——（組込不可能）	
高性能フィルタ				——（組込不可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				——	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，凍結防止サーモ	
冷媒封入量			kg	——	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 6.35（フレア接続）	φ 6.35（フレア接続）
		ガス管		φ 12.7（フレア接続）	φ 12.7（フレア接続）
	排水管			VP16（I.D.16，O.D.22）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力は日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン形式	人感センサ（個別設置形）
LA-SK	RCN-D5K	LB-KIT

PHA001Z140

壁掛形（FDK）

項目 ＼ 形式				
				FDKP715LXA
電源				単相 200V 50/60Hz
(1)能力	冷房能力		kW	7.1
	暖房能力			8.0
定格冷房時の顕熱比				0.76
運転音	パワーレベル	冷房	dB(A)	P急：58，急：57，強：54，弱：52
		暖房		P急：58，急：57，強：54，弱：52
	音圧レベル	冷房		P急：42，急：40，強：37，弱：35
		暖房		P急：42，急：40，強：37，弱：35
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	339 × 1197 × 262
製品質量			kg	17
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式
	冷媒制御器			電子膨張弁
送風装置	形式・台数			横断流式（モータ直結）× 1
	風量		m^3/min	P急：21，急：19，強：16，弱：14
	機外静圧		Pa	0
	電動機	定格出力	W	56 × 1
	エアフィルタ			プラスチックネット（洗浄可能）
	新鮮空気取入口			不可能
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G
	温度調節			マイコン式サーモスタット
	表示			液晶表示〈リモコン〉
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉
加湿器・加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）
	加湿器			——（組込不可能）
高性能フィルタ				——（組込不可能）
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）
外部制御用出力機能				——
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，凍結防止サーモ
冷媒封入量			kg	——
防振装置				送風用電動機：防振ゴム
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）
	排水管			VP16（I.D.16，O.D.22）の排水管接続可能
IPコード				IPX0

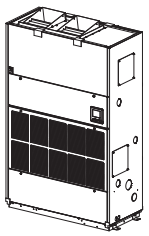
注(1) 冷房・暖房能力は日本工業規格（JIS B 8616：2015）条件により運転した値です。
(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。
(4) 別売品

ワイヤレス受信部形式	ワイヤレスリモコン形式	人感センサ（個別設置形）
LA-BK	RCN-D5K	LB-KIT

PHA001Z140

床置ダクト形（FDAS）

（50/60Hz）

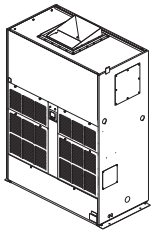
項目 ＼ 形式						
				FDASP1405TLX	FDASP2245TLX	FDASP2805TLX
電源				三相200V 50/60Hz		
(1)能力	冷房能力		kW	**14.0**	**22.4**	**28.0**
	暖房能力			**16.0**	**25.0**	**31.5**
定格冷房時の顕熱比				**0.75**	**0.75**	**0.79**
運転音	パワーレベル		dB	72.0	70.0	78.0
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	**1700×800×500**	**1700×1100×500**	
製品質量			kg	134	157	167
塗装色（マンセル）				セラミックホワイト（N8.0近似）		
空気熱交換器	形式			アルミフィン&銅チューブ式		
	冷媒制御器			電子膨張弁		
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（ベルト駆動）×1	両吸込多翼遠心式（ベルト駆動）×2	
	風量		m^3/min	35	56	78
	機外静圧（標準風量時）		Pa	66/133	68/132	67/167
	電動機	定格出力	W	**750×1**	**750×1**	**1500×1**
	エアフィルタ			プラスチックエアフィルタ（洗浄可能）		
	空気吸込口			前面または後面（ダクト接続可能）を選択		
	空気吹出口			上面（ダクト接続可能）		
	新鮮空気取入口			両側面を利用し可能（200×200ダクト接続）		
運転調整	操作スイッチ			ワイヤードリモコン：RC-DX3A（付属）		
	温度調節			マイコン式サーモスタット		
	表示			液晶表示〈リモコン〉		
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉		
加湿・別熱器	補助電気ヒータ		kW	組込可能（4kW）	組込可能（6kW）	組込可能（8kW）
	温水・蒸気ヒータ			組込不可能		
	加湿器			組込可能		
高性能フィルタ				——（組込可能）（後面吸込形）		
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT）を保有（6P・室内基板上）		
外部制御用出力機能				——		
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT）を保有（6P・室内基板上）		
冷媒				R410A		
防振装置				——		
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼付		
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	**φ9.52（ろう付接続）**	**φ9.52（ろう付接続）**	
		ガス管		**φ15.88（ろう付接続）**	**φ19.05（ろう付接続）**	**φ22.22（ろう付接続）**
	排水管			**Rp1（メス）（25A）**		
別売（オプション）部品				補助電気ヒータ，気化式加湿器，蒸気用スプレー加湿器，高性能フィルタ，プレナムチャンバ		
保護装置				室内ファンモータ：過電流継電器（手動復帰）		
設計圧力			MPa	高圧部4.15，低圧部2.21		
IPコード				IPX0		
接続可能室外ユニット				ビル空調マルチ4HLX，5HLXシリーズ		

注(1) 冷房・暖房能力，電気特性および運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616）条件により運転した値です。
(2) 各部品の点検・保全周期については日本冷凍空調工業会発行のガイドラインを参考にしてください。
(3) 上記室内ユニットを使用する場合は室内ユニット合計容量を 100％以下としてください。
(4) 室内ユニットの空気吸込口を後面側に選択した場合は，両側面の新鮮空気取入口を利用することはできません。

PAA002Z379 B

床置ダクト形（FDAS）

（50/60Hz）

項目 ＼ 形式					
				FDASP4505TLX	FDASP5605TLX
電源				三相200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	**45.0**	**56.0**
	暖房能力			**50.0**	**63.0**
定格冷房時の顕熱比				**0.85**	**0.84**
運転音	パワーレベル		dB	78.0	81.0
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	**2020×1500×800**	**2020×1500×800**
製品質量			kg	350	362
塗装色（マンセル）				セラミックホワイト（N8.0近似）	
空気熱交換器	形式			アルミフィン&銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式（ベルト駆動）×1	
	風量		m^3/min	128	160
	機外静圧（標準風量時）		Pa	109/228	109/291
	電動機	定格出力	kW	**2.2×1**	**3.7×1**
	エアフィルタ			プラスチックエアフィルタ（洗浄可能）	
	空気吸込口			前面または後面（ダクト接続可能）を選択	
	空気吹出口			上面（ダクト接続可能）	
	新鮮空気取入口			両側面を利用し可能（200×200ダクト接続）	
運転調整	操作スイッチ			ワイヤードリモコン：RC-DX3A（付属）	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器加熱器	補助電気ヒータ		kW	組込可能（12kW）	組込可能（16kW）
	温水・蒸気ヒータ			組込不可能	
	加湿器			組込可能	
高性能フィルタ				―（組込可能）（後面吸込形）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT）を保有（6P・室内基板上）	
外部制御用出力機能				―	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT）を保有（6P・室内基板上）	
冷媒				R410A	
防振装置				―	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼付	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	**φ12.7（ろう付接続）**	
		ガス管		**φ28.58（ろう付接続）**	
	排水管			**Rp1（メス）（25A）**	
別売（オプション）部品				補助電気ヒータ，気化式加湿器，蒸気用スプレー加湿器，高性能フィルタ，プレナムチャンバ	
保護装置				室内ファンモータ：過電流継電器（手動復帰）	
設計圧力			MPa	高圧部4.15，低圧部2.21	
IPコード				IPX0	
接続可能室外ユニット				ビル空調マルチ4HLX，5HLXシリーズ	

注(1) 冷房・暖房能力，電気特性および運転音（パワーレベル）は日本工業規格（JIS B 8616）条件により運転した値です。

(2) 各部品の点検・保全周期については日本冷凍空調工業会発行のガイドラインを参考にしてください。

(3) 上記室内ユニットを使用する場合は室内ユニット合計容量を 100％以下としてください。

(4) 室内ユニットの空気吸込口を後面側に選択した場合は，両側面の新鮮空気取入口を利用することはできません。

(5) FDASP4505,5605TLX は，制御基板を 2 枚搭載しています。

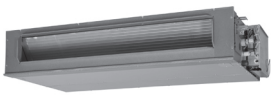
・集中制御機器に接続する場合，その 2 枚の制御基板をグルーピング設定して同時発停するように設定してください。
グルーピング設定のできない集中制御機器への接続はできません。

・外部入力による発停を行う場合，その 2 枚の制御基板の外部入力端子それぞれに発停信号を入力し，同時発停するように設定してください。

(6) FDASP4505,5605TLX は，冷暖フリーマルチ室外ユニットへの接続はできません。

PAA002Z379 B

給気処理ユニット（FDU-F）

項目 ＼ 形式					
				FDUP905FLXA	FDUP1405FLXA
電源				単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	9.0	14.0
	暖房能力			6.5	10.5
運転音	パワーレベル		dB(A)	Hi：60，Lo：57	Hi：64，Lo：61
	音圧レベル			Hi：34，Lo：31	Hi：39，Lo：36
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	280 × 950 × 635	280 × 1370 × 740
製品質量			kg	34	54
空気熱交換器	形式			アルミフィン & 銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式× 2（モータ直結）	両吸込多翼遠心式× 3（モータ直結）
	風量		m^3/min	Hi：11，Lo：9	Hi：18，Lo：16
	機外静圧		Pa	定格：100，最小：10，最大：200（リモコンから設定）	
	電動機	定格出力	W	130 × 1	100 + 200
	エアフィルタ			──（現地手配）	
	新鮮空気取入口			吸込ダクト接続	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器加熱器	補助電気ヒータ			──（組込不可能）	
	温水・蒸気ヒータ			──（組込不可能）	
	加湿器			──（組込不可能）	
高性能フィルタ				──（取付可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				──	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
冷媒封入量			kg	──	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（フレア接続）	
		ガス管		φ 15.88（フレア接続）	
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力は冷房33℃DB 28℃WB（RH68％），暖房（無着霜時）0℃DB-2.9℃WB（RH50％）における値です。いづれも給気処理運転モード時の値です。
外気取入温度範囲　冷房20 ～40℃CB　暖房0 ～24℃DB

(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

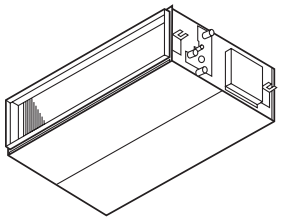
(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(4) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

PJG000Z558

給気処理ユニット（FDU-F）

項目 ＼ 形式					
				FDUP2245FLXA	FDUP2805FLXA
電源				単相 200V 50/60Hz	
(1)能力	冷房能力		kW	22.4	28.0
	暖房能力			16.0	21.5
運転音	パワーレベル		dB(A)	Hi：68，Lo：65	Hi：71，Lo：68
	音圧レベル			Hi：40，Lo：37	Hi：43，Lo：40
外形寸法	高さ×幅×奥行		mm	379 × 1600 × 893	
製品質量			kg	89	
空気熱交換器	形式			アルミフィン＆銅チューブ式	
	冷媒制御器			電子膨張弁	
送風装置	形式・台数			両吸込多翼遠心式×3（モータ直結）	
	風量		m^3/min	Hi：30，Lo：26	Hi：40，Lo：36
	機外静圧		Pa	定格：100，最小：10，最大：200（リモコンから設定）	
	電動機	定格出力	W	130 + 350	
	エアフィルタ			——（現地手配）	
	新鮮空気取入口			吸込ダクト接続	
運転調整	操作スイッチ			RC-DX3B，RC-D4G	
	温度調節			マイコン式サーモスタット	
	表示			液晶表示〈リモコン〉	
	表示灯			緑色：運転，赤色：点検〈リモコン〉	
加湿器加熱器	補助電気ヒータ			——（組込不可能）	
	温水・蒸気ヒータ			——（組込不可能）	
	加湿器			——（組込不可能）	
高性能フィルタ				——（取付可能）	
遠方発停用機能				遠方発停入力用コネクタ（CnT：6P，CnTA：2P）を保有（室内基板上）	
外部制御用出力機能				——	
遠方表示用出力機能				運転表示・異常表示出力用コネクタ（CnT：6P）を保有（室内基板上）	
保護機能				ファンモータ：マイコン式過負荷保護，フロートスイッチ，凍結防止サーモ	
冷媒封入量			kg	——	
防振装置				送風用電動機：防振ゴム	
防音・断熱材				外板：吸音断熱材内貼	
配管寸法（室内側）	冷媒配管（外径）	液管	mm	φ 9.52（ろう付接続）	
		ガス管		φ 19.05（ろう付接続）	φ 22.22（ろう付接続）
	排水管			VP25（I.D.25，O.D.32）の排水管接続可能	
IPコード				IPX0	

注(1) 冷房・暖房能力は冷房 33℃ DB 28℃ WB（RH68%），暖房（無着霜時）0℃ DB-2.9℃ WB（RH50%）における値です。いづれも給気処理運転モード時の値です。
外気取入温度範囲　冷房 20 ～ 40℃ B　暖房 0 ～ 24℃ DB

(2) 運転音（パワーレベル）は，日本工業規格（JIS B 8616：2015）に基づいた音響パワーレベルの数値です。

(3) 運転音（音圧）は日本工業規格（JIS B 8616：2006）に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。
実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(4) 別売品

ワイヤレスキット（個別設置形，リモコン付）	人感センサ（個別設置形）
RCN-KIT4	LB-KIT

PJG000Z558

運転特性

●FDTシリーズ

区分＼容量	FDTシリーズ									
	P285形	P365形	P455形	P565形	P715形	P805形	P905形	P1125形	P1405形	P1605形
消費電力(kW)	0.03			0.04	0.08		0.15			
運転電流(A)	0.2			0.2	0.4		0.8			

●FDTCシリーズ

区分＼容量	FDTCシリーズ				
	P225形	P285形	P365形	P455形	P565形
消費電力(kW)	0.03		0.04	0.05	0.06
運転電流(A)	0.28		0.42	0.48	0.6

●FDTWシリーズ

区分＼容量	FDTWシリーズ										
	P225形	P285形	P365形	P455形	P565形	P715形	P805形	P905形	P1125形	P1405形	P1605形
消費電力(kW)	0.09			0.10		0.14	0.16	0.19			0.24
運転電流(A)	0.45			0.55		0.75	0.85	1.00			1.25

●FDTSシリーズ

区分＼容量	FDTSシリーズ			
	P455形	P565形	P715形	P805形
消費電力(kW)	0.04	0.06	0.09	
運転電流(A)	0.30	0.43	0.66	

●FDR シリーズ

項目＼容量		P225形	P285形	P365形	P455形	P565形
消費電力(kW)	定格	0.04		0.07		
	最大	0.07〔静圧100Pa〕	0.065〔静圧100Pa〕	0.095〔静圧100Pa〕		
運転電流(A)	定格	0.3	0.2	0.6		
	最大	0.5〔静圧100Pa〕	0.4〔静圧100Pa〕	0.7〔静圧100Pa〕		

項目＼容量		P715形	P805形	P905形	P1125形	P1405形
消費電力(kW)	定格	0.14			0.22	0.26
	最大	0.19〔静圧100Pa〕			0.30〔静圧100Pa〕	0.36〔静圧100Pa〕
運転電流(A)	定格	1.0			1.7	1.9
	最大	1.3〔静圧100Pa〕			2.0〔静圧100Pa〕	2.4〔静圧100Pa〕

●FDU シリーズ

項目＼容量		P225形	P285形	P365形	P455形	P565形	P715形	P805形	P905形
消費電力(kW)	定格	0.09					0.16		
	最大	0.10〔静圧200Pa〕					0.25〔静圧200Pa〕		
運転電流(A)	定格	0.6					1.3		
	最大	0.7〔静圧200Pa〕					1.7〔静圧200Pa〕		

項目＼容量		P1125形	P1405形	P1605形	P2245形	P2805形
消費電力(kW)	定格	0.23	0.25	0.35	0.930	0.930
	最大	0.32〔静圧200Pa〕	0.36〔静圧200Pa〕	0.43〔静圧200Pa〕	1.080〔静圧 200Pa〕	1.080〔静圧 200Pa〕
運転電流(A)	定格	1.7	1.9	2.6	5.8	5.8
	最大	2.1〔静圧200Pa〕	2.4〔静圧200Pa〕	2.8〔静圧200Pa〕	6.9〔静圧 200Pa〕	6.9〔静圧 200Pa〕

注(1) 上表は JIS B 8616：2015 条件によります。
(2) 上表の値は冷房・暖房運転共通です。

●FDEシリーズ

区分＼容量	FDEシリーズ								
	P365形	P455形	P565形	P715形	P805形	P905形	P1125形	P1405形	P1605形
消費電力(kW)	0.05			0.07	0.08		0.10	0.13	0.14
運転電流(A)	0.50			0.70	0.80		1.00	1.30	1.40

●FDKシリーズ

(50/60Hz)

区分＼容量	FDKシリーズ				
	P285形	P365形	P455形	P565形	P715形
消費電力(kW)	0.02/0.02	0.03/0.03		0.03/0.03	0.04/0.04
運転電流(A)	0.2/0.2	0.29/0.29		0.29/0.29	0.37/0.37

●FDASシリーズ

(50/60Hz)

区分＼容量	FDASシリーズ				
	P1405形	P2245形	P2805形	P4505形	P5605形
消費電力(kW)	0.32/0.39	0.425/0.51	0.74/0.91	1.35/1.70	2.35/2.80
運転電流(A)	2.6/2.2	2.7/2.45	5.0/4.25	6.70/6.40	11.5/10.8

●FDU-Fシリーズ

(50/60Hz)

区分＼容量		FDU-Fシリーズ			
		P905形	P1405形	P2245形	P2805形
消費電力(kW)	定格	0.200	0.290	1.020	1.050
	最大	0.240〔静圧200Pa〕	0.350〔静圧200Pa〕	1.090〔静圧200Pa〕	1.160〔静圧200Pa〕
運転電流(A)	定格	1.4	2.1	7.3	7.5
	最大	1.7〔静圧200Pa〕	2.5〔静圧200Pa〕	7.8〔静圧200Pa〕	8.3〔静圧200Pa〕

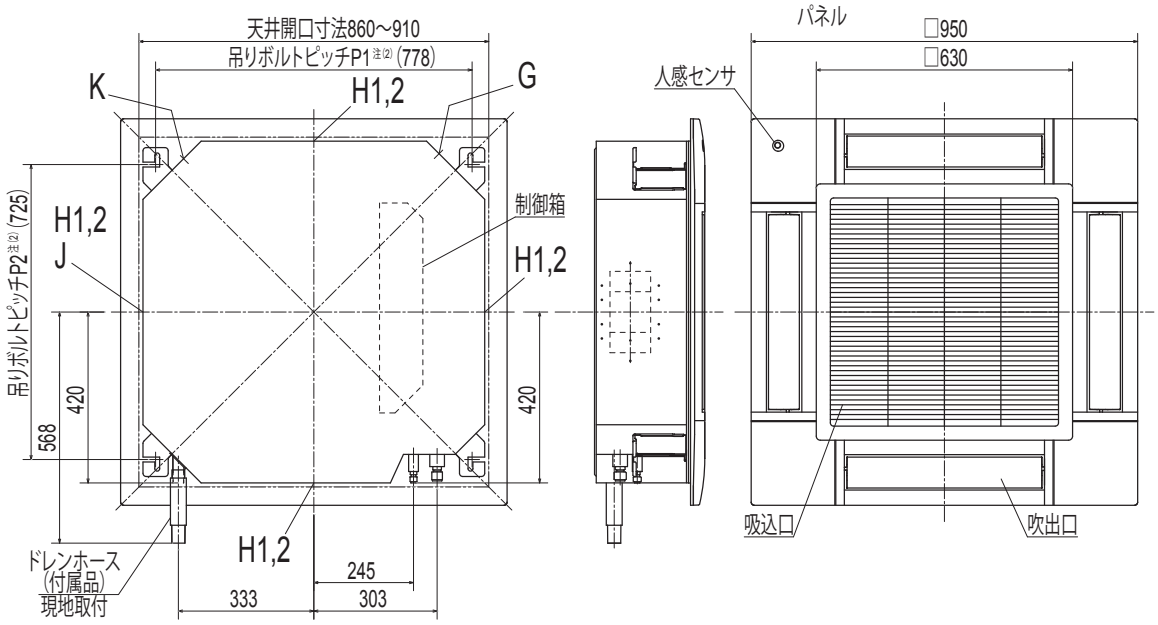
注(1) 上表は JIS B 8616：2015 条件によります。
(2) 上表の値は冷房・暖房運転共通です。

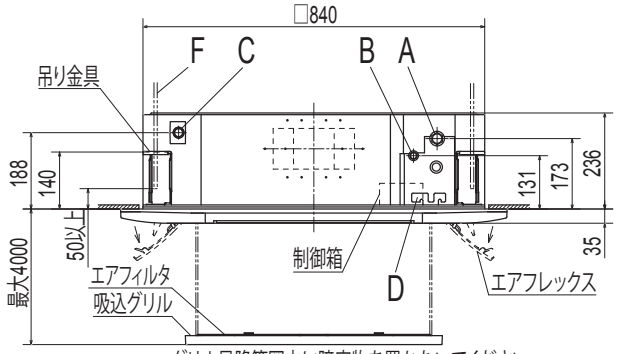
2. 外 形 図

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

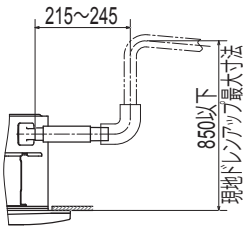
(a) 標準パネル・エアフレックスパネル・ラクリーナパネル仕様

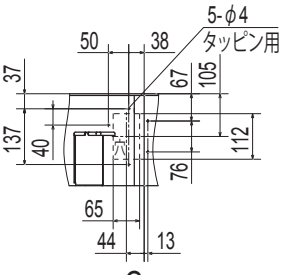
FDTP285LXA, 365LXA, 455LXA, 565LXA, 715LXA, 805LXA

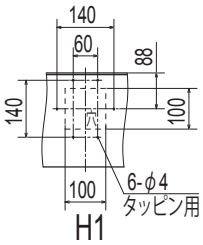


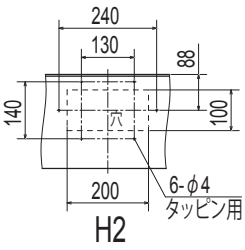


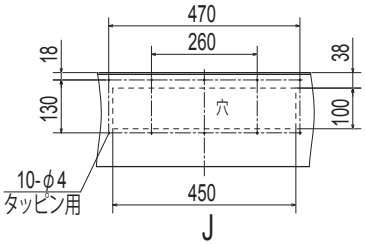
グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。

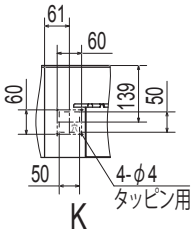


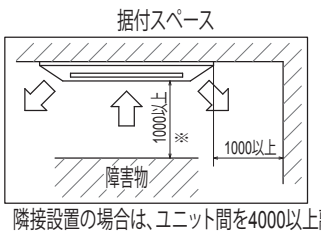












隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。
ラクリーナパネル仕様の場合、※寸法は1400です。

●記号説明

記号	内容			
	機種	P28	P36,45,56	P71,80
A	冷媒ガス側配管	φ9.52(フレア)	φ12.7(フレア)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)		φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)		
D	電源取入口			
F	吊りボルト	M10またはM8		
G	OA取入口			
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125		
H2		φ200		
J	加湿器接続口			
K	加湿器余剰水接続口			

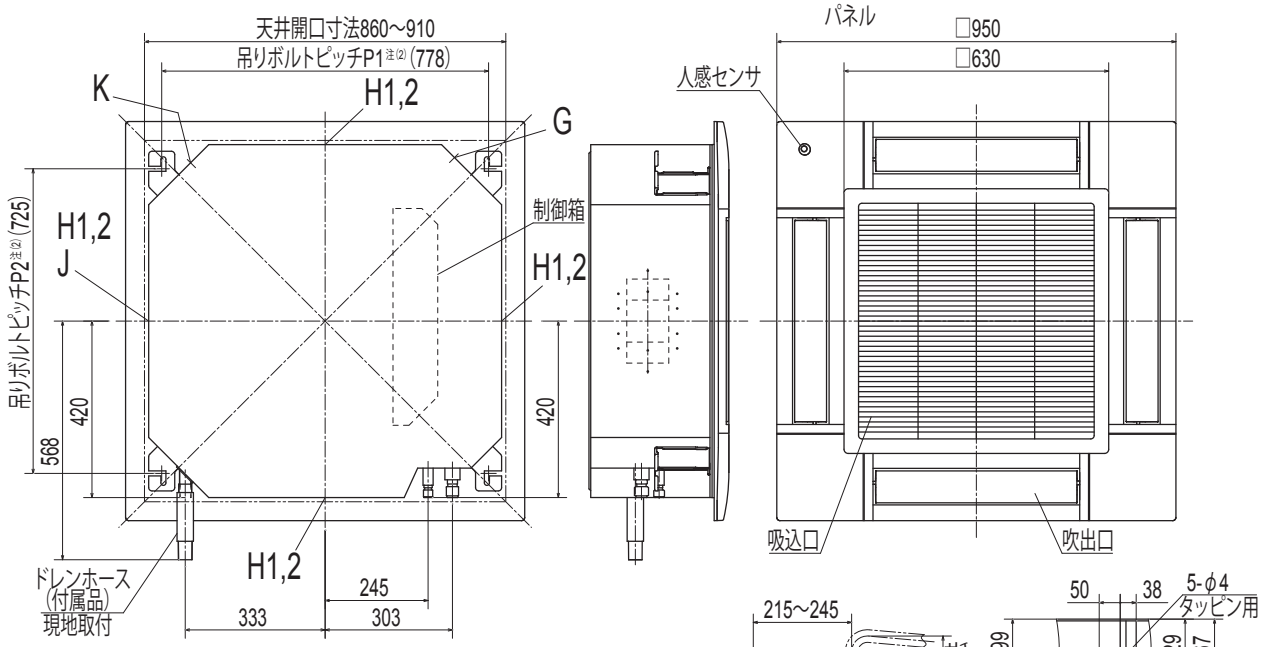
注(1)装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2)吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

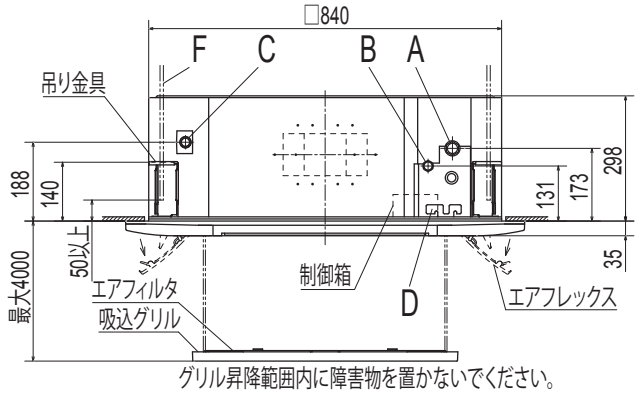
吊りボルトピッチ範囲表

パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

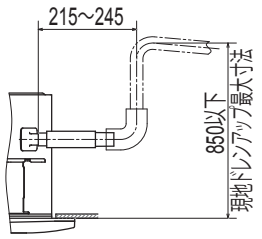
PJF000Z539
PJF000Z540
PJF000Z541

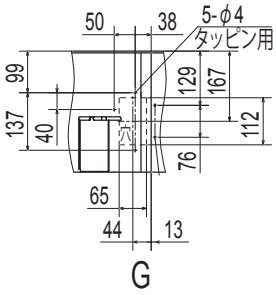
FDTP905LXA, 1125LXA, 1405LXA, 1605LXA

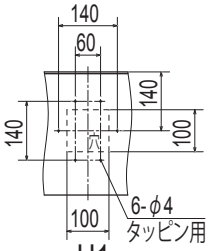


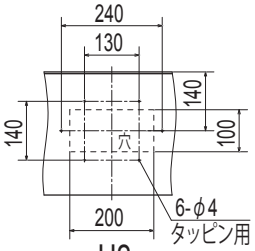


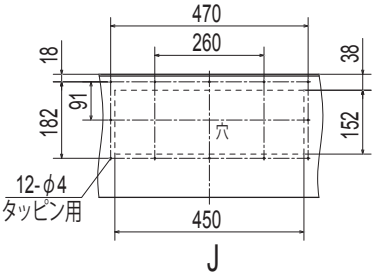
グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。

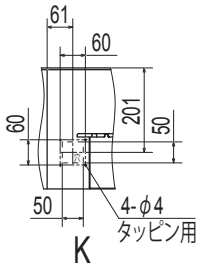












●記号説明

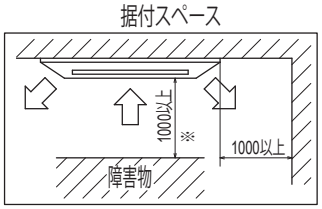
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200
J	加湿器接続口	
K	加湿器余剰水接続口	

注(1)装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。
(2)吊りボルトピッチP1,P2は下表のパターンで調整可能です。

吊りボルトピッチ範囲表

パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

据付スペース

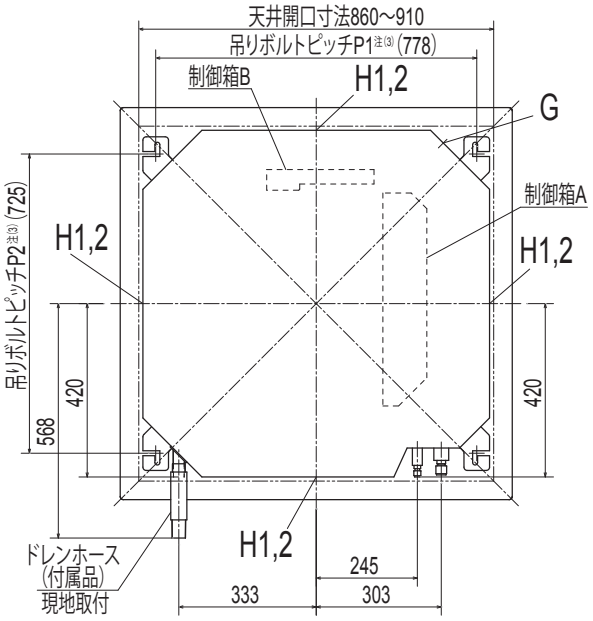


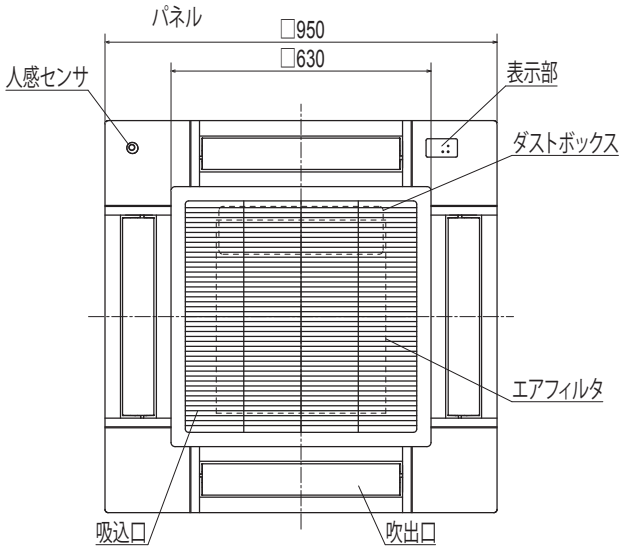
隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。
ラクリーナパネル仕様の場合、※寸法は1400です。

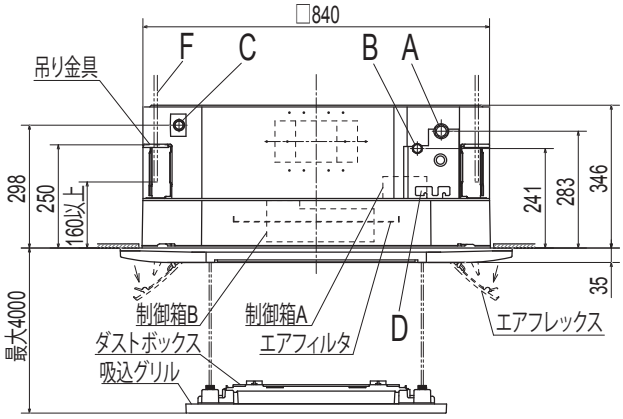
PJF000Z543
PJF000Z544
PJF000Z545

(b) お掃除ラクリーナパネル仕様

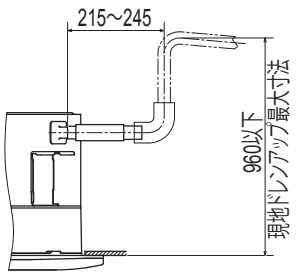
FDTP285LXA, 365LXA, 455LXA, 565LXA, 715LXA, 805LXA

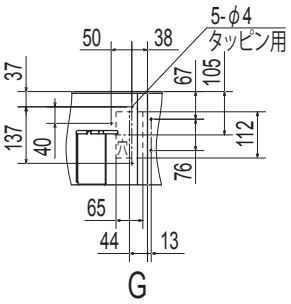


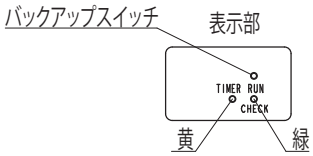


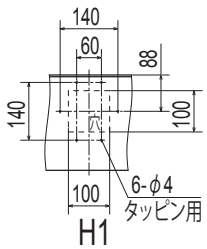


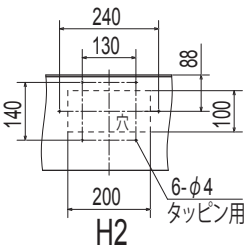
グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。

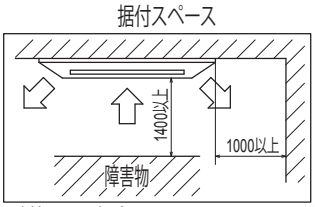












隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

●記号説明

記号	内容			
	機種	P28	P36,45,56	P71,80
A	冷媒ガス側配管	φ9.52(フレア)	φ12.7(フレア)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)		φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)		
D	電源取入口			
F	吊りボルト	M10またはM8		
G	OA取入口			
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125		
H2		φ200		

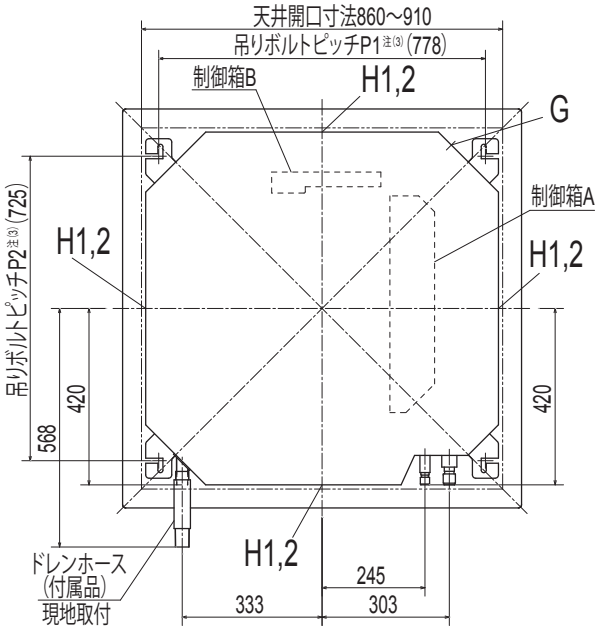
注(1)装置銘板は制御箱Aの蓋に付いてます。
(2)吸込グリルには方向性があります。
90度回転方向には取付きません。
(3)吊りボルトピッチP1,P2は下表の
パターンで調整可能です。

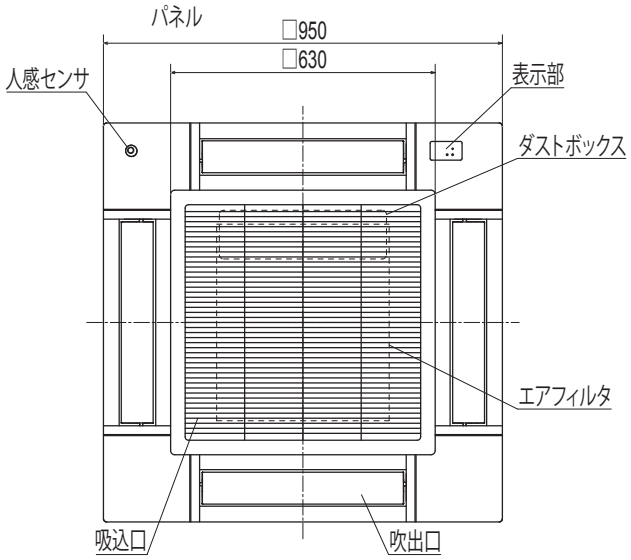
吊りボルトピッチ範囲表

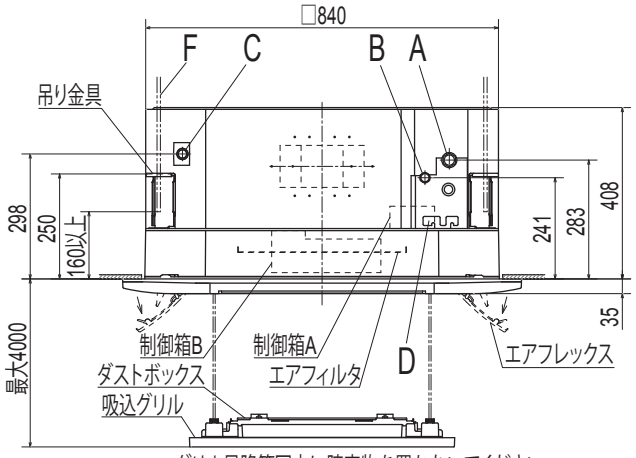
パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

PJF000Z542

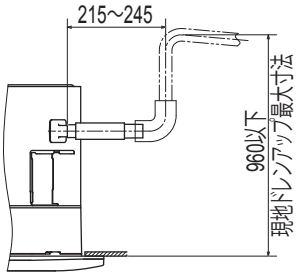
FDTP905LXA, 1125LXA, 1405LXA, 1605LXA

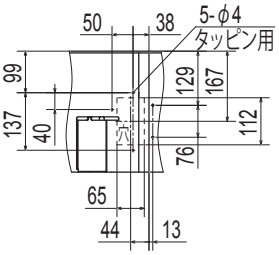


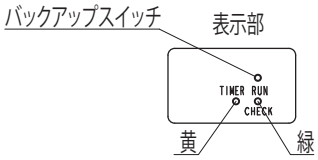


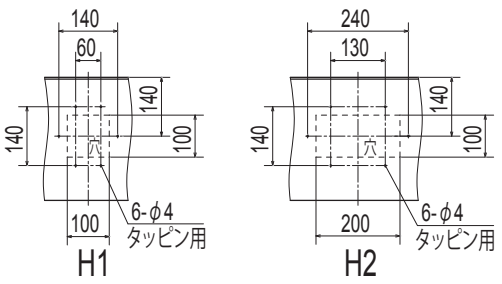


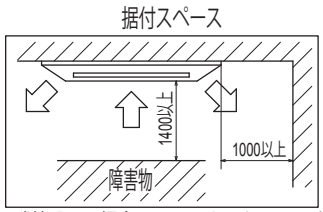
グリル昇降範囲内に障害物を置かないでください。











隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25,O.D.32)
D	電源取入口	
F	吊りボルト	M10またはM8
G	OA取入口	
H1	吹出分岐ダクト接続口	φ125
H2		φ200

注(1)装置銘板は制御箱Aの蓋に付いてます。
(2)吸込グリルには方向性があります。
90度回転方向には取付きません。
(3)吊りボルトピッチP1,P2は下表の
パターンで調整可能です。

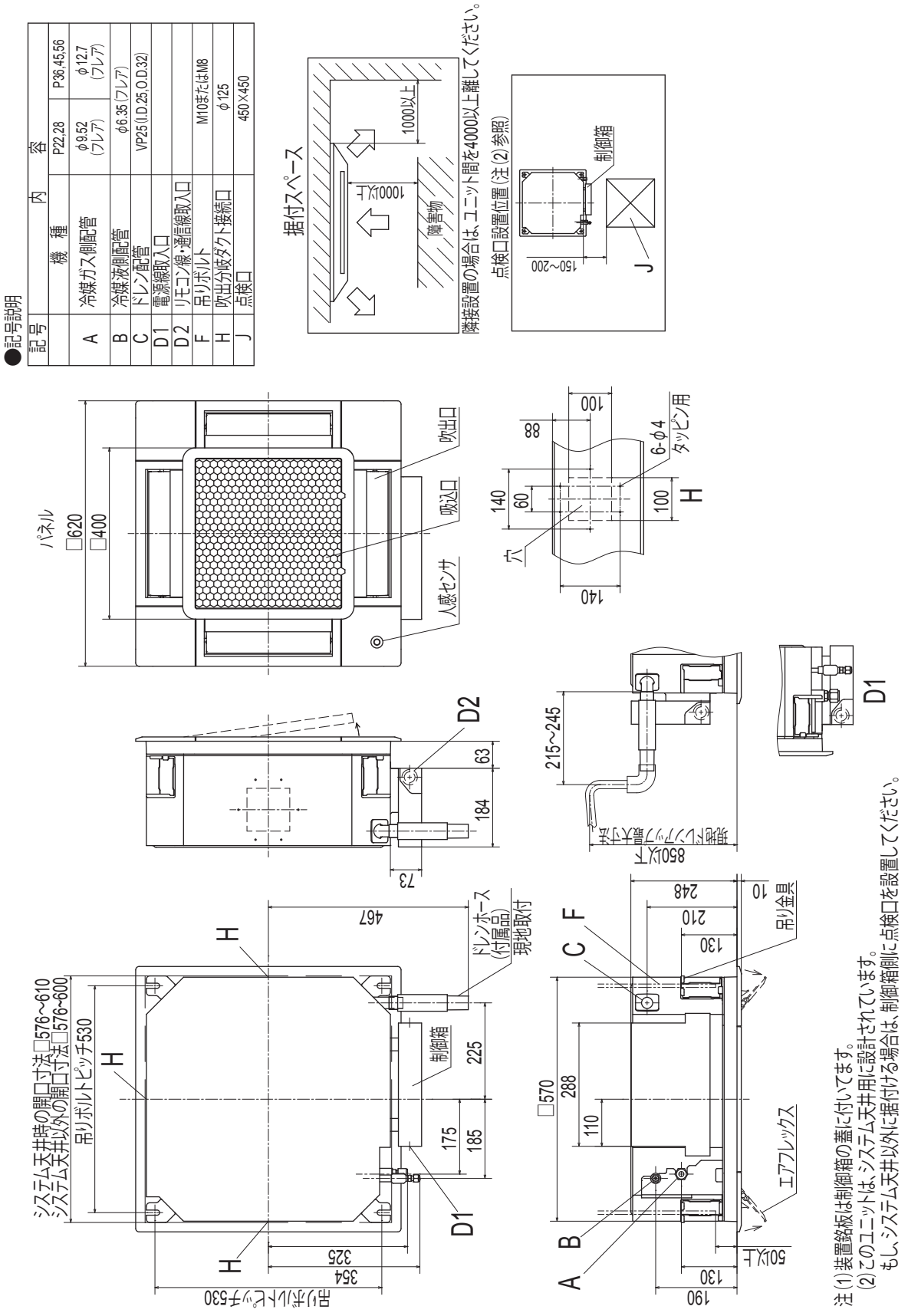
吊りボルトピッチ範囲表

パターン＼記号	P1	P2
1	770	725～770
2	770～800	725

PJF000Z546

(2) 天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

・全形式

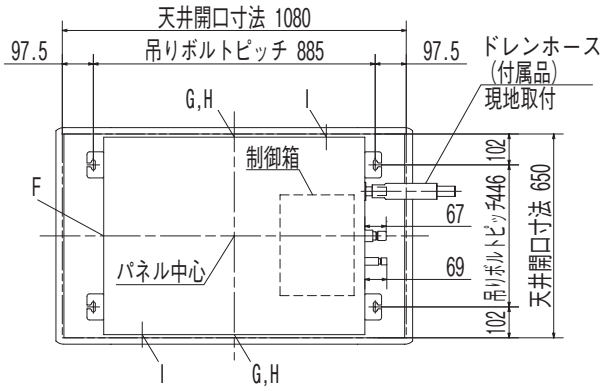


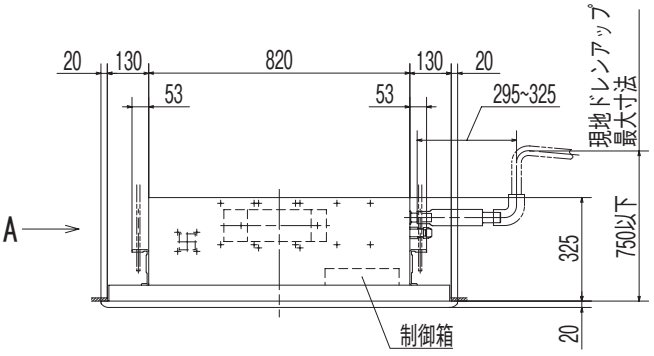
PJF000Z583

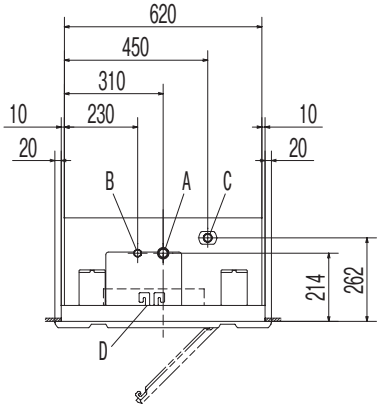
(3) 天井埋込形２方向吹出し(FDTW)

(a) 標準パネル仕様

FDTWP225, 285, 365, 455, 565, 715, 805LXA



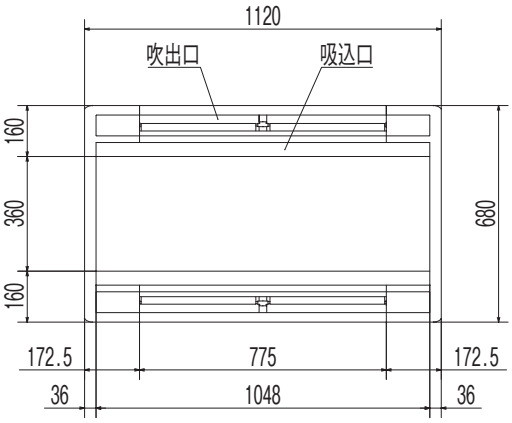




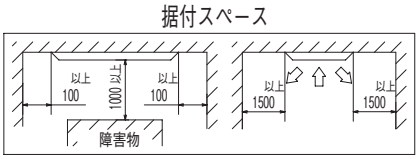
●記号説明

記号	内容			
	機種	P22,28	P36,45,56	P71,80
A	冷媒ガス側接続口	φ9.52 (フレア)	φ12.7 (フレア)	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側接続口	φ6.35 (フレア)		φ9.52 (フレア)
C	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)		
D	電源取入口			
E	吊りボルト	M10		
F	OA取入口			
G	吹出分岐ダクト接続口			
H	加湿器接続口			
I	加湿器余剰水接続口			

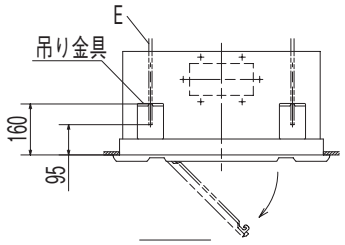
パネル



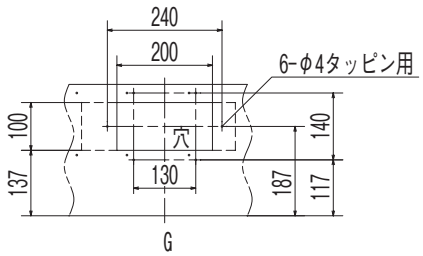
注 (1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

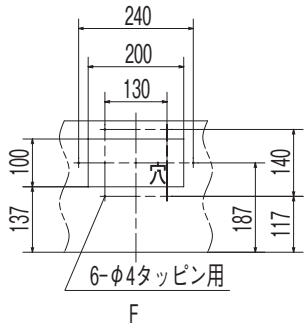


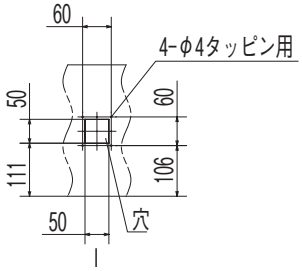
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

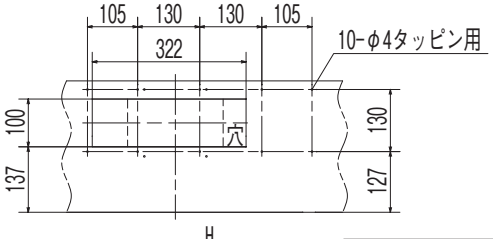


A 視







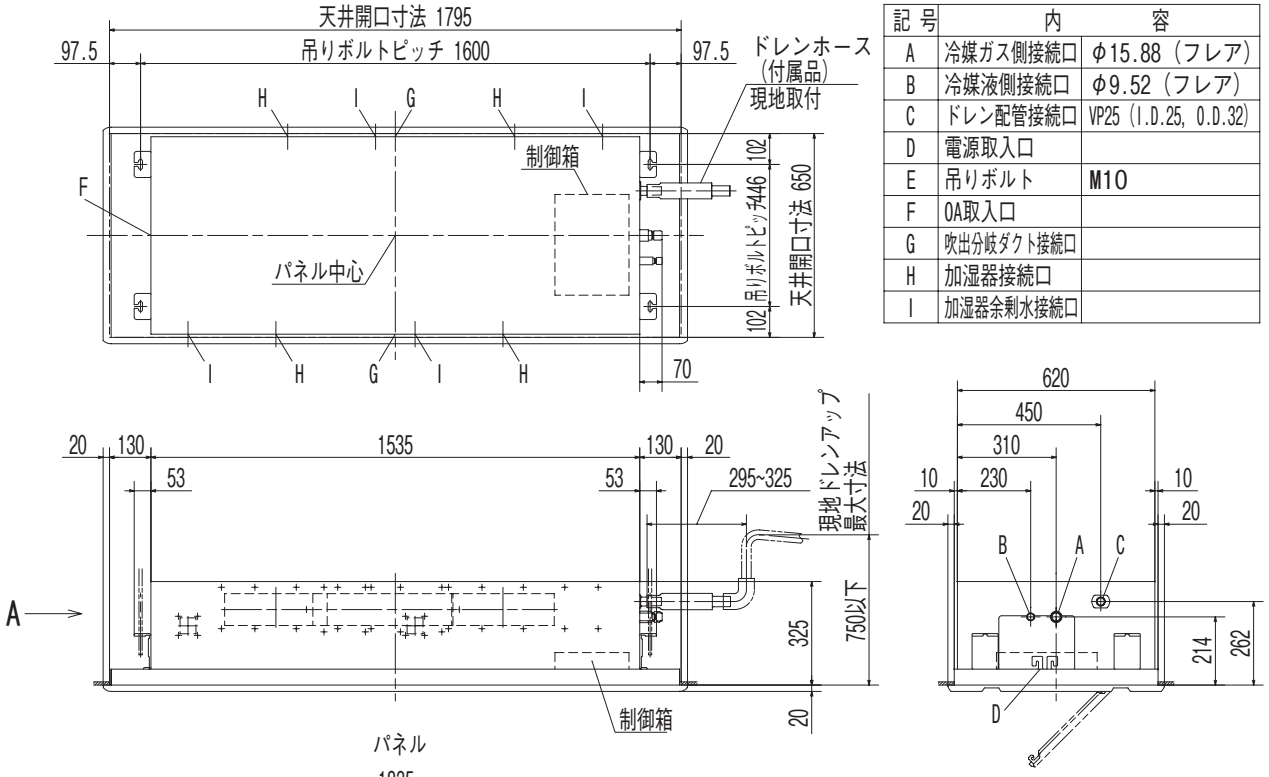


PJB001Z825

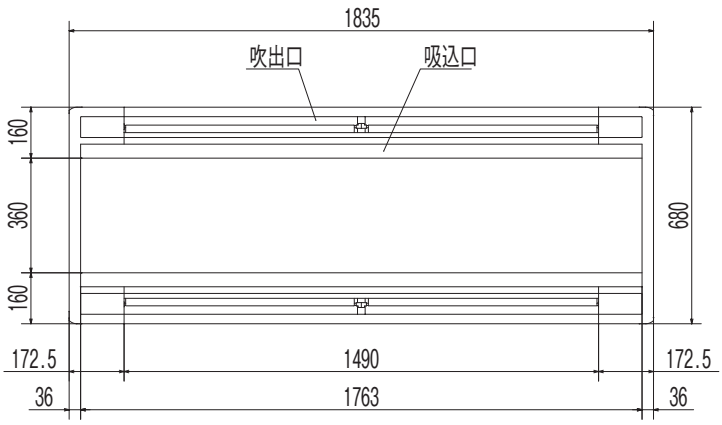
FDTWP905, 1125, 1405, 1605LXA

●記号説明

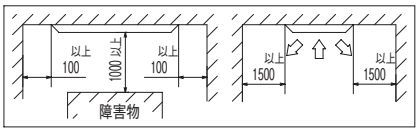
記号	内容	
A	冷媒ガス側接続口	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側接続口	φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25, O.D.32）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	



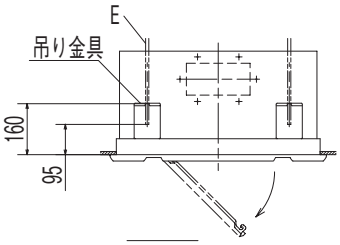
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。



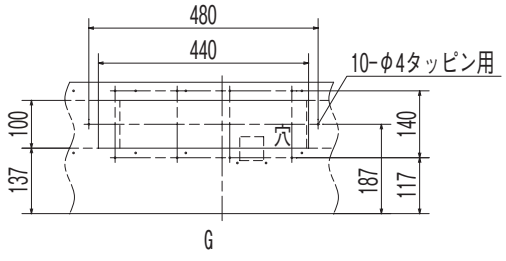
据付スペース

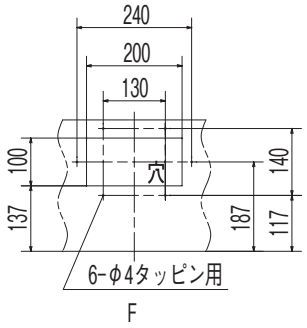


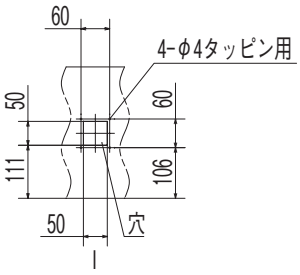
隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。

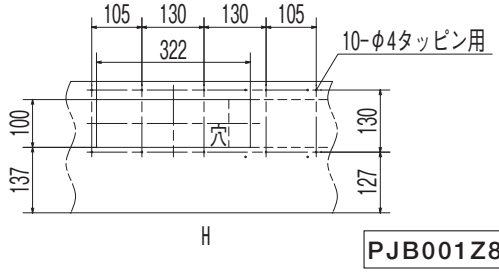


A 視









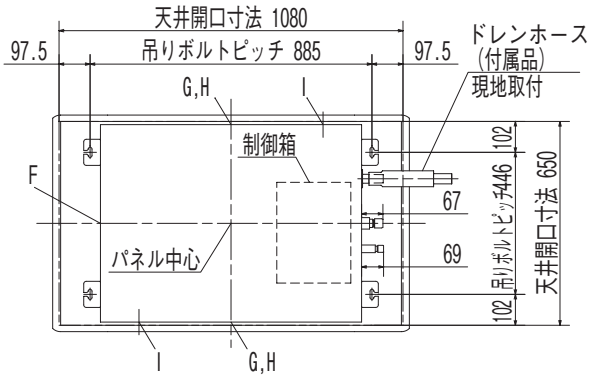
PJB001Z826

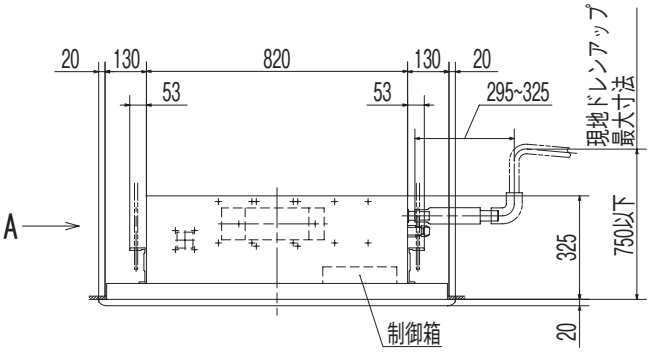
(b) ラクリーナパネル仕様

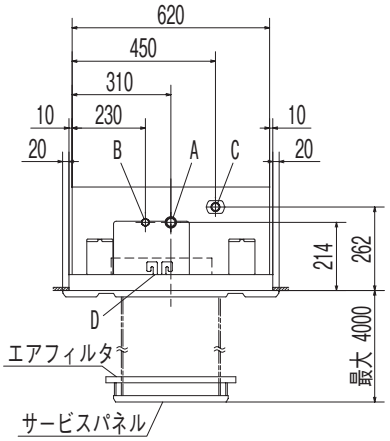
FDTWP225, 285, 365, 455, 565, 715, 805LXA

●記号説明

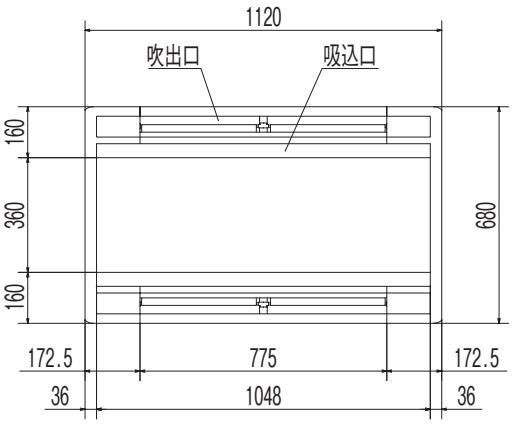
記号	内容			
	機種	P22,28	P36,45,56	P71,80
A	冷媒ガス側接続口	φ9.52（フレア）	φ12.7（フレア）	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側接続口	φ6.35（フレア）		φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25, O.D.32）		
D	電源取入口			
E	吊りボルト	M10		
F	OA取入口			
G	吹出分岐ダクト接続口			
H	加湿器接続口			
I	加湿器余剰水接続口			



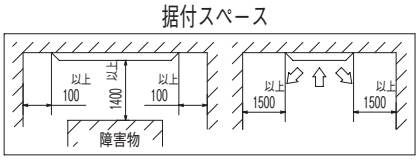




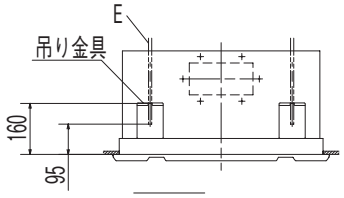
パネル



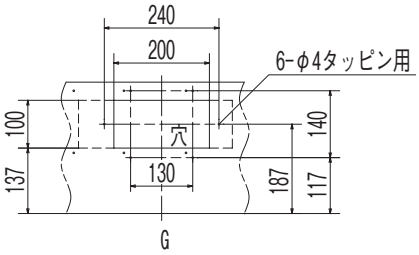
注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

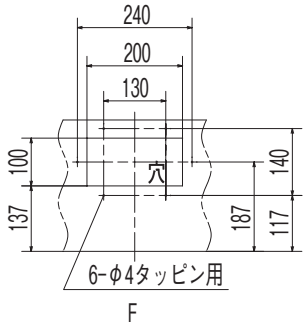


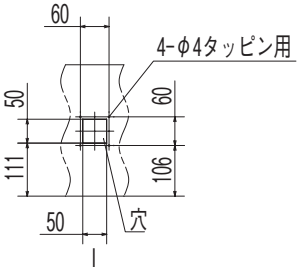
隣接設置の場合は、ユニット間を4000以上離してください。

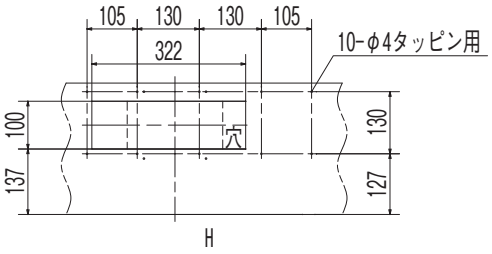


A 視







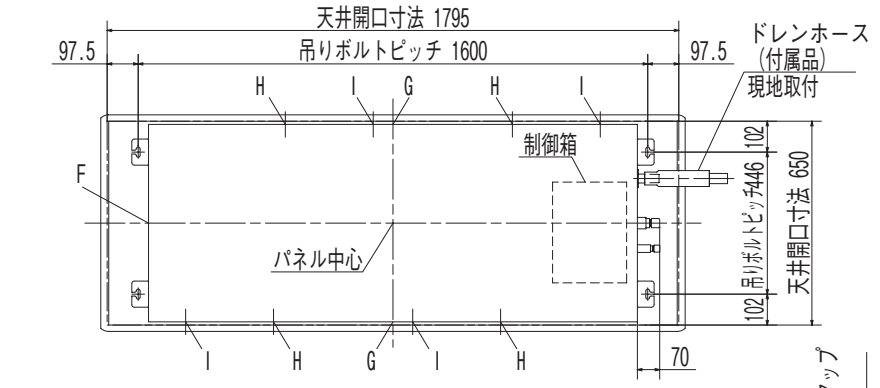


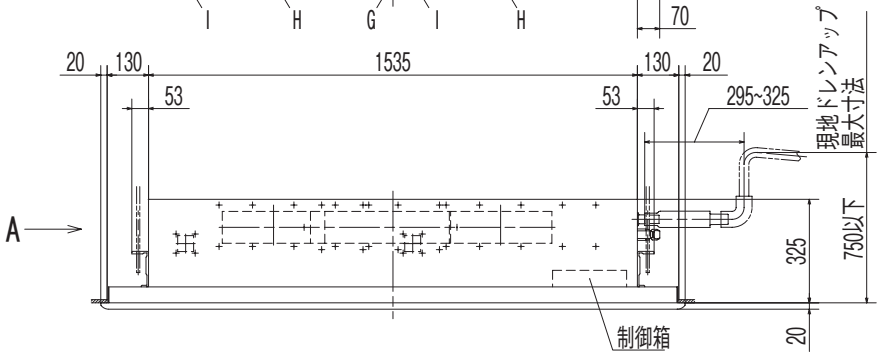
PJB001Z827

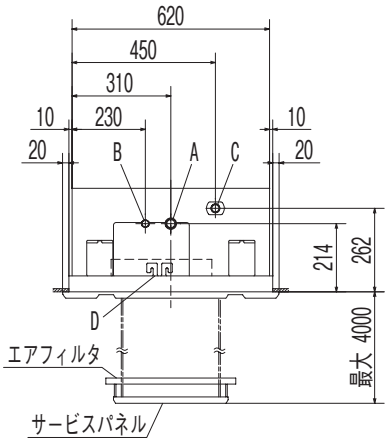
FDTWP905, 1125, 1405, 1605LXA

●記号説明

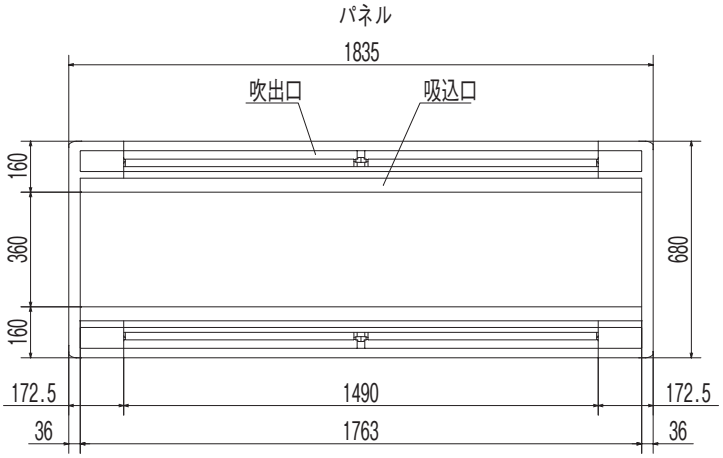
記号	内容	
A	冷媒ガス側接続口	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側接続口	φ9.52（フレア）
C	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25, O.D.32）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口	
H	加湿器接続口	
I	加湿器余剰水接続口	

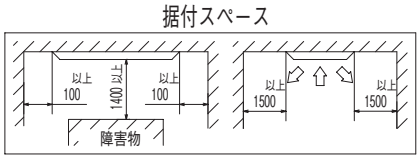




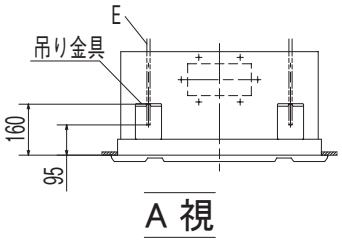


注（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いてます。

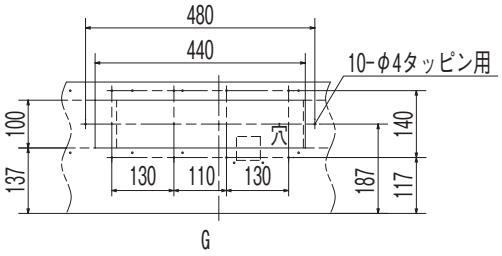




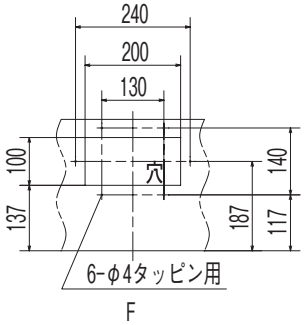
隣接設置の場合は、ユニット間を5000以上離してください。



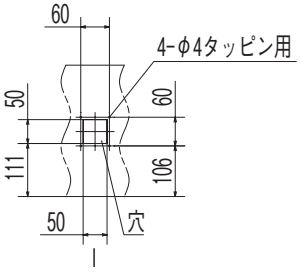
A 視



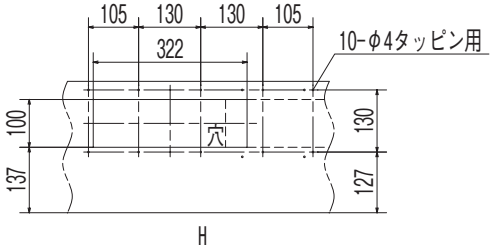
G



F



I



H

PJB001Z828

(4) 天井埋込形 1 方向吹出し（FDTS）

(a) 天井埋込仕様（直吹き）

・全形式

直吹き仕様パネル（品番:TS-PSA-3AW）

●記号説明

記号	機種	内容	
		P45,56	P71,80
A	冷媒ガス側配管	φ12.7(フレア)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25 , O.D.32)	
D	電源取入口	M10	
F	吊りボルト		
G	OA取入口		
H	ドレン配管(自然排水)	VP25(I.D.25 , O.D.32)	

注(1)装置銘板は吸込グリル内に付いています。

PJC001Z431

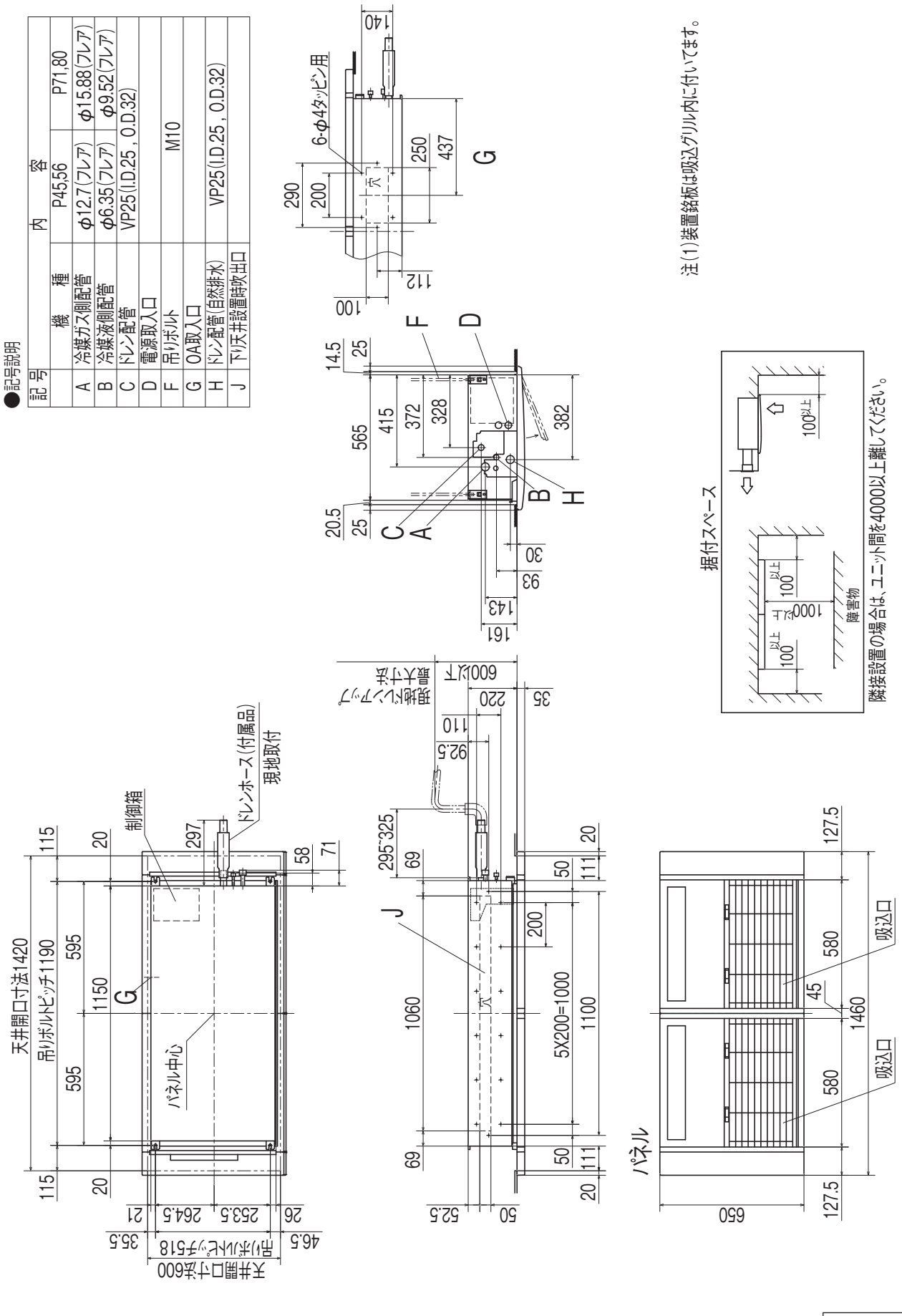
(b) 下がり天井仕様

・全形式

下がり天井仕様パネル（品番:TS-PNA-3AW）

●記号説明

記号	機種	内容	
		P45,56	P71,80
A	冷媒ガス側配管	φ12.7(フレア)	φ15.88(フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(フレア)	φ9.52(フレア)
C	ドレン配管	VP25(I.D.25，O.D.32)	
D	電源取入口		
F	吊りボルト	M10	
G	OA取入口		
H	ドレン配管(自然排水)	VP25(I.D.25，O.D.32)	
J	下天井設置時吹出口		

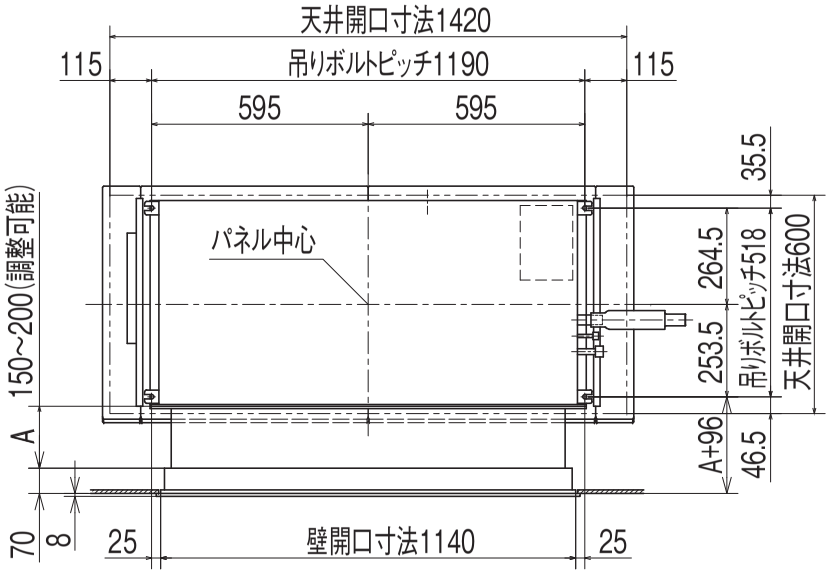


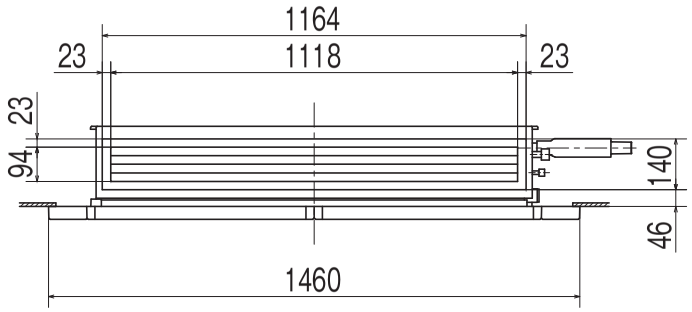
PJC001Z432

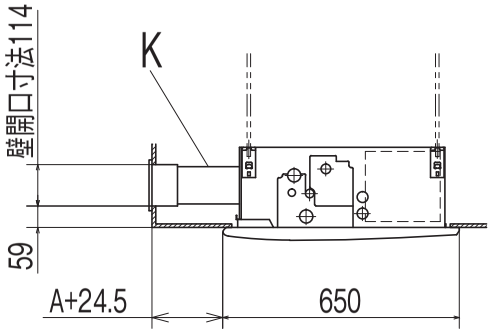
・吹出グリル取付図

本図は下記オプション部品を組合わせた場合を示す。

K	下がり天井用吹出グリル (含む吹出グリル・ダクト)	三菱重工冷熱(株) HA06241



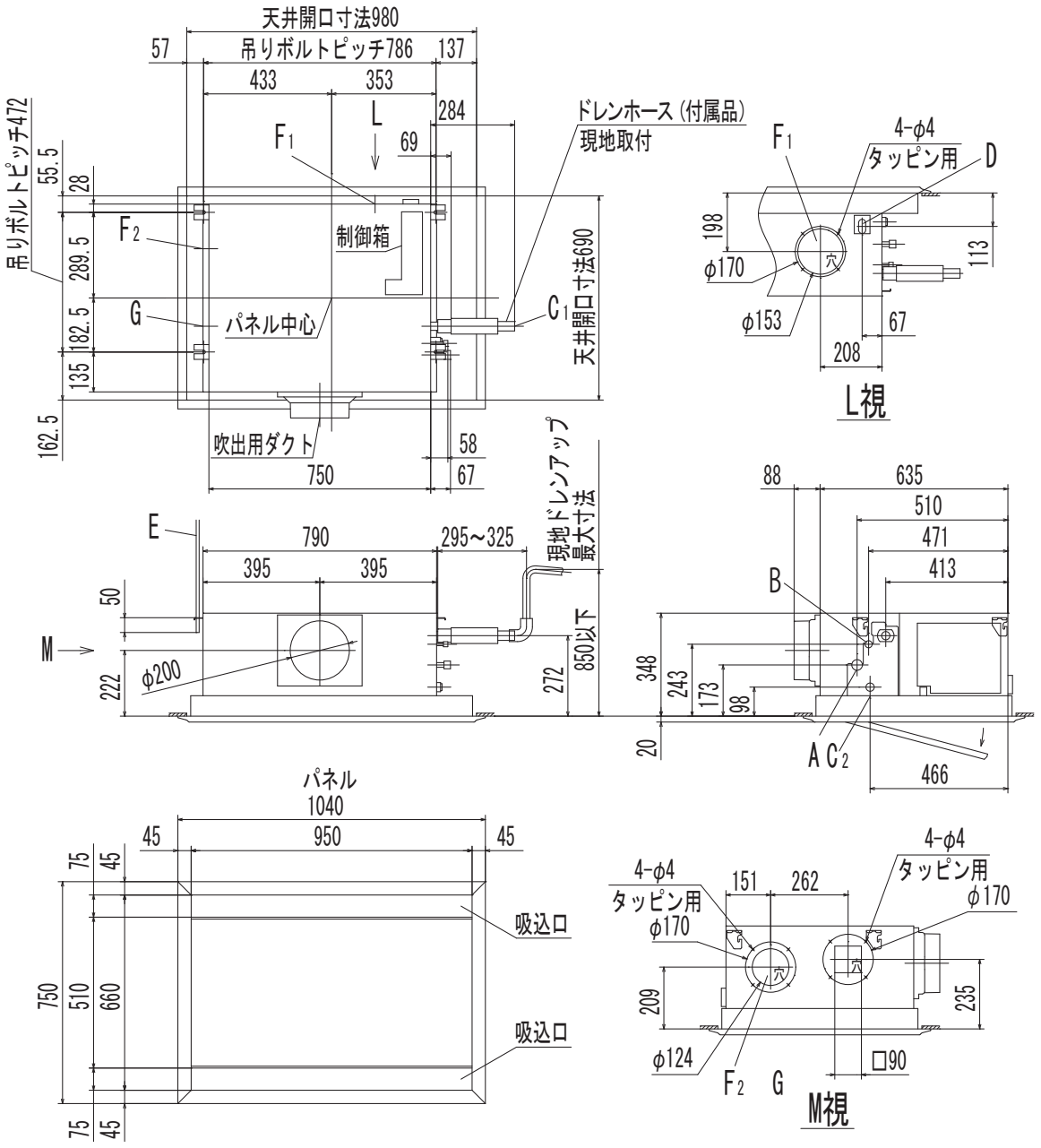




(5) 天埋カセテリア（FDR）

FDRP225LXA

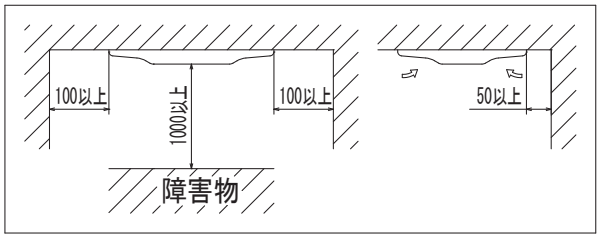
サイレントパネル(品番：R－PNS－2AW)使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 （フレア）
B	冷媒液側配管	φ6.35 （フレア）
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C_2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

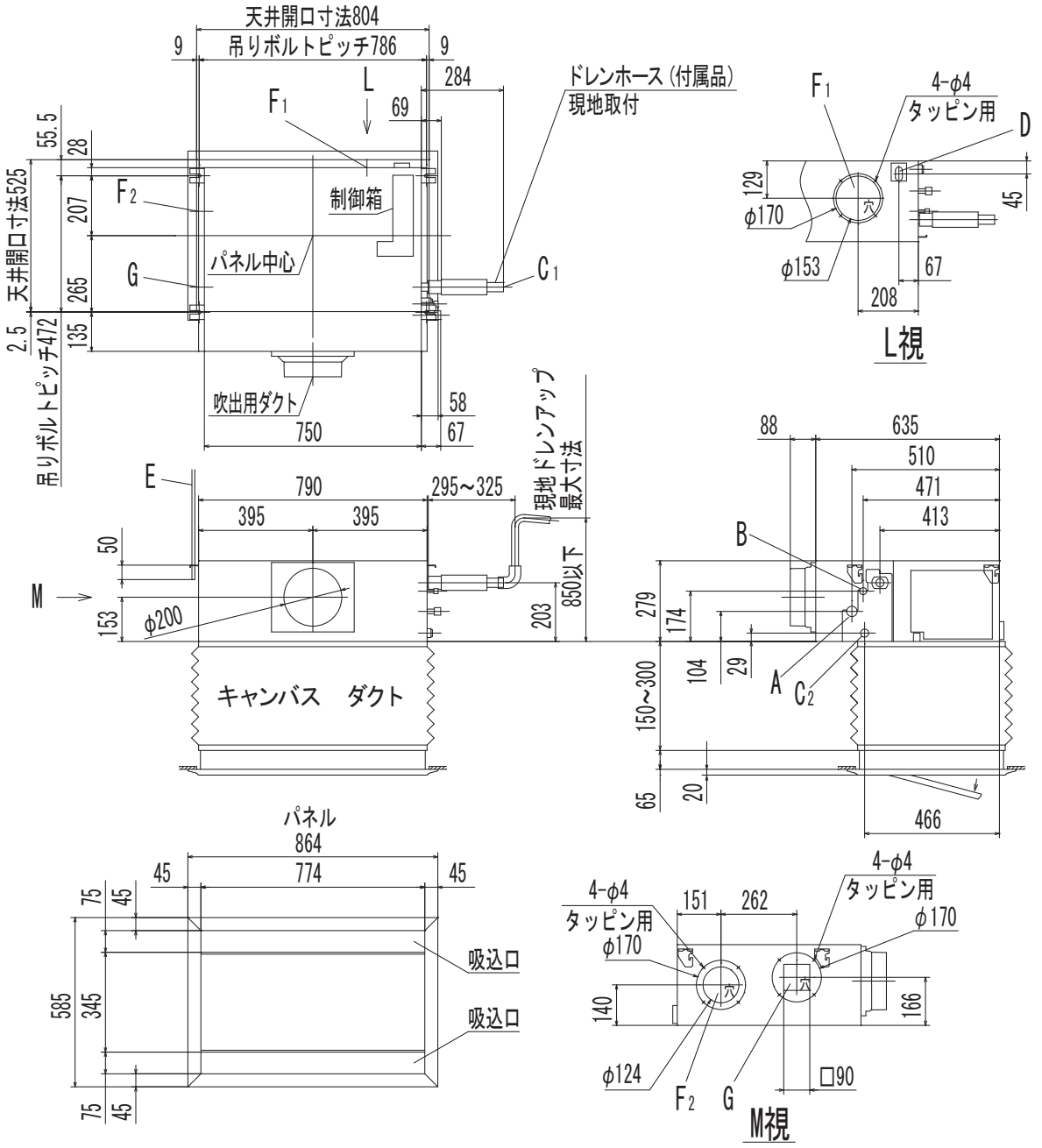
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z495

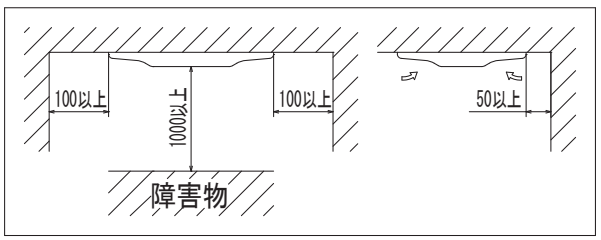
FDRP225LXA　キャンバスパネル(品番：R－PNC－2AW)使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35 (フレア)
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)
C_2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

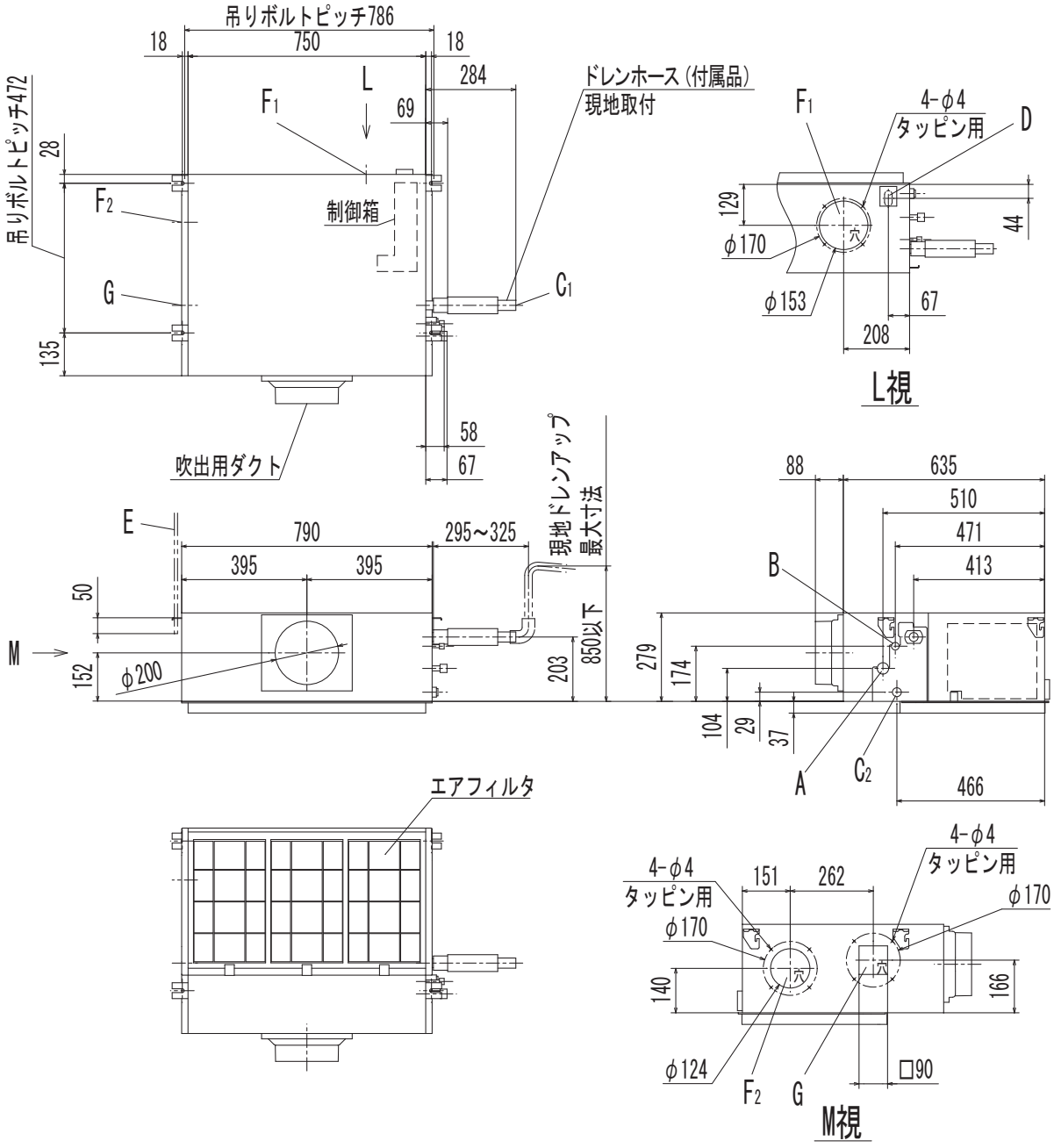
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z499

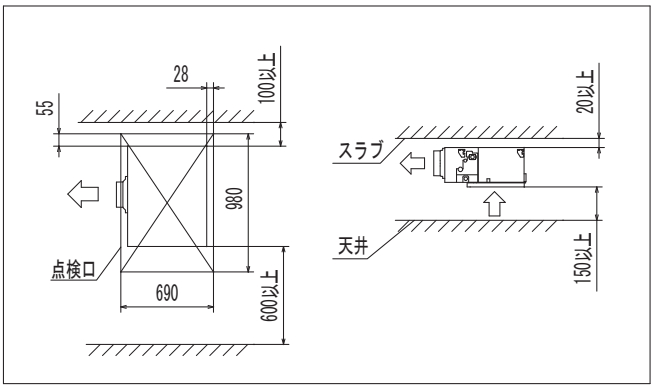
FDRP225LXA　天井リターン変換キット(品番：R－FL－2A)使用の場合



●記号説明

記 号	内 容	
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35 (フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

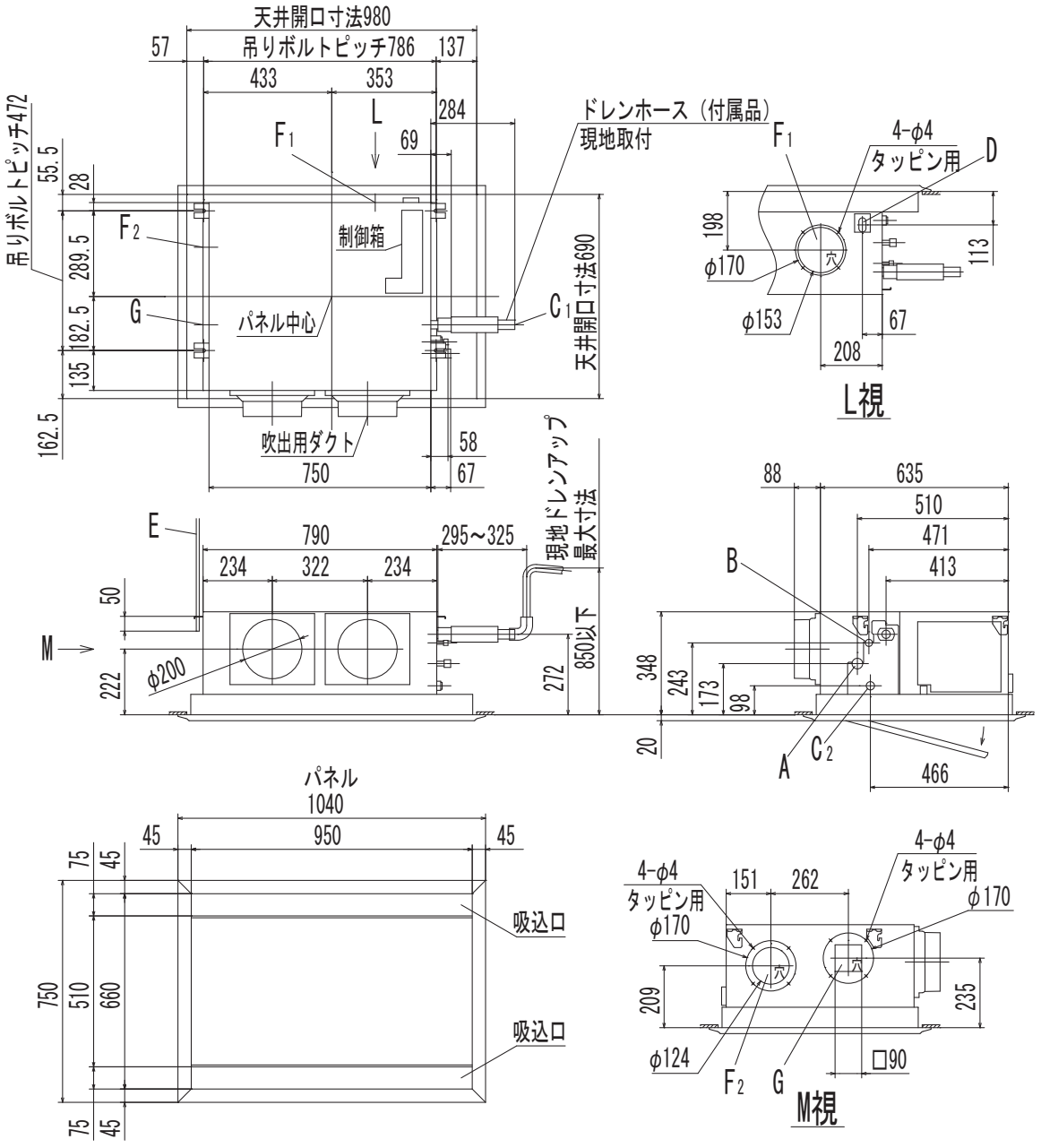
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z503

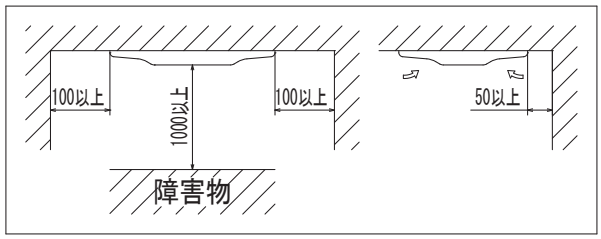
FDRP285, 365, 455, 565LXA　サイレントパネル(品番：R－PNS－2AW)使用の場合



●記号説明

記号	内容		
	機種	P28	P36, 45, 56
A	冷媒ガス側配管	φ9.52（フレア）	φ12.7（フレア）
B	冷媒液側配管	φ6.35（フレア）	
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25, O.D.32）	
C_2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20, O.D.26）	
D	電源取入口		
E	吊りボルト	M10	
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト	
F_2		φ125用ノックアウト	
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト	

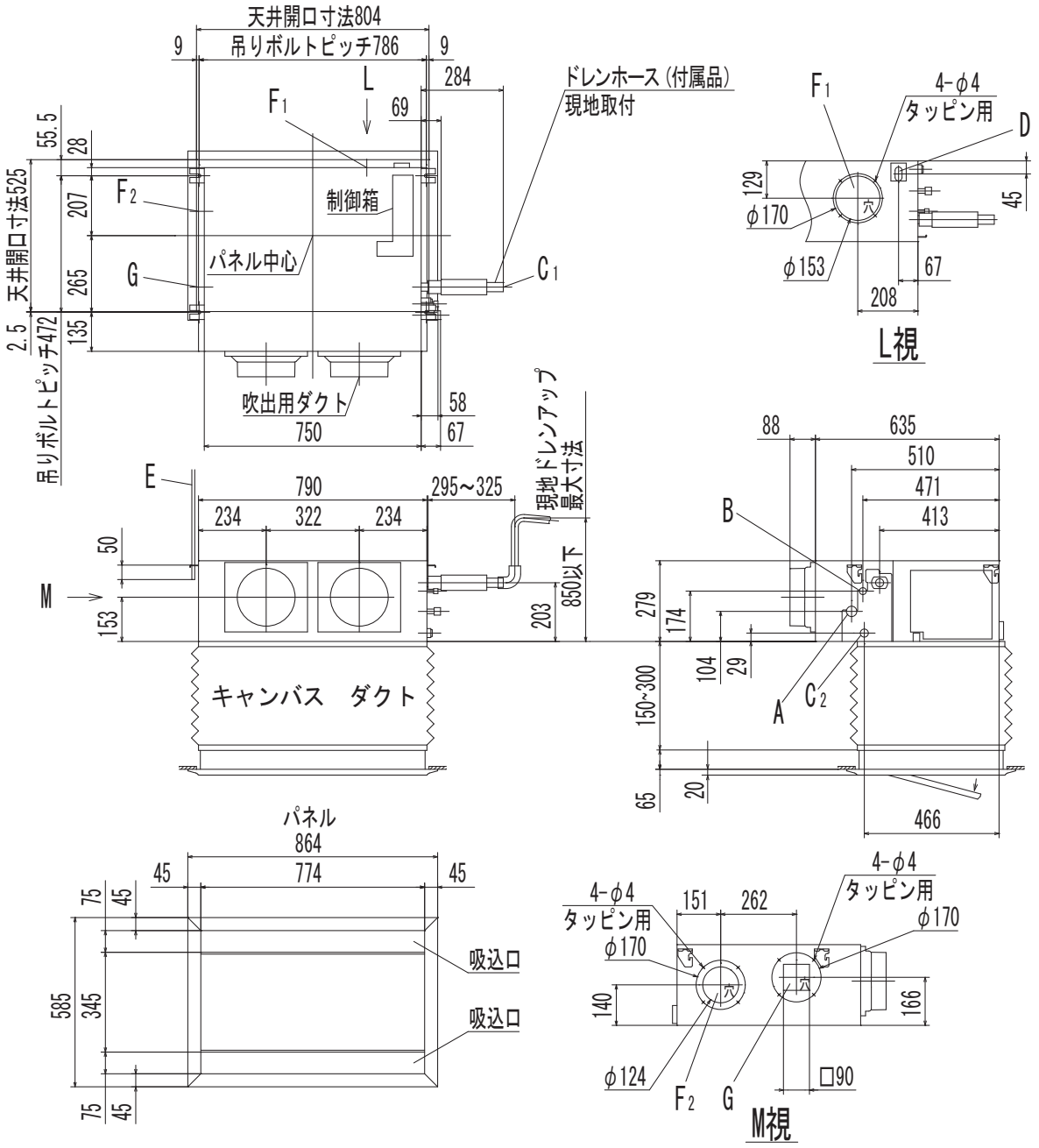
据付スペース



注（1）装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z496

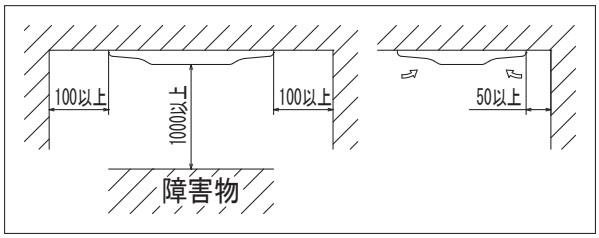
FDRP285, 365, 455, 565LXA　キャンバスパネル(品番：R－PNC－2AW)使用の場合



●記号説明

記号	内容		
	機種	P28	P36, 45, 56
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 (フレア)	φ12.7 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35 (フレア)	
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)	
C_2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)	
D	電源取入口		
E	吊りボルト	M10	
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト	
F_2		φ125用ノックアウト	
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト	

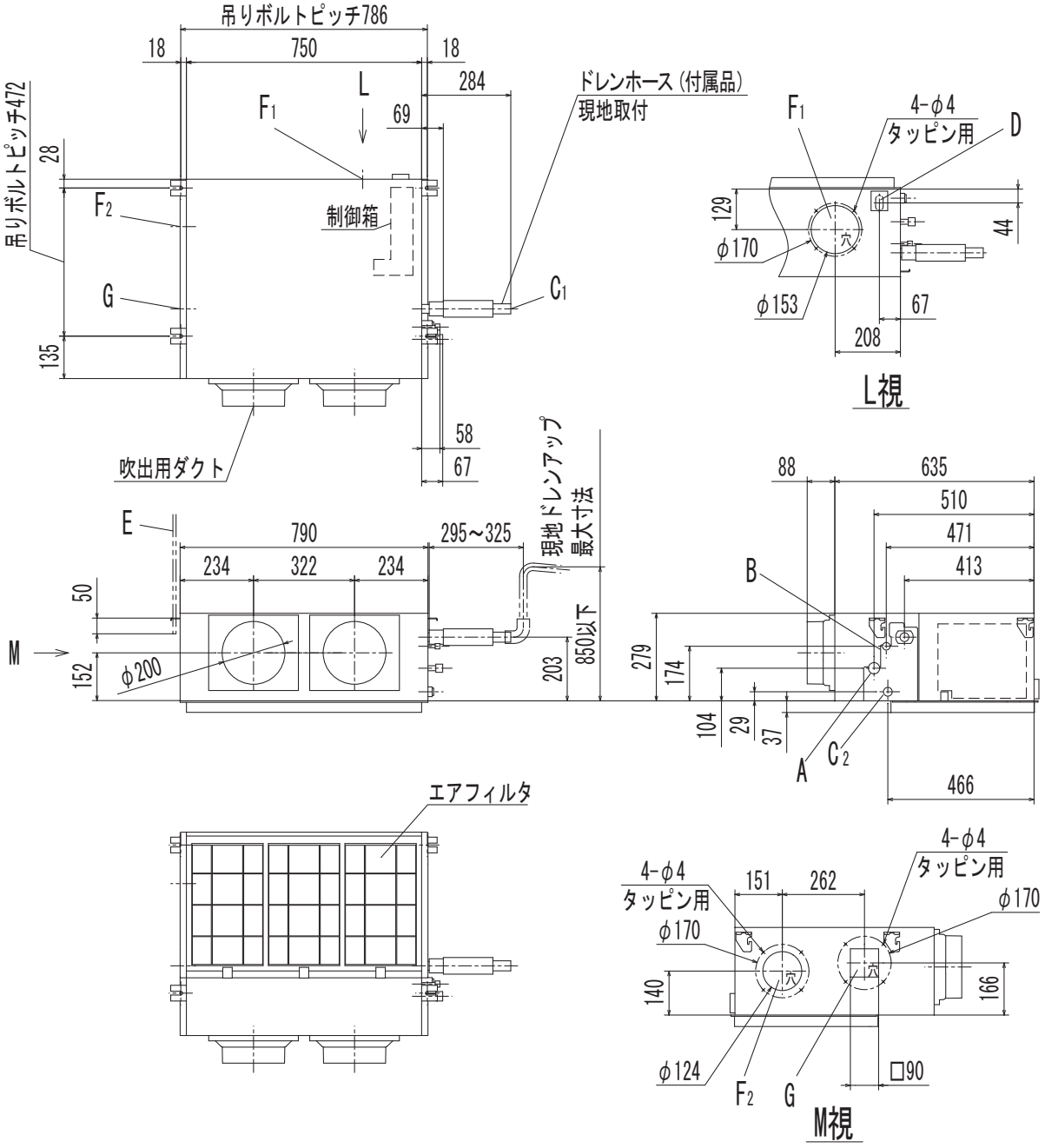
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z500

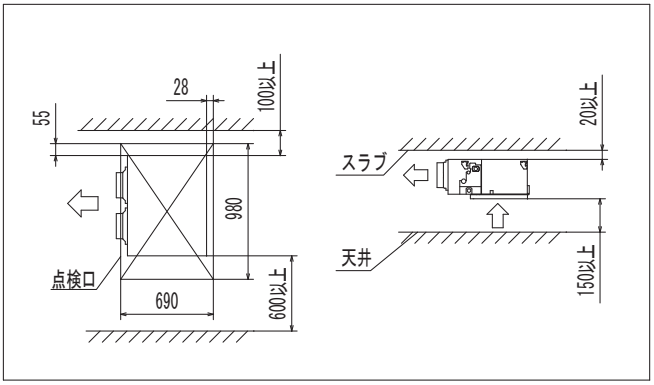
FDRP285, 365, 455, 565LXA　天井リターン変換キット(品番：R−FL−2A)使用の場合



●記号説明

記 号	内 容		
	機 種	P28	P36, 45, 56
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 (フレア)	φ12.7 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35 (フレア)	
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)	
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)	
D	電源取入口		
E	吊りボルト	M10	
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト	
F2		φ125用ノックアウト	
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト	

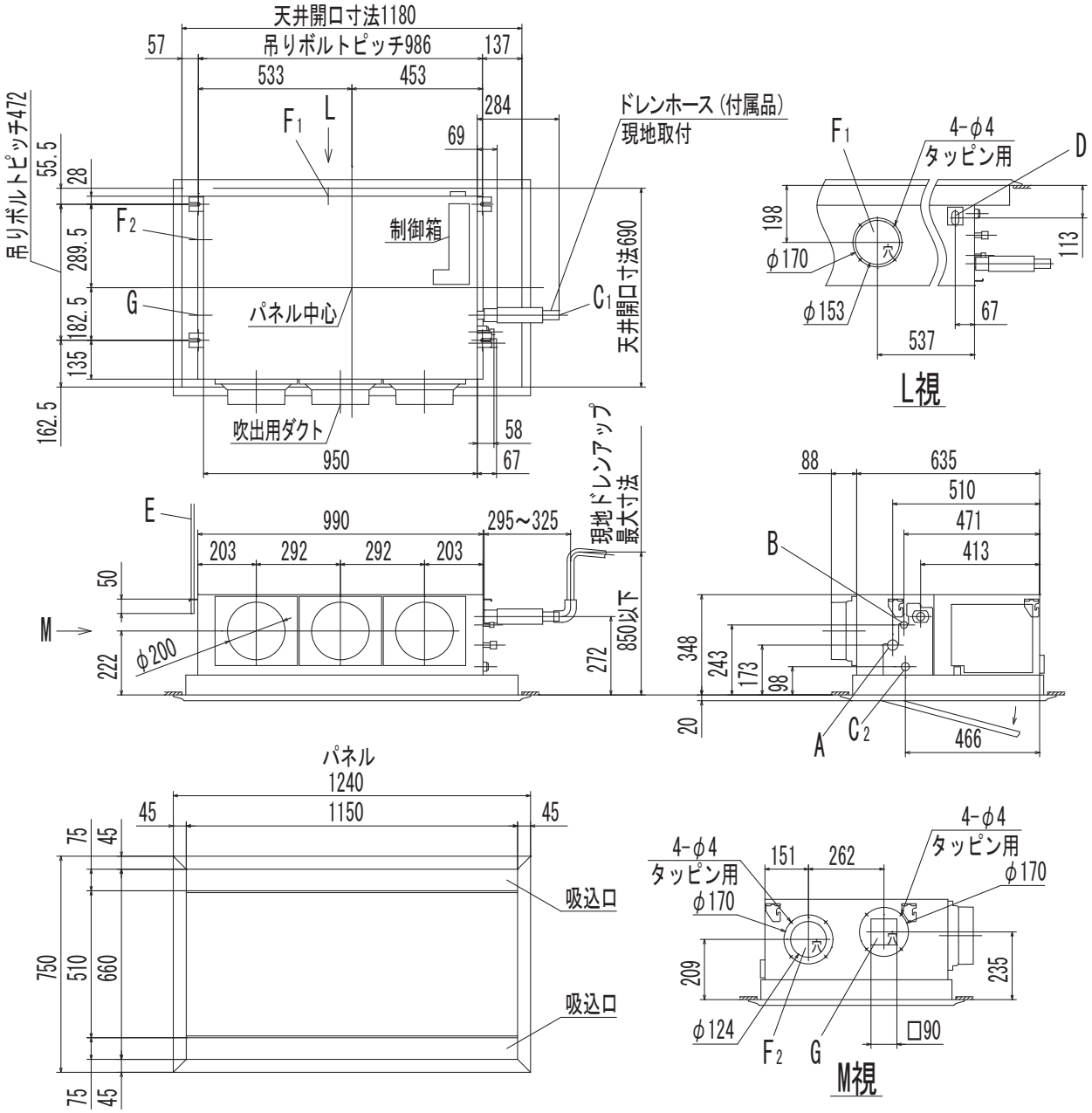
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z504

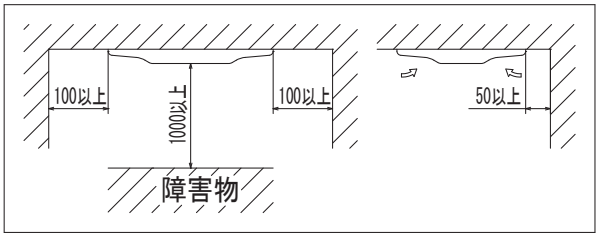
FDRP715, 805, 905LXA　サイレントパネル(品番：R－PNS－3AW)使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)
C_2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

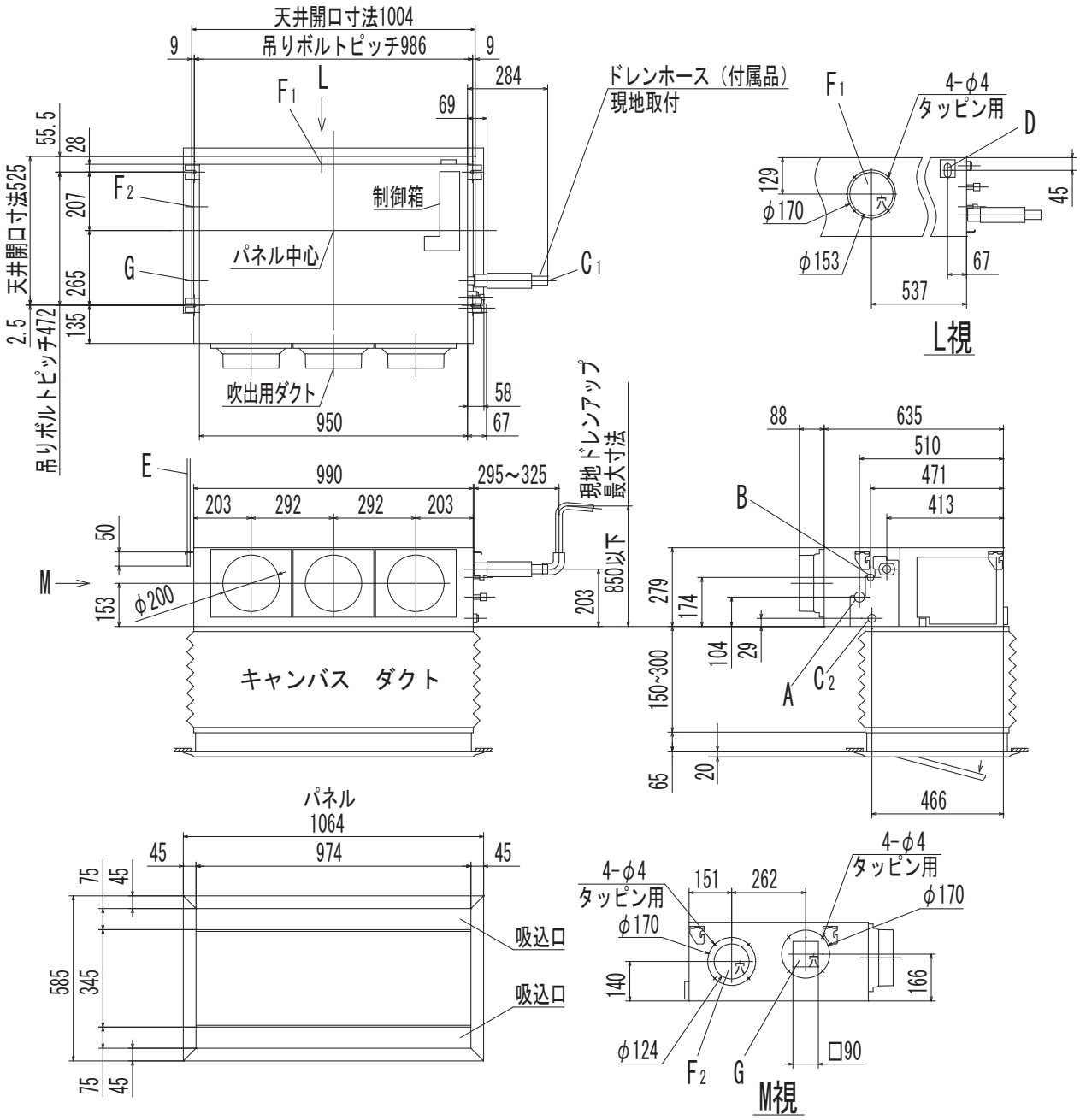
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z497

FDRP715, 805, 905LXA　キャンバスパネル(品番：R－PNC－3AW)使用の場合



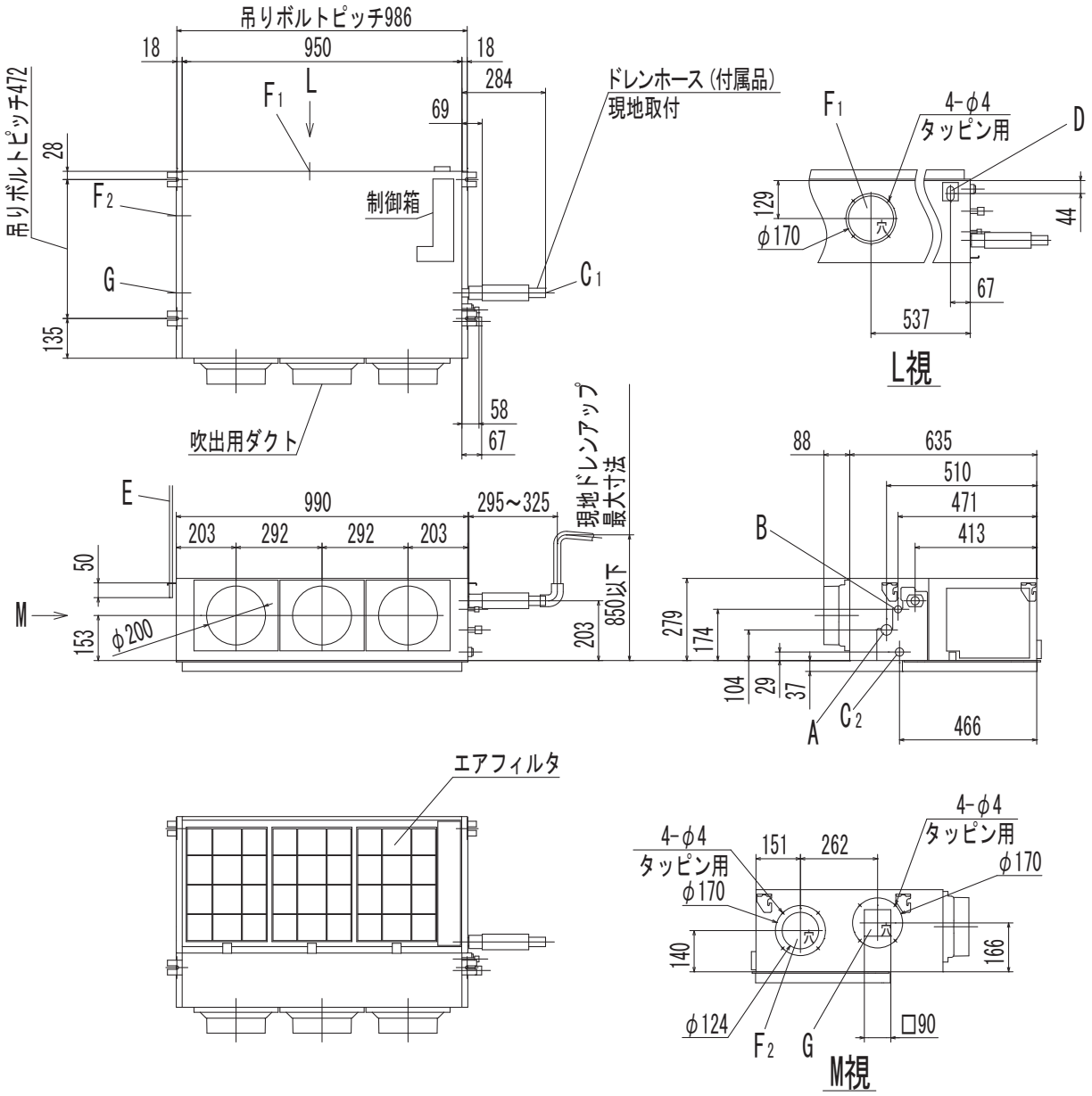
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 （フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52 （フレア）
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)
C_2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z501

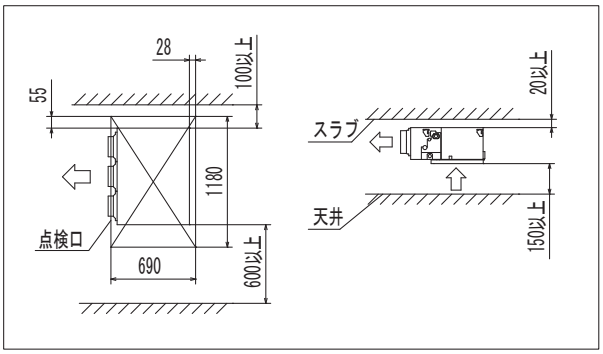
FDRP715, 805, 905LXA　天井リターン変換キット(品番：R－FL－3A)使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88　(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52　(フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

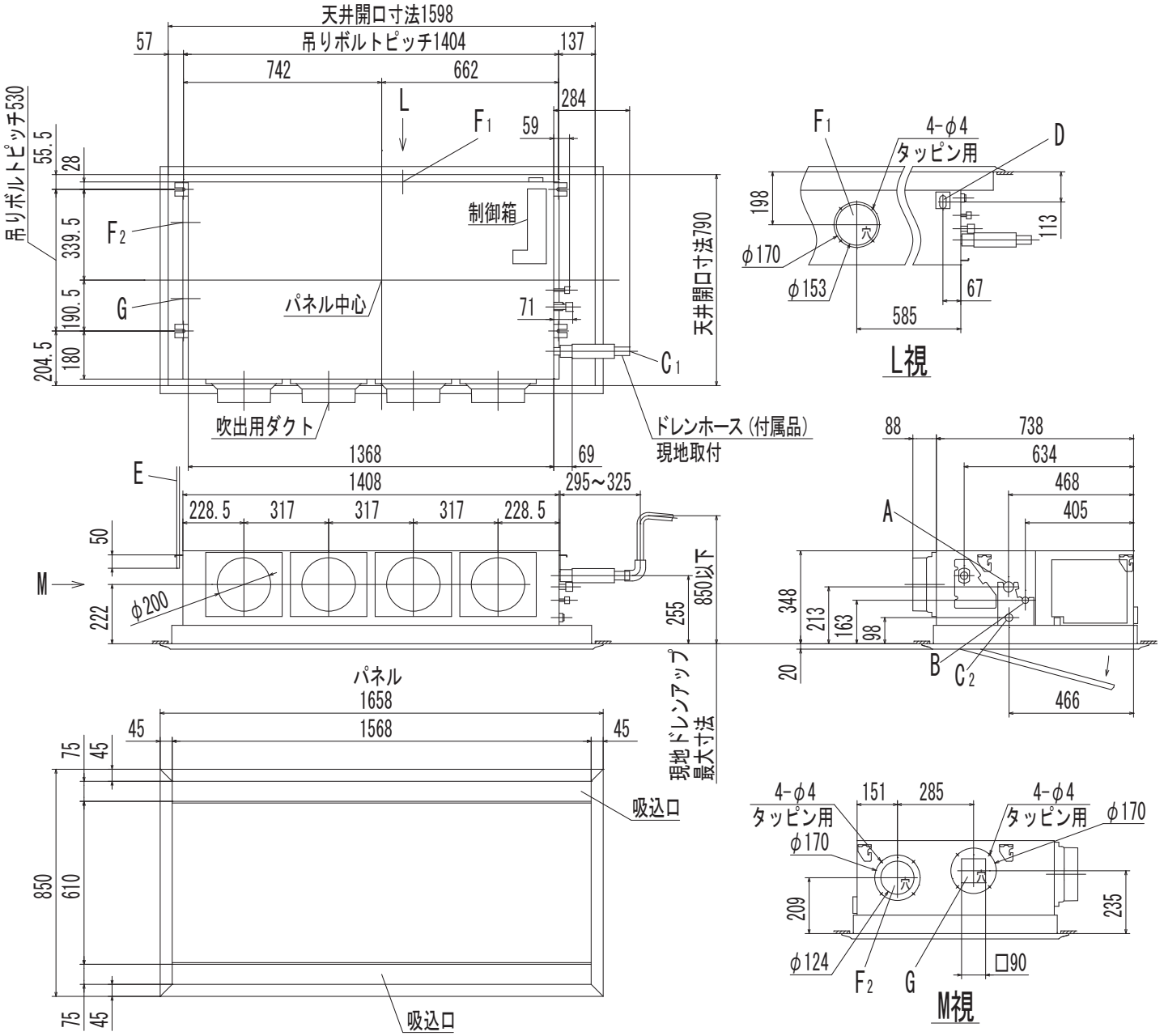
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z505

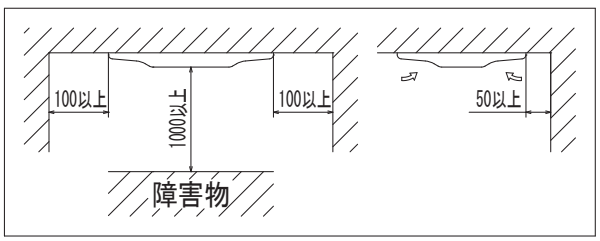
FDRP1125, 1405LXA　サイレントパネル(品番：R－PNS－4AW)使用の場合



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)
C_2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F_1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F_2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

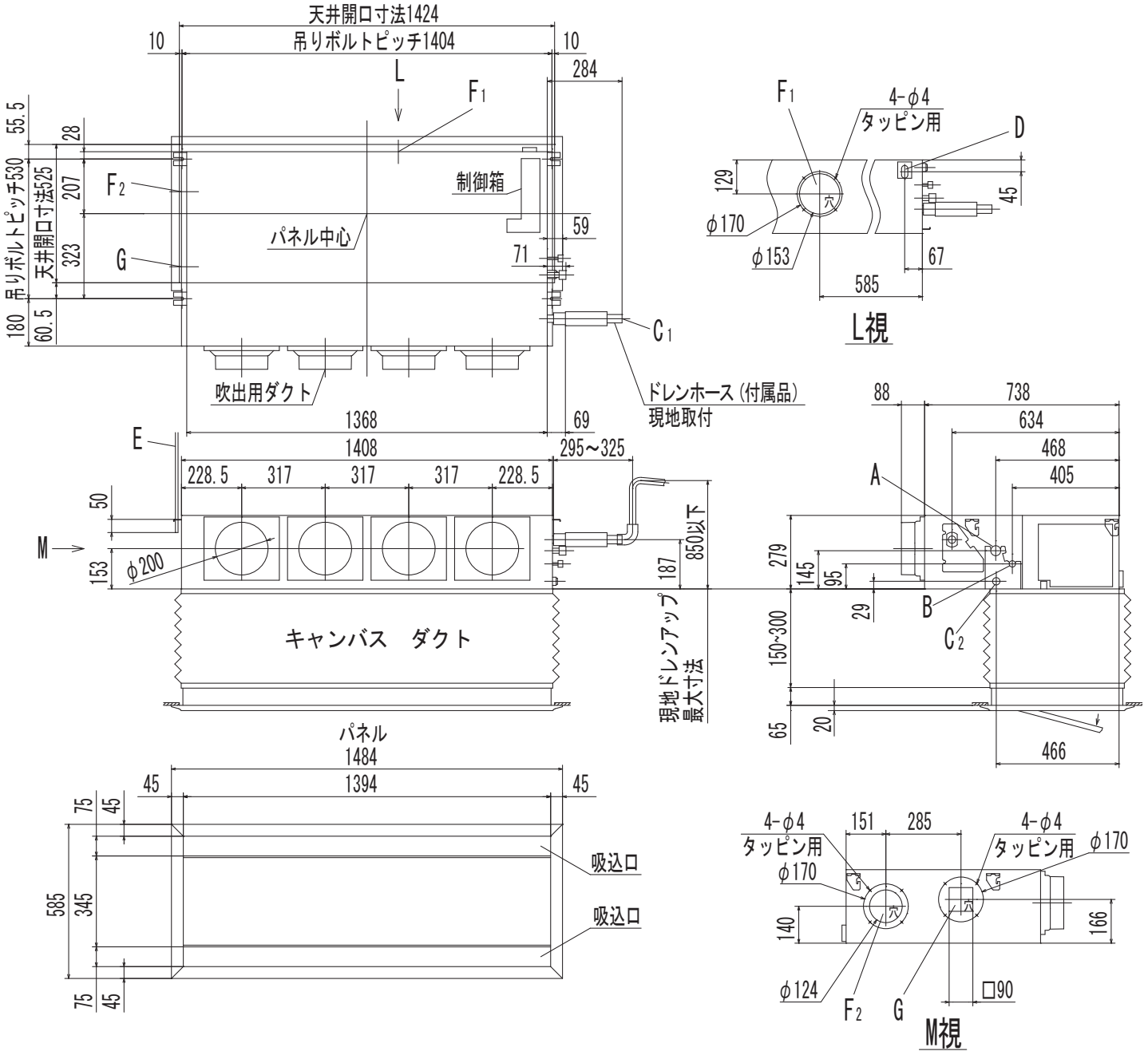
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z498

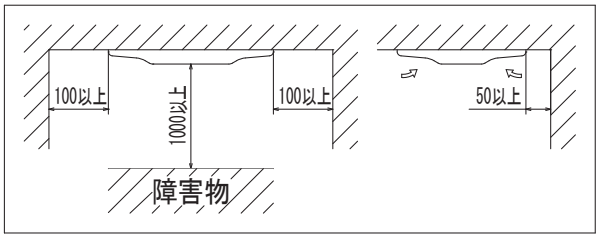
FDRP1125, 1405LXA　キャンバスパネル(品番：R－PNC－4AW)使用の場合



●記号説明

記 号	内 容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

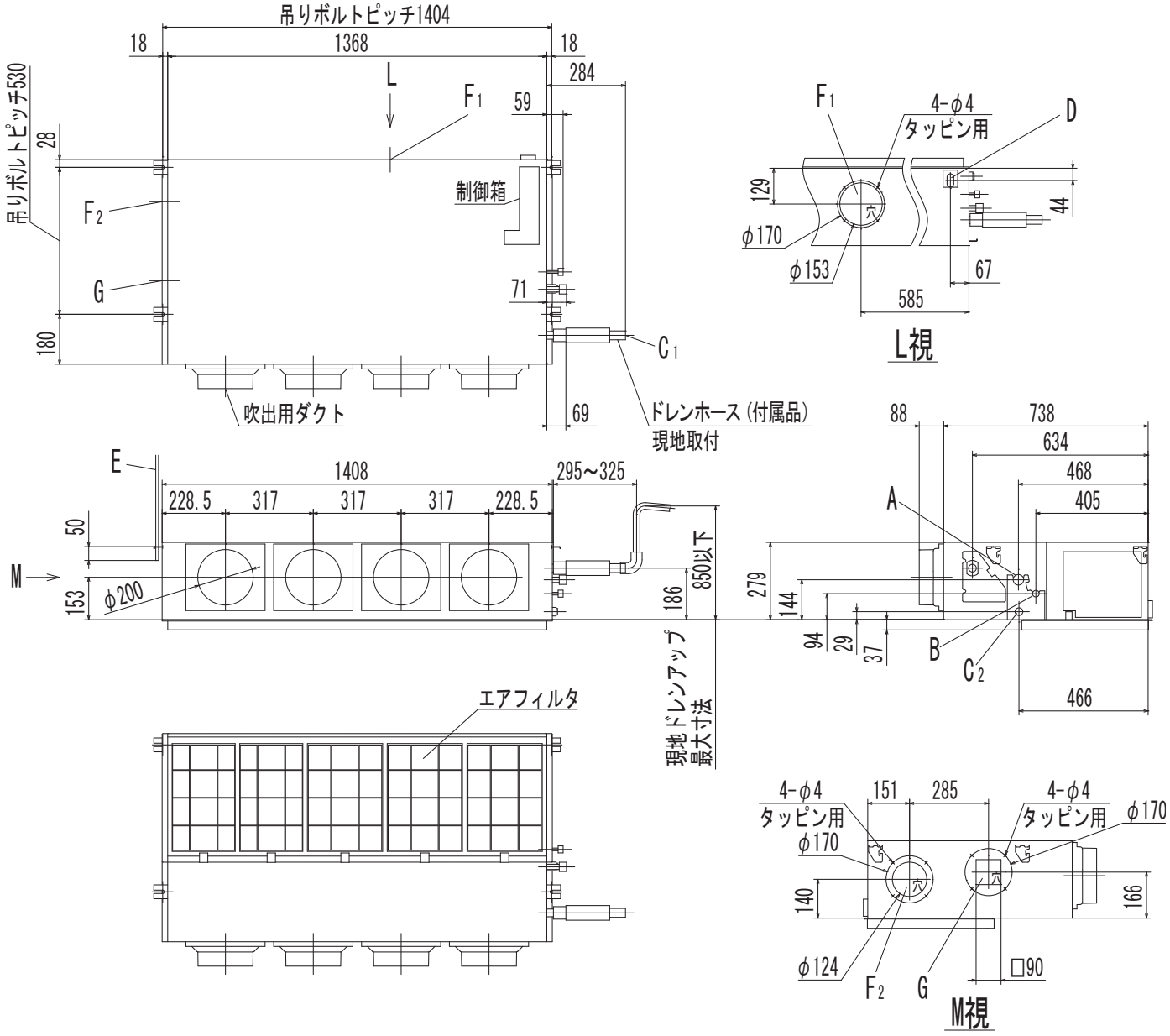
据付スペース



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z502

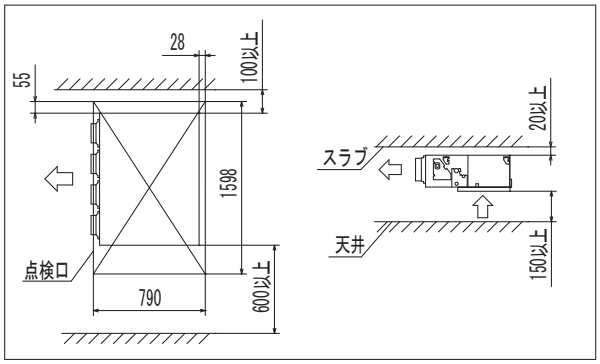
FDRP1125, 1405LXA　天井リターン変換キット(品番：R－FL－4A)使用の場合



●記号説明

記 号	内 容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25, O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20, O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F1	OA取入口	φ150用ノックアウト
F2		φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト

据付スペース



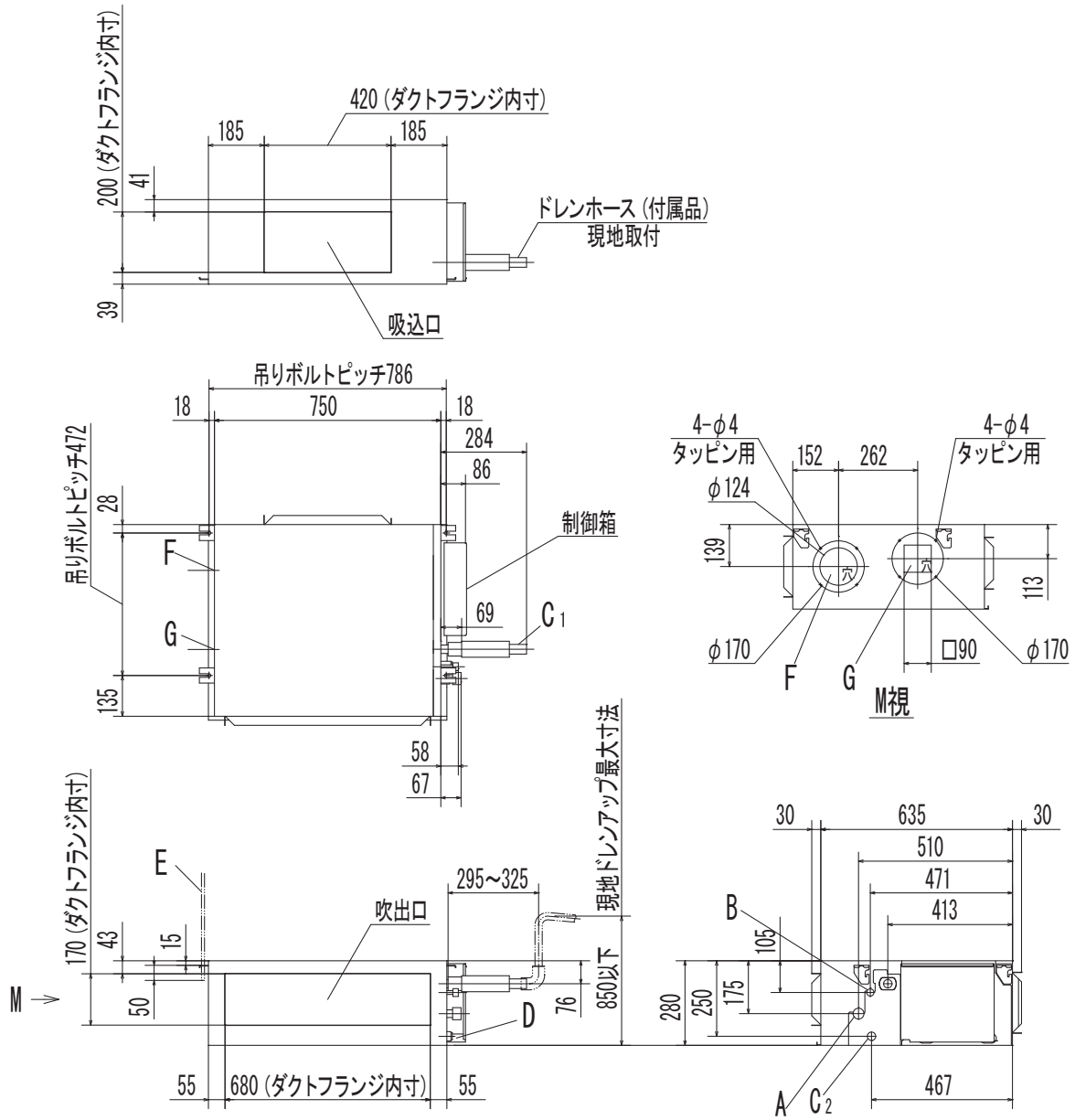
注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z506

(6) 高静圧ダクト形（FDU）

1) 標準仕様

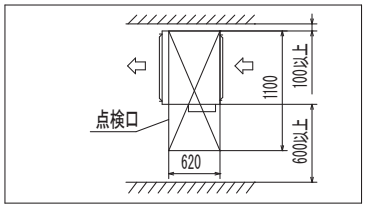
FDUP225, 285, 365, 455, 565LXA



●記号説明

記 号	内 容		
	機 種	P22,28	P36,45,56
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 (フレア)	φ12.7 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35 (フレア)	
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)	
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20,O.D.26)	
D	電源取入口		
E	吊りボルト	M10	
F	OA取入口	φ125用ノックアウト	
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト	
H	点検口	450×450	

(ケース2) ユニット下面から



室内ユニット据付スペース

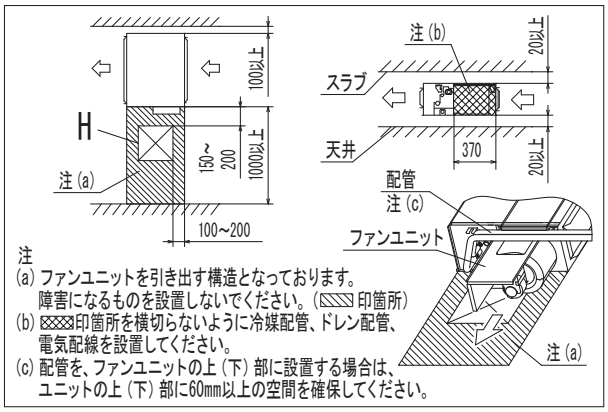
必ず吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。

吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。

また、据付高さは2.5m以上としてください。

据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

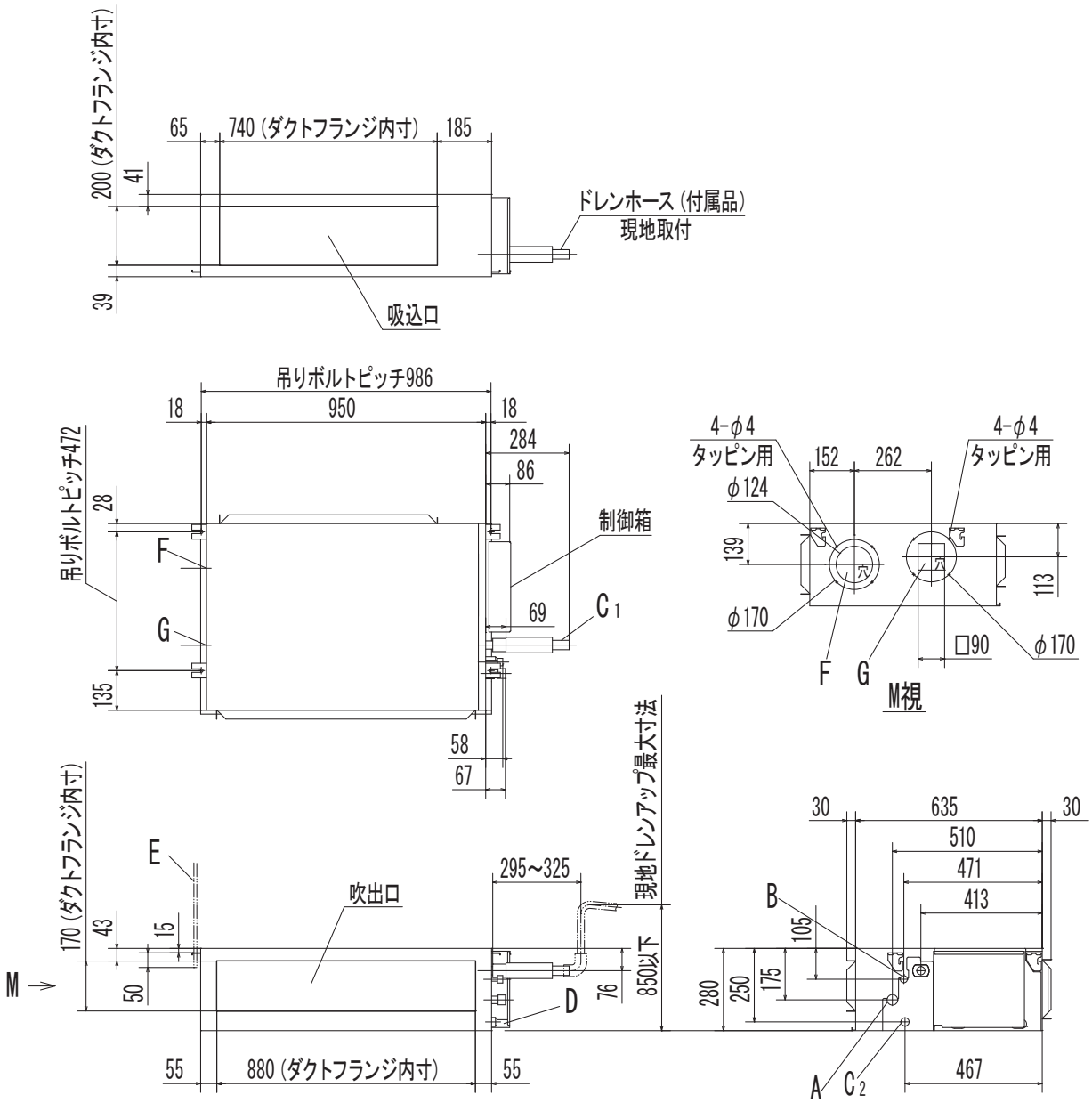
(ケース1) ユニット側面から



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z531 A

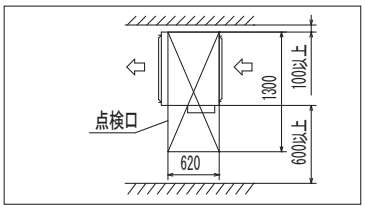
FDUP715, 805, 905LXA



●記号説明

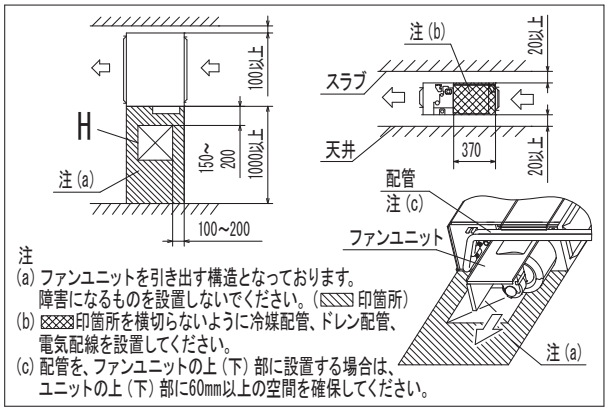
記 号	内 容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)
C2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

(ケース2) ユニット下面から



室内ユニット据付スペース

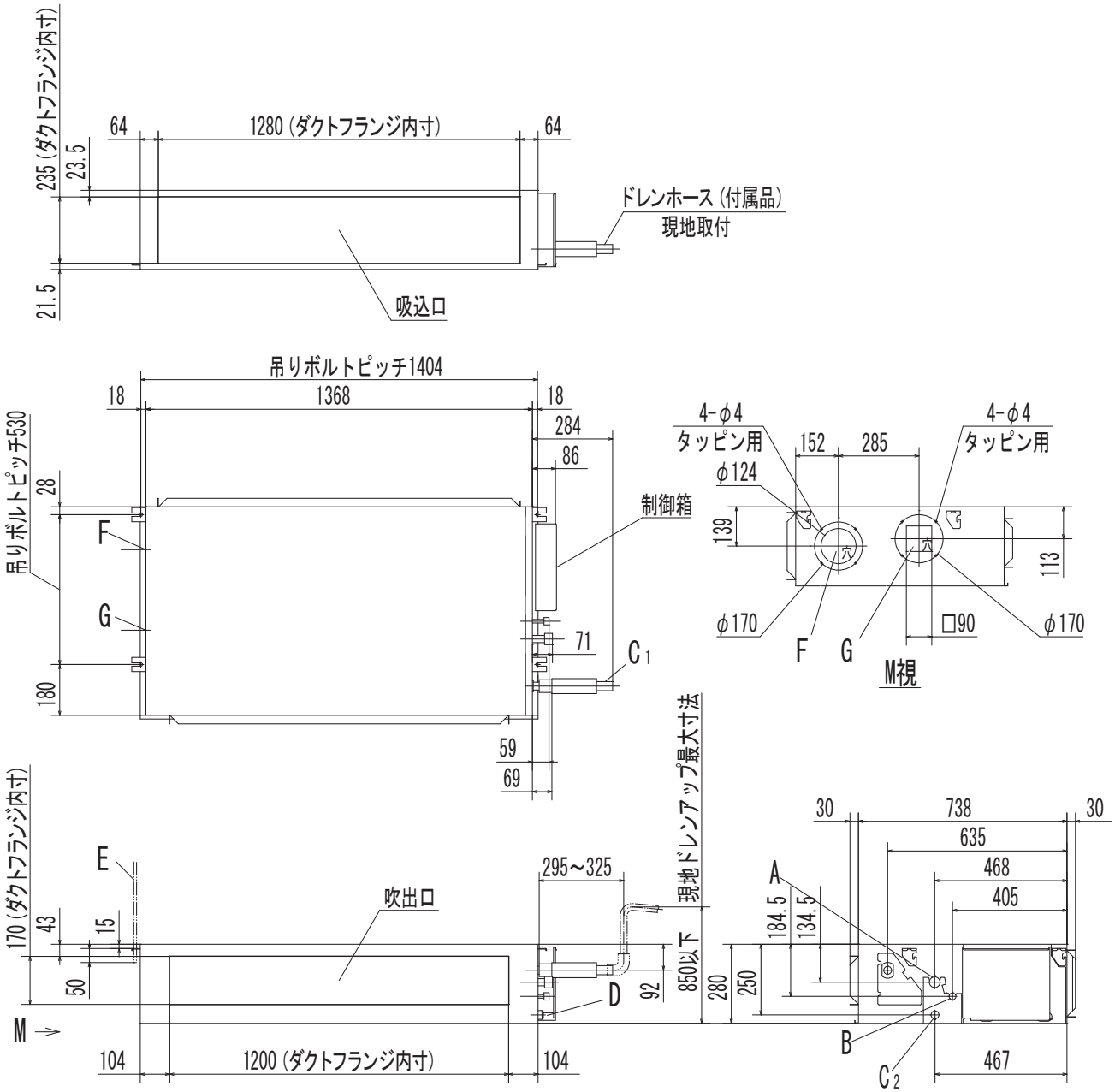
必ず吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。
(ケース1) ユニット側面から



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z532 A

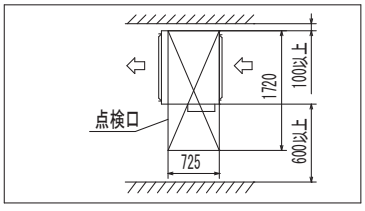
FDUP1125, 1405, 1605LXA



●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)
C_2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

(ケース2) ユニット下面から



室内ユニット据付スペース

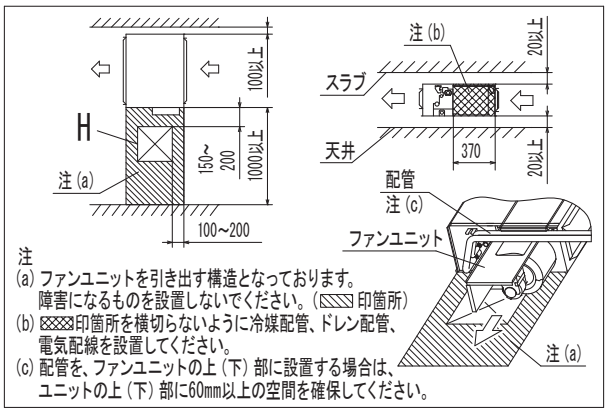
必ず吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。

吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。

また、据付高さは2.5m以上としてください。

据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

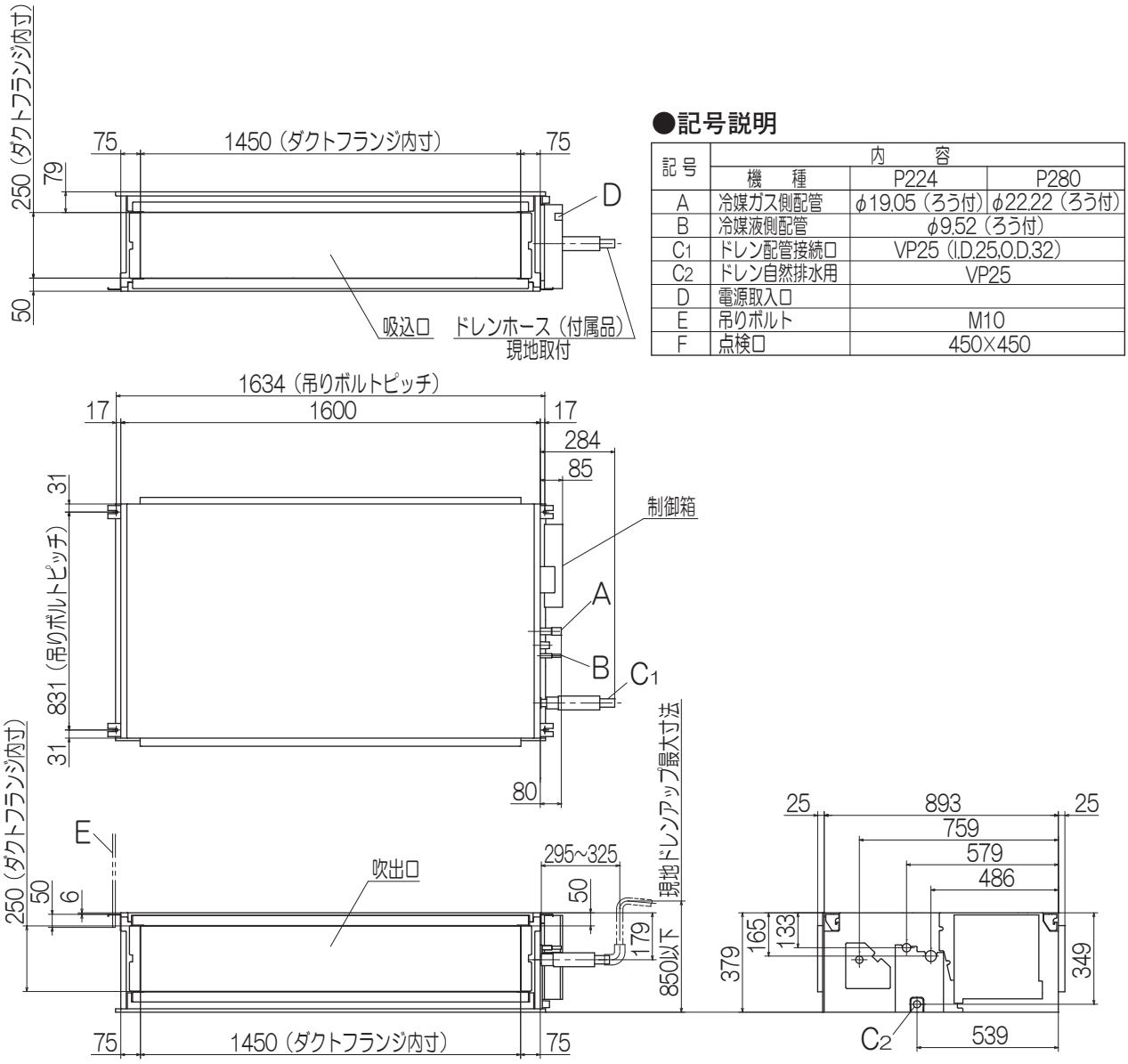
(ケース1) ユニット側面から



注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z533Ⓐ

FDUP2245LXA，2805LXA



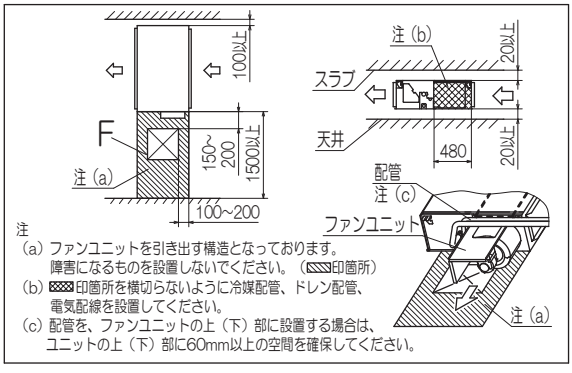
●記号説明

記号	内容		
	機種	P224	P280
A	冷媒ガス側配管	φ19.05（ろう付）	φ22.22（ろう付）
B	冷媒液側配管	φ9.52（ろう付）	
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）	
C_2	ドレン自然排水用	VP25	
D	電源取入口		
E	吊りボルト	M10	
F	点検口	450×450	

室内ユニット据付スペース

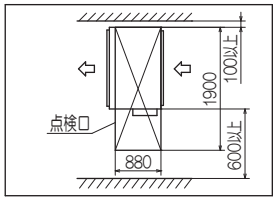
吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

（ケース1） ユニット側面から



注
（a）ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。（▨印箇所）
（b）▩印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設置してください。
（c）配管を、ファンユニットの上（下）部に設置する場合は、ユニットの上（下）部に60mm以上の空間を確保してください。

（ケース2） ユニット下面から



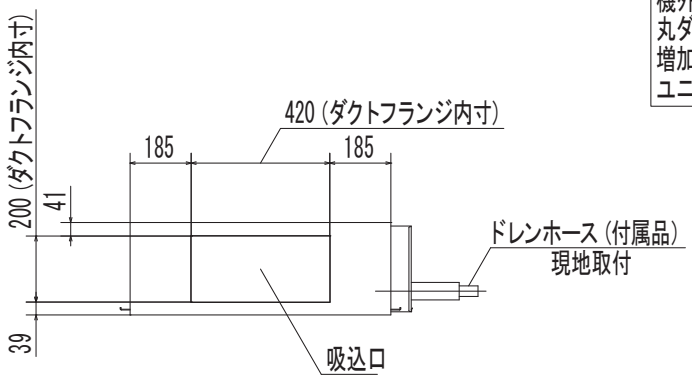
注
（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

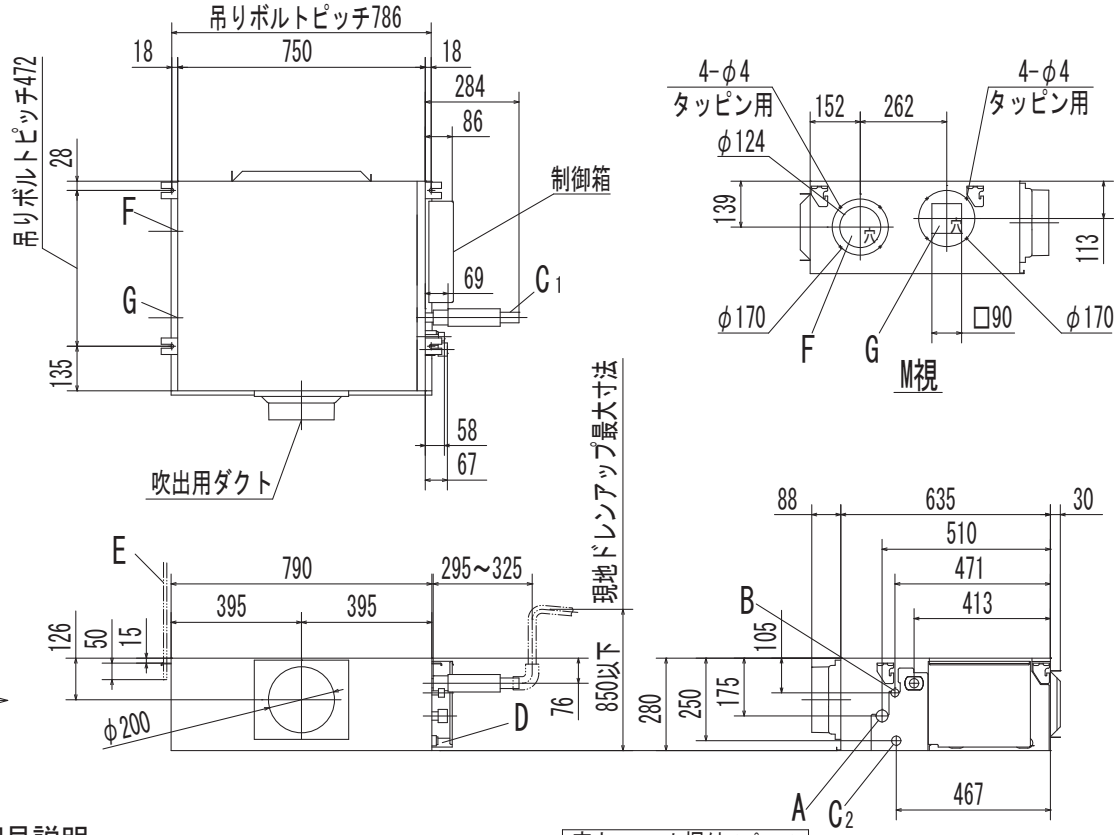
PJG000Z624

2） 丸ダクト仕様

FDUP225LXA 丸ダクト変換キット（品番：U－UM－1A）使用の場合

機外静圧設定範囲は10～100Paとなります。
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が増加するため、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。
ユニット付属の据付説明書をご参照ください。

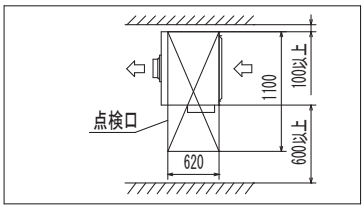




●記号説明

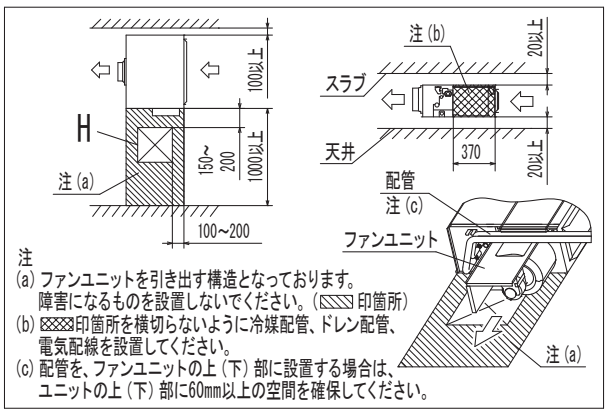
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 （フレア）
B	冷媒液側配管	φ6.35 （フレア）
C1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

（ケース2） ユニット下面から



室内ユニット据付スペース

必ず吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。
（ケース1） ユニット側面から



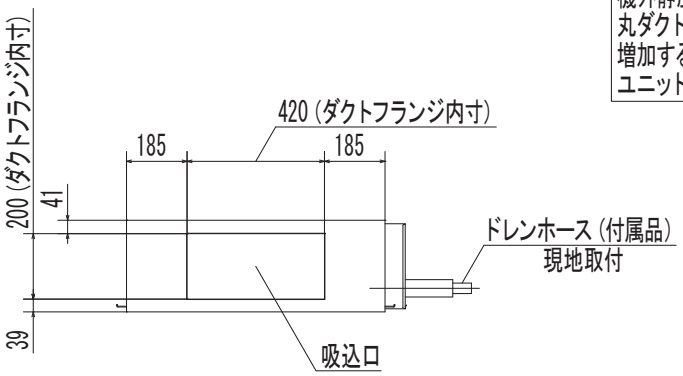
注
（a）ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。（▨ 印箇所）
（b）▩印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設置してください。
（c）配管を、ファンユニットの上（下）部に設置する場合は、ユニットの上（下）部に60㎜以上の空間を確保してください。

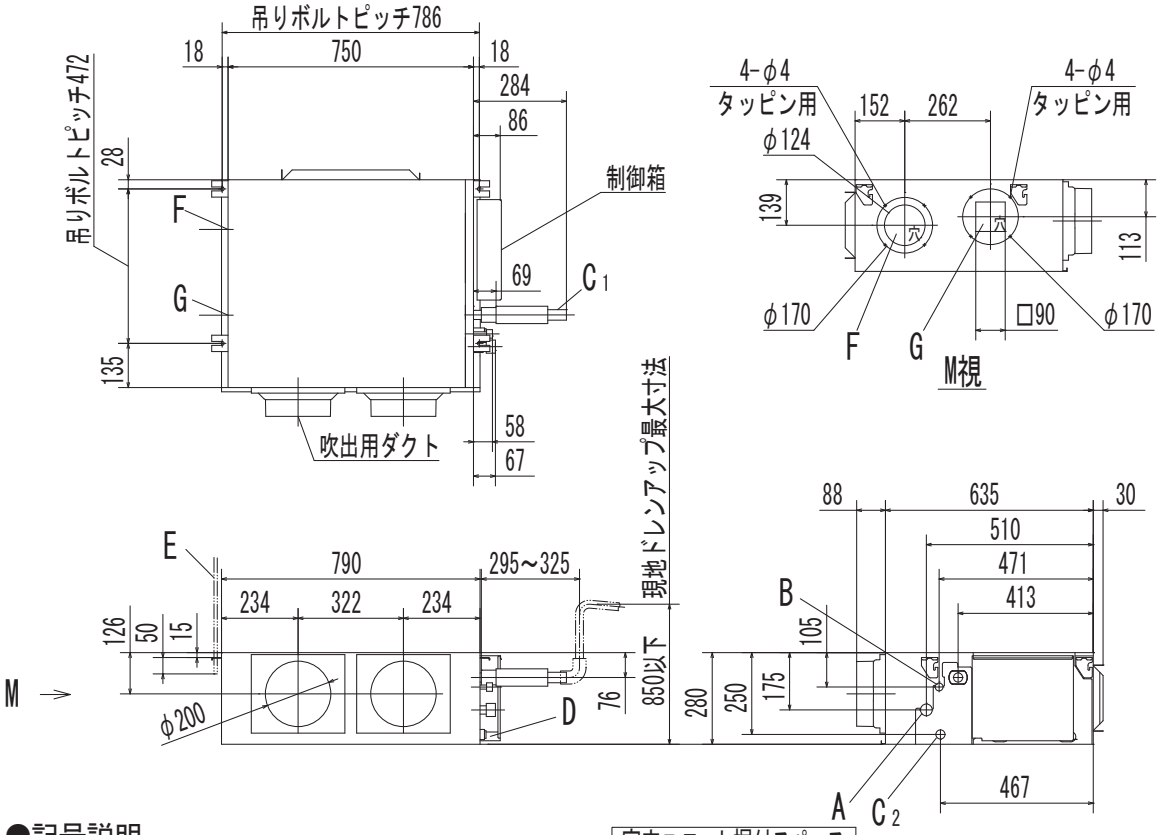
注（1）装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z534 A

FDUP285, 365, 455, 565LXA　丸ダクト変換キット(品番：U－UM－2A)使用の場合

機外静圧設定範囲は10～100Paとなります。
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が増加するため、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。
ユニット付属の据付説明書をご参照ください。

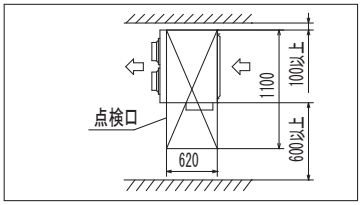




●記号説明

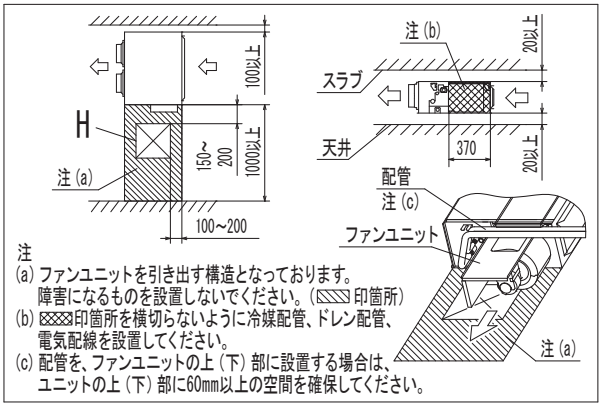
記 号	内 容		
	機 種	P28	P36, 45, 56
A	冷媒ガス側配管	φ9.52 (フレア)	φ12.7 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35 (フレア)	
C1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)	
C2	ドレン自然排水用	VP20	
D	電源取入口		
E	吊りボルト	M10	
F	OA取入口	φ125用ノックアウト	
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト	
H	点検口	450×450	

(ケース2)　ユニット下面から



室内ユニット据付スペース

必ず吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。
(ケース1)　ユニット側面から

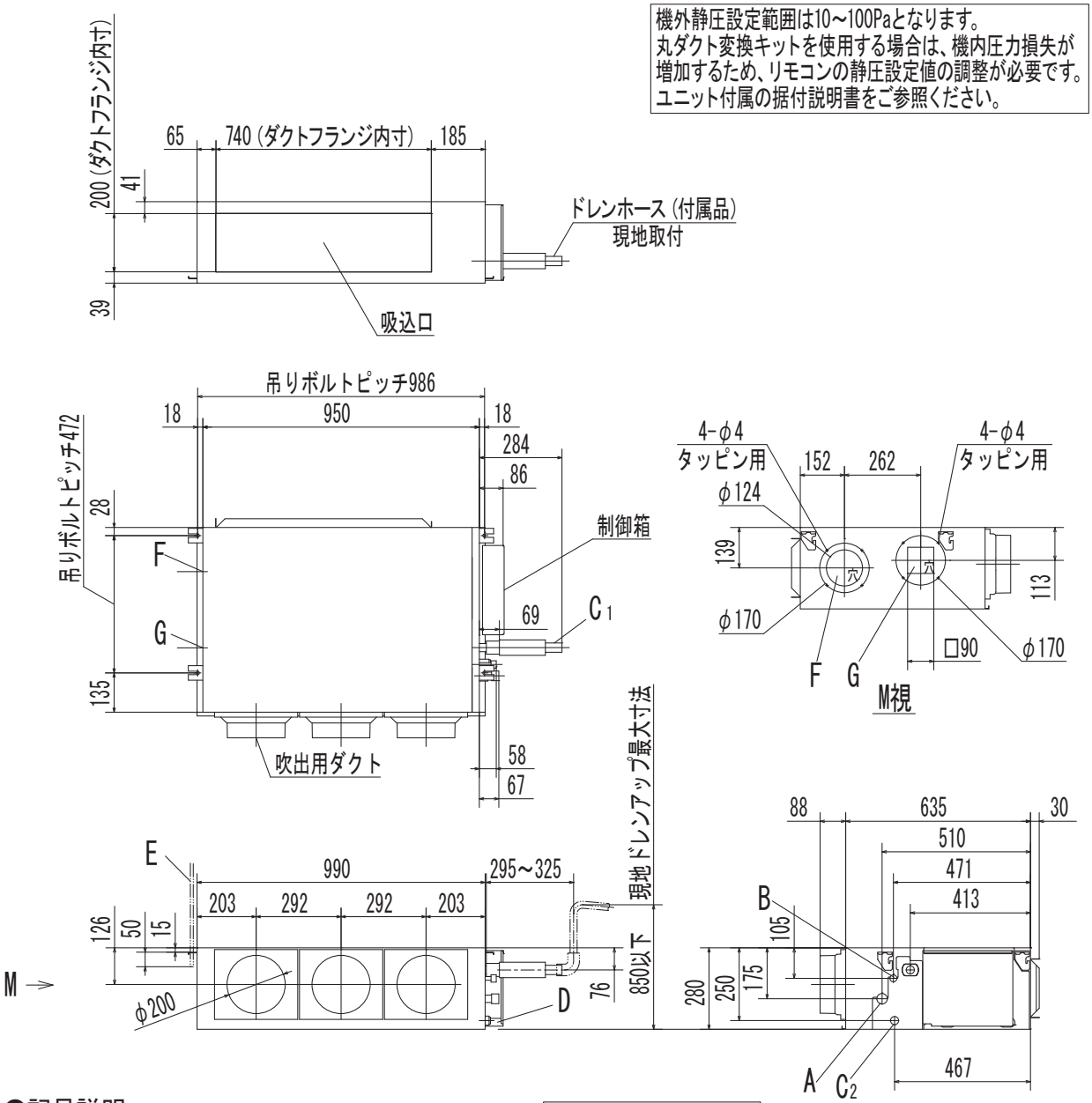


注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z535 A

FDUP715, 805, 905LXA　丸ダクト変換キット（品番：U－UM－3A）使用の場合

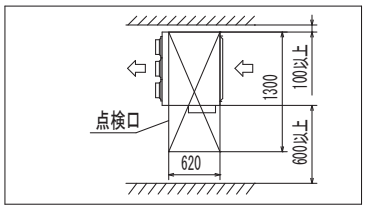
機外静圧設定範囲は10～100Paとなります。
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が増加するため、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。
ユニット付属の据付説明書をご参照ください。



●記号説明

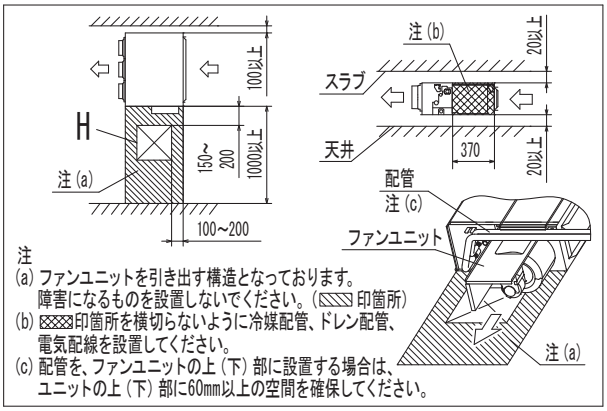
記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88　（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52　（フレア）
C1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C2	ドレン自然排水用	VP20（I.D.20,O.D.26）
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

（ケース2）　ユニット下面から



室内ユニット据付スペース

必ず吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。
（ケース1）　ユニット側面から

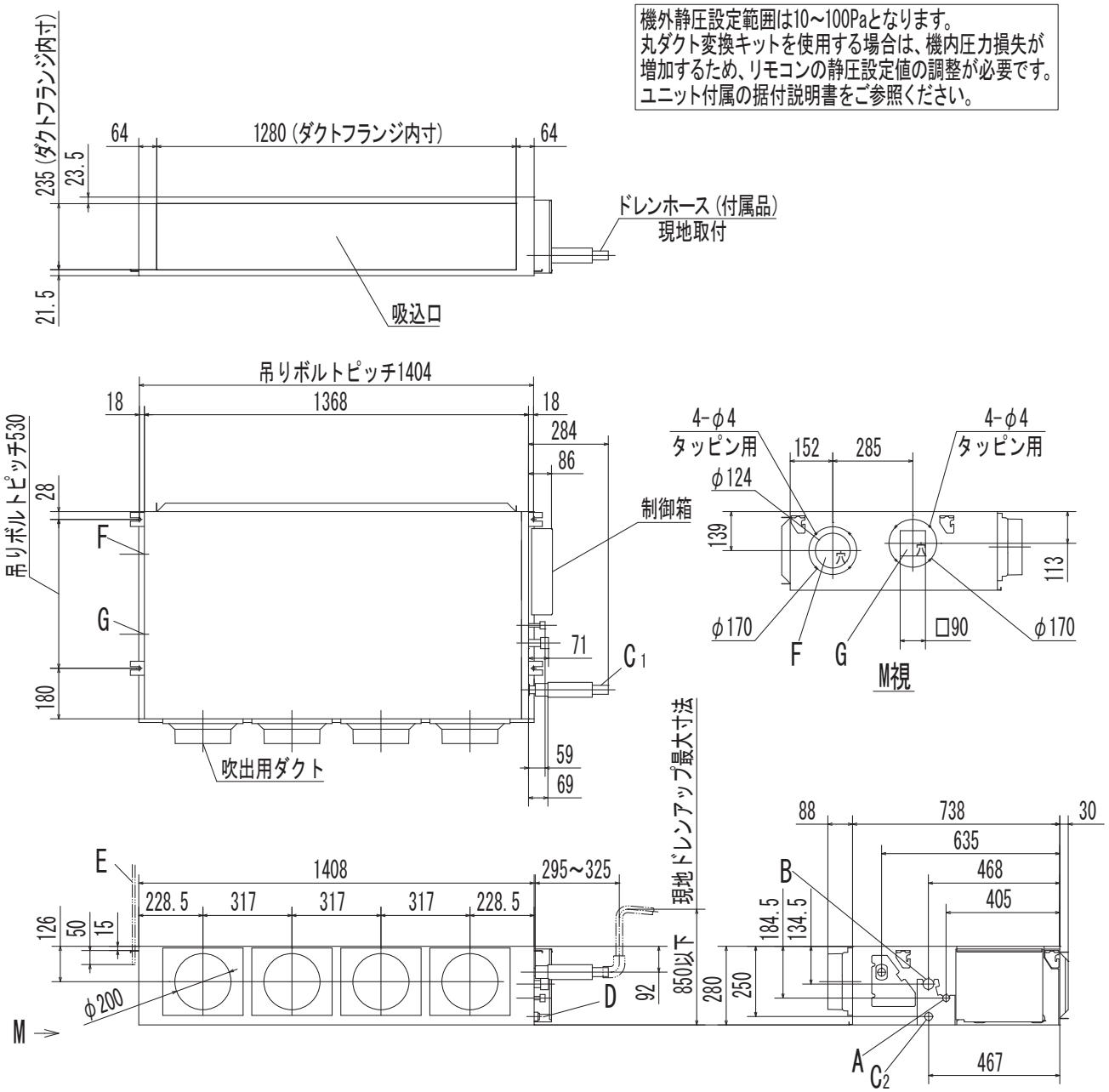


注（1）装置銘板は制御箱蓋に付いています。

PJG000Z536Ⓐ

FDUP1125, 1405, 1605LXA　丸ダクト変換キット(品番：U－UM－4A)使用の場合

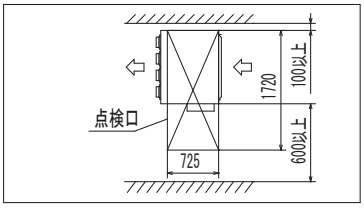
機外静圧設定範囲は10～100Paとなります。
丸ダクト変換キットを使用する場合は、機内圧力損失が増加するため、リモコンの静圧設定値の調整が必要です。
ユニット付属の据付説明書をご参照ください。



●記号説明

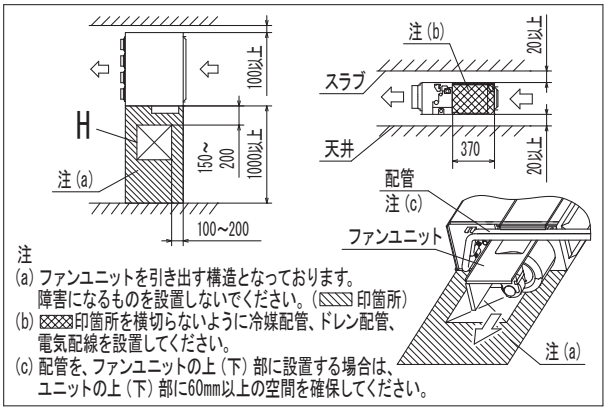
記 号	内 容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88　(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52　(フレア)
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)
C_2	ドレン自然排水用	VP20 (I.D.20,O.D.26)
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

(ケース2)　ユニット下面から



室内ユニット据付スペース

必ず吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。
(ケース1)　ユニット側面から



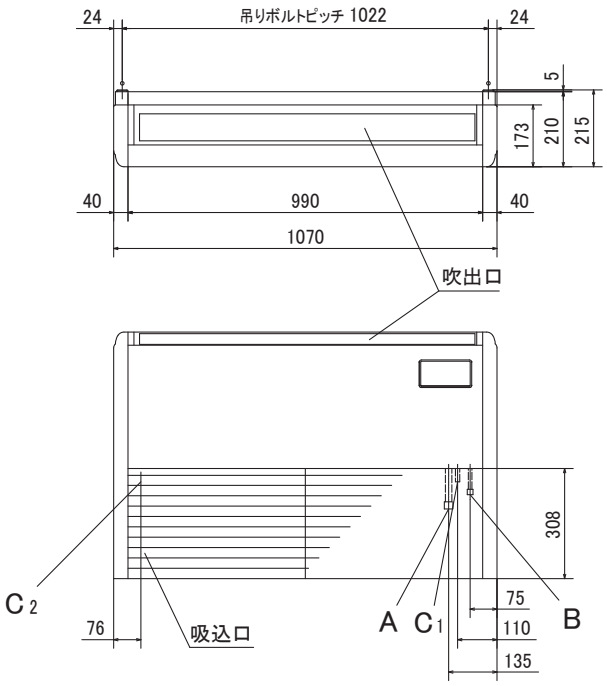
注
(a) ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。(▨ 印箇所)
(b) ▨印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設置してください。
(c) 配管を、ファンユニットの上 (下) 部に設置する場合は、ユニットの上 (下) 部に60mm以上の空間を確保してください。

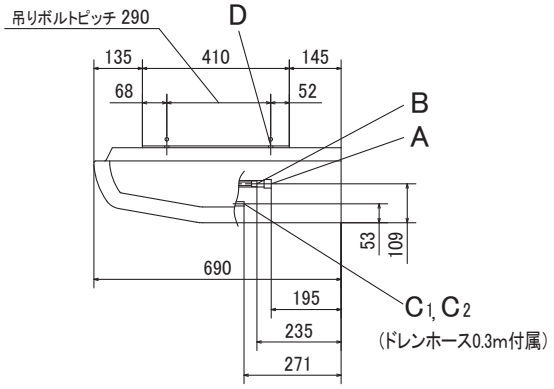
注 (1) 装置銘板は制御箱蓋に付いています。

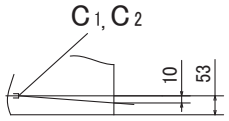
PJG000Z537 A

(7) 天吊形（FDE）

FDEP365，455，565LXA



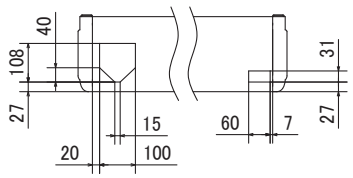




注）ドレンホースはユニット内で10mmの
ドレン勾配をとってください。

●記号説明

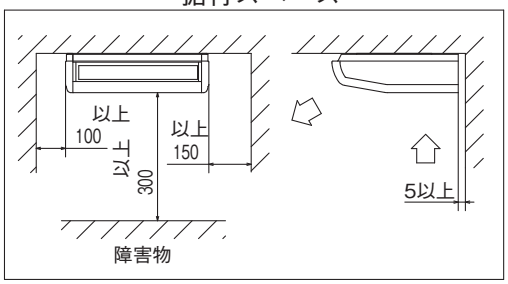
記号	内　容	
A	ガス配管接続口	φ12.7（フレア）
B	液配管接続口	φ6.35（フレア）
C 1,2	ドレン配管接続口	VP20（I.D.20.0.D.26）
D	吊りボルト用穴	M10
E	後抜き用穴	リッド
F	上抜き用穴	リッド
G	左後ろ抜きドレン用穴	ノックアウト



M 視

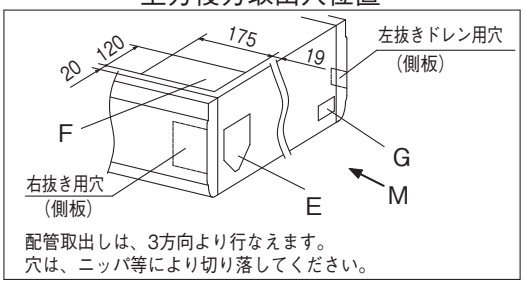
注（1） 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。

据付スペース



隣接設置の場合は,ユニット間を4000以上離してください。

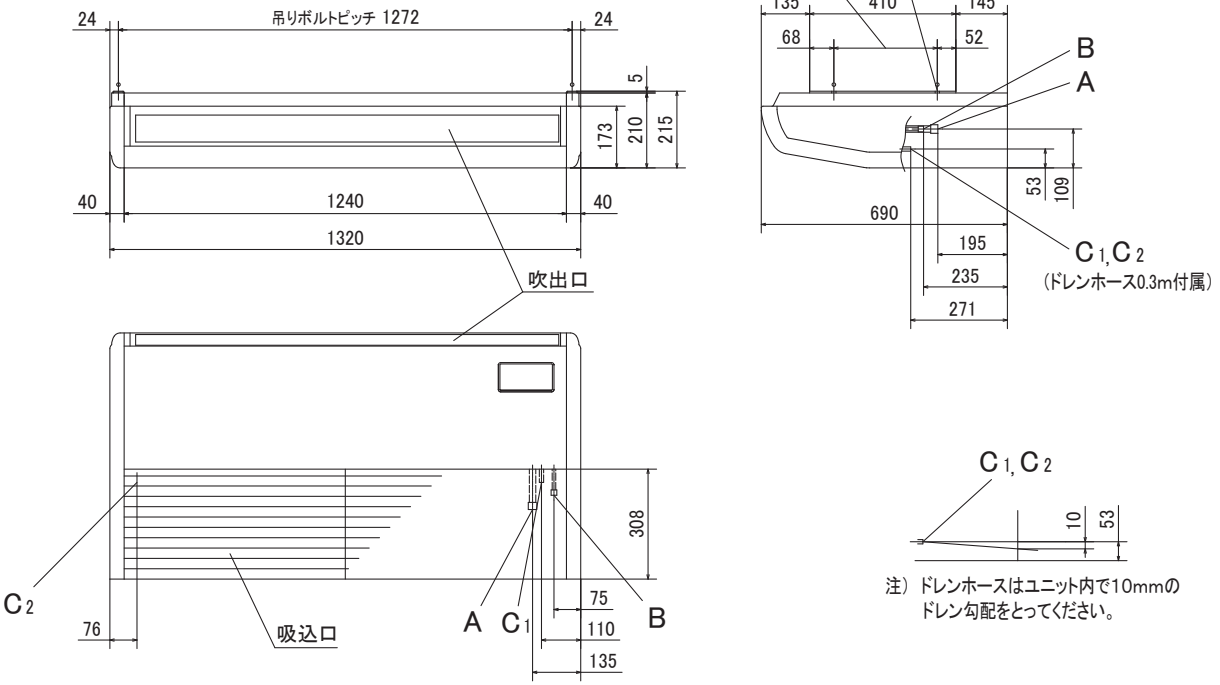
上方後方取出穴位置



配管取出しは、3方向より行なえます。
穴は、ニッパ等により切り落してください。

PFA004Z092

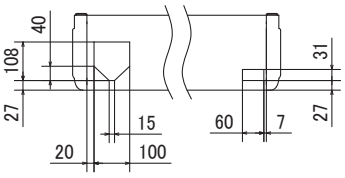
FDEP715，805，905LXA



注）ドレンホースはユニット内で10mmの
ドレン勾配をとってください。

●記号説明

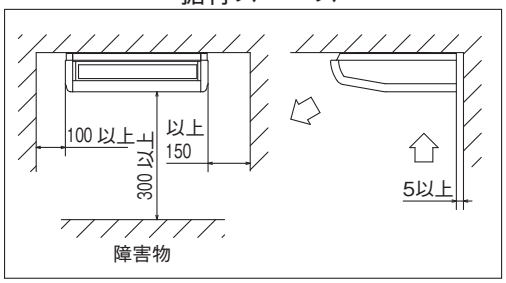
記号	内　容	
A	ガス配管接続口	φ15.88(フレア)
B	液配管接続口	φ9.52(フレア)
$C_{1,2}$	ドレン配管接続口	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	吊りボルト用穴	M10
E	後抜き用穴	リッド
F	上抜き用穴	リッド
G	左後ろ抜きドレン用穴	ノックアウト



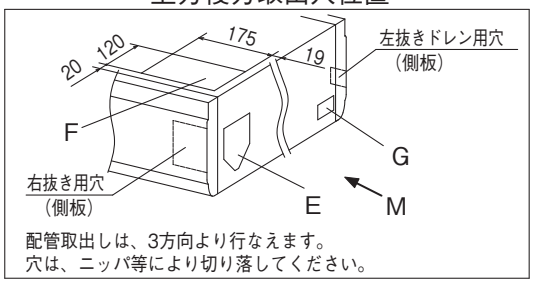
M 視

注（1） 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。

据付スペース



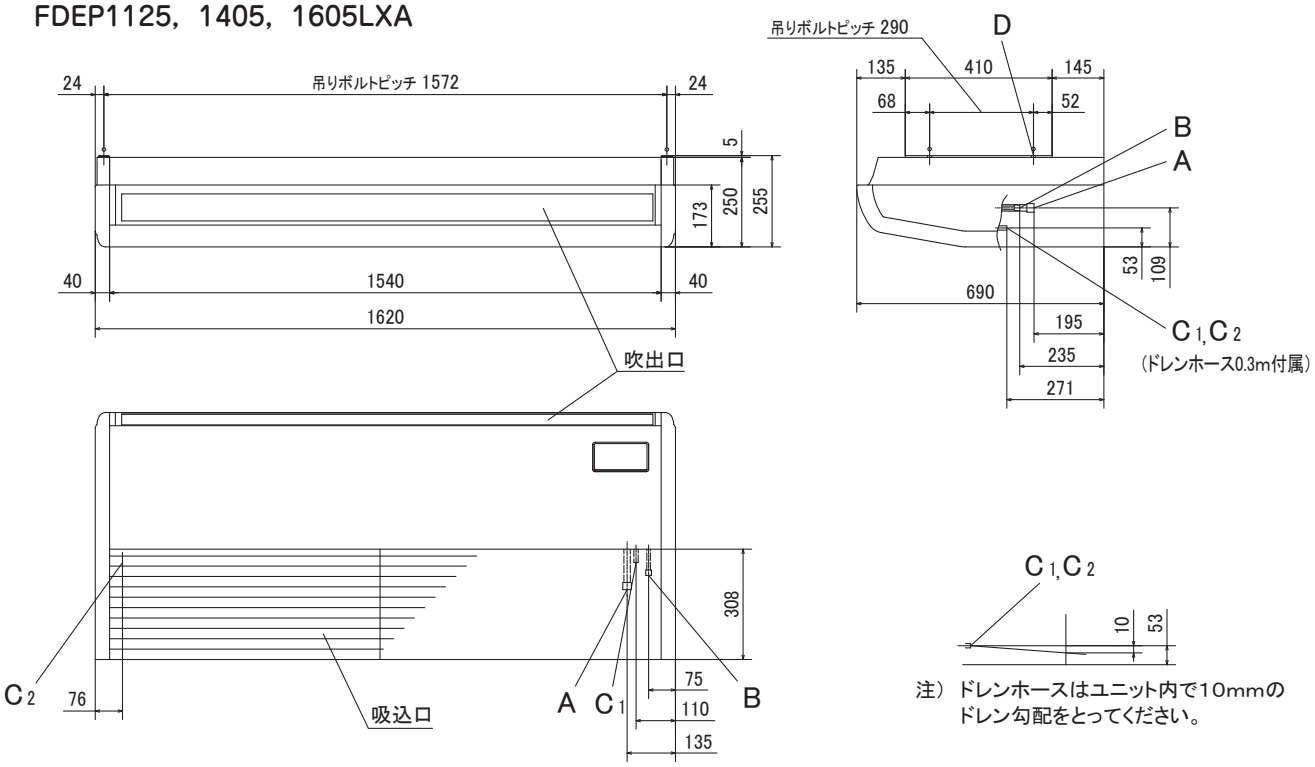
上方後方取出穴位置



隣接設置の場合は,ユニット間を4500以上離してください。

PFA004Z093

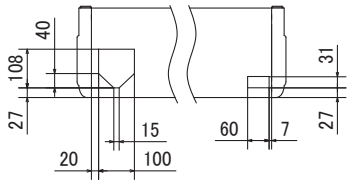
FDEP1125，1405，1605LXA



注）ドレンホースはユニット内で10mmの
ドレン勾配をとってください。

●記号説明

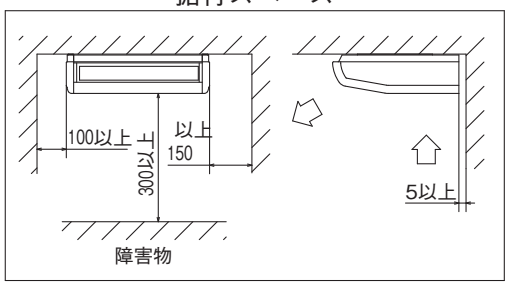
記号	内　容	
A	ガス配管接続口	φ15.88(フレア)
B	液配管接続口	φ9.52(フレア)
$C_{1,2}$	ドレン配管接続口	VP20(I.D.20,O.D.26)
D	吊りボルト用穴	M10
E	後抜き用穴	リッド
F	上抜き用穴	リッド
G	左後ろ抜きドレン用穴	ノックアウト



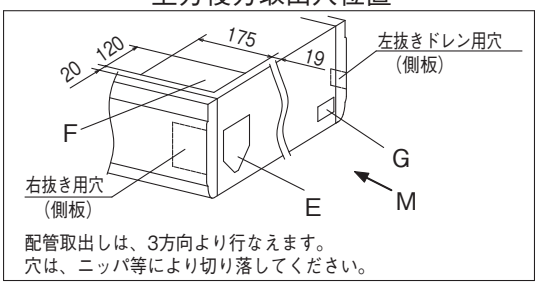
M 視

注（1） 装置銘板は吸込グリル内のファンケース正面についています。

据付スペース



上方後方取出穴位置



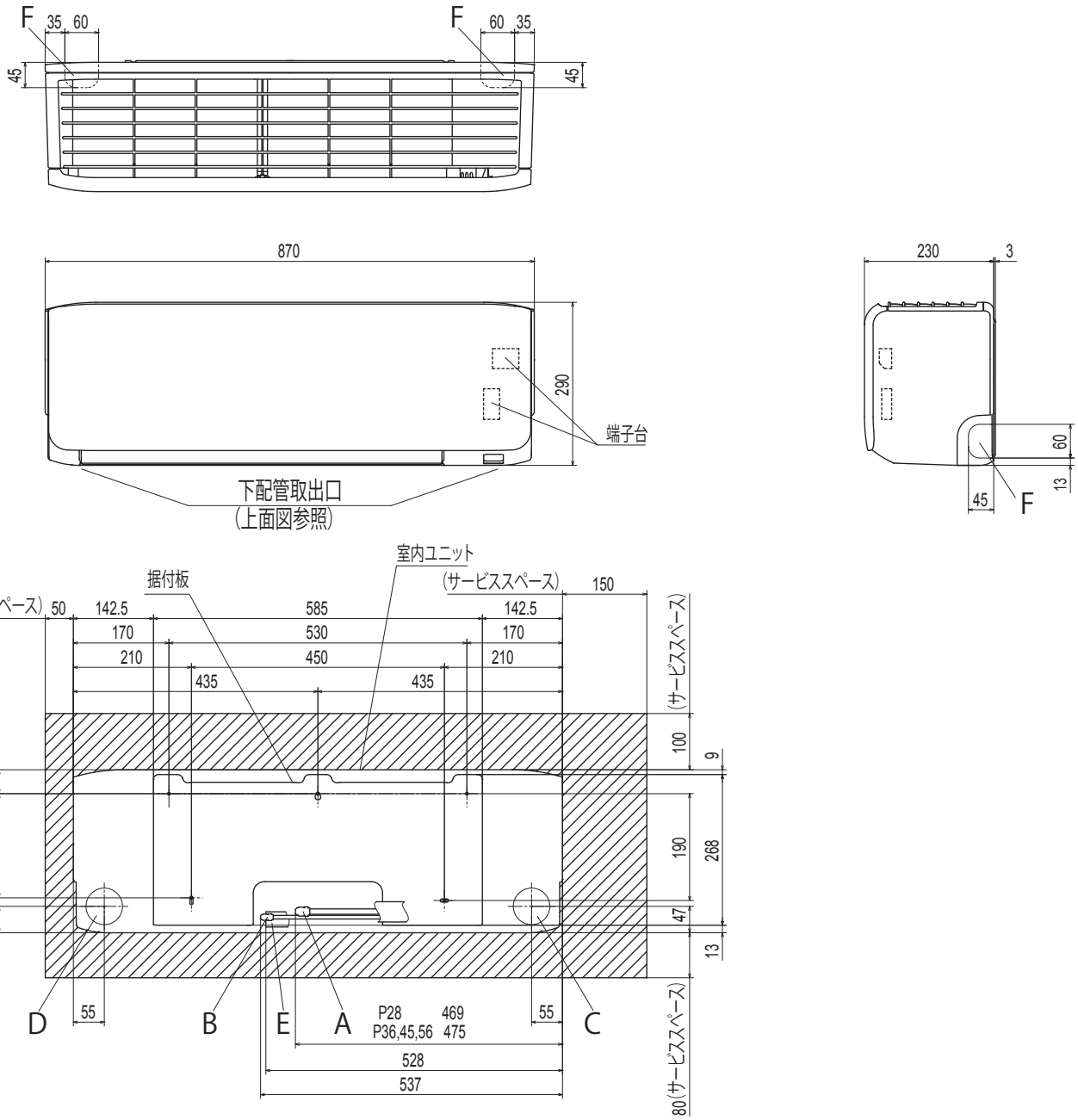
配管取出しは、3方向より行なえます。
穴は、ニッパ等により切り落してください。

隣接設置の場合は,ユニット間を5000以上離してください。

PFA004Z094

(8) 壁掛形（FDK）

FDKP285LXA，365LXA，455LXA，565LXA



正面から見た据付位置図および据付スペース

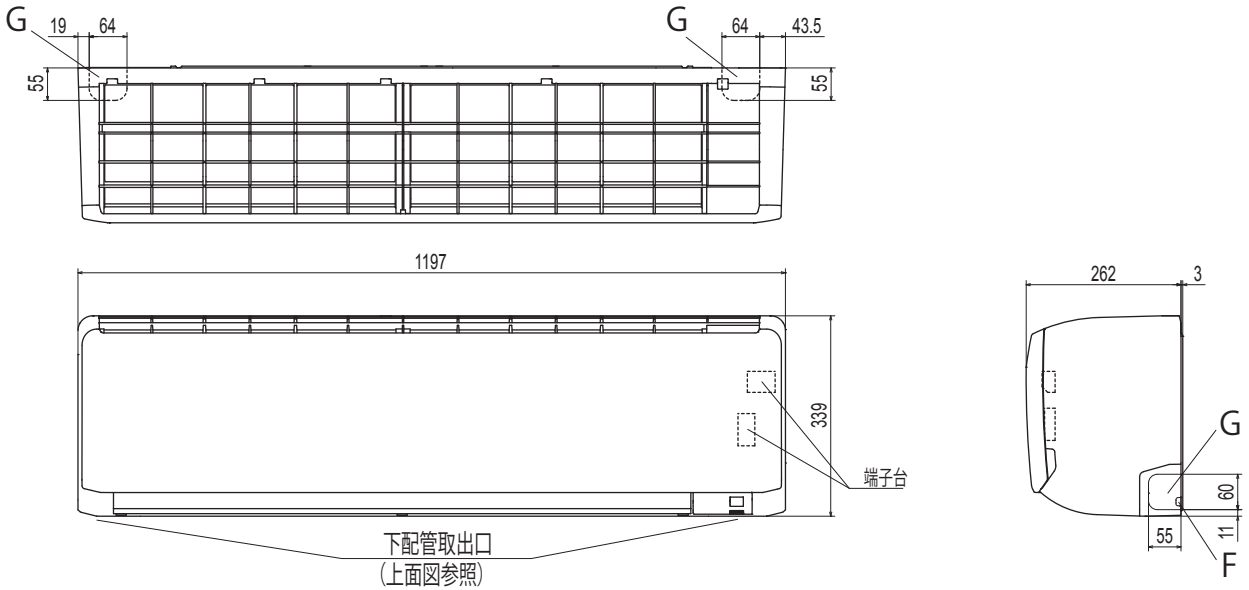
●記号説明

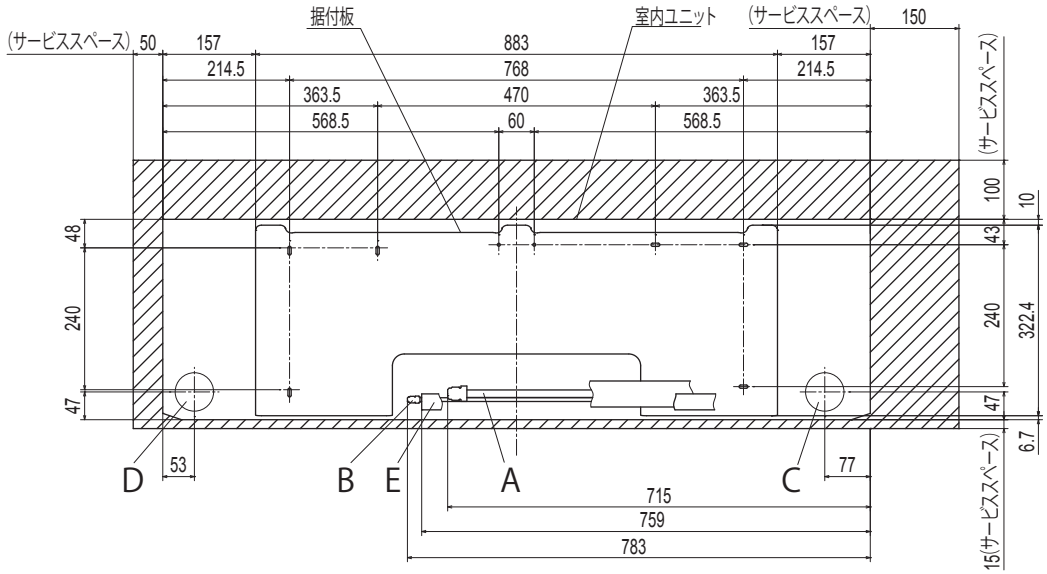
記号	内容		
	機種	P28	P36,45,56
A	冷媒ガス側配管	φ9.52(3／8") (フレア)	φ12.7(1／2") (フレア)
B	冷媒液側配管	φ6.35(1／4") (フレア)	
C	配管右後方抜壁穴	(φ65)	
D	配管左後方抜壁穴	(φ65)	
E	ドレンホース	VP16	
F	配管取出口(左右)		

注(1)装置銘板はパネル右面に付いています。

PHA001Z145

FDKP715LXA





正面から見た据付位置図および据付スペース

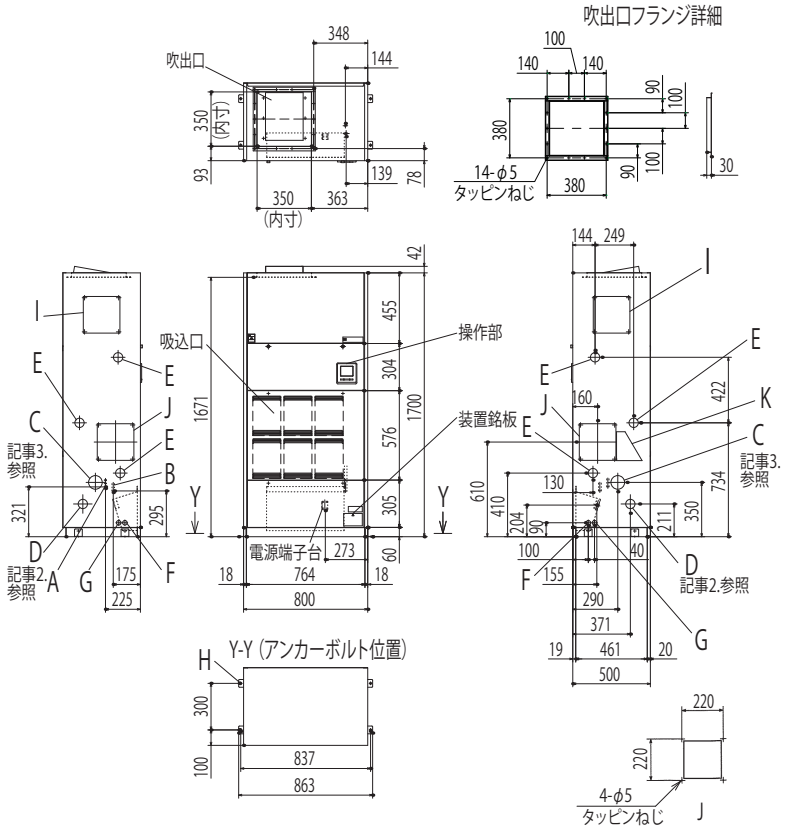
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88(5／8")(フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52(3／8")(フレア)
C	配管右後方抜壁穴	(φ65)
D	配管左後方抜壁穴	(φ65)
E	ドレンホース	VP16
F	電源コード取出口(左右)	
G	配管取出口(左右)	

注(1)装置銘板は下部パネルに付いています。

PHA001Z146

(9) 床置ダクト形（FDAS）
FDASP1405TLX



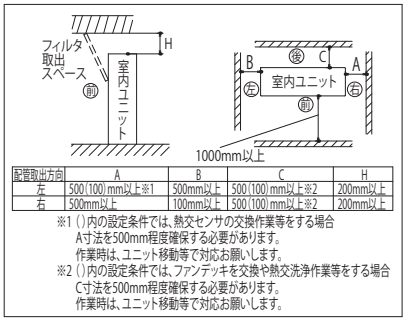
●記号説明

記号	内　容	
A	冷媒液配管接続口(φ9.52、ろう付)	
B	冷媒ガス配管接続口(φ15.88、ろう付)	※
C	冷媒配管取出口	φ88
D	ドレン排水口　Rp1(メス)(25A)	φ60
E	加湿器接続口	φ60
F	電源線取入口	φ30
G	信号線取入口	φ30
H	アンカーボルト用穴	M10用41か所
I	点検口	200×200
J	新鮮空気取入口	200×200
K	サービス点検口	

※冷媒ガス管の付属配管取付時の接続位置は下図を参照してください。

記事 1.ユニットの重量に十分耐えられる場所に設置してください。
アンカーボルトを4個使用して室内ユニットの固定脚を必ず固定してください。
ボルトの出代は20mmが最適です。
2.ドレン配管は、記号D(左右どちらか)のプラグを取外し接続ください。
ドレントラップを100mm以上確保してください。
3.冷媒配管は付属配管を用いて記号C(左右どちらか)より取出してください。

据付スペース

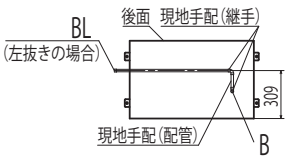


配管取出方向	A	B	C	H
左	500(100)mm以上※1	500mm以上	500(100)mm以上※2	200mm以上
右	500mm以上	100mm以上	500(100)mm以上※2	200mm以上

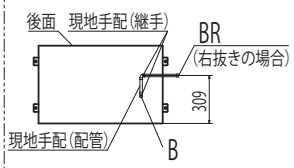
※1 ( )内の設定条件では、熱交センサの交換作業等をする場合
A寸法を500mm程度確保する必要があります。
作業時は、ユニット移動等で対応お願いします。
※2 ( )内の設定条件では、ファンデッキを交換や熱交洗浄作業等をする場合
C寸法を500mm程度確保する必要があります。
作業時は、ユニット移動等で対応お願いします。

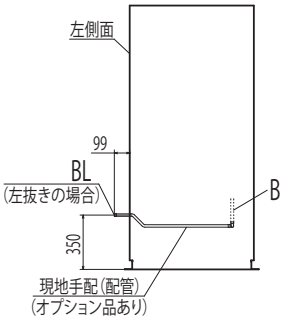
冷媒配管接続位置(ガス管)

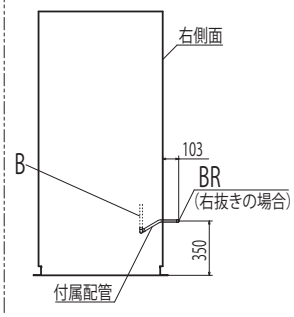
・左抜き:現地手配(継手,配管)

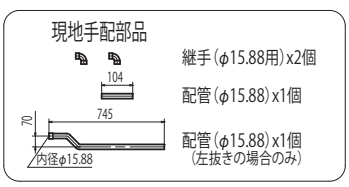


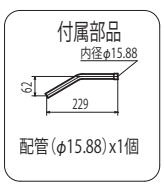
・右抜き:付属配管+現地手配(継手,配管)





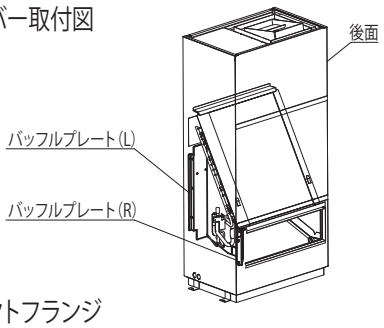




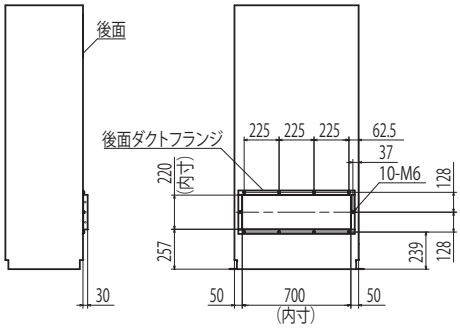


後吸込仕様時のオプション品

・配管カバー取付図

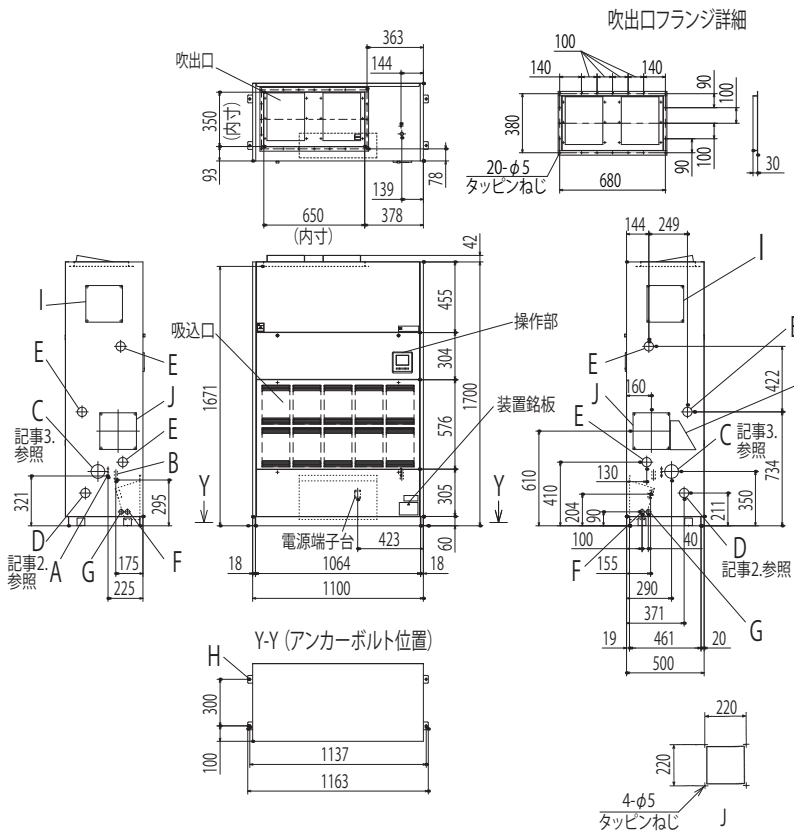


・後面ダクトフランジ



PAA002Z380 B

FDASP2245TLX



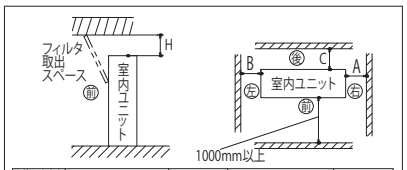
●記号説明

記号	内　容	
A	冷媒液配管接続口(φ9.52、ろう付)	
B	冷媒ガス配管接続口(φ19.05、ろう付)	※
C	冷媒配管取出口	φ88
D	ドレン排水口　Rp1(メス)(25A)	φ60
E	加湿器接続口	φ60
F	電源線取入口	φ30
G	信号線取入口	φ30
H	アンカーボルト用穴	M10用4か所
I	点検口	200×200
J	新鮮空気取入口	200×200
K	サービス点検口	

※冷媒ガス管の付属配管取付時の接続位置は下図を参照してください。

記事 1.ユニットの重量に十分耐えられる場所に設置してください。
アンカーボルトを4個使用して室内ユニットの固定脚を必ず固定してください。
ボルトの出代は20mmが最適です。
2.ドレン配管は、記号D(左右どちらか)のプラグを取外し 接続ください。
ドレントラップを100mm以上確保してください。
3.冷媒配管は付属配管を用いて記号C(左右どちらか)より取出してください。

据付スペース

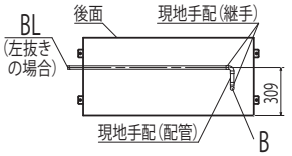


配管取出方向	A	B	C	H
左	500(100)mm以上※1	500mm以上	500(100)mm以上※2	200mm以上
右	500mm以上	100mm以上	500(100)mm以上※2	200mm以上

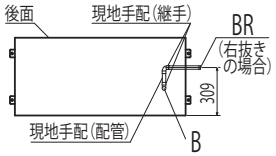
※1 ( )内の設定条件では、熱交センサの交換作業等をする場合
A寸法を500mm程度確保する必要があります。
作業時は、ユニット移動等で対応お願いします。
※2 ( )内の設定条件では、ファンデッキを交換や熱交洗浄作業等をする場合
C寸法を500mm程度確保する必要があります。
作業時は、ユニット移動等で対応お願いします。

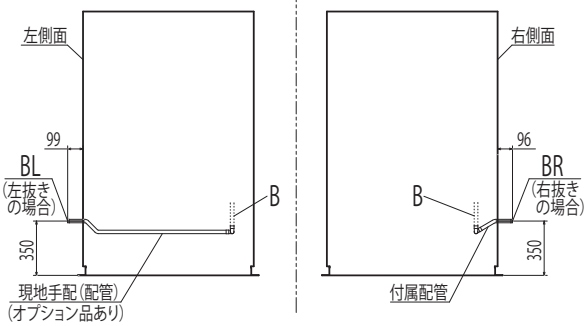
冷媒配管接続位置(ガス管)

・左抜き:現地手配(継手,配管)



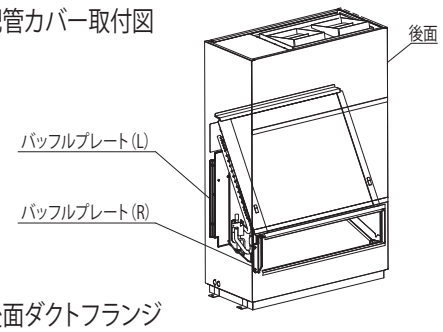
・右抜き:付属配管+現地手配(継手,配管)



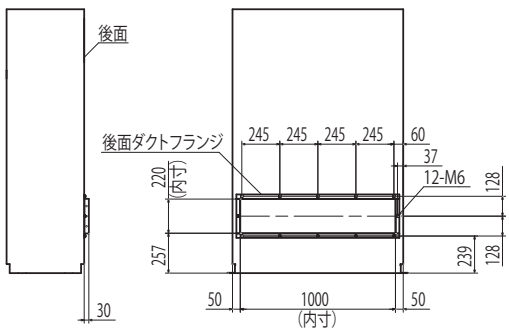


後吸込仕様時のオプション品

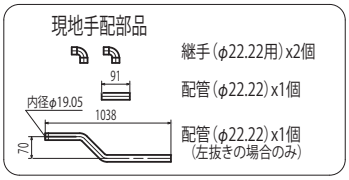
・配管カバー取付図



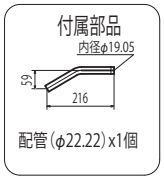
・後面ダクトフランジ



現地手配部品

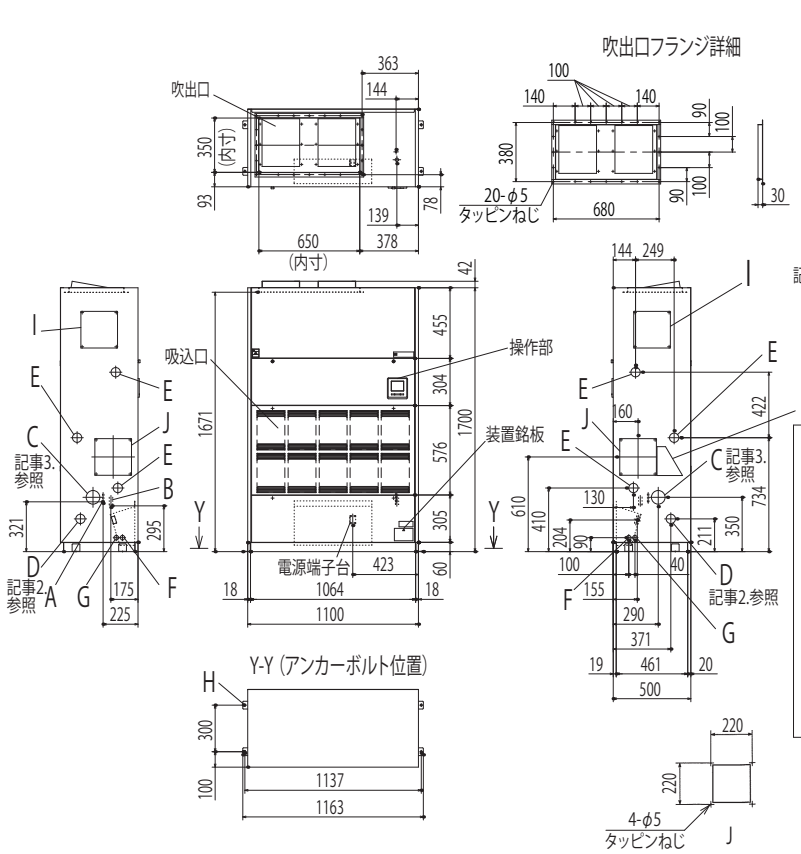


付属部品



PAA002Z381 B

FDASP2805TLX



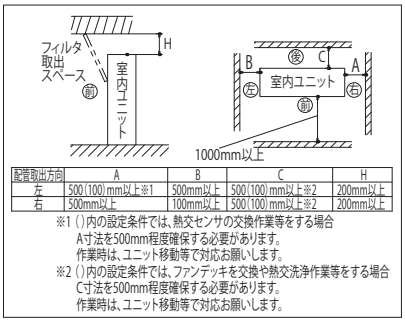
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒液配管接続口（φ9.52、ろう付）	
B	冷媒ガス配管接続口（φ22.22、ろう付）	※
C	冷媒配管取出口	φ88
D	ドレン排水口　Rp1（メス）（25A）	φ60
E	加湿器接続口	φ60
F	電源線取入口	φ30
G	信号線取入口	φ30
H	アンカーボルト用穴	M10用4か所
I	点検口	200×200
J	新鮮空気取入口	200×200
K	サービス点検口	

※冷媒ガス管の付属配管取付時の接続位置は下図を参照してください。

記事 1.ユニットの重量に十分耐えられる場所に設置してください。
アンカーボルトを4個使用して室内ユニットの固定脚を必ず固定してください。
ボルトの出代は20mmが最適です。
2.ドレン配管は、記号D（左右どちらか）のプラグを取外し接続ください。
ドレントラップを100mm以上確保してください。
3.冷媒配管は付属配管を用いて記号C（左右どちらか）より取出してください。

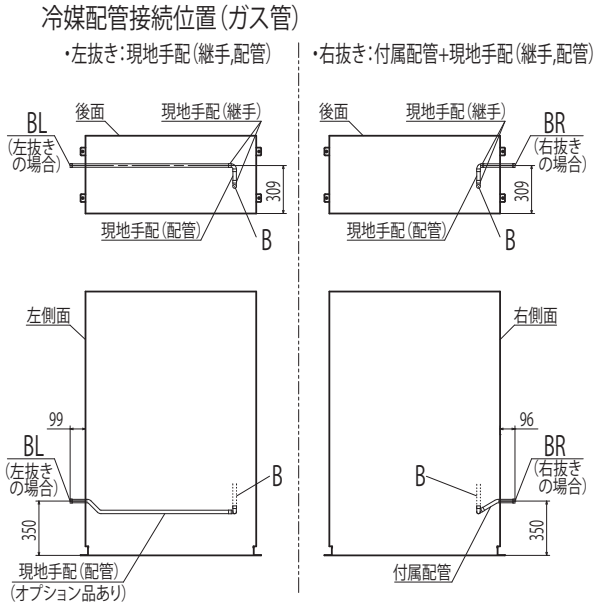
据付スペース

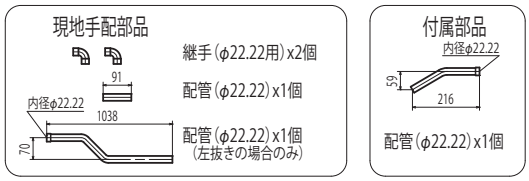


配管取出方向	A	B	C	H
左	500（100）mm以上※1	500mm以上	500（100）mm以上※2	200mm以上
右	500mm以上	100mm以上	500（100）mm以上※2	200mm以上

※1（）内の設定条件では、熱交センサの交換作業等をする場合
A寸法を500mm程度確保する必要があります。
作業時は、ユニット移動等で対応お願いします。
※2（）内の設定条件では、ファンデッキを交換や熱交洗浄作業等をする場合
C寸法を500mm程度確保する必要があります。
作業時は、ユニット移動等で対応お願いします。

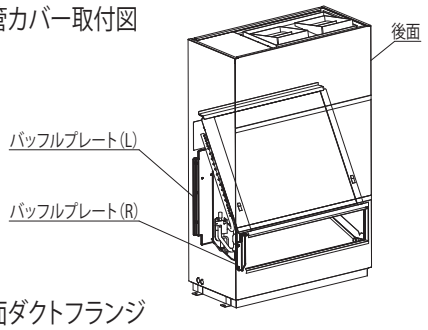
冷媒配管接続位置（ガス管）



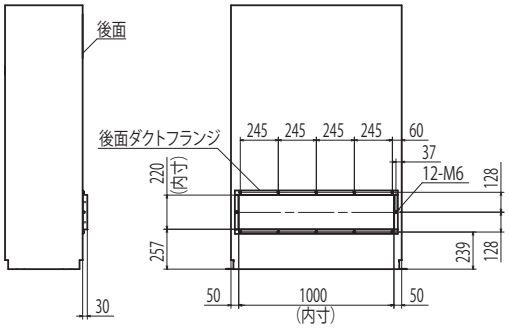


後吸込仕様時のオプション品

・配管カバー取付図



・後面ダクトフランジ



PAA002Z382 B

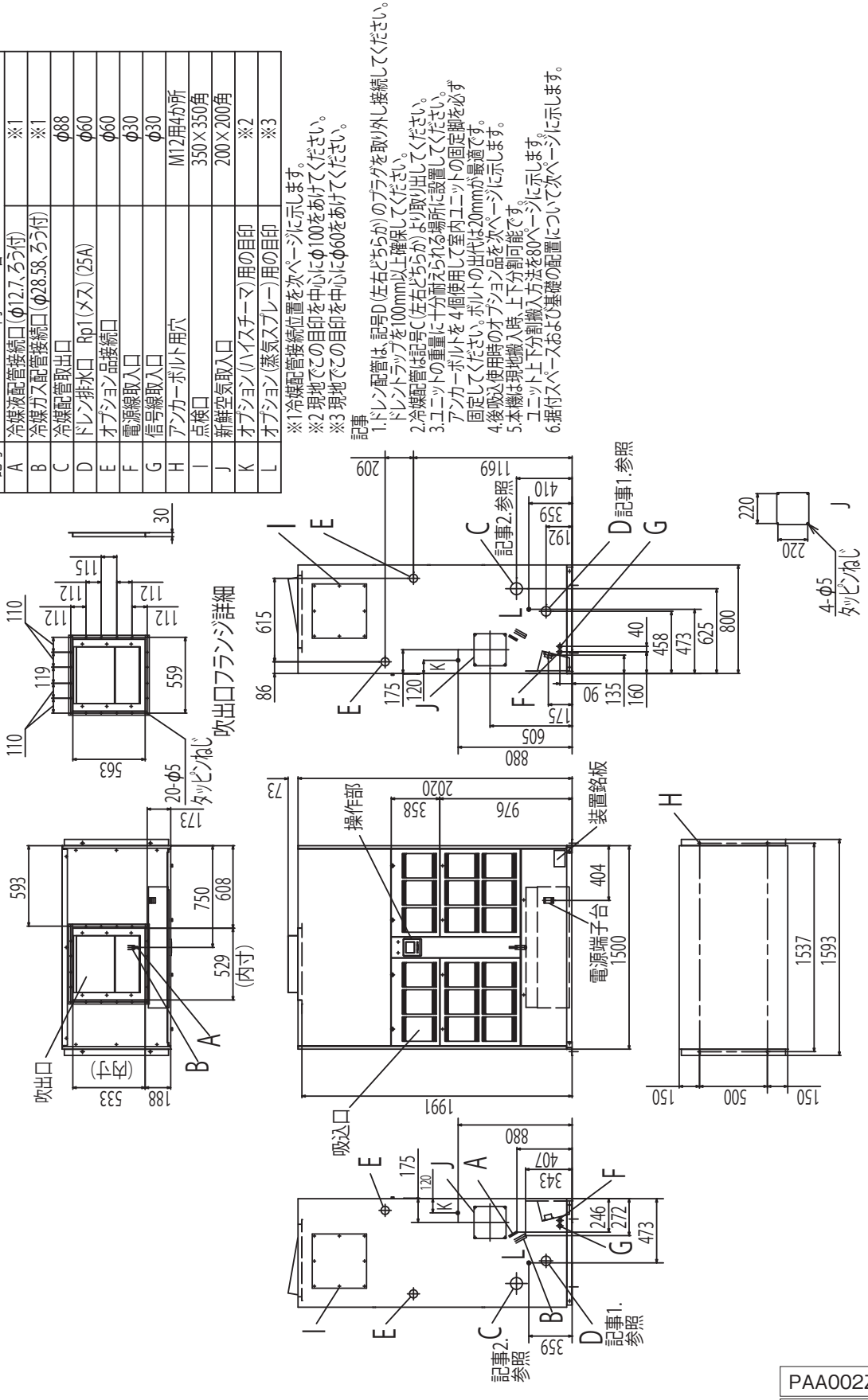
FDASP4505TLX, 5605TLX

●記号説明

記号	内容	
A	冷媒液配管接続口(φ12.7,ろう付)	※1
B	冷媒ガス配管接続口(φ28.58,ろう付)	※1
C	冷媒配管取出口	φ88
D	ドレン排水口 Rp1(メス) (25A)	φ60
E	オプション品接続口	φ60
F	電源線取入口	φ30
G	信号線取入口	φ30
H	アンカーボルト用穴	M12用4か所
I	点検口	350×350角
J	新鮮空気取入口	200×200角
K	オプション(ハイスチーマ)用の目印	※2
L	オプション(蒸気スプレー)用の目印	※3

※1冷媒配管接続位置を次ページに示します。
※2 現地でこの目印を中心にφ100をあけてください。
※3 現地でこの目印を中心にφ60をあけてください。

記事
1.ドレン配管は、記号D(左右どちらか)のプラグを取り外し接続してください。
ドレントラップを100mm以上確保してください。
2.冷媒配管は記号C(左右どちらか)より取り出してください。
3.ユニットの重量に十分耐えられる場所に設置してください。
アンカーボルトを4個使用して室内ユニットの固定脚を必ず
固定してください。ボルトの出代は20mmが最適です。
4.後吸込使用時のオプション品を次ページに示します。
5.本機は現地搬入時、上下分割可能です。
ユニット上下分割搬入方法を80ページに示します。
6.据付スペースおよび基礎の配置について次ページに示します。

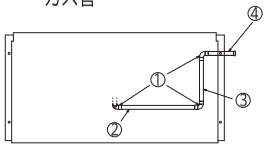


PAA002Z423 A
PAA002Z431 A

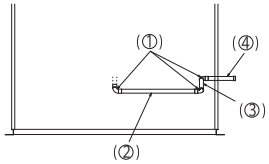
冷媒配管接続位置（点線部はユニット本体の配管を示します。）

【右抜き配管の場合〈左抜き配管は左右対称形〉】

・ガス管

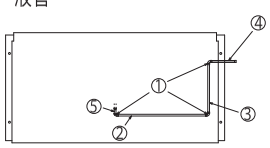


［ユニット上面］

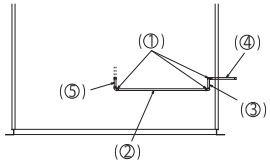


［ユニット正面］

・液管



［ユニット上面］



［ユニット正面］

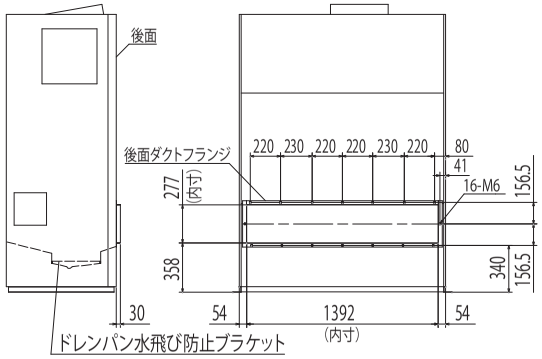
・現地手配配管および継手

ガス管	液管
① 継手（φ28.58用）x3個	① 継手（φ12.7用）x3個
② 574 配管（φ28.58用）x1個	② 652 配管（φ12.7用）x1個
③ 347 配管（φ28.58用）x1個	③ 371 配管（φ12.7用）x1個
④ 220 （片側拡管） 配管（φ28.58用）x1個	④ 186 （片側拡管） 配管（φ12.7用）x1個
	⑤ 86 （片側拡管） 配管（φ12.7用）x1個

パン型加湿器、蒸気スプレー式加湿器を取付ける場合には、
それぞれの据付説明書に従い冷媒配管の接続をしてください。

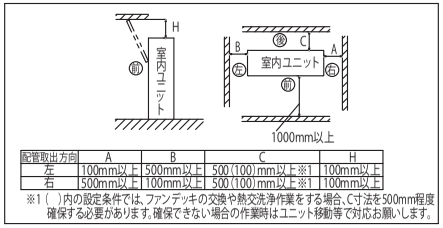
後ろ吸込仕様時のオプション品

・後面ダクトフランジ
・ドレンパン水飛び防止ブラケット



据付スペース

下図に必要な据付スペースを示します。

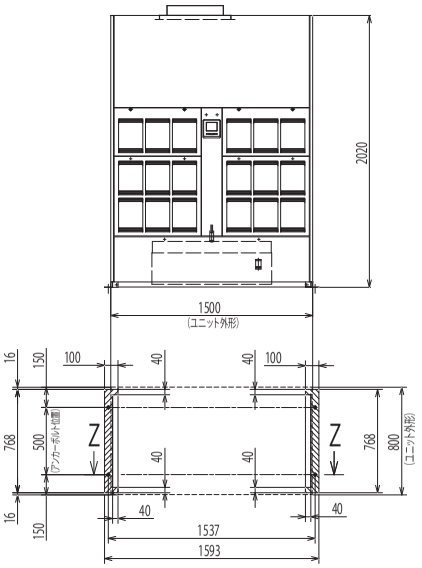


配管取出方向	A	B	C	H
左	100mm以上	500mm以上	500（100）mm以上※1	100mm以上
右	500mm以上	100mm以上	500（100）mm以上※1	100mm以上

※1（ ）内の設定条件では、ファンデッキの交換や熱交洗浄作業をする場合、C寸法を500mm程度確保する必要があります。確保できない場合の作業時はユニット移動等で対応お願いします。

基礎の配置

ハッチング箇所がユニット底面から見た接地面を示します。
接地面が接地するように基礎を前後に配置してください。（下図Z-Z参照）



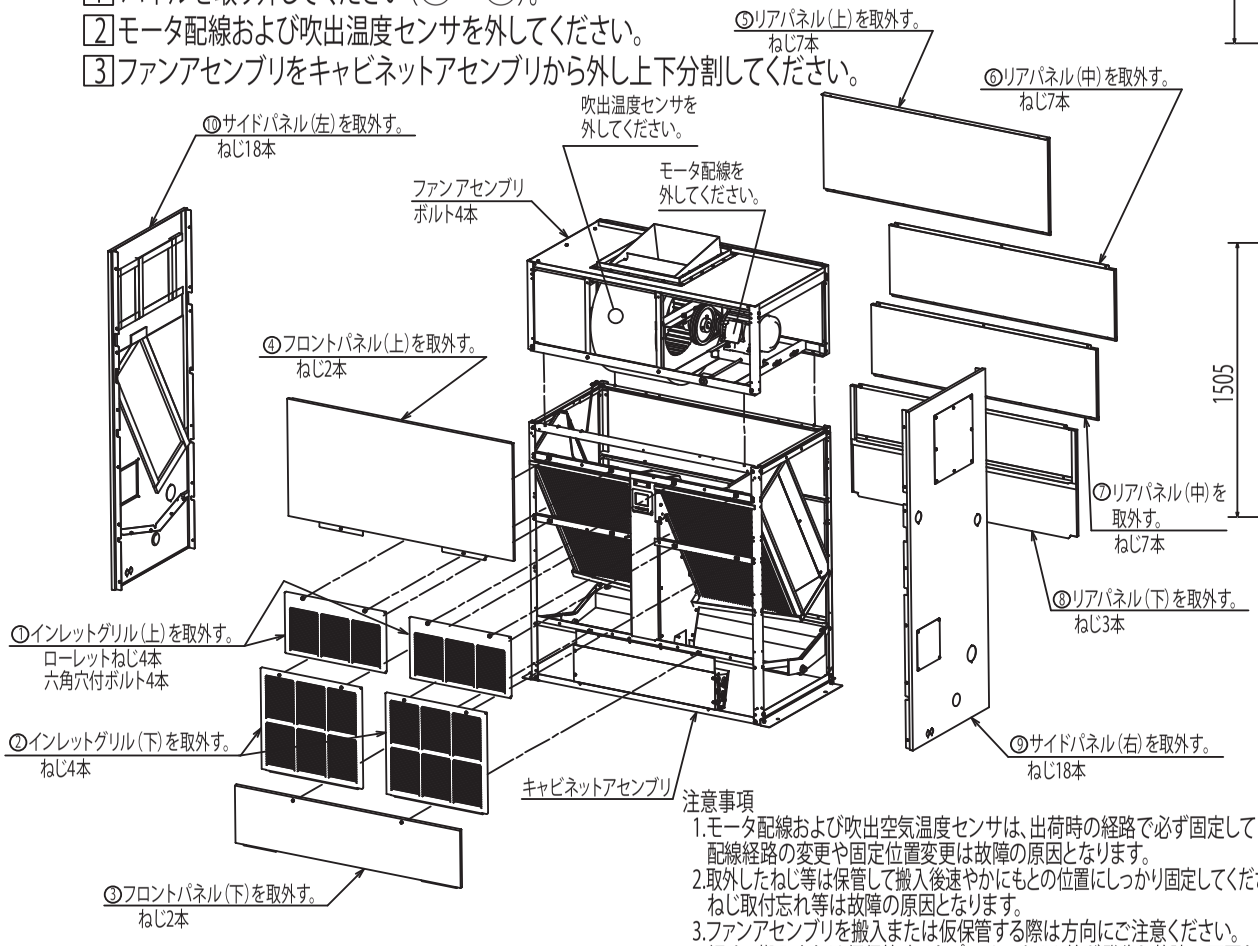


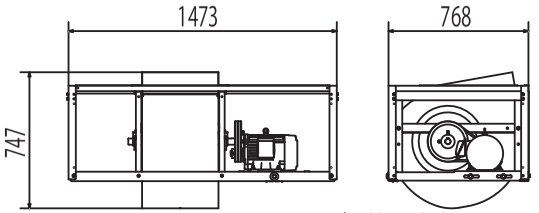
Z-Z

ユニット上下分割搬入方法

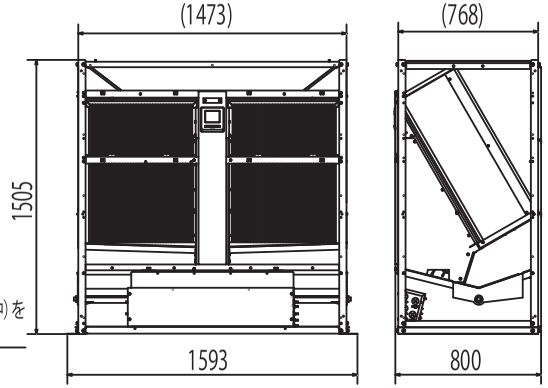
本図は現地で上下分割して搬入する際の要領を示します。
搬入経路の高さ方向に制限がある場合は以下の手順でユニットを上下分割して搬入してください。
搬入後は、逆の手順で元の状態に組み立ててください。

1 パネルを取り外してください(①～⑩)。
2 モータ配線および吹出温度センサを外してください。
3 ファンアセンブリをキャビネットアセンブリから外し上下分割してください。

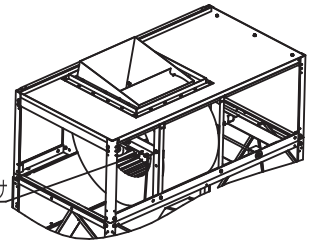




ファンアセンブリ外形寸法
(P450:約135kg
P560:約165kg)

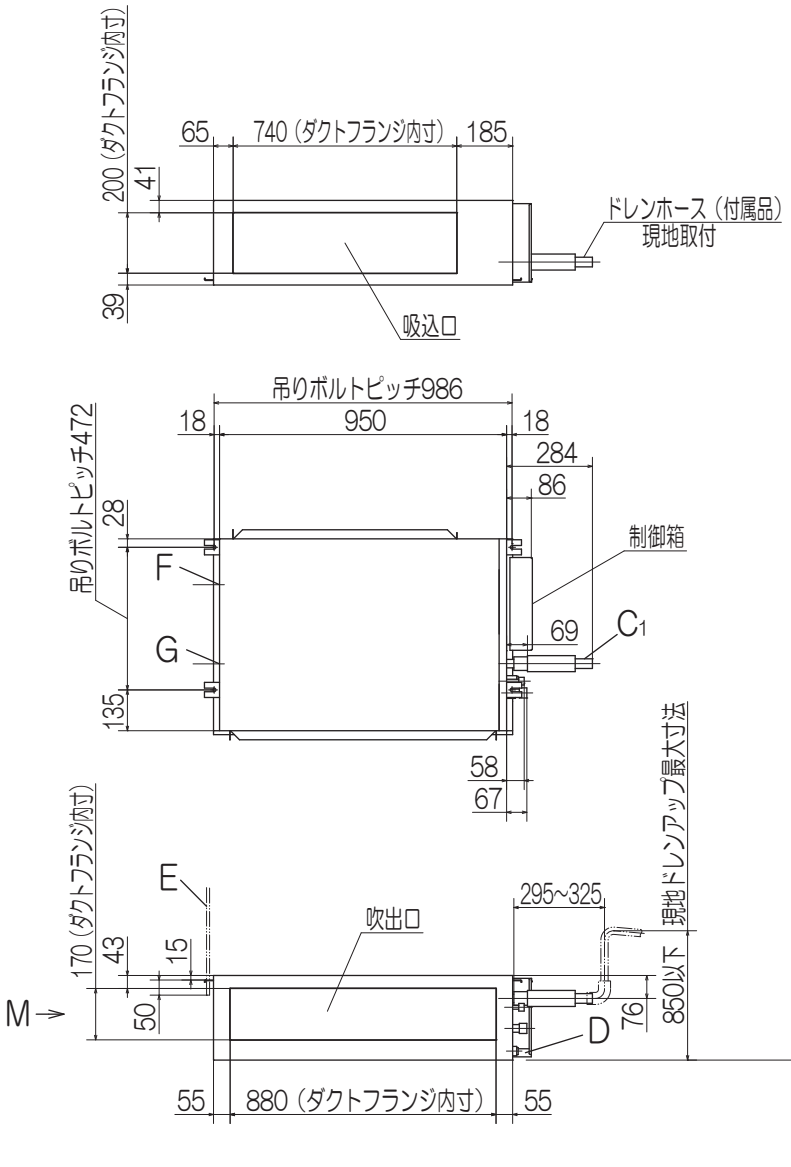


キャビネットアセンブリ外形寸法
(約200kg)



注意事項
1.モータ配線および吹出空気温度センサは、出荷時の経路で必ず固定してください。
配線経路の変更や固定位置変更は故障の原因となります。
2.取外したねじ等は保管して搬入後速やかにもとの位置にしっかり固定してください。
ねじ取付忘れ等は故障の原因となります。
3.ファンアセンブリを搬入または仮保管する際は方向にご注意ください。
傾けて搬入または仮保管するとプーリのゆるみ等が発生し故障の原因となります。
現地取付後は必ずプーリベルトのテンション確認を行ってから運転してください。
プーリベルトがゆるんだ状態で運転すると故障の原因となります。

⑽ 給気処理ユニット（FDU-F）
FDUP905FLXA



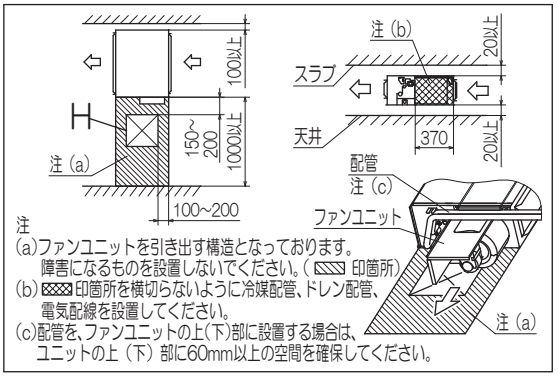
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88（フレア）
B	冷媒液側配管	φ9.52（フレア）
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）
C_2	ドレン自然排水用	VP20
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

室内ユニット据付スペース

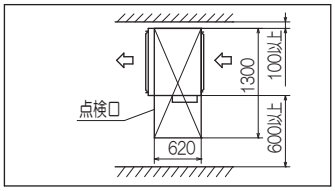
吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

（ケース1）ユニット側面から



注
(a)ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。（▨ 印箇所）
(b)▩ 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、
電気配線を設置してください。
(c)配管を、ファンユニットの上（下）部に設置する場合は、
ユニットの上（下）部に60mm以上の空間を確保してください。

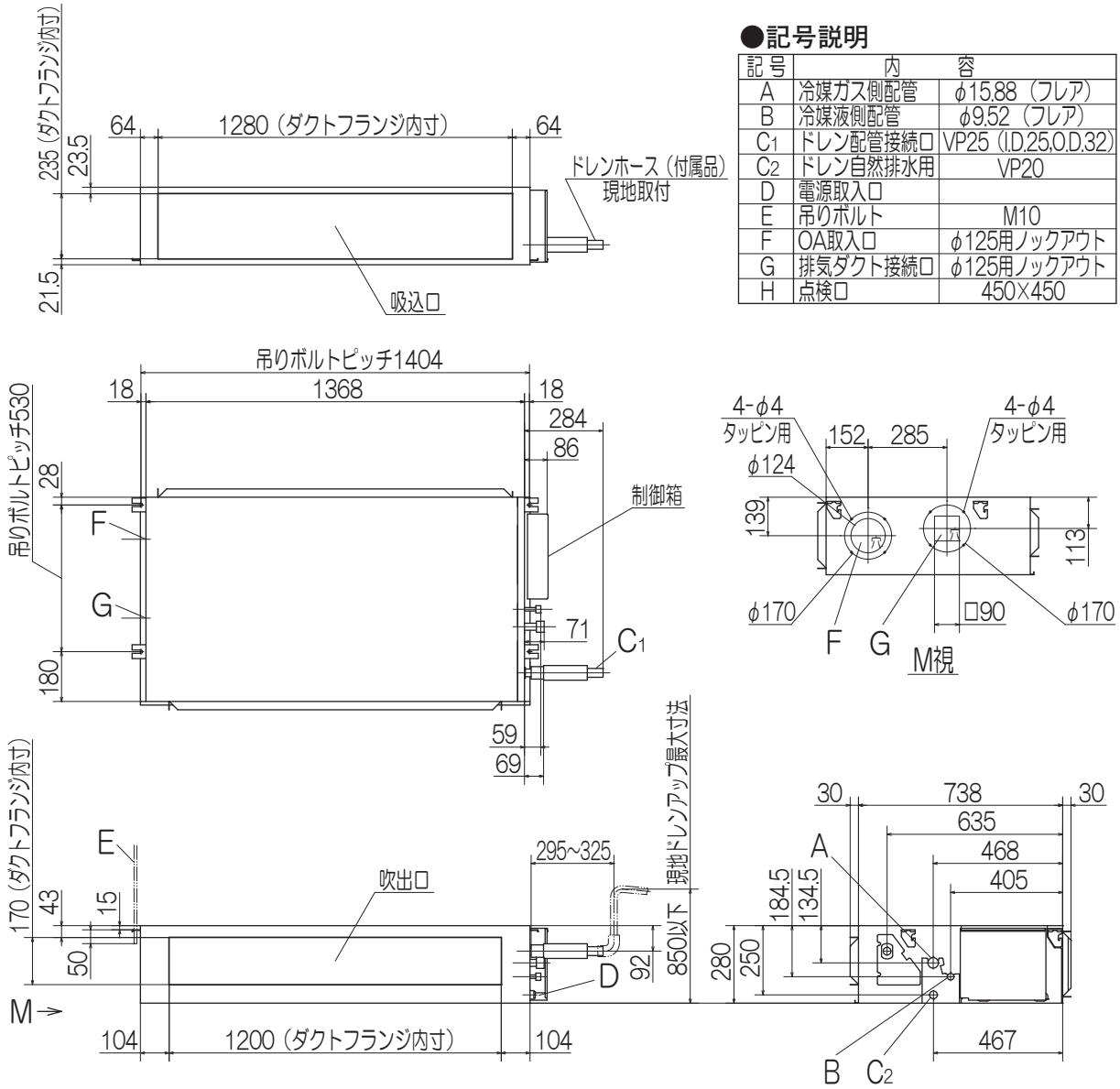
（ケース2）ユニット下面から



注
（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z559 A

FDUP1405FLXA



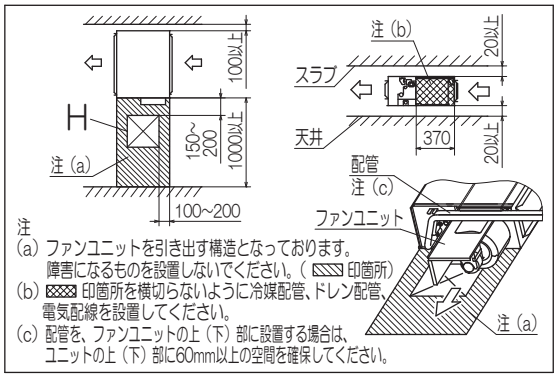
●記号説明

記号	内容	
A	冷媒ガス側配管	φ15.88 (フレア)
B	冷媒液側配管	φ9.52 (フレア)
C_1	ドレン配管接続口	VP25 (I.D.25,O.D.32)
C_2	ドレン自然排水用	VP20
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10
F	OA取入口	φ125用ノックアウト
G	排気ダクト接続口	φ125用ノックアウト
H	点検口	450×450

室内ユニット据付スペース

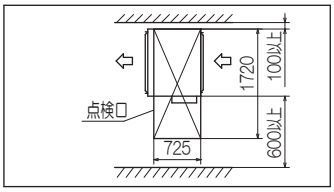
吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

(ケース1) ユニット側面から



注
(a) ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。(▨ 印箇所)
(b) ▩ 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、
電気配線を設置してください。
(c) 配管を、ファンユニットの上 (下) 部に設置する場合は、
ユニットの上 (下) 部に60mm以上の空間を確保してください。

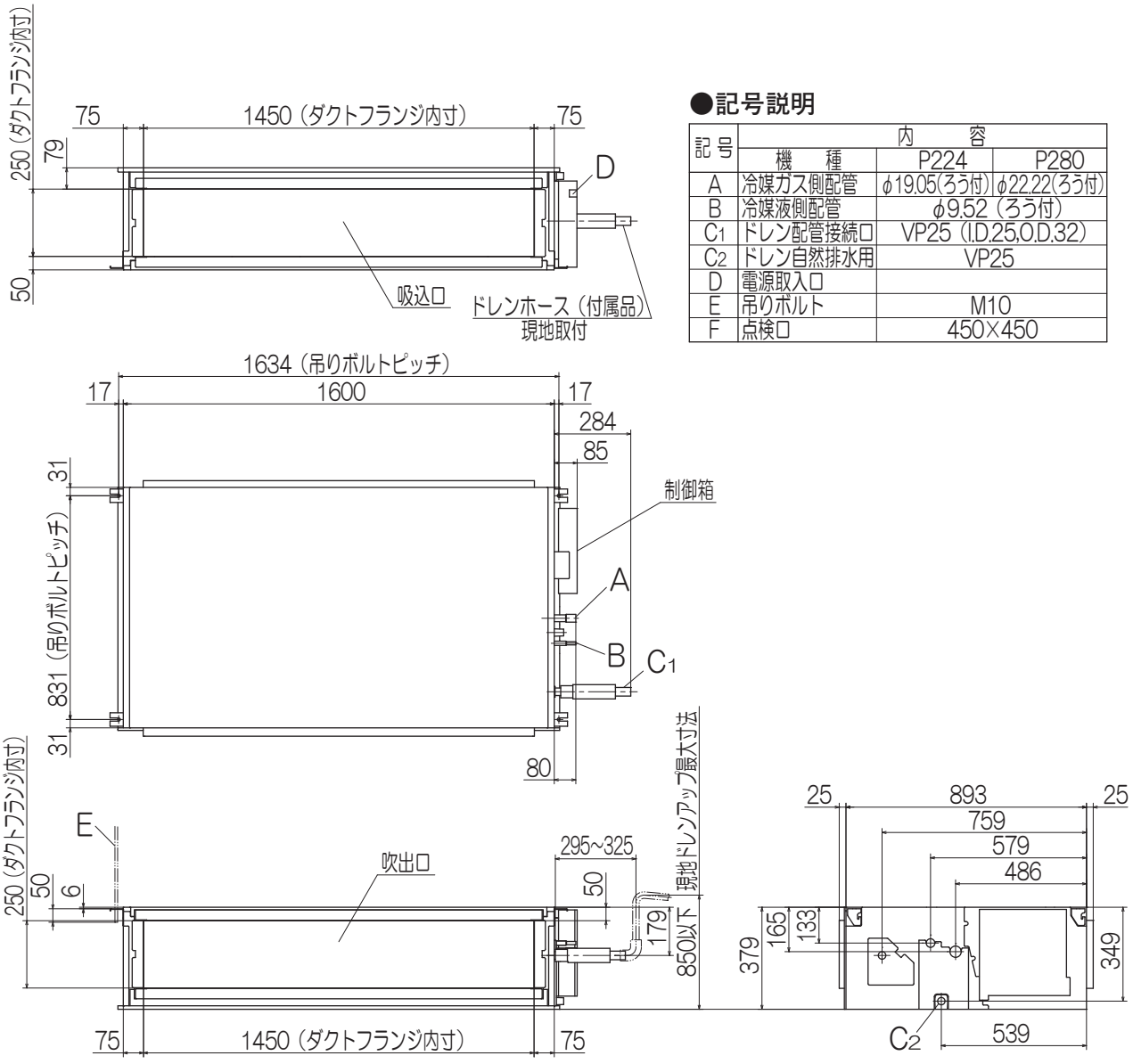
(ケース2) ユニット下面から



注
(1) 装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z560 A

FDUP2245FLXA，2805FLXA



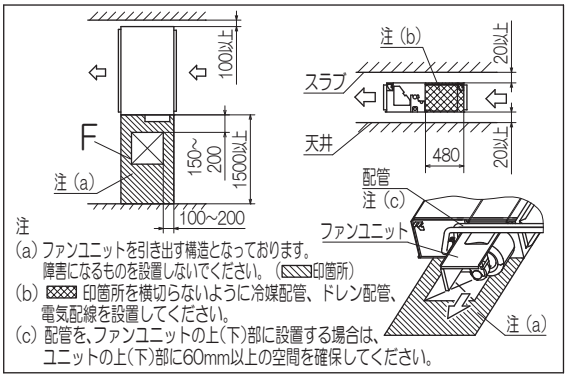
●記号説明

記号	内容		
	機種	P224	P280
A	冷媒ガス側配管	φ19.05(ろう付)	φ22.22(ろう付)
B	冷媒液側配管	φ9.52（ろう付）	
C_1	ドレン配管接続口	VP25（I.D.25,O.D.32）	
C_2	ドレン自然排水用	VP25	
D	電源取入口		
E	吊りボルト	M10	
F	点検口	450×450	

室内ユニット据付スペース

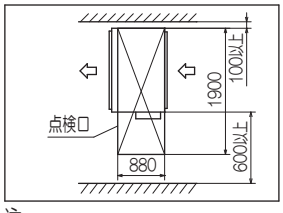
吸込・吹出口にダクトを接続し、ファンおよび他の内部部品に手が触れない様に配慮してください。また、吸込ダクトにはエアフィルタを取付けてください。
吸込側を直吸込みで使用する場合は、吸込口にエアフィルタを取付けてください。
また、据付高さは2.5m以上としてください。
据付時には、下記2ケースのどちらかのサービススペースを確保してください。

（ケース1）ユニット側面から



注
(a) ファンユニットを引き出す構造となっております。
障害になるものを設置しないでください。（▨印箇所）
(b) ▩ 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設置してください。
(c) 配管を、ファンユニットの上(下)部に設置する場合は、ユニットの上(下)部に60mm以上の空間を確保してください。

（ケース2）ユニット下面から



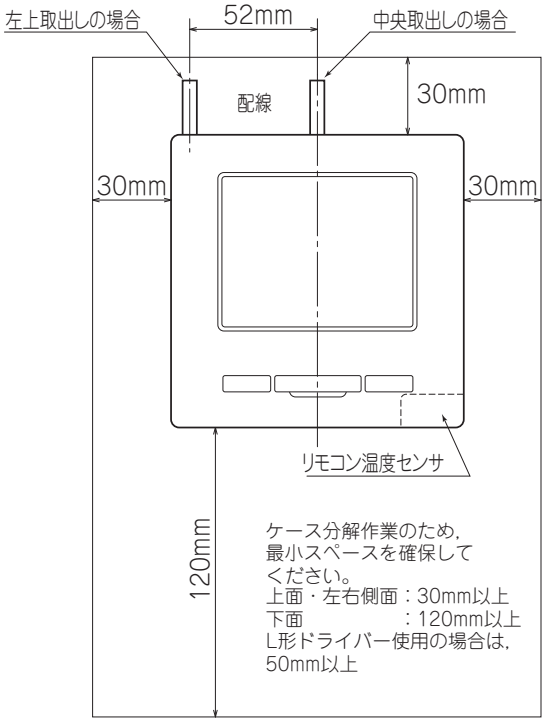
注
（1）装置銘板は制御箱の蓋に付いています。

PJG000Z561

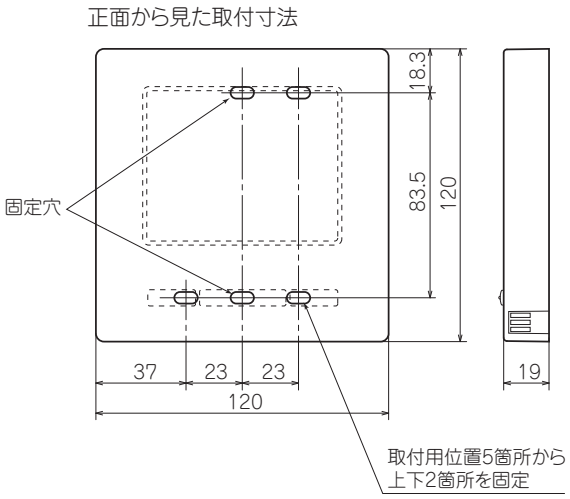
⑾ リモコン

ⓐ eco タッチリモコン ; RC − DX3B

設置スペース



リモコン取付寸法



リモコンコードを延長する場合の注意　**最大総延長600m**

●リモコンコードは0.3mm²×2心です。

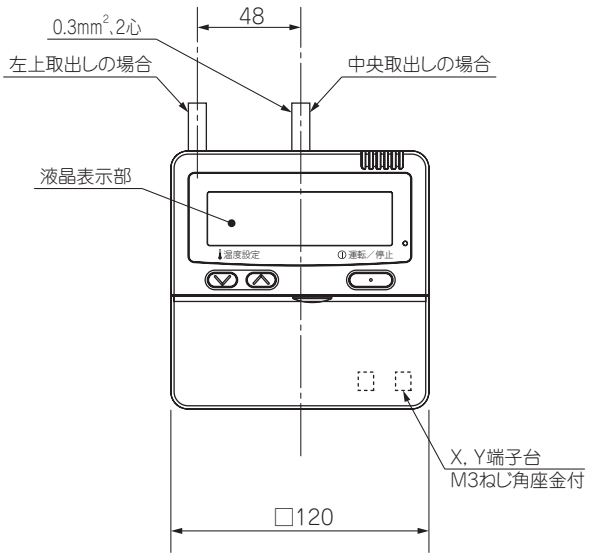
延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。配線接続する際は，水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内…0.50mm²×2心
～300m以内…0.75mm²×2心
～400m以内…1.25mm²×2心
～600m以内…2.00mm²×2心

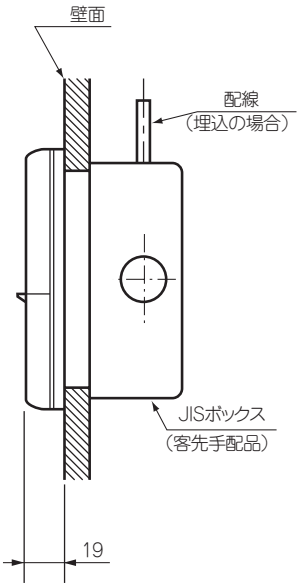
PJZ000Z332

(b) 標準リモコン ; RC − D4G

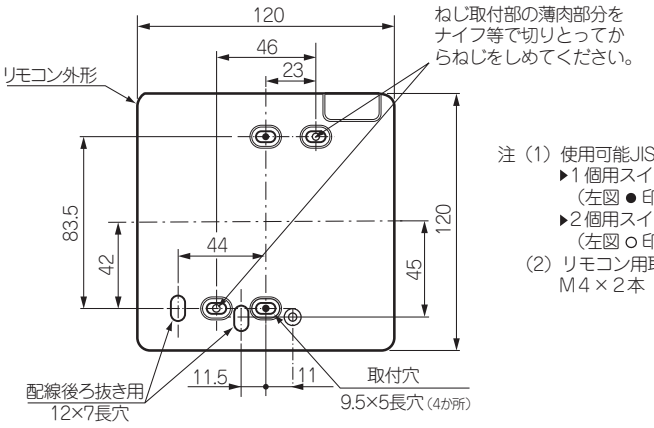
配線露出取付



配線埋込取付



リモコン取付寸法



注（1）使用可能JISボックス JIS C 8340
- ▸1個用スイッチボックス
  （左図 ● 印穴使用）
- ▸2個用スイッチボックス
  （左図 ○ 印穴使用）

（2）リモコン用取付ねじ
M4×2本

リモコンコードを延長する場合の注意 **最大総延長600m**

●リモコンコードは0.3mm²×2心です。

延長は600mまで可能です。延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。配線接続する際は，水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内…0.50mm²×2心
～300m以内…0.75mm²×2心
～400m以内…1.25mm²×2心
～600m以内…2.00mm²×2心

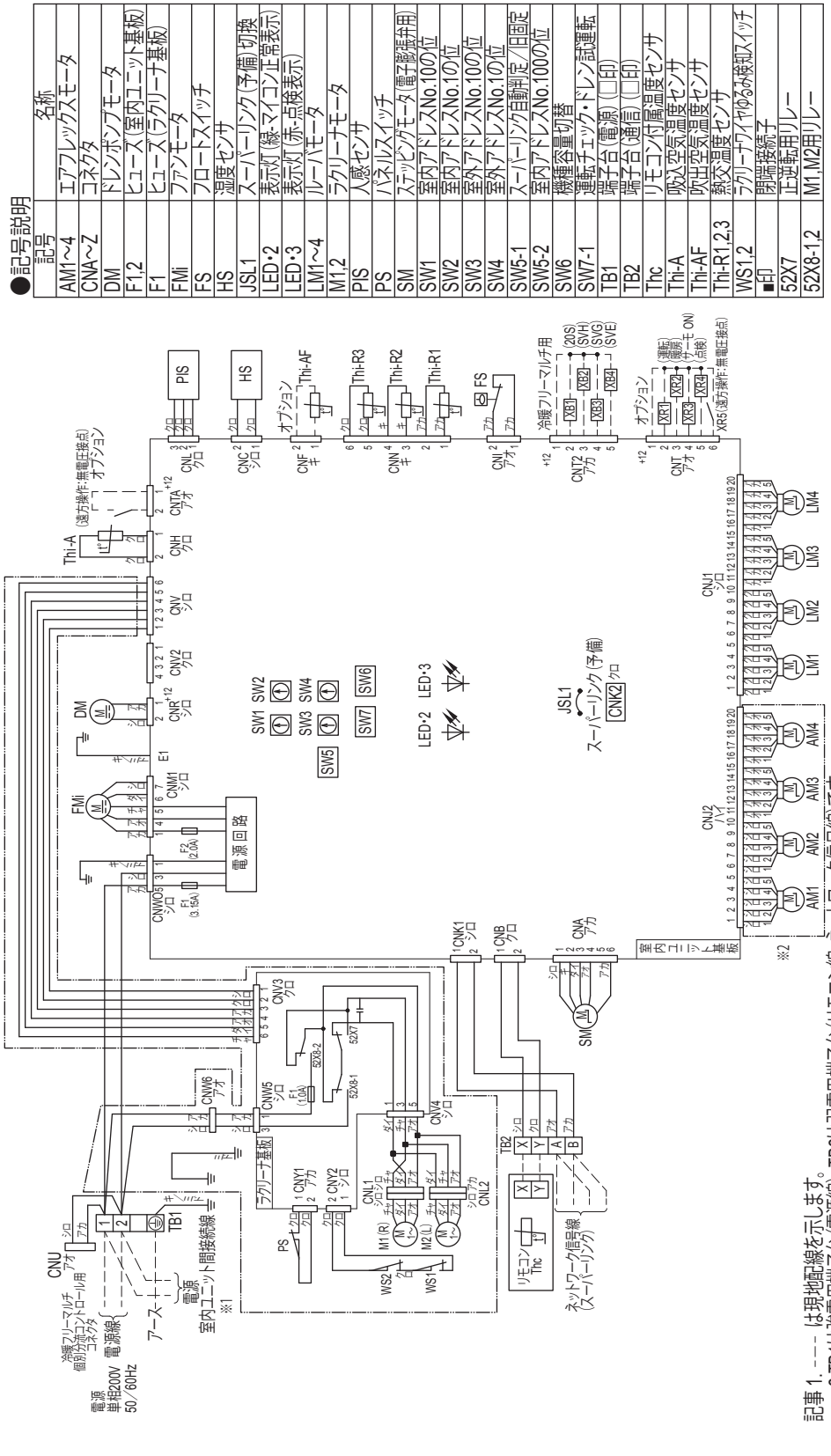
PJZ000Z290

3. 電気配線図

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

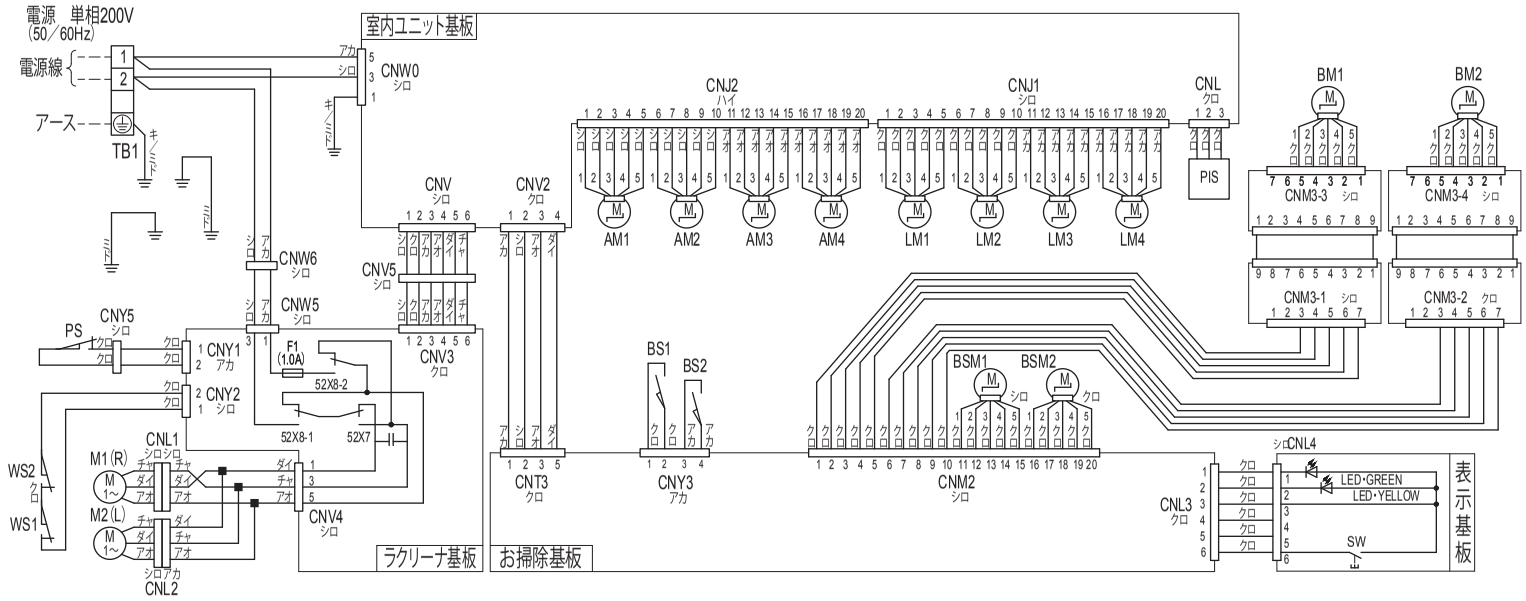
FDTP285, 365, 455, 565, 715, 805, 905, 1125, 1405, 1605LXA

（注）本図はエアコン本体部分について示しています。お掃除パネル部分については、次ページをご覧ください。



FDTP285，365，455，565，715，805，905，1125，1405，1605LXA

（注）本図はお掃除パネル部分について示しています。エアコン本体側部分については、前ページをご覧ください。



●記号説明

記号	名称
AM1～4	エアフレックスモータ
BM1,2	ブラシモータ
BS1,2	ブラシ位置検知スイッチ
BSM1,2	シャフト駆動モータ
CNA～Z	コネクタ
F1	ヒューズ
LED･GREEN	表示灯(緑)右表参照
LED･YELLOW	表示灯(黄)右表参照
LM1～4	ルーバモータ
M1,2	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS	パネルスイッチ
SW	バックアップスイッチ
TB1	端子台(電源)(□印)
WS1,2	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1,M2用リレー

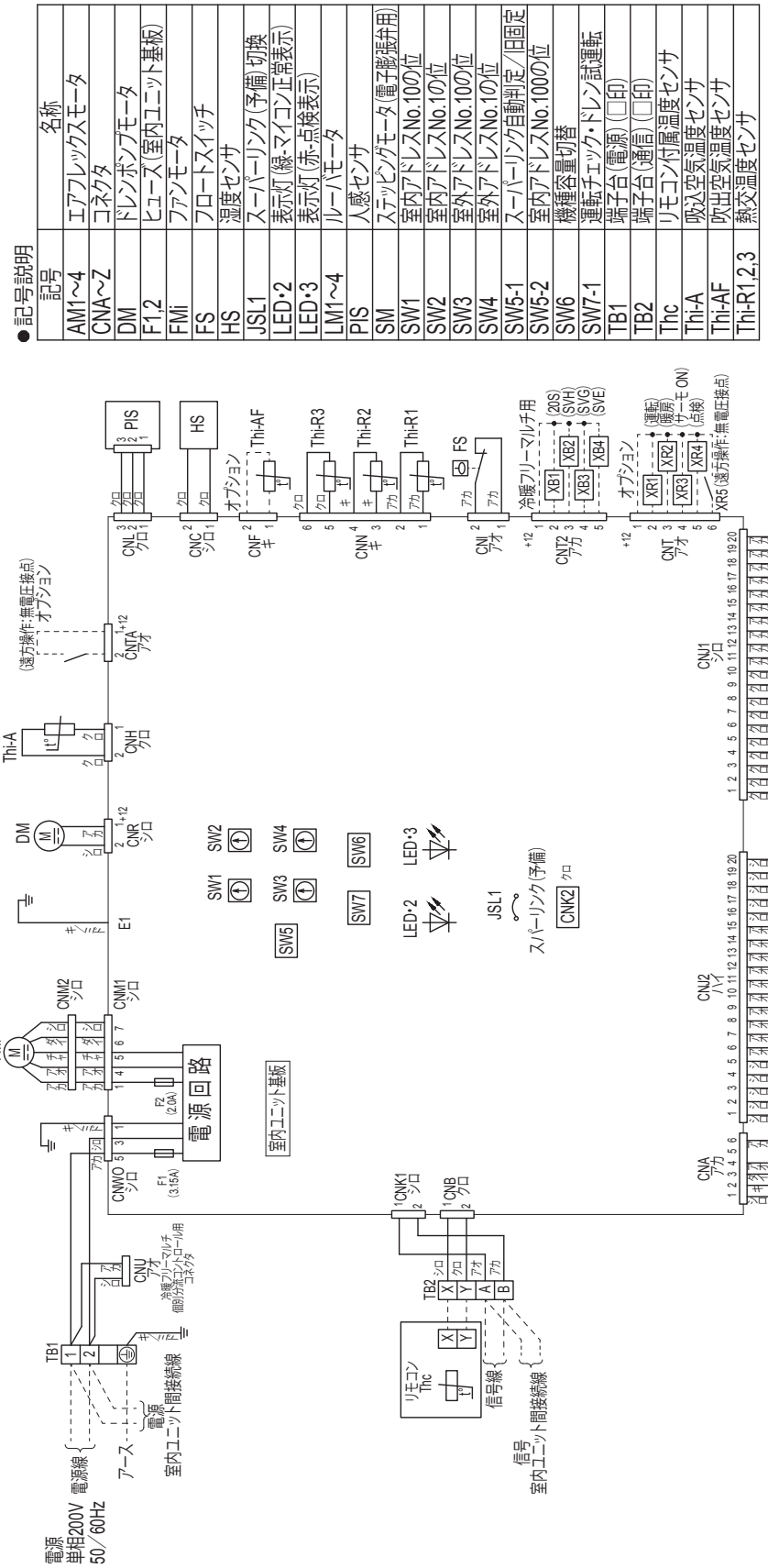
パネル表示部	内容
緑の点灯	お掃除運転中
黄の点灯	ダスト回収表示
緑の連続点滅	通信異常
緑の1回点滅	位置検知不能
緑の2回点滅	作動不良
緑の3回点滅	誤検知
緑の4回点滅	パネルスイッチ作動

バックアップスイッチ

ON時間	制御内容
3秒未満	エアフィルタ清掃開始
3～6秒	ブラシ清掃開始
6秒以上	表示消灯

(2) 天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

・全形式



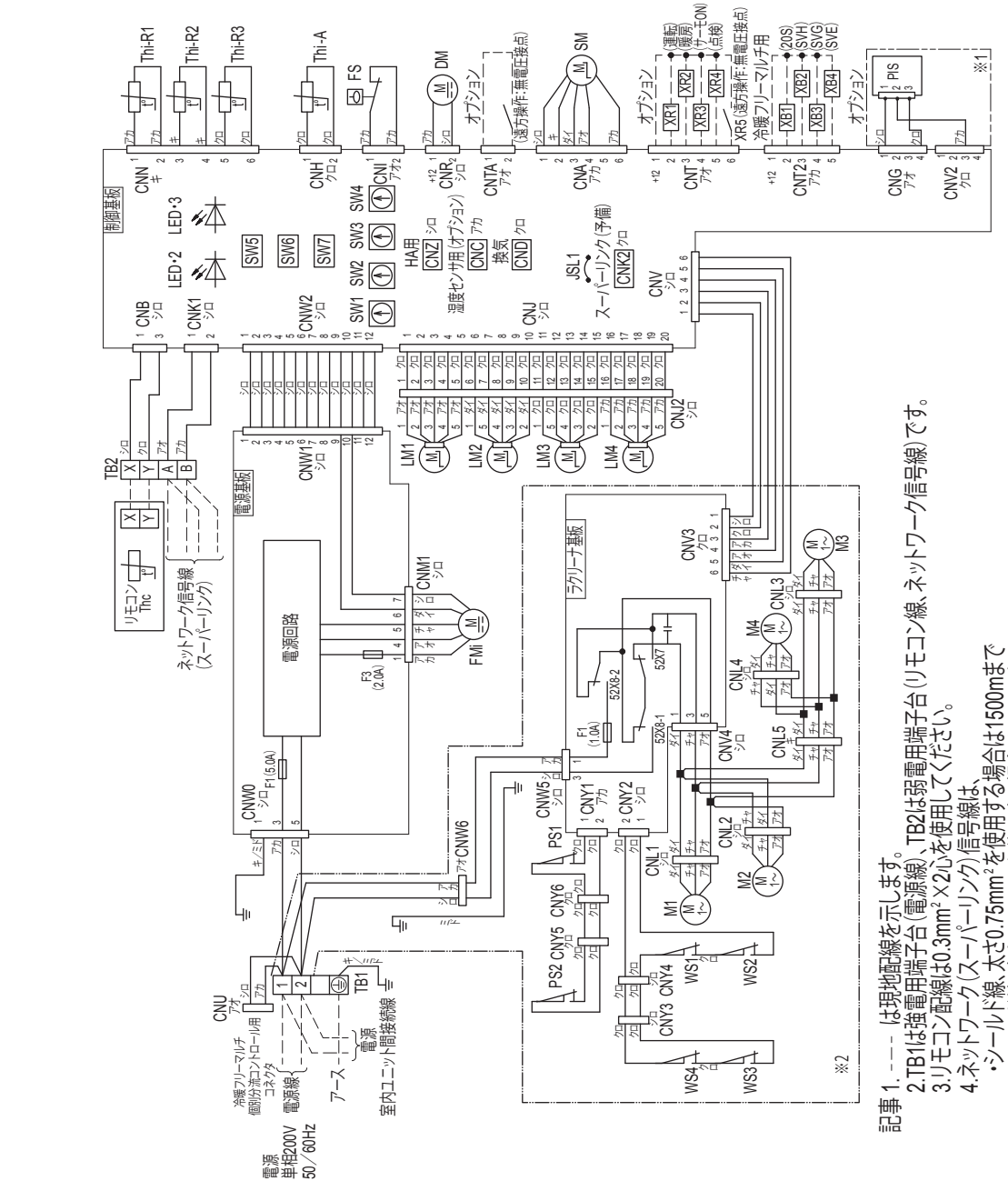
記事 1.- - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、信号線)です。
3.室内外接続線(信号線)および室内ユニット間接続線(信号線)は、
・シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで
4.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
5.リモコン配線、信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。

PJF000Z584

(3) 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

●記号説明

記号	名称
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3	ヒューズ
FMi	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
LED･2	表示灯(緑･マイコン正常表示)
LED･3	表示灯(赤･点検表示)
LM1~4	ルーバモータ
M1~4	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS1,2	パネルスイッチ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.100の位
SW4	室外アドレスNo.10の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定/旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック･ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
WS1~4	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1~4用リレー



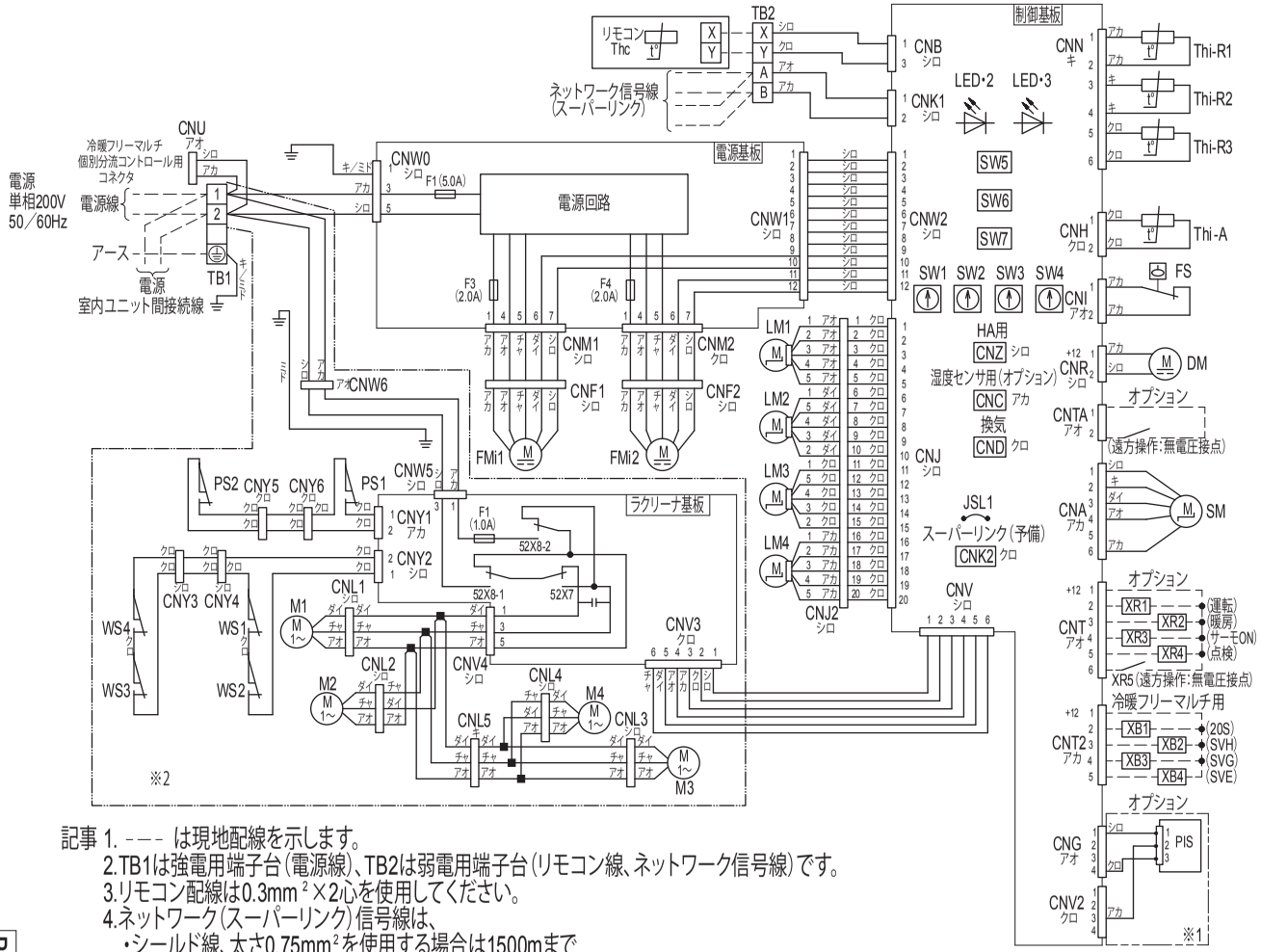
記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
- シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
- シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
- シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで

5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。
7.ラクリーナパネルを使用しない場合は、※2箇所のパネル基板および配線はありません。

FDTWP225, 285, 365, 455, 565, 715, 805LXA

PJB001Z819

PJB001Z821 A



記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。
7.ラクリーナパネルを使用しない場合は、※2箇所のパネル基板および配線はありません。

●記号説明

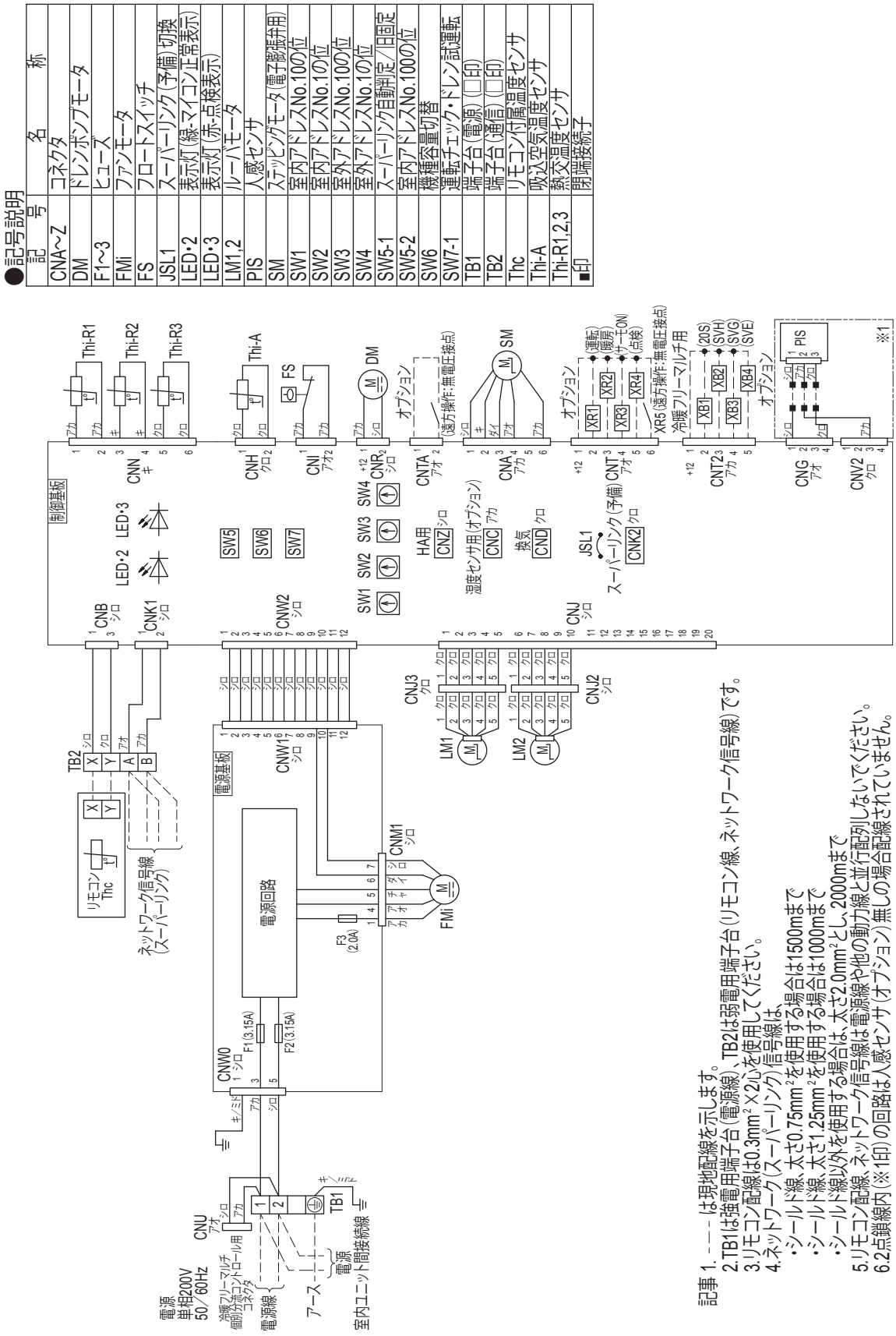
記　号	名　　称
CNA～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
LM1～4	ルーバモータ
M1～4	ラクリーナモータ
PIS	人感センサ
PS1,2	パネルスイッチ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
WS1～4	ラクリーナワイヤゆるみ検知スイッチ
■印	閉端接続子
52X7	正逆転用リレー
52X8-1,2	M1～4用リレー

PJB001Z820
PJB001Z822 A

(4) 天井埋込形 1 方向吹出し（FDTS）

(a) 天井埋込仕様（直吹き）

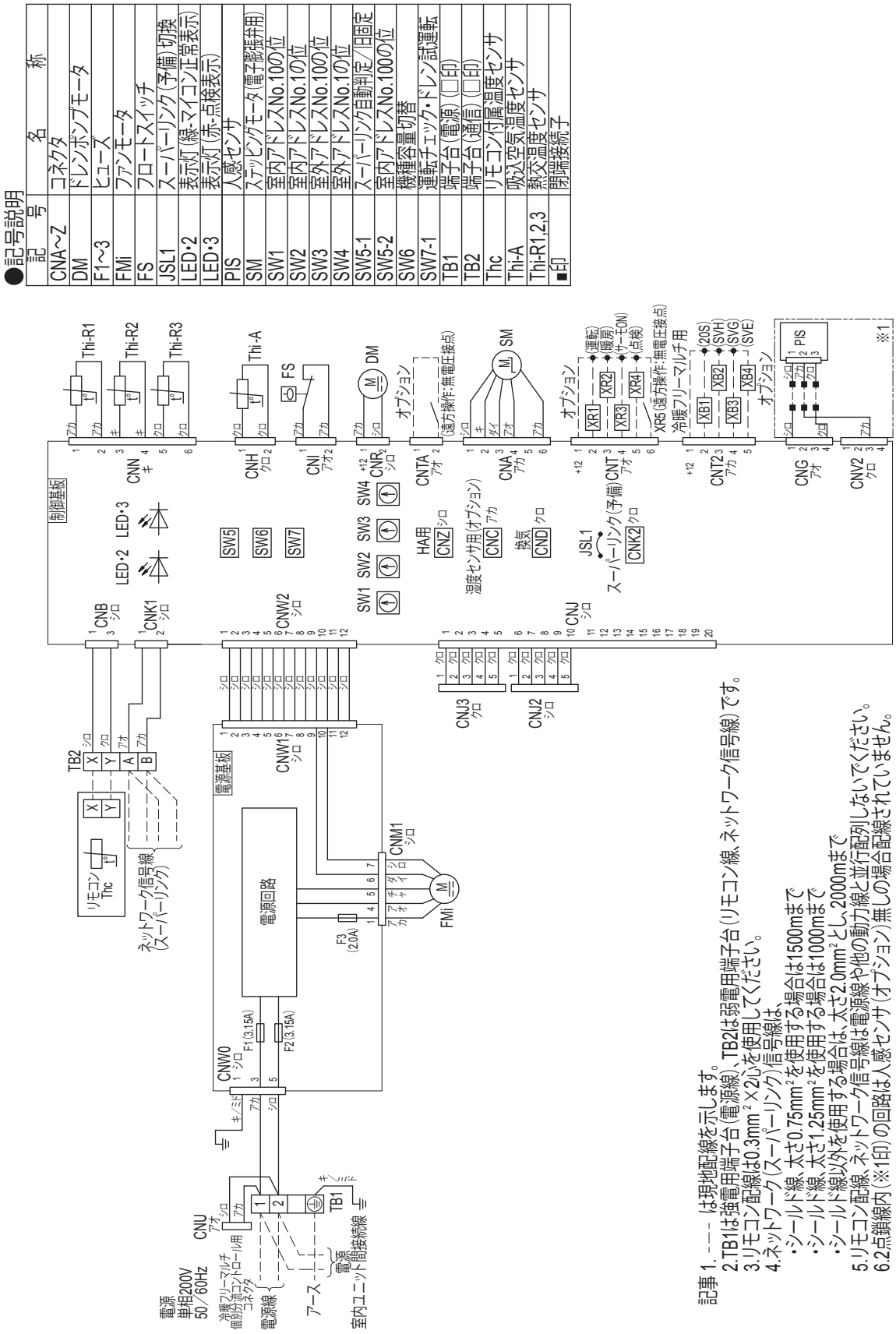
・全形式



PJC001Z426

(b) 下がり天井仕様

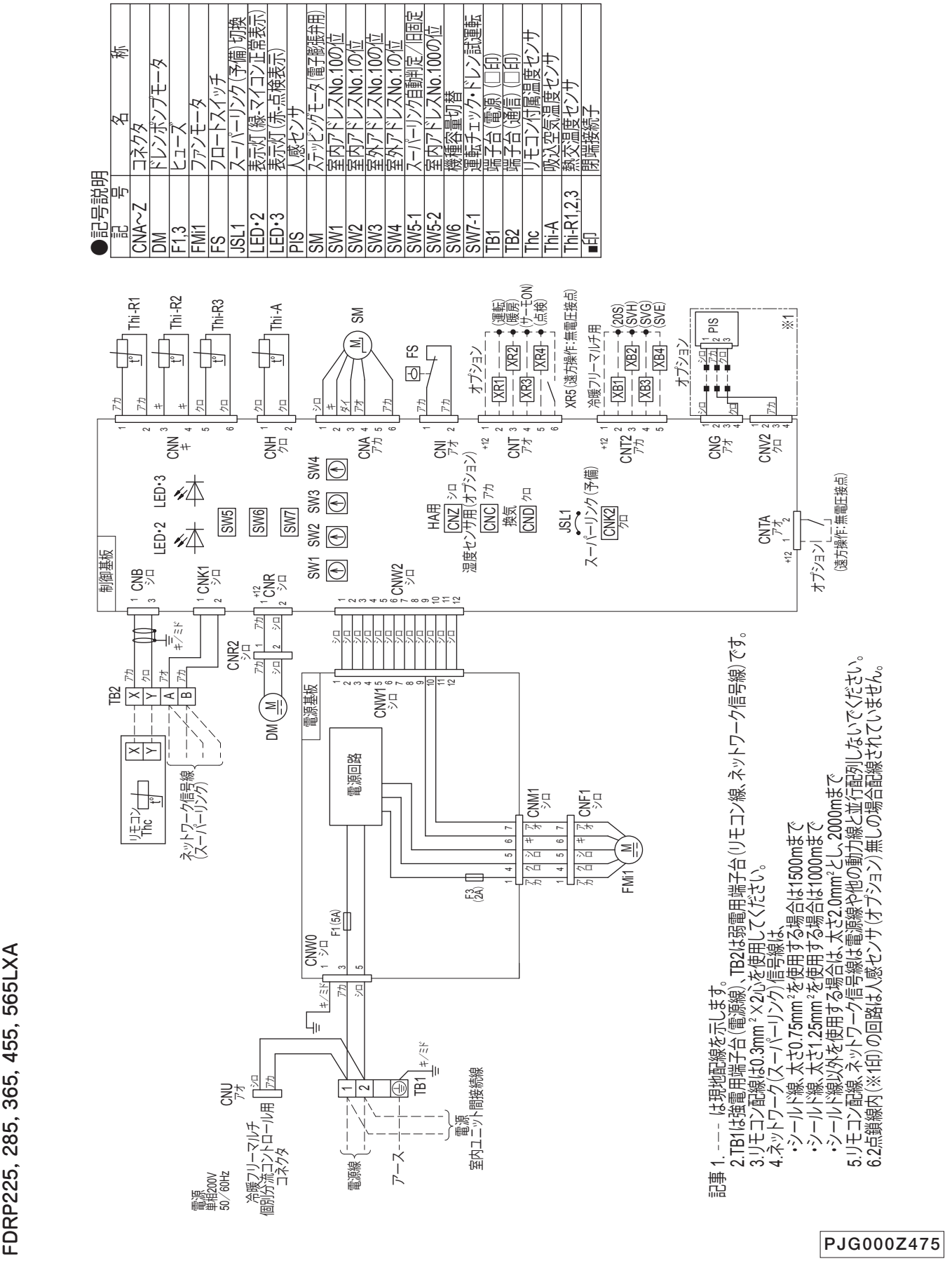
・全形式



PJC001Z427

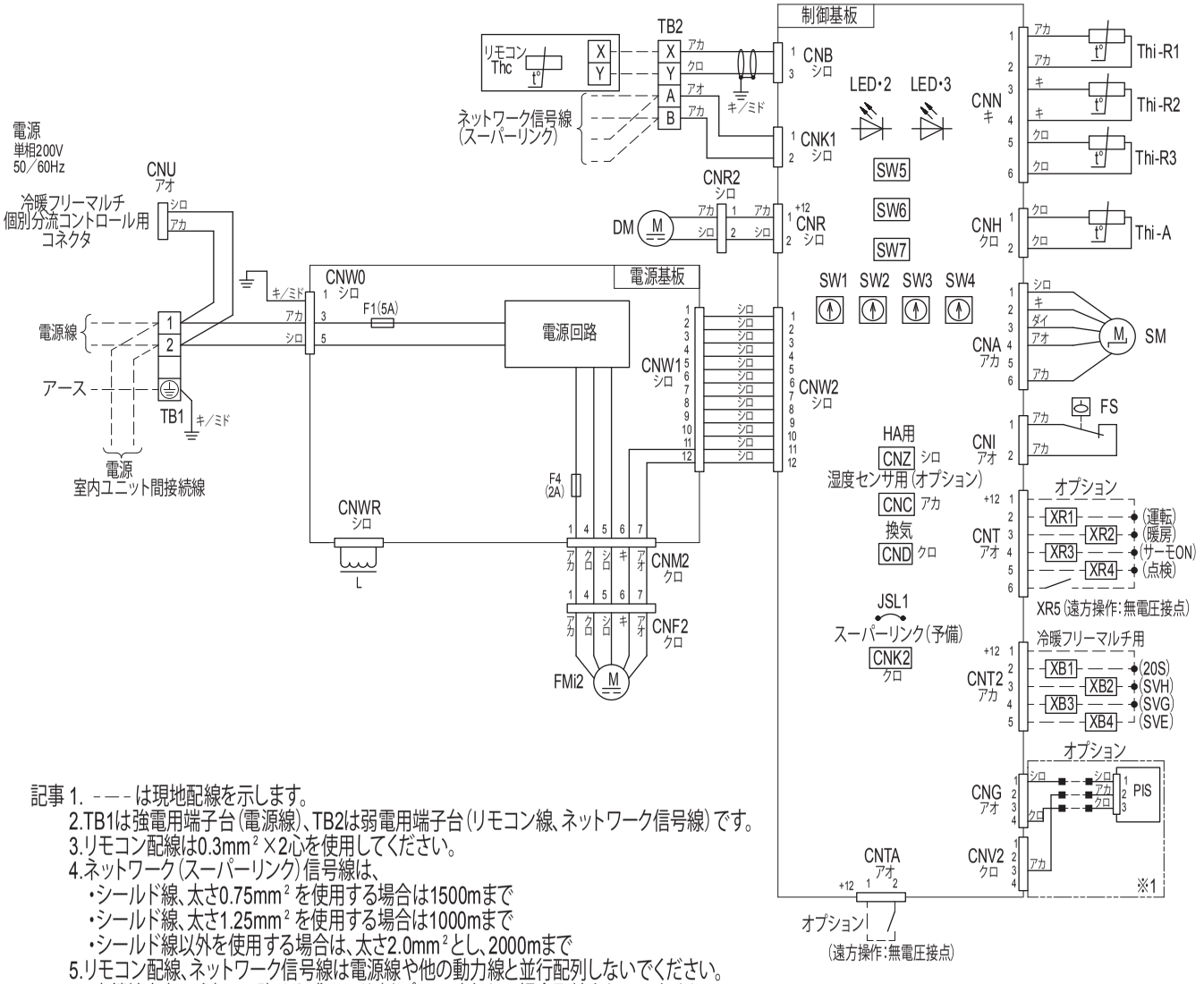
(5) 天埋カセテリア（FDR）

FDRP225, 285, 365, 455, 565LXA



記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

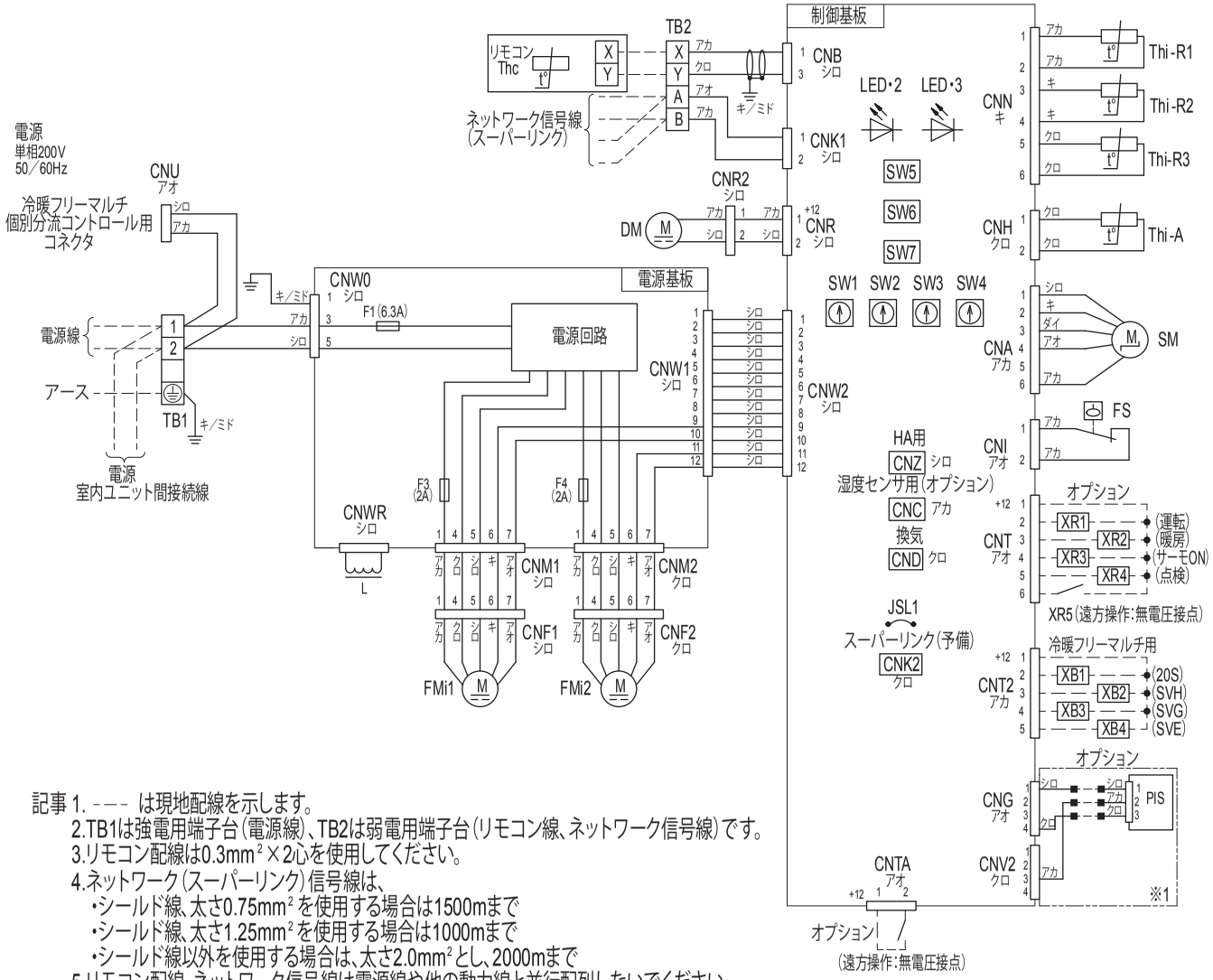
PJG000Z475



●記号説明

記　号	名　称
CNA～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,4	ヒューズ
FMi2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
L	リアクタ
LED･2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED･3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック･ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm^2×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm^{2}を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm^{2}を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm^{2}とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。



●記号説明

記　号	名　称
CNA～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

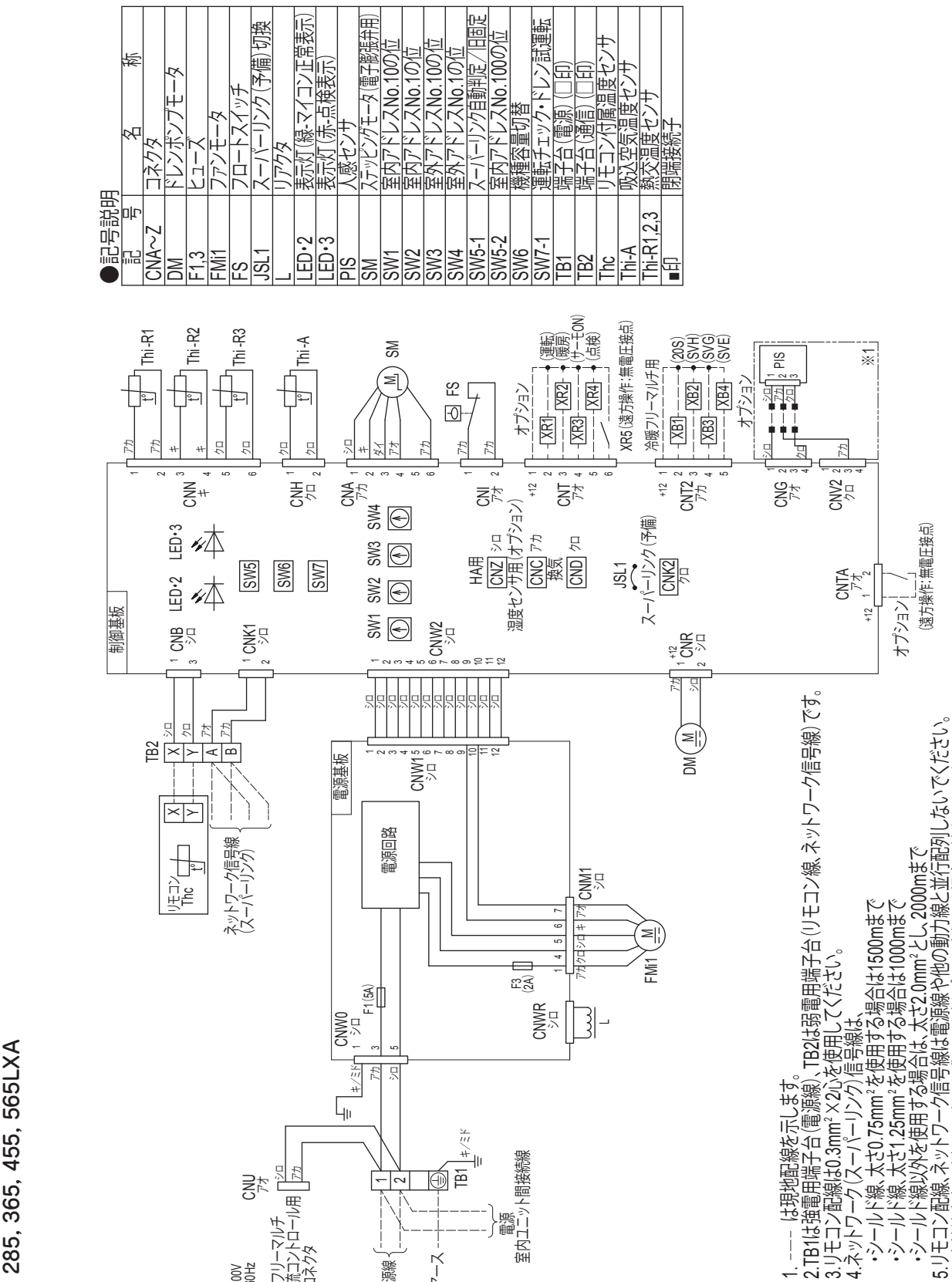
記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm^2×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm^{2}を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm^{2}を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm^{2}とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

(6) 高静圧ダクト形（FDU）

FDUP225, 285, 365, 455, 565LXA

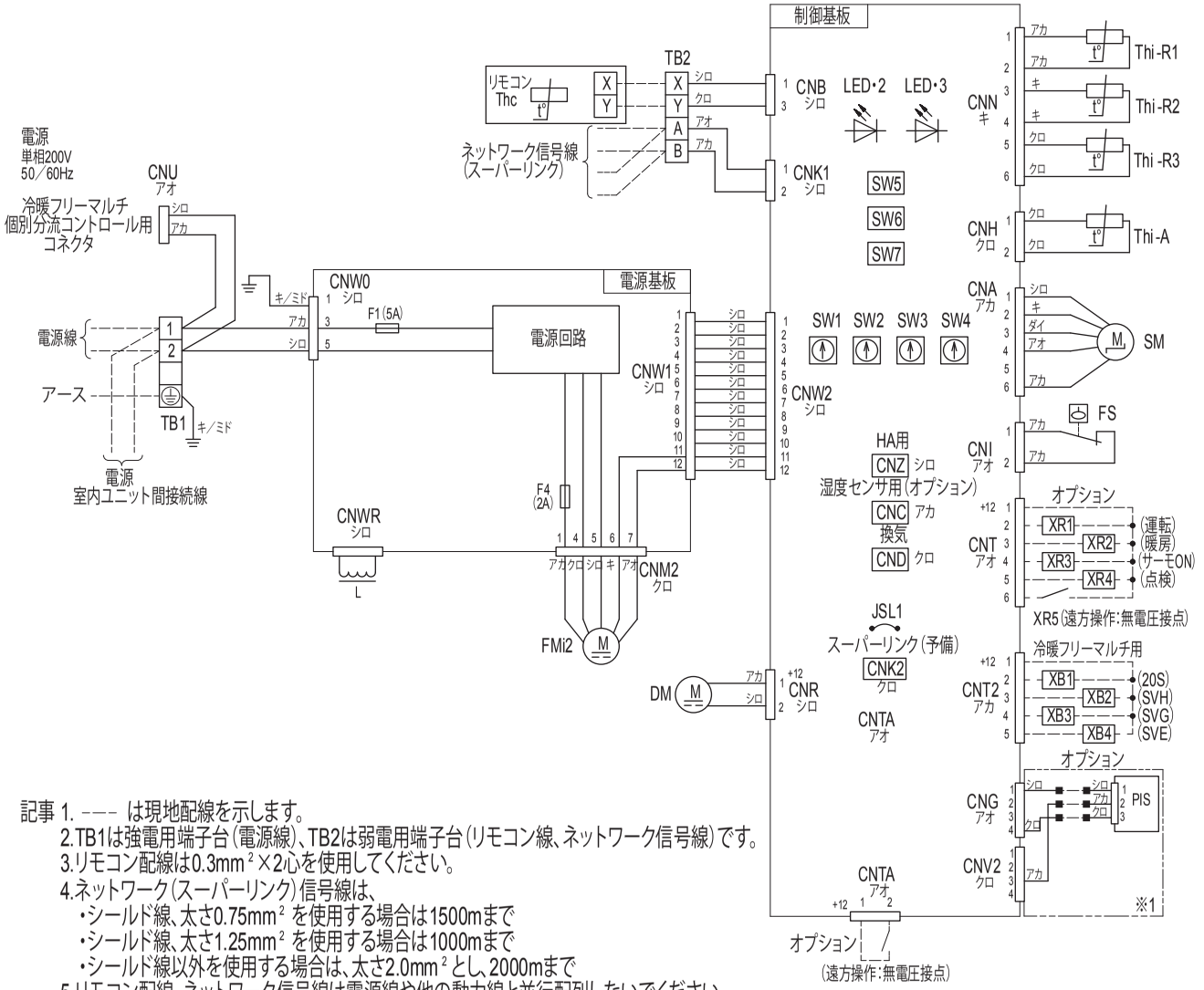
●記号説明

記号	名称
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3	ヒューズ
FMi1	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク（予備）切換
L	リアクタ
LED･2	表示灯（緑-マイコン正常表示）
LED･3	表示灯（赤-点検表示）
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ（電子膨張弁用）
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台（電源）□印
TB2	端子台（通信）□印
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子



記事 1. ---- は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（電源線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線、ネットワーク信号線）です。
3.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
4.ネットワーク（スーパーリンク）信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内（※1印）の回路は人感センサ（オプション）無しの場合配線されていません。

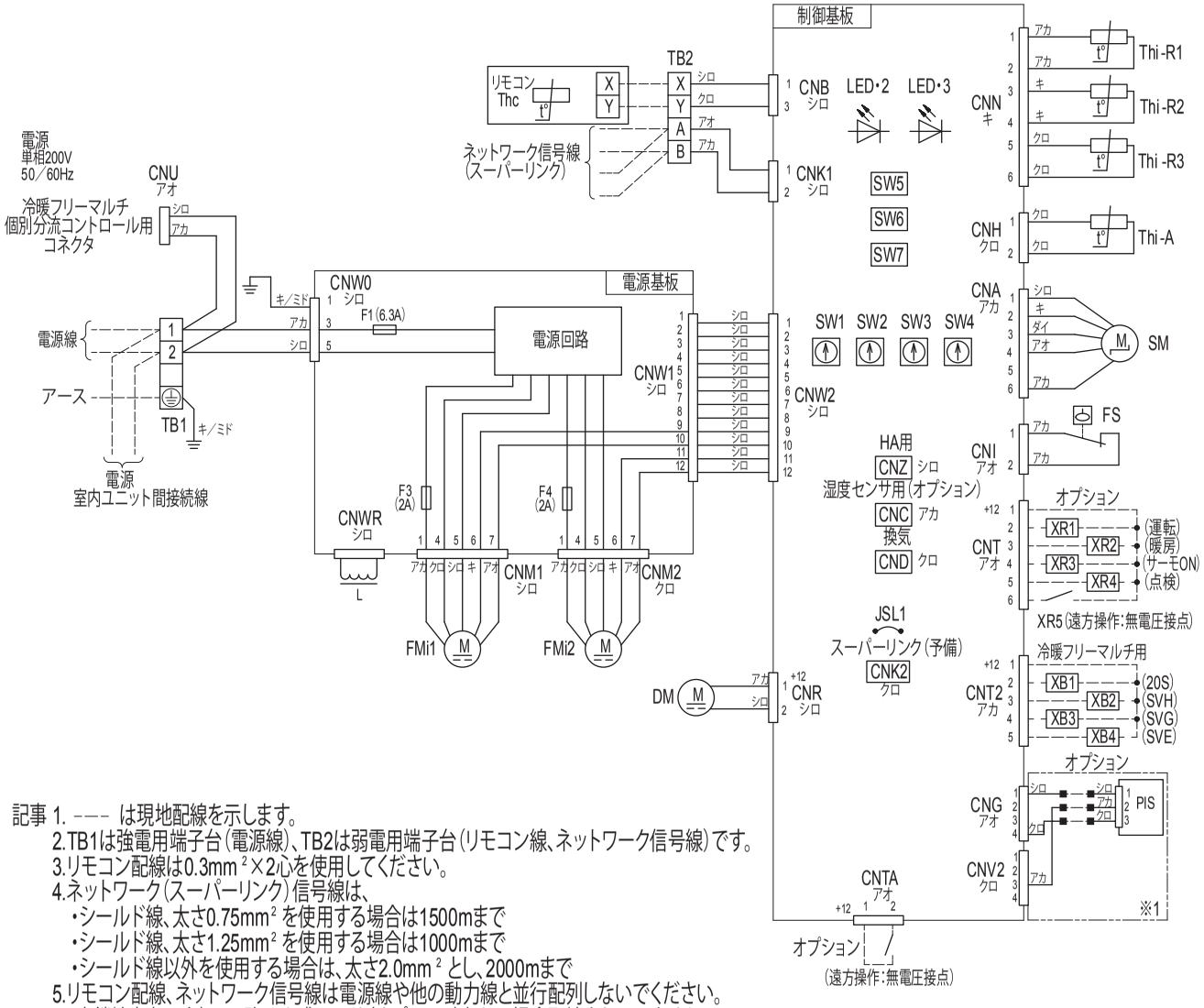
PJG000Z478



記事 1. ---- は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm^2×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm^2 を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm^2 を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm^2 とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

●記号説明

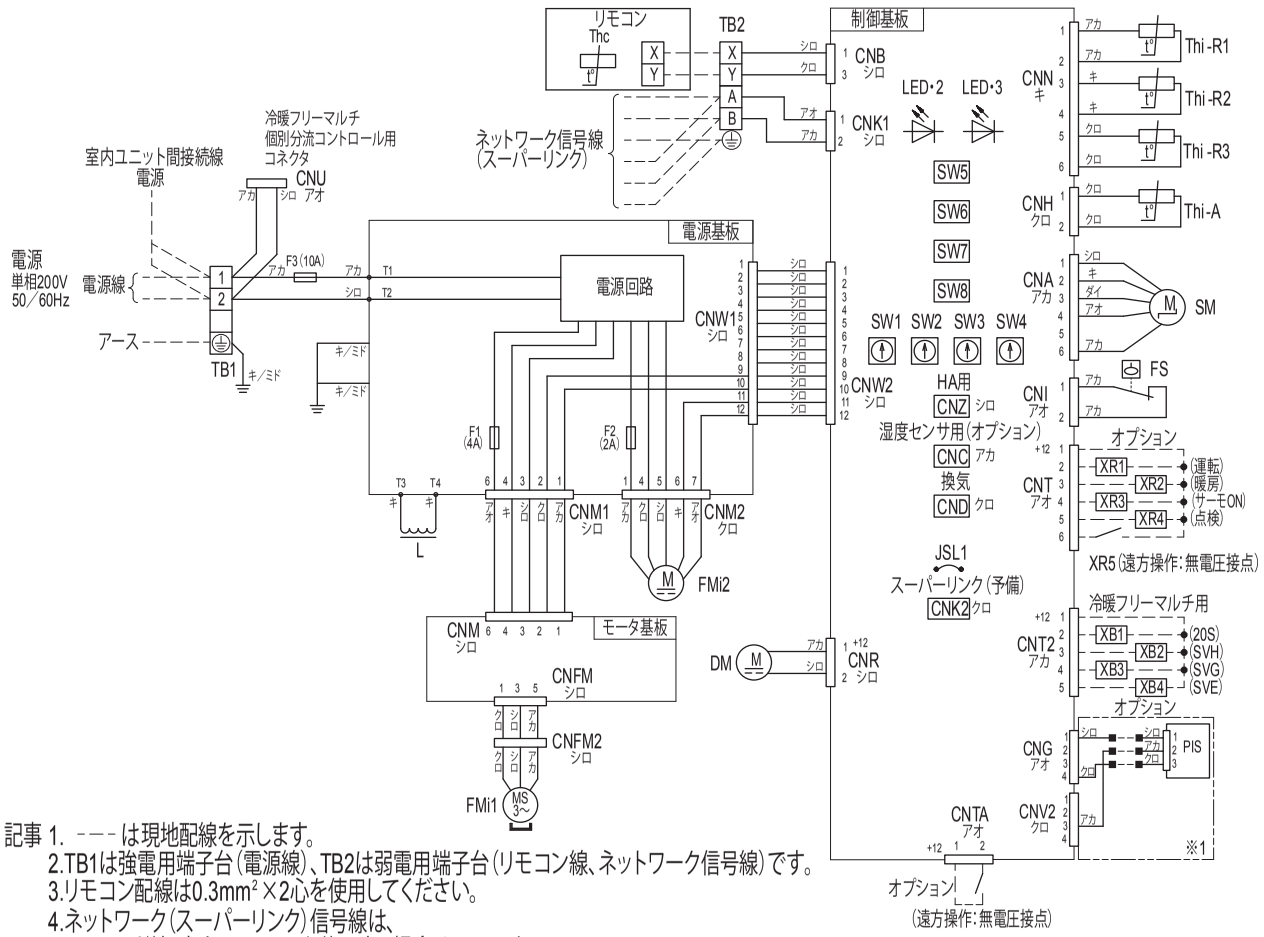
記　号	名　称
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,4	ヒューズ
FMi2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子



記事 1. ---- は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

●記号説明

記　号	名　称
CNA～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
L	リアクタ
LED･2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED･3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック･ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子



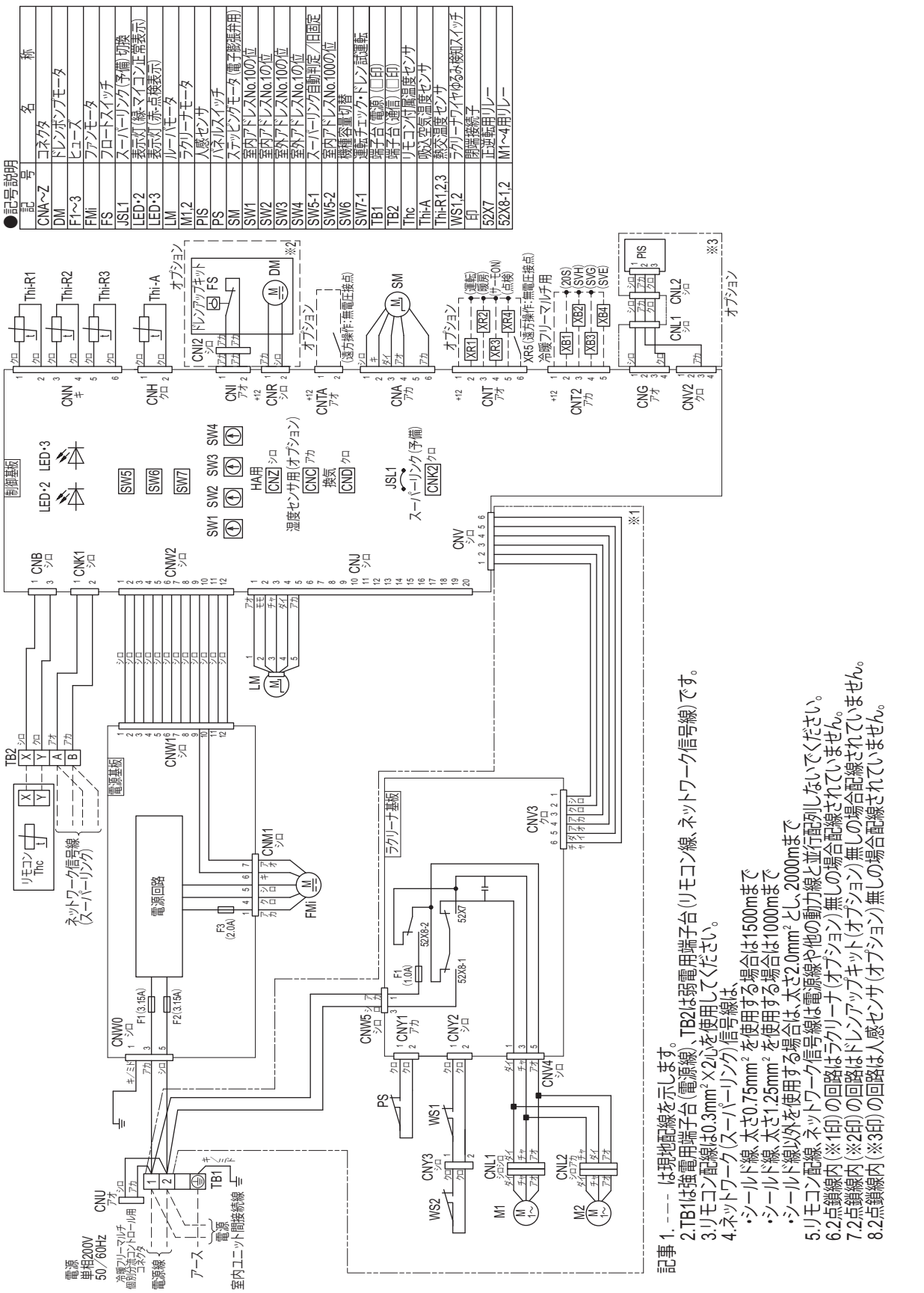
記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm² ×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm² を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm² を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm² とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

●記号説明

記　号	名　称
CNA～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1～3	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
SW8-4	機外静圧使用範囲切替 出荷時／最大
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

(7) 天吊形（FDE）

FDEP365, 455, 565, 715, 805, 905, 1125, 1405, 1605LXA



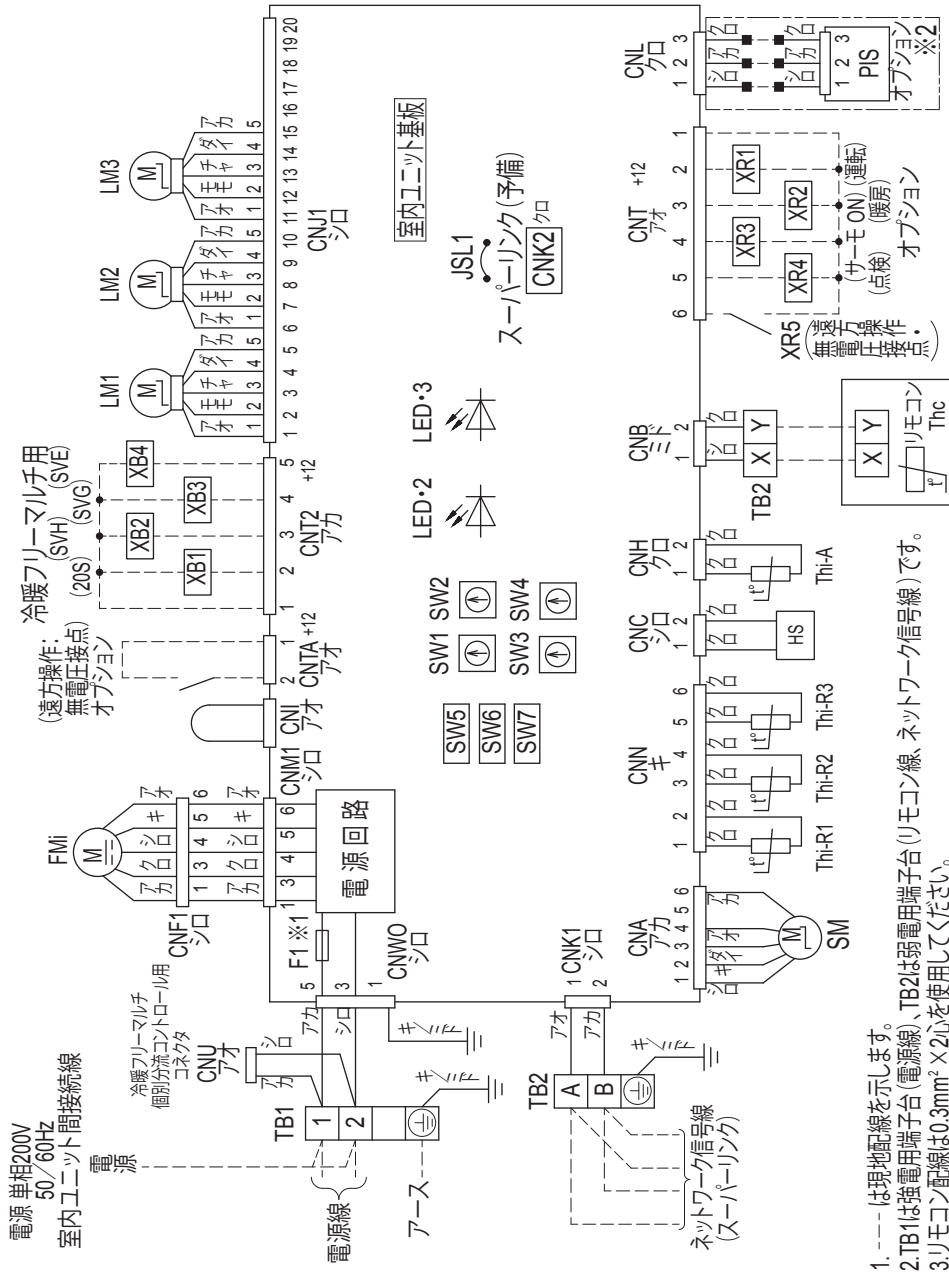
PFA004Z083 A

(8) 壁掛形（FDK）

FDKP285, 365, 455, 565, 715LXA

●記号説明

記　号	名　称
CNA~Z	コネクタ
F1	ヒューズ
FMi	ファンモータ
HS	湿度センサ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
LED･2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED･3	表示灯(赤-点検表示)
LM1	フラップモータ
LM2	ルーバモータ(左)
LM3	ルーバモータ(右)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5 -1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5 -2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7 -1	運転チェック
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子



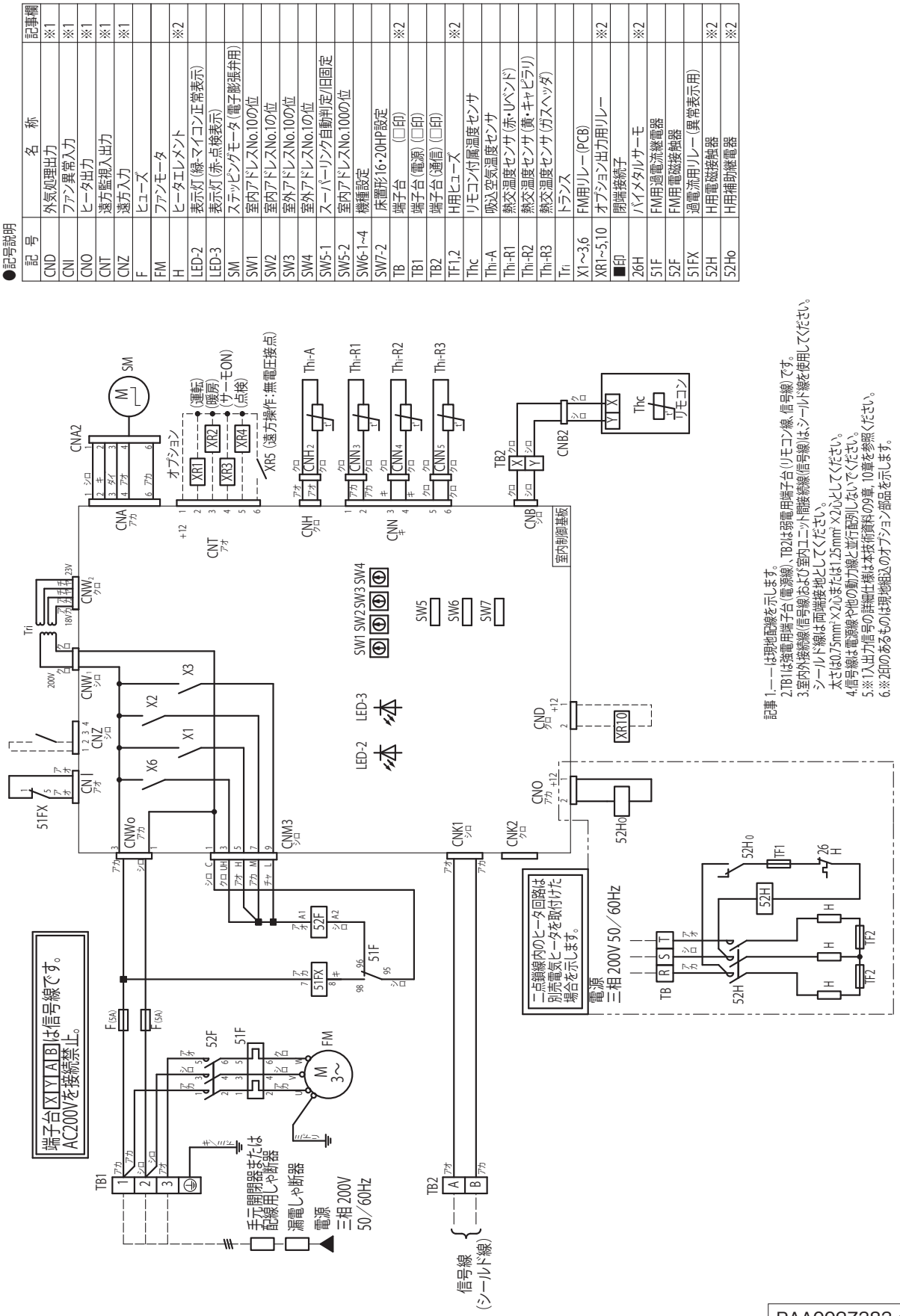
記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm² X2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.ヒューズ(F1)(※1)は、FDKP285~565の場合は3.15A、FDKP715の場合は5Aです。
7.2点鎖線内(※2印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

PHA001Z138

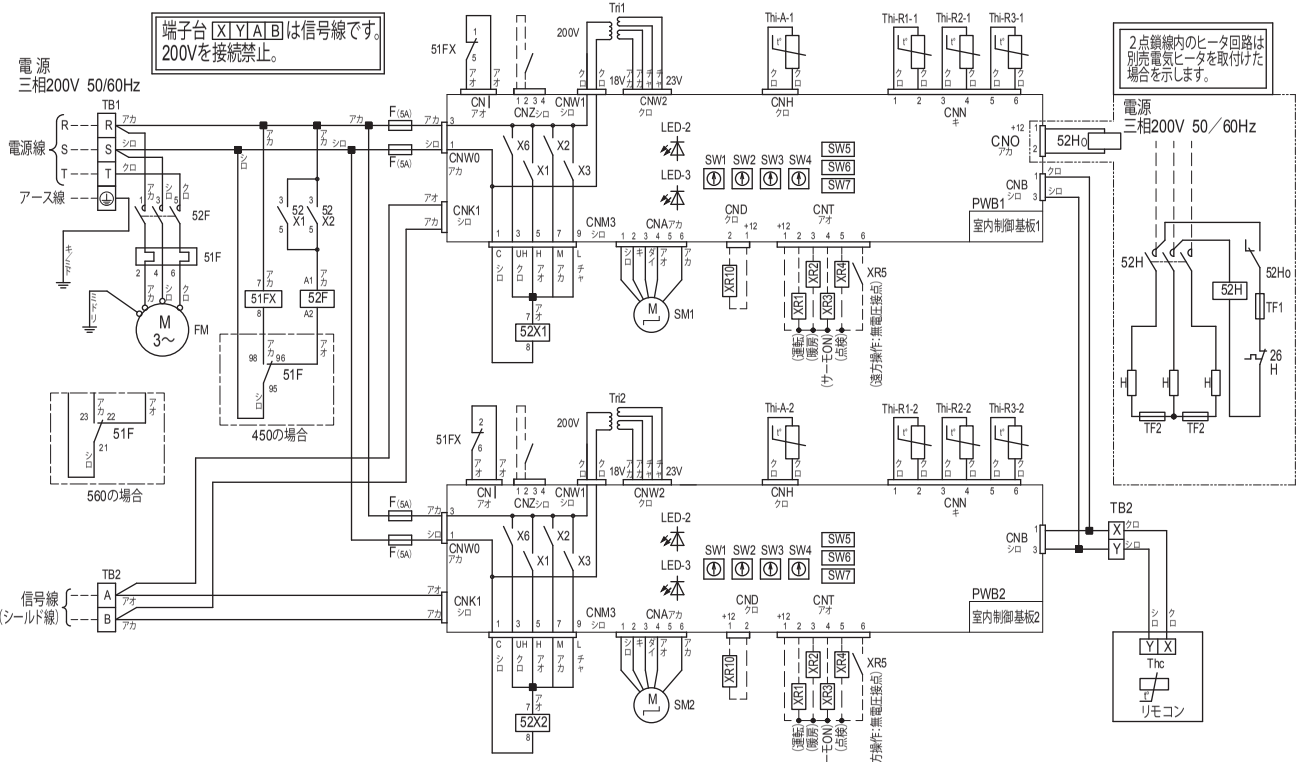
(9) 床置ダクト形（FDAS）

●記号説明

記号	名称	記事欄
CND	外気処理出力	※1
CNI	ファン異常入力	※1
CNO	ヒータ出力	※1
CNT	遠方監視入出力	※1
CNZ	遠方入力	※1
F	ヒューズ	
FM	ファンモータ	
H	ヒータエレメント	※2
LED-2	表示灯（緑・マイコン正常表示）	
LED-3	表示灯（赤・点検表示）	
SM	ステッピングモータ（電子膨張弁用）	
SW1	室内アドレスNo.10の位	
SW2	室内アドレスNo.1の位	
SW3	室外アドレスNo.10の位	
SW4	室外アドレスNo.1の位	
SW5-1	スーパーリンク自動判定/旧固定	
SW5-2	室内アドレスNo.100の位	
SW6-1~4	機種設定	
SW7-2	床置形16・20HP設定	
TB	端子台　（□印）	※2
TB1	端子台（電源）（□印）	
TB2	端子台（通信）（□印）	
TF1,2	H用ヒューズ	※2
Thc	リモコン付属温度センサ	
Th-A	吸込空気温度センサ	
Th-R1	熱交温度センサ（赤・Uベンド）	
Th-R2	熱交温度センサ（黄・キャピラリ）	
Th-R3	熱交温度センサ（ガスヘッダ）	
Tri	トランス	
X1~3,6	FM用リレー（PCB）	
XR1~5,10	オプション出力用リレー	※2
■印	閉端接続子	
26H	バイメタルサーモ	※2
51F	FM用過電流継電器	
52F	FM用電磁接触器	
51FX	過電流用リレー（異常表示用）	
52H	H用電磁接触器	※2
52Ho	H用補助継電器	※2



PAA002Z383△A

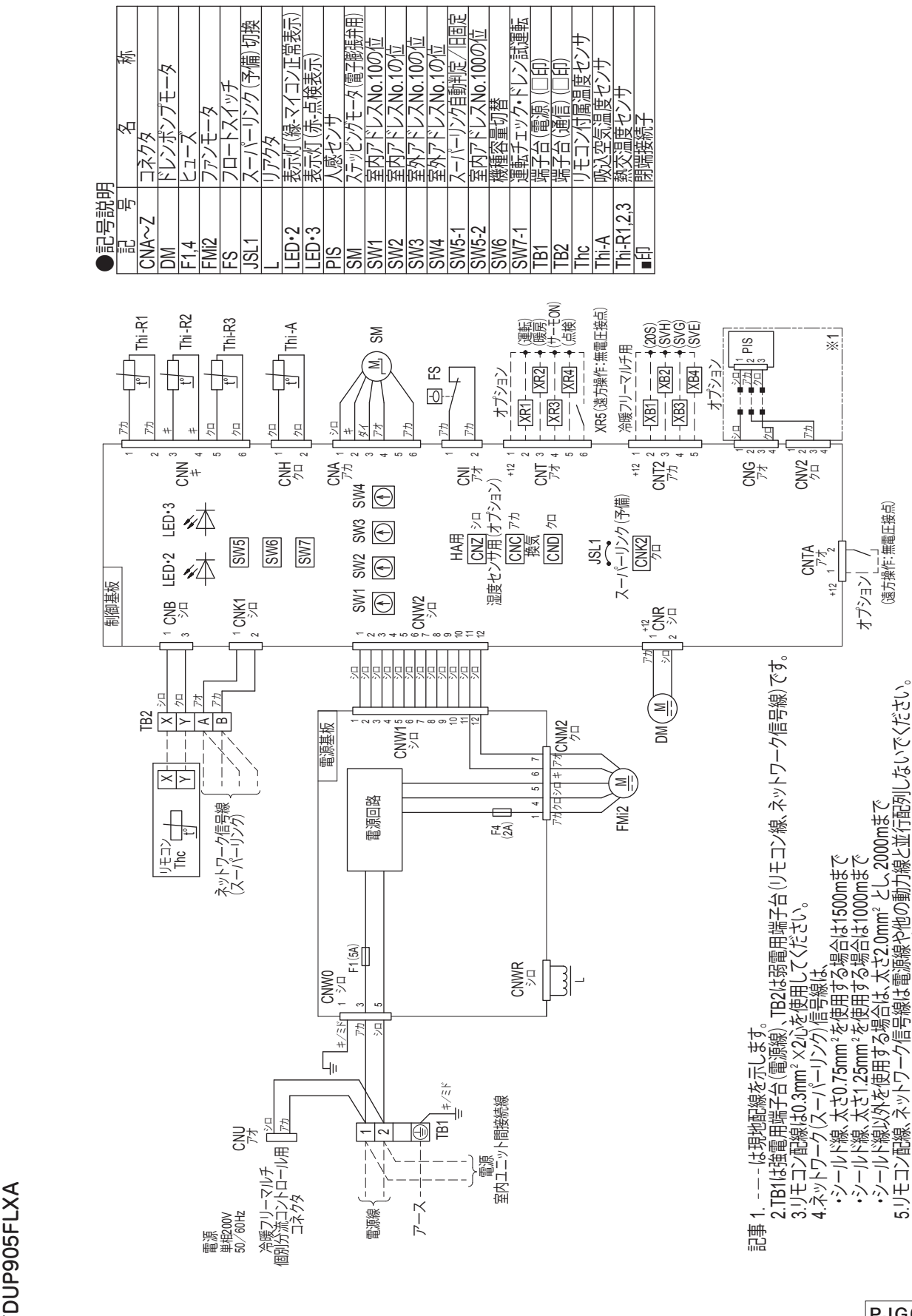


●記号説明

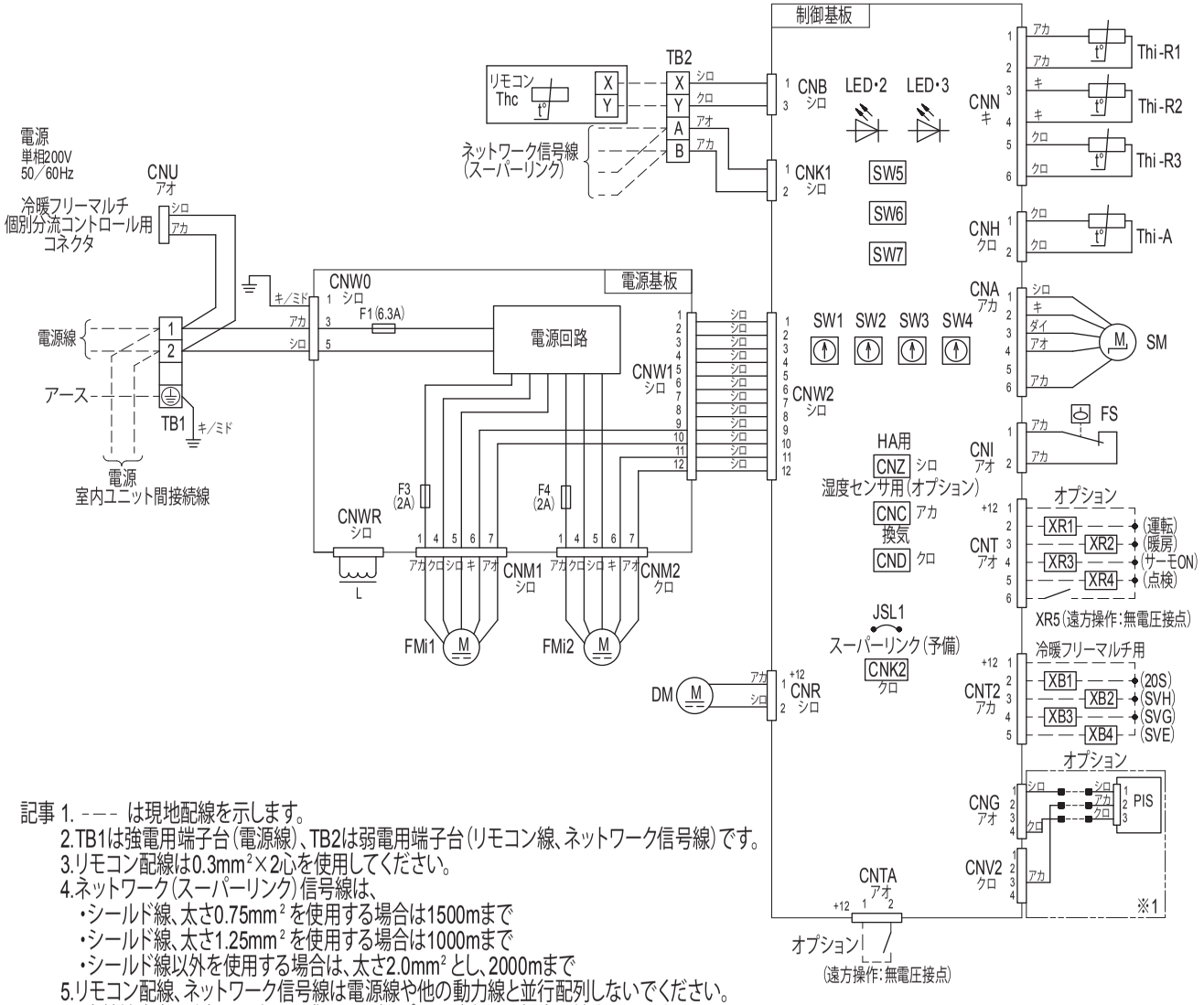
記　号	名　　称	PWB1	PWB2	記事欄
CND	外気処理出力	●	●	※1
CNI	ファン異常入力	●	●	※1
CNO	ヒータ出力	●	-	※1
CNT	遠方監視入出力	●	●	※1
CNZ	遠方入力	●	●	※1
F	ヒューズ	-	-	
FM	ファンモータ	-	-	
H	ヒータエレメント	-	-	※2
LED-2	表示灯（緑-マイコン正常表示）	●	●	
LED-3	表示灯（赤-点検表示）	●	●	
SM1,2	ステッピングモータ（電子膨張弁用）	●	●	
SW1	室内アドレスNo.10の位	0	0	※3
SW2	室内アドレスNo.1の位	0	0	※3
SW3	室外アドレスNo.10の位	4	4	※3
SW4	室外アドレスNo.1の位	9	9	※3
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定	OFF	OFF	※3
SW5-2	室内アドレスNo.100の位	OFF	OFF	※3
SW6-1～4	機種設定	-	-	
SW7-2	床置形16・20HP設定	ON	ON	
TB1	端子台（電源）（□印）	-	-	
TB2	端子台（通信）（□印）	-	-	
TF1,2	H用ヒューズ	-	-	※2
Thc	リモコン付属温度センサ	-	-	
Thi-A1,2	吸込空気温度センサ	●	●	
Thi-R1-1,2	熱交温度センサ（赤・Uベンド）	●	●	
Thi-R2-1,2	熱交温度センサ（黄・キャピラリ）	●	●	
Thi-R3-1,2	熱交温度センサ（ガスヘッダ）	●	●	
Tri1,2	トランス	●	●	
X1～3,6	FM用リレー（PCB）	●	●	
XR1～5,10	オプション出力用リレー	-	-	※2
■印	閉端接続子	-	-	
26H	バイメタルサーモ	-	-	※2
51F	FM用過電流継電器	-	-	
52F	FM用電磁接触器	-	-	
51FX	過電流用リレー（異常表示用）	-	-	
52H	H用電磁接触器	-	-	※2
52Ho	H用補助継電器	-	-	※2
52X1,2	補助継電器	-	-	

記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台（電源線）、TB2は弱電用端子台（リモコン線、信号線）です。
3.室内外接続線（信号線）および室内機間接続線（信号線）は、シールド線を使用してください。シールド線は両端接地としてください。
太さは0.75mm² ×2心または1.25mm²×2心としてください。
4.信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
5.※1入出力信号の詳細仕様は本技術資料の9章, 10章を参照ください。
6.※2印のあるものは現地組込のオプション部品を示します。
7.※3印は、工場出荷時の設定を示します。

⑽ 給気処理ユニット（FDU-F）



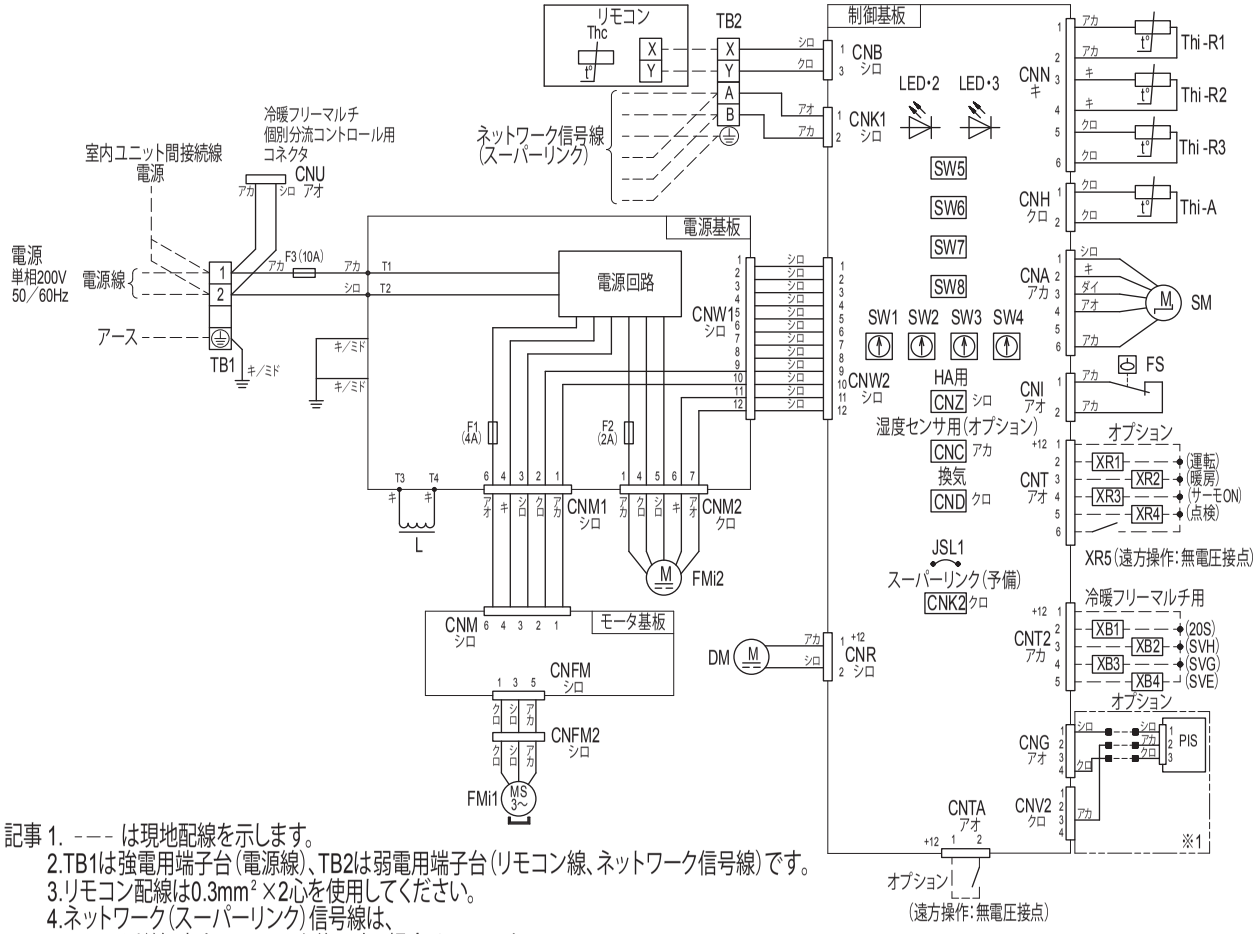
PJG000Z482



●記号説明

記　号	名　称
CNA～Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1,3,4	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
L	リアクタ
LED･2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED･3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック･ドレン試運転
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm²×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm²を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm²を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm²とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。



記事 1. - - - は現地配線を示します。
2.TB1は強電用端子台(電源線)、TB2は弱電用端子台(リモコン線、ネットワーク信号線)です。
3.リモコン配線は0.3mm² ×2心を使用してください。
4.ネットワーク(スーパーリンク)信号線は、
・シールド線、太さ0.75mm² を使用する場合は1500mまで
・シールド線、太さ1.25mm² を使用する場合は1000mまで
・シールド線以外を使用する場合は、太さ2.0mm² とし、2000mまで
5.リモコン配線、ネットワーク信号線は電源線や他の動力線と並行配列しないでください。
6.2点鎖線内(※1印)の回路は人感センサ(オプション)無しの場合配線されていません。

●記号説明

記　号	名　称
CNA~Z	コネクタ
DM	ドレンポンプモータ
F1~3	ヒューズ
FMi1,2	ファンモータ
FS	フロートスイッチ
JSL1	スーパーリンク(予備)切換
L	リアクタ
LED・2	表示灯(緑-マイコン正常表示)
LED・3	表示灯(赤-点検表示)
PIS	人感センサ
SM	ステッピングモータ(電子膨張弁用)
SW1	室内アドレスNo.10の位
SW2	室内アドレスNo.1の位
SW3	室外アドレスNo.10の位
SW4	室外アドレスNo.1の位
SW5-1	スーパーリンク自動判定／旧固定
SW5-2	室内アドレスNo.100の位
SW6	機種容量切替
SW7-1	運転チェック・ドレン試運転
SW8-4	機外静圧使用範囲切替 出荷時／最大
TB1	端子台(電源)(□印)
TB2	端子台(通信)(□印)
Thc	リモコン付属温度センサ
Thi-A	吸込空気温度センサ
Thi-R1,2,3	熱交温度センサ
■印	閉端接続子

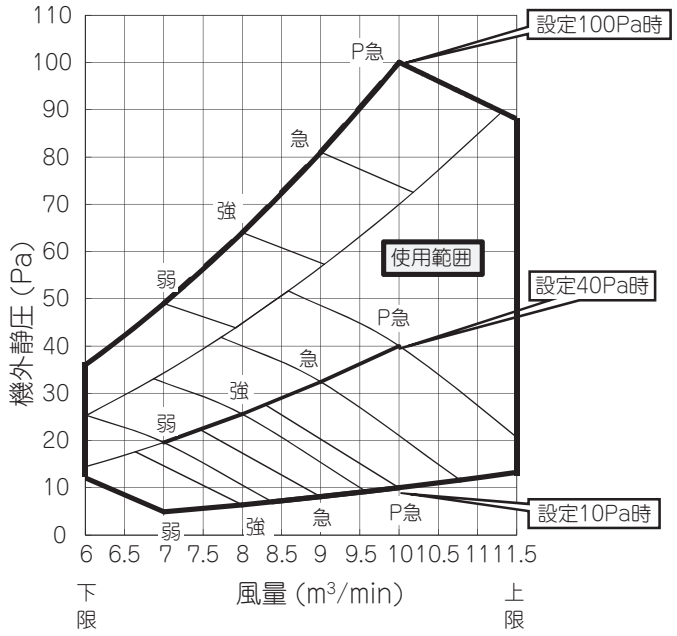
4. 送風機特性

(1) 天埋カセテリア（FDR）

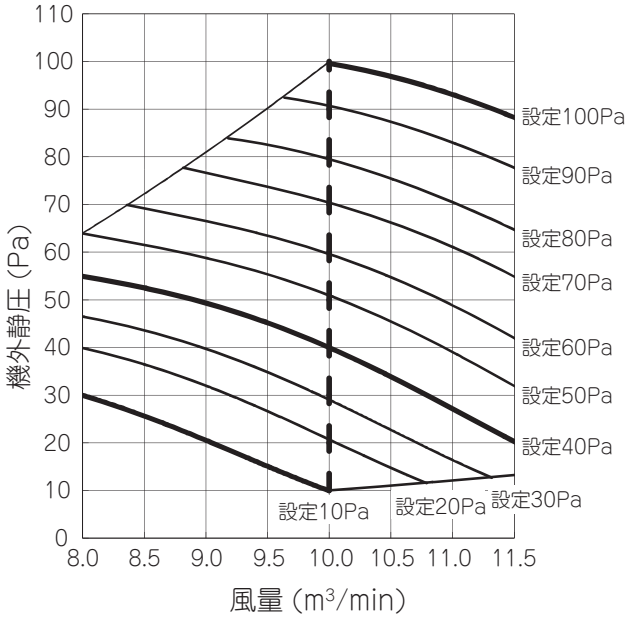
(a) サイレントパネル・キャンバスパネル仕様

FDRP225LXA

①各タップの機外静圧特性



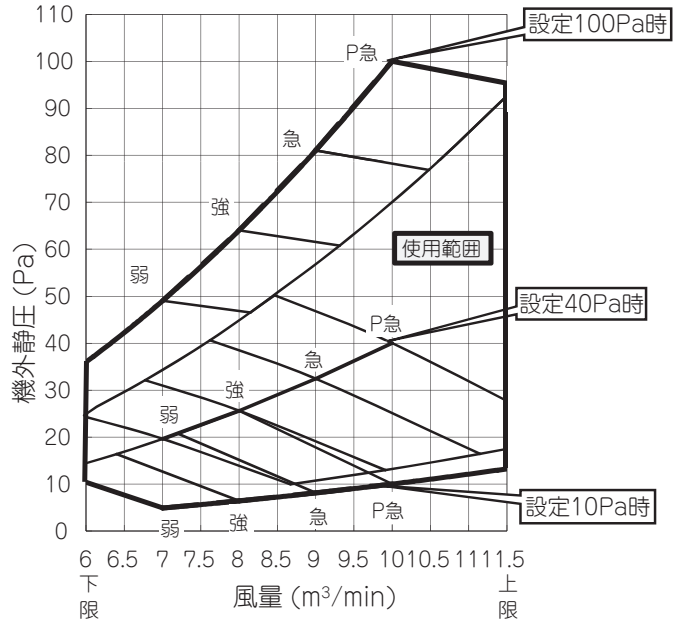
②P急タップの機外静圧特性



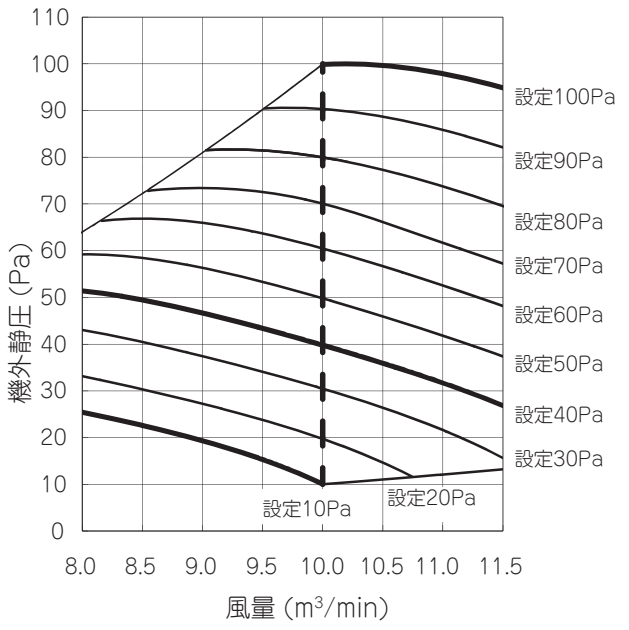
注(1)　表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

FDRP285LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

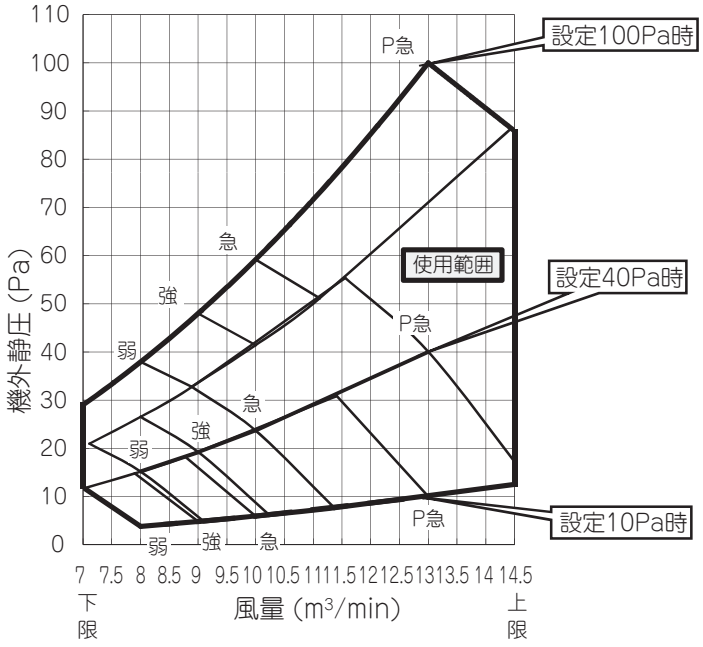


注(1)　表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

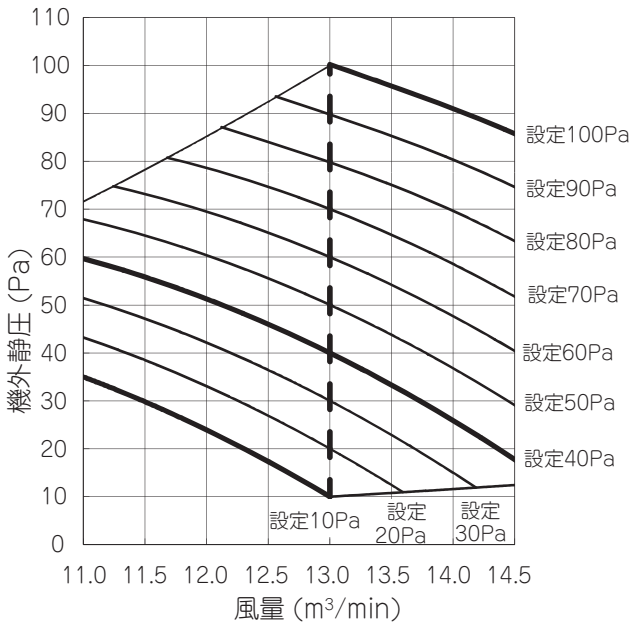
PJG000Z193

FDRP365, 455, 565LXA

①各タップの機外静圧特性



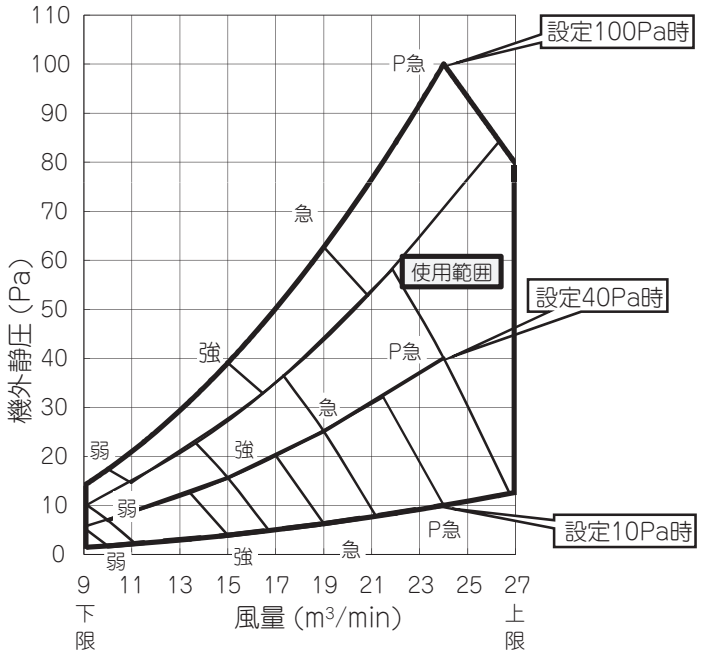
②P急タップの機外静圧特性



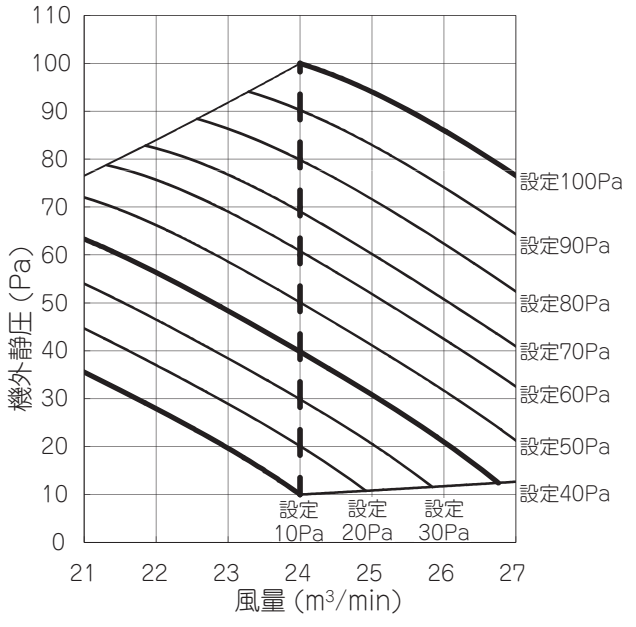
注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

FDRP715, 805, 905LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

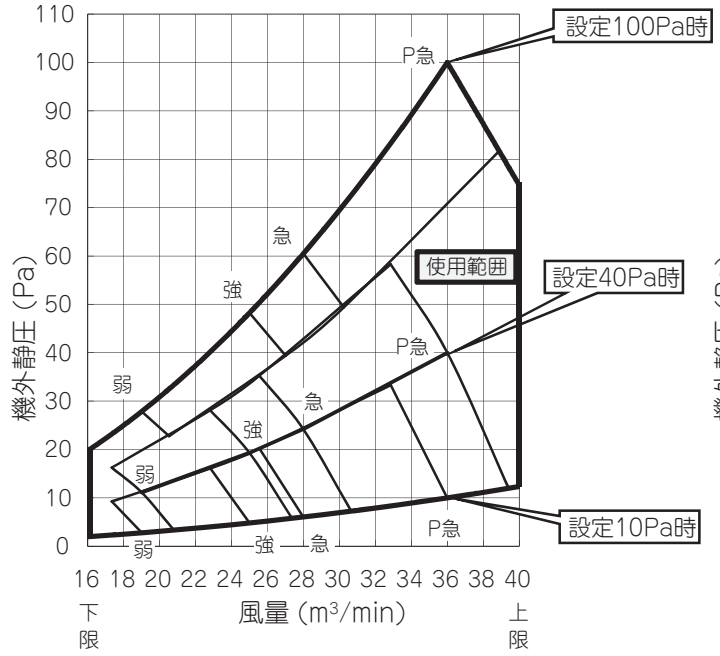


注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

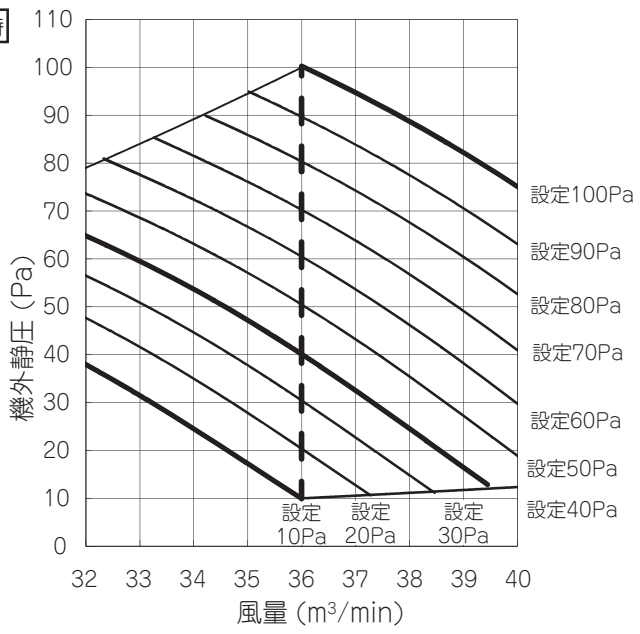
PJG000Z193

FDRP1125LXA

①各タップの機外静圧特性



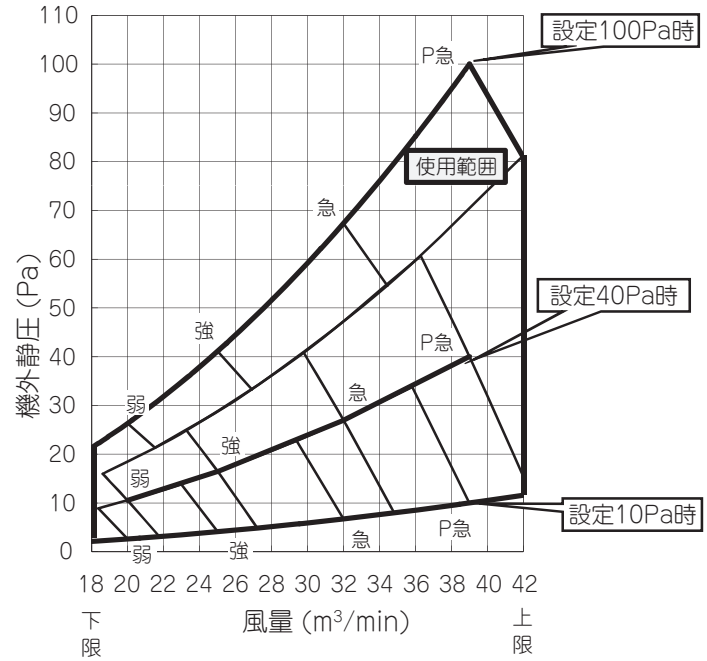
②P急タップの機外静圧特性



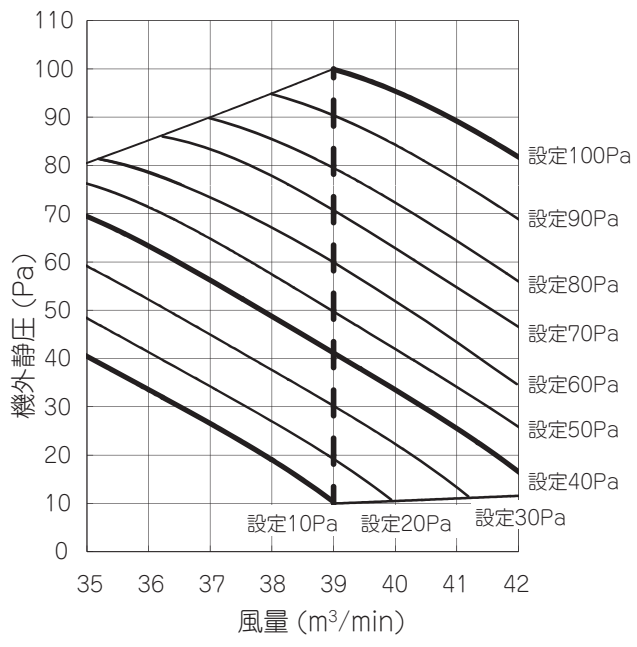
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

FDRP1405LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



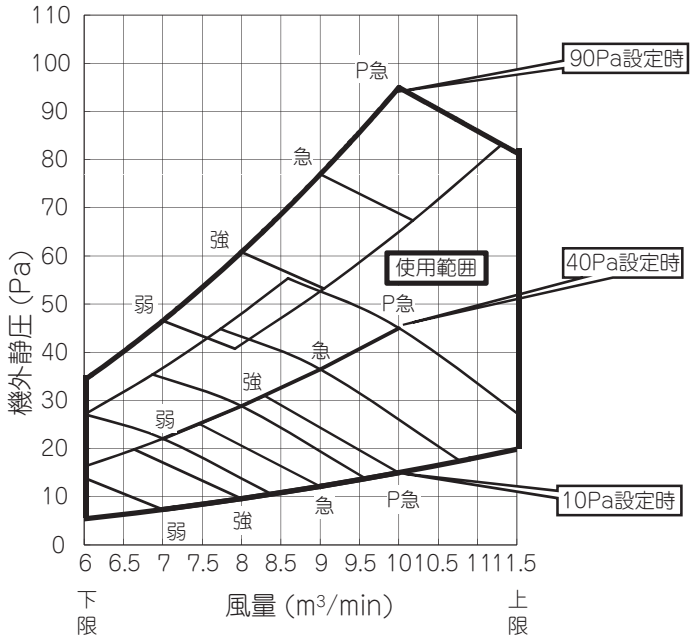
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。

PJG000Z193

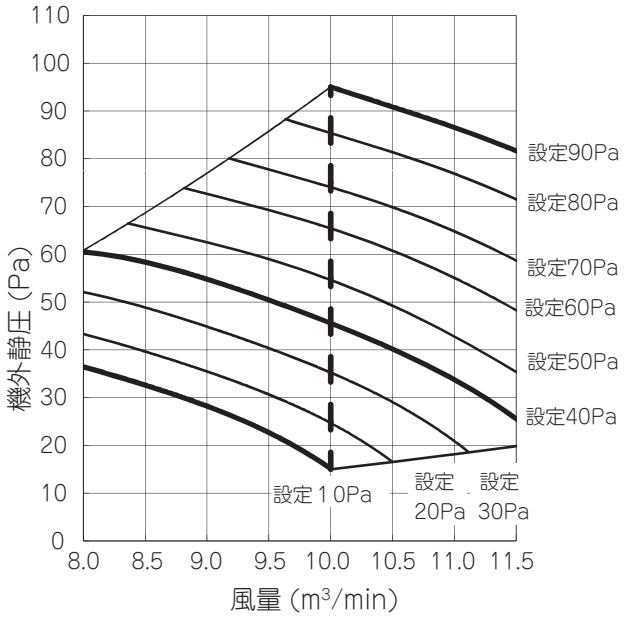
(b) 天井リターン仕様

FDRP225LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

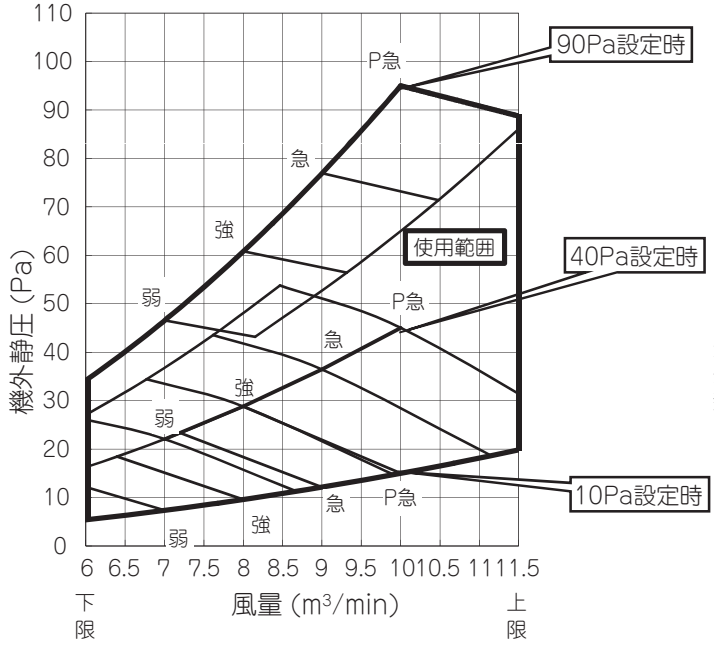


注(1) 表中の [設定00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) 専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3) 天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 234 ページをご覧ください。

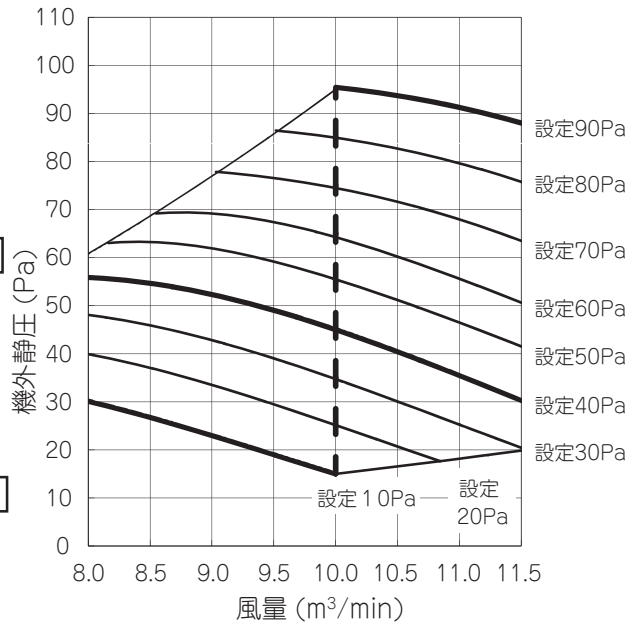
必要な機外静圧 (Pa)	15	25	35	45	55	65	75	85	95
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

FDRP285LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



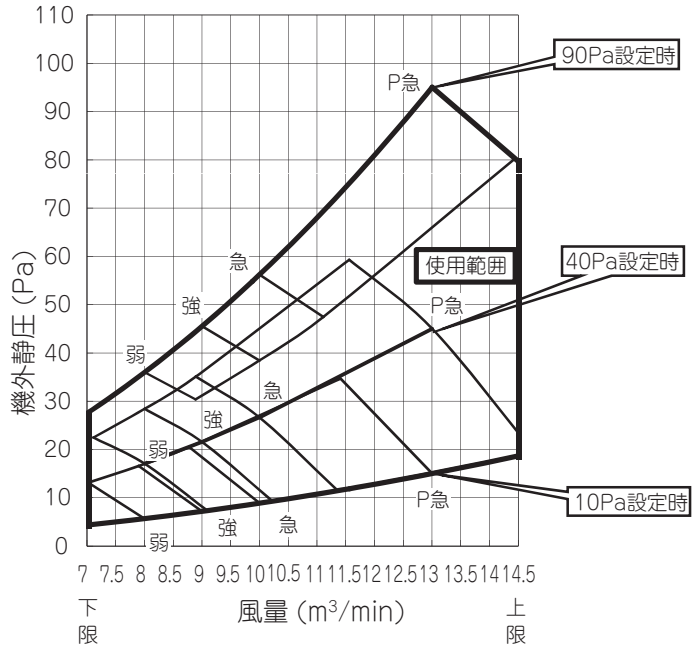
注(1) 表中の [設定00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) 専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3) 天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は, 234 ページをご覧ください。

必要な機外静圧 (Pa)	15	25	35	45	55	65	75	85	95
リモコンの設定 (Pa)	10	20	30	40	50	60	70	80	90

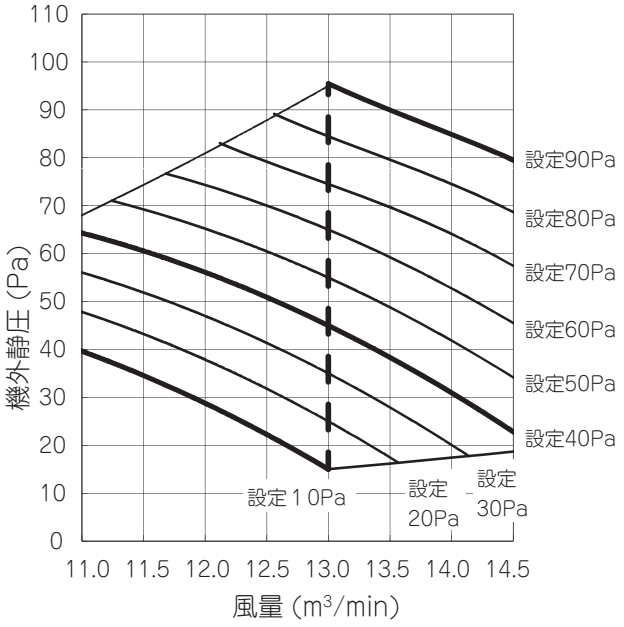
PJG000Z193

FDRP365，455，565LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

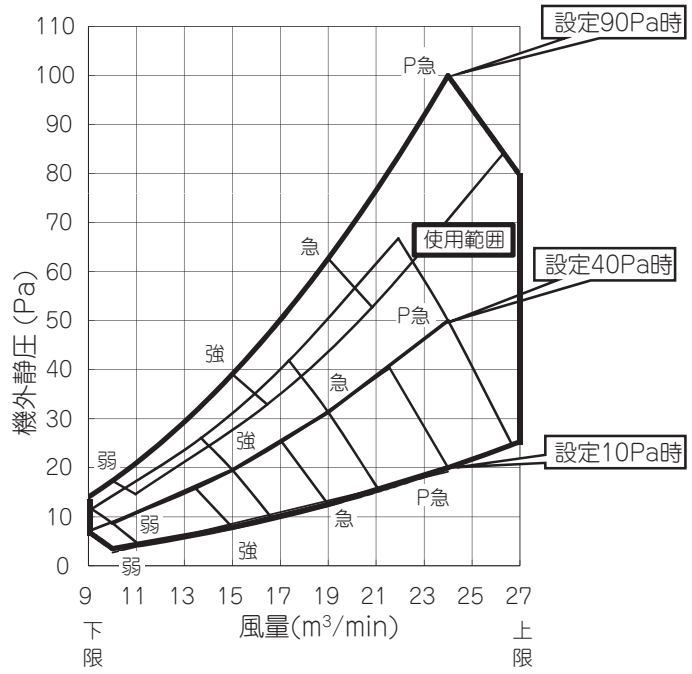


注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3)　天井リターン仕様の場合は，標準機に対して機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234ページをご覧ください。

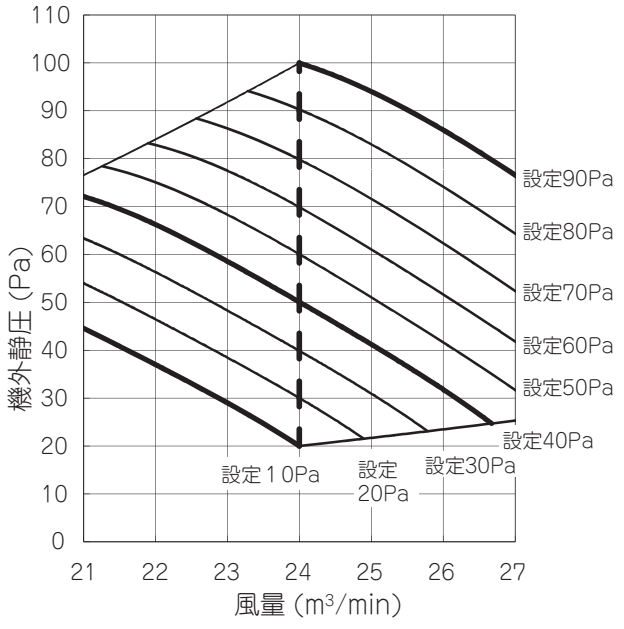
必要な機外静圧（Pa）	15	25	35	45	55	65	75	85	95
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

FDRP715，805，905LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



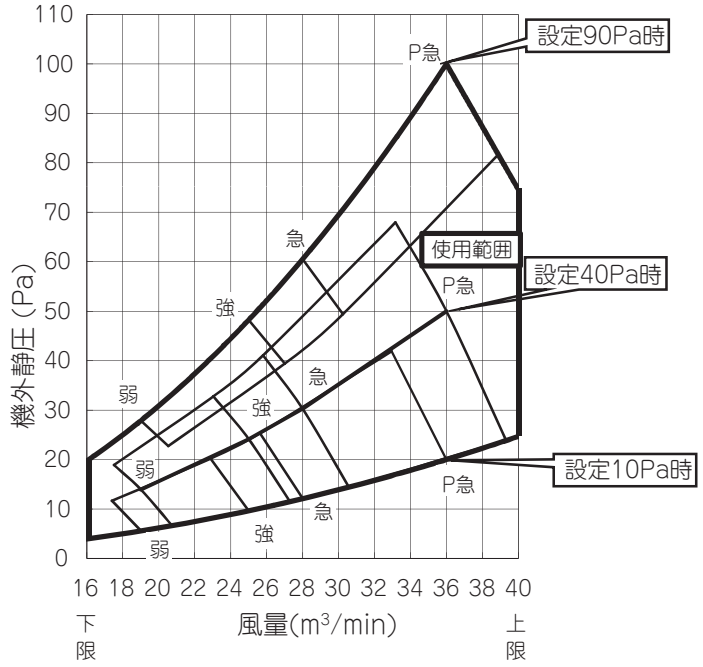
注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3)　天井リターン仕様の場合は，標準機に対して機内圧力損失が低減するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

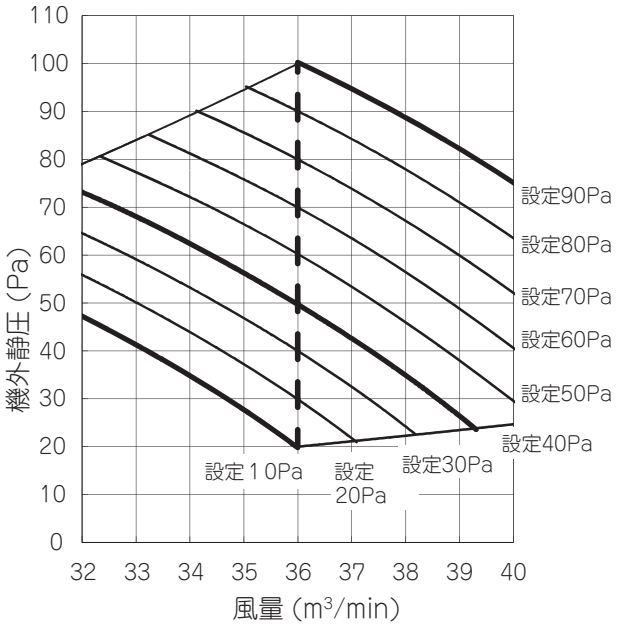
PJG000Z193

FDRP1125LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性

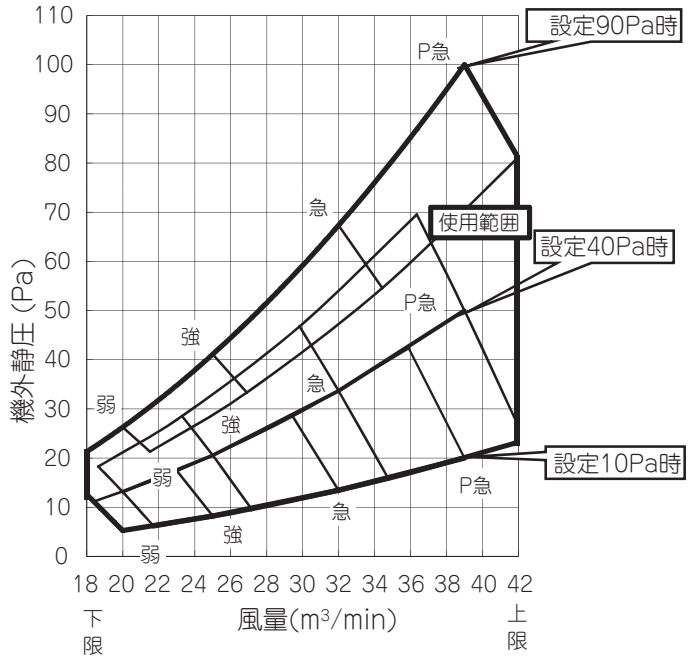


注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3)　天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234ページをご覧ください。

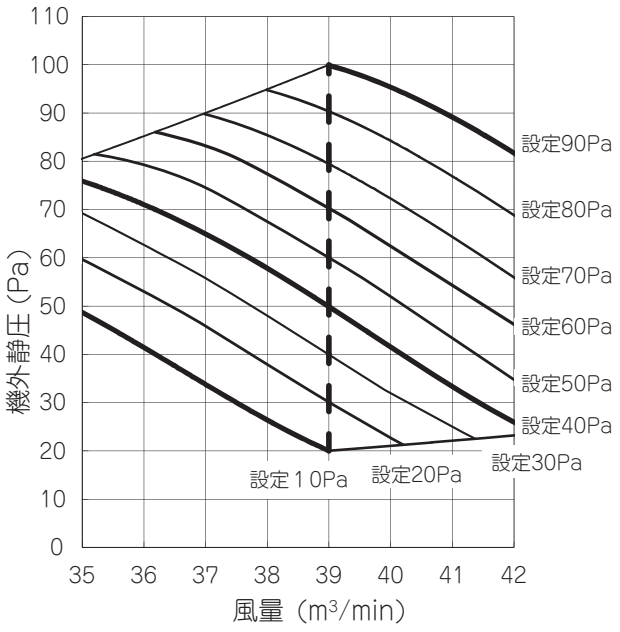
必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

FDRP1405LXA

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　専用のフィルターキット(別売品)を必ず装着してください。
(3)　天井リターン仕様の場合は, 標準機に対して機内圧力損失が低減するため, リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，234ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90

PJG000Z193

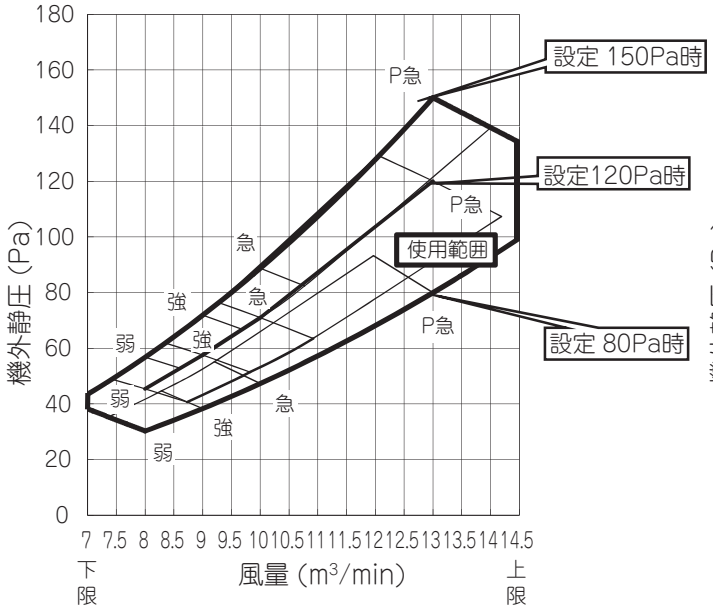
(2) 高静圧ダクト形（FDU）

(a) 標準仕様

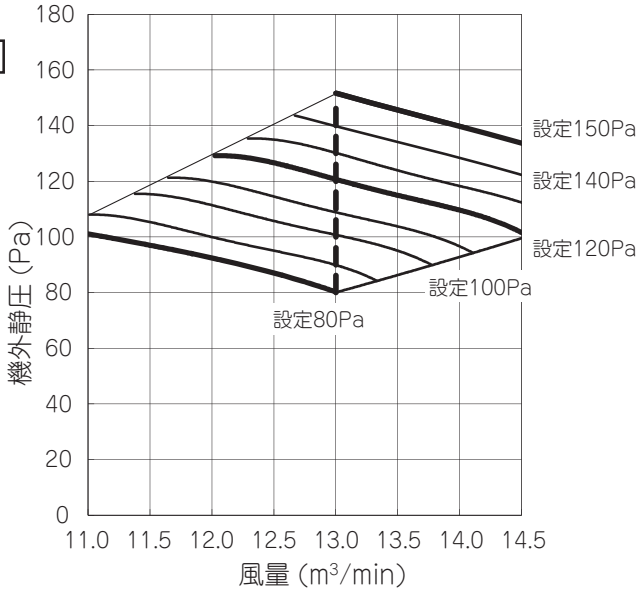
FDUP225, 285, 365, 455, 565LXA

1）SW8-4:OFF(出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



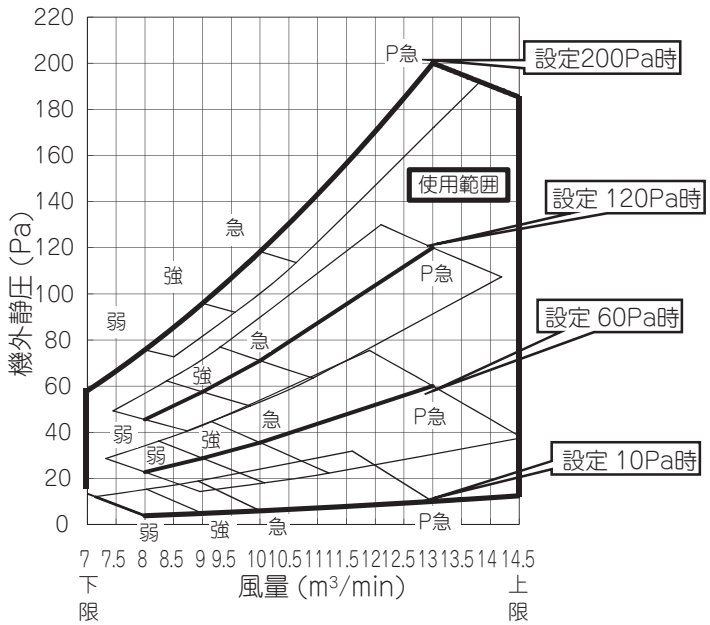
②P急タップの機外静圧特性



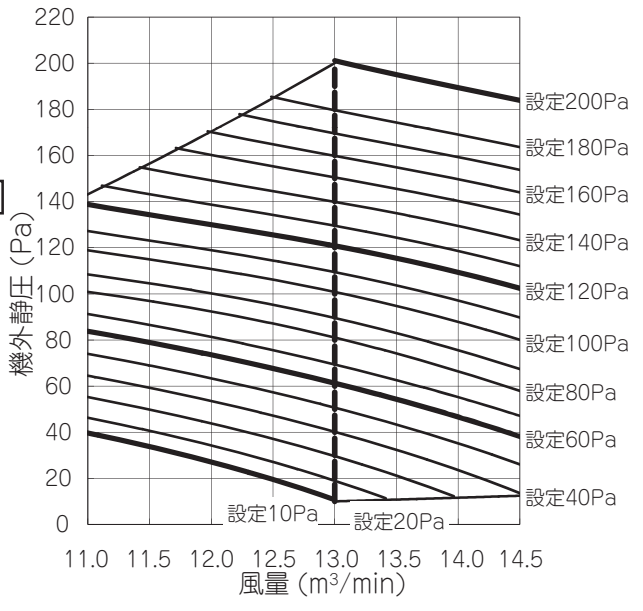
注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を 80 ～ 150Pa としています。

2)SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



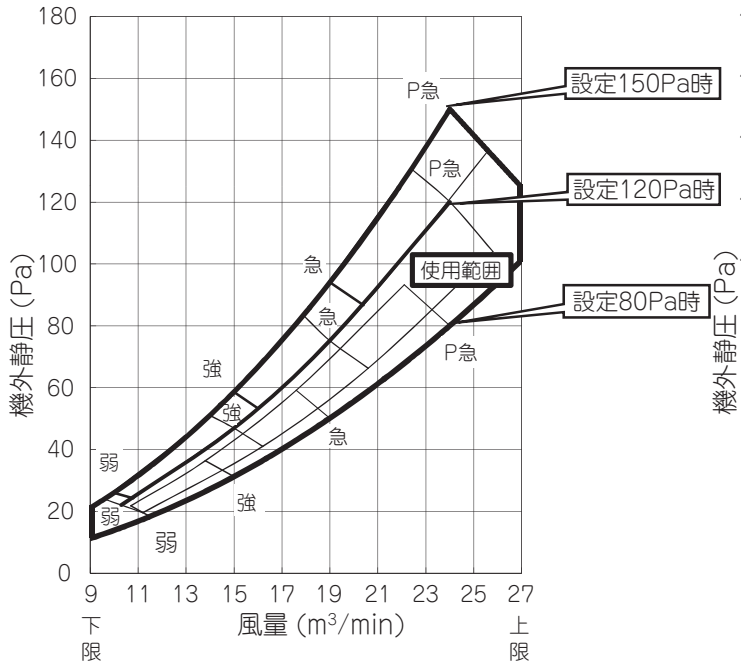
注(1) 表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
(3) 基板上の SW8-4 を ON にすることにより、機外静圧設定範囲を 10 ～ 200Pa にすることも可能です。
切替方法は 247 ページをご覧ください。

PJG000Z194

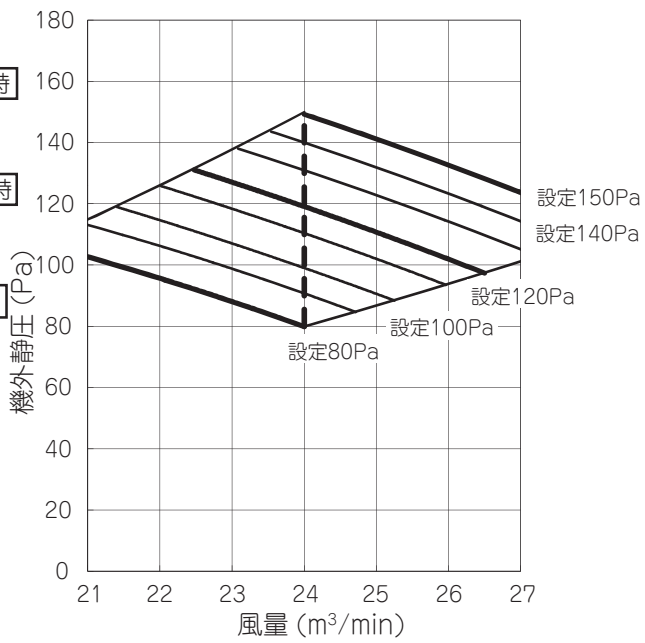
FDUP715, 805, 905LXA

1）SW8-4:OFF（出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



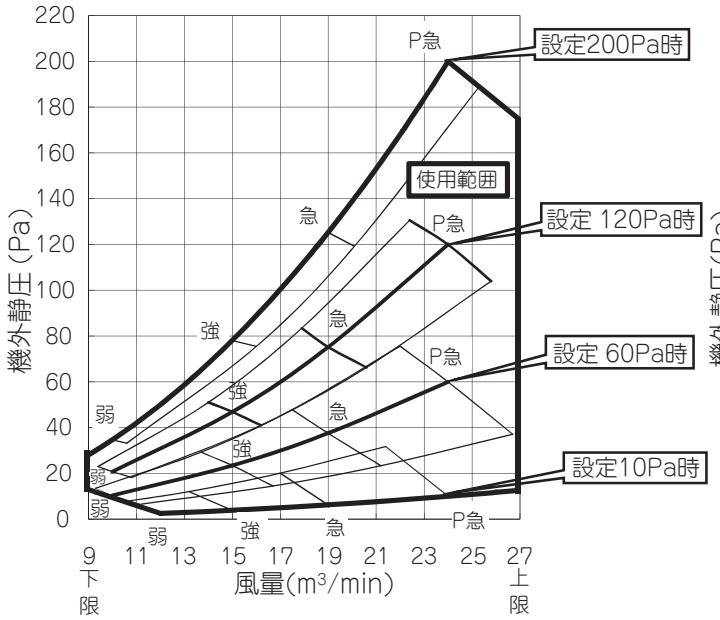
②P急タップの機外静圧特性



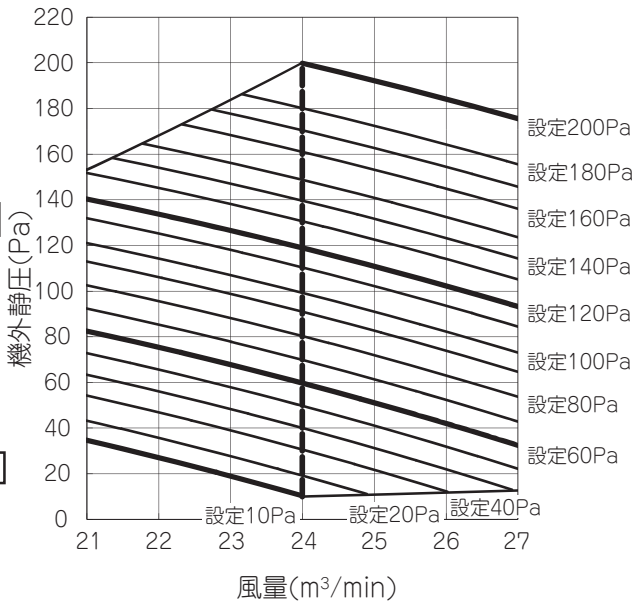
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80 ～ 150paとしています。

2）SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



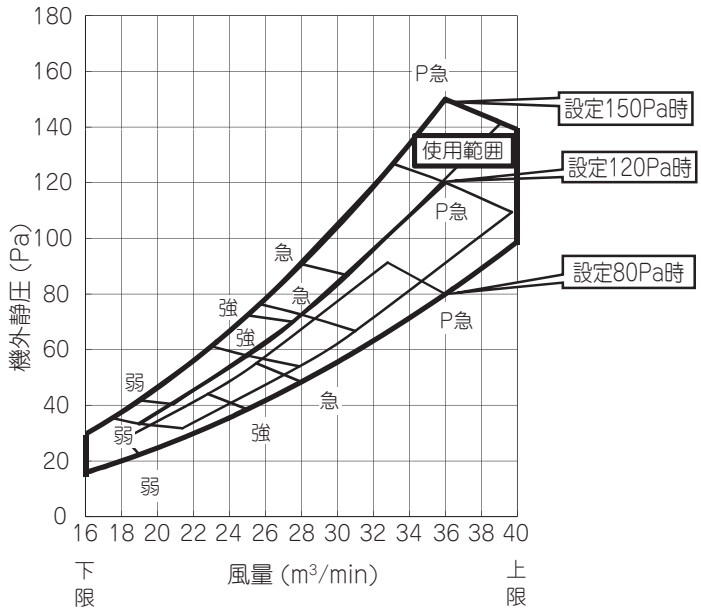
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
(3)　基板上の SW8-4をON にすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 247 ページをご覧ください。

PJG000Z194

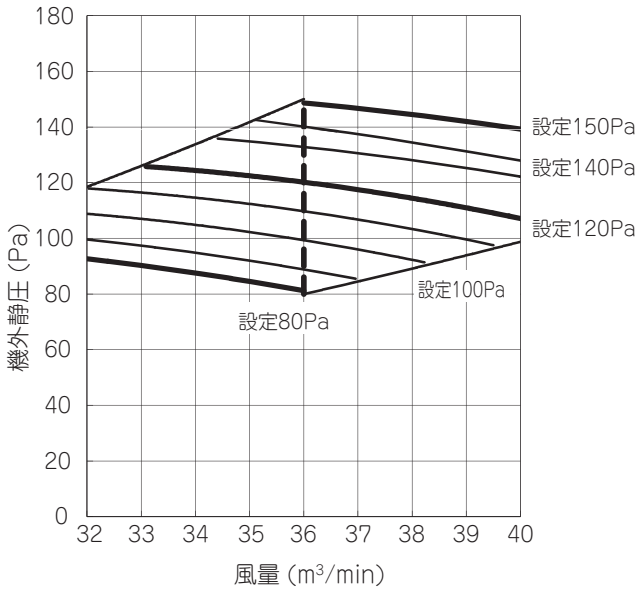
FDUP1125LXA

1)SW8-4:OFF(出荷状態)の場合

①各タップの機外静圧特性



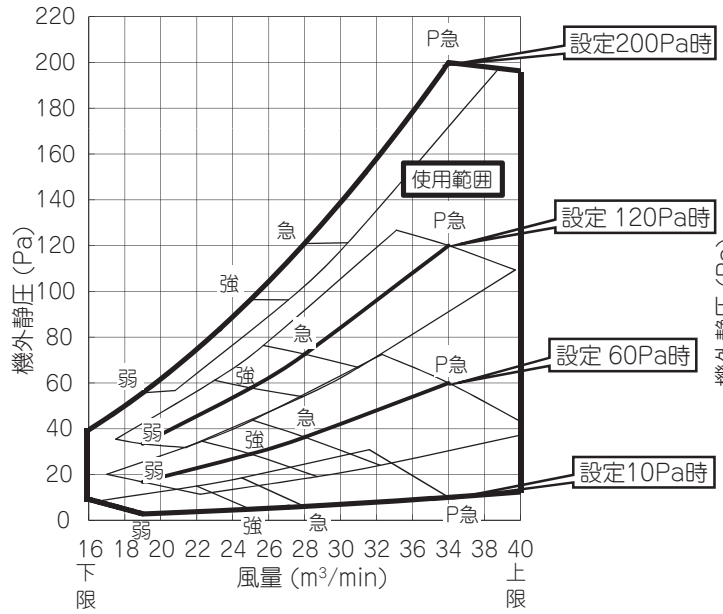
②P急タップの機外静圧特性



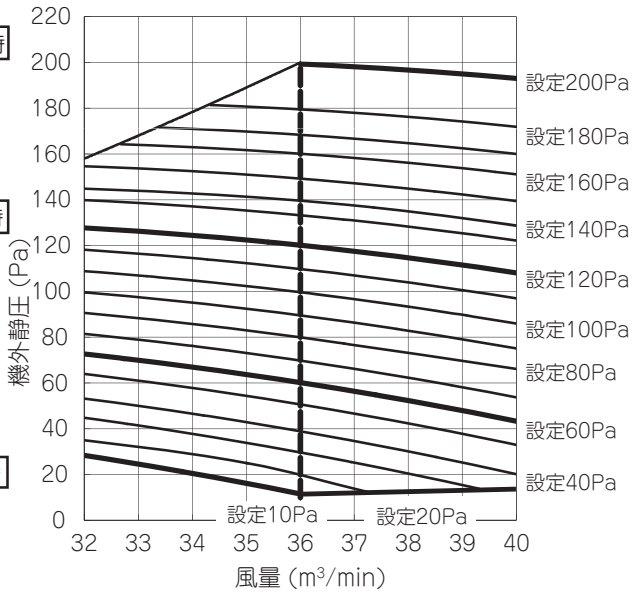
注(1) 表中の〔設定 00Pa〕とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150Paとしています。

2)SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



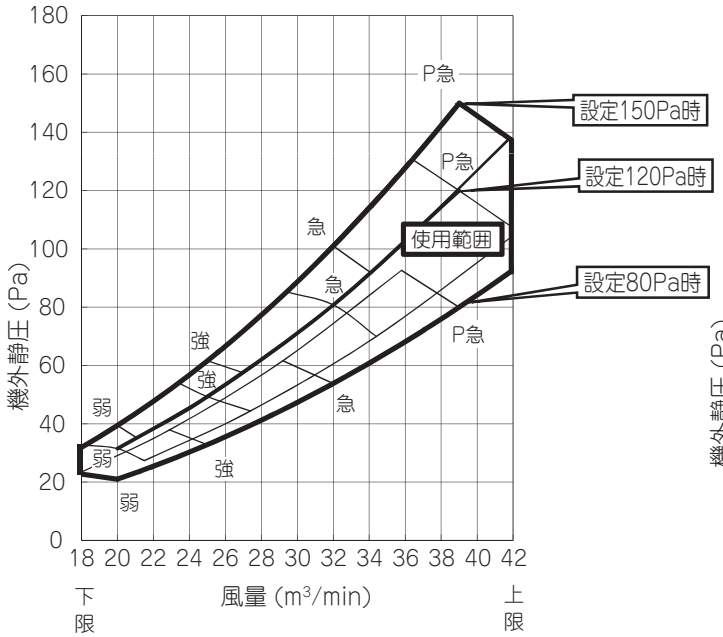
注(1) 表中の〔設定 00Pa〕とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2) リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
(3) 基板上の SW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 247ページをご覧ください。

PJG000Z194

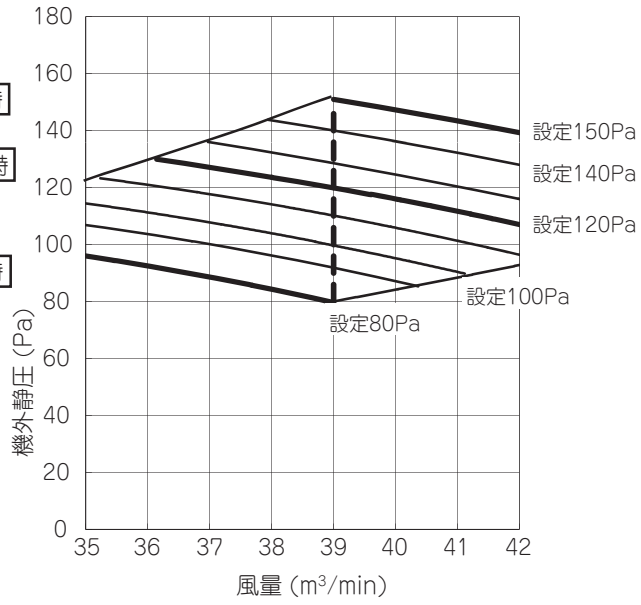
FDUP1405LXA

1）SW8-4:OFF（出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



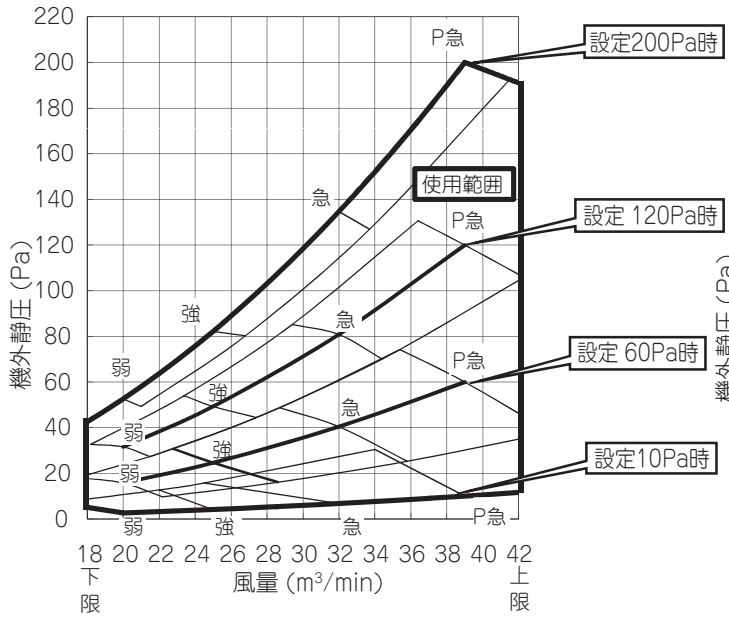
②P急タップの機外静圧特性



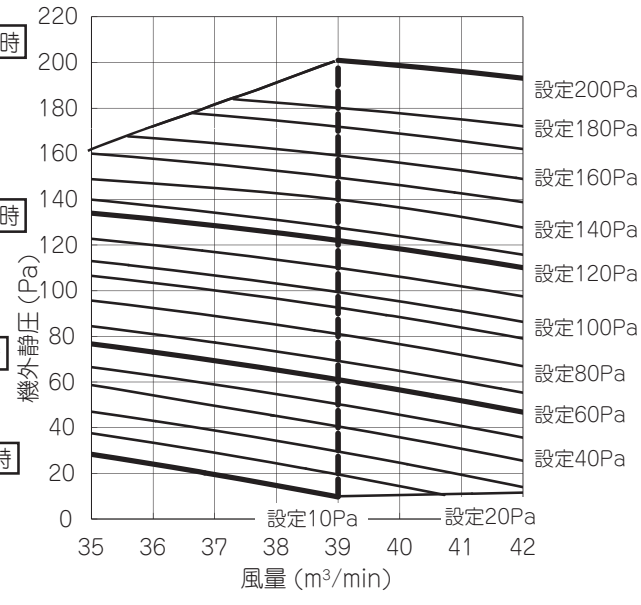
注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2）　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛･不冷･不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150Paとしています。

2)SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



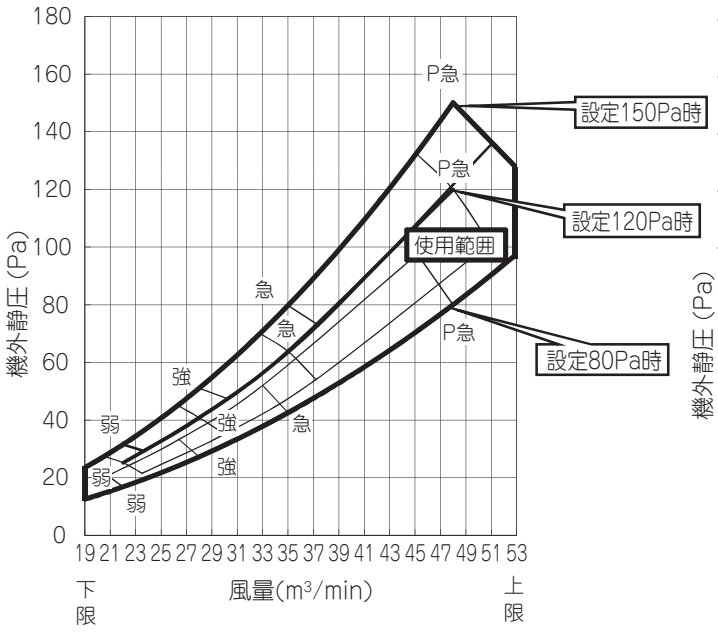
注(1)　表中の [設定 00Pa] とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2）　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛･不冷･不暖の原因となります。
（3）　基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 247ページをご覧ください。

PJG000Z194

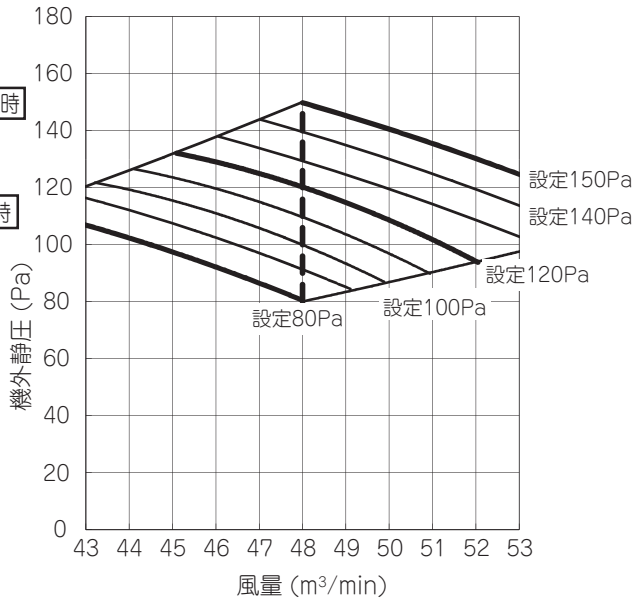
FDUP1605LXA

1）SW8-4:OFF（出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



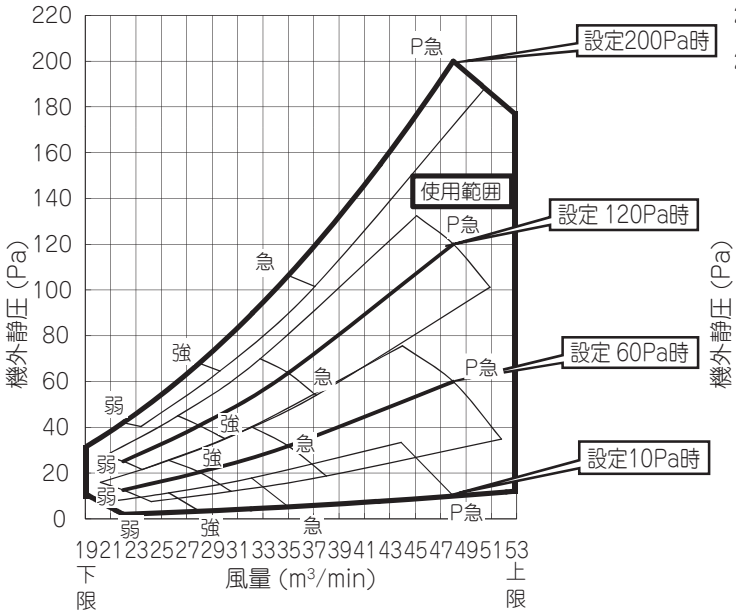
②P急タップの機外静圧特性



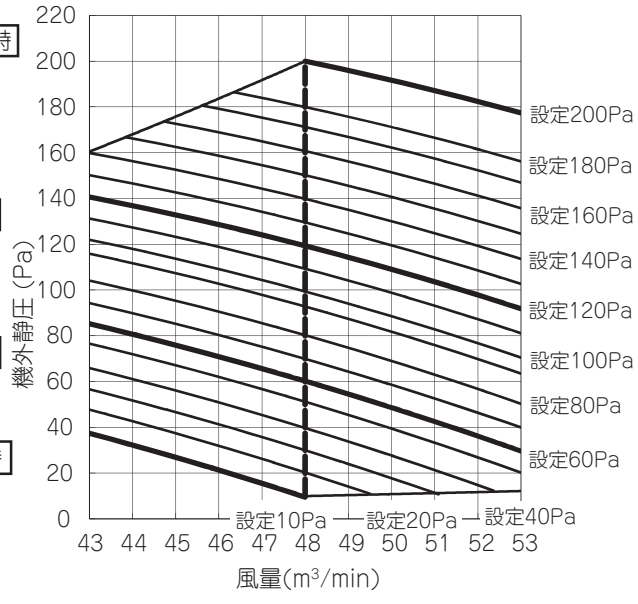
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2）　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150Paとしています。

2)SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



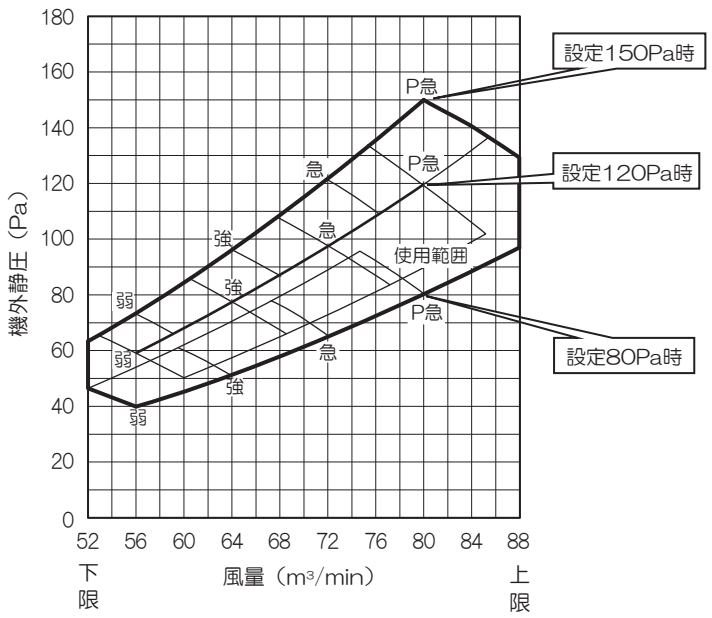
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2）　リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
（3）　基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は 247ページをご覧ください。

PJG000Z194

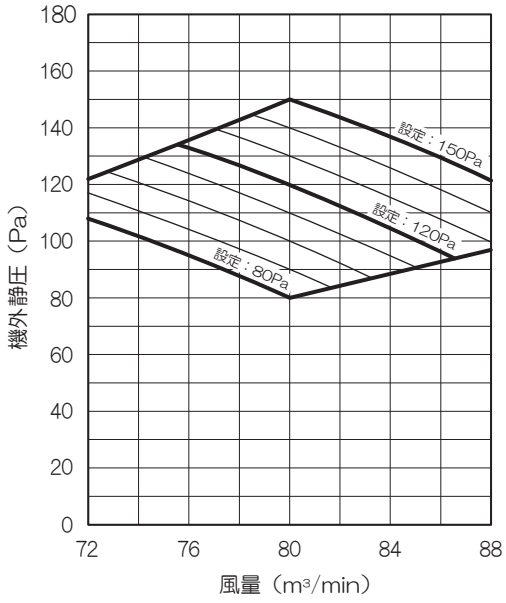
FDUP2245LXA, 2805LXA

1）SW8-4:OFF（出荷状態）の場合

①各タップの機外静圧特性



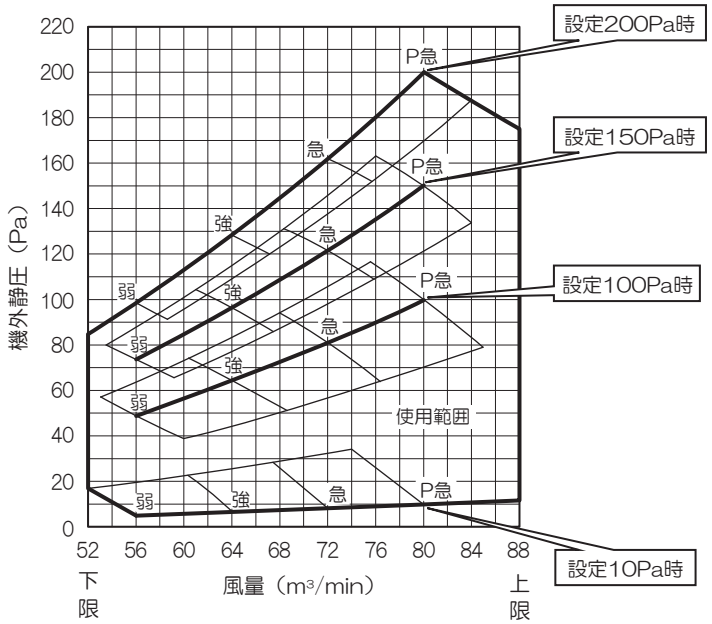
②P急タップの機外静圧特性



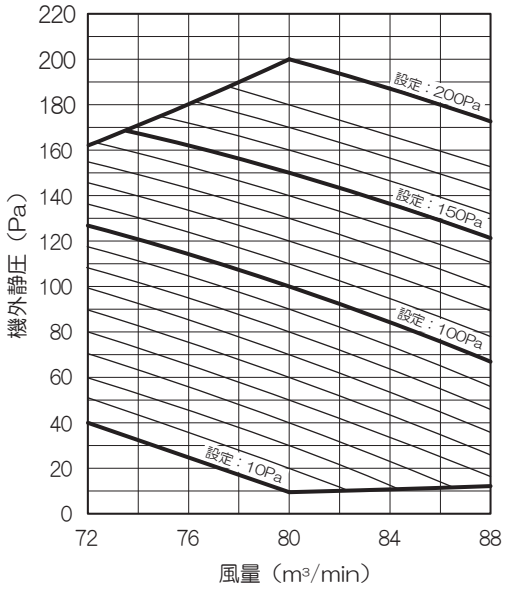
注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を80～150Paとしています。

2）SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



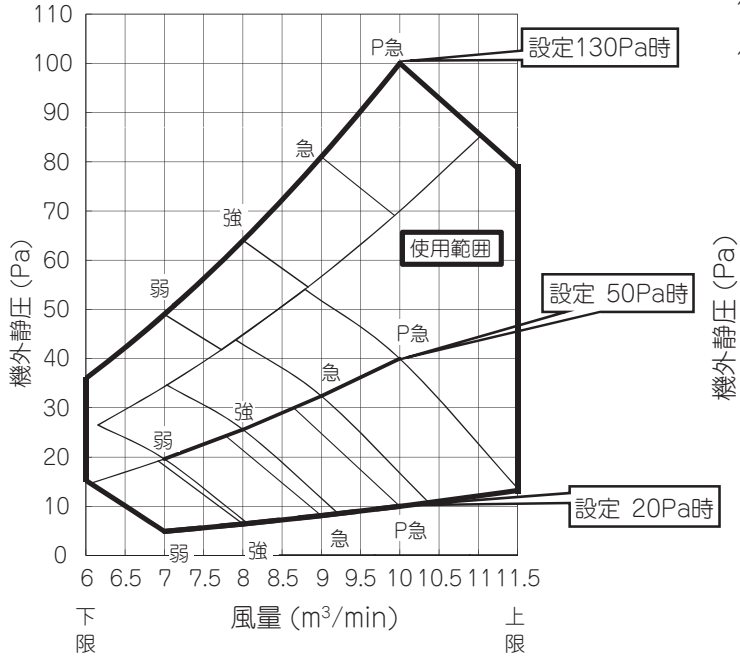
注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
（3） 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は247ページを参照ください。

(b) 丸ダクト仕様

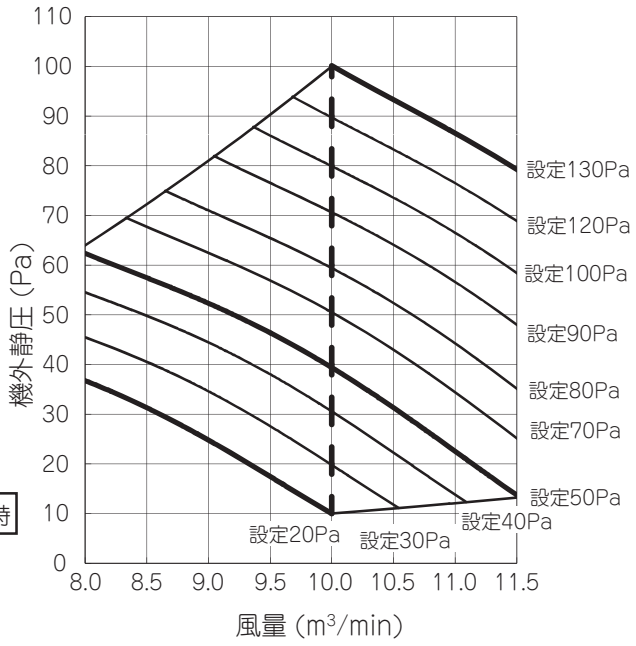
FDUP225LXA

1)SW8-4:ONの場合

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



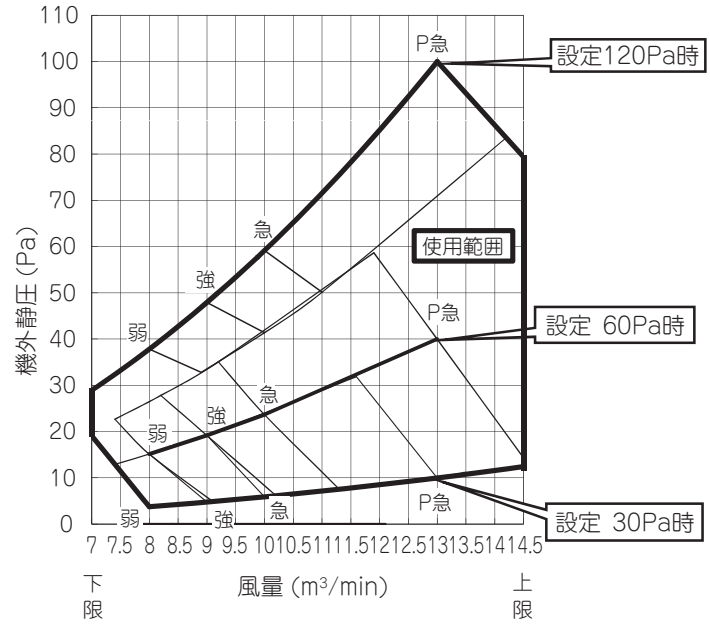
注1　表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
注2　丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
注3　丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	20	30	40	50	70	80	90	100	120	130

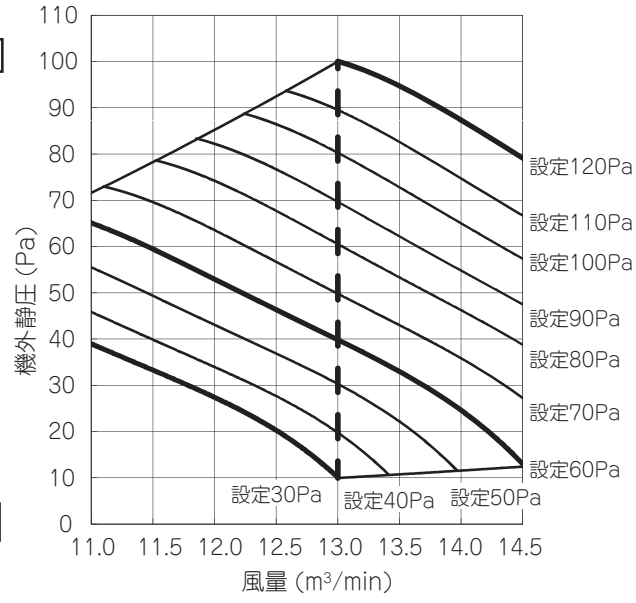
FDUP285, 365, 455, 565LXA

SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3)　丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

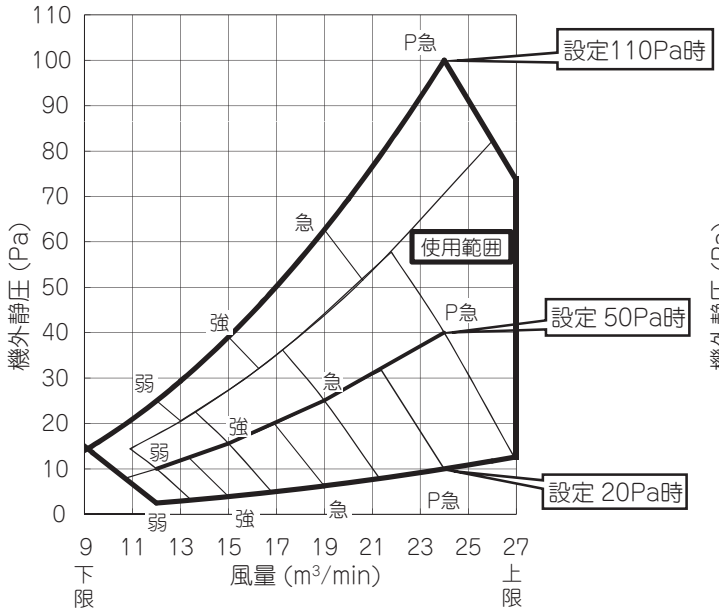
必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120

PJG000Z194

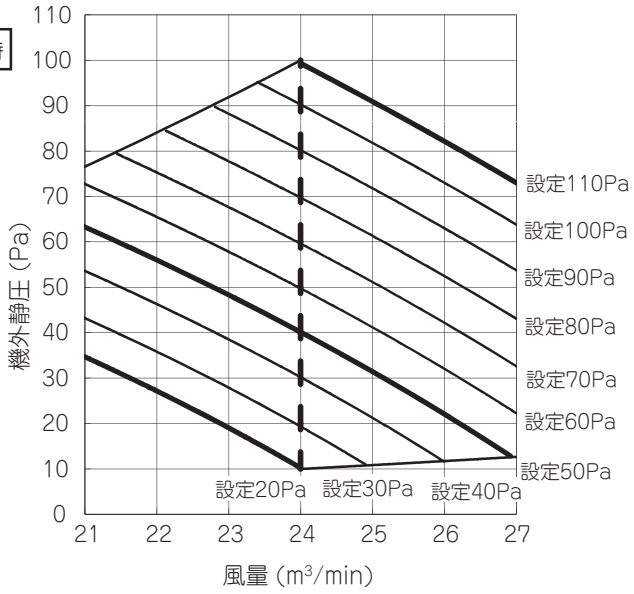
FDUP715，805，905LXA

SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



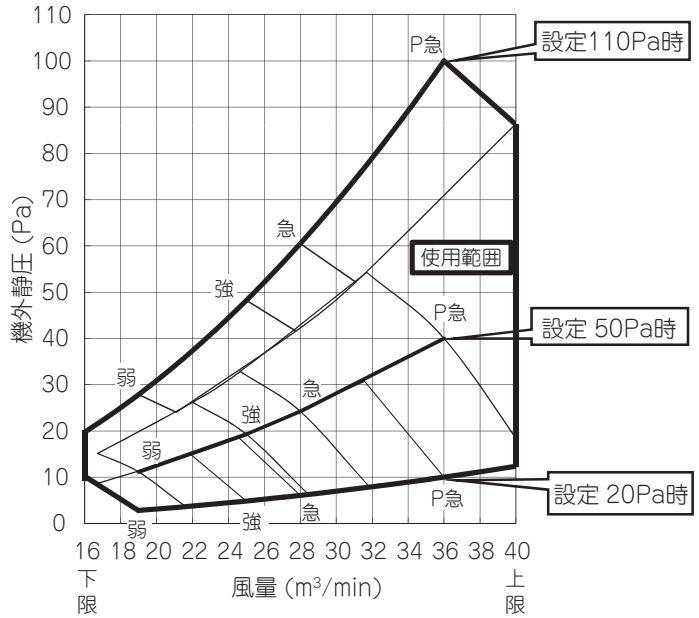
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3)　丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

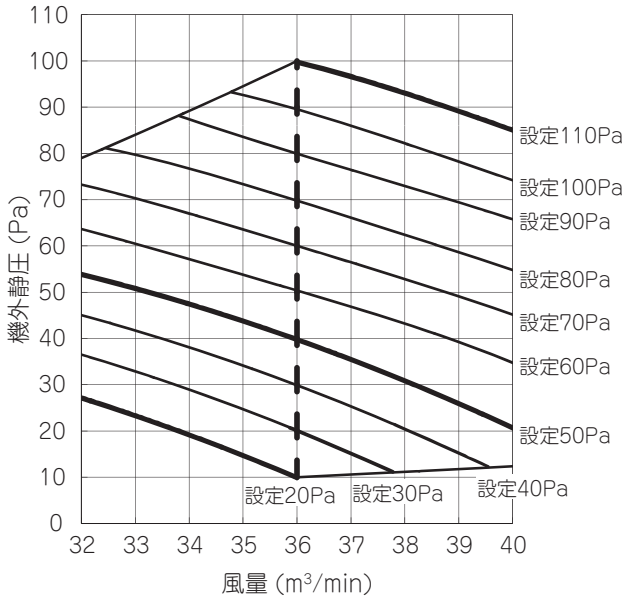
FDUP1125LXA

SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3)　丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

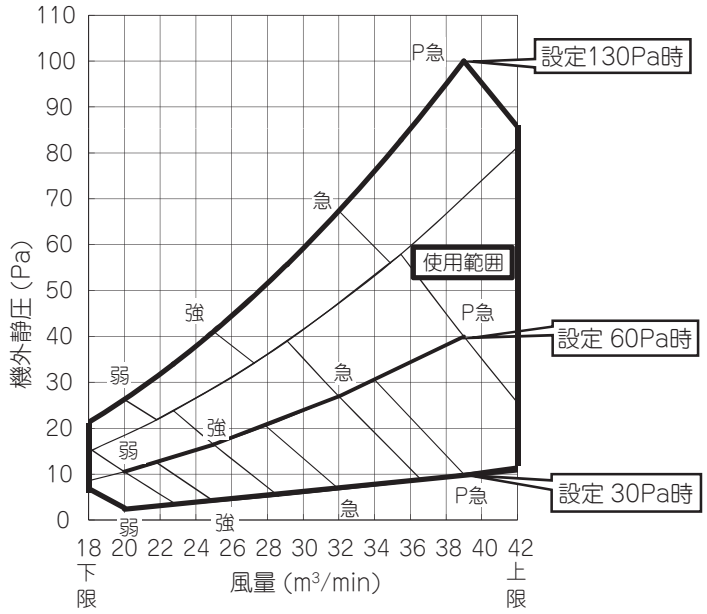
必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110

PJG000Z194

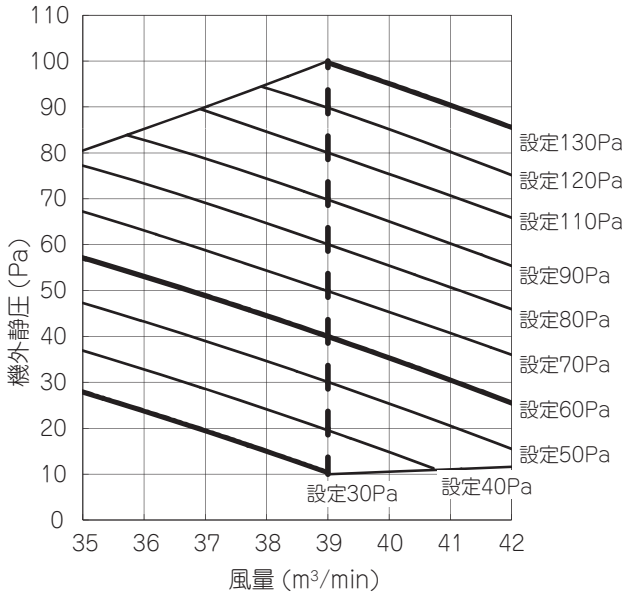
FDUP1405LXA

SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



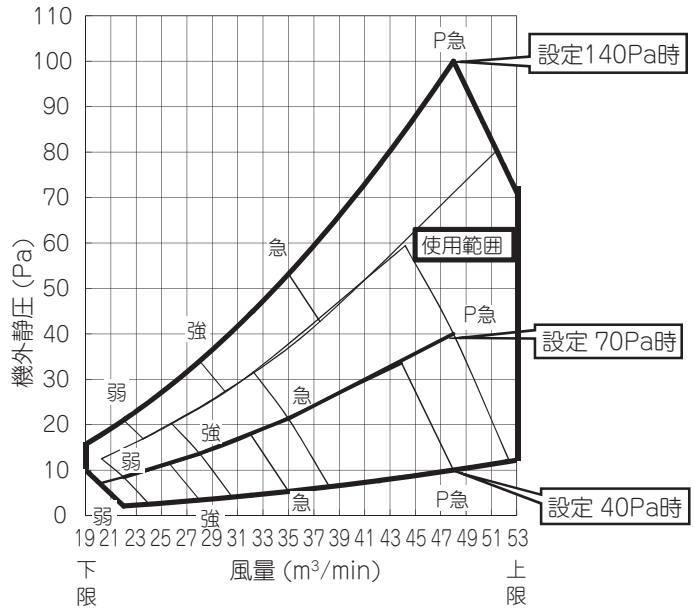
注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3)　丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	30	40	50	60	70	80	90	110	120	130

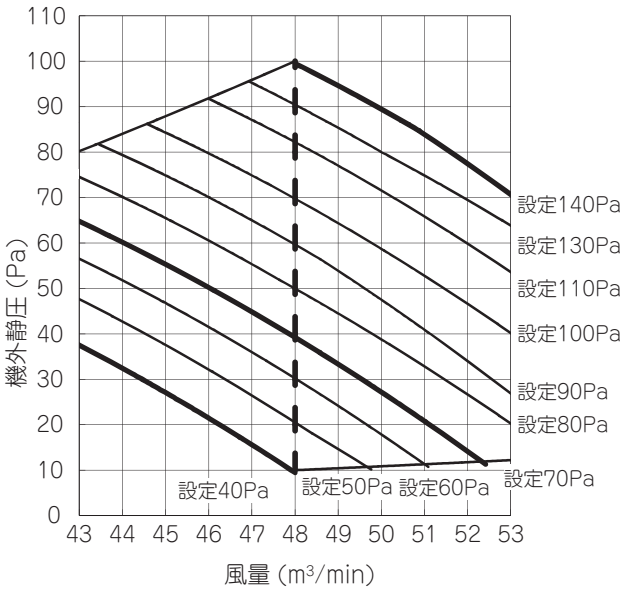
FDUP1605LXA

SW8-4:ON

①各タップの機外静圧特性



②P急タップの機外静圧特性



注(1)　表中の［設定 00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
(2)　丸ダクトを使用する場合には基板上のSW8-4をONにしてください。
(3)　丸ダクト変換キットを使用する場合は，標準機（角ダクト）に対して機内圧力損失が増加するため，リモコンからの機外静圧設定を下表により行ってください。
実際の機外静圧とリモコンの設定は異なります。詳細は，248 ページをご覧ください。

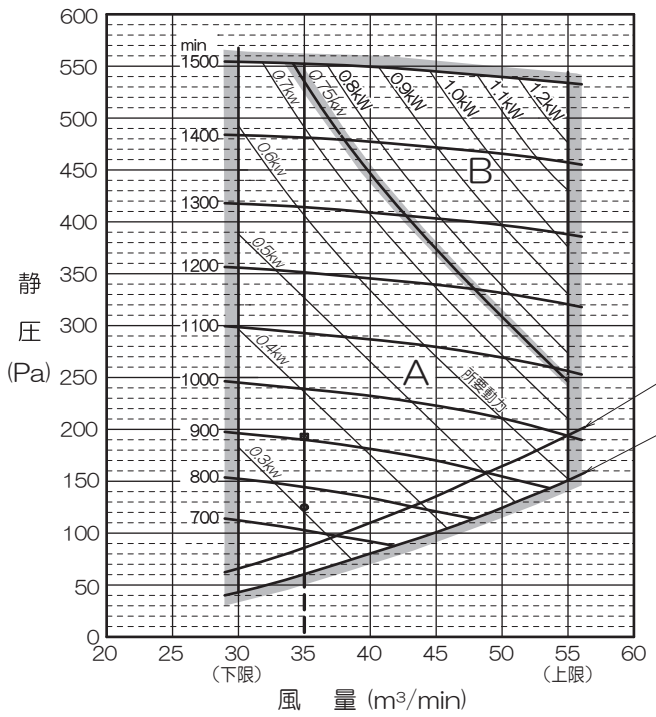
必要な機外静圧（Pa）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
リモコンの設定（Pa）	40	50	60	70	80	90	100	110	130	140

PJG000Z194

(3) 床置ダクト形（FDAS）

FDASP1405TLX

A： 0.75kW標準電動機使用範囲
B： 1.5kW電動機使用範囲
出荷時回転数 ● … 50Hz（760min^{-1}）
■ … 60Hz（905min^{-1}）



●直吹き吹出空気到達距離

	50Hz	60Hz
標準風量(m³/min)	35	40
到達距離(m)	10	11

注(1) 到達距離は出荷時プーリ設定でオプション品のプレナムチャンバを設置した場合の値を示します。
(2) 到達距離点での風速は0.5m/sです。

●仕　様
ファンプーリ有効径　φ160mm（軸径φ21）
モータプーリ有効径　φ80mm（軸径φ19）
Vベルトサイズ　A28　レッドベルト×1本
プーリ軸間距離　162mm

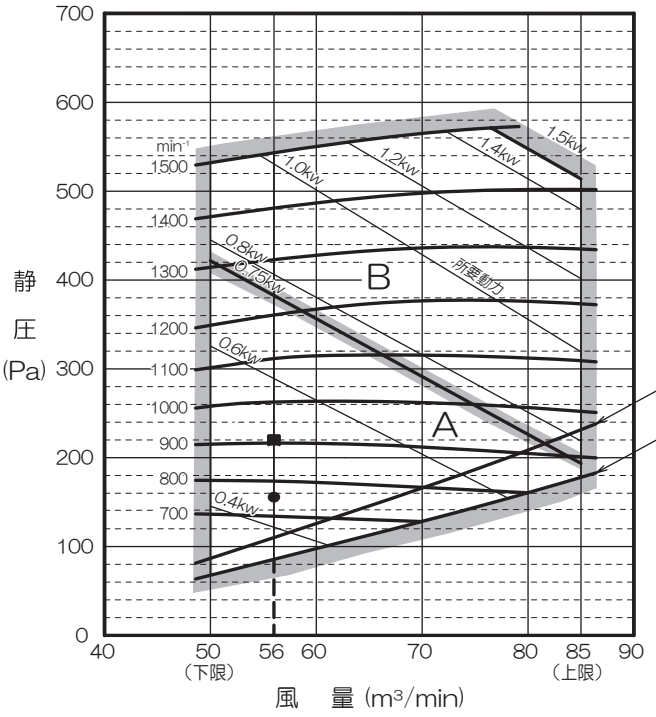
後ろ吸込（前面塞ぎ）機内抵抗
前吸込機内抵抗

■ で囲まれた内側が使用範囲となります。

PAA002Z376

FDASP2245TLX

A： 0.75kW標準電動機使用範囲
B： 1.5kW電動機使用範囲
出荷時回転数 ● … 50Hz（760min^{-1}）
■ … 60Hz（905min^{-1}）



●直吹き吹出空気到達距離

	50Hz	60Hz
標準風量(m³/min)	60	69
到達距離(m)	14	17

注(1) 到達距離は出荷時プーリ設定でオプション品のプレナムチャンバを設置した場合の値を示します。
(2) 到達距離点での風速は0.5m/sです。

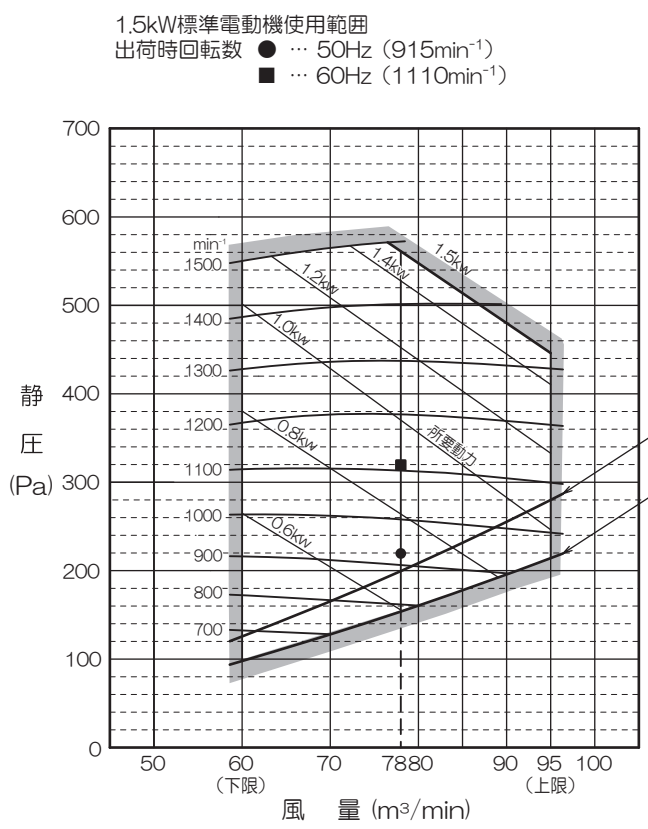
●仕　様
ファンプーリ有効径　φ160mm（軸径φ21）
モータプーリ有効径　φ80mm（軸径φ19）
Vベルトサイズ　A28　レッドベルト×1本
プーリ軸間距離　162mm

後ろ吸込（前面塞ぎ）機内抵抗
前吸込機内抵抗

■ で囲まれた内側が使用範囲となります。

PAA002Z377

FDASP2805TLX



●直吹き吹出空気到達距離

	50Hz	60Hz
標準風量（m³/min）	74	86
到達距離（m）	18	21

注(1)　到達距離は出荷時プーリ設定でオプション品のプレナムチャンバを設置した場合の値を示します。
(2)　到達距離点での風速は0.5m/sです。

●仕　様

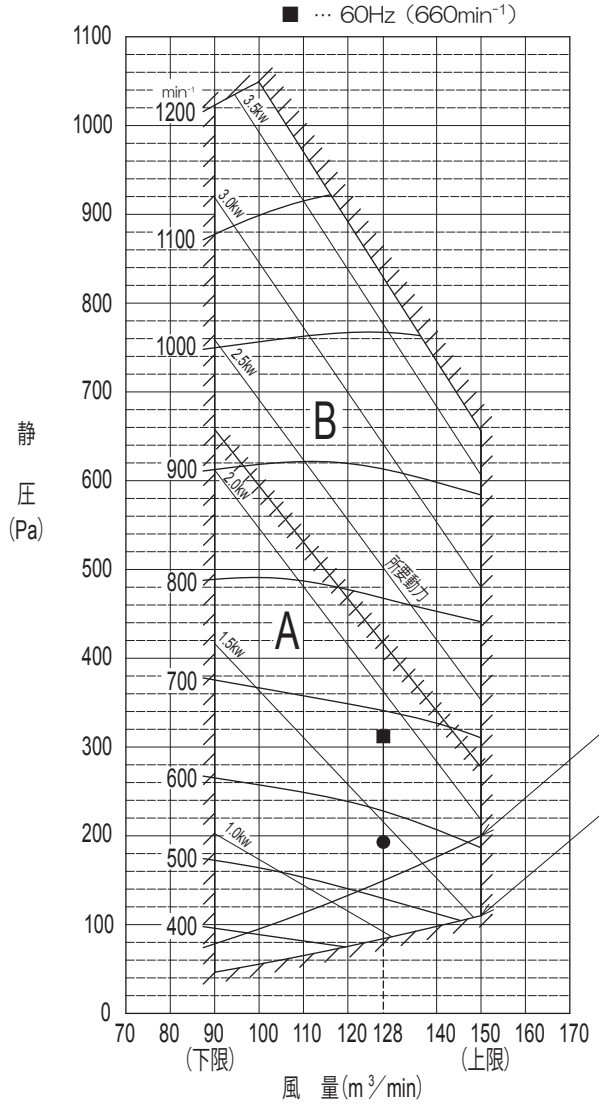
ファンプーリ有効径　φ125mm（軸径φ21）
モータプーリ有効径　φ75mm（軸径φ19）
Vベルトサイズ　A26　レッドベルト×1本
プーリ軸間距離　171mm

■ で囲まれた内側が使用範囲となります。

PAA002Z378

FDASP4505TLX

A：2.2kW標準電動機使用範囲
B：3.7kW電動機使用範囲
出荷時回転数 ● … 50Hz（550min^{-1}）
■ … 60Hz（660min^{-1}）



●直吹き吹出空気到達距離

標準風量(m³/min)	128
到達距離(m)	29

注(1) 到達距離はオプション品のプレナムチャンバを設置した場合の値を示します。プレナムチャンバー設定時は、電源周波数（50／60Hz）によりプーリ変更が必要となる場合があります。詳細はオプション品のカタログをご覧ください。
(2) 到達距離点での風速は0.5m/sです。

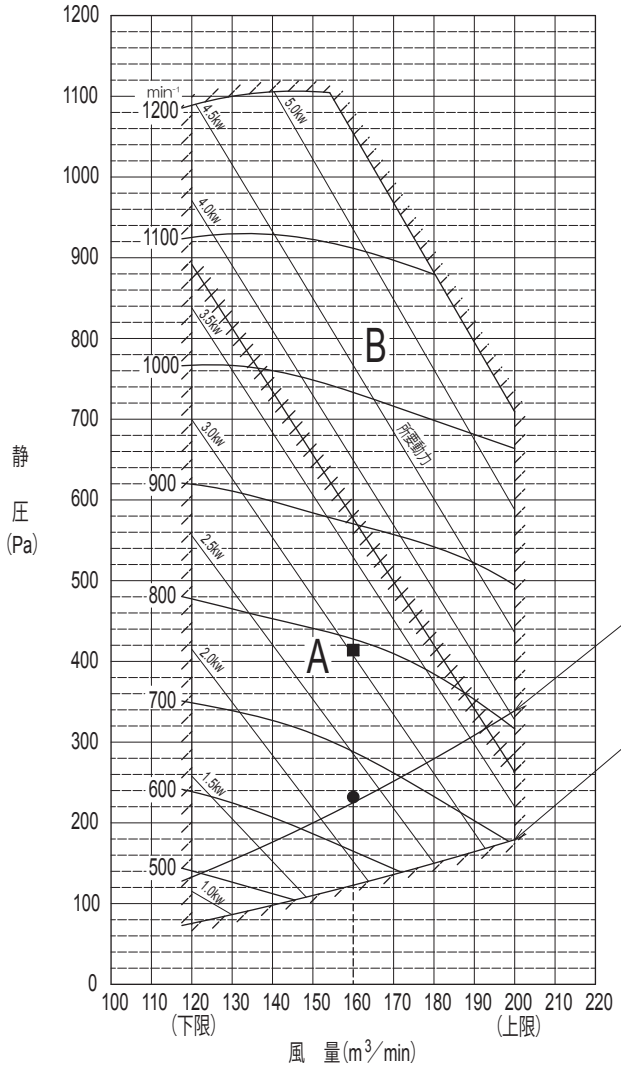
●仕 様
ファンプーリ有効径 φ212mm（軸径φ30）
モータプーリ有効径 φ75mm（軸径φ28）
Vベルトサイズ A35 レッドベルト×2本
プーリ軸間距離 213mm

後ろ吸込(前面塞ぎ)機内抵抗
前吸込機内抵抗
▨ で囲まれた内側が使用範囲となります。

PAA002Z425

FDASP5605TLX

A：3.7kW標準電動機使用範囲
B：5.5kW電動機使用範囲
出荷時回転数 ● … 50Hz（655min^{-1}）
■ … 60Hz（785min^{-1}）



●直吹き吹出空気到達距離

標準風量(m³/min)	160
到達距離(m)	36

注(1) 到達距離はオプション品のプレナムチャンバを設置した場合の値を示します。プレナムチャンバ設定時は、電源周波数（50／60Hz）によりプーリ変更が必要となる場合があります。詳細はオプション品のカタログをご覧ください。
(2) 到達距離点での風速は0.5m/sです。

●仕 様
ファンプーリ有効径 φ212mm（軸径φ30）
モータプーリ有効径 φ90mm（軸径φ28）
Vベルトサイズ A37 レッドベルト×2本
プーリ軸間距離 213mm

後ろ吸込(前面塞ぎ)機内抵抗

前吸込機内抵抗

//// で囲まれた内側が使用範囲となります。

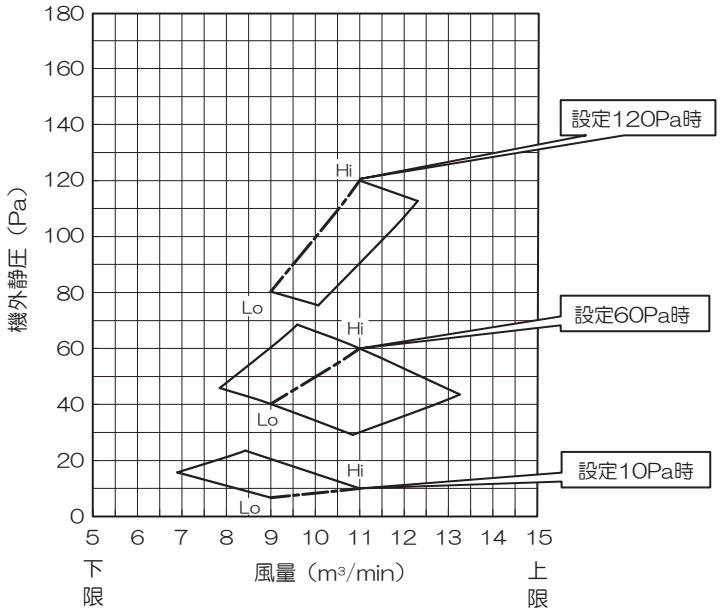
PAA002Z426

⑷ 給気処理ユニット（FDU-F）

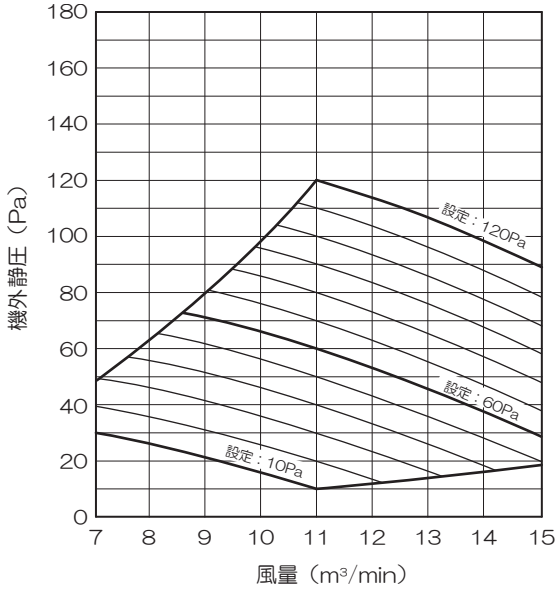
FDUP905FLXA

1) SW8-4:OFF(出荷状態)の場合

①各タップの機外静圧特性



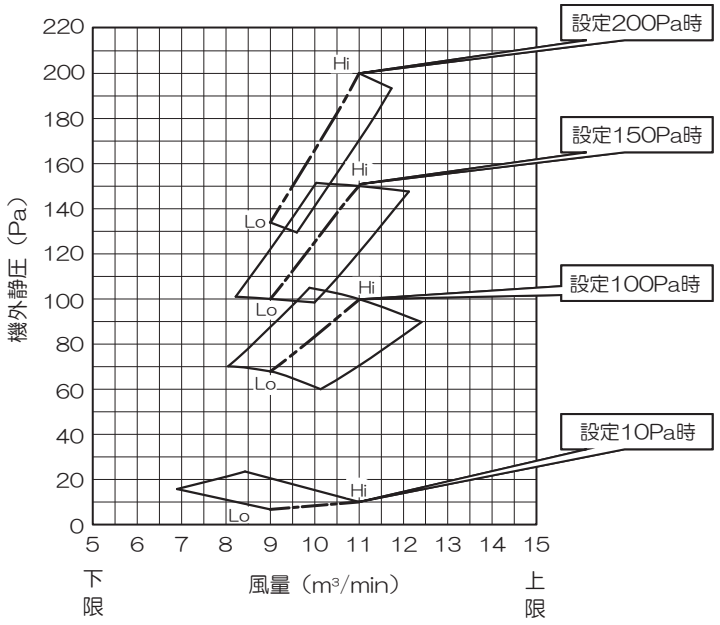
② Hi タップの機外静圧特性



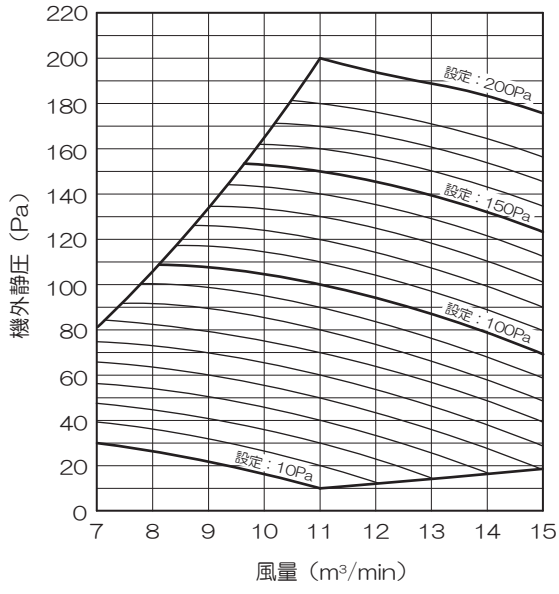
注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を10～120Paとしています。

2) SW8-4:ON の場合

①各タップの機外静圧特性



② Hi タップの機外静圧特性

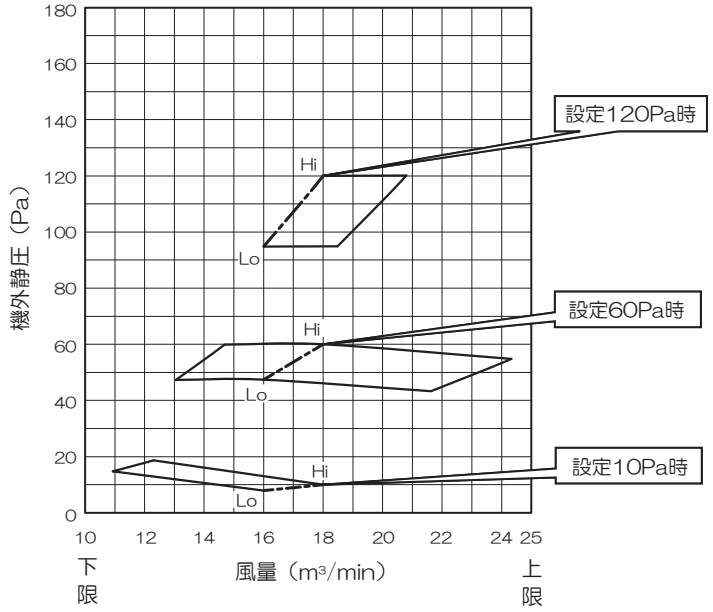


注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
（3） 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は247ページを参照ください。

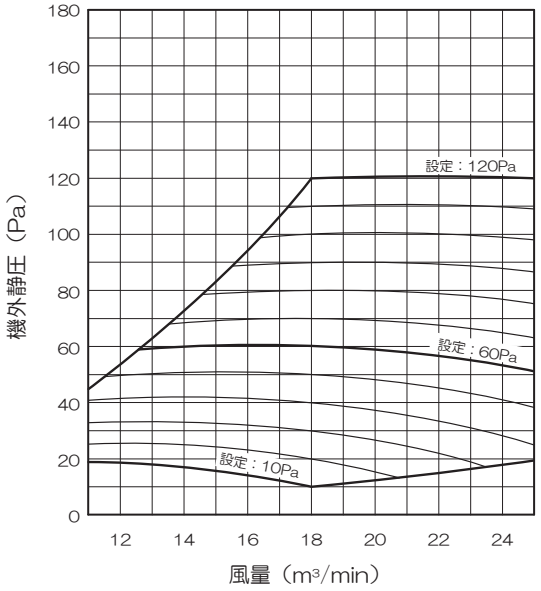
FDUP1405FLXA

1) SW8-4:OFF(出荷状態)の場合

①各タップの機外静圧特性



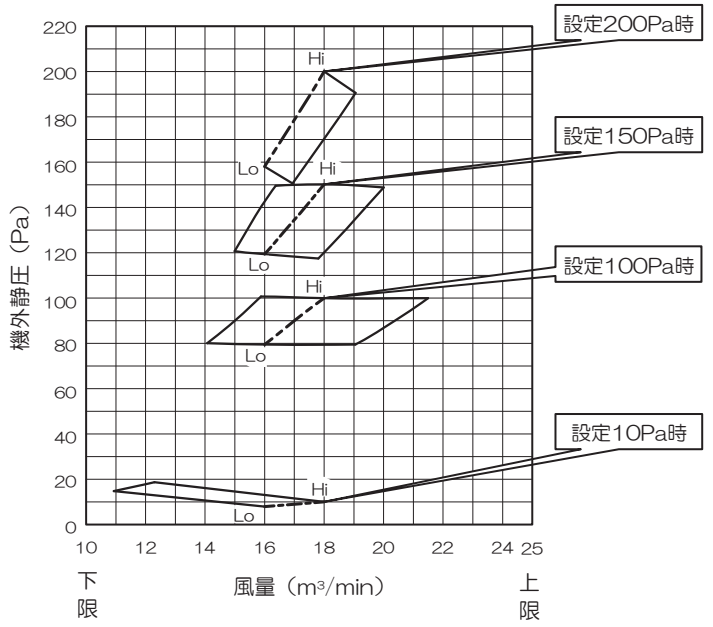
② Hi タップの機外静圧特性



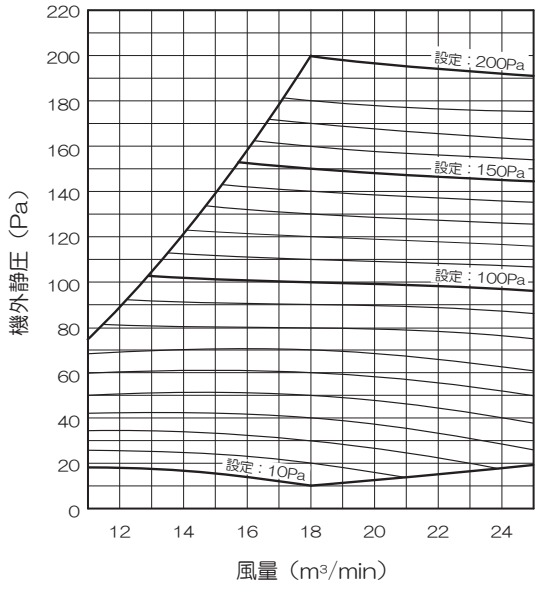
注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコン から設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を10～120Paとしています。

2) SW8-4:ON の場合

①各タップの機外静圧特性



② Hi タップの機外静圧特性

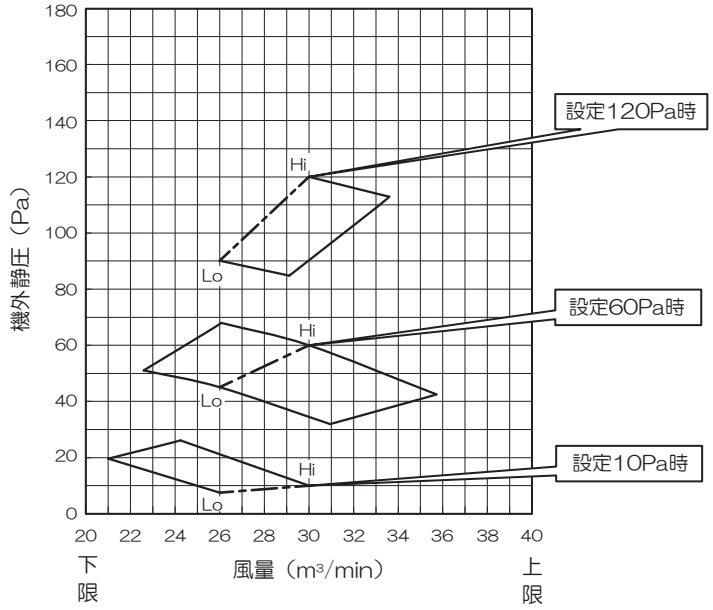


注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコン から設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
（3） 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は247ページを参照ください。

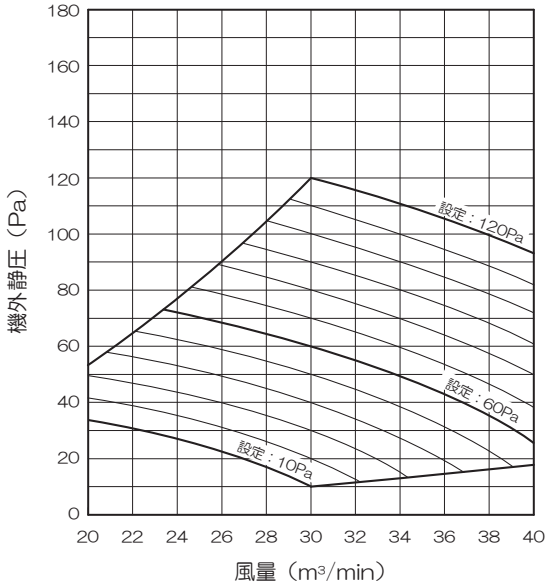
FDUP2245FLXA

1) SW8-4:OFF(出荷状態)の場合

①各タップの機外静圧特性



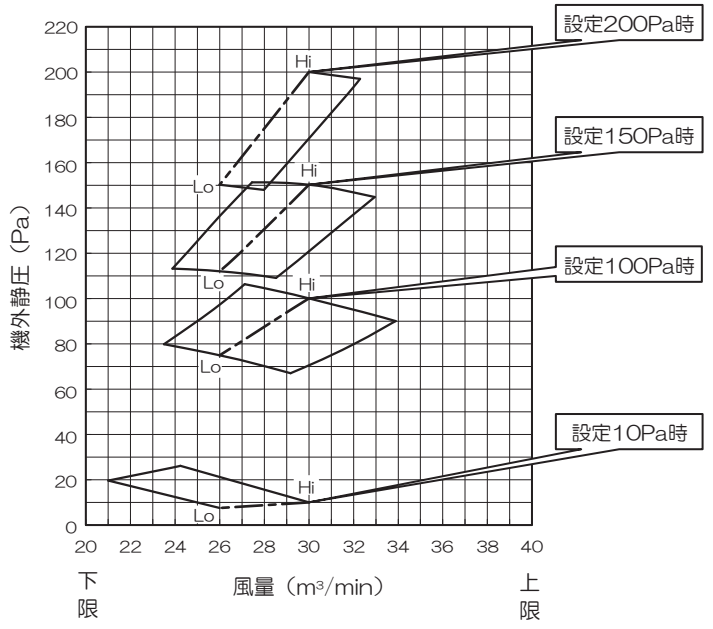
② Hi タップの機外静圧特性



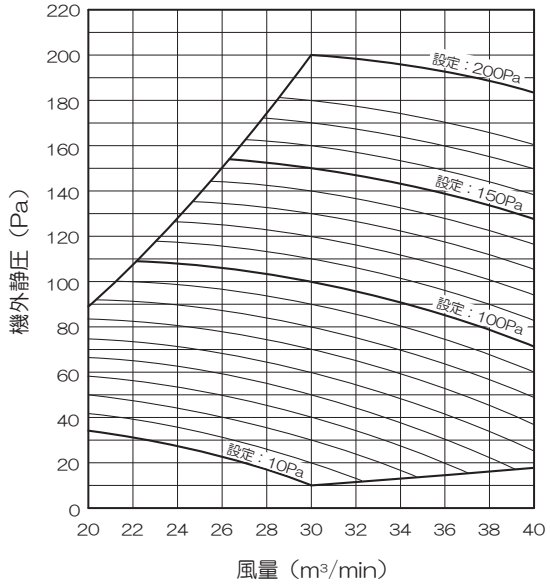
注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を10～120Paとしています。

2) SW8-4:ON の場合

①各タップの機外静圧特性



② Hi タップの機外静圧特性

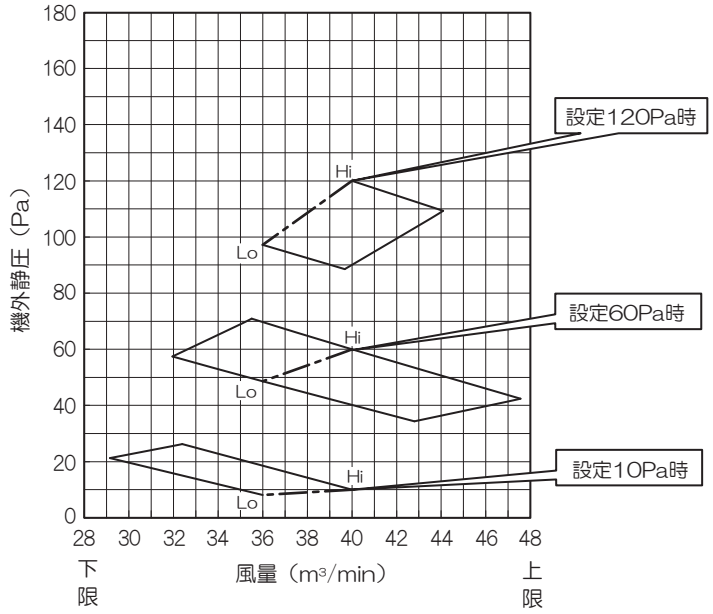


注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコンから設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
（3） 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は247ページを参照ください。

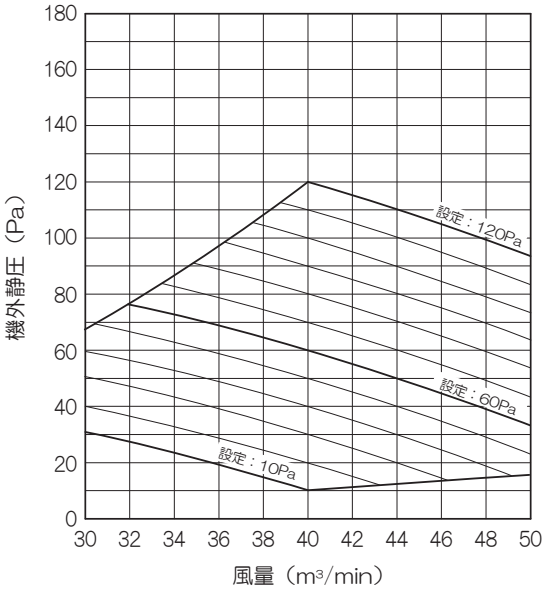
FDUP2805FLXA

1) SW8-4:OFF(出荷状態)の場合

①各タップの機外静圧特性



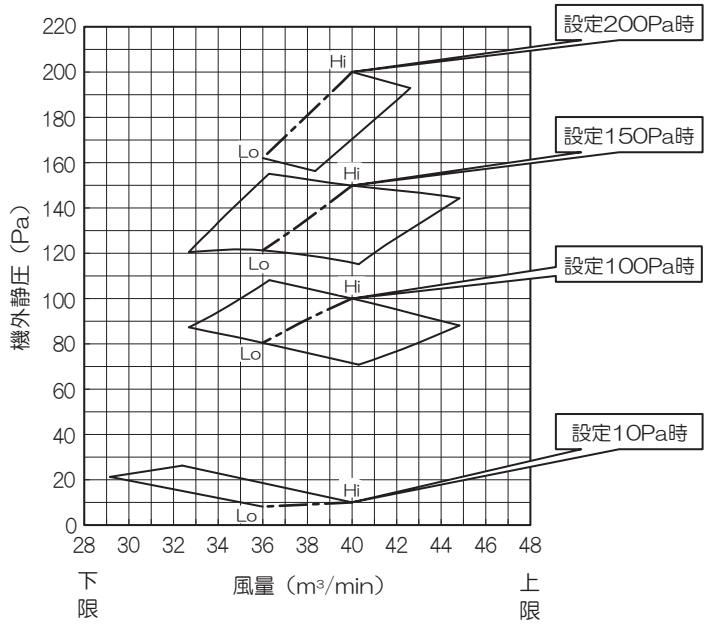
② Hi タップの機外静圧特性



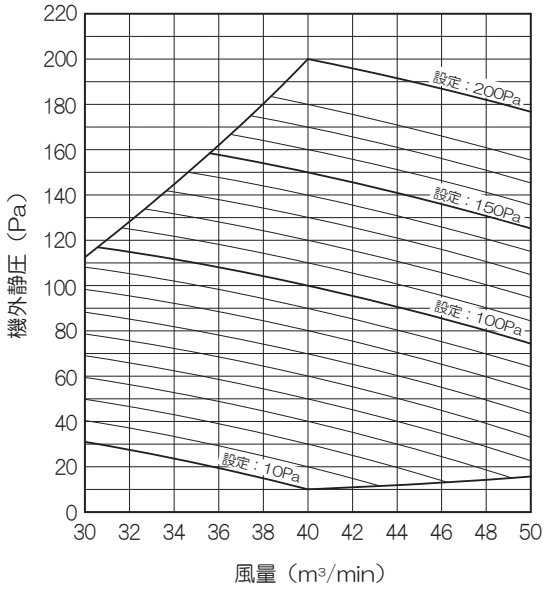
注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコン から設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
リスク回避のため、出荷状態で可能な機外静圧設定範囲を10～120Paとしています。

2) SW8-4:ON の場合

①各タップの機外静圧特性



② Hi タップの機外静圧特性



注（1） 表中の［設定00Pa］とはリモコン から設定する機外静圧設定を示します。
（2） リモコンからの機外静圧設定と実機外静圧が異なっていた場合には、水飛・不冷・不暖の原因となります。
（3） 基板上のSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10～200Paにすることも可能です。
切替方法は247ページを参照ください。

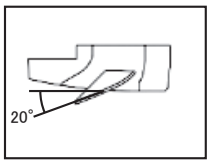
5. 気流分布

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

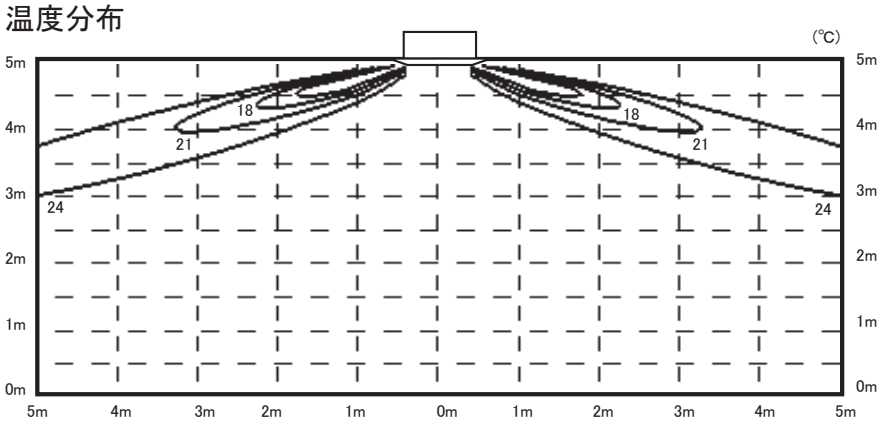
機種名　FDTP285LXA, 365LXA, 455LXA

冷房　風量：P 急

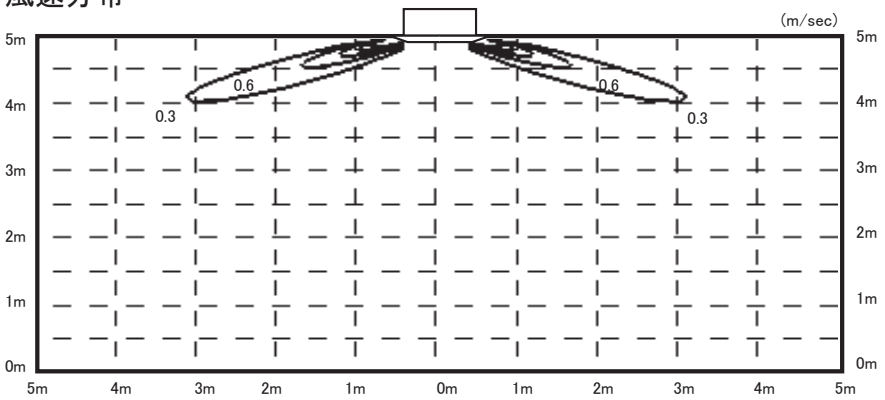
ルーバ位置



温度分布

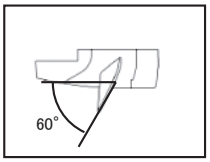


風速分布

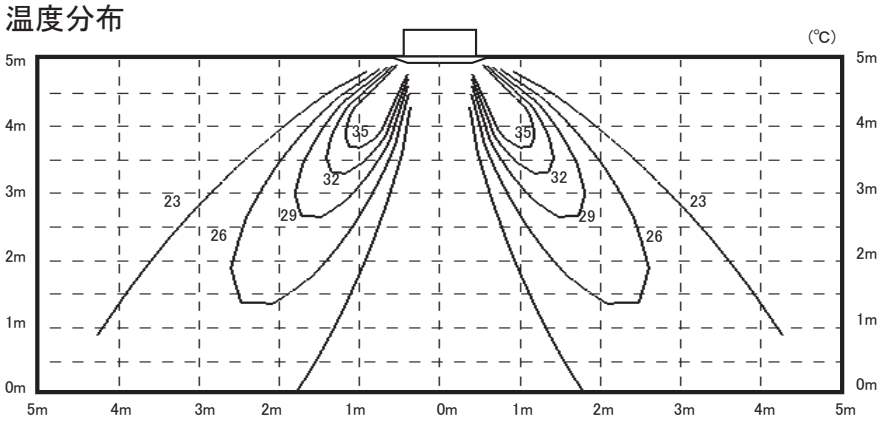


暖房　風量：P 急

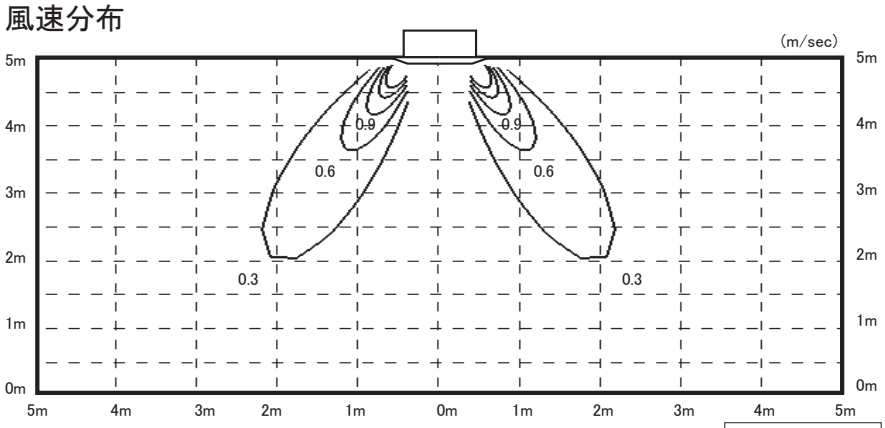
ルーバ位置



温度分布



風速分布

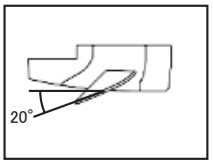


ISD16448A

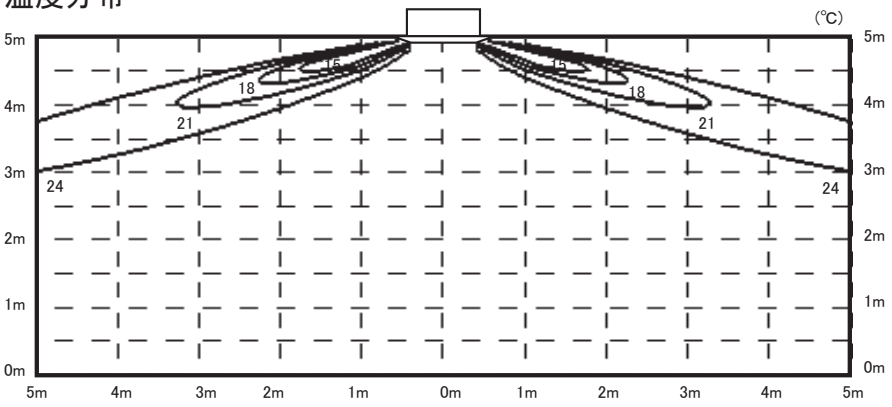
機種名　FDTP565LXA

冷房　風量：P 急

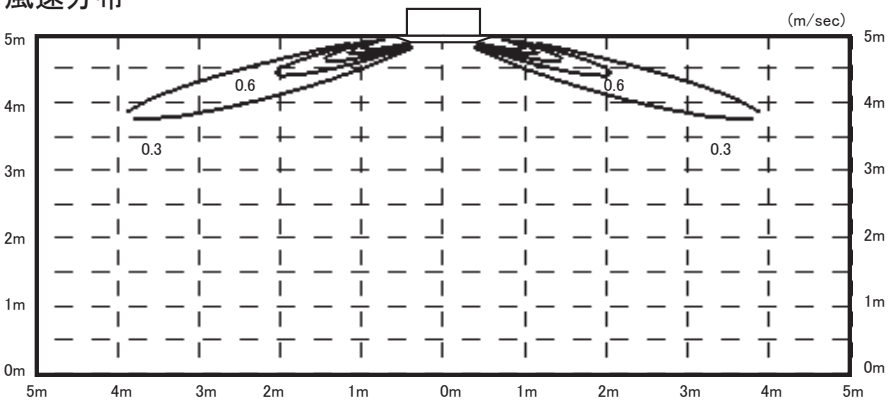
ルーバ位置



温度分布

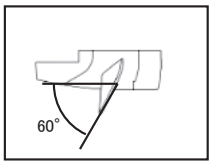


風速分布

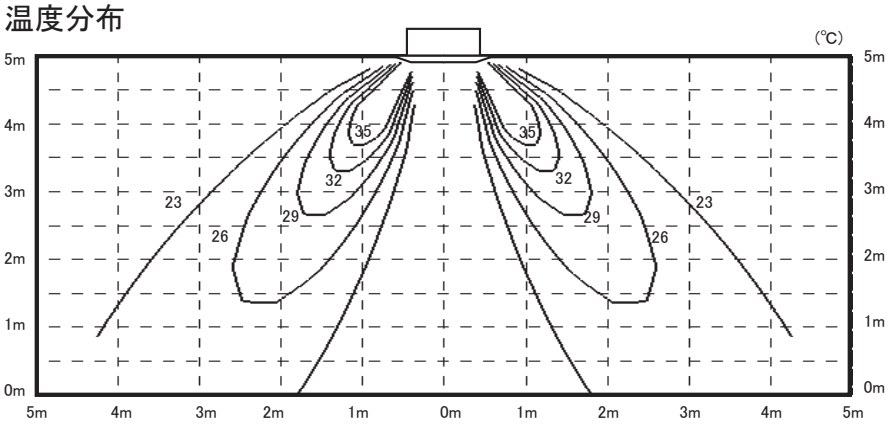


暖房　風量：P 急

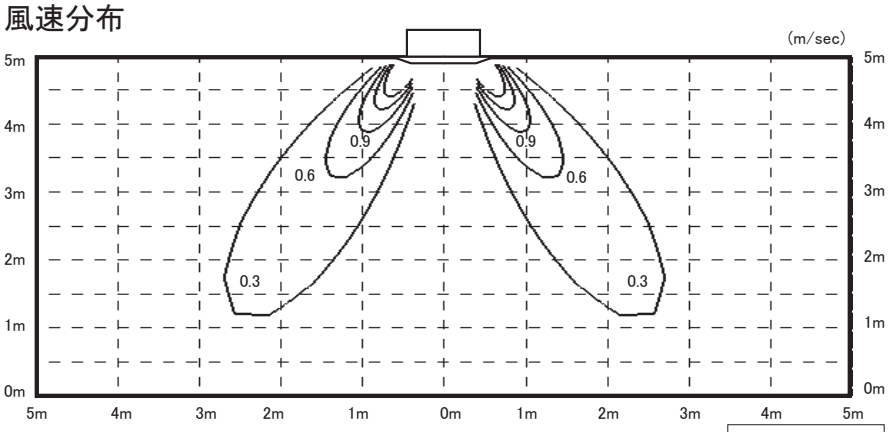
ルーバ位置



温度分布



風速分布

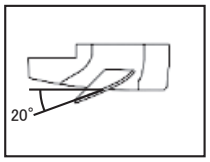


ISD16448

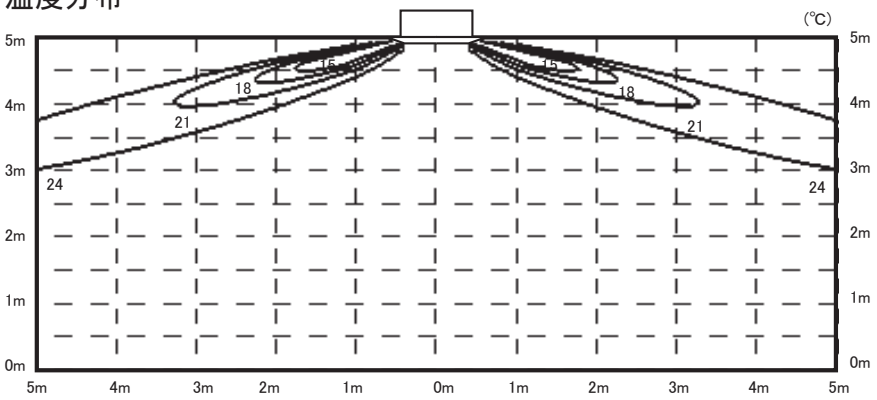
機種名　FDTP715LXA, 805LXA

冷房　風量：P 急

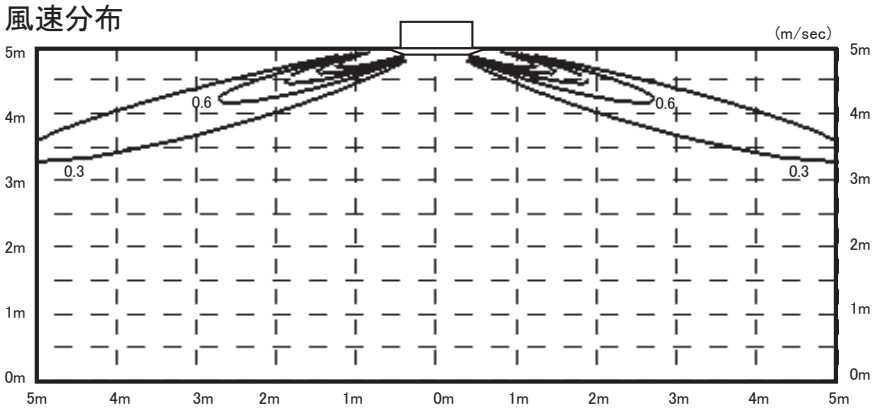
ルーバ位置



温度分布

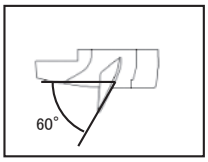


風速分布

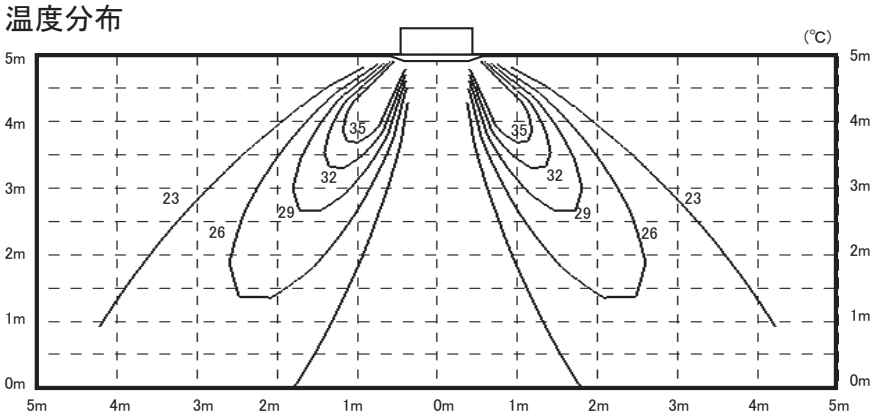


暖房　風量：P 急

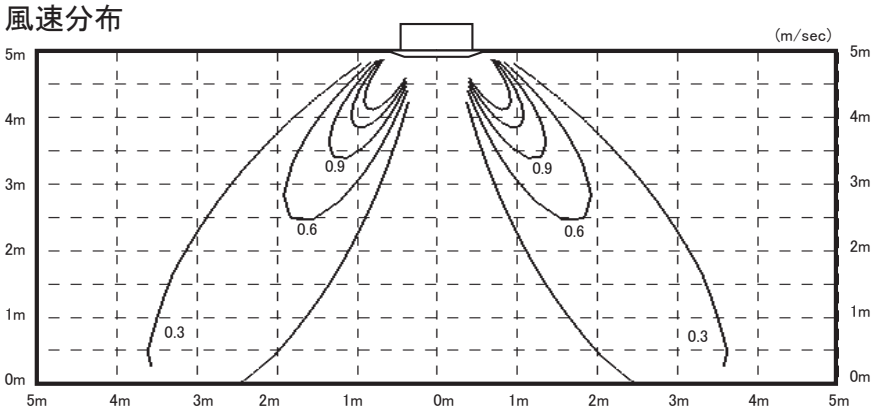
ルーバ位置



温度分布



風速分布

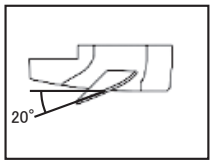


ISD16448Ⓐ

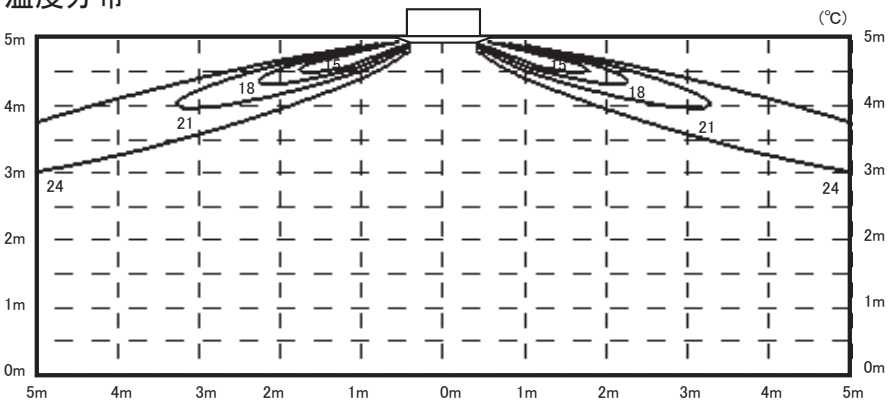
機種名　FDTP905LXA, 1125LXA, 1405LXA, 1605LXA

冷房　風量：P 急

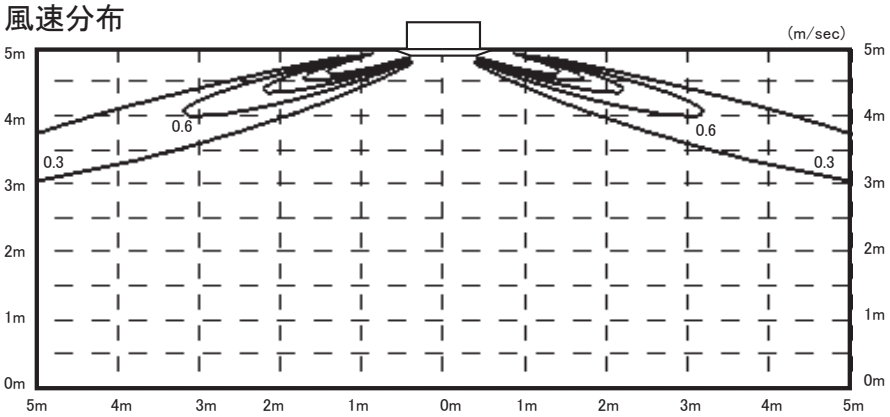
ルーバ位置



温度分布

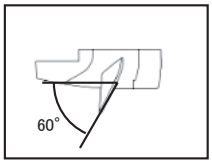


風速分布

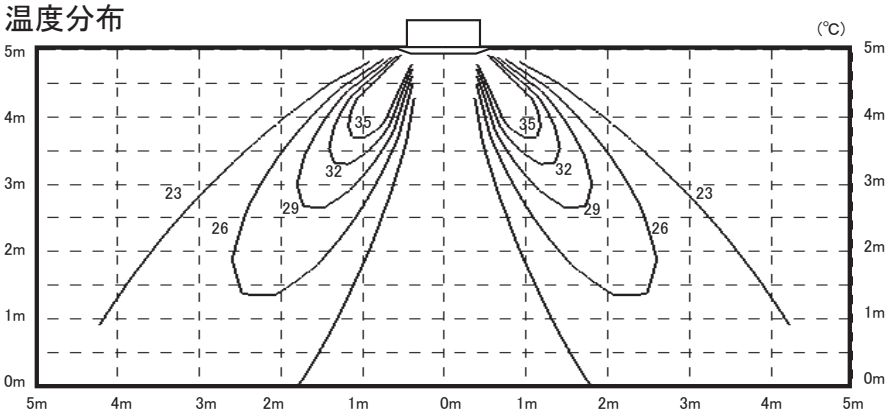


暖房　風量：P 急

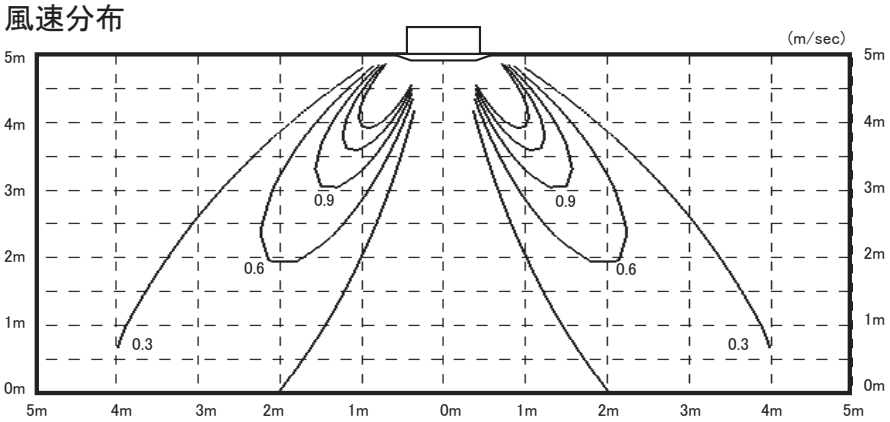
ルーバ位置



温度分布



風速分布



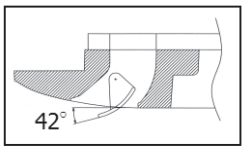
ISD16448A

(2) 天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

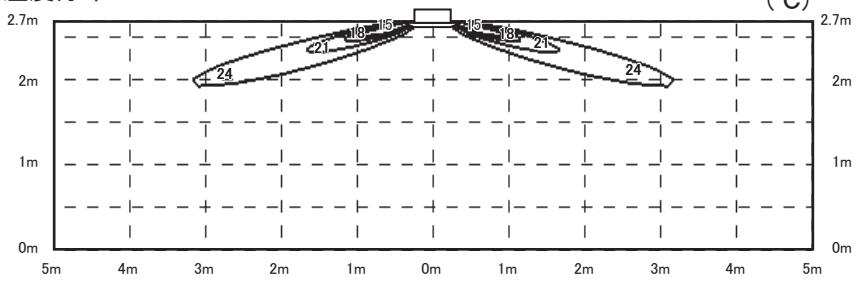
FDTCP225,285LXA

冷房　風量: P 急

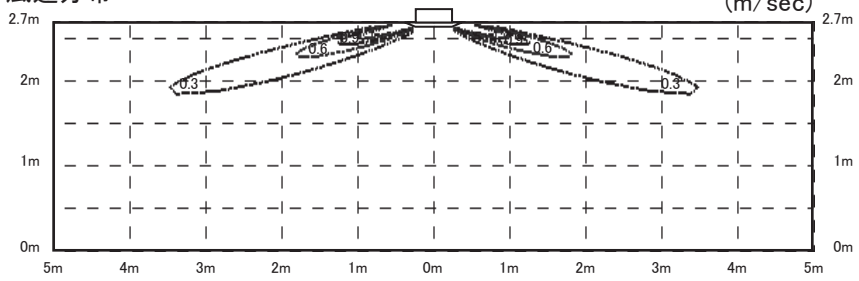
ルーバ位置



温度分布

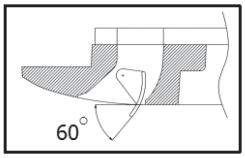


風速分布

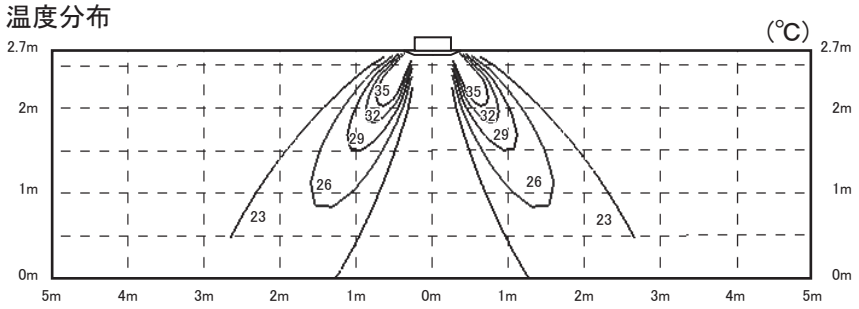


暖房　風量: P 急

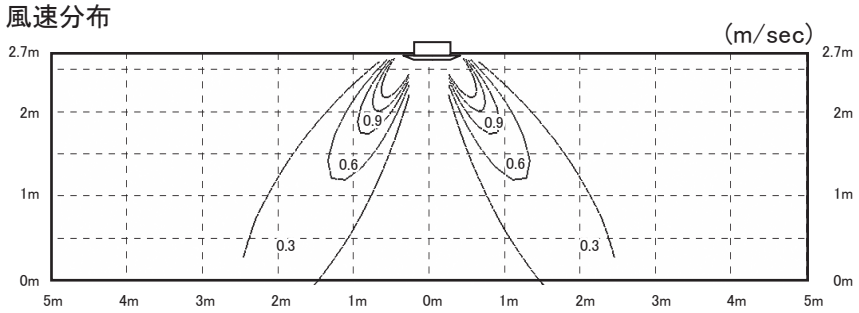
ルーバ位置



温度分布



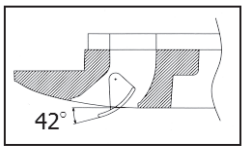
風速分布



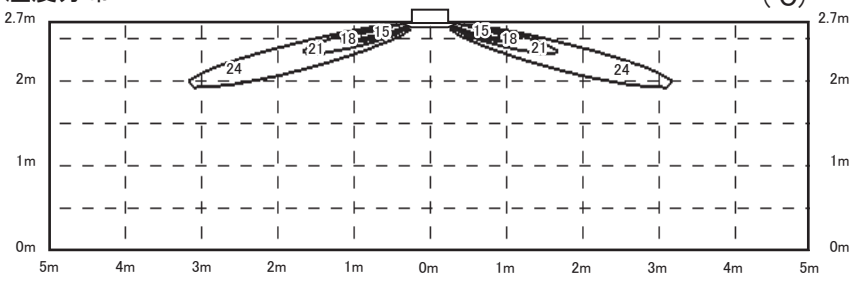
FDTCP365LXA

冷房　風量: P 急

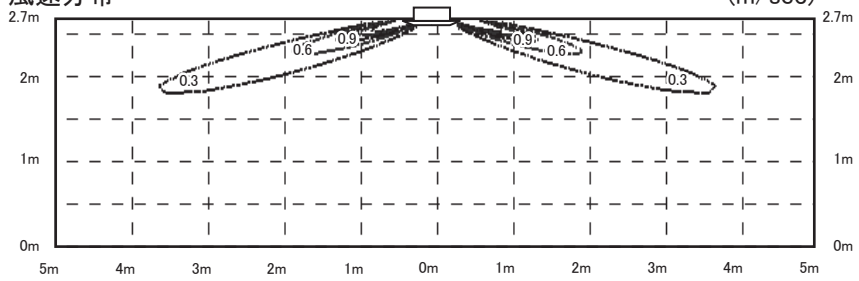
ルーバ位置



温度分布

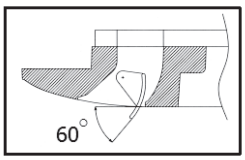


風速分布

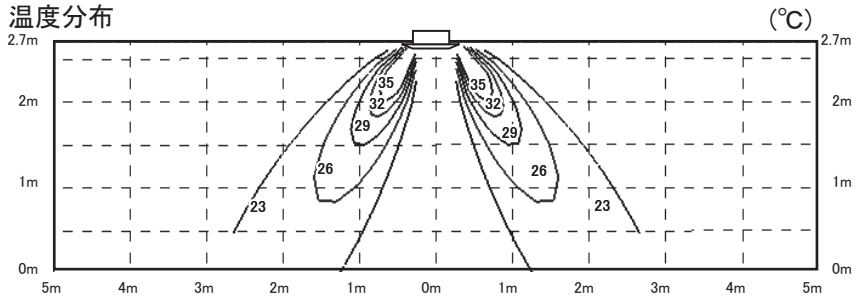


暖房　風量: P 急

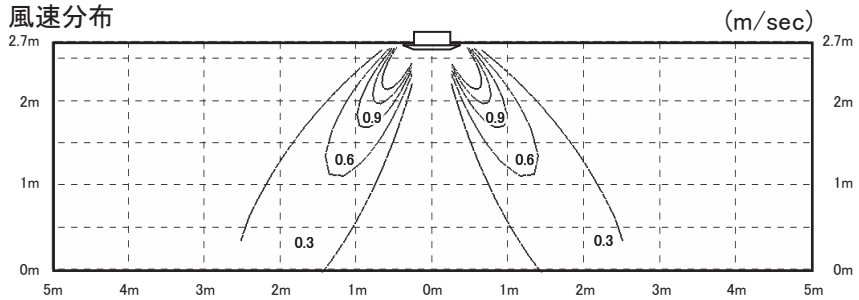
ルーバ位置



温度分布



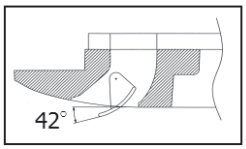
風速分布



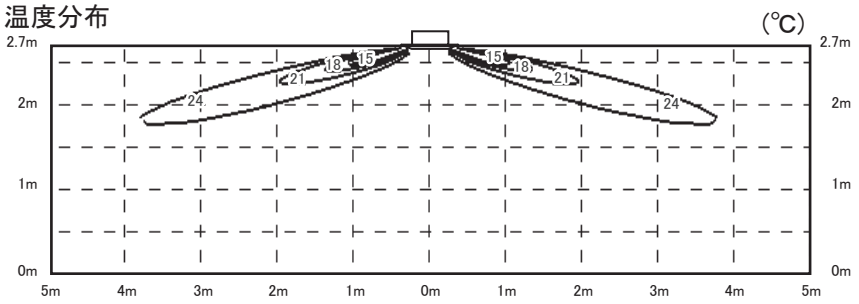
FDTCP455LXA

冷房　風量: P 急

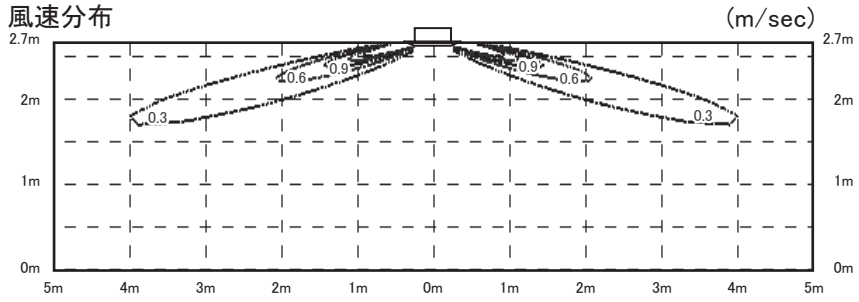
ルーバ位置



温度分布

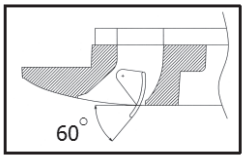


風速分布

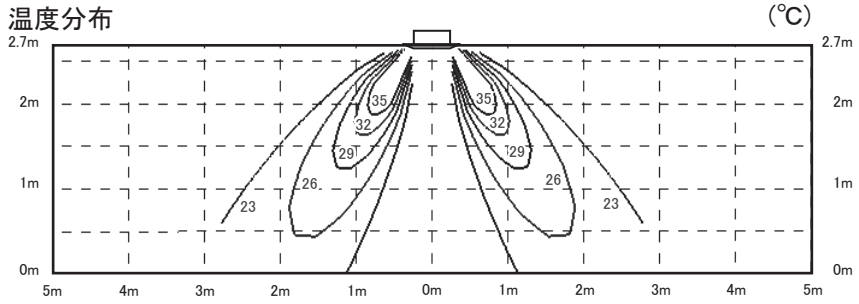


暖房　風量: P 急

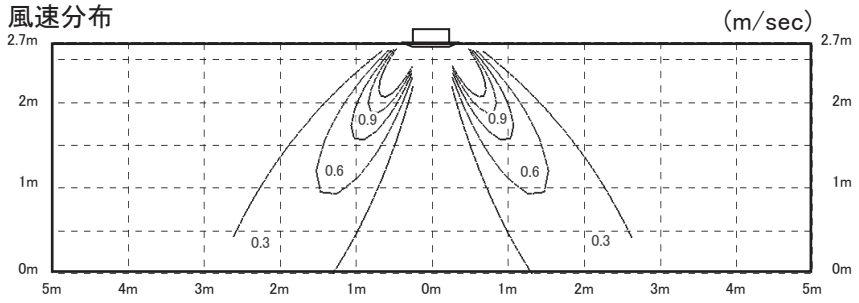
ルーバ位置



温度分布



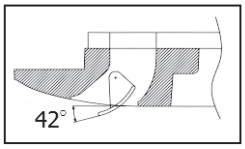
風速分布



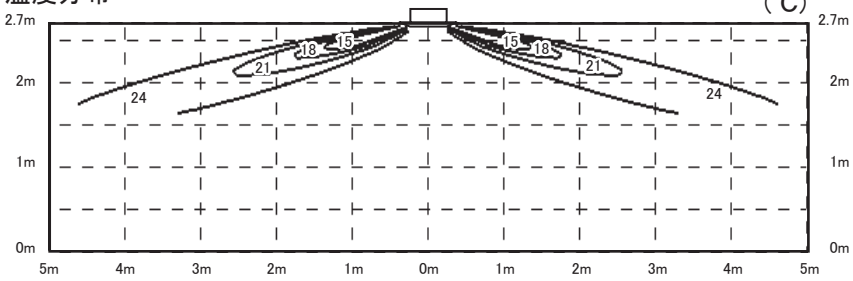
FDTCP565LXA

冷房　風量: P 急

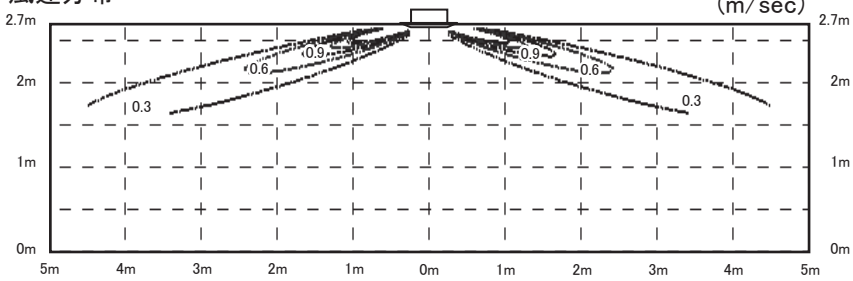
ルーバ位置



温度分布

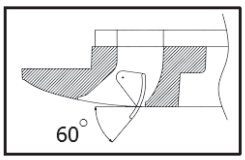


風速分布

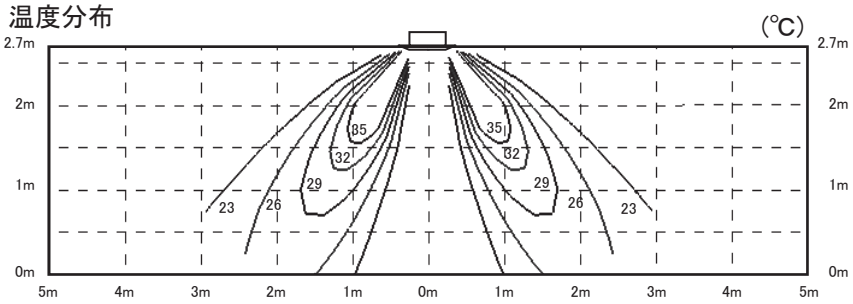


暖房　風量: P 急

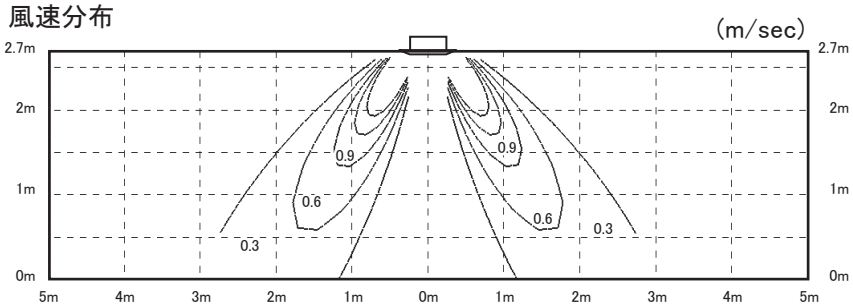
ルーバ位置



温度分布



風速分布

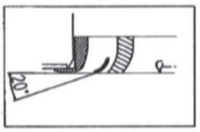


(3) 天井埋込形 2 方向吹出し(FDTW)

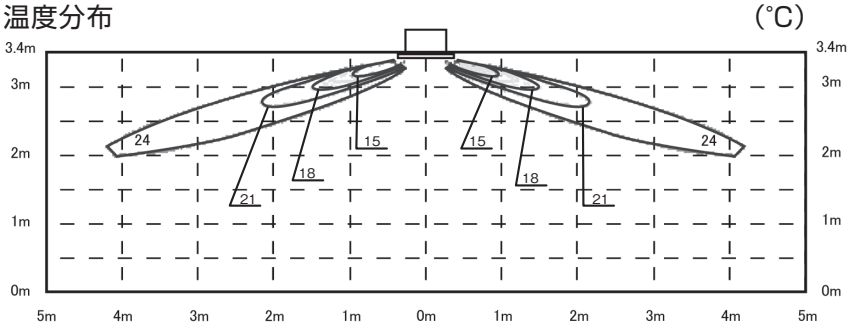
FDTWP225，285，365，455，565，715LXA

(a) 冷房　風量：P- 急

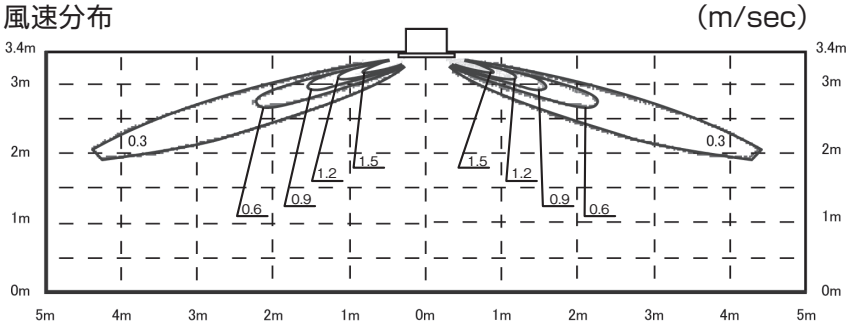
ルーバ位置



温度分布 (°C)

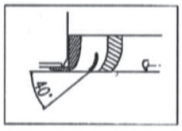


風速分布 (m/sec)

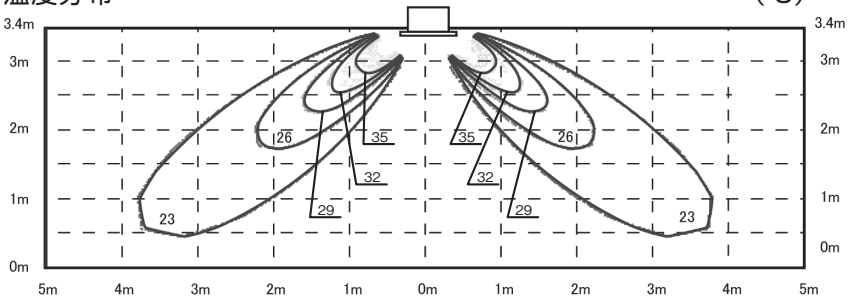


(b) 暖房　風量：P- 急

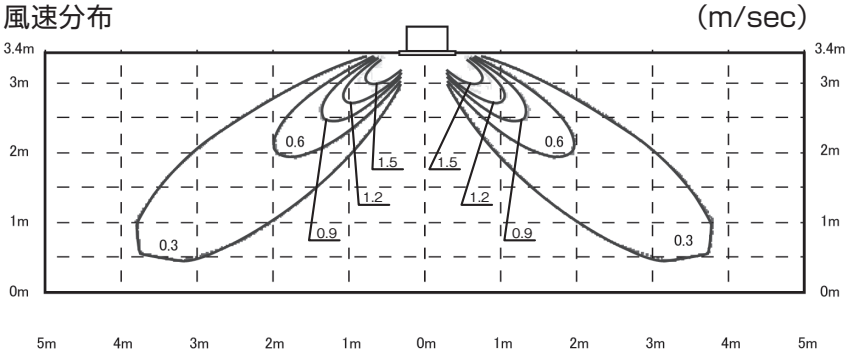
ルーバ位置



温度分布 (°C)



風速分布 (m/sec)

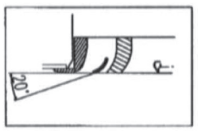


ISD11579

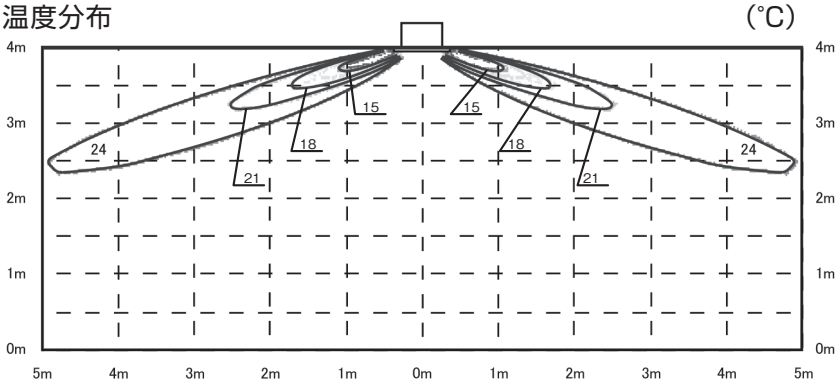
FDTWP805LXA

(a) 冷房　風量：P 急

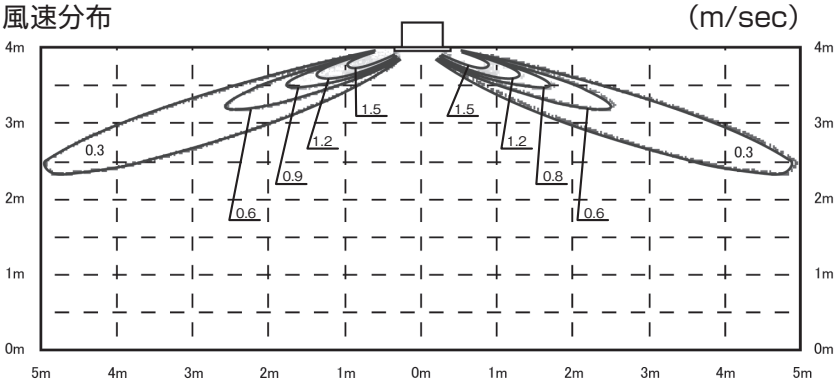
ルーバ位置



温度分布 (°C)

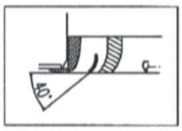


風速分布 (m/sec)

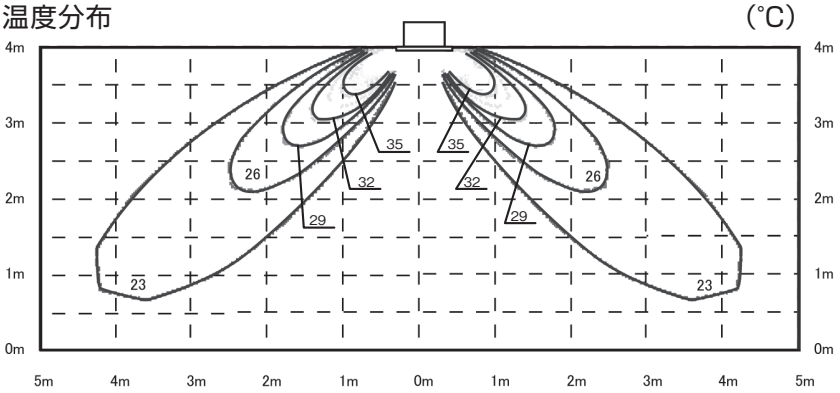


(b) 暖房　風量：P 急

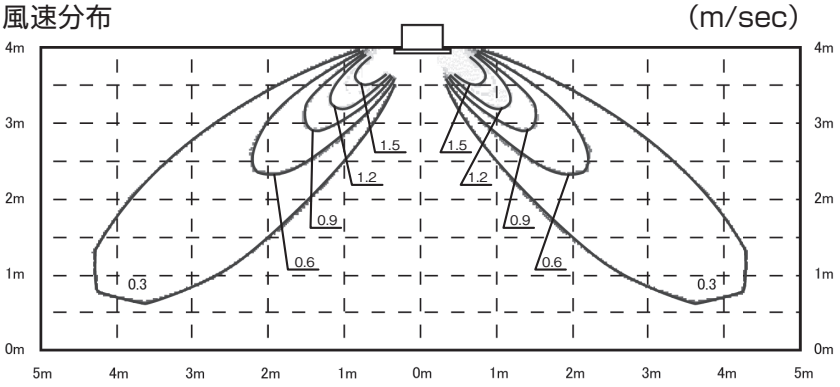
ルーバ位置



温度分布 (°C)



風速分布 (m/sec)

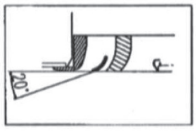


ISD11579

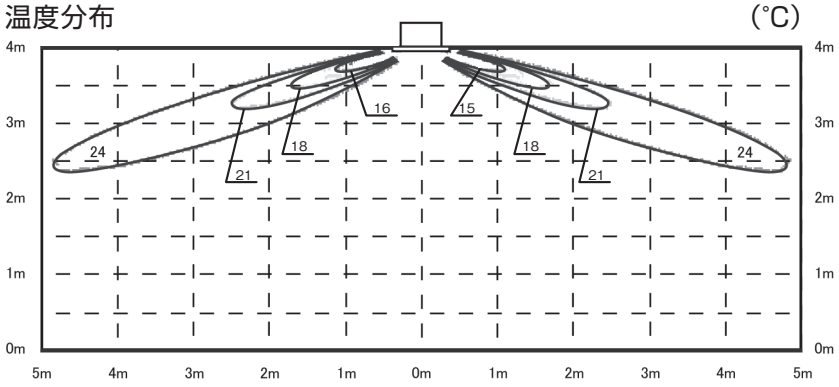
FDTWP905，1125，1405，1605LXA

(a) 冷房　風量：P 急

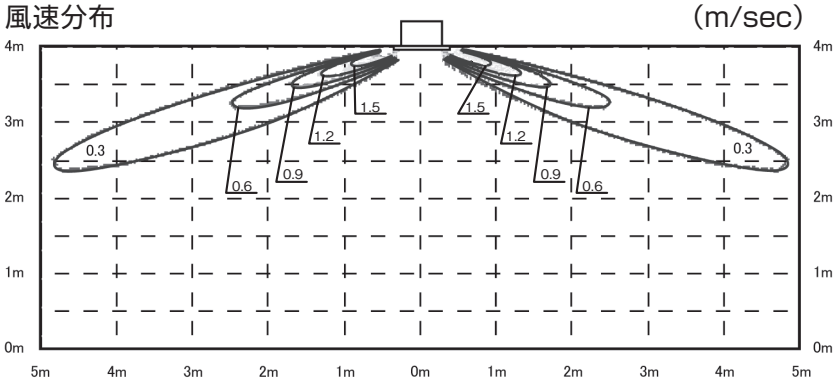
ルーバ位置



温度分布 (°C)

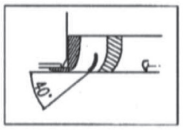


風速分布 (m/sec)

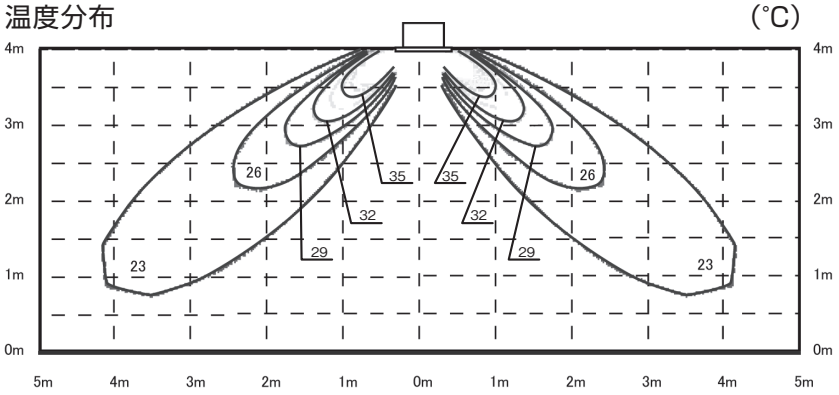


(b) 暖房　風量：P 急

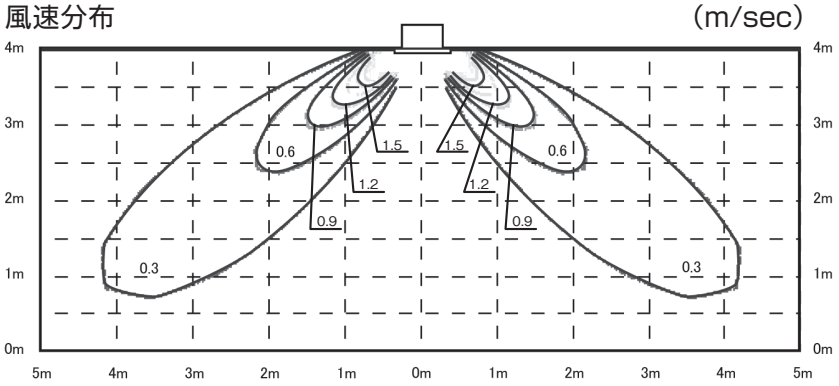
ルーバ位置



温度分布 (°C)



風速分布 (m/sec)



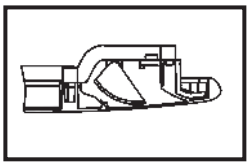
ISD11579

(4) 天井埋込形 1 方向吹出し(FDTS)

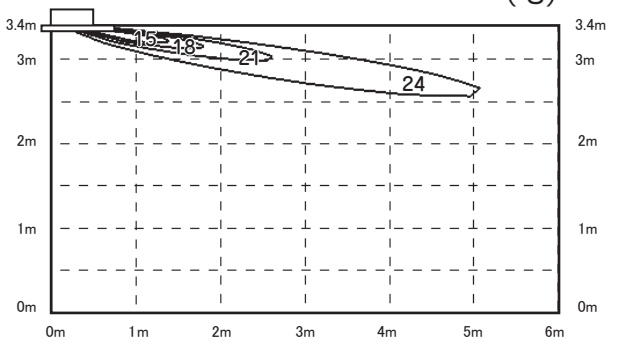
FDTSP455LXA

(a) 冷房　風量：P急

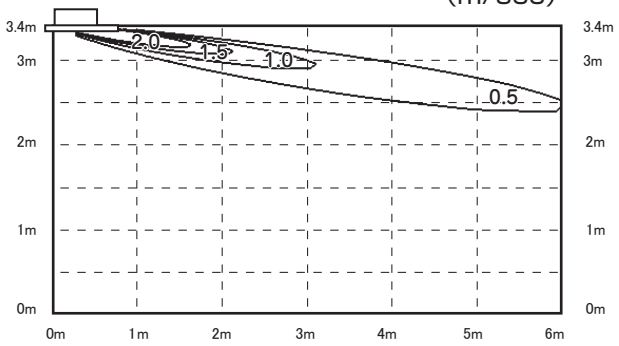
ルーバ位置



温度分布 (°C)

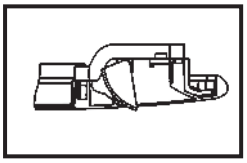


風速分布 (m/sec)

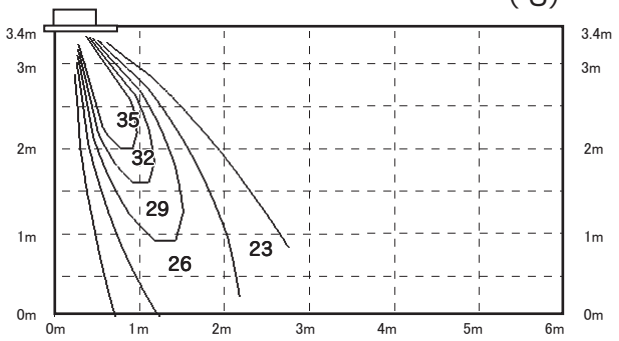


(b) 暖房　風量：P急

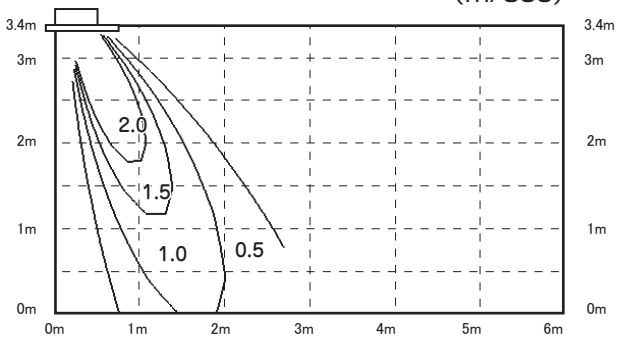
ルーバ位置



温度分布 (°C)



風速分布 (m/sec)

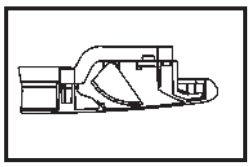


ISD12329

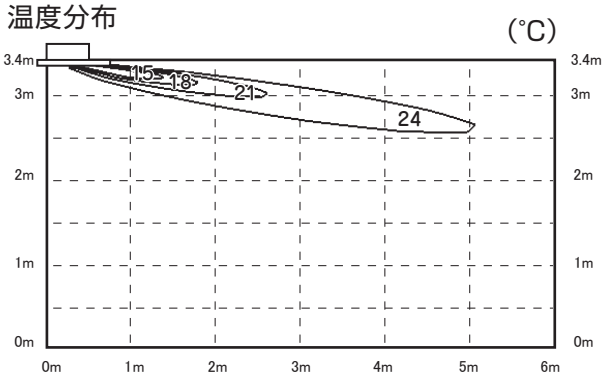
FDTSP565LXA

(a) 冷房　風量：P急

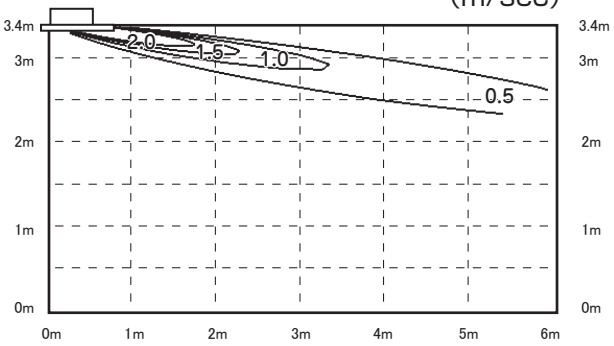
ルーバ位置



温度分布

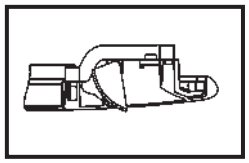


風速分布

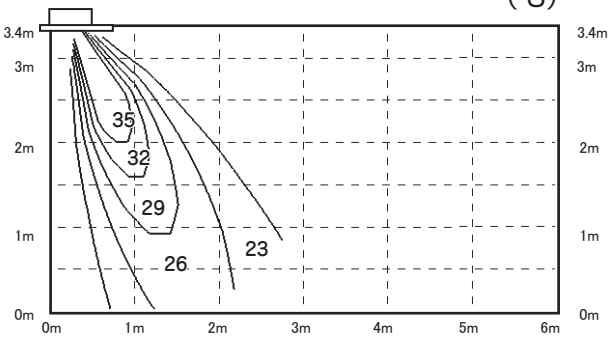


(b) 暖房　風量：P急

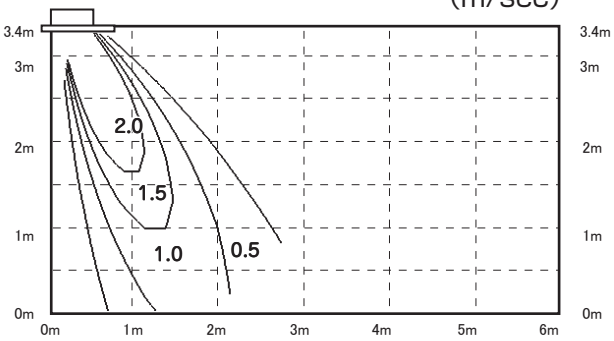
ルーバ位置



温度分布



風速分布

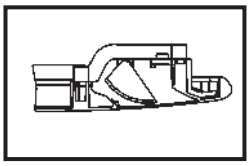


ISD12329

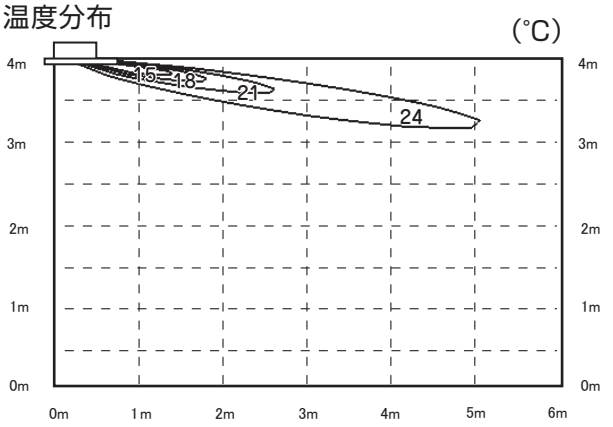
FDTSP715LXA

(a) 冷房　風量：P急

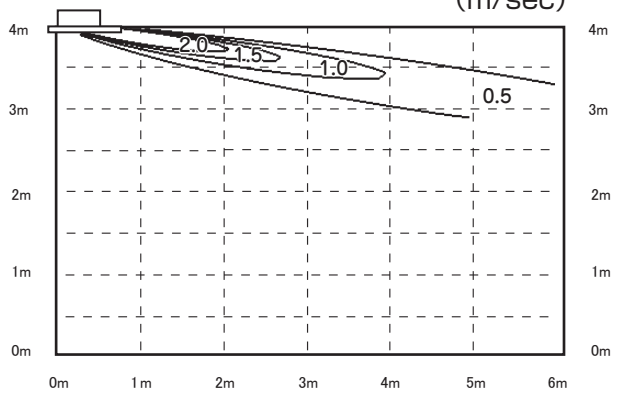
ルーバ位置



温度分布

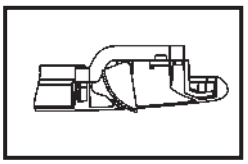


風速分布

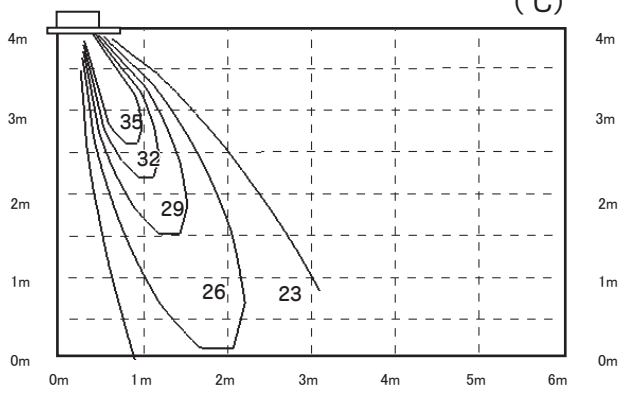


(b) 暖房　風量：P急

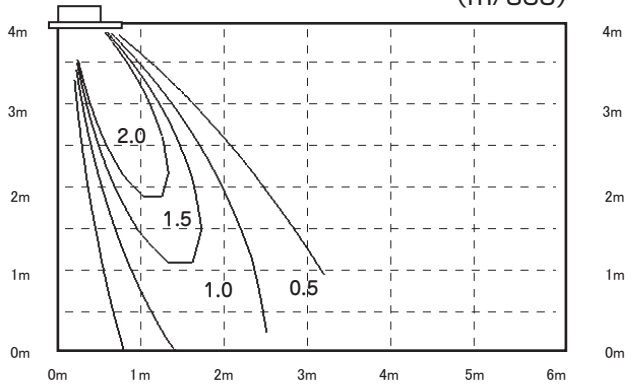
ルーバ位置



温度分布



風速分布

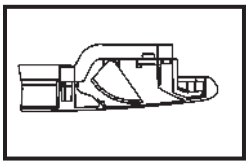


ISD12329

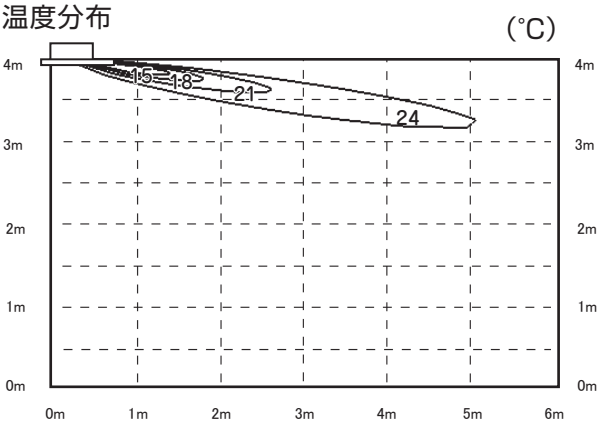
FDTSP805LXA

(a) 冷房　風量：P急

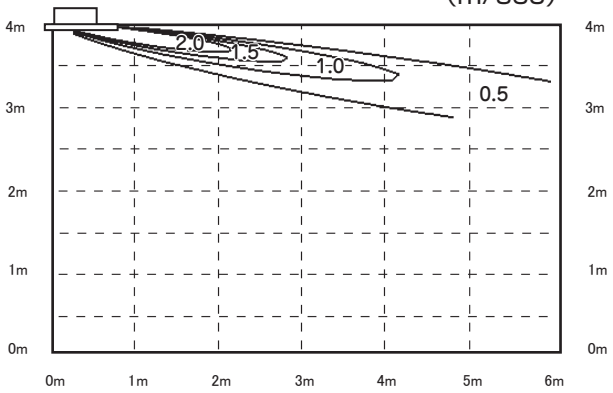
ルーバ位置



温度分布

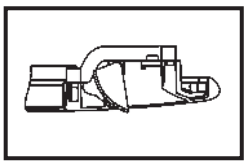


風速分布

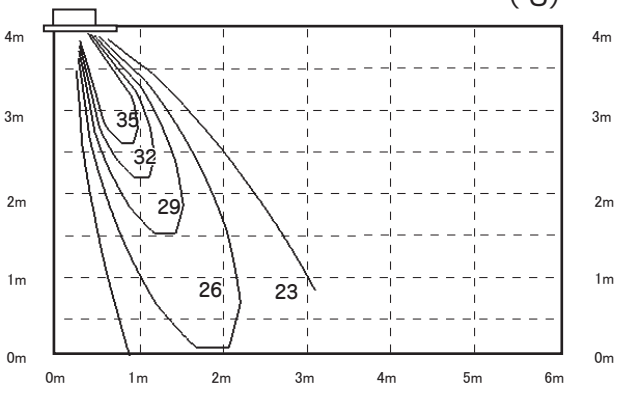


(b) 暖房　風量：P急

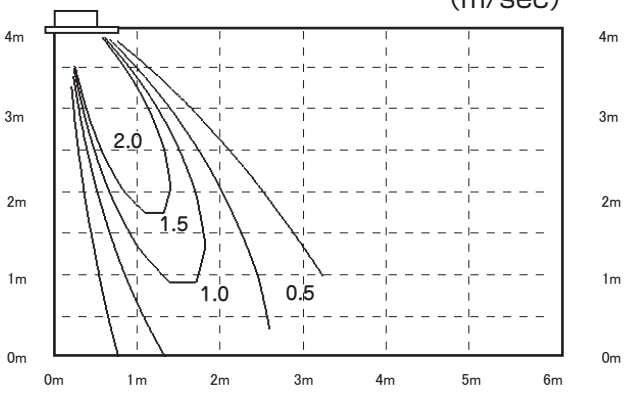
ルーバ位置



温度分布



風速分布



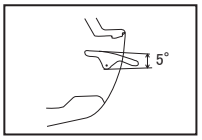
ISD12329

(5) 天吊形(FDE)

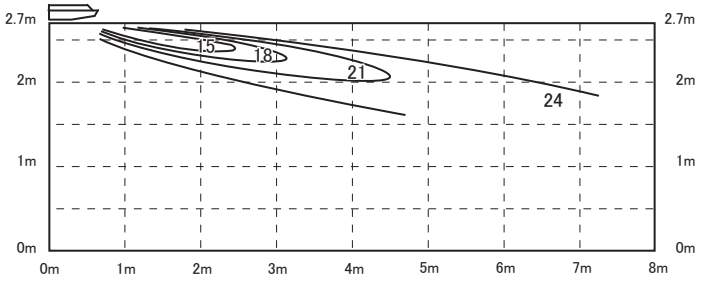
FDEP365, 455, 565LXA

(a) 冷房　風量：P 急

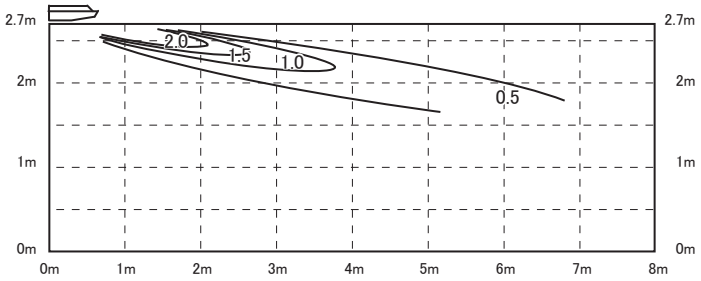
ルーバ位置



温度分布　(°C)

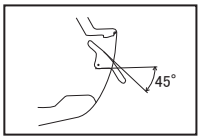


風速分布　(m/sec)

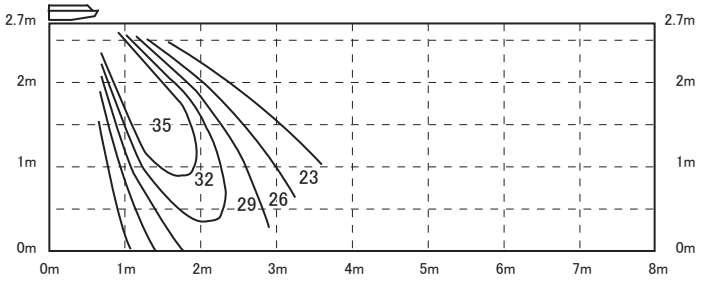


(b) 暖房　風量：P 急

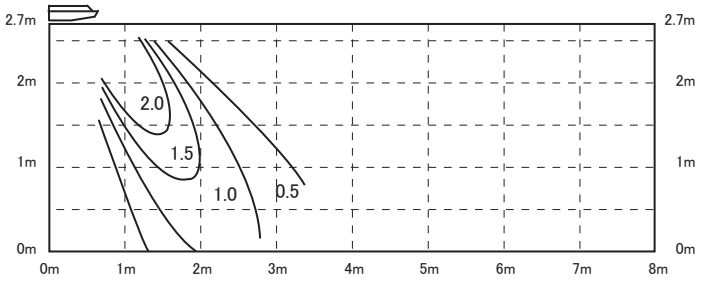
ルーバ位置



温度分布　(°C)



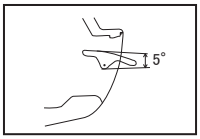
風速分布　(m/sec)



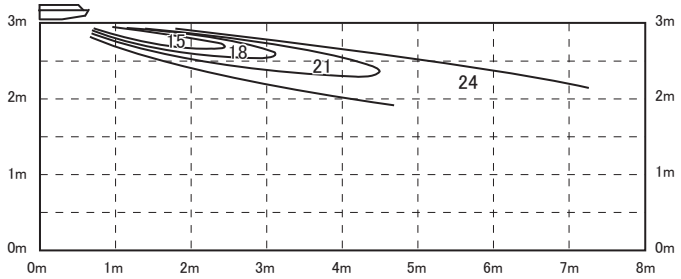
FDEP715LXA

(a) **冷房　風量：P 急**

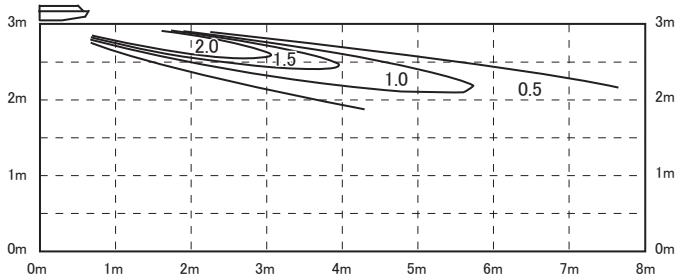
ルーバ位置



温度分布　(°C)

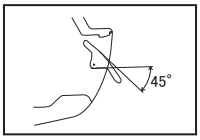


風速分布　(m/sec)

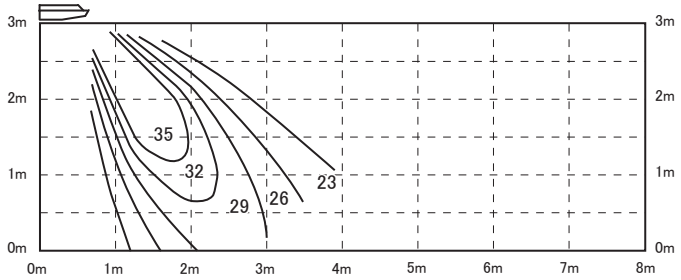


(b) **暖房　風量：P 急**

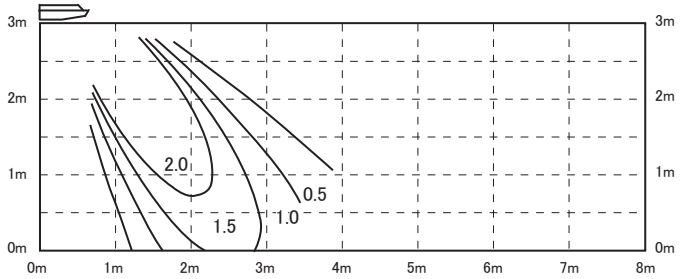
ルーバ位置



温度分布　(°C)



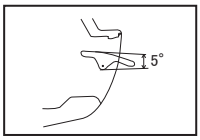
風速分布　(m/sec)



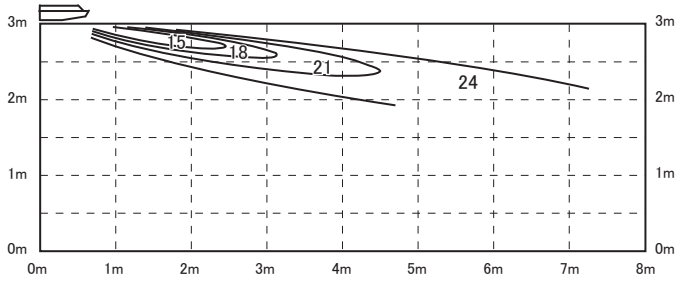
FDEP805, 905LXA

(a) **冷房　風量：P 急**

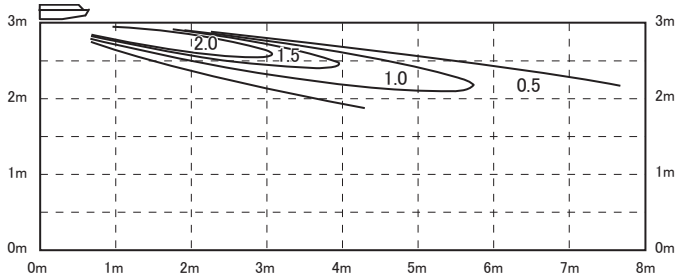
ルーバ位置



温度分布　(°C)

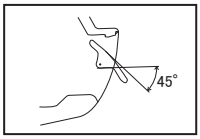


風速分布　(m/sec)

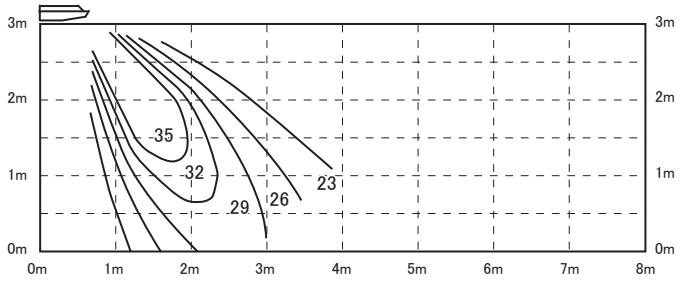


(b) **暖房　風量：P 急**

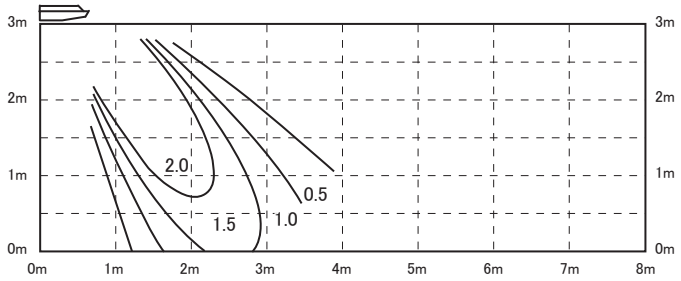
ルーバ位置



温度分布　(°C)



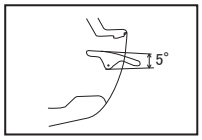
風速分布　(m/sec)



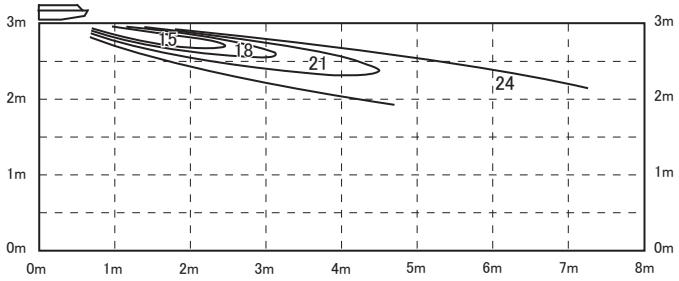
FDEP1125LXA

(a) **冷房　風量：P 急**

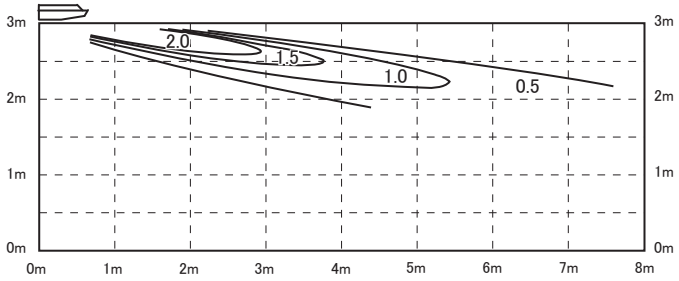
ルーバ位置



温度分布　(°C)

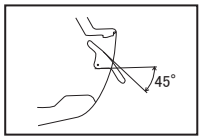


風速分布　(m/sec)

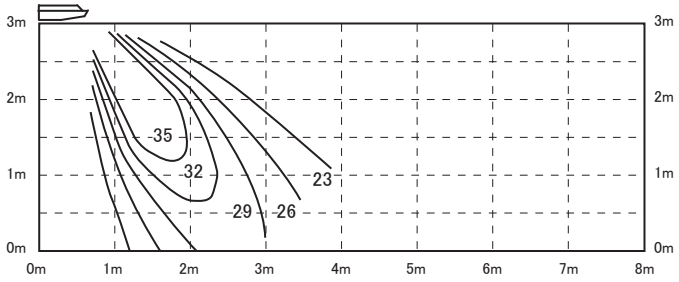


(b) **暖房　風量：P 急**

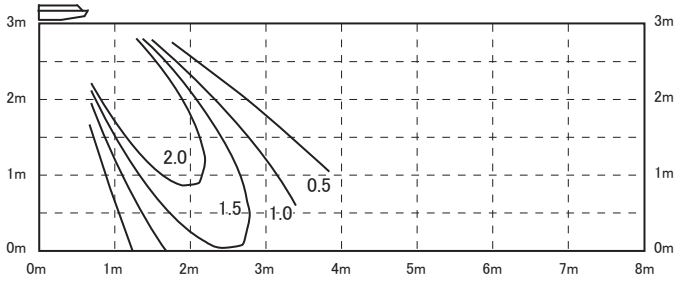
ルーバ位置



温度分布　(°C)



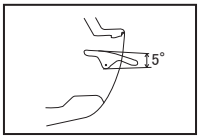
風速分布　(m/sec)



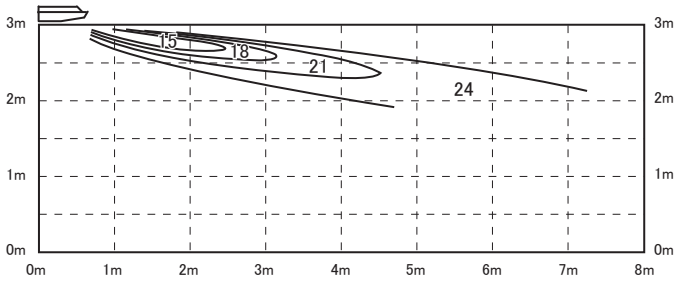
FDEP1405LXA

(a) **冷房　風量：P 急**

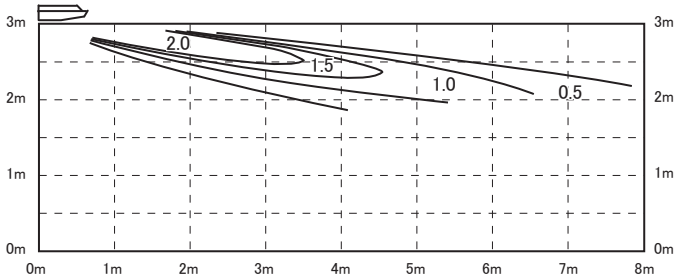
ルーバ位置



温度分布　(℃)

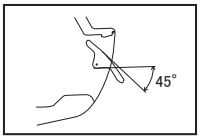


風速分布　(m/sec)

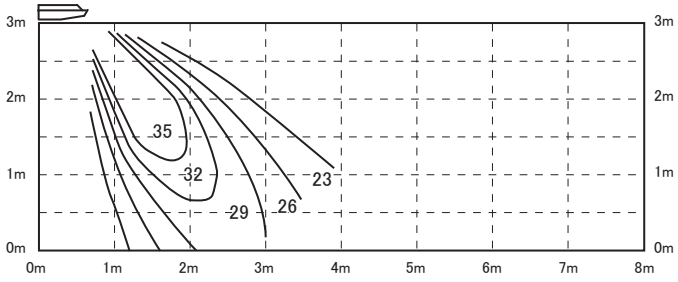


(b) **暖房　風量：P 急**

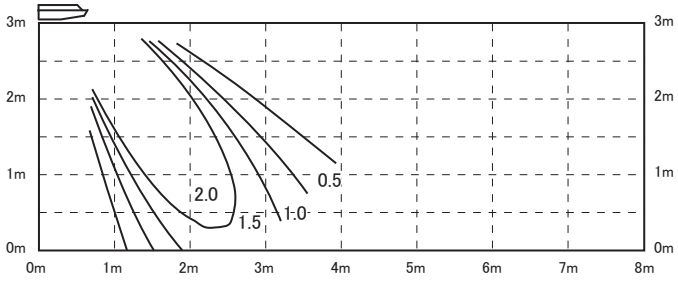
ルーバ位置



温度分布　(℃)



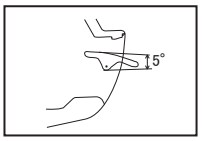
風速分布　(m/sec)



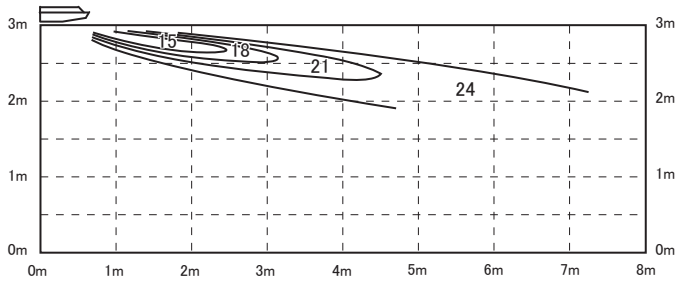
FDEP1605LXA

(a) 冷房　風量：P 急

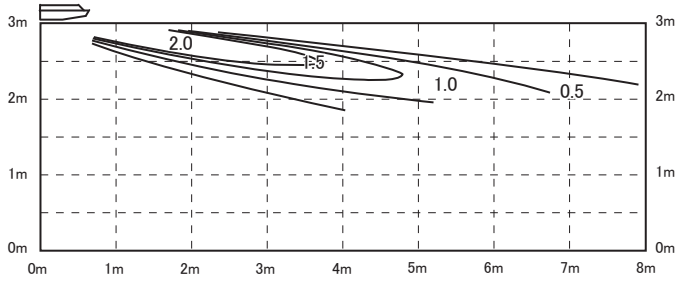
ルーバ位置



温度分布　(°C)

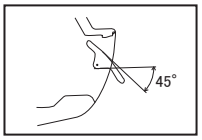


風速分布　(m/sec)

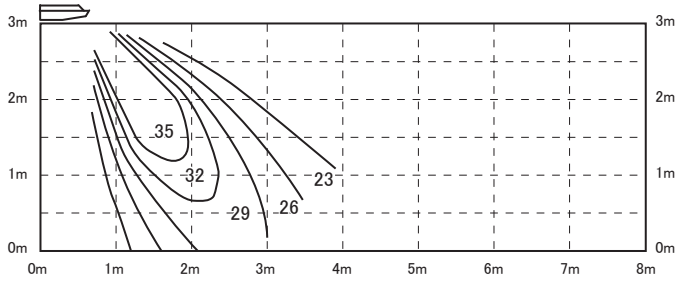


(b) 暖房　風量：P 急

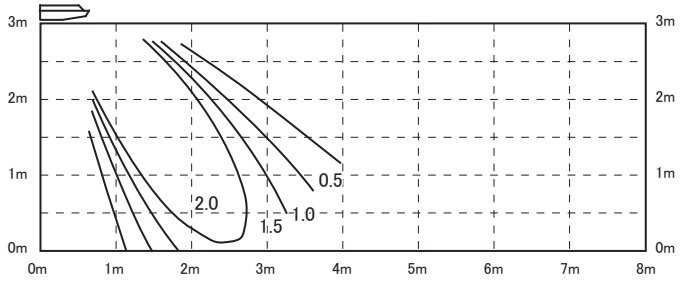
ルーバ位置



温度分布　(°C)



風速分布　(m/sec)

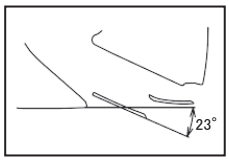


(6) 壁掛形（FDK）

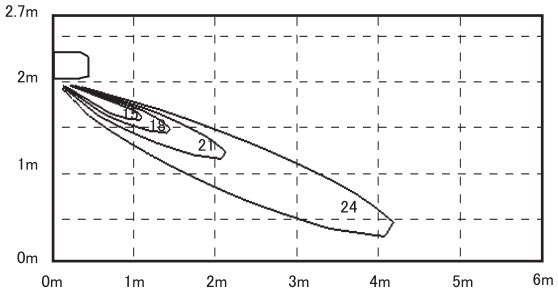
FDKP285LXA

(a) 冷房　風量：P 急

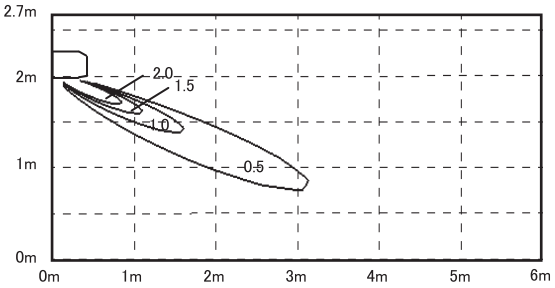
ルーバ位置



温度分布 (°C)

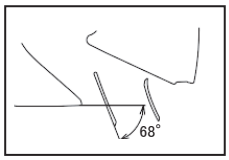


速度分布 (m/sec)

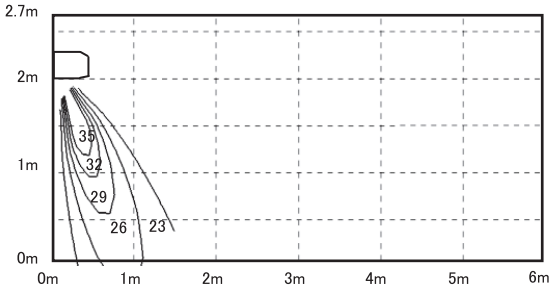


(b) 暖房　風量：P 急

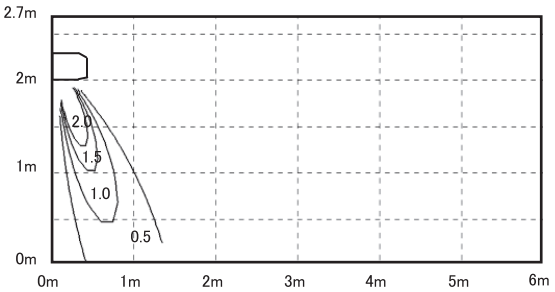
ルーバ位置



温度分布 (°C)



速度分布 (m/sec)

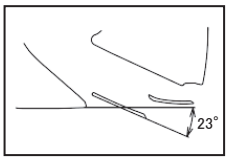


ISD16504⚠

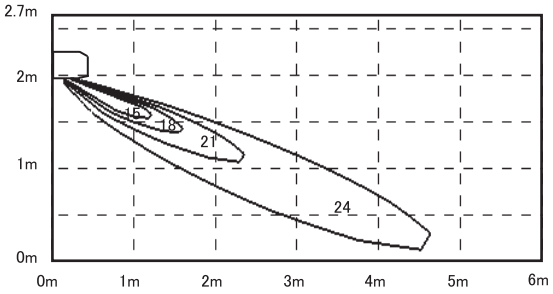
FDKP365LXA

(a) 冷房　風量：P 急

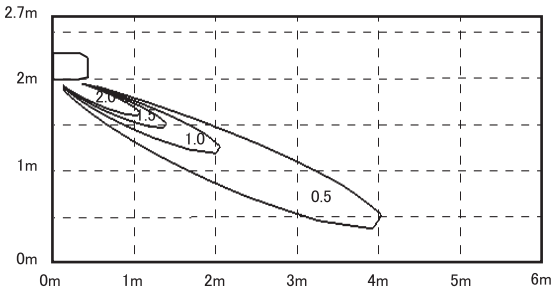
ルーバ位置



温度分布 (°C)

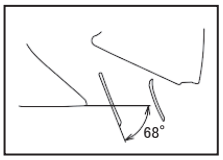


速度分布 (m/sec)

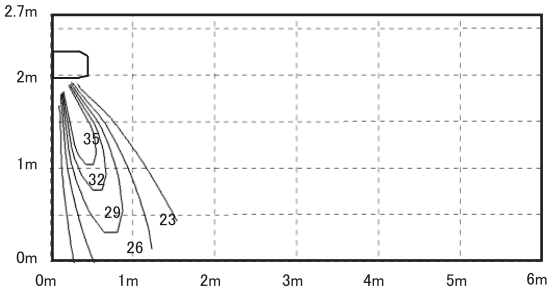


(b) 暖房　風量：P 急

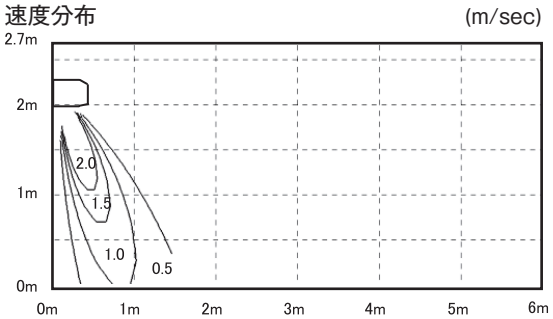
ルーバ位置



温度分布 (°C)



速度分布 (m/sec)

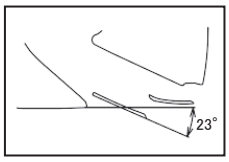


ISD16504⚠

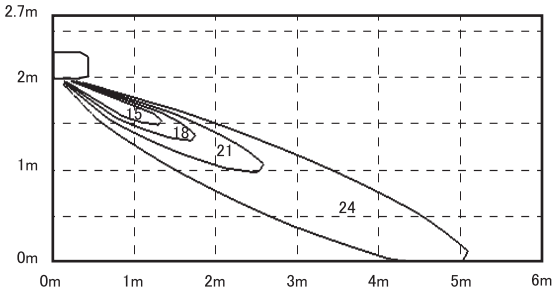
FDKP455LXA

(a) 冷房　風量：P 急

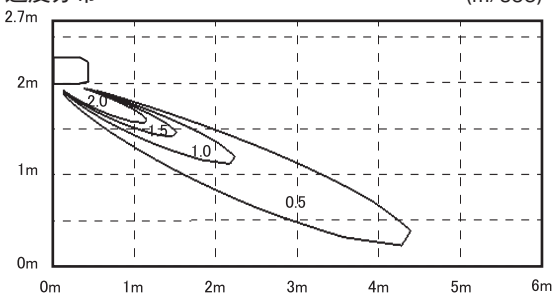
ルーバ位置



温度分布 (°C)

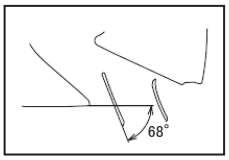


速度分布 (m/sec)

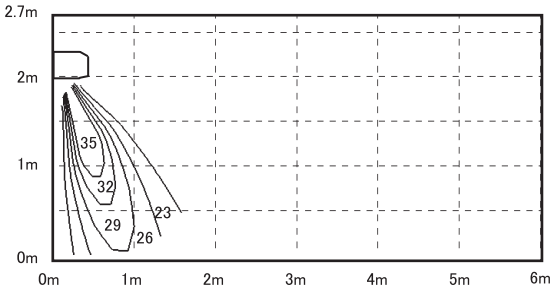


(b) 暖房　風量：P 急

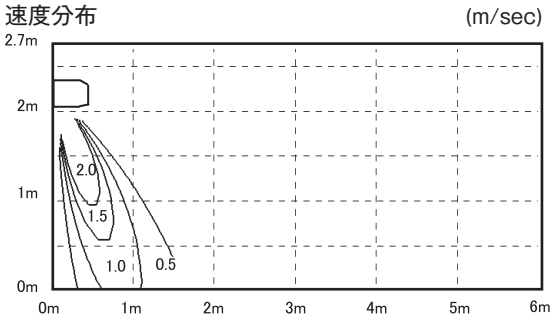
ルーバ位置



温度分布 (°C)



速度分布 (m/sec)

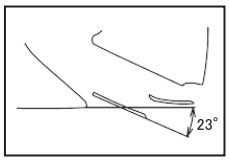


ISD16504⚠

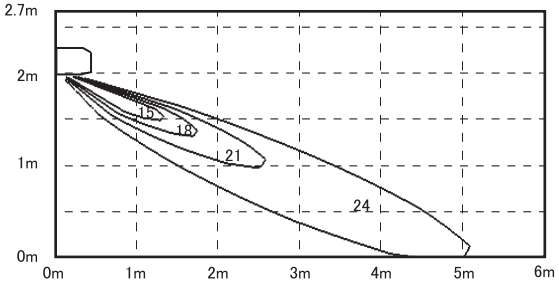
FDKP565LXA

(a) 冷房　風量：P 急

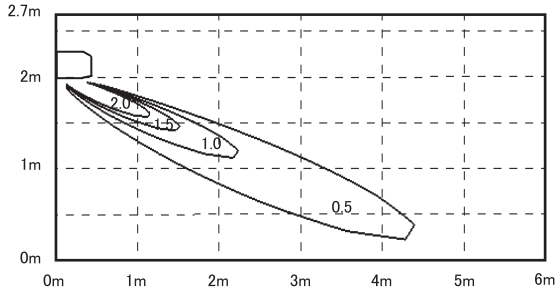
ルーバ位置



温度分布 (°C)

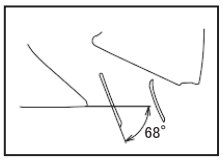


速度分布 (m/sec)

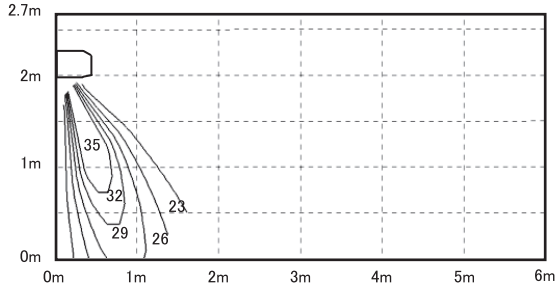


(b) 暖房　風量：P 急

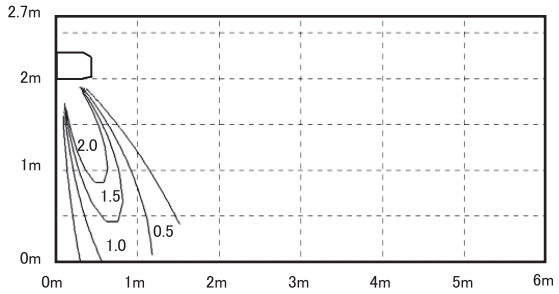
ルーバ位置



温度分布 (°C)



速度分布 (m/sec)

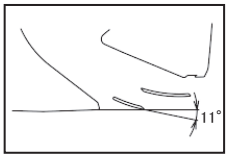


ISD16504⚠

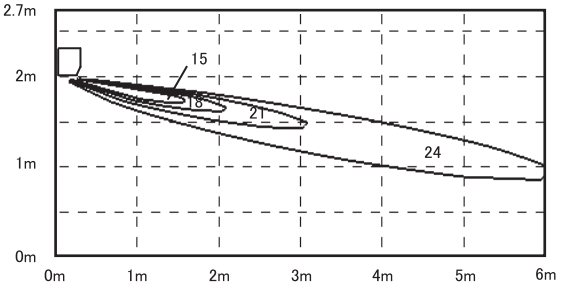
FDKP715LXA

(a) 冷房　風量：P 急

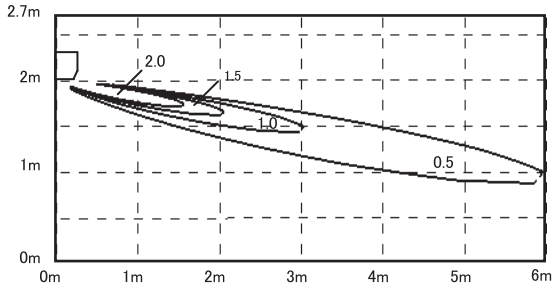
ルーバ位置



温度分布 (°C)

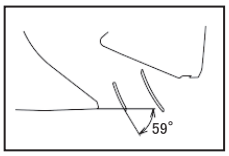


速度分布 (m/sec)

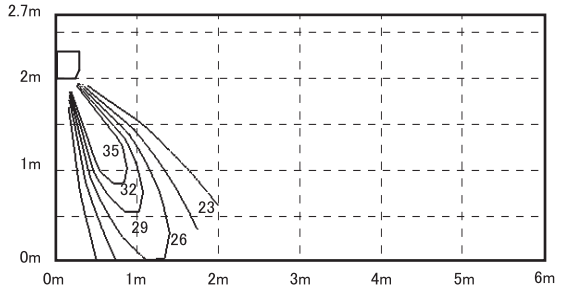


(b) 暖房　風量：P 急

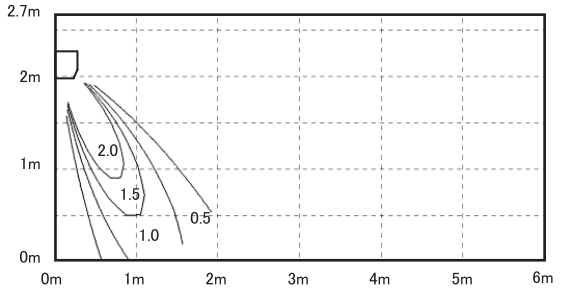
ルーバ位置



温度分布 (°C)



速度分布 (m/sec)



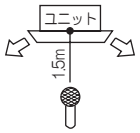
ISD16504⚠

6. 運 転 音

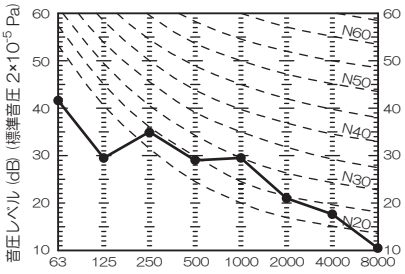
運転音は，JIS 規格に準拠し，反響の少ない無響室にて測定した値です。実際に据付けた場合は，周囲の騒音や部屋の反響を受け表示値より大きくなるのが普通です。

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

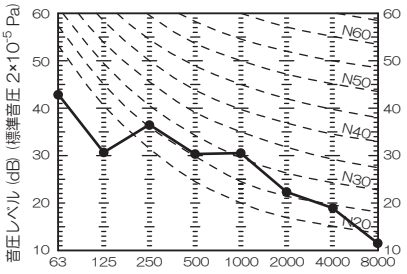


FDTP285LXA



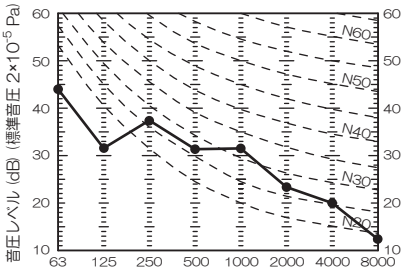
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTP365LXA



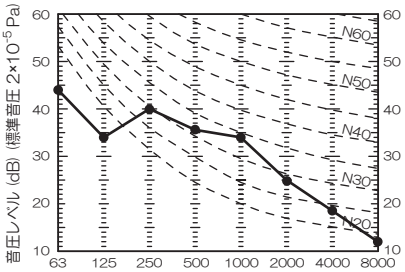
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTP455LXA



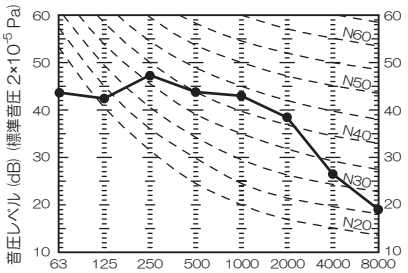
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTP565LXA



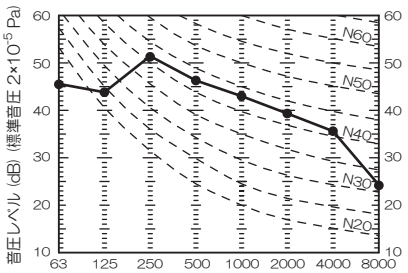
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTP715LXA, 805LXA



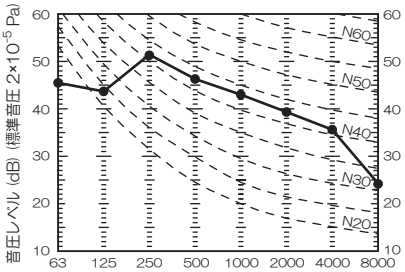
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTP905LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTP1125LXA, 1405LXA, 1605LXA

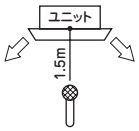


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

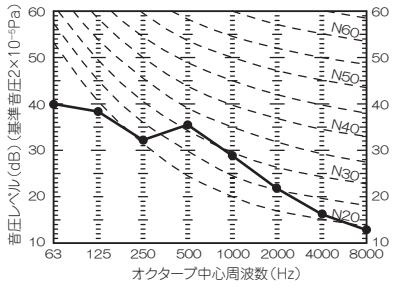
ISD17028

(2) 天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

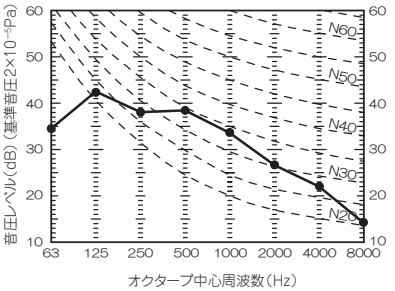


FDTCP225，285LXA



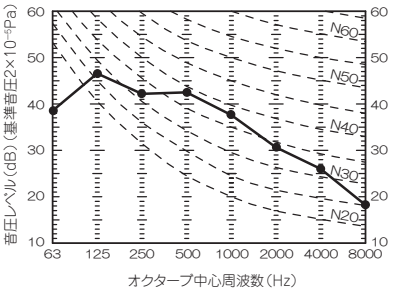
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTCP365LXA



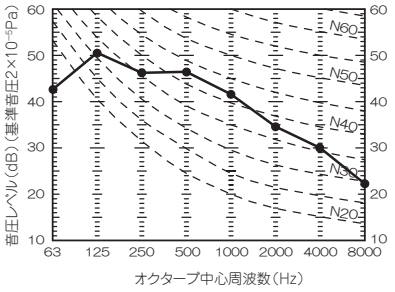
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTCP455LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

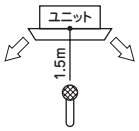
FDTCP565LXA



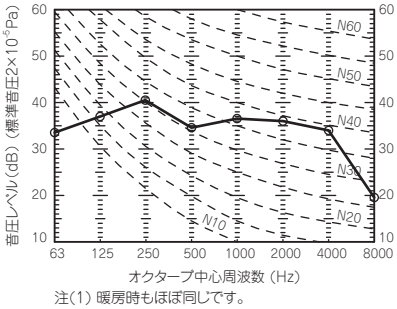
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(3) 天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

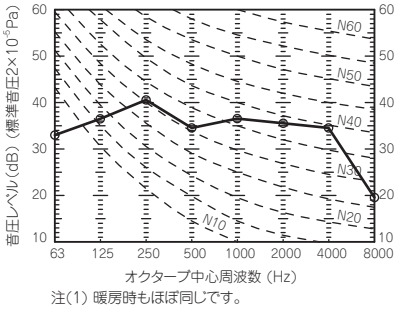


FDTWP225,285,365,
455,565LXA



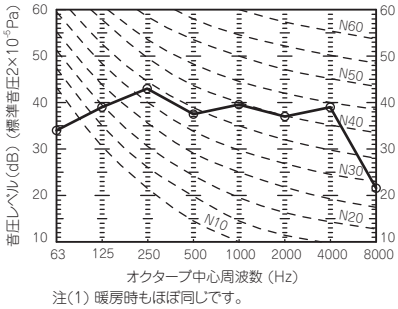
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTWP715LXA



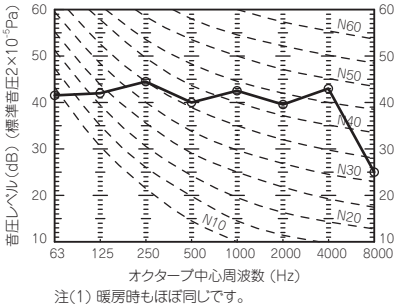
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTWP805LXA



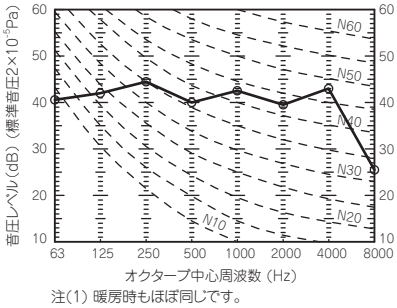
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTWP905,1125,1405LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTWP1605LXA

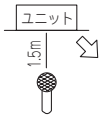


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(4) 天井埋込形 1 方向吹出し（FDTS）

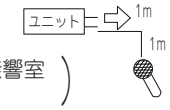
●標準仕様(直吹)

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

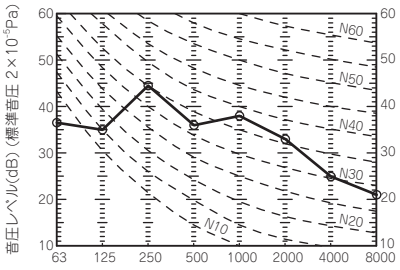


●下がり天井仕様

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット前方1m，下方1m）

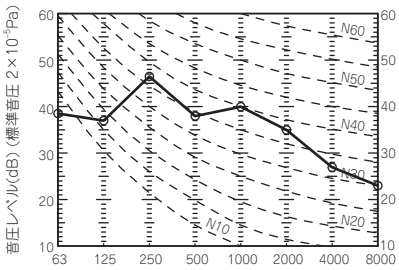


FDTSP455LXA



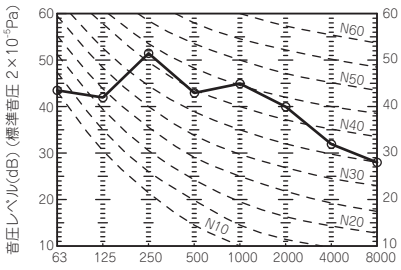
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTSP565LXA



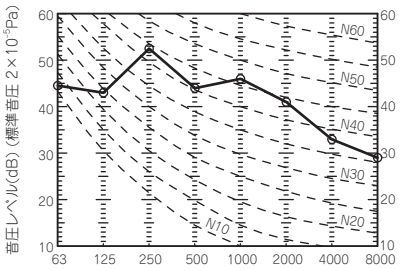
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTSP715LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDTSP805LXA

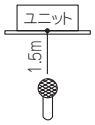


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

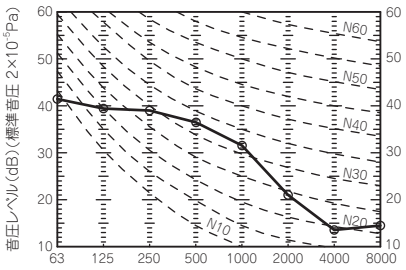
(5) 天埋カセテリア(FDR)

(a) サイレントパネル仕様

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

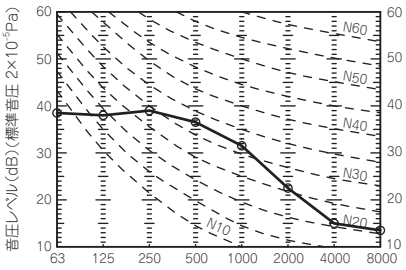


FDRP225LXA



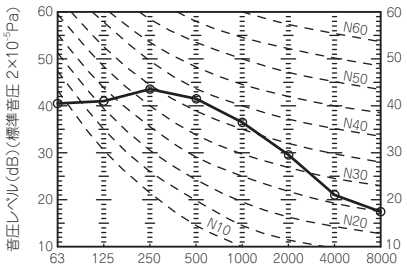
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP285LXA



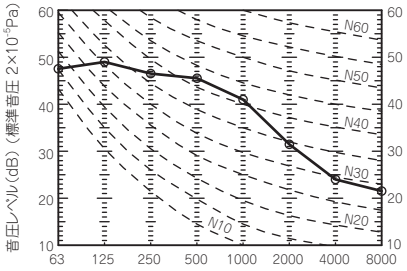
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP365, 455, 565LXA



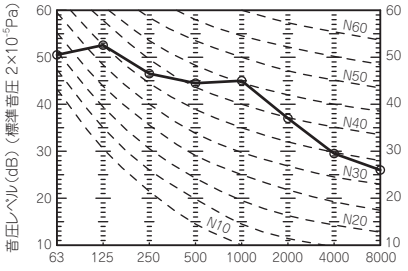
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP715, 805, 905LXA



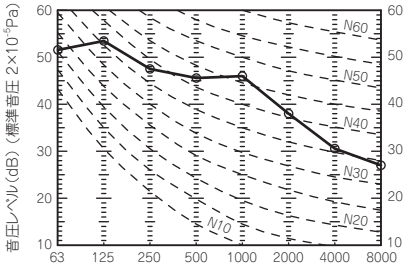
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP1125LXA



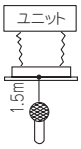
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP1405LXA



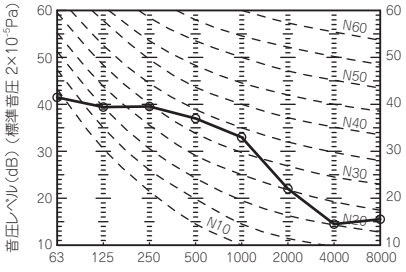
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(b) キャンバスパネル仕様



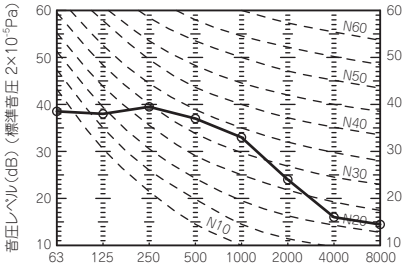
（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

FDRP225LXA



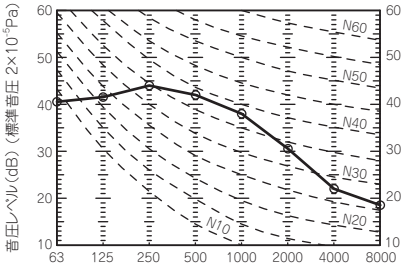
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP285LXA



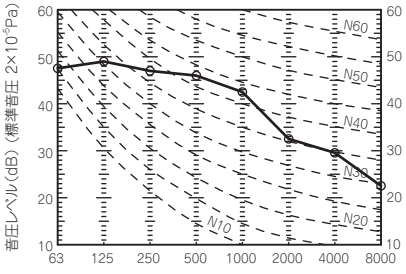
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP365, 455, 565LXA



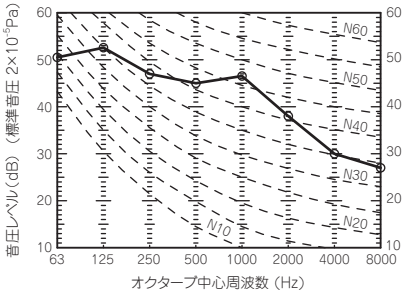
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP715, 805, 905LXA



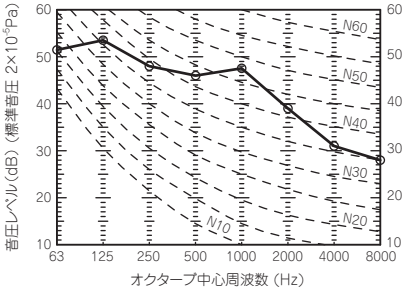
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP1125LXA



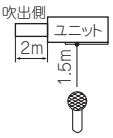
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP1405LXA



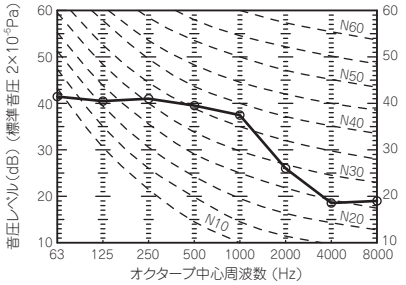
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(c) 天井リターン仕様



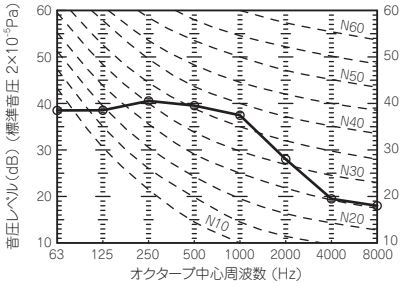
（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

FDRP225LXA



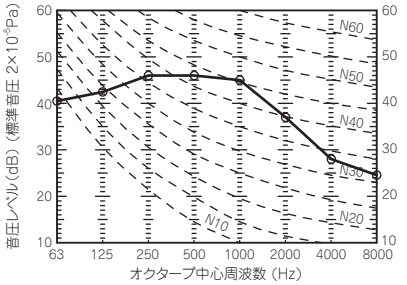
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP285LXA



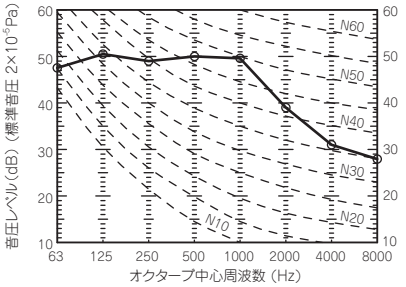
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP365, 455, 565LXA



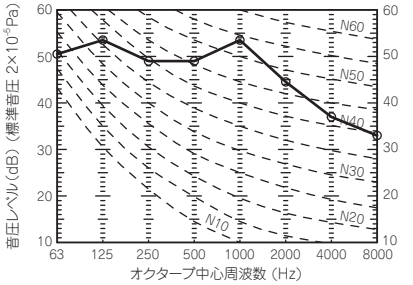
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP715, 805, 905LXA



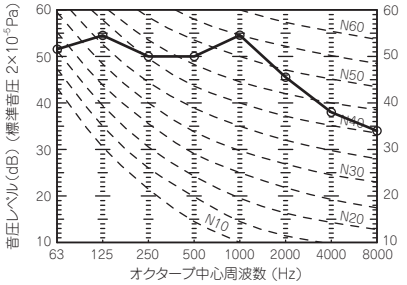
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP1125LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDRP1405LXA

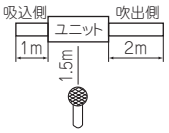


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

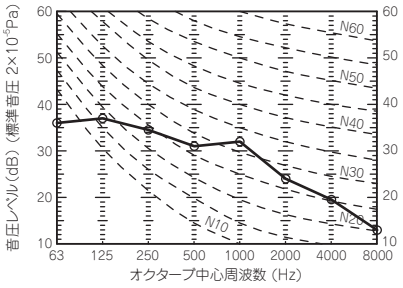
(6) 高静圧ダクト形(FDU)

(a) 標準仕様

(測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m)

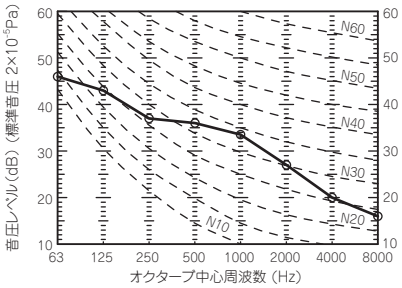


FDUP225, 285, 365, 455, 565LXA



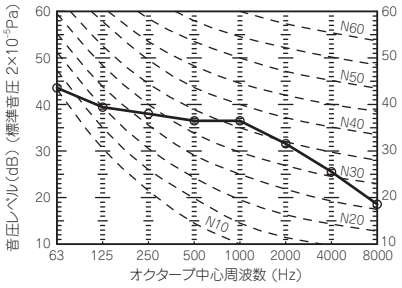
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP715, 805, 905LXA



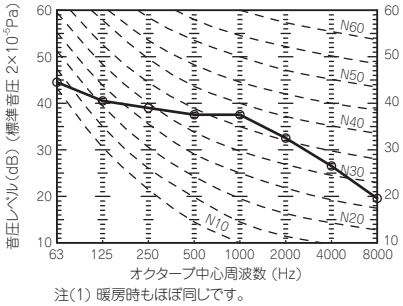
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP1125LXA



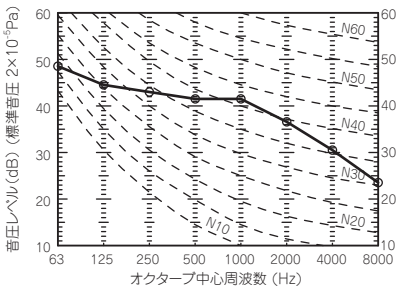
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP1405LXA



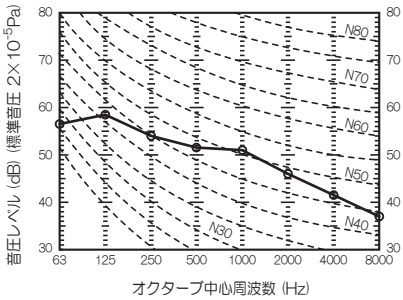
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP1605LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP2245, 2805LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

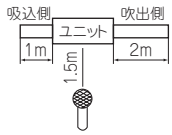
●パワーレベル（測定条件：JRA4065：2013）

（dB）

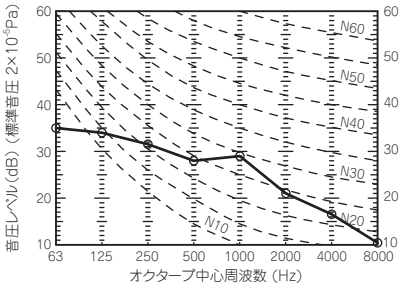
形　式	パワーレベル
FDUP2245LXA	77
FDUP2805LXA	77

(b) 丸ダクト仕様

(測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m)

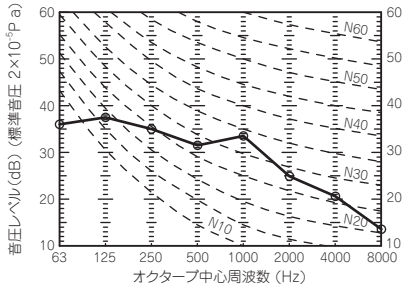


FDUP225LXA



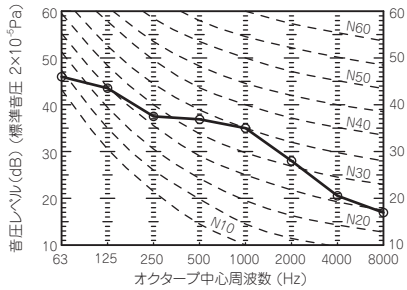
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP285, 365, 455, 565LXA



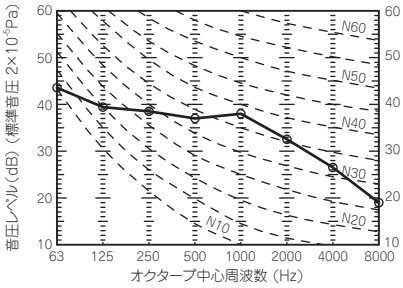
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP715, 805, 905LXA



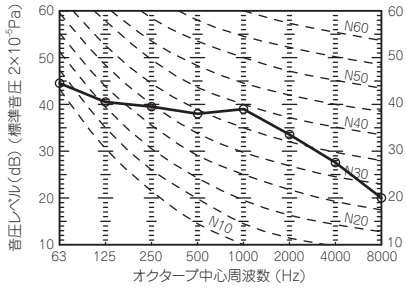
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP1125LXA



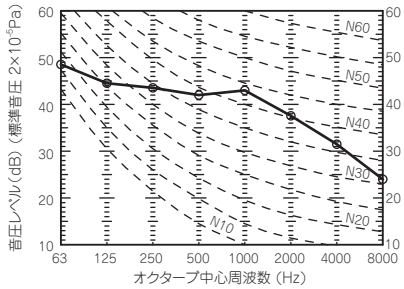
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDUP1405LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

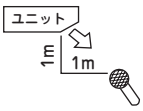
FDUP1605LXA



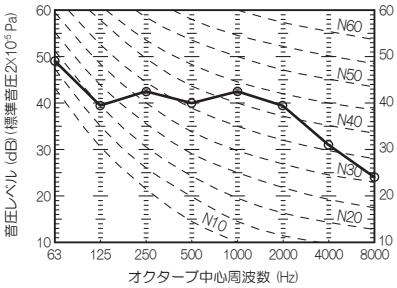
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(7) 天吊形（FDE）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット前方1m, 下方1m）

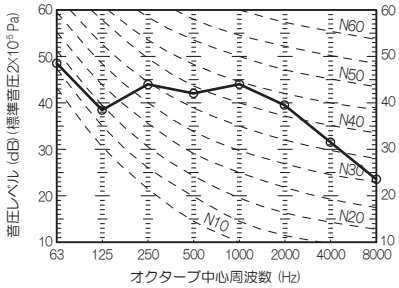


FDEP365, 455, 565LXA



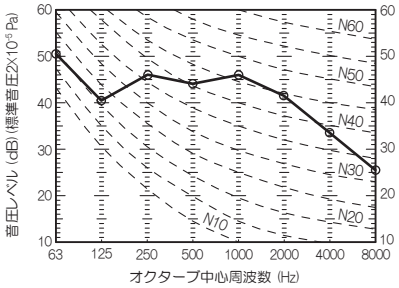
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDEP715LXA



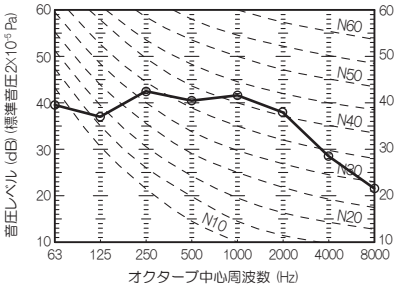
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDEP805, 905LXA



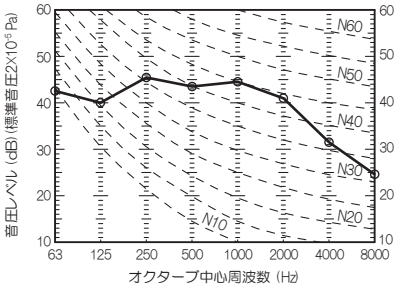
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDEP1125LXA



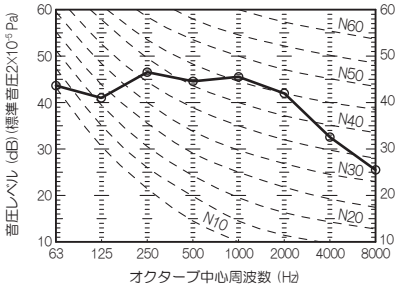
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDEP1405LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

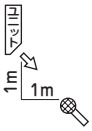
FDEP1605LXA



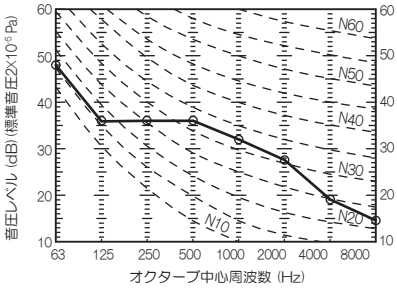
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(8) 壁掛形（FDK）

（測定条件：JIS B 8616・冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット前方1m, 下方1m）

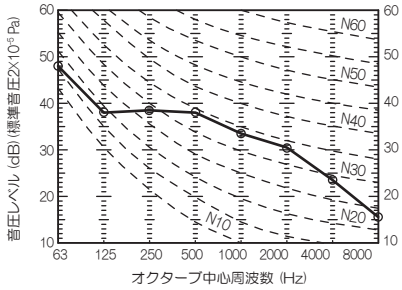


FDKP285LXA



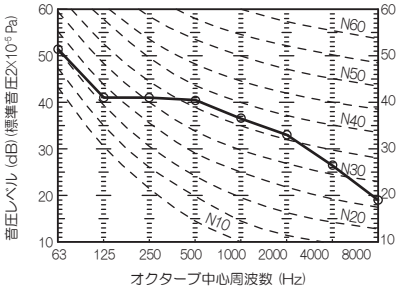
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDKP365LXA



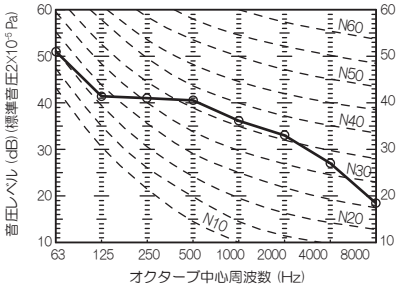
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDKP455LXA



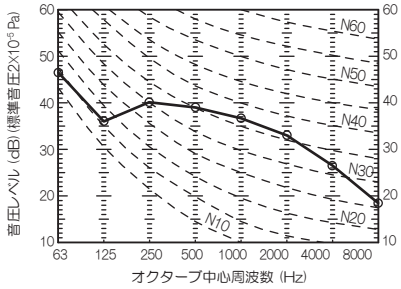
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDKP565LXA



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDKP715LXA

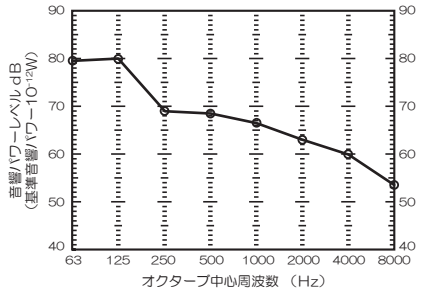


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

(9) 床置ダクト形（FDAS）

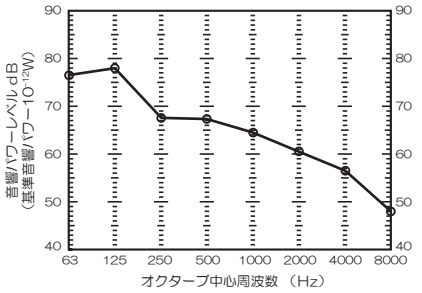
［注：実際据付後測定した場合、周囲の状況により本データと異なることがあります。
運転音は、JIS B 8616 に基づく音響パワーレベルを示します。］

FDASP1405TLX



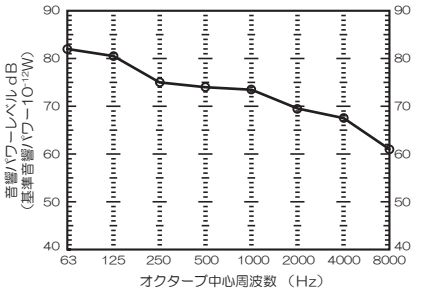
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP2245TLX



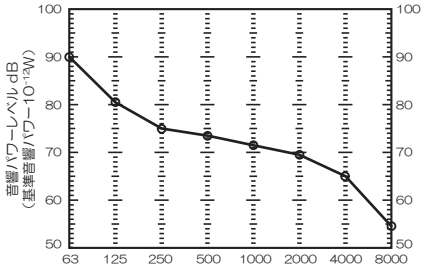
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP2805TLX



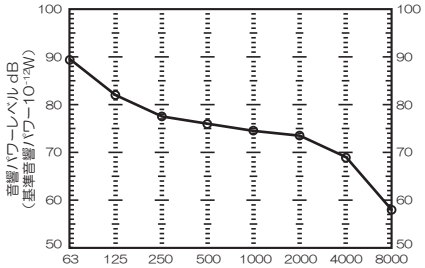
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP4505TLX



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP5605TLX

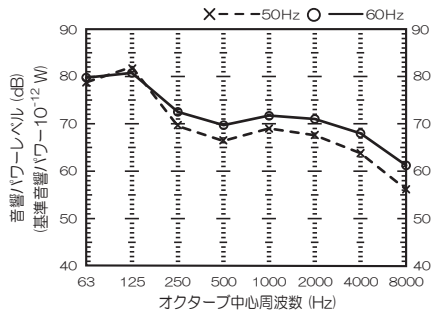


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

PAA002Z384
PAA002Z385
PAA002Z386
PAA002Z427
PAA002Z428

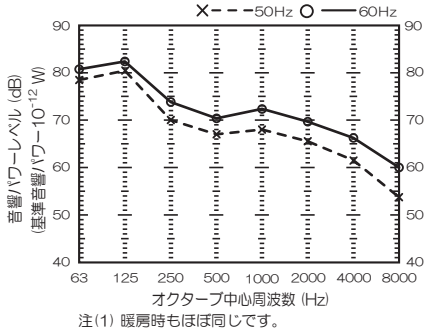
プレナムチャンバ取付の場合（521ページ参照）

FDASP1405TLX



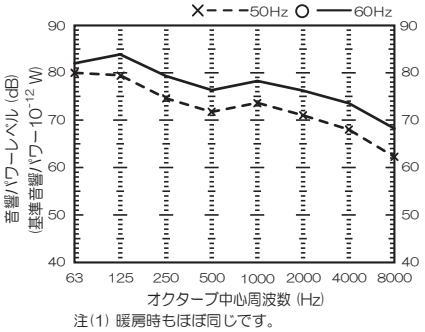
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP2245TLX



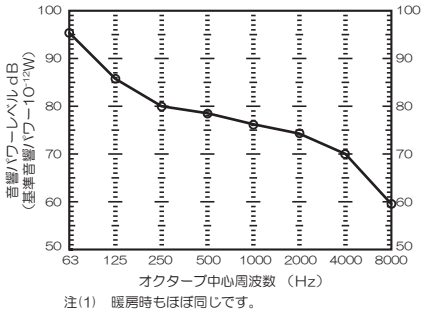
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP2805TLX



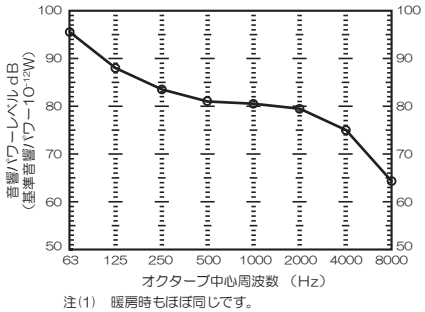
注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP4505TLX (50/60Hz)



注(1) 暖房時もほぼ同じです。

FDASP5605TLX (50/60Hz)

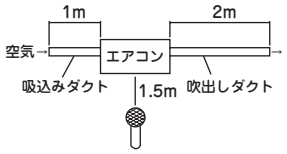


注(1) 暖房時もほぼ同じです。

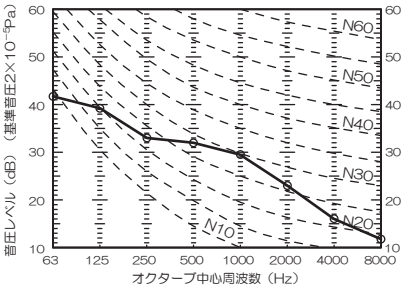
PAA002Z387
PAA002Z388
PAA002Z389
PAA002Z429
PAA002Z430

⑽ 給気処理ユニット（FDU-F）

（測定条件：JIS B 8616· 冷房　測定場所：無響室
マイク位置：ユニット中央下方1.5m）

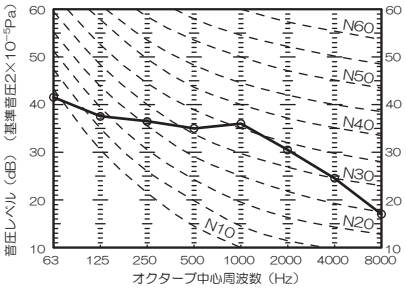


FDUP905FLXA



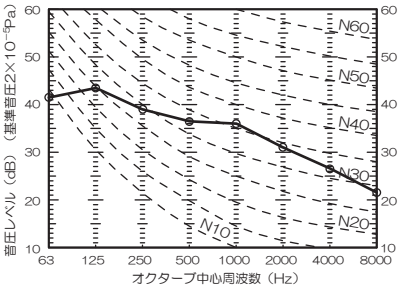
注(1)　暖房時もほぼ同じです。

FDUP1405FLXA



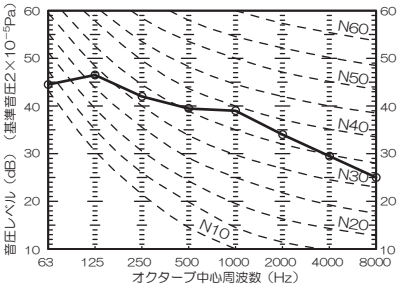
注(1)　暖房時もほぼ同じです。

FDUP2245FLXA



注(1)　暖房時もほぼ同じです。

FDUP2805FLXA



注(1)　暖房時もほぼ同じです。

●パワーレベル（測定条件：JRA4065-2013）

（dB）

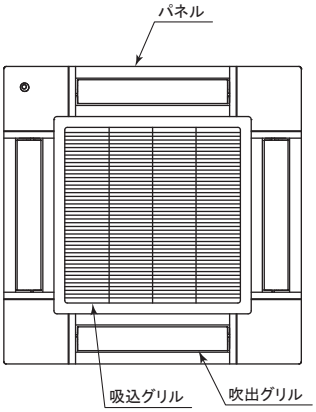
形　　式	パワーレベル	形　　式	パワーレベル
FDUP905FLXA	60	FDUP2245FLXA	68
FDUP1405FLXA	64	FDUP2805FLXA	71

7. 塗 装 色

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

(a) パネル　　(b) パネル形式（オートスイング付）

（商品ご注文時パネル形式を指定してください。）



区　分	パネル形式	降下長	パネル色
標準パネル	T-PSA-5AW	—	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）
	T-PSA-5ASB	—	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
	T-PSA-5AC	—	ウッドベージュ（マンセル6.8Y7.9/3.9近似）
エアフレックスパネル	T-PSAE-5AW	—	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）
	T-PSAE-5ASB	—	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
ラクリーナパネル	T-PSCL-5AW	～ 4.0m	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）
	T-PSCL-5ASB	～ 4.0m	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）
お掃除ラクリーナパネル	T-PSCLS-5AW	～ 4.0m	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）

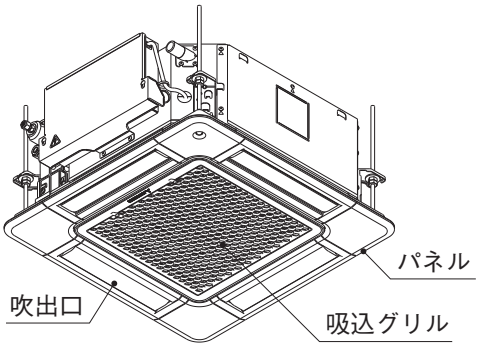
(c) ワイヤレス受信部
（標準・エアフレックス・ラクリーナパネル・お掃除ラクリーナパネル共通）

形　式	塗 装 色	備　考
LA-T-5W	プラスターホワイト（マンセル6.8Y8.9/0.2近似）	全形式あり
LA-T-5SB	シャドウブラック（マンセル7.2BG2.9/0.6近似）	お掃除ラクリーナパネルの場合なし

注(1) ワイヤレス受信部の取付方法は，424ページをご覧ください。
(2) お掃除ラクリーナパネルに取付ける場合は，別売のハーネスセット（RCN-T-HA6G）が必要です。

(2) 天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

(a) パネル



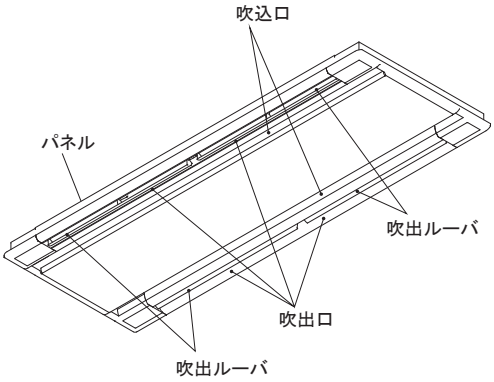
(b) パネル形式

・全形式共通

パネル形式	パネル色
TC-PSAE-5AW（エアフレックス）	ファインスノー（マンセル 8.0Y9.3/0.1 近似）

(3) 天井埋込形 2 方向吹出し（FDTW）

(a) パネル（商品ご注文時パネル形式を指定してください。）



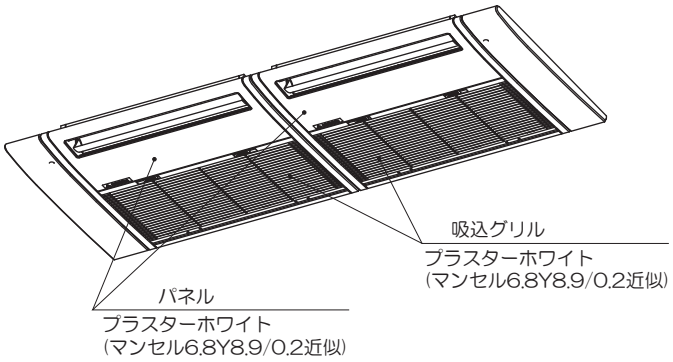
(b) パネル形式

・標準，ラクリーナパネル

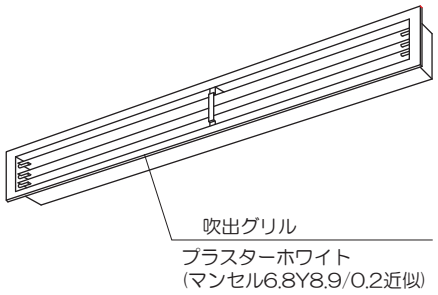
区　分		パネル形式	パネル色	適用形式
標準パネル	オートスイング付	TW-PSA-27W	プラスターホワイト（マンセル 6.8Y8.9/0.2 近似）	P225 ～ P805
		TW-PSA-47W		P905 ～ P1605
ラクリーナ	オートスイング付	TW-PSL-27W	プラスターホワイト（マンセル 6.8Y8.9/0.2 近似）	P225 ～ P805
		TW-PSL-47W		P905 ～ P1605

(4) 天井埋込形 1 方向吹出し（FDTS）

(a) パネル

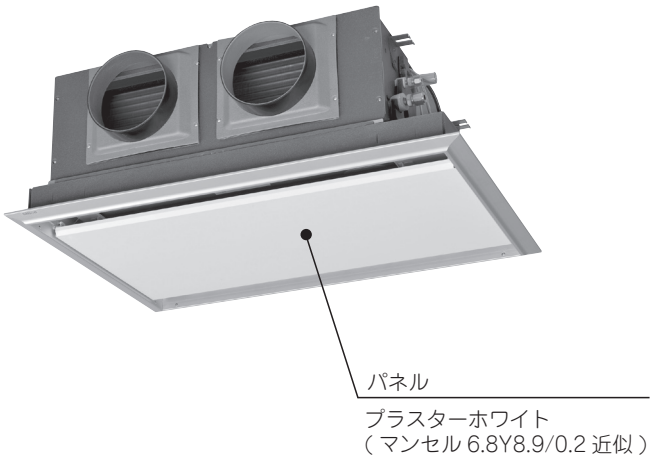


(b) 下がり天井用吹出グリル

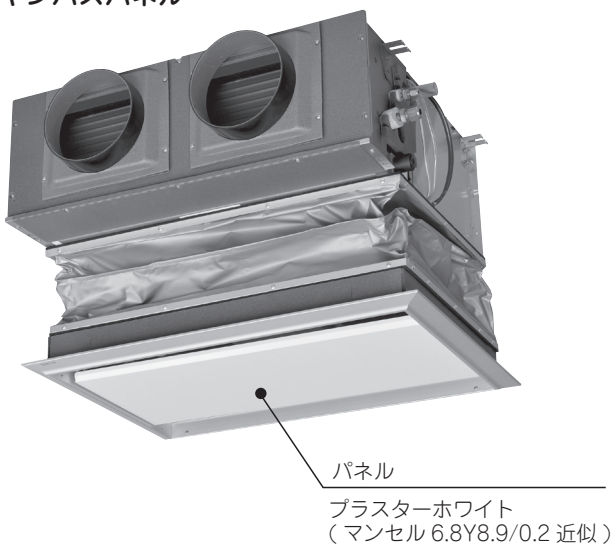


(5) 天埋カセテリア形（FDR）

●サイレントパネル



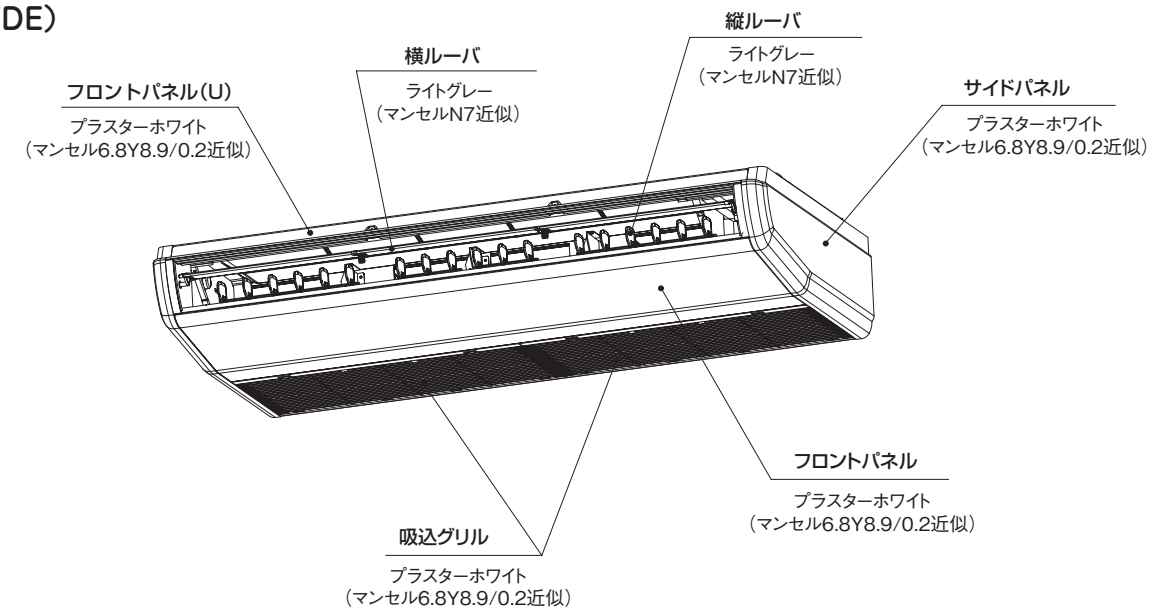
●キヤンバスパネル



●天井リターン仕様……クロメートフリー鋼板

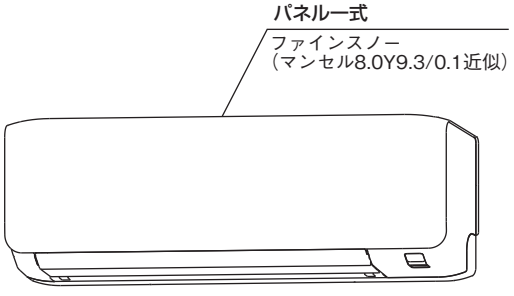
(6) 高静圧ダクト形（FDU）……クロメートフリー鋼板

(7) 天吊形（FDE）

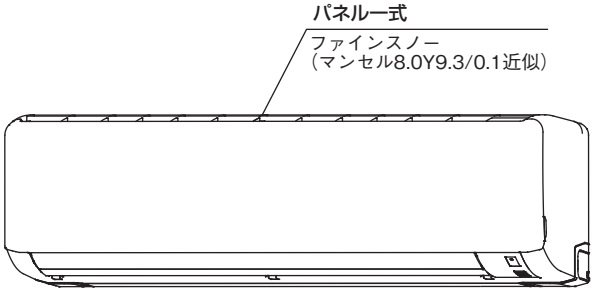


(8) 壁掛形（FDK）

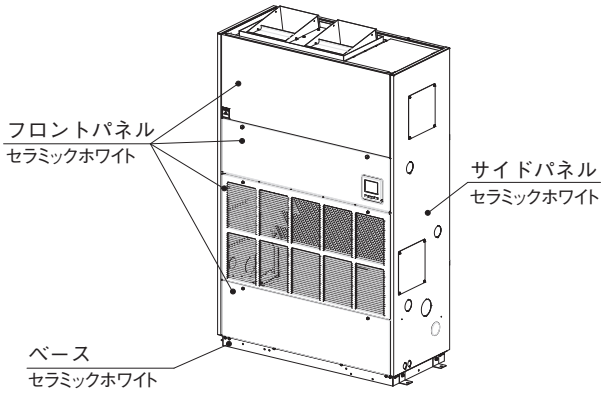
●FDKP285～565LXA



●FDKP715LXA



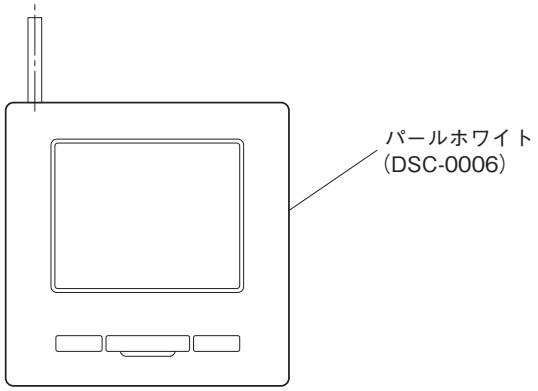
⑼ 床置ダクト形（FDAS）



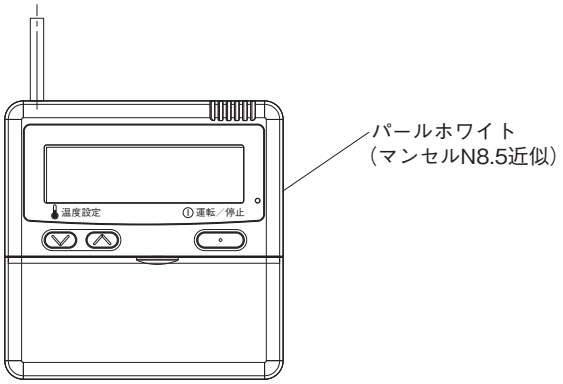
⑽ 給気処理ユニット（FDU-F）……クロメートフリー鋼板

⑾ リモコン

ⓐ RC － DX3B



ⓑ RC－D4G



8. 防振設計用参考資料

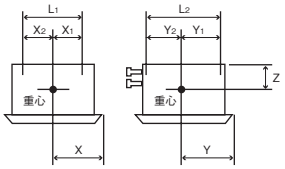
(1) 耐震データ

単位 : mm

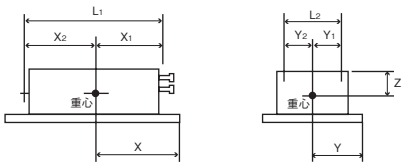
形式＼項目		製品外形寸法(1) 幅×奥行×高さ	製品質量(1) (kg)	重心位置(2)								
				幅方向				奥行方向				高さ
				X	X_1	X_2	L_1	Y	Y_1	Y_2	L_2	Z
FDT	P285LXA	950×950×271	25	470	384	494	778	470	360	365	725	100
	P365LXA											
	P455LXA											
	P565LXA		26.5	470	384	394	778	470	360	365	725	100
	P715LXA											
	P805LXA											
	P905LXA	950×950×333	30	465	375	395	770	490	400	370	770	135
	P1125LXA											
	P1405LXA											
	P1605LXA											
FDTC	P225LXA	620×620×258	16	314	269	261	530	335	310	220	530	77
	P285LXA											
	P365LXA											
	P455LXA		17									
	P565LXA											
FDTW	P225LXA	1120×680×345	28.5	525	407.5	477.5	885	340	223	223	446	110
	P285LXA											
	P365LXA											
	P455LXA		29.5									
	P565LXA											
	P715LXA		31.5									
	P805LXA											
	P905LXA	1835×680×345	48	867.5	750	850	1600	340	223	223	446	105
	P1125LXA											
	P1405LXA											
	P1605LXA		50									
FDTS	P455LXA	1460×650×255	33	655	520	670	1190	274.5	214	304	518	110
	P565LXA											
	P715LXA		34									
	P805LXA											

注(1) FDT, FDTW, FDTSシリーズは標準パネル使用時を示します。
(2) L_1(X_1, X_2), L_2(Y_1, Y_2)寸法は据付ボルトの位置を示します。

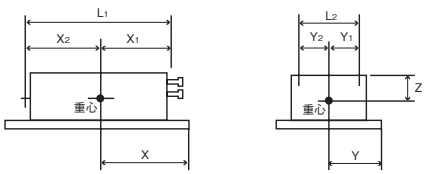
FDT, FDTC 形
225 ～ 1605



FDTW 形



FDTS 形

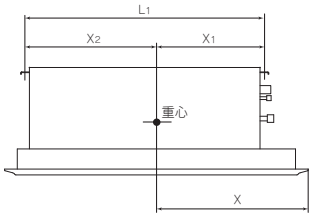


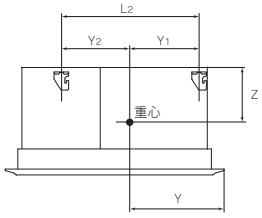
単位 ： mm

形式＼項目		製品外形寸法(1) 幅×奥行×高さ	(1) 製品質量 (kg)	重心位置(2)								
				幅方向				奥行方向				高さ
				X	X_1	X_2	L_1	Y	Y_1	Y_2	L_2	Z
FDR	P225LXA	1040×750×368	39	494	327	459	786	343	257.5	214.5	472	167
	P285LXA											
	P365LXA											
	P455LXA											
	P565LXA											
	P715LXA	1240×750×368	45.4	616	449	537	986	343	257.5	214.5	472	173
	P805LXA											
	P905LXA											
	P1125LXA	1658×850×368	71	798	631	773	1404	405	319.5	210.5	530	167
	P1405LXA											
FDU	P225LXA	750×635×280	29	300	318	468	786	275	247	225	472	115
	P285LXA											
	P365LXA											
	P455LXA											
	P565LXA											
	P715LXA	950×635×280	34	430	448	538	986	275	247	225	472	125
	P805LXA											
	P905LXA											
	P1125LXA	1368×738×280	54	603	621	783	1404	343	315	215	530	120
	P1405LXA											
	P1605LXA											
	P2245LXA	1600×893×379	89	675	692	942	1634	382	357	474	831	183
	P2805LXA											

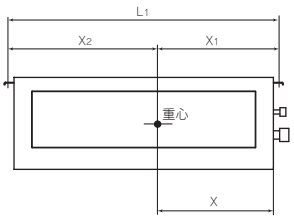
注(1) FDRシリーズはサイレントパネルを示します。
(2) L_1(X_1，X_2)，L_2(Y_1，Y_2)寸法は据付ボルトの位置を示します。

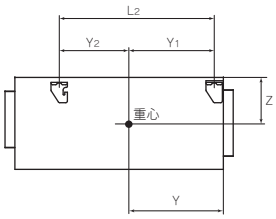
FDR 形



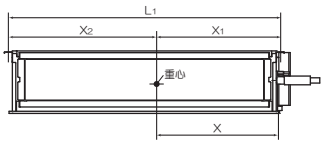


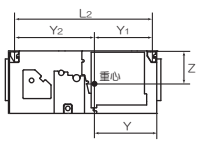
FDU225～1605 形





FDU2245，2805 形



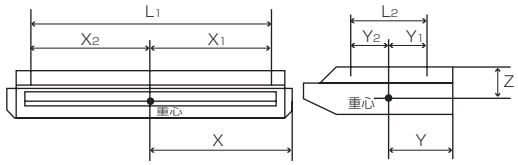


単位 ： mm

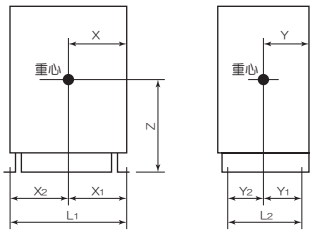
形式＼項目		製品外形寸法 幅×奥行×高さ	製品質量 (kg)	重心位置(1)								
				幅方向				奥行方向				高さ
				X	X_1	X_2	L_1	Y	Y_1	Y_2	L_2	Z
FDE	P365LXA	1070×690×210	28	530	506	516	1022	302	185	105	290	92
	P455LXA											
	P565LXA											
	P715LXA	1320×690×210	33	638	614	658	1272	302	185	105	290	93
	P805LXA											
	P905LXA											
	P1125LXA	1620×690×250	43	814	790	782	1572	334	153	137	290	110
	P1405LXA											
	P1605LXA											
FDAS	P1405TLX	800×500×1700	134	364	382.5	454.5	837	250	150	150	300	993
	P2245TLX	1100×500×1700	157	498	516.5	620.5	1137	250	150	150	300	996
	P2805TLX		167	484	502.5	634.5	1137	245	145	155	300	1011
	P4505TLX 2.2kWモータ	1500×800×2020	350	700	718	819	1537	395	245	255	500	1139
	P4505TLX 3.7kWモータ		362	683	702	835	1537	388	238	262	500	1158
	P5605TLX 5.5kWモータ		384	662	681	856	1537	379	229	271	500	1187
FDU-F	P905FLXA	820×830×360	48	380	415	475	890	350	332	462	794	190
	P1405FLXA	1200×830×360	62	550	585	685	1270	350	332	462	794	190
	P2245FLXA	1570×830×360	85	700	735	905	1640	350	332	462	794	190
	P2805FLXA											

注(1) L_1(X_1，X_2)，L_2(Y_1，Y_2)寸法は据付ボルトの位置を示します。

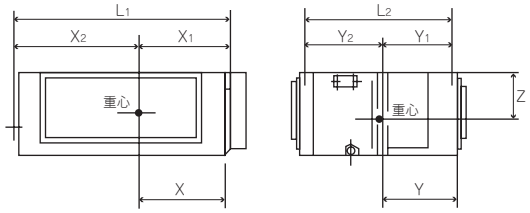
FDE 形



FDAS 形



FDU-F 形



(2) 防振データ

(50/60Hz)

形式	項目	送風機回転数(1)(min-1)
FDT	P285LXA	395
	P365LXA	415
	P455LXA	440
	P565LXA	550
	P715LXA	725
	P805LXA	725
	P905LXA	760
	P1125LXA	770
	P1405LXA	770
	P1605LXA	770
FDTC	P225LXA	600
	P285LXA	
	P365LXA	700
	P455LXA	820
	P565LXA	935
FDTW	P225LXA	950/950
	P285LXA	
	P365LXA	
	P455LXA	
	P565LXA	
	P715LXA	995/995
	P805LXA	1120/1120
	P905LXA	1050/1050
	P1125LXA	
	P1405LXA	
	P1605LXA	1080/1080
FDTS	P455LXA	995
	P565LXA	1140
	P715LXA	1345
	P805LXA	1412
FDR	P225LXA	940
	P285LXA	830
	P365LXA	1040
	P455LXA	
	P565LXA	
	P715LXA	1230
	P805LXA	
	P905LXA	
	P1125LXA	1260
	P1405LXA	1350

(50/60Hz)

形式	項目	送風機回転数(1)(min-1)
FDU	P225LXA	1070
	P285LXA	
	P365LXA	
	P455LXA	
	P565LXA	
	P715LXA	1120
	P805LXA	
	P905LXA	
	P1125LXA	990
	P1405LXA	1020
	P1605LXA	1200
	P2245LXA	1370
	P2805LXA	
FDE	P365LXA	1170
	P455LXA	
	P565LXA	
	P715LXA	1230
	P805LXA	1330
	P905LXA	
	P1125LXA	1075
	P1405LXA	1200
	P1605LXA	1250
FDK	P285LXA	1050
	P365LXA	1045
	P455LXA	1085
	P565LXA	冷：1085，暖：1200
	P715LXA	920
FDAS	FDASP1405TLX	780/925
	FDASP2245TLX	
	FDASP2805TLX	930/1110
	FDASP4505TLX	550/660
	FDASP5605TLX	655/785
FDU-F	P905FLXA	1350
	P1405FLXA	1310
	P2245FLXA	1090
	P2805FLXA	1160

注(1) P急または急運転時の値です。（機種毎の最高速タップ）
(2) FDR，FDUシリーズの送風機回転数は機外静圧100Pa設定で，P急運転時の数値を示します。

9. 据付関連事項

PJF012D050

(1) 天井埋込形 4 方向吹出し（FDT）

(a) 室内ユニットの据付

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、
リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に ⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
  この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

- ●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。 ❗
- ●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
  据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。 ❗
- ●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
  限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。 ❗
- ●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
  当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。 ❗
- ●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
  冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 ❗
- ●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
  強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。 ❗
- ●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
  据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。 ❗
- ●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
  空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 ⃠
- ●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
  電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。 ❗
- ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。 ❗
- ●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
  カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。 ❗
- ●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
  冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。 ❗
- ●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。
  既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。 ❗
- ●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
  フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。 ❗
- ●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
  室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。 ⃠
- ●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
  冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 ❗
- ●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
  圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。 ❗
- ●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。
  ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。 ❗
- ●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
  修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。 ⃠
- ●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
  据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。 ❗
- ●エアコンの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
  点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。 ❗
- ●パネルやガードを外した状態で運転しない。
  機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。 ⃠
- ●元電源を切った後に電気工事を行う。
  感電、故障や動作不良の原因になります。 ❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。

●室内ユニットの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

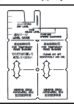
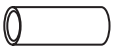
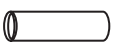
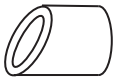
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

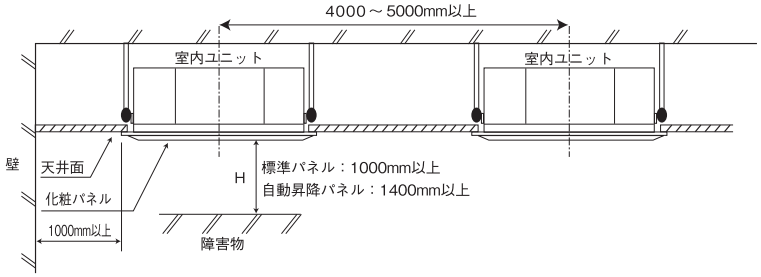
室内ユニット吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用				
平座金 (M10)	レベルゲージ および 平座金仮固定	パイプ カバー(大)	パイプ カバー(小)	バンド	パイプ カバー(大)	パイプ カバー(小)	ドレン ホース	ホース クランプ	抗菌材
									
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個	1個
吊りボルト用	室内ユニットの 位置調整および吊り 込み時の補助用	ガス管 断熱用	液管 断熱用	パイプ カバー 固定用	ドレン ソケット 断熱用	ドレン ソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレン ホース 取付用	ドレンパン 防汚用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　人感センサを使用する場合、据付け高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
〔本室内ユニットは JIS 露付条件(室内：27℃ /78% RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。〕
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

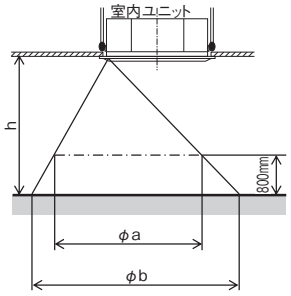
室内ユニット据付スペース

●室内ユニットー壁、室内ユニットー室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしないことを確認してください。
●**据付高さは２.５m以上としてください。**



埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能なように点検口などを設けてください。

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

吹出パターンの設定

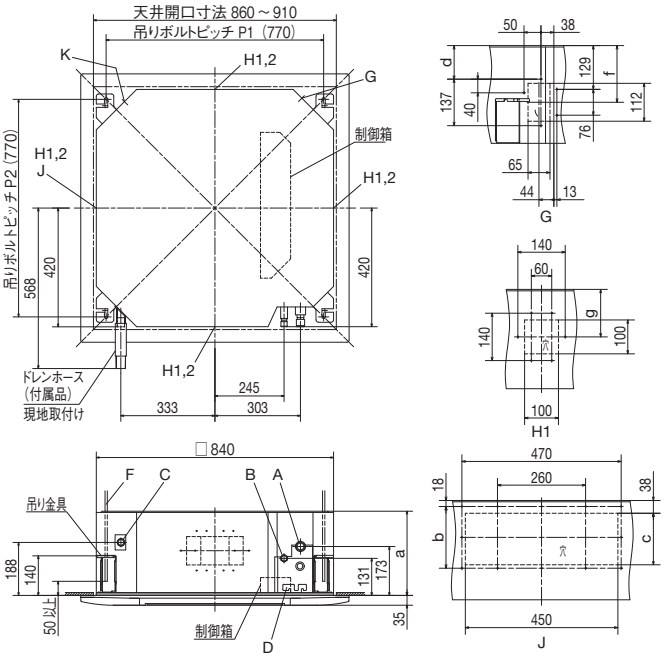
●部屋の形や据付位置に最適な吹出方向を４方向・３方向・２方向から選定してください。(１方向はできません。)
●吹出口数を変更する場合は、別売のしゃ風材を手配してください。
●２方向・３方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
●高温・多湿環境での２方向吹出は行わないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
●吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

③据付準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０ or Ｍ８）を４組現地にて手配してください。

（mm）

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



シリーズ	機種	a	b	c	d	f	g	h
店舗シリーズ	63,71 形	236	130	100	37	105	88	139
	80,160 形	298	182	152	99	167	140	201
ビル空調シリーズ ガスヒートポンプシリーズ	28 ～ 80 形	236	130	100	37	105	88	139
	90 ～ 160 形	298	182	152	99	167	140	201

記号	内容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D	電源取入口
F	吊りボルト
G	ＯＡ取入口
H1	吹出分岐ダクト接続口
H2	
J	加湿器接続口
K	加湿器余剰水接続口

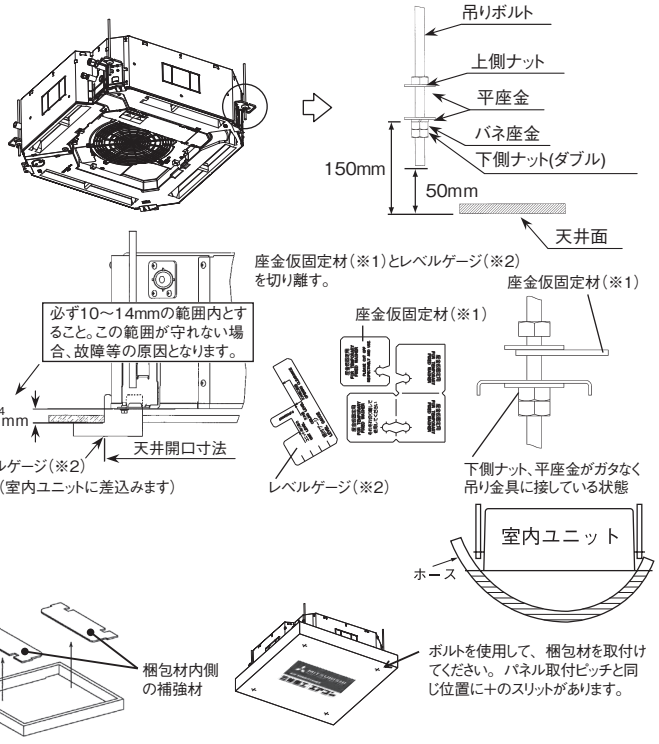
※吊りボルトピッチ P1、P2 は下表のパターンで調整可能です。

パターン ＼ 記号	P1	P2
1	770	725 ～ 770
2	770 ～ 800	725

④室内ユニットの据付

作業手順

1. 吊りボルト長さは、天井面より 50mm 程度としてください。
2. 吊りボルトの下側ナット(4か所)は、天井面から 150mm 程度に仮止めしてください。
3. 吊りボルトの上側ナット(4か所)は、室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めしてください。
4. 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4か所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金が落下してきません。
5. 室内ユニットを吊り込んでください。
6. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※2)を室内ユニットの吹出口に取付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4か所)を緩めた状態で、下側ナット(4か所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4か所)が下側ナット，平座金にガタなく接していることを確認してください。
7. 座金仮固定材(4か所全て)を取外してください。
8. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
   (室内ユニットの両端での高さ許容差は 3mm 以内)
9. 吊りボルトの上側ナット(4か所)を締付けてください。



室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、梱包材 (天面ダンボール) を使用して、室内ユニットを養生してください。

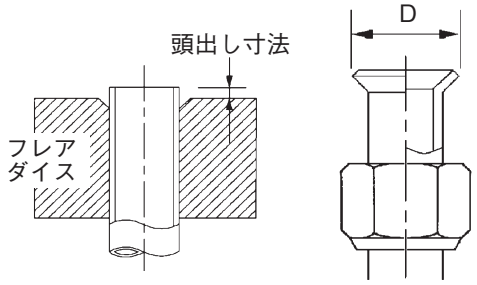
室内ユニット据付時のお願い

●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付できなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●パネルを据付け後、室内ユニット高さの微調整ができます。詳細はパネルの据付説明書をご覧ください。
●パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたは JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。
他のフレアナット(1種)を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のものまたは JIS B 8607 2種適合品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R32 用 R410A 用	従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

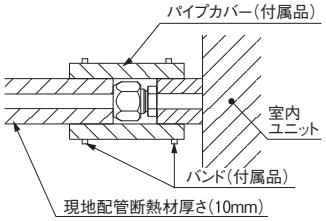
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

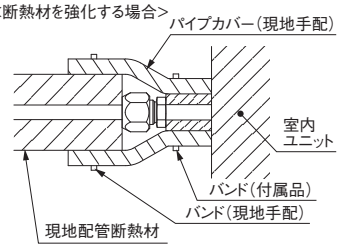
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



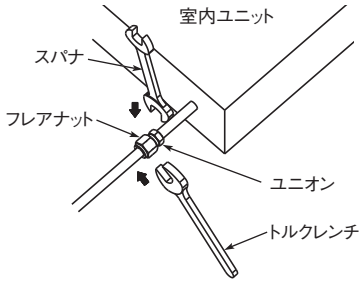
作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。

●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。

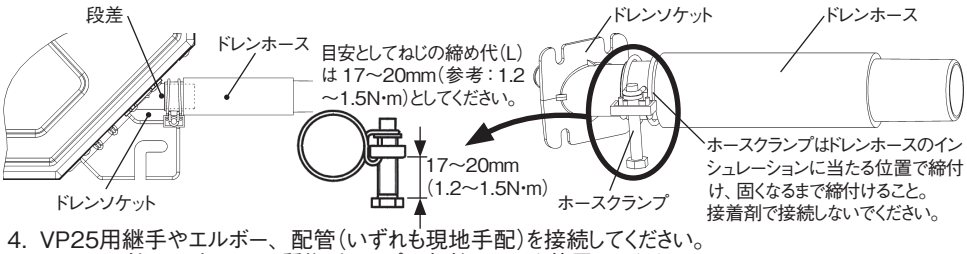
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。

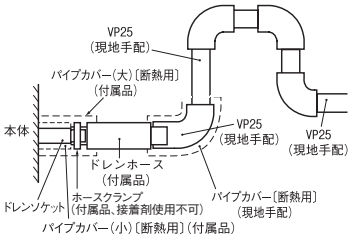
●ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

⑥ドレン配管

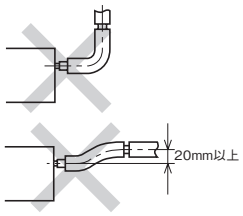
作業手順

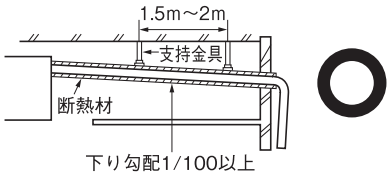
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ソケットの段差部まで確実に挿入してください。
   その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
   ●接着剤使用不可
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付けが固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けないでください。

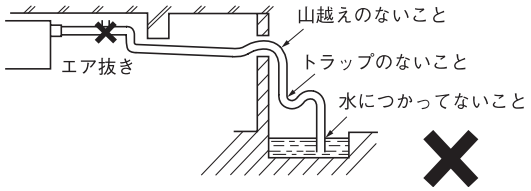


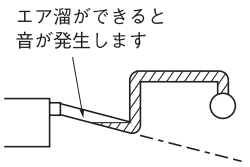


4. VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
   ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
   ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
   乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
   ●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
5. ドレン配管は下り勾配(1／100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。
   途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
   ●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
   ●エア抜きは絶対に設けないでください。

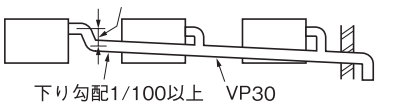








   ●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
   また集合配管はVP30以上を使用してください。

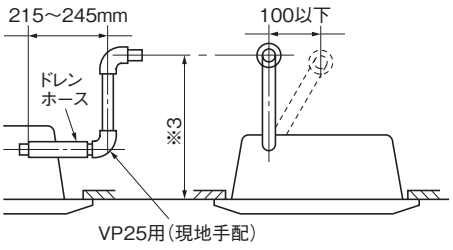


6. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
   ●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
   ※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまたは 960 mm(※3)まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

※3：お掃除ラクリーナパネルの場合：960 mm以下、かつ天井に接触しない高さ以上
お掃除ラクリーナパネル以外の場合：850mm以下、かつ天井に接触しない高さ以上

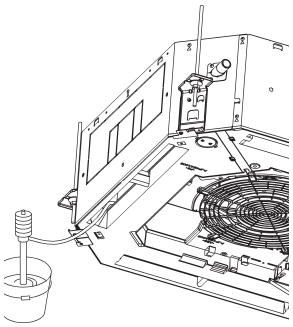


ドレン排水テスト

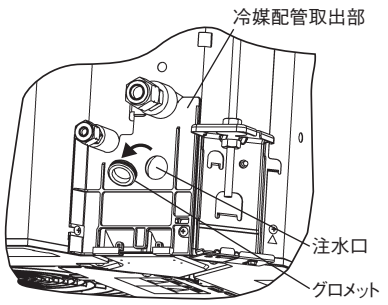
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約1000cc 注水してください。注水時は､ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。
   注水は、吹出口から給水ポンプなどを使用するか、冷媒配管取出部の注水口から行ってください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
   ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。
3. 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
   水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。
   リッドを外して注水した場合は、リッドを装着しなおしてください。

●吹出口から注水する場合



●冷媒配管取出部の注水口から注水する場合



⑥ドレン配管のつづき

ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。

○電源が供給されている場合

室内ユニット基板上のSW7−1をONにし、かつ、基板上のコネクタCnBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7−1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上のコネクタCnBを差込んでください。

○電源が供給されていない場合

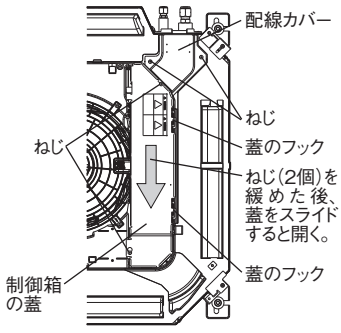
ドレンポンプ試運転用チェッカ (別売) でドレンポンプを運転することが可能です。操作方法はドレンポンプ試運転チェッカに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

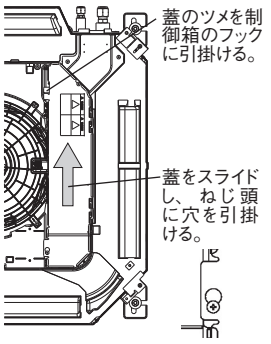
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」 および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 制御箱の蓋のねじ(2個)を緩め、蓋を図の矢印の方向にスライドしてください。蓋を開くことができます。
2. 蓋のフックを制御箱の穴から外して、蓋を取外してください。
3. 配線カバーのねじ(2個)を取外して、配線カバーを取外してください。
4. 各配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
5. 各配線をバンドで固定してください。
6. 配線カバー , 制御箱の蓋を取付けてください。

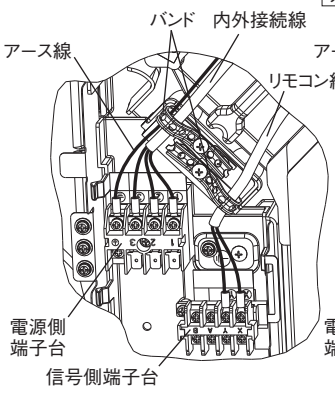
制御箱の蓋を開ける場合



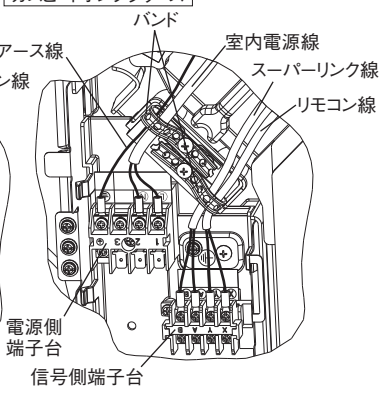
制御箱の蓋を閉める場合



店舗シリーズ



ビル空調シリーズ
ガスヒートポンプシリーズ

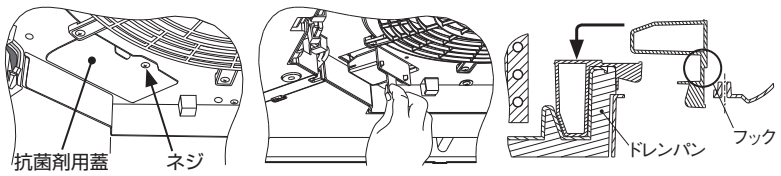


⑧抗菌剤の取付

●付属の抗菌剤ケースをドレンパン内に取付けてください。抗菌剤ケースの中に抗菌剤が入っています。
●抗菌剤ケースの取付けは室内ユニットを吊った後に実施してください。室内ユニットが天地逆では取付けられません。

作業手順 (付属抗菌剤の交換目安 : 冷房 1 シーズン)

1. 抗菌剤用蓋のねじ(1個)を取外し、抗菌剤用蓋を取外してください。
2. 取出し口から抗菌剤を取付けてください。抗菌剤ケースのフックの奥まで、ドレンパンが達するように取付けてください。
3. 抗菌剤用蓋を取付けてください。風漏れや異常音の原因となります。



⑨パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目のつづき

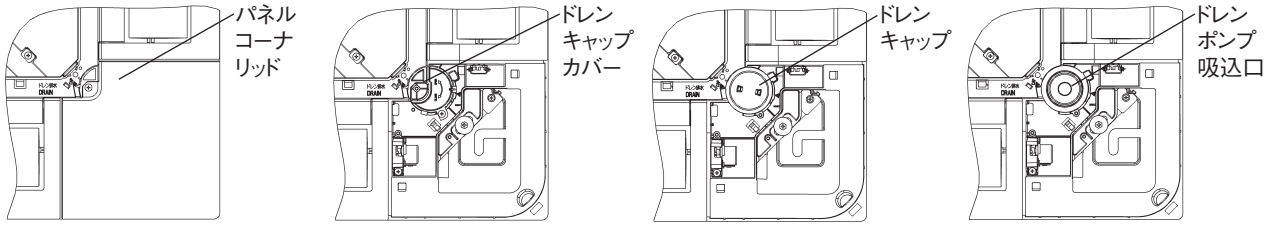
チェック項目	不良の場合	チェック欄
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑪ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

●パネルを取外さずに、ドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口の状況を確認できます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付時は確認できません。）

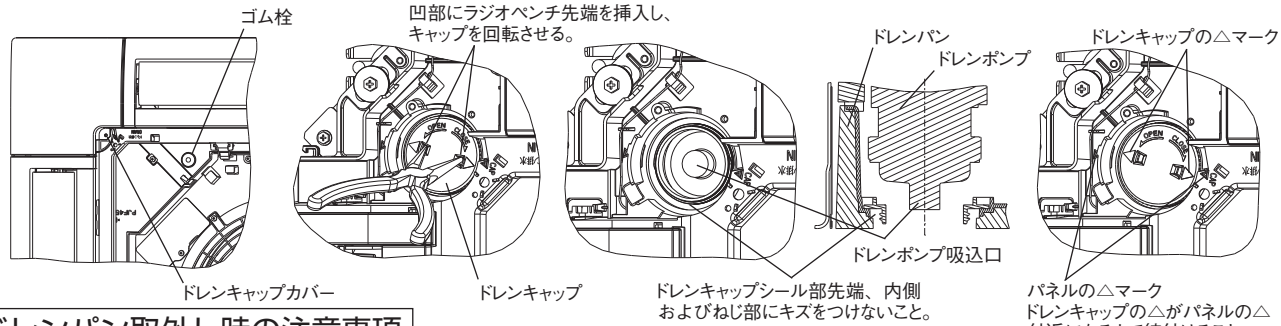
1. パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナリッドを取外してください。
2. パネルコーナにあるドレンキャップカバー（ねじ１個）を取外してください。
3. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。
4. 取外したドレンキャップカバーは確実に装着してください。
装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンポンプ吸込口の清掃

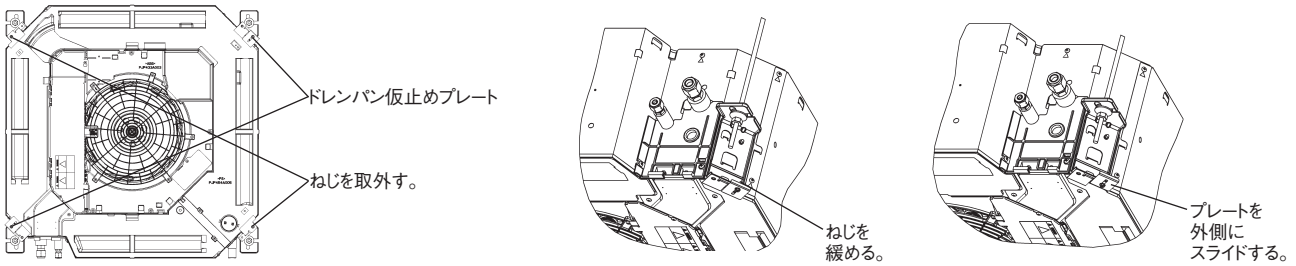
●パネルやドレンパンを取外さず、ドレンキャップを取外すことでドレンポンプ吸込口およびその付近の清掃ができます。
（高性能フィルタなどのオプションスペーサやお掃除パネルの取付け時は確認できません。）
●ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。

1. 前述のようにドレンキャップカバーを取外してください。
2. ドレンキャップの凹部（２か所）にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約１回転するとドレンキャップを取外せます。
3. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付部をキズつけ、水漏れの原因になります。
4. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、**<u>ドレンキャップ内側の異物を取除いてください。</u>**異物が付着したままドレンキャップを取付けると水漏れの原因になります。
5. ドレンキャップの取付は、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約１回転させ、**<u>キャップが回転しなくなるまで締付けてください。</u>** キャップが１回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付直してください。
6. ドレンキャップ締付後、ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがパネルの△マーク付近にない場合は、増締めしてください。
7. 取外したドレンキャップカバー , ゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。
●ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取付ねじ（2個）を取外し、仮止めプレートのねじ（2個）を緩めてください。
仮止めプレートをドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外せます。
●ドレンパン取付 時は、仮止 めプレートを内側にスライドし、ドレンパンを仮止めしてください。その後、ドレンパン取付ねじ（2個）と仮止めプレートのねじ（2個）を締付けてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。



(b) パネルの据付

PJF012D032

標準パネル，エアフレックスパネル，ラクリーナパネル
お掃除ラクリーナパネルは 500 ページを参照ください。
室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠ 警　告

●配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。

エアフレックス　：　ドラフト防止機能
ラクリーナ　　：　エアフィルタ自動昇降機能

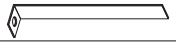
お願い　<ラクリーナパネルの場合>

・吸込グリルの動作範囲の周辺および下方30cm以内に障害物を置かないでください。
・電源投入前にパネルを取付けた場合は吸込グリルの昇降動作はできません。
・電源投入前に吸込グリルを収納する場合は、付属のクランプで仮固定する事ができます。
・電源投入後は付属のクランプを外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
・吸込グリル取付後の初回はリモコンで「上げる」の操作を行い、吸込グリルを正規位置に収納してください。
（マイコンが収納位置を記憶します。）
・ワイヤは、折曲げ、ねじり、噛込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

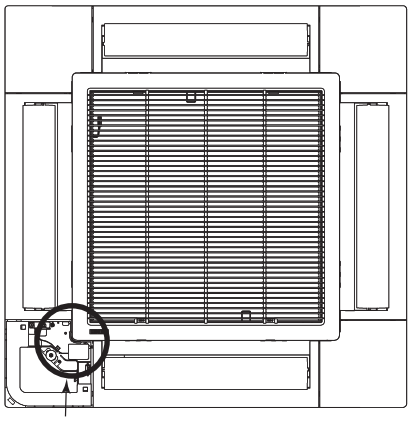
① 据付の前に

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・次の項目を確認してください。
○パネル・リモコンのタイプ
○付属品

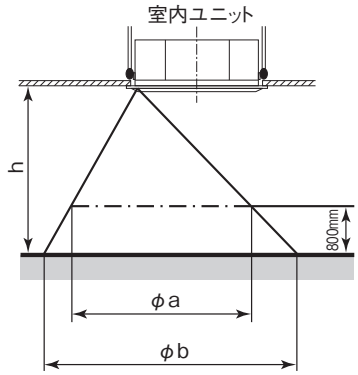
付属品

ボルト		4本	パネル取付用
ストラップ		4本	コーナリッド落下防止用
クランプ		4本	吸込グリル仮止用 （ラクリーナパネル）
ねじ		4本	コーナリッド固定用＊1

注1：＊1 ラクリーナパネルの場合、吸込グリル仮止クランプ固定用にも使用します。
注2：付属品はコーナリッドを外した位置にあります。



人感センサ検知範囲の目安 ＜エアフレックスパネル、ラクリーナパネル＞



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲②　φb [m]	約6.4	約8.3	約9.5

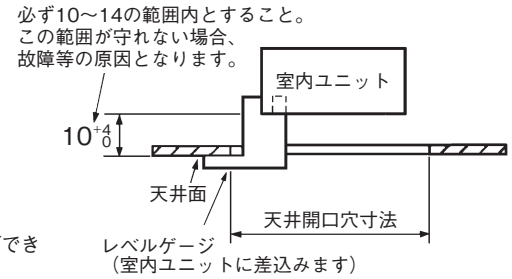
② 室内ユニットの取付レベルの確認

・室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。
・室内ユニットに付属されているレベルゲージで室内ユニット高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
・室内ユニットと天井材との取付レベルを確認してください。
・室内ユニット付属のレベルゲージを吹出口にセットし、
室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。
・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

ご注意
室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付の際、
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

・室内ユニットの取付高さはパネル取付後、コーナ開口部より微調整ができます。

（詳細は **⑥パネルの取付** をご参照ください。）

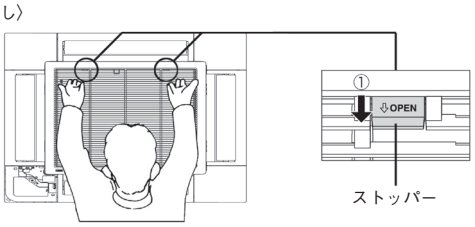


③ 吸込グリルの取外し

＜標準パネル、エアフレックスパネルの場合＞

1．吸込グリルのストッパー（2か所）に指をかけて「OPEN」の方向（矢印①）に押したまま吸込グリルを下方へ引くと吸込グリルが開きます。
2．吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部をパネルから外します。

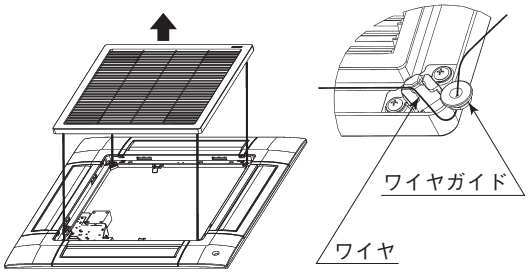
〈取外し〉



＜ラクリーナパネルの場合＞

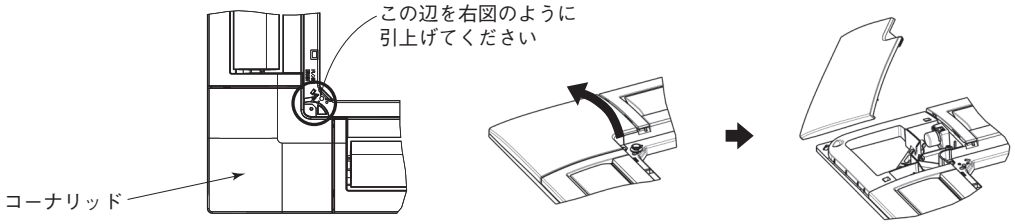
1．吸込グリルを少し持上げて、吸込グリルを開けます。
2．吸込グリルの4コーナに取付けてあるワイヤガイドを外側にスライドさせて外してください。

ご注意
吸込グリルはゆっくり持上げてください。
ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。



④ コーナリッドの取外し

・コーナリッドを矢印の方向へ引上げて取外してください。(4コーナとも)

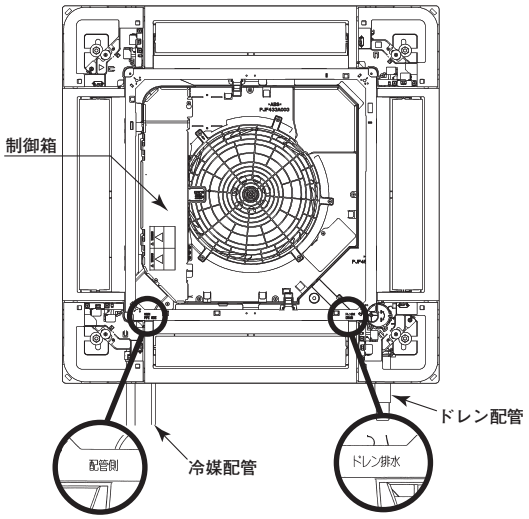


⑤ パネルの取付方向

・パネルの取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネルは、右図に示す方向で取付けてください。
・パネル吸込部の「ドレン排水」と室内ユニットのドレン配管の位置を合わせてください。
・パネル吸込部の「配管側」と室内ユニットの冷媒配管の位置を合わせてください。

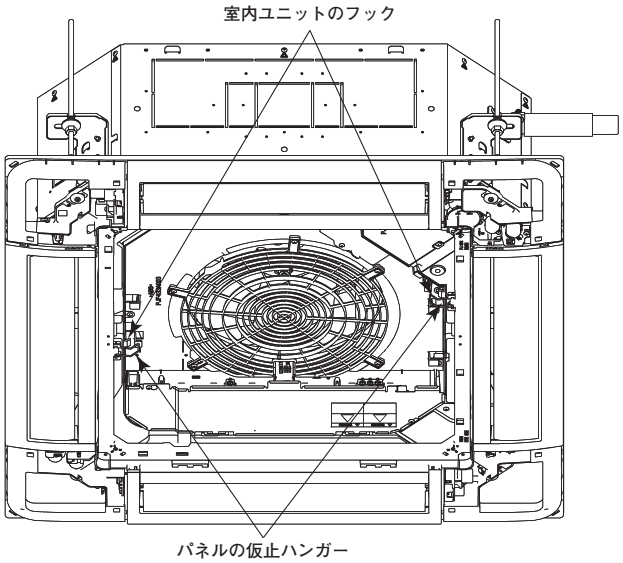
ご注意

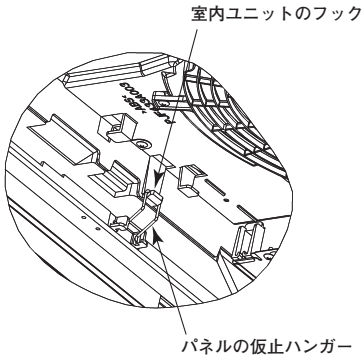
・右図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となり、また電気配線の接続ができません。

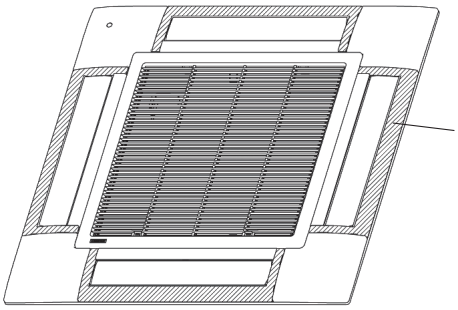


⑥ パネルの取付

1．パネルの仮止
・パネルの仮止用ハンガーを起こします。（2 か所）
・パネルの仮止用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。







標準パネル以外の場合、斜線部(４か所)は可動します。
手で無理に動かすと破損します。
標準パネルの場合もパネル本体とは別部品ですが、
取外すことはできません。

ご注意

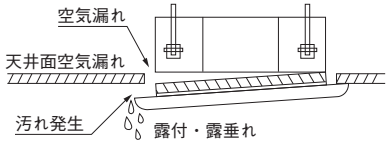
・パネルの吹出口周囲のエアフレックス(斜線部)は別部品です。パネルを持つ際は取扱いに注意してください。
特に、エアフレックスパネル、ラクリーナパネルの斜線部は可動します。手で無理に動かすと破損します。

2．パネルの室内ユニットへの固定

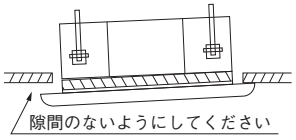
・付属のパネル取付用ボルト４本を用いて、室内ユニットに締付けてください。

ご注意

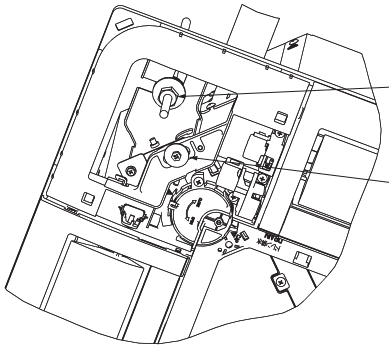
・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。



・室内ユニットの水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま、室内ユニットの据付高さを微調整できます。



コーナ開口部よりスパナ等の一般工具にて
室内ユニットのナットを微調整してください。

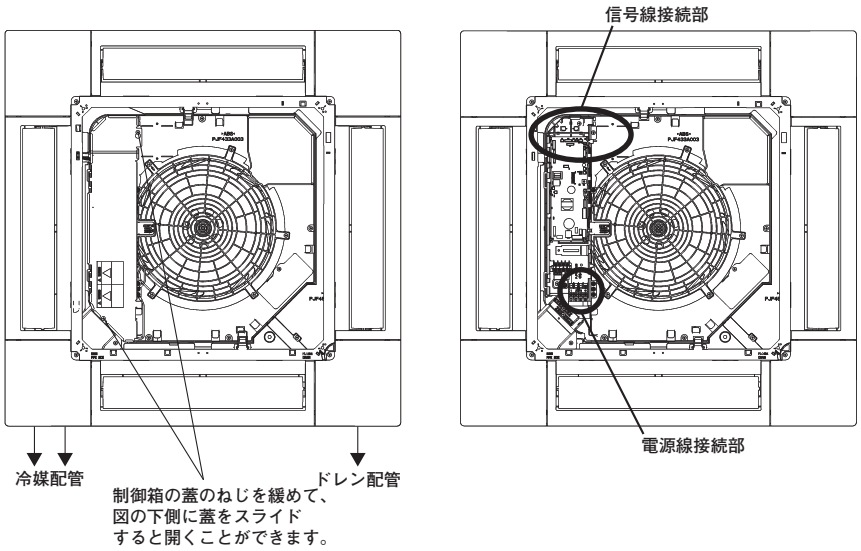
パネル取付用ボルト

ご注意

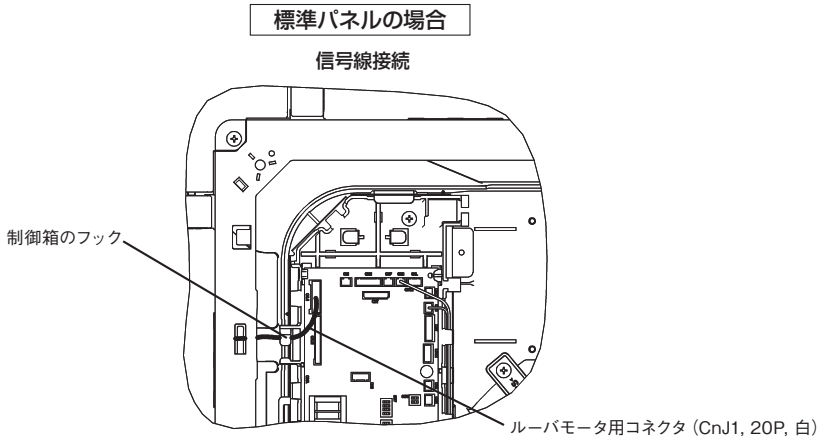
パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付高さを調整してください。
パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

⑦ 電気配線

パネルの種類により、配線処理が異なります。パネルの種類にあわせて配線処理を行ってください。
室内ユニットの接続位置はパネルの種類によらず下図のとおり同じです。



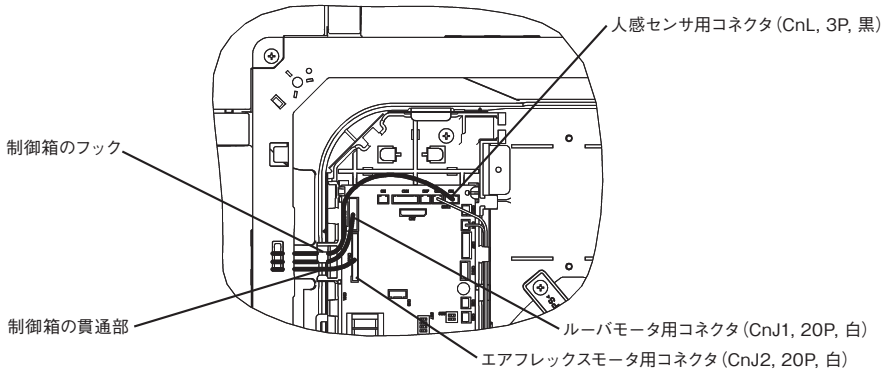
＜標準パネルの場合＞
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ1（20P,白）を接続してください。
3. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。



＜エアフレックスパネルの場合＞
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ1（20P,白）を接続してください。
3. エアフレックスモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ2（20P,白）を接続してください。
4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し、コネクタCnL（3P,黒）を接続してください。
5. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。

エアフレックスパネルの場合

信号線接続

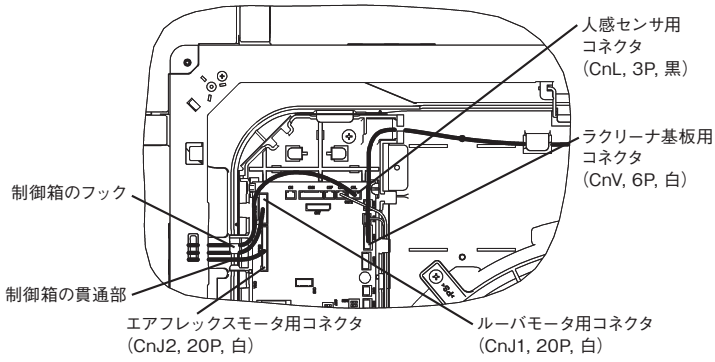


<ラクリーナパネルの場合>

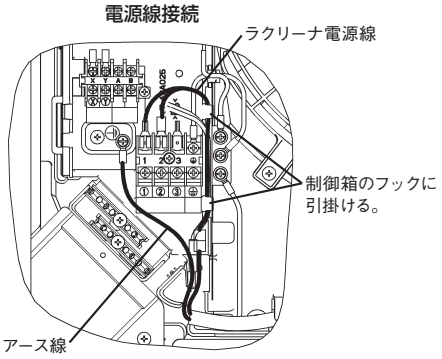
1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め、蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ1（20P,白）を接続してください。
3. エアフレックスモータ線（20線）を制御箱のフックに通し、コネクタCnJ2（20P,白）を接続してください。
4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し、コネクタCnL（3P,黒）を接続してください。
5. 電源線のファストン端子を室内ユニットの電源端子台の1番,2番に挿入してください。
   電源線の赤を端子台の1番に、白を2番に挿入してください。
6. アース線[緑]を室内ユニット制御箱の⏚に接続してください。
7. ラクリーナ基板用信号線（6線）を室内ユニット制御箱内の基板のコネクタCnV（6P,白）に接続してください。
   コネクタCnVにショートコネクタが接続されている場合は取外しの上、信号線を接続してください。
8. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け、ねじ（2本）を締付けてください。

ラクリーナパネルの場合

信号線接続

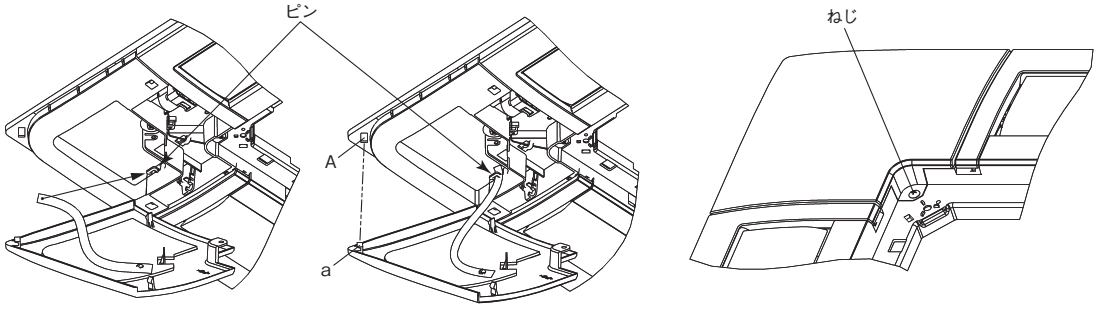


電源線接続



⑧ コーナリッドの取付

1．付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折返して引掛けてください。
2．コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引掛けてください。
3．コーナリッドのａ部をパネルのA部に挿入してから、コーナリッドのつめ2か所をはめてください。
4．付属のねじで固定してください。



⑨ 吸込グリルの取付

パネルと吸込グリルには方向性がありません。

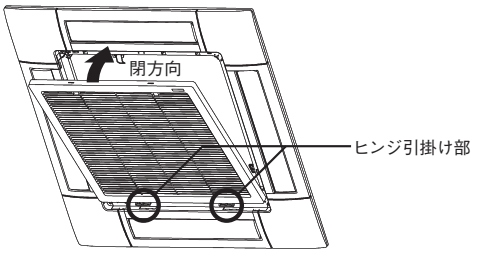
＜標準パネル、エアフレックスパネルの場合＞

吸込グリルの取付方法は ③ 吸込グリルの取外し の手順を逆に作業してください。

1．吸込グリルのヒンジをパネルのヒンジ挿入穴に取付けてください。(吸込グリルのヒンジは４辺どこでも取付可能です。)

2．吸込グリルのヒンジを取付後、ストッパー(２か所)を「OPEN」の方向へ押したまま、閉じてください。
両方のストッパーから「カチッ」と音がしたことを確認してください。

〈取付け〉



ご注意

・吸込グリルの取付は、必ずヒンジ側から行ってください。
・吸込グリルは確実に取付けてください。取付が不十分ですと落下する恐れがあります。
・ストッパーが変形・破損した場合は、速やかに修理依頼し、交換してください。吸込グリルが落下する恐れがあります。

＜ラクリーナパネルの場合＞

1．吸込グリルの方向を決定してください。

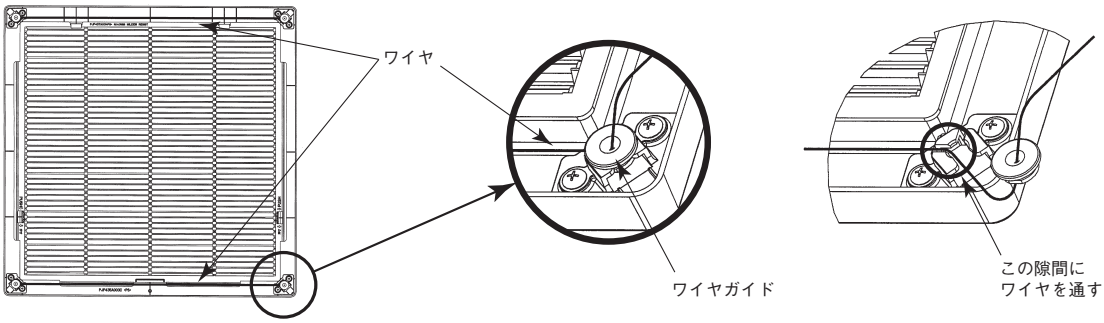
2．ワイヤを通してあるワイヤガイドを吸込グリルの４コーナの取付部に固定して装着します。

3．ワイヤガイドを吸込グリルに外側から内側にスライドさせながら装着してください。
装着の際、取付部の隙間をワイヤが通過するようにワイヤの向きに注意して確実に取付けてください。

4．ワイヤガイド装着後、ワイヤの曲がり、ねじり、噛込みがないことを確認してください。

ご注意

ワイヤガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、吸込グリルを昇降できなくなったり、吸込グリルが落下する恐れがあります。



⑩ パネルの設定

＜ルーバの動作範囲設定(フリーフロー設定)＞

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

＜エアフレックスの設定(ドラフト防止設定)＞

エアフレックスパネル, ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。
エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、ドラフト防止設定を有効にしてください。(ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。)
本モードで有効に設定すると運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜人感センサの設定（赤外線センサー設定）＞

エアフレックスパネル, ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。
人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、赤外線センサー設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜吸込グリル昇降の設定（グリル昇降操作）＞

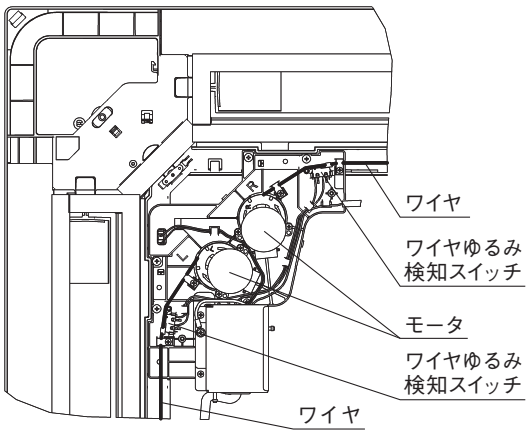
ラクリーナパネルを取付け、配線接続をするだけでは吸込グリルの昇降はできません。
吸込グリルの昇降を可能にするために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリル昇降を有効にしてください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜吸込グリル下降長さの設定（降下長設定）＞

吸込グリルの下降長さをお好みの下降長さに設定することができます。工場出荷時は２mに設定されています。
お好みの下降長さにしたい場合は、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、吸込グリルの下降長さを設定してください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

ご注意

＜ワイヤゆるみ検知機構について＞
ラクリーナパネルには、ワイヤの絡まり防止のため、「ワイヤゆるみ検知機構」を装備しています。吸込グリルを吊ったワイヤがゆるんだ場合、ワイヤゆるみ検知スイッチが働き、自動昇降用モータが自動停止します。
パネル据付後、 グリルが動かない場合、「ワイヤゆるみ検知機構」が作動している可能性がありますので、据付時にワイヤの噛込み、絡まり等が無いか、ワイヤ経路をご確認ください。

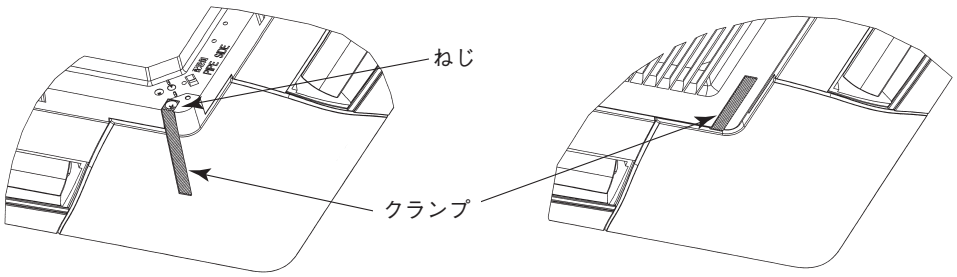


⑪ 電源投入前の吸込グリルの仮固定 ＜ラクリーナパネル＞

電源投入前は吸込グリルの自動昇降はできません。
1．電源投入前に吸込グリルを収納したい場合は、付属のクランプで吸込グリルを仮止めすることができます。
2．パネルの４コーナに付属のクランプを図のようにねじ止めしてください。（４コーナとも）
3．ワイヤを折曲げたり、かみ込んだりしないように注意しながら、持ち上げパネルに収納してください。
4．取付けたクランプを図のように吸込グリル側に折曲げ、吸込グリルを固定してください。

ご注意

クランプを装着したまま昇降動作を行った場合、吸込グリルの昇降装置が故障する恐れがあります。



5．仮固定が終わったら、クランプを取外した上で、コーナリッドをねじ止めしてください。

(2) 天井埋込形 4 方向吹出し小容量（FDTC）

PJF012D508

(a) 室内ユニットの据付

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、
リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。	必ず指示
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	必ず指示
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。（JRA GL-13） 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	必ず指示
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	必ず指示
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	必ず指示
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	必ず指示
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	必ず指示
●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	絶対に行わない
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	必ず指示
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	必ず指示
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	必ず指示
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	必ず指示
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	必ず指示
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	必ず指示
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	絶対に行わない
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	必ず指示
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	必ず指示
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	必ず指示
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	絶対に行わない
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	必ず指示
●エアコンの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	必ず指示
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	絶対に行わない
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	必ず指示

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●室内ユニットの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

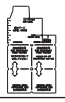
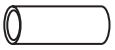
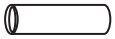
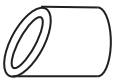
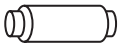
●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

室内ユニットを移動させるときは吊り金具(４か所)を持ち、他の部分(特に冷媒配管、ドレン配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。

付属品

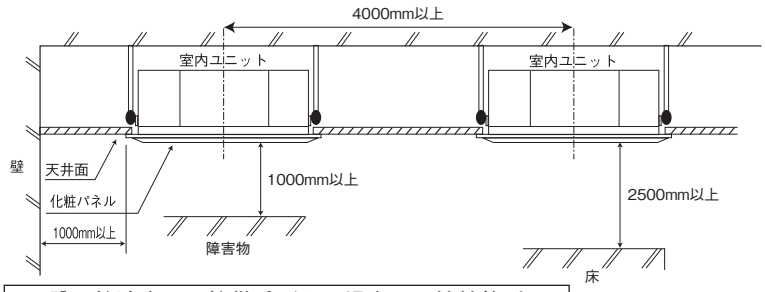
室内ユニット吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金 (M10)	レベルゲージ および 平座金仮固定	パイプ カバー(大)	パイプ カバー(小)	バンド	パイプ カバー(大)	パイプ カバー(小)	ドレン ホース	ホース クランプ
								
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
吊りボルト用	室内ユニットの 位置調整および吊り 込み時の補助用	ガス管 断熱用	液管 断熱用	パイプ カバー 固定用	ドレン ソケット 断熱用	ドレン ソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレン ホース 取付用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　本室内ユニットは JIS 露付条件(室内：27℃ /78% RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４ｍ以上離して設置してください。

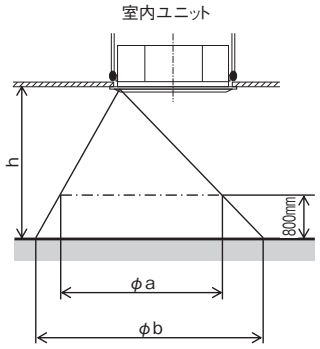
室内ユニット据付スペース

●室内ユニット－壁、室内ユニット－室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしないことを確認してください。
●据付高さは２.５m以上としてください。



埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能なように点検口などを設けてください。

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

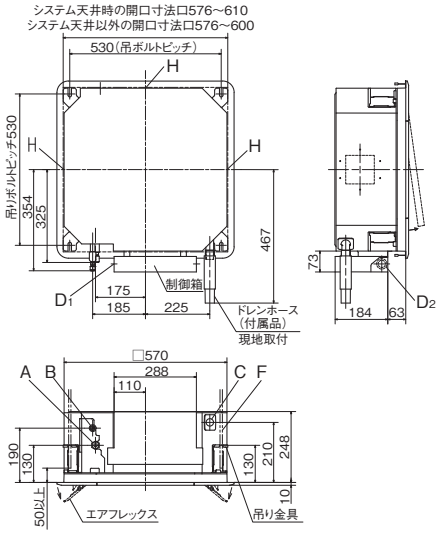
吹出パターンの設定

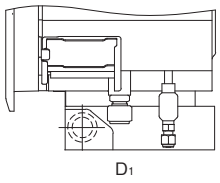
●部屋の形や据付位置に最適な吹出方向を４方向・３方向・２方向から選定してください。(１方向はできません。)
●吹出口数を変更する場合は、別売のしゃ風材を手配してください。
●２方向・３方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
●高温・多湿環境での２方向吹出は行わないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
●吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

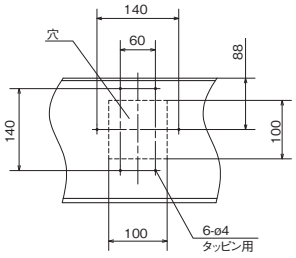
③据付準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０ or Ｍ８）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



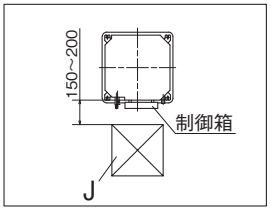




[mm]

記号	内容
A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管
D_1	電源線取入口
D_2	リモコン線・通信線取入口
F	吊りボルト
H	吹出分岐ダクト接続口
J	点検口

点検口設置位置

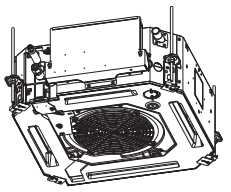


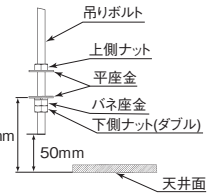
※システム天井以外の場合は制御箱側に点検口を設置してください。

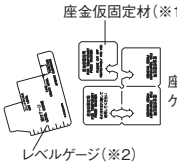
④室内ユニットの据付

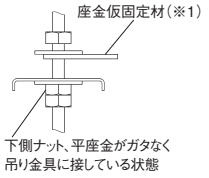
作業手順

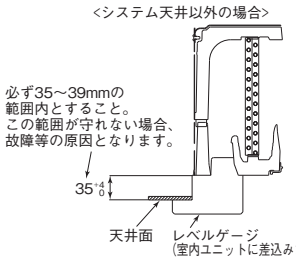
1. このユニットは、システム天井用に設計されています。
　必要ならば、一時的にＴバーを取り外して、ユニットを据付けてください。
　もし、システム天井以外に据付ける場合は、制御箱側に点検口を設置してください。
2. 吊りボルト位置（530mm × 530mm）を決めてください。
3. 吊りボルトは、4本使用し、1本当り500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
4. 吊りボルト長さは、天井面より 50mm 程度としてください。
5. 吊りボルトの下側ナット(4か所)は、天井面から 130mm 程度に仮止めしてください。
6. 吊りボルトの上側ナット(4か所)は、室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めしてください。
7. 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4か所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿しこんでください。上側座金が落下してきません。
8. 室内ユニットを吊り込んでください。
9. 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※2)を室内ユニットの吹出口に取付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4か所)を緩めた状態で、下側ナット(4か所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4か所)が下側ナット，平座金にガタなく接していることを確認してください。
10. 座金仮固定材(4か所全て)を取外してください。
11. 室内ユニットの水平度を確認してください。水平度は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
　(室内ユニットの両端での高さ許容差は 3mm 以内)
12. 吊りボルトの上側ナット(4か所)を締付けてください。

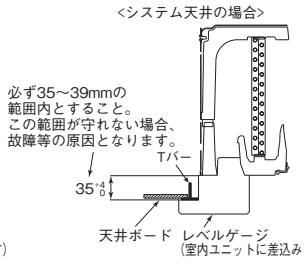


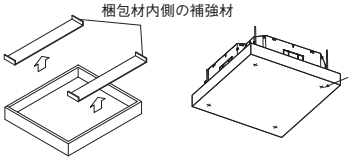














室内ユニットの養生

●パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、梱包材 (天面ダンボール) を使用して、室内ユニットを養生してください。

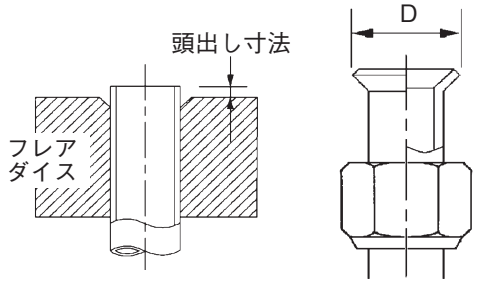
室内ユニット据付時のお願い

●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付できなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のものまたは JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。
他のフレアナット(1種)を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のものまたはJIS B 8607 2種適合品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアーナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

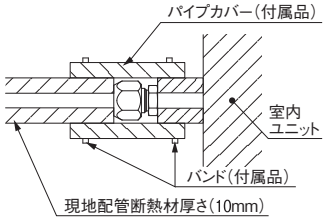
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。

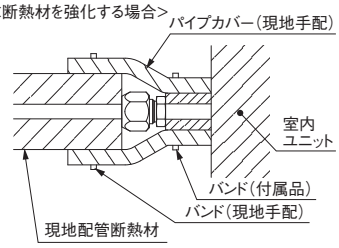
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>



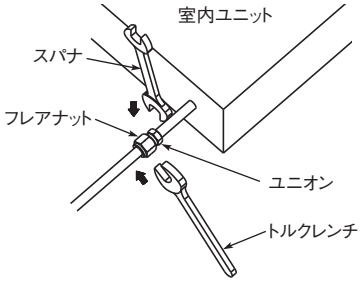
作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※ 室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※ 配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。

3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※ 配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。

●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。

●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。

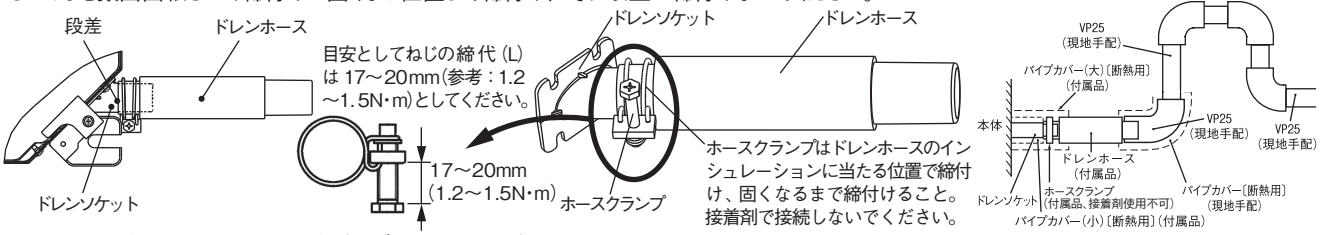
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。

●ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

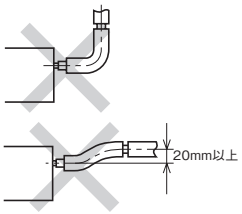
⑥ドレン配管

作業手順

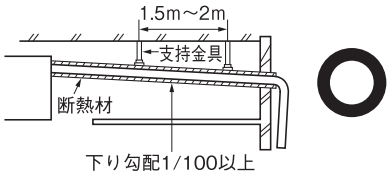
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ソケットの段差部まで確実に挿入してください。
   その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
   ●接着剤使用不可
2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締付けてください。
3. ねじを数回回転させて締付けが固くなる位置まで締付け、それ以上に締付けないでください。

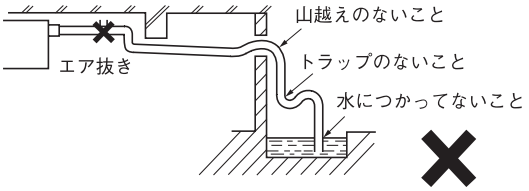


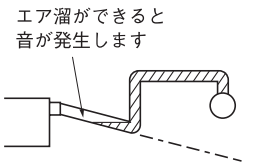
4. VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
   ※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
   ●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
   乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
   ●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



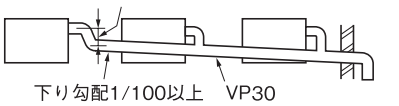
5. ドレン配管は下り勾配(1／100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。
   途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
   ●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
   ●エア抜きは絶対に設けないでください。







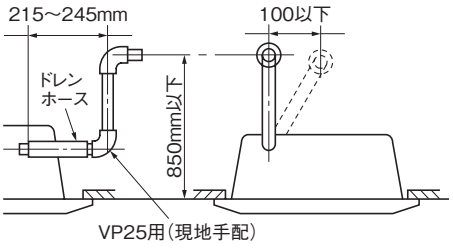
   ●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
   また集合配管はVP30以上を使用してください。



6. ドレン配管の断熱施工を行ってください。
   ●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
   ※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

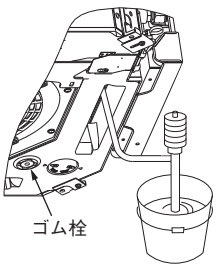


ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

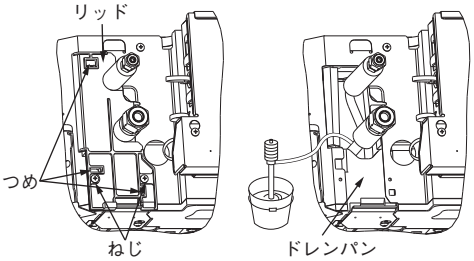
1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約1000cc 注水してください。注水時は､ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。
   注水は、吹出口から給水ポンプなどを使用するか、冷媒配管取出し部から行ってください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
   ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。
3. 排水テスト後は､ゴム栓を外して水抜きを行ってください。
   水抜き確認後は､ゴム栓を元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。
   リッドを外して注水した場合は、リッドを装着しなおしてください。

●吹出口から注水する場合



●冷媒配管取出部から注水する場合

(1) ねじ２か所を外します
(2) つめ部の引っかかりを外して、リッドを外します。



⑥ドレン配管のつづき

ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。

○電源が供給されている場合

室内ユニット基板上のSW7−1をONにし、かつ、基板上のコネクタCnBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7−1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上のコネクタCnB を差込んでください。

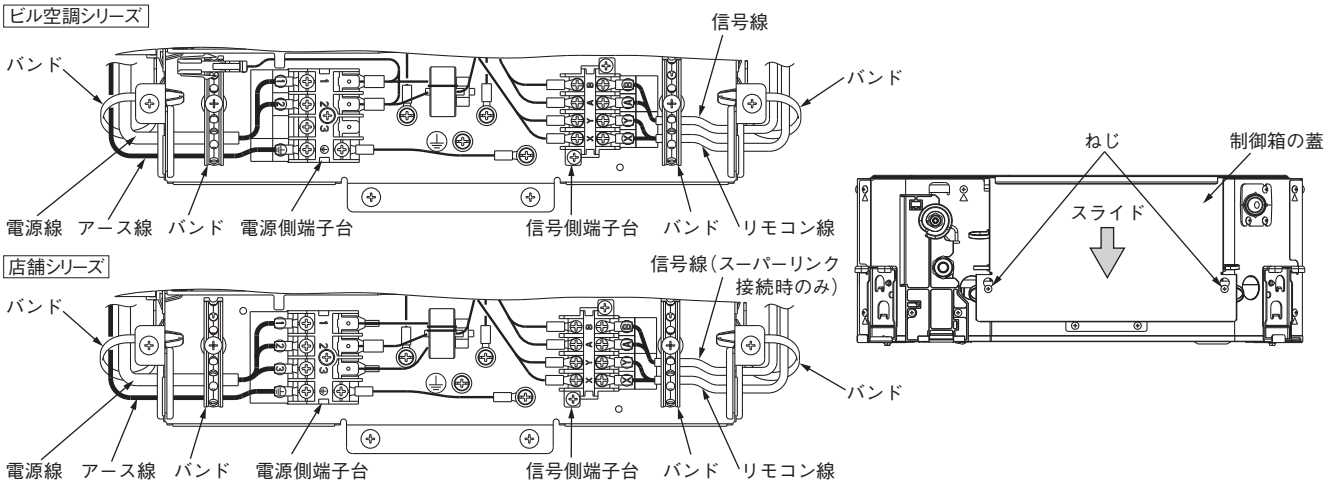
○電源が供給されていない場合

ドレンポンプ試運転用チェッカ (別売) でドレンポンプを運転することが可能です。 操作方法はドレンポンプ試運転チェッカに付属の取扱説明書 をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 室内ユニット本体の制御箱の蓋のねじ(2本)を緩めてください。
2. 制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて、取外してください。
3. 配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
4. 下図のように配線をバンドで固定してください。
5. 配線を噛み込まないように制御箱の蓋を取付け、ねじ(2本)で締付けてください。



⑧パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

⑨室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

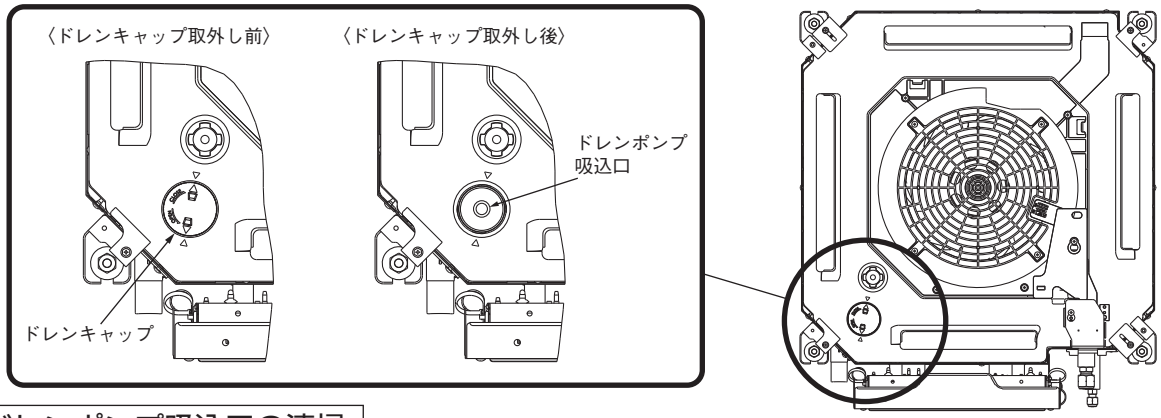
●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑩ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

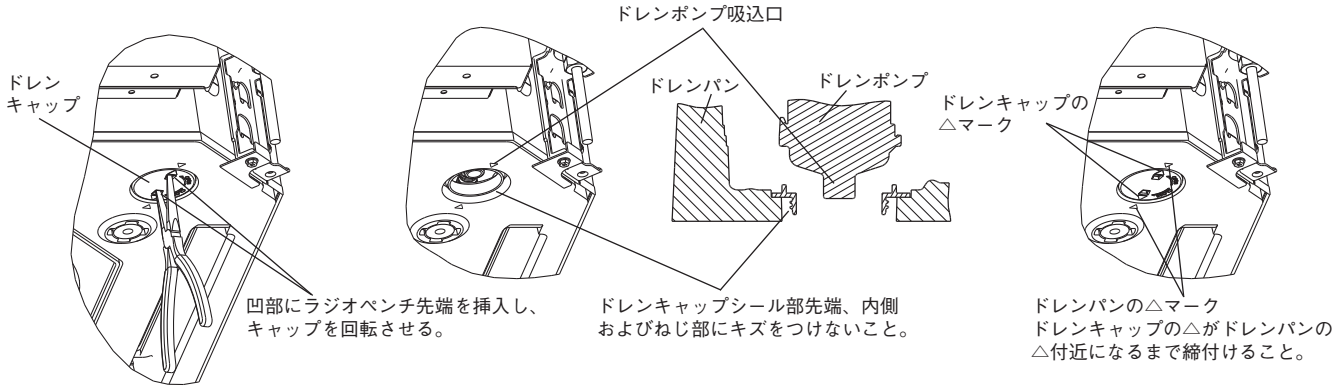
1. パネル据付説明書に従ってパネルを取外してください。
2. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。



ドレンポンプ吸込口の清掃

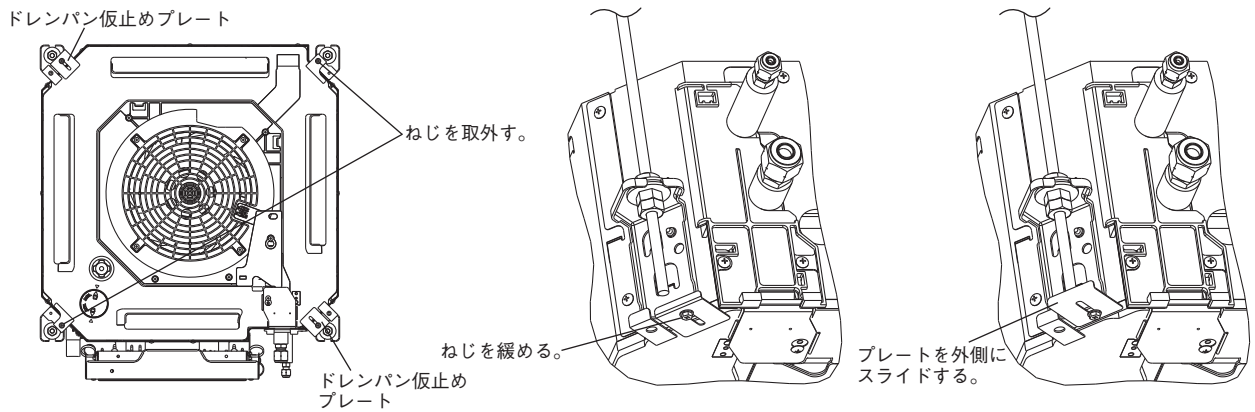
●ドレンパンを取外さず、ドレンキャップを取外すことでドレンポンプ吸込口およびその付近の清掃ができます。
●ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。

1. ドレンキャップの凹部（2か所）にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約1回転するとドレンキャップを取外せます。
2. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付部をキズつけ、水漏れの原因になります。
3. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、**ドレンキャップ内側の異物を取除いてください。**異物が付着したままドレンキャップを取付けると水漏れの原因になります。
4. ドレンキャップの取付は、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約1回転させ、**キャップが回転しなくなるまで締付けてください。**キャップが1回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付直してください。
5. ドレンキャップ締付後、ドレンキャップの△マークがドレンパンの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがドレンパンの△マーク付近にない場合は、増締めしてください。
6. 取外したゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。
●ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取付ねじ(2個)を取外し、仮止めプレートのねじ(2個)を緩めてください。仮止めプレートをドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外せます。
●ドレンパン取付時は、仮止めプレートを内側にスライドし、ドレンパンを仮止めしてください。その後、ドレンパン取付ねじ(2個)と仮止めプレートのねじ(2個)を締付けてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。



(b) パネルの据付

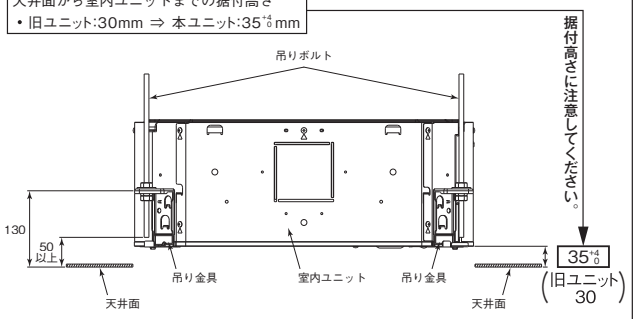
PJF012Z502

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

※ご使用前の注意点

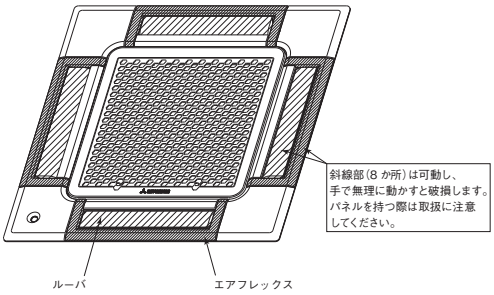
①室内ユニットの据付高さに注意してください。
また、本室内ユニットは旧ユニット（従来機）と据付高さが異なるため、注意してください。

天井面から室内ユニットまでの据付高さ
・旧ユニット:30mm ⇒ 本ユニット:35$^{+4}_{0}$mm



※室内ユニットが上記の高さに据付けられていない場合、風漏れ
による露付・露垂れや天井面の汚れ発生の原因となります。

②ルーバおよびエアフレックスは無理に動かさないでください。



⚠ 警　告

●配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。

エアフレックス ： ドラフト防止機能

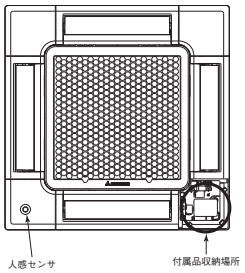
① 据付の前に

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・次の項目を確認してください。
○パネル・リモコンのタイプ
○付属品

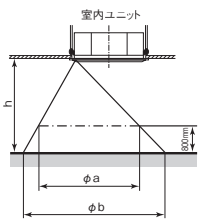
付属品

ボルト		4本	パネル取付用
ストラップ		4本	コーナリッド落下防止用
グリルフック		1個	グリル落下防止用
ねじ		4本	コーナリッド固定用

注：付属品はコーナリッドを外した位置にあります。



人感センサ検知範囲の目安



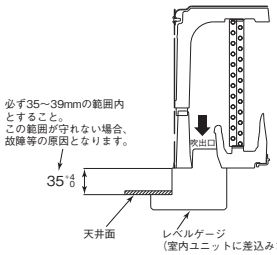
天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲②　φb [m]	約6.4	約8.3	約9.5

② 室内ユニットの据付高さの確認

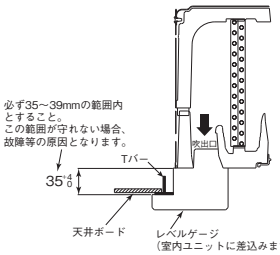
・室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。
・室内ユニットに付属されているレベルゲージで室内ユニット高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
・室内ユニットと天井材との取付レベルを確認してください。
・室内ユニット付属のレベルゲージを吹出口にセットし、室内ユニットの吊込み高さを調整してください。
・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

ご注意
室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

<システム天井以外の場合>

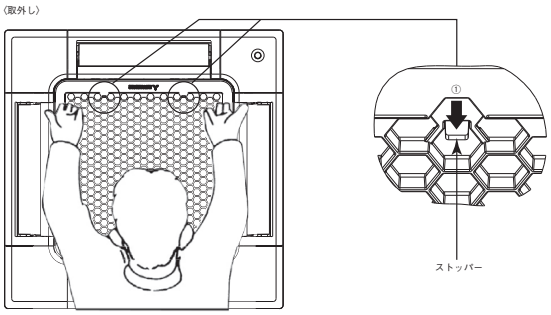


<システム天井の場合>



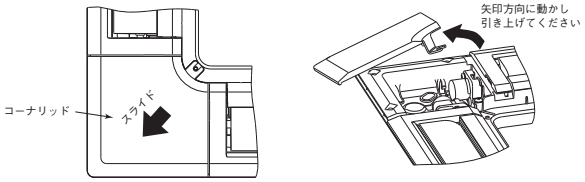
③ 吸込グリルの取外し

1．吸込グリルのストッパー（2 か所）に指をかけて矢印①の方向に押したまま吸込グリルを下方へ
引くと吸込グリルが開きます。
2．吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部をパネルから外します。



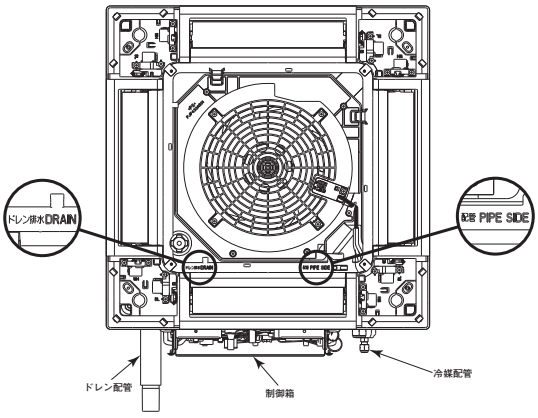
④ コーナリッドの取外し

・コーナリッドを矢印の方向へ移動させ取外してください。(4コーナとも)



⑤ パネルの取付方向

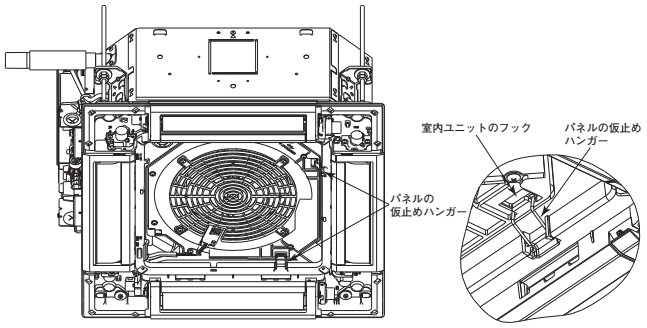
・パネルの取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネルは、下図に示す方向で取付けてください。
・パネル吸込部の「ドレン排水」と室内ユニットのドレン配管の位置を合わせてください。
・パネル吸込部の「配管側」と室内ユニットの冷媒配管の位置を合わせてください。



ご注意
・上図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となり、また電気配線の接続ができません。

⑥ パネルの取付

1．パネルの仮止め
・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（2か所）
・パネルの仮止め用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。

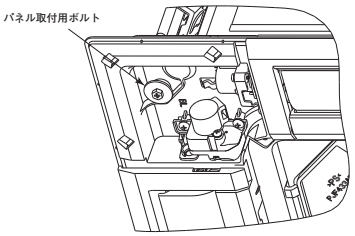


2．パネルの室内ユニットへの固定
・付属のパネル取付用ボルト４本を用いて、室内ユニットに締付けてください。

ご注意
人感センサ配線が噛込まないように注意してください。

ご注意
・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。
・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。

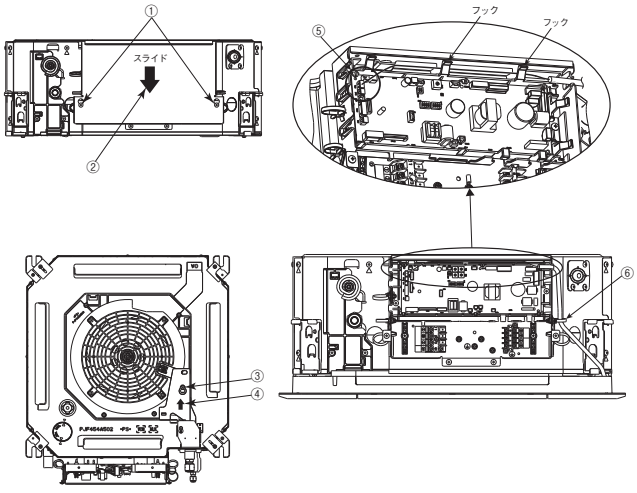




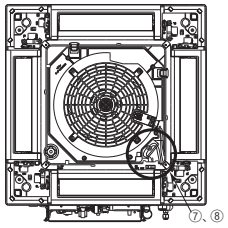
ご注意
パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付高さを調整してください。
パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

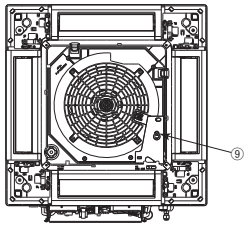
⑦ 電気配線

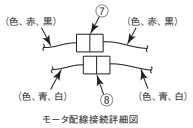
①ユニット本体の制御箱のねじ（2本）を緩めてください。
②制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて取外してください。
③配線カバーのねじを緩めてください。
④図の矢印方向に蓋をスライドさせて、配線カバーを取外してください。
⑤人感センサ配線のコネクタを制御箱内の基板のCNL（3P, 黒）に接続してください。
⑥図のように人感センサ配線をバンドで固定してください。
⑦パネル側のルーバモータ配線（配線色：赤, 黒）のコネクタを、ユニット側のルーバモータ配線（配線色：赤, 黒）のコネクタCnJ3（20P, 白）に接続してください。
⑧パネル側のエアフレックスモータ配線（配線色：青, 白）のコネクタを、ユニット側のエアフレックスモータ配線（配線色：青, 白）のコネクタCnJ4（20P, 白）に接続してください。
⑨配線が噛込まないように配線カバーを取付、ねじで締付けてください。
⑩配線を噛込まないように制御箱の蓋を取付、ねじ(2本)で締付けてください。



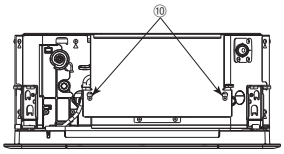
⑦ 電気配線のつづき

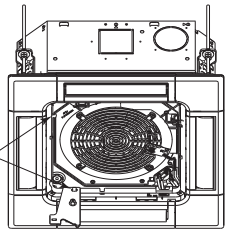






モータ配線接続詳細図

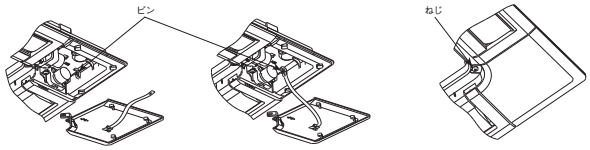




※フックに配線カバーを引掛けることで作業がしやすくなります。

⑧ コーナリッドの取付

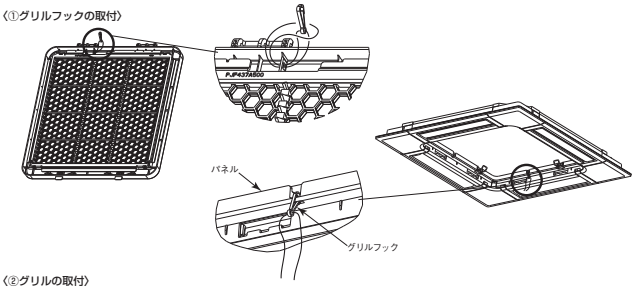
1．付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折返して引掛けてください。
2．コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引掛けてください。
3．コーナリッドのつめ3か所をはめ、付属のねじで固定してください。



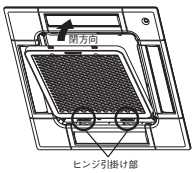
⑨ 吸込グリルの取付

パネルと吸込グリルには方向性がありません。（吸込グリルのヒンジは４辺どこでも取付可能です。）
吸込グリルの取付方法は ③吸込グリルの取外し の手順を逆に作業してください。
①グリルフックをパネルに取りつけてください。
②吸込グリルのヒンジをパネルのヒンジ挿入穴に取付けてください。
吸込グリルのヒンジを取付後、ストッパー（2か所）を押したまま、閉じてください。
両方のストッパーが確実にパネルに差込まれていることを確認してください。

〈①グリルフックの取付〉



〈②グリルの取付〉



ご注意
・グリルフックは確実にパネル本体側に取付けてください。
・吸込グリルの取付は、必ずヒンジ側から行ってください。
・吸込グリルは確実に取付けてください。取付が不十分ですと落下する恐れがあります。
・ストッパーが変形・破損した場合は、速やかに修理依頼し、交換してください。吸込グリルが落下する恐れがあります。

⑩ パネルの設定

＜ルーバの動作範囲設定（フリーフロー設定）＞
ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

＜エアフレックスの設定＞
エアフレックスパネルを取付、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。
エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、エレックスの設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX3A、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）
本モードで有効に設定すると運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜人感センサの設定＞
エアフレックスパネルを取付、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。
人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、人感センサの設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）
設定方法は34ページを参照してください。

⑶ 天井埋込形２方向吹出し（FDTW）

ⓐ 室内ユニットの据付

PJB012D313

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本室内ユニットは、必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に ⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。
●この室内ユニットは､日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については､販売店と相談して据付ける｡万一､冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が､「電気設備に関する技術基準」､「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管は、イオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では、圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し､冷凍サイクル内が異常高圧になり､破裂､ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付は、専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は、絶対にしない。また、修理は、お買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	❗
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は、必ず取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は、使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか､覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は、下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

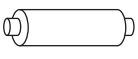
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

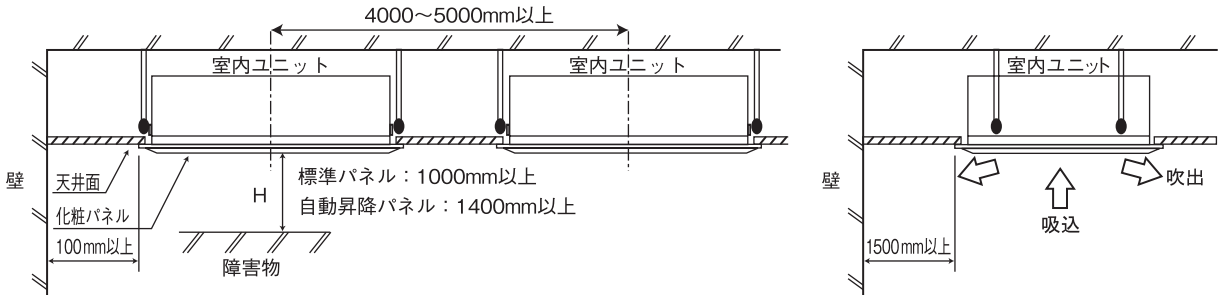
本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金（M10）	レベルゲージ	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ
								
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
室内ユニット吊り下げ用	室内ユニット吊り込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・人感センサを取付ける場合、据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
〔本室内ユニットは JIS 露付条件（室内:27℃ /78% RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに１０～２０ｍｍの断熱材を取付けてください。〕
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁などで補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下により、ケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４～５ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

●据付高さは２.５m以上としてください。



③据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

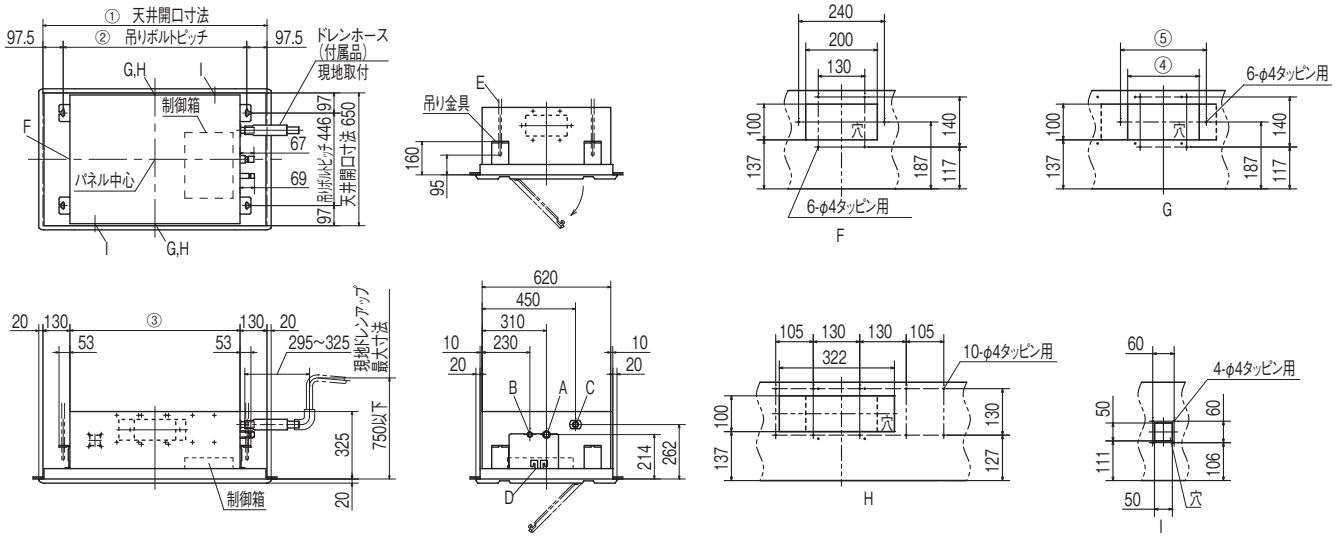
③据付前の準備のつづき

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

（mm）

記号	内容	記号	内容
A	冷媒ガス側接続口	F	OA 取入口
B	冷媒液側接続口	G	吹出分岐ダクト接続口
C	ドレン配管側接続口	H	加湿器接続口
D	電源取入口	I	加湿器余剰水接続口
E	吊りボルト		

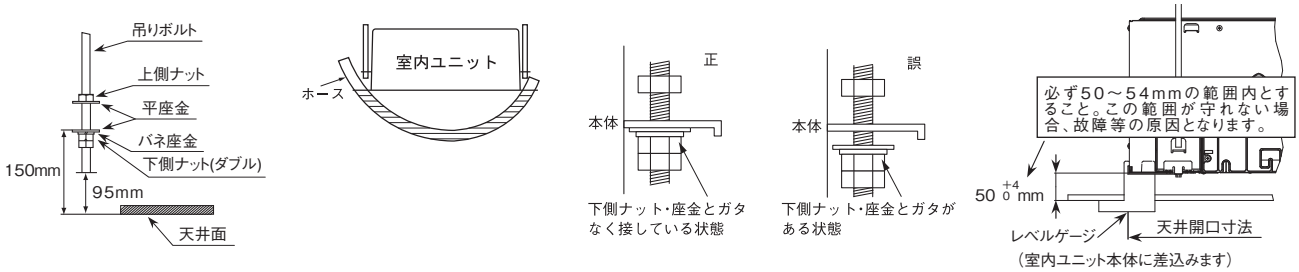
シリーズ	機種	①	②	③	④	⑤
店舗	40～80形	1080	885	820	200	240
	112～160形	1795	1600	1535	440	480
ビル空調 ガスヒートポンプ	22～80形	1080	885	820	200	240
	90～160形	1795	1600	1535	440	480



④室内ユニットの据付

作業手順

1．据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2．所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3．吊りボルトは４本使用してください。
4．吊りボルト長さは、天井面より９５mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット４箇所は天井面から１５０mm程度に仮止めし、上側ナット４箇所は室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、室内ユニット本体を吊り込んでください。
5．室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージを吹出口にセットし、室内ユニット吊り込み高さを調整してください。高さ調整は、上側ナット４箇所を緩めた状態で、下側ナット４箇所で調整してください。室内ユニット吊り金具４箇所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。
6．室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
（室内ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
7．高さ調整・水平度調整後、上側ナット４箇所を締付けて室内ユニットを固定してください。



④室内ユニットの据付のつづき

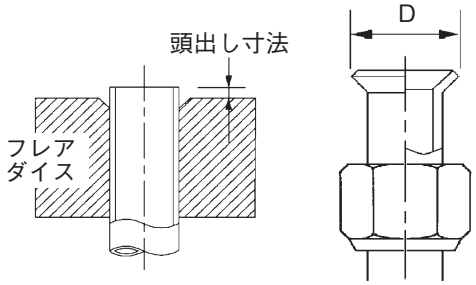
室内ユニット据付時のお願い

●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付できなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付け､室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●化粧パネルと天井面、および化粧パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

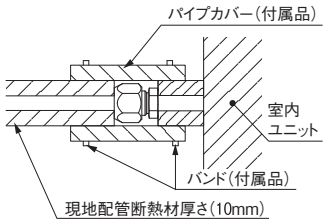
●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1）再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。
2）再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 または R410A 用のフレア加工をしてください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（Ｃ１２２０Ｔ、ＪＩＳ Ｈ ３３００）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●Ｒ３２またはＲ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●Ｒ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

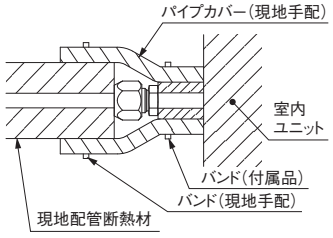
<断熱材厚さ10mmを使用する場合>

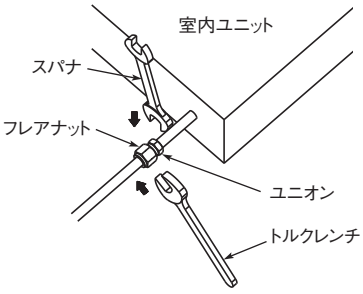


作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

<断熱材を強化する場合>





注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

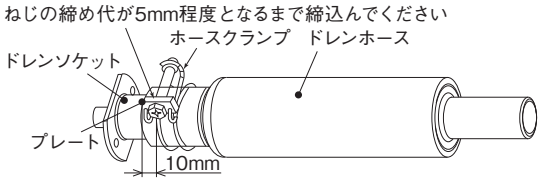
⑥ドレン配管

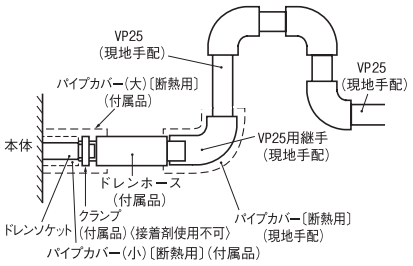
ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管は、イオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は、下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

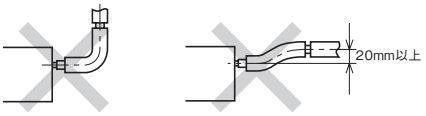
作業手順

1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 程度となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可

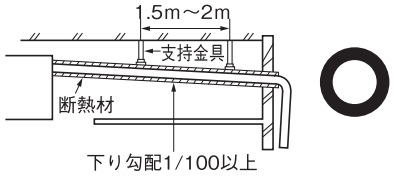


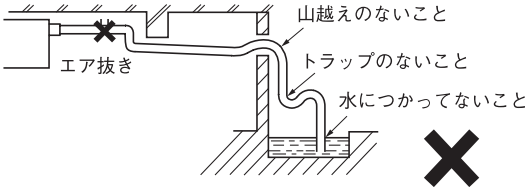


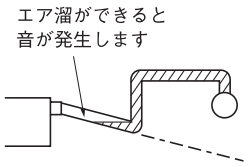
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



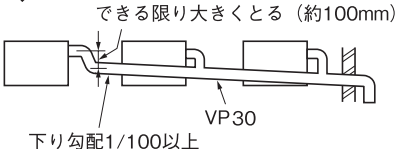
3．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。







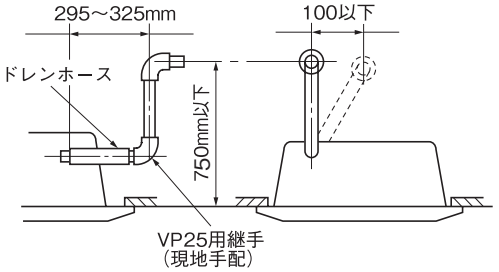
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００ｍｍ下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。



4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より７５０ｍｍまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



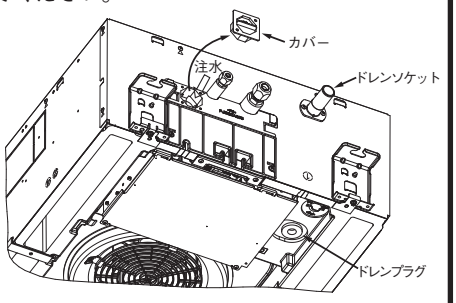
⑥ドレン配管のつづき

ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

作業手順

1．配管リッド部のカバー（ねじ２個）を取り外し、下図の位置より給水ポンプなどを使用して、電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃ注水してください。
2．ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3．排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。



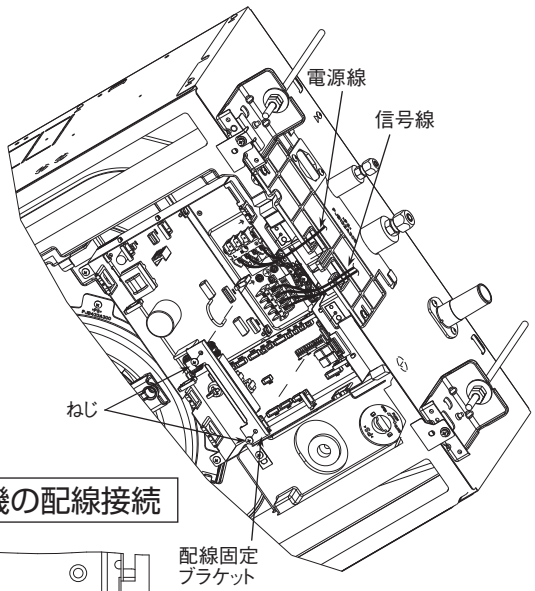
ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。
運転操作方法は、電気配線工事説明書の［ドレンポンプ運転操作］をご覧ください。
○電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上のＳＷ７－１をＯＮにし、かつ、基板上のコネクタＣｎＢを抜いた後、電源ＯＮ（端子台①、②へＡＣ２００Ｖ）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
排水確認後は、必ずＳＷ７－１を元の状態（ＯＦＦ）に戻し、かつ、基板上のコネクタＣｎＢを差し込んでください。

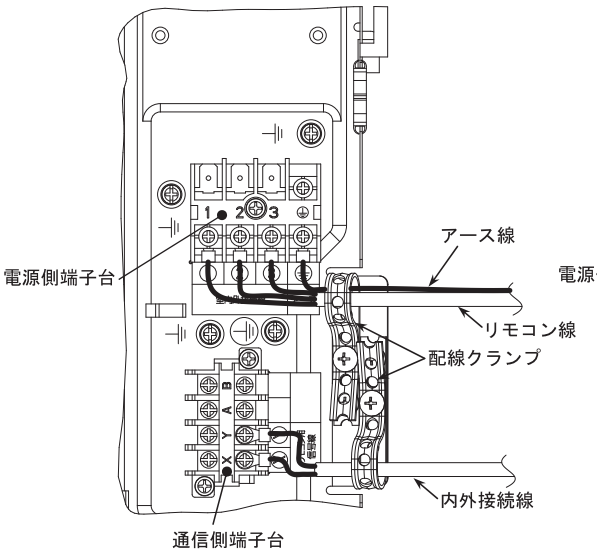
⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は、同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種設置工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

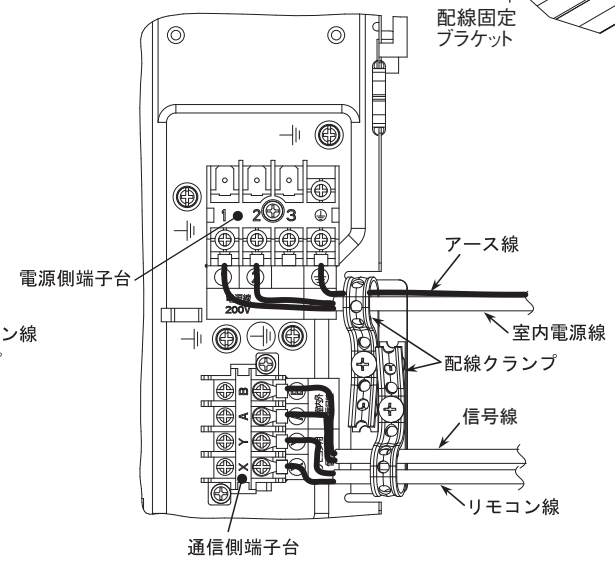
1．制御箱の蓋（ねじ２個）と配線固定ブラケット（ねじ２個）を取外してください。
2．各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
3．各配線を配線クランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。



シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続



⑧パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニット本体に取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

⑨室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

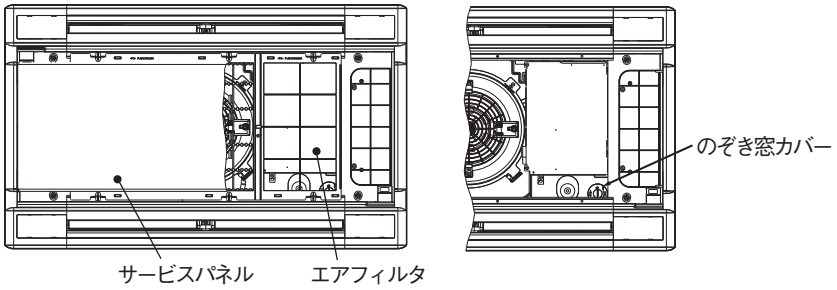
チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑩ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

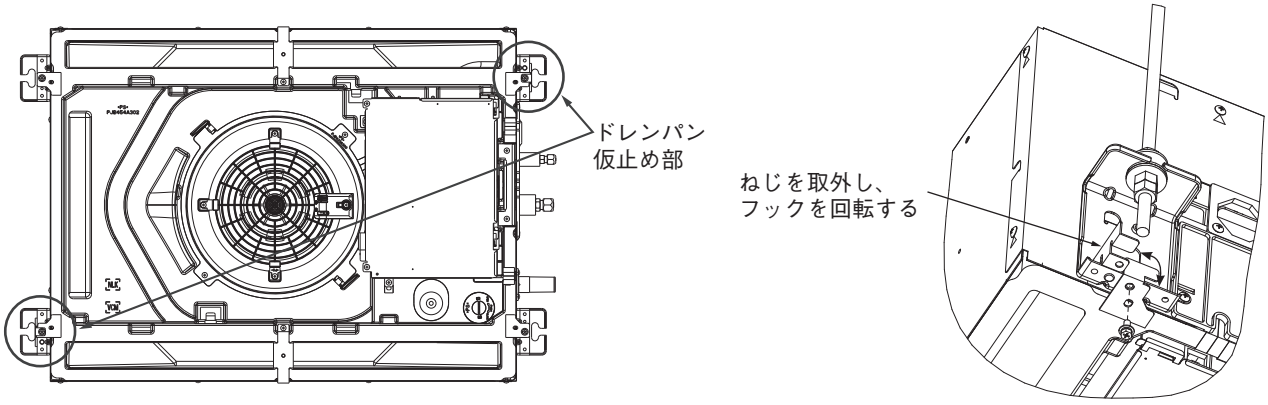
●パネル本体を取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパンの汚れが確認できます。
（高性能フィルタなどオプションスペーサ取付時は確認できません。）

1．サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
2．ドレンパンコーナーにあるのぞき窓カバーを取外してください。
3．のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。
　汚れが多い場合は、ドレンパンを取外し、ドレンパンを清掃してください。
4．汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

●ドレンパンには仮止め機構がついています。ドレンパン取外し時、および取付時には注意願います。
ドレンパン取付ねじ (4個) 取外し後、仮止めフックを外してください。
ドレンパン取付時は、仮止めフックを取付後、確実にねじで固定してください。



⑹ **パネルの据付**

PJB012D300 A

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない | ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

お願い <ラクリーナパネル>

・サービスパネルの動作範囲の周辺および下方には、障害物を置かないでください。
・電源投入前にパネルを取付けた場合は、サービスパネルの昇降動作はできません。
・電源投入前にサービスパネルを収納する場合は、付属のサポートで仮固定する事ができます。
・電源投入後は、付属のサポートが外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
・サービスパネル取付後の初回は、リモコンで「上げる」の操作を行い、サービスパネルを正規位置に収納してください。
（マイコンが収納位置を記憶します。）
・ワイヤは、折曲げ、ねじり、噛込み等により傷つけたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

① 据付のまえに

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・右図の付属品を確認してください。

付属品

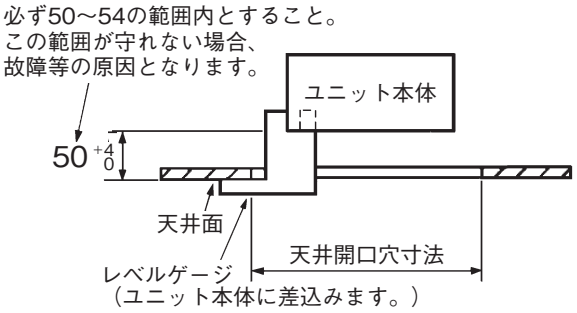
ボルト		6本	パネル取付用
サポート		4本	サービスパネル仮止め用（ラクリーナパネルのみ）

② 本体の取付レベルの確認

・ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
・ユニット本体に同梱されているレベルゲージで本体高さおよび天井開口寸法が正しいことを確認してください。
・ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してください。
・ユニット本体付属のレベルゲージを吹出口にセットし、
本体の吊り込み高さを調整してください。
・レベルゲージはパネル取付前に取外してください。

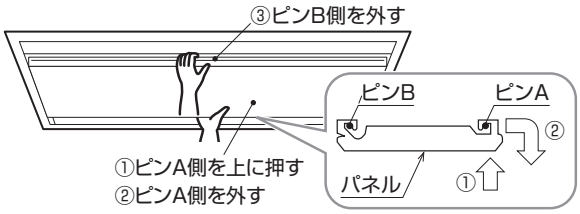
ご注意

ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付の際、
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。



③ サービスパネルの取外し

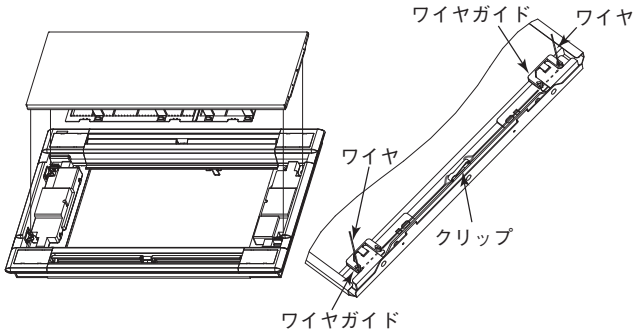
＜標準パネルの場合＞
1．サービスパネルの片側（ピンA側）を上に押し上げてください。
2．ピンAからパネルを外してください。
3．ピンB側を外し、パネルを取外してください。



<ラクリーナパネルの場合>
1．サービスパネルを少し持ち上げて、サービスパネルを開けます。
2．サービスパネルの4コーナに引掛けてあるワイヤをワイヤガイドから取外してください。

ご注意

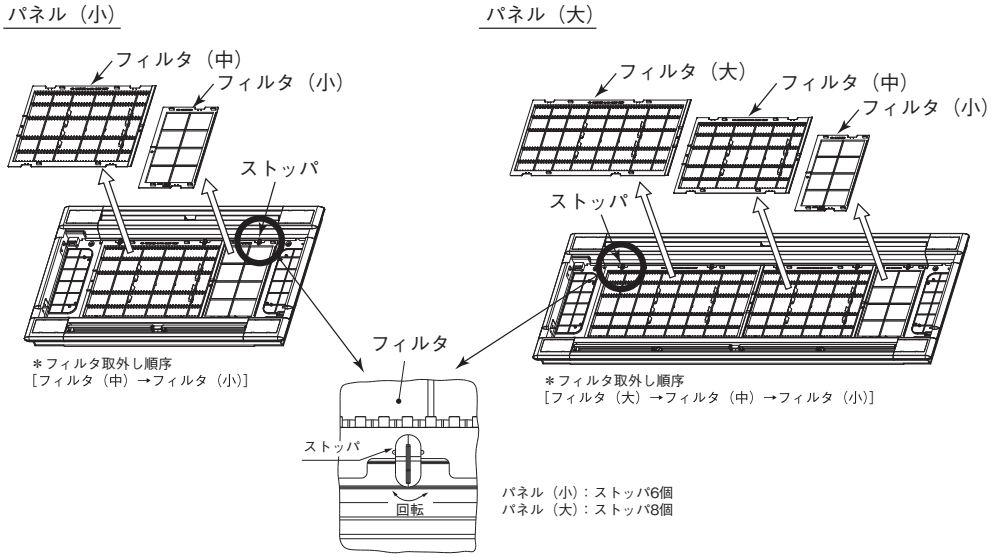
サービスパネルはゆっくり持ち上げてください。
ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。



④ フィルタの取外し

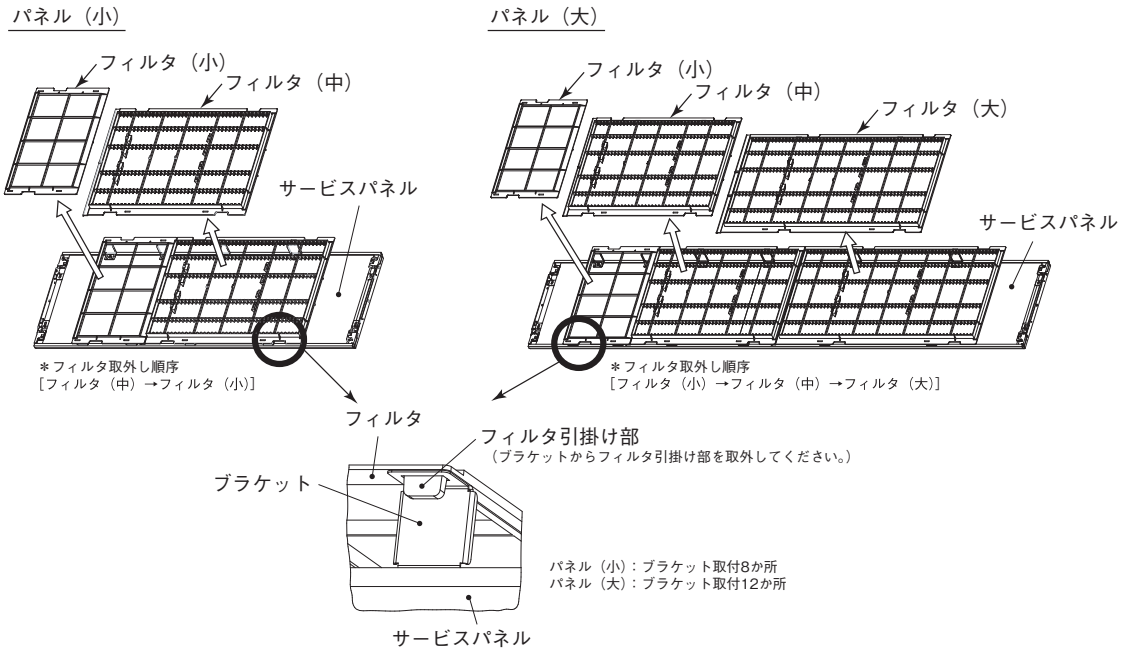
＜標準パネルの場合＞

・フィルタを押さえ、ストッパを回転させてフィルタを取外してください。



＜ラクリーナパネルの場合＞

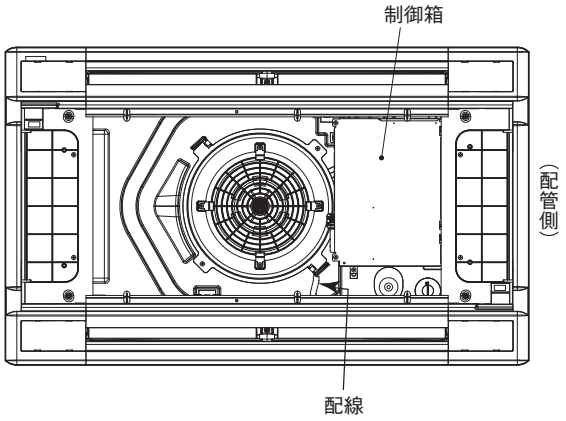
・フィルタをブラケットから取外してください。



⑤ パネルの取付方向

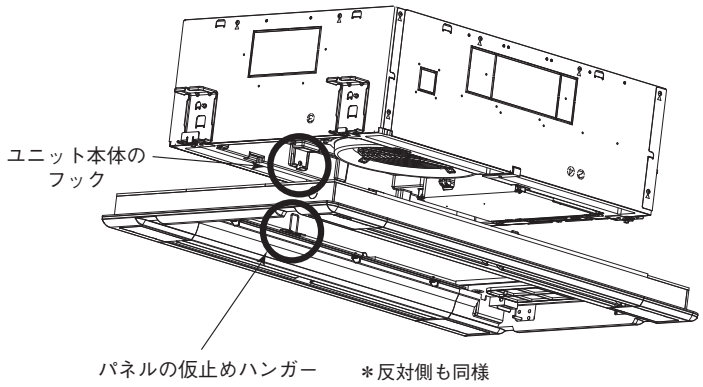
1．パネルの取付方向はユニット本体に対し方向性があります。
・パネルは、右図の様に電気配線が制御箱に近くなる方向で取付けてください。

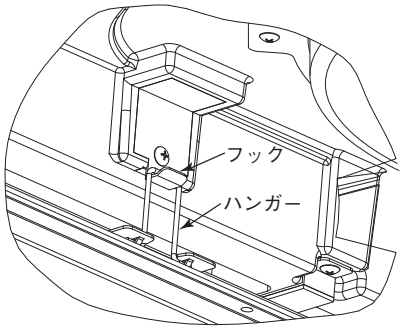
ご注意
・右図以外の方向で取付けると、エアフィルタと制御箱が干渉し風漏れの原因となります。
また電気配線の接続ができません。



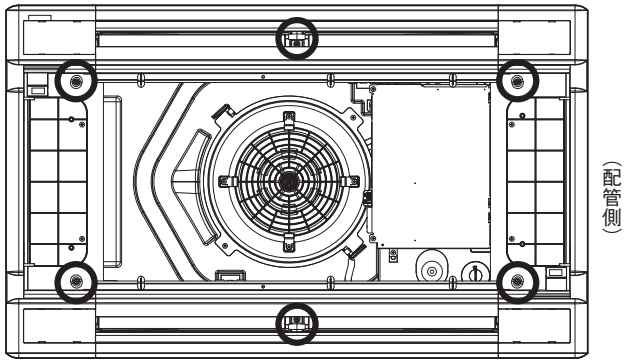
⑥ パネルの取付

1．パネルの仮止め
・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（２か所）
・パネルの仮止め用ハンガーをユニット本体のフックにかけて、パネルを本体に吊るします。





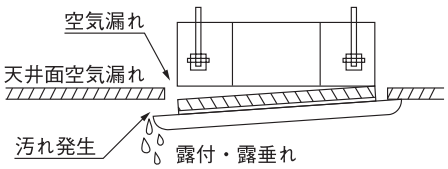
2．パネルのユニット本体への固定
・パネル付属のボルト６本を用いて、ユニット本体に締付けてください。



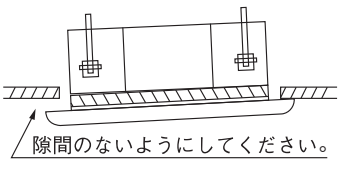
○：パネルのユニット本体への固定部

ご注意

・吊りボルトの締込みが不十分な場合、 下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は､室内ユニット本体の高さを再調整してください。



(4) 天井埋込形 1 方向吹出し（FDTS）

(a) 室内ユニットの据付

PJC012D313

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、
リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない | ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。
●この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	❗
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと。）
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

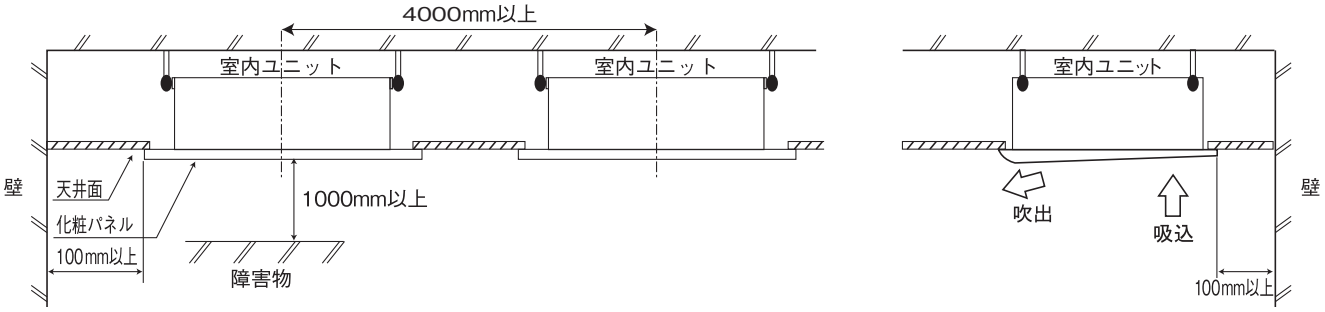
付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金（M10）	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ
							
8個	1個	1個	4個	1個	1個	1個	1個
室内ユニット吊り下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・人感センサを取付ける場合、据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
（本室内ユニットは JIS 露付条件（室内：27℃ /78% RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。）
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４ｍ以上離して設置してください。

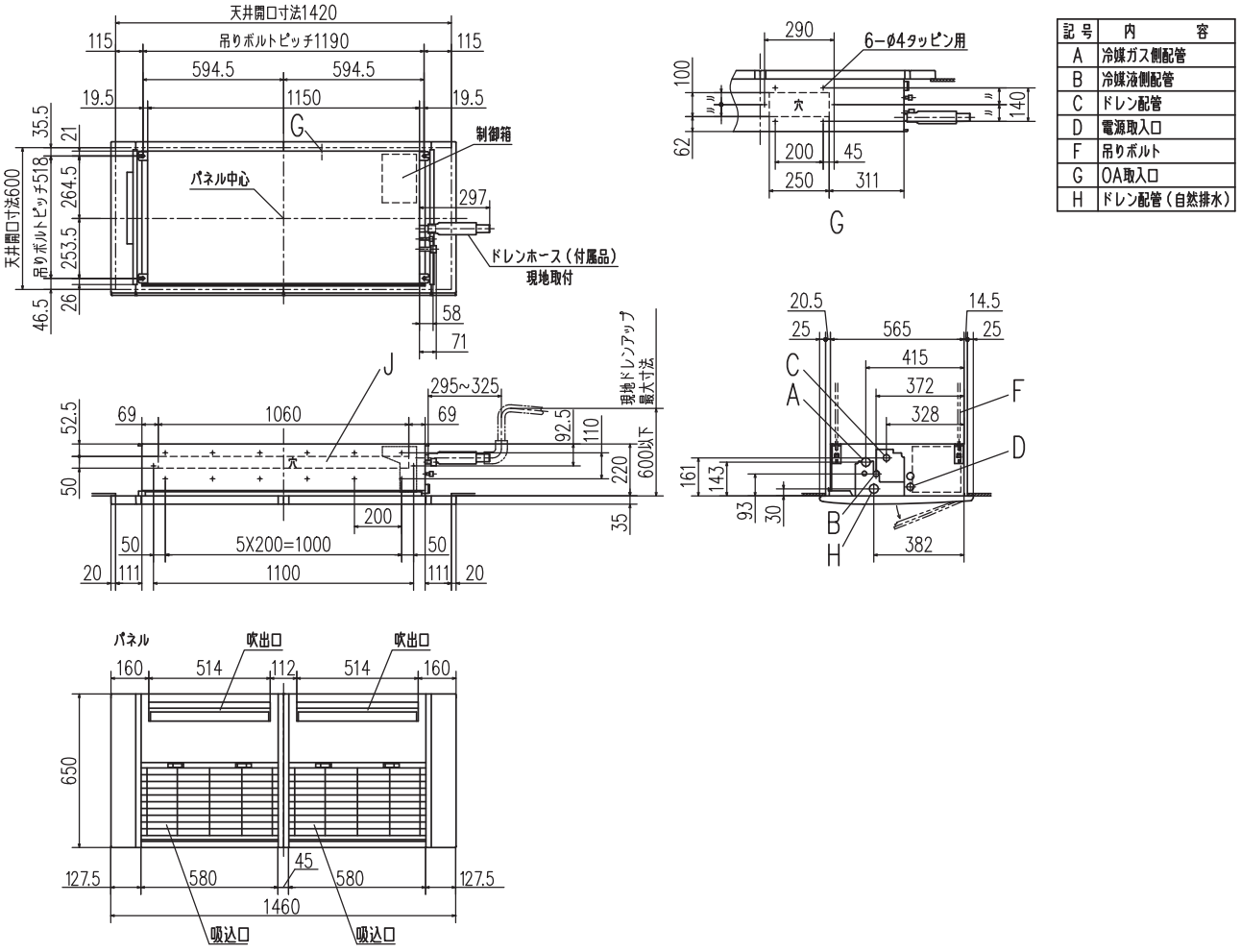
室内ユニット据付スペース



③据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



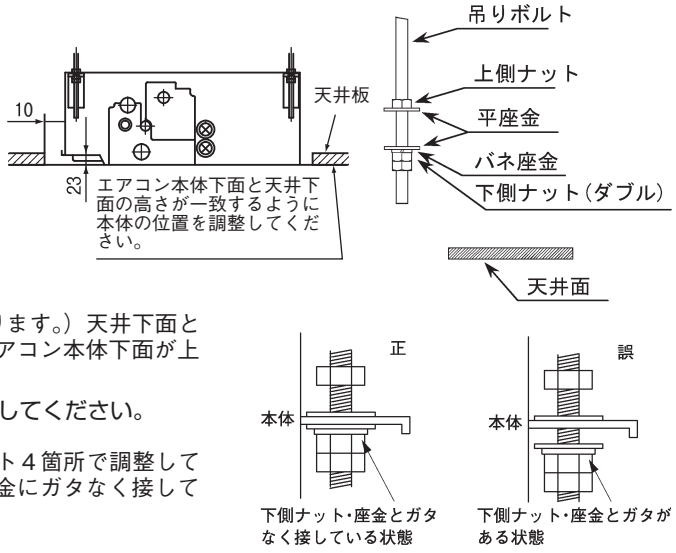
④室内ユニットの据付

作業手順

１．天井に１４２０× ６００の穴をあけてください。
２．吊りボルト位置（１１９０× ５１８）を決めてください。
３．吊りボルトは、４本使用してください。
４．吊りボルト長さは、天井面より１６５mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット４箇所は天井面から２１７mm程度に仮止めし、上側ナット４箇所は室内ユニット吊り込みおよび高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、室内ユニット本体を吊り込んでください。
５．室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。（吹出口部分は、天井裏に入ります。）天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、天井下面に対し、エアコン本体下面が上方に５mm以下です。

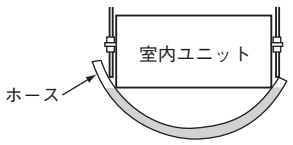
注意 エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。

高さ調整は、上側ナット４箇所を緩めた状態で、下側ナット４箇所で調整してください。室内ユニット吊り金具４箇所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。



④室内ユニット据付のつづき

6．室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。（室内ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
7．高さ調整・水平度調整後、上側ナット４箇所を締付けて室内ユニットを固定してください。



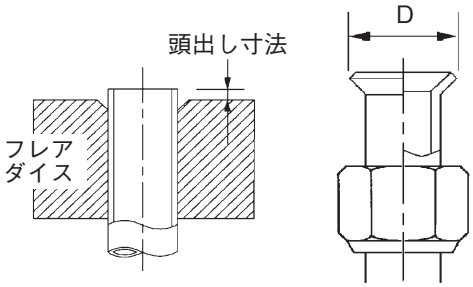
室内ユニット据付時のお願い

●上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生するおそれがあります。
●室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
●化粧パネルと天井面、および化粧パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
●化粧パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、室内ユニット内へほこりを入れない様注意してください。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

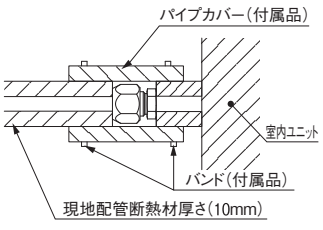
●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1 種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1）再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。



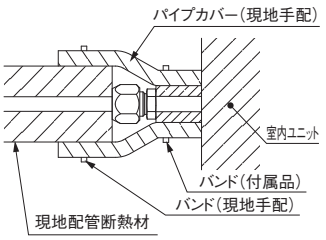
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32 用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

2）再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32またはR410A用のフレア加工をしてください。
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（Ｃ１２２０Ｔ、ＪＩＳ Ｈ ３３００）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>

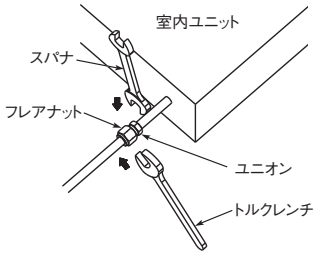


<断熱材を強化する場合>



作業手順

1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※ 室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）



2．液管・ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

⑥ドレン配管

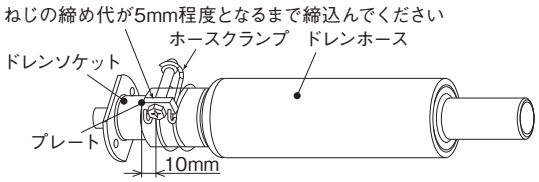
ドレン配管時の注意事項

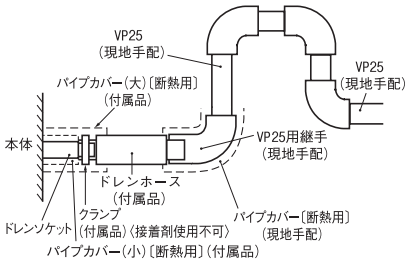
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管は、イオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は、下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 程度となるまで締込んでください。

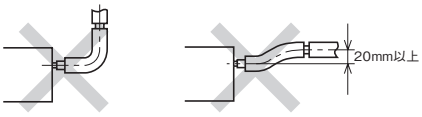
●接着剤使用不可



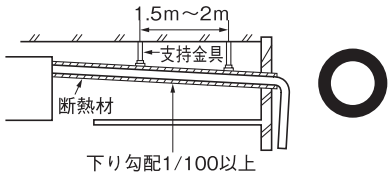


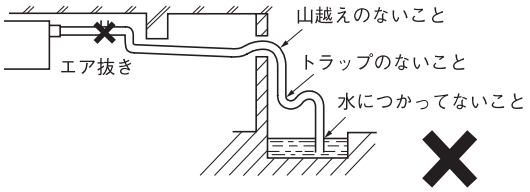
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。

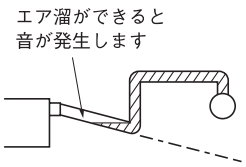
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



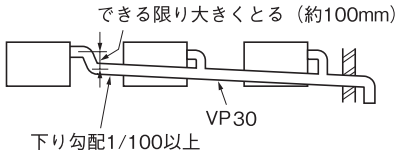
3．ドレン配管は下り勾配（１／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。





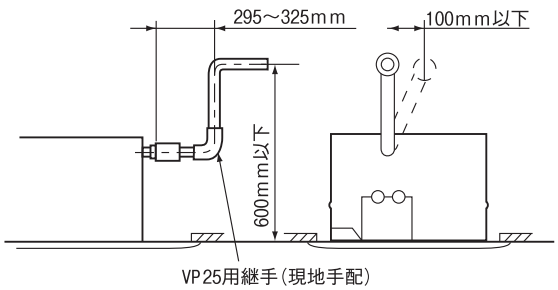


●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００ｍｍ下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。
4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。



ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より６００ｍｍまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボ等を用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。



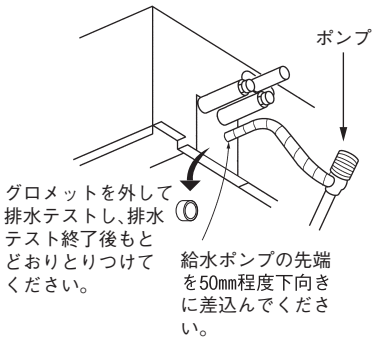
ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

⑥ドレン配管のつづき

作業手順

1．配管貫通部カバーのグロメットを外し、給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約１０００cc 注入してください。



2．ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
3．排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
4．排水テスト後は、必ずグロメットを元通りはめ込んでください。
5．排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。

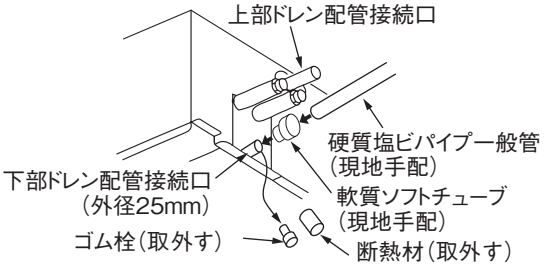
ドレンポンプ運転方法

○電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。
運転操作方法は､電気配線工事説明書の ドレンポンプ運転操作 をご覧ください。

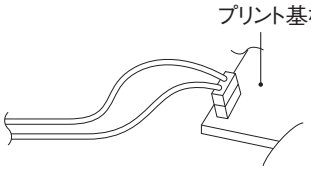
○電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板上のＳＷ７－１をＯＮにし、かつ、基板上のコネクタCnB を抜いた後、電源ＯＮ（端子台①、②へＡＣ２００Ｖ）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。
ドレン排水確認後は、必ずＳＷ７－１を元の状態（ＯＦＦ）に戻し、かつ､基板上のコネクタCnB を差し込んでください。

下部ドレン配管工事要領

ドレン配管に下り勾配（１／５０～１／１００）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。

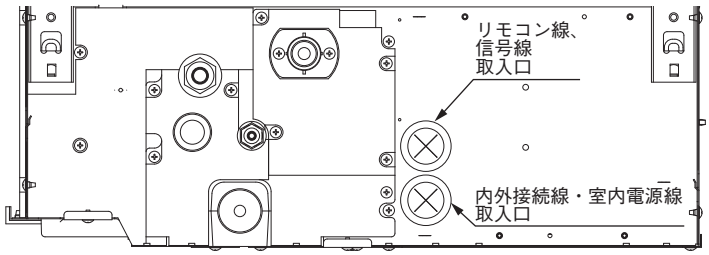


下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です。
〈ドレンモータ用のコネクタの取外し〉
下図に示すようにコントロールボックス内のドレンモータ用コネクタ CnR を取り外してください。
注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。



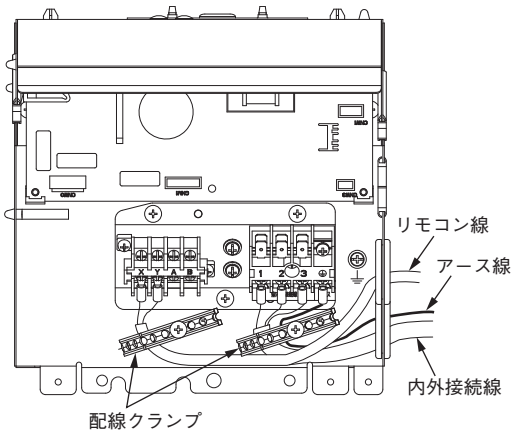
⑦電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

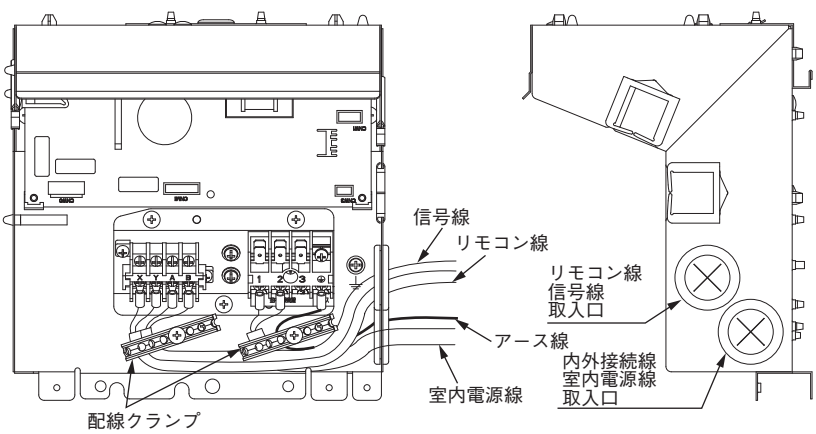


1．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
2．各配線を室内ユニットの内に入れてください。
3．配線を端子台に確実に接続してください。
4．各配線を配線クランプで固定してください。
5．電装箱の蓋を元通りねじ２本で取付けてください。

シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続



⑧パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニット本体に取付けてください。
●パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

⑨室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

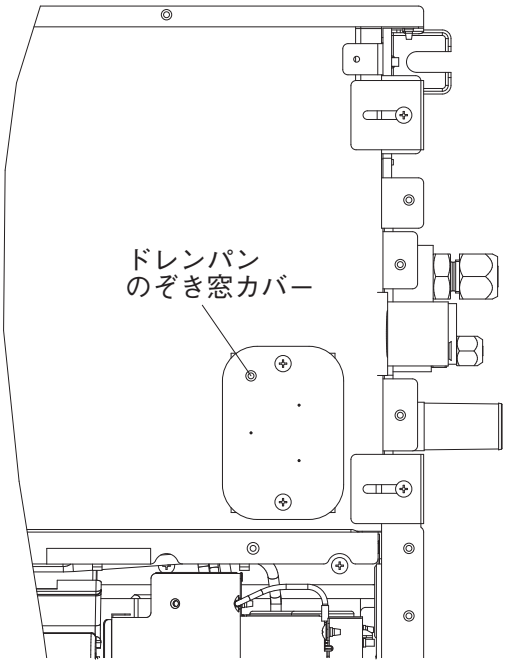
●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

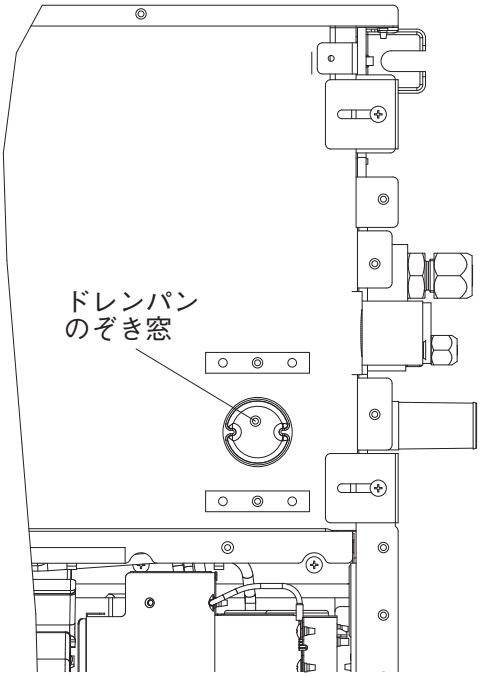
チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑩ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

●ドレンパンを取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパン汚れが確認できます。
1．パネルを取外してください。
2．ドレンパンののぞき窓カバーを取外してください。
3．のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。
　汚れが多い場合は、ドレンパンを取外しドレンパンを清掃してください。
4．汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合結露・水漏れの原因となります。





(b) パネルの据付

(i) 天井埋込仕様（直吹き）

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない　必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

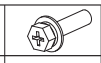
⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	🚫
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	🚫
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

① 据付のまえに

・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・右図の付属品を確認してください。

付属品

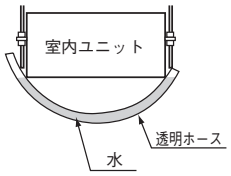
ボルト		右パネル４本，左パネル４本	パネル取付用
ねじ（M4　L=8mm）		右パネル２本，左パネル２本	チェーン取付用

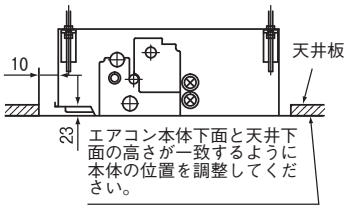
② 本体の取付レベルの確認

・室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
・室内ユニット本体と天井材との取付けレベルを確認してください。
　室内ユニット下面と天井下面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。
　(吹出し口部分は天井裏に入ります。)
・天井下面と室内ユニット下面との高さの差は5㎜以下としてください。

ご注意

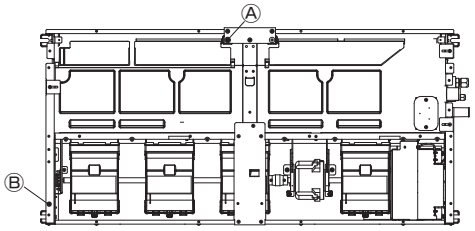
室内ユニット本体が天井下面より下方に
ならないように設置してください。



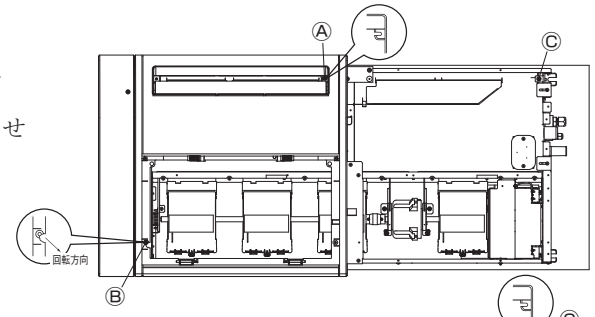


③ パネル取付

1．左パネル付属のボルト４本のうち、２本を室内ユニットの中央吹出し側とその対角に5㎜弱ねじこみます。（ⒶⒷ●印）

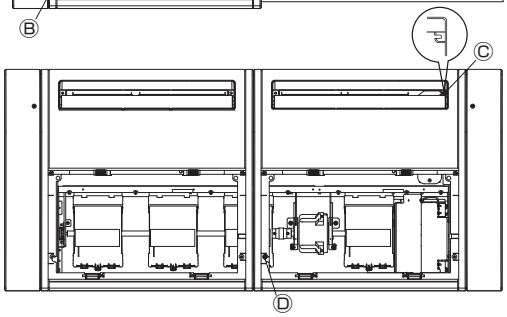


2．吸込グリルを開け左パネルを２本のボルトにひっかけ、仮止めしてください。
　仮止めは、先にⒶ●印のボルトにパネルをひっかけ、回転させながらⒷ●印をひっかけます。



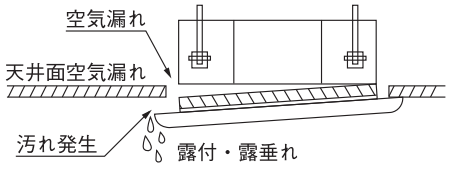
3．右パネル付属のボルト４本のうち、１本を室内ユニットの配管側に５㎜弱ねじこみます。（Ⓒ●印）
4．Ⓒ●印のボルトにパネルをひっかけ、その対角（Ⓓ●印）を仮締めします。

5．右パネルと左パネルの隙間を調整しながら、
　仮締めしたボルト及び残りのボルト２本を締付けてください。

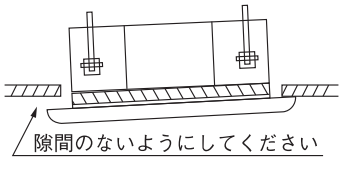


ご注意

・吊りボルトの締込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。



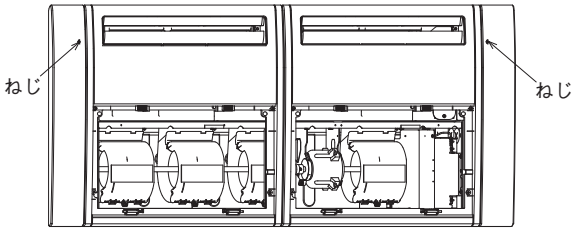
・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。



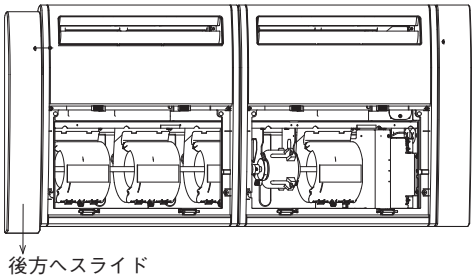
④ ユニット高さ調整方法

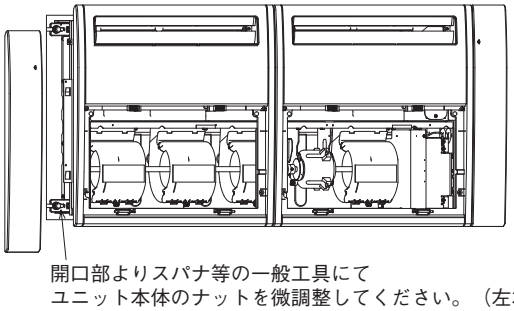
室内ユニット本体の水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま室内ユニット本体の据付高さを微調整できます。

1．サイドパネルのねじを取外してください。



2．サイドパネルを後方にスライドさせ、取外してください。（左右共同様）





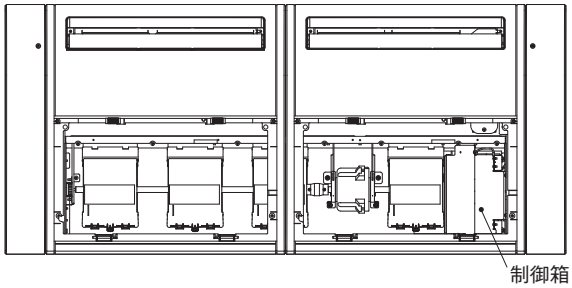
3．据付高さ調整後は、サイドパネルを元通りに戻してください。

ご注意

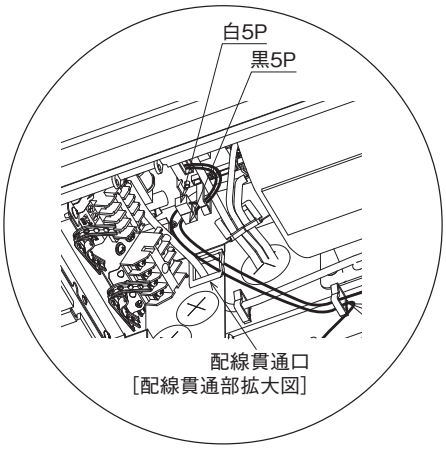
ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付の際、
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

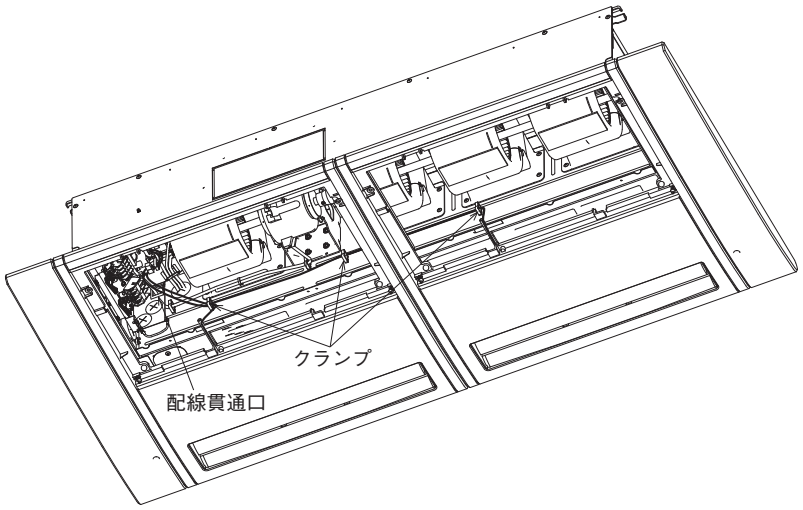
⑤ 電気配線

1．ねじ（２本）を外して、ユニット本体の制御箱の蓋を取外してください。



2．ルーバモータ配線を室内ユニットのクランプに通してください。



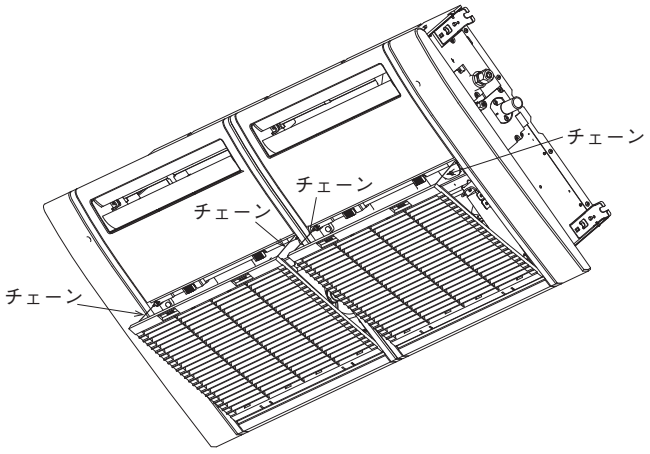


3．左パネルのルーバモータのコネクタ（黒５P）と右パネルのルーバモータコネクタ（白５P）を、
それぞれ接続してください。
室内ユニット側のコネクタは、制御箱の中にあります。
コネクタは、色を合わせて接続してください。

4．コネクタ接続後、制御箱の配線の貫通口に、パネル側の配線を通してください。
コネクタは、制御箱内に入れてください。

5．制御箱の蓋を閉めて、 ねじ（２本）を締付けてください。

6．吸込グリルについているチェーンを、 パネル側にねじ（２本）で取付けてください。
チェーンを取付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に入っています。



7．吸込グリルを閉めて完了です。

(ii) 下がり天井仕様

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

① 据付のまえに

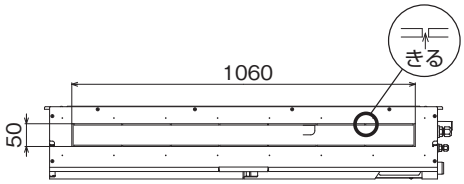
・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・右図の付属品を確認してください。

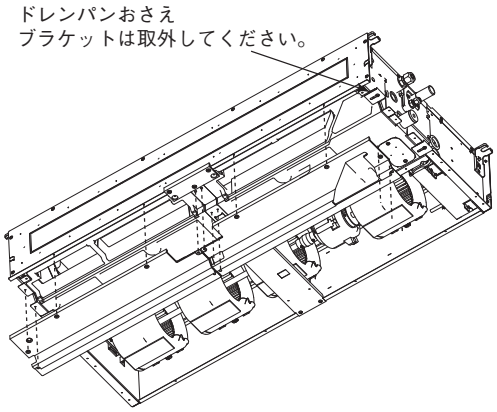
付属品

ボルト		右パネル４本，左パネル４本	パネル取付用
ねじ(M4　L=8mm)		右パネル２本，左パネル２本	チェーン取付用
ボトムプレート(左)		１個	
ボトムプレート(右)		１個	
ねじ(M4　L=8mm)		６本	ボトムプレート取付用

② 室内ユニットの据付準備

1．室内ユニットの前面外側のインシュレーションのスリットに合わせて、ナイフなどで切り込みを入れます。
2．ハーフブランキング部をニッパー等で切断し、切取ります。
3．ドレンパンを取外してください。
4．室内ユニット内側のインシュレーションを切取り、穴を開けます。
5．室内ユニット内にごみが残っていないか確認し、ドレンパンをもとにもどしてください。
6．ボトムプレート（右)(左）を付属のねじで取付けます。
その際、吹出口横にあるドレンパン抑えブラケットは取外してください。





③ 吹出しダクト・吹出しグリルの取付

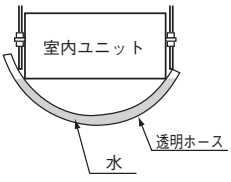
1．吹出しダクト・吹出しグリル（オプション）に付属の据付説明書に従って、取付を行ってください。

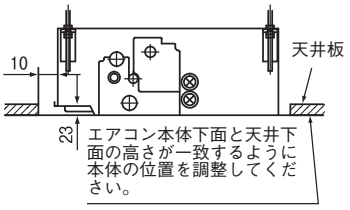
④ 本体の取付レベルの確認

・室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
・室内ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してください。
室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。
(吹出し口部分は天井裏に入ります。)
・天井下面と室内ユニット下面との高さの差は、5㎜以下としてください。

ご注意

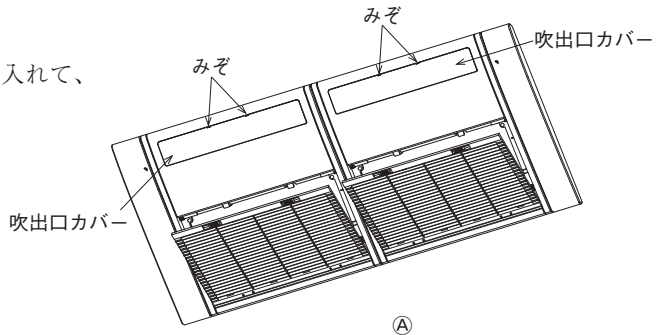
室内ユニット本体が天井下面より下方にならないように設置してください。



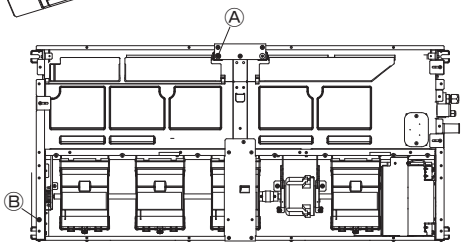


⑤ パネル取付

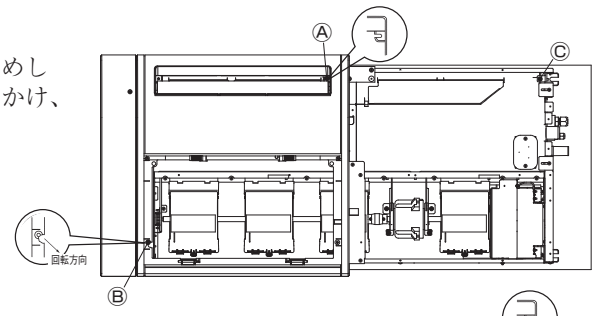
1．パネル吹出口のカバーの溝に、マイナスドライバー等を入れて、
カバーをパネルから取外してください。



2．左パネル付属のボルト４本のうち、２本を室内ユニットの中央吹出
し側とその対角に5㎜弱ねじこみます。（ⒶⒷ●印）



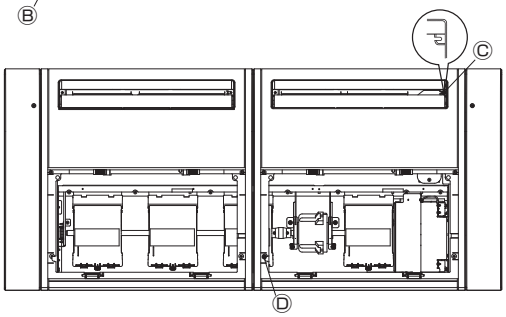
3．吸込グリルを開け左パネルを２本のボルトにひっかけ、仮止めし
てください。仮止めは、先にⒶ●印のボルトにパネルをひっかけ、
回転させながらⒷ●印をひっかけます。



4．右パネル付属のボルト４本のうち、１本を室内ユニットの配管側に
５㎜弱ねじこみます。（Ⓒ●印）

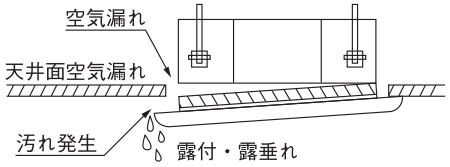
5．Ⓒ●印のボルトにパネルをひっかけ、その対角（Ⓓ●印）を
仮締めします。

6．右パネルと左パネルの隙間を調整しながら、
仮締めしたボルトおよび残りのボルト２本を締付けてください。

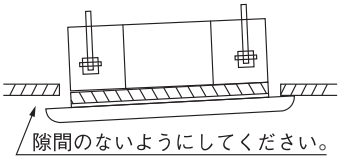


ご注意

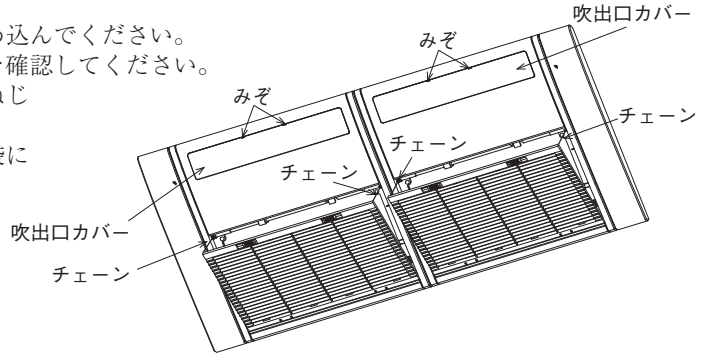
・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図の
ような不具合発生の原因となりますので確実に
締込んでください。



・吊りボルトを締め込んでも天井面とパネル
との間に隙間ができる場合は、室内ユニット本
体の高さを再調整してください。



7．吸込グリルを閉めてください。
8．吹出口カバーをパネル下側から押込み、元通りはめ込んでください。
吹出口カバーは確実にはめこみ、落下しないことを確認してください。
9．吸込グリルについているチェーンを、パネル側にねじ
（２本）で取付けてください。
チェーンを取付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に
入っています。

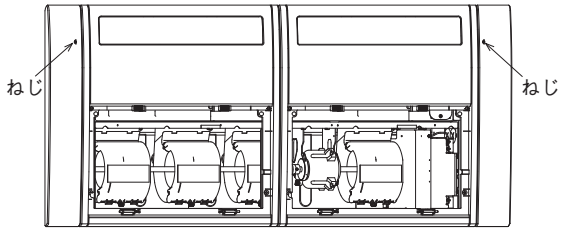


10. 吸込グリルを閉めて完了です。

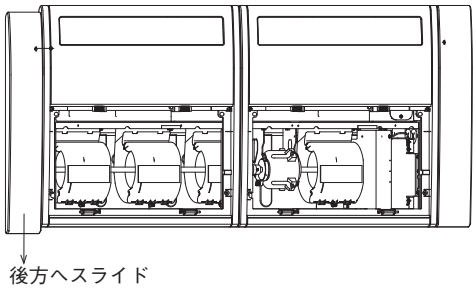
⑥ ユニット高さ調整方法

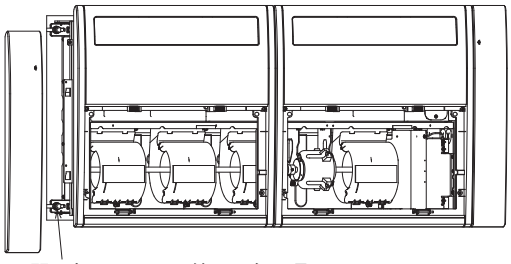
室内ユニット本体の水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であれば
パネルを取付けたまま室内ユニット本体の据付高さを微調整できます。

1．サイドパネルのねじを取外してください。



2．サイドパネルを後方にスライドさせ、取外してください。（左右共同様）





3．据付高さ調整後は、サイドパネルを元通りに戻してください。

ご注意

ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付の際、
パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

(5) 天埋カセテリア（FDR）

(a) 室内ユニットの据付

PJG012D025

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
○本機はダクト機です。直吹きでは使用しないでください。
○専用のパネル（エアフィルタ組込）またはフィルタキット（天井リターン設置）を組み合わせて使用してください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない ／ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。
●この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。 また海外においてはアフターサービスもできません。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると破裂･ケガの原因となり、また水漏れや感電･火災などの原因になります。
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界濃度を超えない対策については､販売店と相談して据付ける｡万一､冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」､「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A 専用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し､冷凍サイクル内が異常高圧になり､破裂､ケガなどの原因になります。
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと感電火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●GHP〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

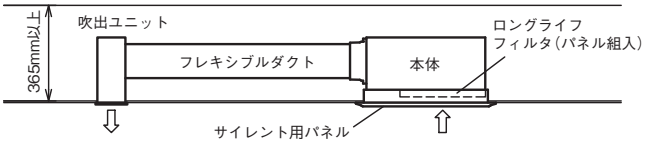
●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

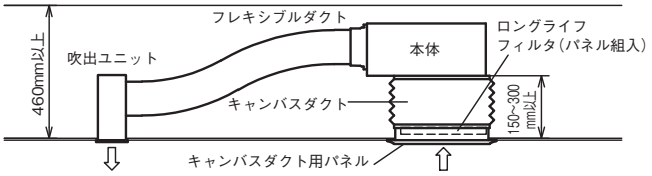
●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

設置方法

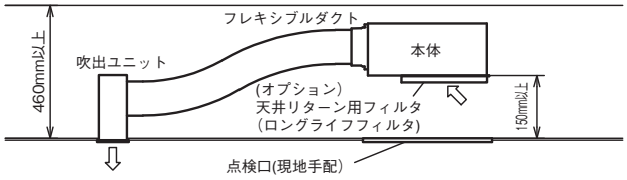
サイレント仕様



キャンバス仕様



天井リターン方式



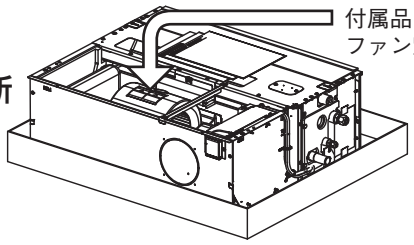
本体の大きさ・設置方法とオプションを確認してください。
吹出ダクト他のオプションを含めカタログにて確認してください。

シリーズ展開　組合せオプション		小型							中型				大型		
		P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160
シリーズ展開	店舗				●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
	ビル空調	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	
	GHP	●	●	●		●		●		●		●	●	●	
吹出口数	丸ダクト	1口	2口						3口				4口		
キャンバスダクト	パネル	R-PNC-2AW							R-PNC-3AW				R-PNC-4AW		
	キャンバス	HAO1503							HAO1490				HAO1484		
サイレント	パネル	R-PNS-2AW							R-PNS-3AW				R-PNS-4AW		
天井リターン	フィルタ	R-FL-2A							R-FL-3A				R-FL-4A		
	点検口	現地手配													

①据付の前に

●据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様
　○配管・配線・小物部品
　○付属品

付属品収納場所
(梱包時)



付属品は室内ユニット内のファン室に入っています。

付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金（M10）	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホース クランプ
							
8個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
室内ユニット吊り下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

②室内ユニットの据付場所の選定

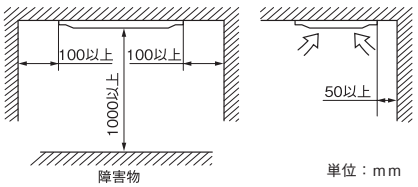
①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・人感センサを取付ける場合、据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。　・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

本室内ユニットはJIS露付条件（室内:27℃/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。

・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。　・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４ｍ以上離して設置してください。

室内ユニット据付スペース

●据付高さは2．5m以上としてください。



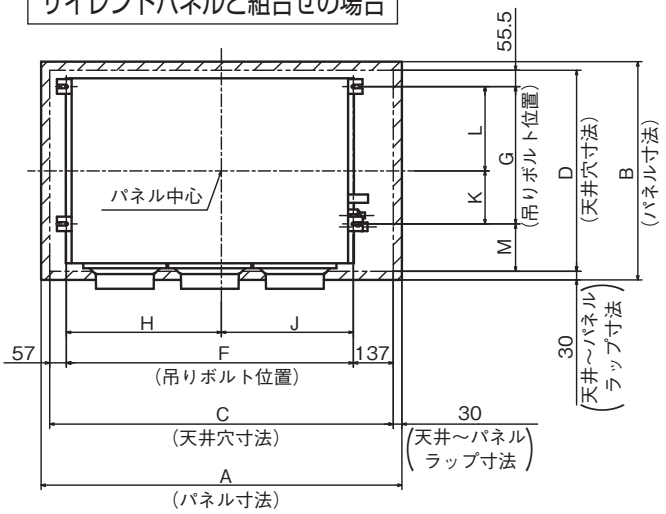
単位：mm

③据付前の準備

本内容を参照に最新設置基準に合わせ設置してください。

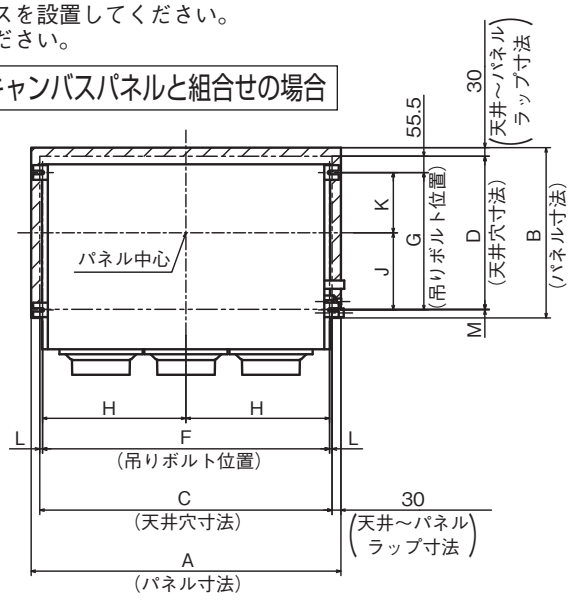
●吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

サイレントパネルと組合せの場合



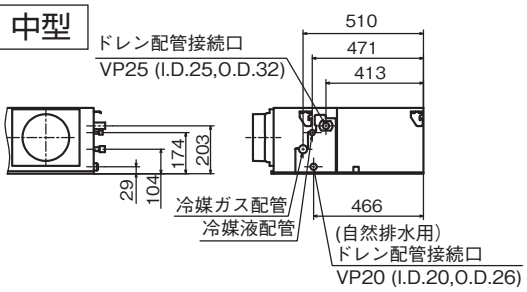
	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
小型	1040	750	980	690	786	472	433	353	182.5	289.5	162.5
中型	1240	750	1180	690	986	472	533	453	182.5	289.5	162.5
大型	1658	850	1598	790	1404	530	742	662	190.5	339.5	204.5

キャンバスパネルと組合せの場合

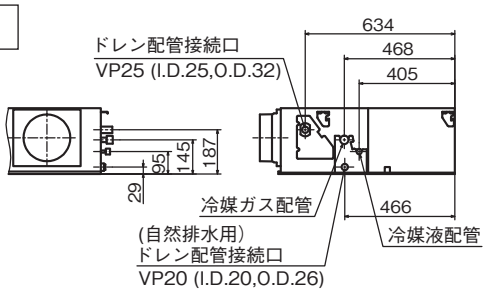


	A	B	C	D	F	G	H	J	K	L	M
小型	864	585	804	525	786	472	393	265	207	9	2.5
中型	1064	585	1004	525	986	472	493	265	207	9	2.5
大型	1484	585	1424	525	1404	530	702	323	207	10	60.5

小型、中型



大型



④室内ユニットの据付

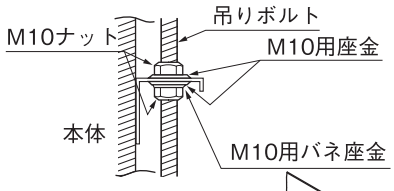
作業手順

1. 据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2. 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3. 吊りボルトは４本使用してください。
4. ご使用のパネルに合うように、室内ユニット吊り込み高さを調節して下さい。
5. 室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
（室内ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
6. 高さ調整・水平度調整後、上側ナット４箇所を締付けて室内ユニットを固定してください。

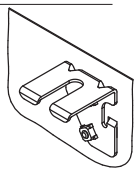
据　付

〈吊り込み〉

○室内ユニットを吊り込んでください。



○本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

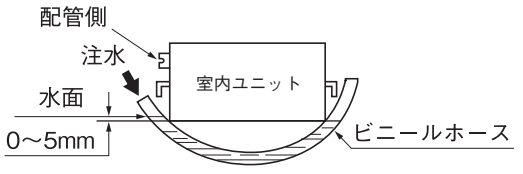


水平度の調整

お願い

○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。

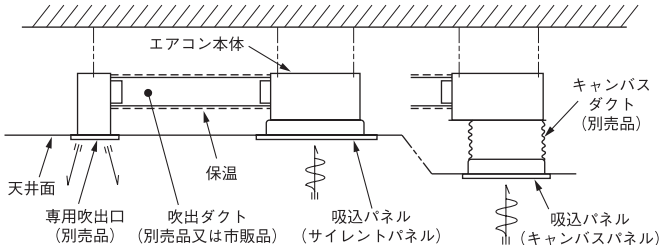
●本体下面と水面高さが下図になるように調整してください。



配管側をさがりぎみにしてください。

○水平度がでていないと**フロートスイッチの誤作動あるいは不作動**の原因となります。

⑤ダクト工事



お願い

○風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。算出方法は、技術資料を参考にしてください。

①吹出ダクト

●ø200円ダクトを接続してください。
●各スポット間のダクト長さは、2対1以内としてください。
●ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。
●4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれを塞いでください。
●2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。

お願い

●曲りは極力少なくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)

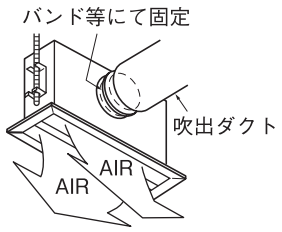


●本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。

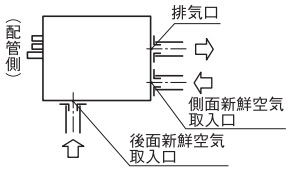
●露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクト使用を推奨いたします。(別売品１ｍ、２ｍ、４ｍがあります。)
●天井貼付前にダクト工事を実施してください。

②専用吹出口

●専用吹出口は、室内全般に空気が流れるような所に据付けてください。
●ダクト接続は、φ２００円形ダクト専用です。
●専用吹出口の取付およびダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
●ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。



③給・排気ダクトの接続



ⓐ新鮮空気取入

●後面または、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
●同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。(側面は使用不可)

ⓑ排気（必ず給気を併用してください。）

●側面排気口を使用してください。

ⓒダクト接続

●別売品の給排気用ダクトフランジ（φ１２５丸形ダクト接続用）を利用し、φ１２５丸形ダクトを接続してください(バンド締め)。
●ダクトは結露防止のため、保温してください。

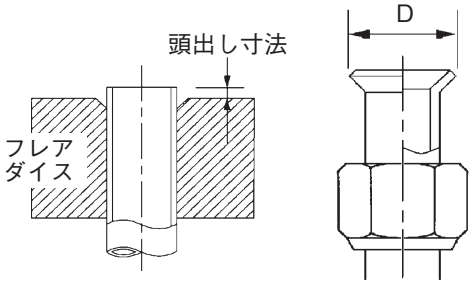
⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。

既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。

1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの (JIS B 8607 2種適合品) を使用してください。



配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

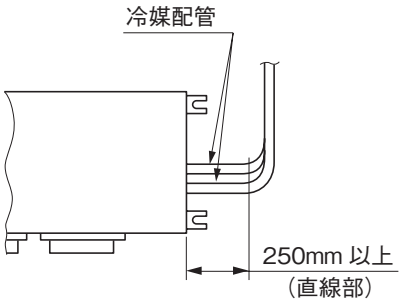
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410用のフレア加工をしてください。

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（Ｃ１２２０Ｔ、ＪＩＳ Ｈ３３００）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。

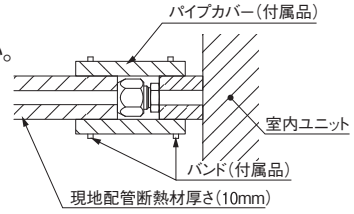


お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を２５０mm以上とって行ってください。
(ドレンポンプのサービスに必要です。)

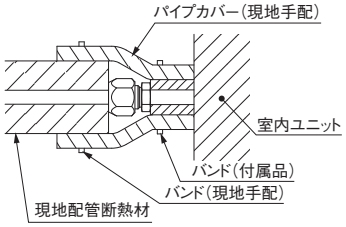
⑥冷媒配管のつづき

作業手順

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>

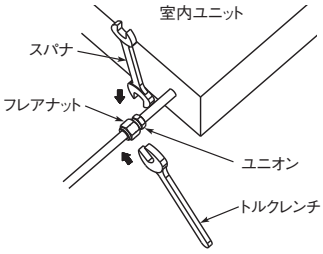


<断熱材を強化する場合>



1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。



3．室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

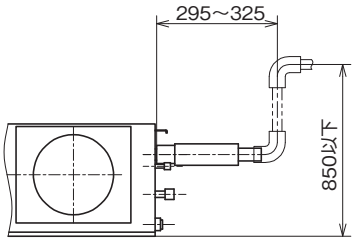
⑦ドレン配管

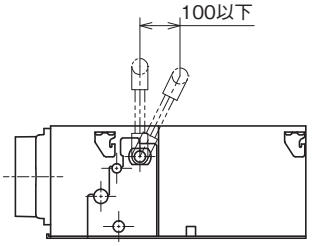
ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンアップする場合

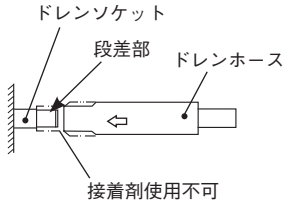
●ドレン配管の出口高さは、天井面より 850mm まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

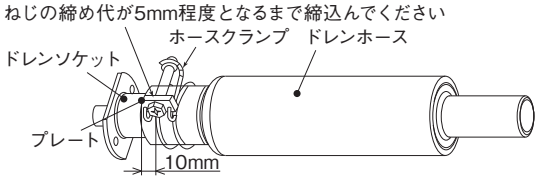


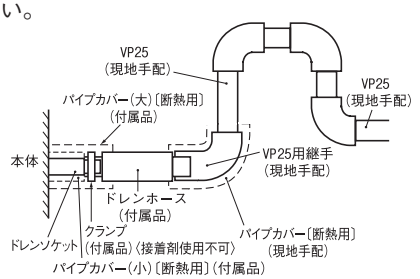


作業手順

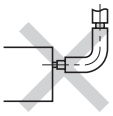
1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 程度となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可

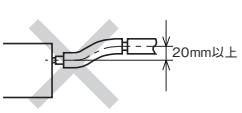






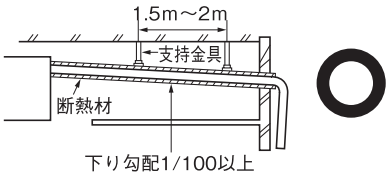
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。

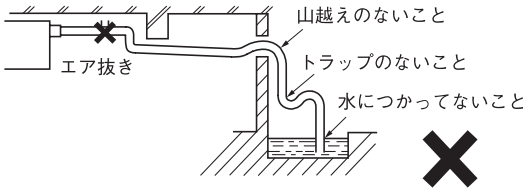


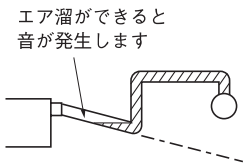


⑦ドレン配管のつづき

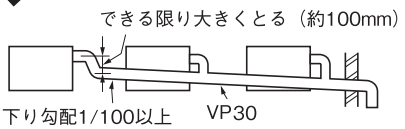
3．ドレン配管は下り勾配（1／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
- ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。







- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。

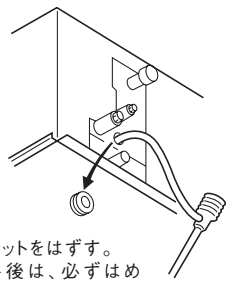


4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
  ※ ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレン排水テスト

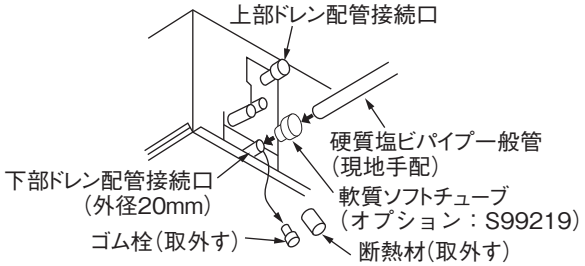
- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部および室内ユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1．右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃほどの水を注入してください。注水ホースを 50 ｍｍ位差し込んで注水してください。（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）
2．ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3．排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



下部ドレン配管工事要領〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配（1／５０～1／１００）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



下部ドレン配管を使用する場合は必ず必要です
〈ドレンモータ用のコネクタの取外し〉
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタCnRを取外してください。

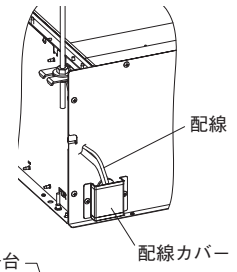
注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

⑧電気配線取出位置および電気配線接続

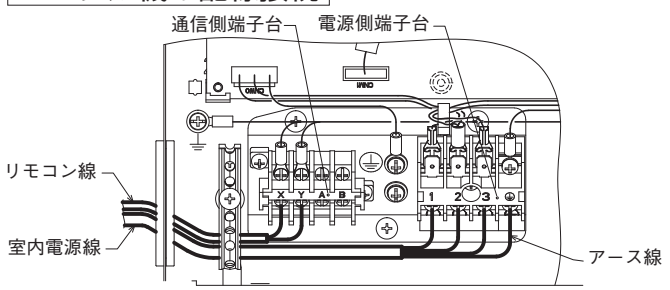
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
2．各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
3．各配線をクランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。

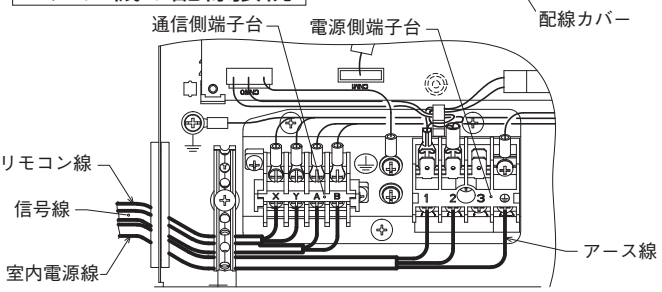
- 天井裏空気の吸込防止で配線カバーを取付けください。



シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続



＊配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

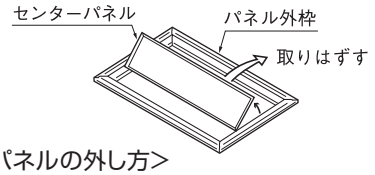
⑨パネルの取付

サイレントパネルの場合

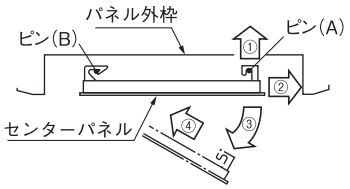
〈付属品〉

丸小ねじ（M5×35）		4個	パネル取付用

①パネル内枠を外してください。

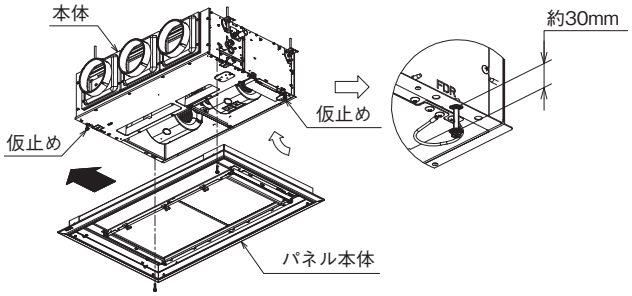


<センターパネルの外し方>



ⓐ矢印①→②順でピン（A）より外してください。
ⓑ矢印③のようにすこし開き矢印④の方向へ移動させてピン（B）より外してください。

②フィルタをパネルから外してください。
③パネル外枠を本体に取付けてください。



ⓐパネル取付ねじ（パネル付属品）４本のうち２本を図のように仮止めしてください。
ⓑパネル外枠を仮止めしたねじに引っかけ、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。
（注：<u>パネル外枠の装着には方向性があります。</u>）
ⓒ仮止めしたねじおよび残りのねじ（２本）を締付けてください。
ⓓセンターパネルを①項で外す逆の要領で取付けてください。

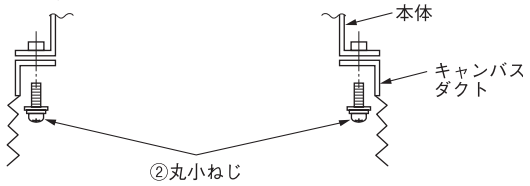
キャンバスパネルの場合

注）キャンバスパネルの取付には
キャンバスダクト（別売品）が必要です。

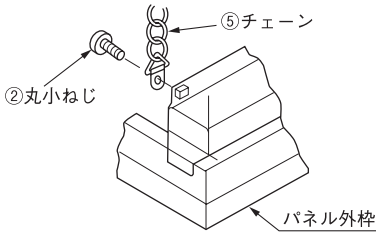
〈付属品〉

①	丸小ねじ（M4×16）		4個	パネル固定
②	丸小ねじ（M5×16）		8個	キャンバスダクト固定 チェーン固定
③	丸小ねじ（M5×25）		4個	チェーン固定
④	ホルダー		4個	
⑤	チェーン		4個	

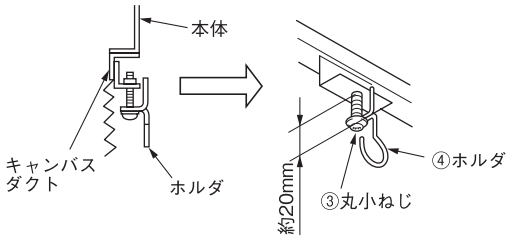
①キャンバスダクト（別売品）を本体に取付けてください。（４か所）



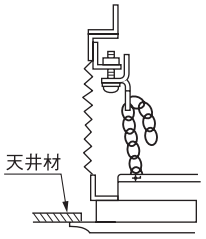
②センターパネルを上項に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。
③パネル外枠にチェーンを取付けてください。（４か所）



④パネル外枠を取付けてください。
ⓐホルダを下図に示すように仮止めしてください。

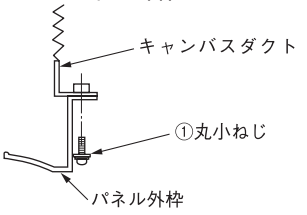


ⓑパネル外枠のチェーンをホルダに引っかけてください。



注）チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

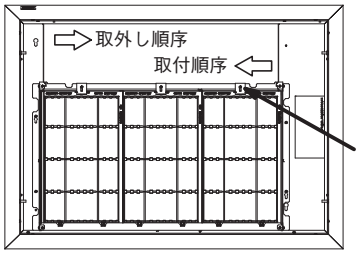
ⓒパネル外枠を天井材と密着するまでⓐ項の③丸小ねじにより吊り上げてください。
ⓓキャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。

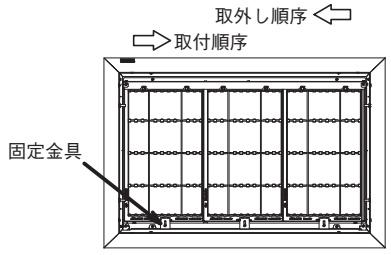


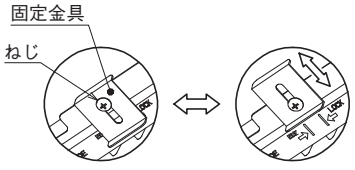
⑤センターパネルを上項に示すサイレントパネルの場合と同じ要領で取付けてください。

フィルタの取付け方法

○ パネルに貼付のラベルを参照に取外し、取付の順番を確認してください。
○ フィルタを取外し・取付は、ねじを緩め固定金具をスライドして行ってください。





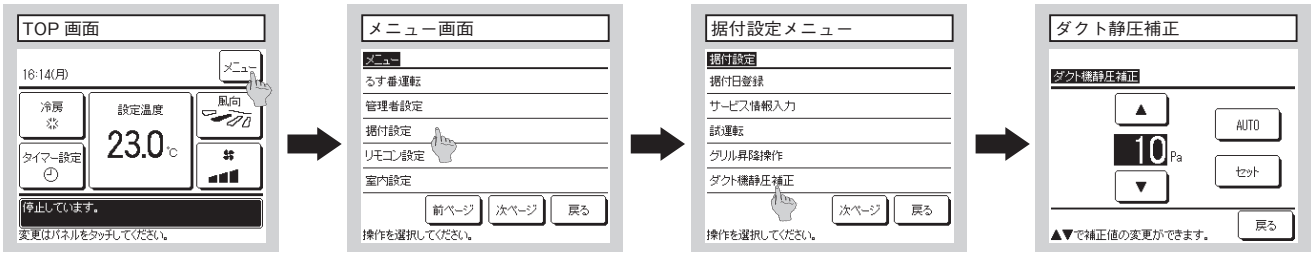


⑨機外静圧設定

ecoタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ecoタッチリモコンからの設定方法

①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、100Pa で設定されます。）
詳細な設定方法については、ecoタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。
風量特性については、技術資料を参照ください。



［メニュー］ボタンをタッチしてください。

［据付設定］ボタンをタッチしてください。

選択した画面に移ります。

機外静圧を選択し、［セット］をタッチしてください。

注意
・RC-DX2 以降の ecoタッチリモコン以外からは設定できません。

静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

リモコン設定時の有効機外静圧（Pa）　　／部の設定は使用範囲外になります。

リモコン設定		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
標準パネル		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
天井リターン	小型	15	25	35	45	55	65	75	85	95	/
	中型・大型	20	30	40	50	60	70	80	90	100	/
1スポット塞ぎ※	中型	/	/	10	20	30	40	50	60	70	80
	大型	/	10	20	30	40	50	60	70	80	90

※中型（3スポット）を2スポット、大型（4スポット）を3スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板（HA06916）を用意しています。両端のスポットはふさがないでください。また小型（2スポット、1スポット）に塞ぎ板を使用しないでください。

⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	

(b) パネルの据付

(i) サイレントパネル

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電･火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠

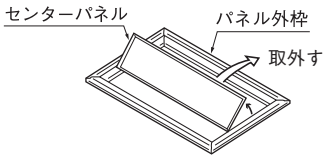
① 据付のまえに

・据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
・下記の付属品を確認してください。

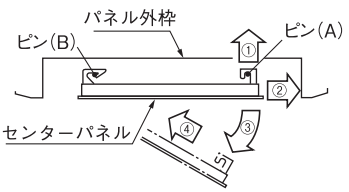
名称		個数	備考
丸小ねじ M5×35		4個	パネル固定用

② センターパネルの取外し

パネル外枠からセンターパネルを外してください。

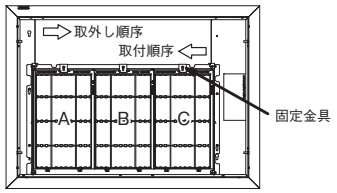


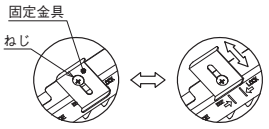
〈センターパネルの外し方〉
1.矢印①→②の順でピン（A）より外してください。
2.矢印③のように少し開き矢印④の方向へ移動させてピン（B）より外してください。



③ フィルタの取外し

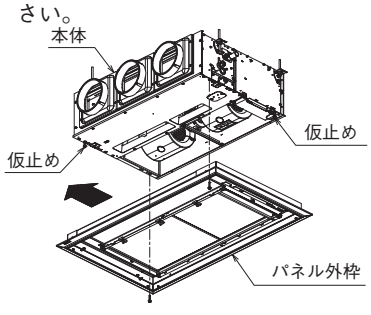
1.固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
2.図の取外し順序に従って取外してください。
（A⇒B⇒Cの順）

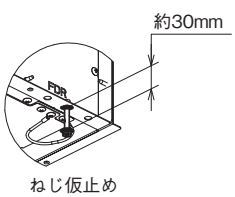




④ パネルの取付

1.パネル取付ねじ（パネル付属品）4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
2.パネル外枠を仮止めしたねじに引っかけ、図の矢印（⬅）の方向へスライドさせ仮止めしてください。
注）パネル外枠の装着には方向性があります。図の方向で取付けてください。
3.仮止めしたねじおよび残りのねじ（2本）を締付けてください。





⑤ フィルタの取付

1.③項に示す取付順序に従って取付けてください。
（C⇒B⇒Aの順）
2.固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

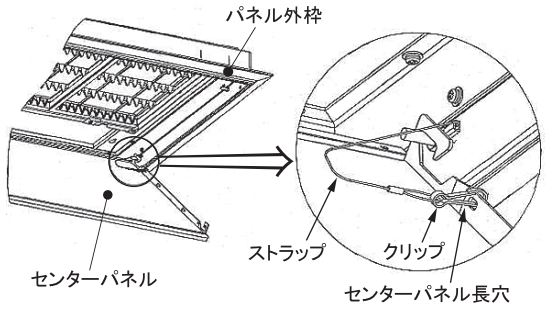
⑥ センターパネルの取付

②項に示す逆の順序で取付けてください。

⑦ ストラップのはめ込み

センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注）クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



(ii) **キャンバスパネル**

ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があるとケガの原因となり、また水漏れや感電･火災などの原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠

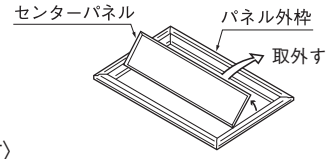
① 据付のまえに

・据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
・下記の付属品を確認してください。

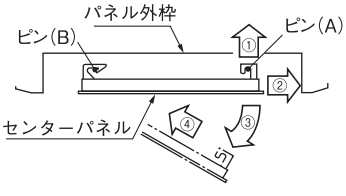
No.	名称		個数	備考
Ⅰ	丸小ねじ (M4×16)		4個	パネル固定用
Ⅱ	丸小ねじ (M5×16)		8個	キャンバスダクト固定用 チェーン固定用
Ⅲ	丸小ねじ (M4×25)		4個	ホルダー固定用
Ⅳ	ホルダー		4個	
Ⅴ	チェーン		4個	
Ⅵ	断熱材		2個	

② センターパネルの取外し

パネル外枠からセンターパネルを外してください。

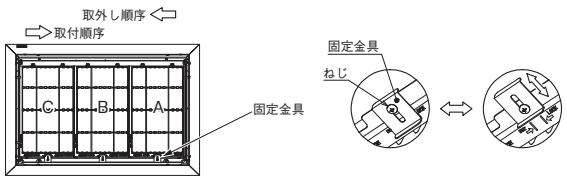


〈センターパネルの外し方〉
1.矢印①→②の順でピン（A）より外してください。
2.矢印③のように少し開き矢印④の方向へ移動させてピン（B）より外してください。



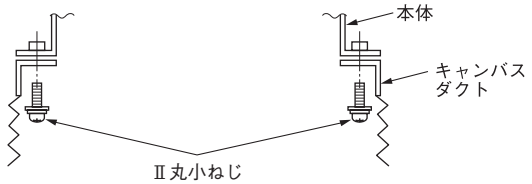
③ フィルタの取外し

1.固定金具のねじを緩めスライドさせてください。
2.図の取外し順序に従って取外してください。
（A⇒B⇒Cの順）

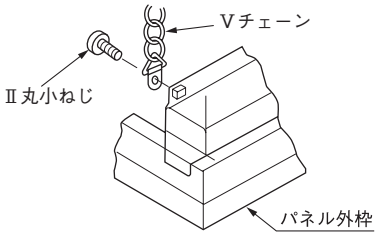


④ パネルの取付

1.キャンバスダクト（オプション品）を本体に取付けてください。（4か所）



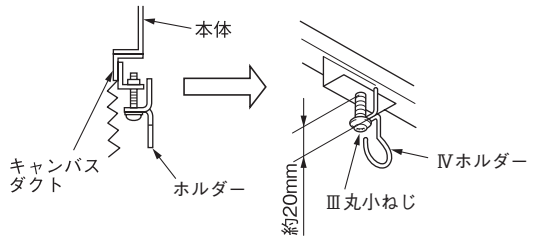
2.パネル外枠にチェーンを取付けてください。（4か所）



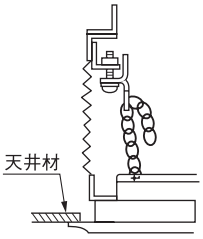
④ パネルの取付の続き

3.パネル外枠を取付けてください。

ⅰ.ホルダーを下図に示すように仮止めしてください。（4か所）



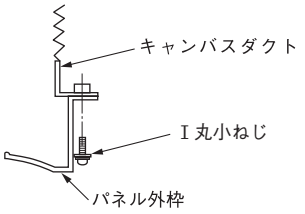
ⅱ.パネル外枠のチェーンをホルダーに引掛けてください。



注）チェーンを引掛ける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

ⅲ.パネル外枠を天井材と密着するまでⅰ項のⅢ丸小ねじにより吊り上げてください。

ⅳ.キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。（4か所）



⑤ フィルタの取付

1.③項に示す取付順序に従って取付けてください。（C⇒B⇒Aの順）

2.固定金具をスライドさせて、ねじを締めてください。

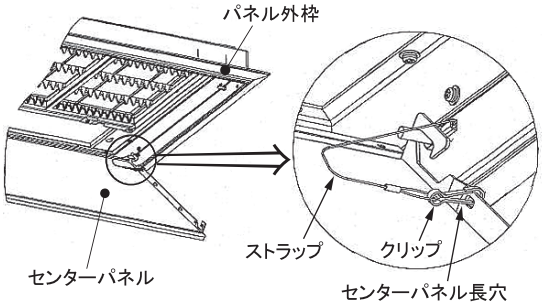
⑥ センターパネルの取付

②項に示す逆の順序で取付けてください。

⑦ ストラップのはめ込み

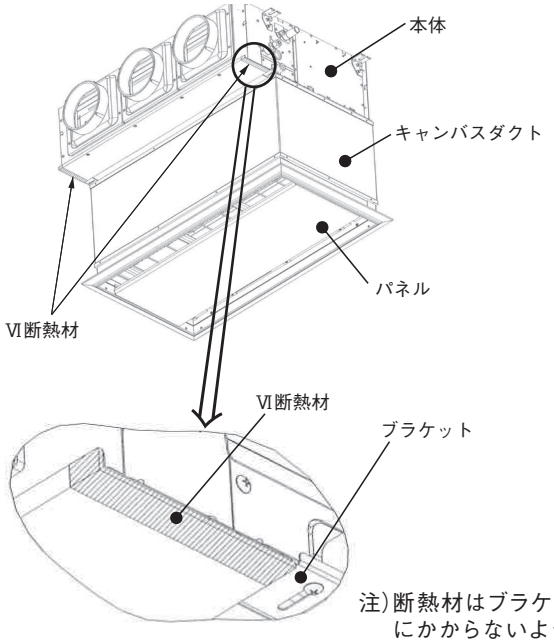
センターパネルの落下防止のため、パネル外枠に取付けられているストラップのクリップをセンターパネル長穴にはめてください。

注）クリップが外枠に当たり、傷つく恐れがあるため、センターパネルを閉じる際、ストラップやクリップは図のようにパネル内側を向くようにしてください。



⑧ 断熱材の貼付

本体の下記箇所に断熱材を貼付けてください。（2か所）



注）断熱材はブラケットにかからないように貼付けてください。

(6) 高静圧ダクト形（FDU），給気処理ユニット（FDU-F）

PJG012D024

(a) FDUP225 ～ 1605LXA,FDUP905FLXA,1405FLXA

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
●この室内ユニットは､日本国内用に設計されているため海外では使用できません。 また海外においてはアフターサービスもできません。
給気処理ユニットの場合
●他のエアコンユニットとの全接続容量は、50 ～ 100%（全給気処理ユニットの容量）にしてください。
●単独で給気処理ユニットを接続することができます。給気処理ユニットの接続容量は 50 ～ 100%にしてください。
室外機に接続できる給気処理ユニットは最大２台です。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に ⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については､販売店と相談して据付ける｡万一､冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が､「電気設備に関する技術基準」､「内線規程」および 据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用のものを使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し､冷凍サイクル内が異常高圧になり､破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	❗
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載の場合は次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

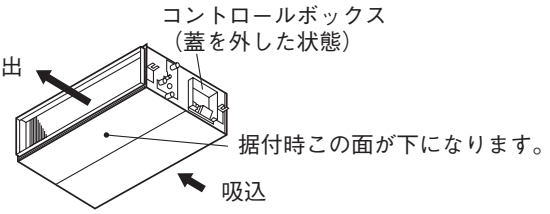
●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

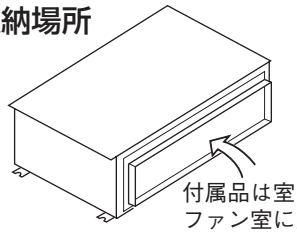
○本機は高静圧ダクト機です。
直吹では使用しないでください。



①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
○機種・電源仕様　○配管・配線・小物部品　○付属品

付属品収納場所
（梱包時）



付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用			ドレン配管用			
平座金（M10）	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	ドレンホース	ホースクランプ
							
8個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	1個
室内ユニット吊り下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレンソケット断熱用	ドレンソケット断熱用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用

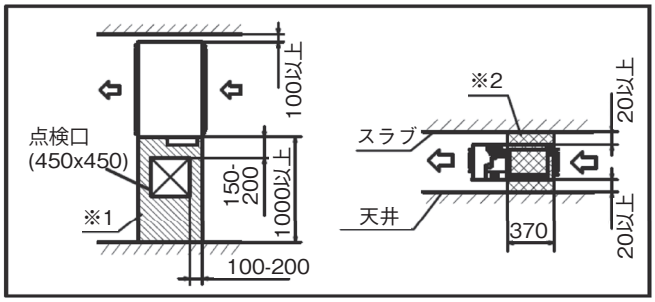
②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が 28℃以下、相対湿度 80%以下の所。
〔本室内ユニットはJIS露付条件（室内：27℃/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。〕
・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。

室内ユニット据付スペース

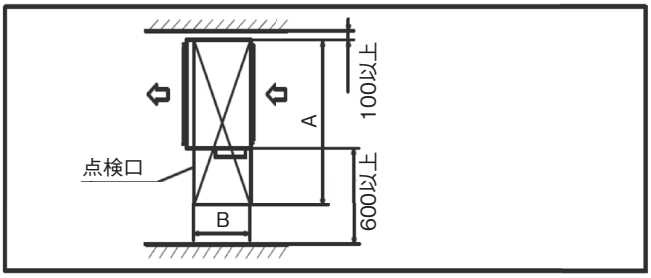
●据付高さは2.5m以上としてください。据付時、サービス時のために下記2ケースのどちらかを選んでください。

（ケース1）室内ユニット側面からメンテナンスする場合 単位: mm



※1　ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。障害になるものを設置しないでください。（▨ 印箇所）
※2　▩ 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設定してください。

（ケース2）室内ユニット下面からメンテナンスする場合 単位: mm

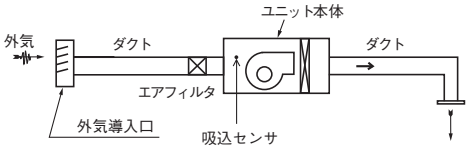


（点検口サイズ） 単位: mm

店舗シリーズ	50, 56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-56	71-90	112-160
給気処理ユニット	—	90	140
A	1100	1300	1720
B	620		725

③給気処理ユニットの据付時の注意

①給気処理ユニットは吸込センサの検知温度とリモコン設定温度に基づき、発停を制御しております。
リモコン設定温度は発停を制御する外温を示しています。冷房モードでは、サーモ OFF となると、外気を直接室内に吹出す送風モードに変わります。



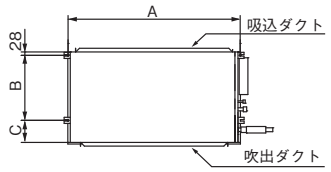
②給気処理ユニットは外気を直接吹出す場合がありますので、直接室内の人に風を当てないように配慮ください。
③ユニットは外温を検知して発停を制御しますので、リモコン設定温度の変更で室温を調整しないでください。冷房運転時にリモコン設定温度を下げ過ぎた場合、結露水が滴下する可能性があります。
④ 一般の人がリモコン操作することを避けるため、給気処理ユニットのリモコンは管理者だけが操作できる場所に設置してください。

お客様に製品をお渡しする際には、上記の注意事項、給気処理ユニットを操作するリモコンの設置場所、吹出口に位置をお知らせください。

④据付前の準備

●吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

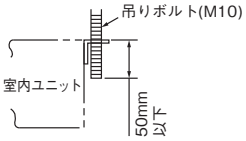
吊りボルト位置､配管位置､ダクト寸法



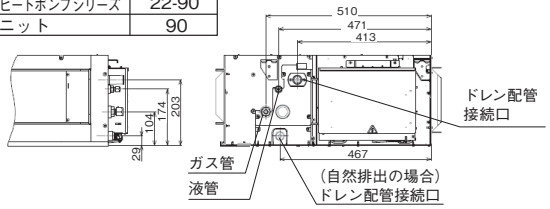
単位: mm

店舗シリーズ	50,56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-56	71, 90	112-160
給気処理ユニット	—	90	140
A	786	986	1404
B	472	472	530
C	135	135	180

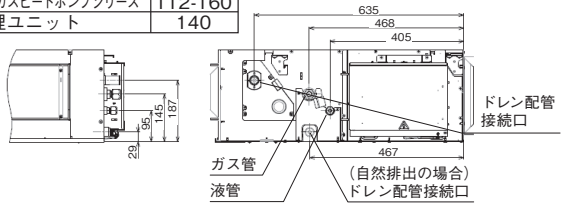
吊りボルト締付け時には下記長さになるように調整してください。



店舗シリーズ	50-80
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-90
給気処理ユニット	90



店舗シリーズ	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	112-160
給気処理ユニット	140



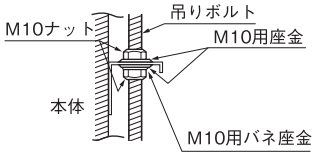
⑤室内ユニットの据付

作業手順

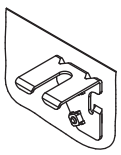
1. 据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2. 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3. 吊りボルトは４本使用してください。
4. ご使用のパネルに合うように、室内ユニット吊り込み高さを調節して下さい。
5. 室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は､水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。
（室内ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
6. 高さ調整・水平度調整後、上側ナット４箇所を締付けて室内ユニットを固定してください。

据　付

〈吊り込み〉
○室内ユニットを吊り込んでください。



○本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



水平度の調整

お願い
○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。

●本体下面と水面高さが下図になるように調整してください。

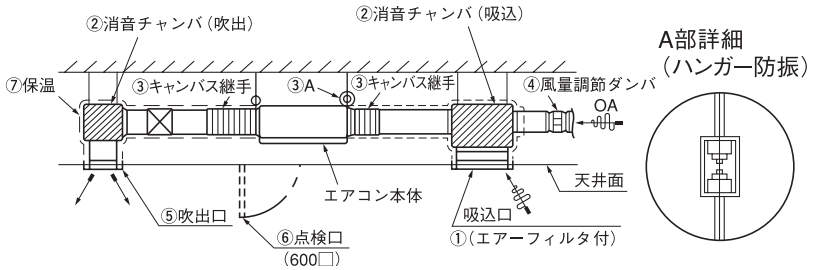


配管側をさがりぎみにしてください。

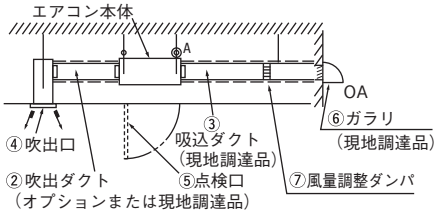
○水平度がでていないと**フロートスイッチの誤作動あるいは不作動**の原因となります。

⑥ダクト工事

高静圧ダクト（FDU）

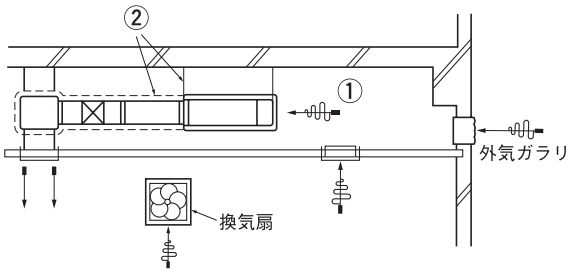


給気処理ユニット（FDU-F）



①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
②消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
　特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。（事務所、会議室などでは必ず取付けること）
③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
④ OA ダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパを取付けてください。
⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは６５mm（ＪＩＳ Ａ ９５０１）です。
⑧送風機（ファンモータ）に手が触れないようにダクトを接続してください。または吸込側を直吸込みで使用する場合は吸込口にエアフィルタを取付けてください。

〈ダクト施工の悪い例〉



〈空気条件、風量限界〉

店舗シリーズ		50, 56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ		22-56	71-90	112-160
最大風量（m³/min）		14.5	27	53
室内側入口空気	乾球温度（℃）	32		
	湿球温度（℃）	29		

給気処理ユニット		90	140
最大風量（m³/min）		15	25
室内ユニット吸込空気	乾球温度（℃）	32	
	湿球温度（℃）	29	

①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
　(イ)室内ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
　　室内ユニットは上表の空気条件および風量限界内で使用してください。コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなることがあります。この場合は室内ユニット全体をグラスウール（２５mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
　(ロ)室内ユニットの運転限界（例：外温35℃DBのとき吸込空気温度24℃WB）をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
　(ハ)換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによって室内ユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンへ流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
②室内ユニットとダクト、室内ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブに室内ユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

〈簡易ダクト寸法選定図〉

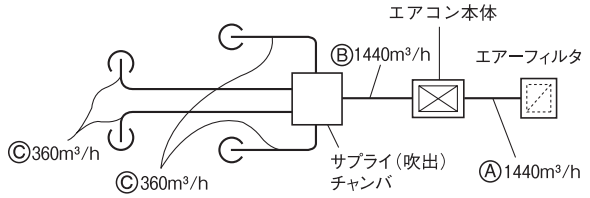
1Pa/m

風量 ＼ ダクトの形 項目	□角ダクト 寸法	
m³/h （m³/min）	（mm×mm）	
100	200×70	170×80
200	200×100	170×120
300	200×140	170×150
360（6）	200×150	170×180
450	200×180	170×210
500	200×200	170×230
600（10）	200×220	170×260
800	200×280	170×340
1000	200×330	170×400
1200（20）	200×380	170×460
1400	200×430	170×530
1440（24）	200×440	170×540
1600	200×480	170×600
1800（30）	200×530	170×660
2000	200×580	170×720
2400（40）	200×680	170×850
3000（50）	200×830	170×1040

Ⓒ部
Ⓑ部
Ⓐ部

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉

ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を１Pa/m として、ダクトは一辺が吸込側は１７０mm、吹出側は２００mm のものを使用する場合の方法を示します。８０形、定格風量の場合を例とします。



	風　　量	ダクト（mm×mm）
Ⓐ部	1440m³/h（24m³/min）	200×440
Ⓑ部	1440m³/h（24m³/min）	170×540
Ⓒ部	360m³/h（6m³/min）	170×180

○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

直管部	長さ 1m 当り1Paで計算する1Pa/m
曲り部	曲り部1個所当り直管に直して3～4mとする
吹出部	25Paで計算する
チャンバ	1 個で 50Paで計算する
吸込グリル（フィルタ付）	1 個で 40Paで計算する

⑦冷媒配管

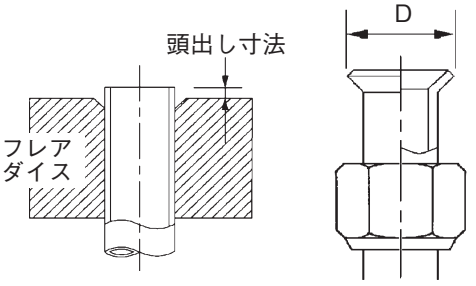
冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1 種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。

既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。

1）再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。

2）再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



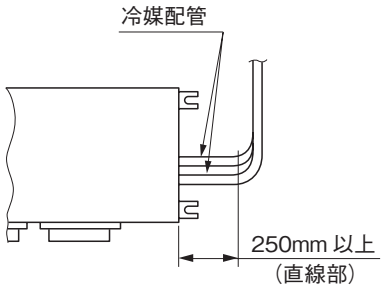
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32用 R410A用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。
また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

●工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。



お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を２５０mm以上とって行ってください。
（ドレンポンプのサービスに必要です。）

作業手順

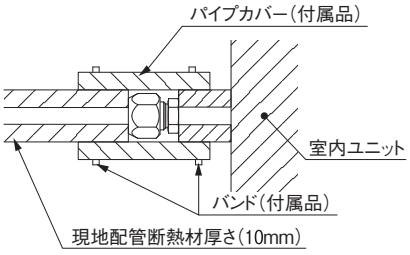
1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）

2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは４D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで上表の締付力で締めてください。

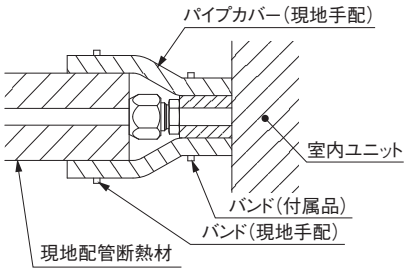
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。

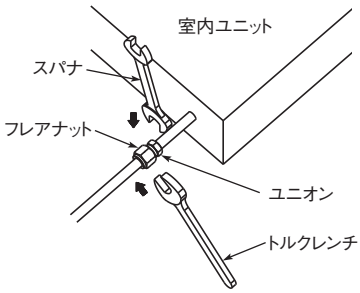
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>



<断熱材を強化する場合>





注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

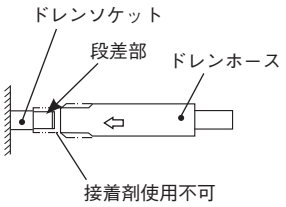
⑧ドレン配管

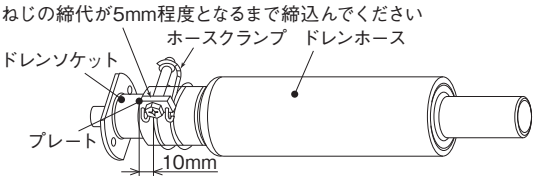
ドレン配管時の注意事項

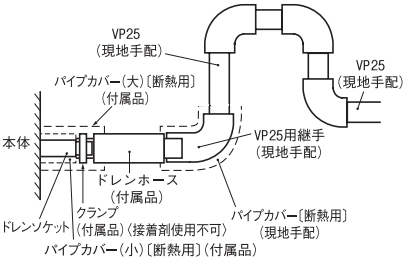
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

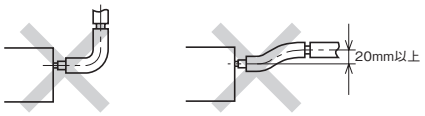
1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 程度となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可



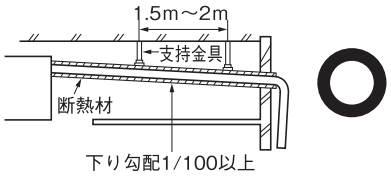


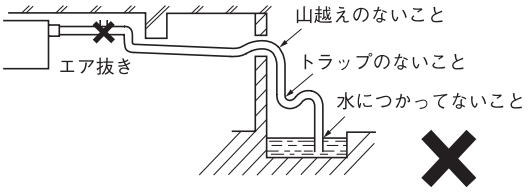


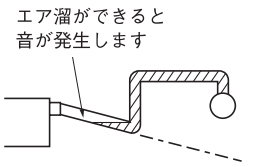
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。



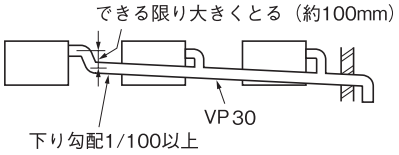
3．ドレン配管は下り勾配（1／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。







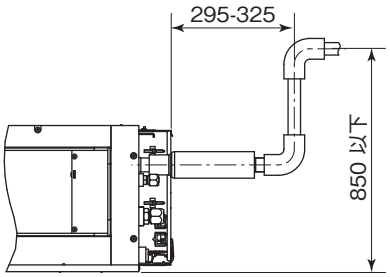
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００ｍｍ下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。

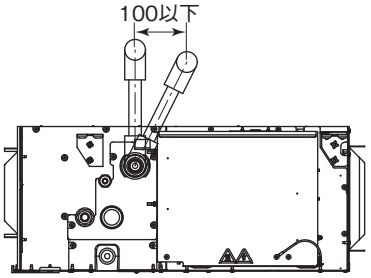


4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より８５０mm まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



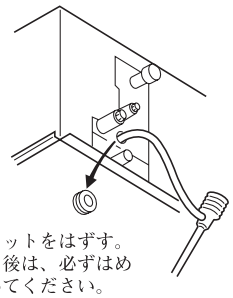


⑧ドレン配管のつづき

ドレン排水テスト

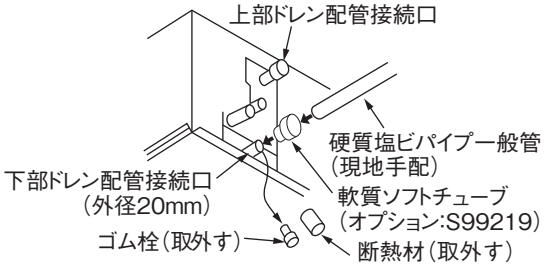
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部および室内ユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1．右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃほどの水を注入してください。注水ホースを 50 ｍｍ位差し込んで注水してください。（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）
2．ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3．排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



下部ドレン配管工事要領〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配（１／５０～１／１００）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



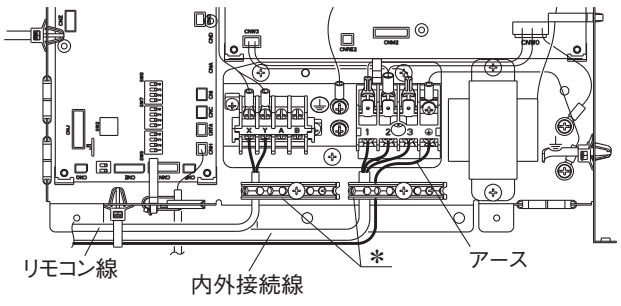
ドレンモータ用のコネクタ CnR の取り外し
下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタ CnR を取り外してください。

注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

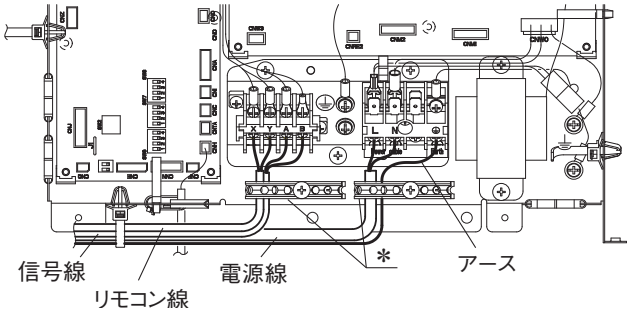
⑨電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．電装箱の蓋（ねじ２本）を取外してください。
2．各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
3．各配線をクランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。



シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続

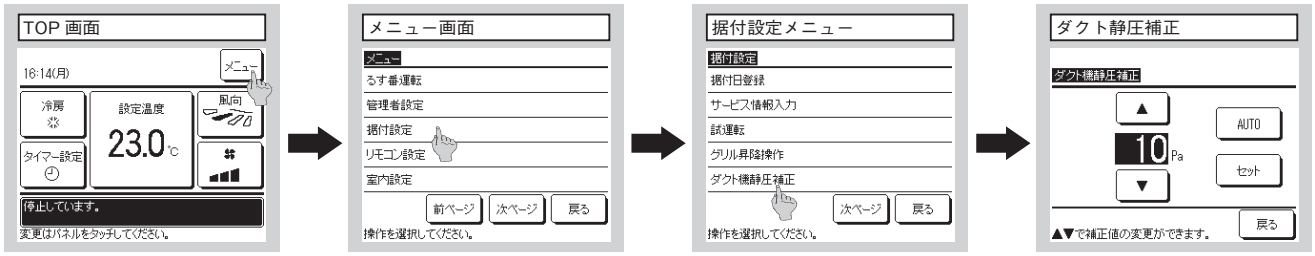
＊配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

⑩機外静圧設定

ecoタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ecoタッチリモコンからの設定方法

①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、150Pa で設定されます。）
詳細な設定方法については、ecoタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。
風量特性については、技術資料を参照ください。



［メニュー］ボタンをタッチしてください。

［据付設定］ボタンをタッチしてください。

選択した画面に移ります。

機外静圧を選択し、［セット］をタッチしてください。

注意

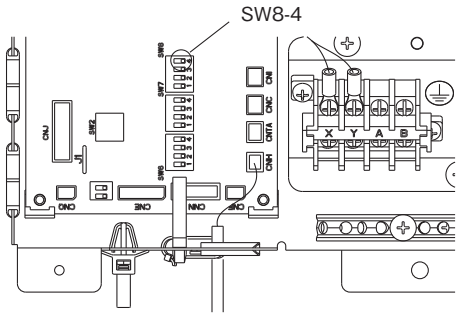
・RC-DX2 以降の ecoタッチリモコン以外からは設定できません。

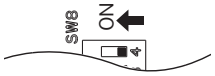
静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

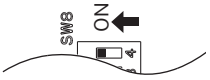
工場出荷状態では上記のリスクを減らすため､機外静圧設定範囲を 80-150Pa(給気処理ユニットは 10-120Pa)としております。実際の機外静圧は 80-150Pa（給気処理ユニットは 10-120Pa）の範囲で使用してください。実際の機外静圧が 80Pa（給気処理ユニットは 10Pa）より低い場合には水漏れとなる恐れがあります。
(機外静圧設定を10～70Paで設定した場合、機外静圧設定は 80Pa となります。
機外静圧設定を 160～200Paで設定した場合、機外静圧設定は 150Pa となります。また給気処理ユニットは 130 ～ 200Pa で設定された場合、機外静圧設定は 120Pa になります。)

また、コントローラの SW8-4 を ON にすることにより、機外静圧設定範囲を 10-200Pa に変更することが可能です。ただし、上記リスクが高くなるため、実際の機外静圧を把握してない場合には使用しないでください。





SW8-4:OFF（機外静圧設定範囲：80～150Pa）

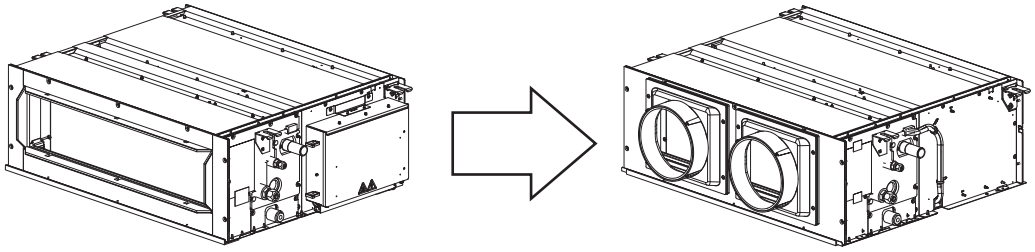


SW8-4:ON（機外静圧設定範囲：10～200Pa）

⑪丸ダクト変換キット使用時の静圧設定について

丸ダクト変換キット(オプション)を使用する場合、工場出荷時の機内圧損に対して増加します。その為、機外静圧設定時には下表に従って設定してください。
例えば、80形の場合、機外静圧を100Paにする場合には、下表に従ってリモコンの機外静圧設定を110Paにしてください。

注意
- 機外静圧範囲は10-100Paとなります。この範囲内になるよう、下表に従いリモコン機外静圧設定を行ってください。
- ⑩機外静圧設定に示すSW8-4をONにして使用ください。
- 実際の機外静圧と設定する機外静圧が一致することを確認してください。
  異なっていると水漏れや不冷・不暖の原因になります。



工事出荷時　　丸ダクト変換キット装着時

丸ダクト変換キット使用時のリモコン機外静圧設定　対応表

店舗シリーズ		—	50,56	63	71-80	112	140	160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ		22	28-56	—	71-90	112	140	160
オプション形式		U-UM-1A	U-UM-2A	U-UM-3A		U-UM-4A		
実際の機外静圧(Pa)	10	20	30	10	20	20	30	40
	20	30	40	20	30	30	40	50
	30	40	50	30	40	40	50	60
	40	50	60	50	50	50	60	70
	50	70	70	60	60	60	70	80
	60	80	80	70	70	70	80	90
	70	90	90	90	80	80	90	100
	80	100	100	100	90	90	110	110
	90	120	110	110	100	100	120	130
	100	130	120	120	110	110	130	140

⑫室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	

PJG012D026

(b) FDUP2245, 2805（F）LXA

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
給気処理ユニットの場合
●他のエアコンユニットとの全接続容量は、50 ～ 100%（全給気処理ユニットの容量）にしてください。
●単独で給気処理ユニットを接続することができます。給気処理ユニットの接続容量は 50 ～ 100%にしてください。
室外機に接続できる給気処理ユニットは最大 2 台です。
●この室内ユニットは､日本国内用に設計されているため海外では使用できません。 また海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に ⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については､販売店と相談して据付ける｡万一､冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」､「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具は R32 または R410A 専用のものを使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し､冷凍サイクル内が異常高圧になり､破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	❗
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内機の据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●エアフィルタを必ず取付ける。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

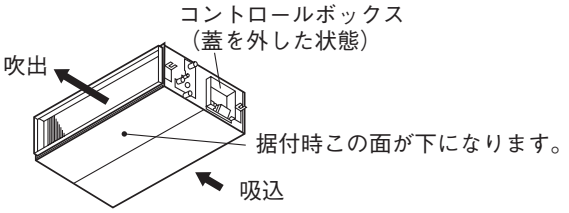
●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

○本機は高静圧ダクト機です。
　直吹では使用しないでください。



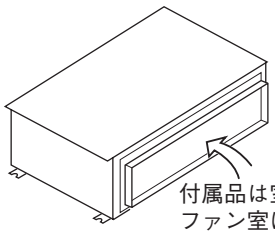
①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

本体吊り込み用	ドレン配管用			
平座金(M10)	パイプカバー(大)	パイプカバー(小)	ドレンホース	ホースクランプ
				
8個	1個	1個	1個	1個
ユニット 吊り下げ用	ドレンソケット 断熱用	ドレンソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用

付属品収納場所（梱包時）



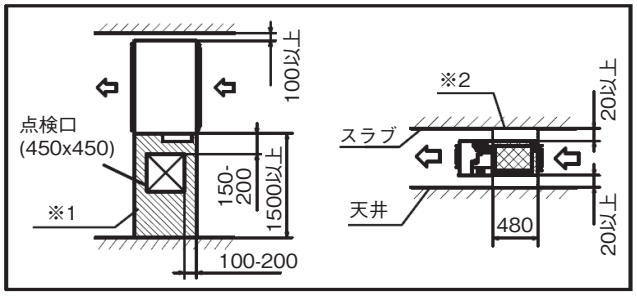
②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
　・冷風または温風が十分に行きわたる所。
　　据付け高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
　・据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。
　・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
　・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
　・侵入外気の影響のない所。
　・直射日光の当たらない所。
　・周囲の露点温度が２８℃以下、相対湿度８０％以下の所。
　　本室内ユニットは JIS 露付条件(室内：27℃ /78% RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
　・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
　・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
　・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
　・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
　・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を４ｍ以上離して設置してください。

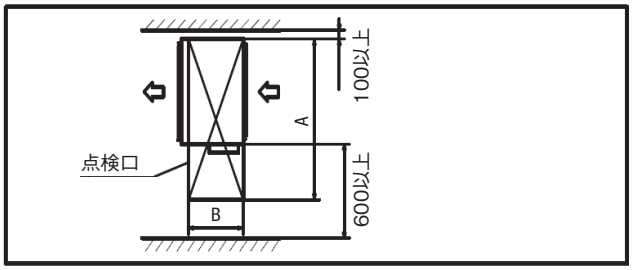
室内ユニット据付スペース

●据付高さは2．5m以上としてください。据付時、サービス時のために下記２ケースのどちらかを選んでください。

(ケース1)ユニット側面からメンテナンスする場合 単位: mm



(ケース2)ユニット下面からメンテナンスする場合 単位: mm



※１　ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。障害になるものを設置しないでください。(▨ 印箇所)
※２　▩ 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設定してください。

(点検口サイズ)　単位: mm

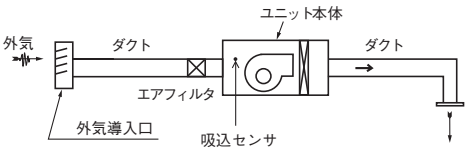
店舗VXPシリーズ	224-280
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	224-280
給気処理ユニット	224-280
A	1900
B	880

③給気処理ユニットの据付時の注意

①給気処理ユニットは吸込センサの検知温度とリモコン設定温度に基づき、発停を制御しております。
　リモコン設定温度は発停を制御する外温を示しています。冷房モードでは、サーモ OFF となると、外気を直接室内に吹出す送風モードに変わります。

③給気処理ユニットの据付時の注意のつづき

②給気処理ユニットは外気を直接吹出す場合がありますので、直接室内の人に風を当てないように配慮ください。
③室内ユニットは外温を検知して発停を制御しますので、リモコン設定温度の変更で室温を調整しないでください。冷房運転時にリモコン設定温度を下げ過ぎた場合、結露水が滴下する可能性があります。
④ 一般の人がリモコン操作することを避けるため、給気処理ユニットのリモコンは管理者だけが操作できる場所に設置してください。



お客様に製品をお渡しする際には、上記の注意事項、給気処理ユニットを操作するリモコンの設置場所、吹出口に位置をお知らせください。

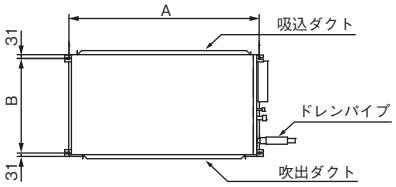
④据付前の準備

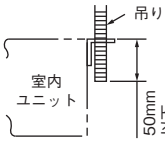
●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置する。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

単位: mm

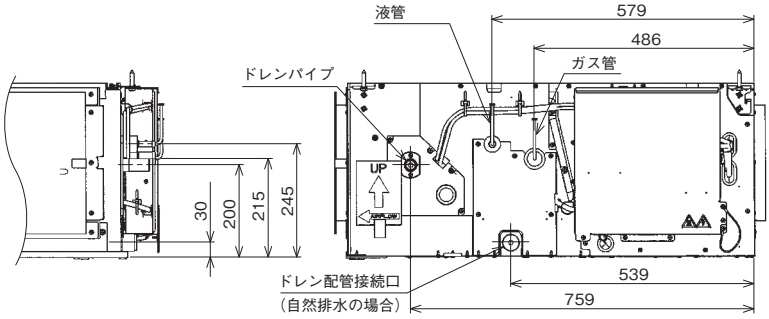
店舗VXPシリーズ	224-280
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	224-280
給気処理ユニット	224-280
A	1634
B	831

吊りボルト位置、配管位置、ダクト寸法





吊りボルト締付け時には下記長さになるように調整してください。



⑤室内ユニットの据付

作業手順

1. 据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2. 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3. 吊りボルトは４本使用してください。
4. 室内ユニット吊り込み高さを調節してください。
5. ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。（ユニット両端での高さ許容差は３mm以内）
6. 高さ調整・水平度調整後、上側ナット４箇所を締付けてユニットを固定してください。

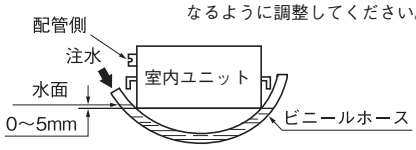
水平度の調整

お願い

○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。

○水平度がでていないと**フロートスイッチの誤作動あるいは不作動**の原因となります。

●本体下面と水面高さが下図になるように調整してください。

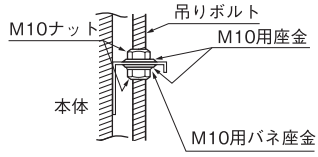


配管側をさがりぎみにしてください。

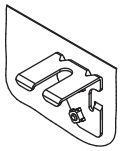
据　付

〈吊り込み〉

○室内ユニットを吊り込んでください。

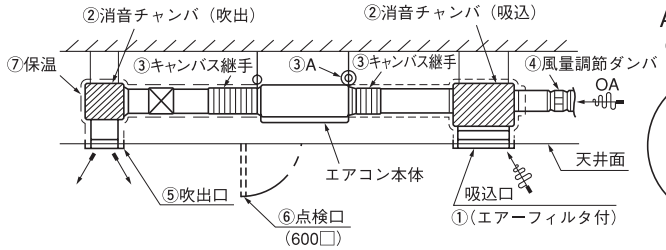


○本体を据付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

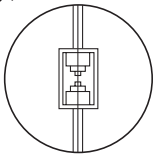


⑥ダクト工事

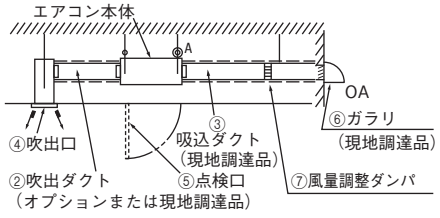
高静圧ダクト（GU）



A部詳細
（ハンガー防振）



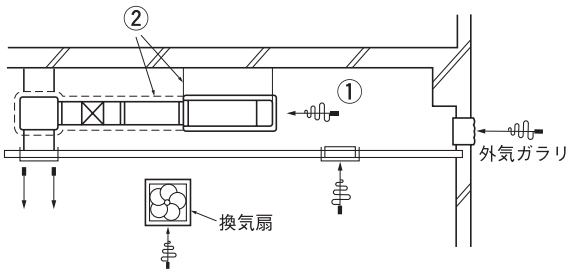
給気処理ユニット（GU-F）



⑥ダクト工事のつづき

①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
②消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
　特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。（事務所、会議室などでは必ず取付けること）
③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
④ OA ダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパを取付けてください。
⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは６５mm（ＪＩＳ Ａ ９５０１）です。
⑧送風機（ファンモータ）に手が触れないようにダクトを接続してください。または吸込側を直吸込で使用する場合は吸込口にエアフィルタを取り付けてください。

〈ダクト施工の悪い例〉



〈空気条件、風量限界〉

店舗VXPシリーズ		224, 280
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ		224, 280
最大風量（m³/min）		88
室内側空気温度	乾球温度（℃）	32
	湿球温度（℃）	29

給気処理ユニット		224, 280
最大風量（m³/min）		50
ユニット吸込空気温度	乾球温度（℃）	32
	湿球温度（℃）	29

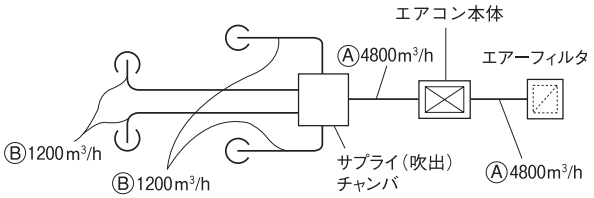
①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
　(イ)室内ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
　　室内ユニットは上表の空気条件および風量限界内で使用してください。コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなることがあります。この場合は室内ユニット全体をグラスウール（２５mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
　(ロ)室内ユニットの運転限界（例：外温３５℃ DB のとき吸込空気温度２４℃ WB）をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
　(ハ)換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによって室内ユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンへ流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
②室内ユニットとダクト、室内ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブに室内ユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

〈簡易ダクト寸法選定図〉 1Pa/m

	ダクトの形 / 項目 / 風量	角ダクト 寸法
	m³/h（m³/min）	（mm×mm）
	100	250× 60
	200	250× 90
	300	250× 120
	400	250× 140
	450（7.5）	250× 160
	500	250× 170
	600（10）	250× 190
	800	250× 230
	1,000	250× 270
Ⓑ部	1,200（20）	250× 310
	1,400	250× 350
	1,600	250× 390
	1,800（30）	250× 430
	2,000	250× 470
	2,400（40）	250× 560
	3,000（50）	250× 650
	3,500	250× 740
	4,000	250× 830
	4,500	250× 920
Ⓐ部	4,800（80）	250× 950
	5,000	250×1000
	5,500	250×1090
	6,000（100）	250×1180

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉

ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を１Pa/m として、ダクトは一辺が２５０mmのものを使用する場合の方法を示します。
２８０形定格風量の場合を例とします。



	風量	ダクト（mm×mm）
Ⓐ 部	4800m³/h（80m³/min）	250×950
Ⓑ 部	1200m³/h（20m³/min）	250×310

○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

直管部	長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m
曲り部	曲り部1個所当り直管に直して3～4mとする
吹出部	25Paで計算する
チャンバ	1個で50Paで計算する
吸込グリル（フィルタ付）	1個で40Paで計算する

⑦冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
冷媒Ｒ２２で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点を注意してください。
・薄肉配管の使用は避けてください。
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（Ｃ１２２０Ｔ、ＪＩＳ Ｈ ３３００）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
●Ｒ 32 またはＲ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。
Ｒ４１０Ａ以外（Ｒ２２等）の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂等の原因になります。

⑦冷媒配管のつづき

●据付に使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具は R32 またはＲ４１０Ａ専用ツールを使用してください。
●室内ユニット配管はサービスパネルを取外し可能とするため配管方向がどのような方向でも必ず室内ユニットから４００mm以上のストレート部分を設けてください。

作業手順

1．ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
2．室内機のろう付部は、ガス漏れチェック後、断熱材（現地手配）をかぶせてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。現地にて断熱材を手配し断熱してください。
●ガス側配管の断熱は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化させてください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
3．冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

機種		液配管/ガス配管	サイズ
店舗VXPシリーズ	224形	液配管	ø9.52
		ガス配管	ø25.4
	280形	液配管	ø12.7
		ガス配管	ø25.4
ビル空調シリーズ ガスヒートポンプシリーズ 給気処理ユニット	224形	液配管	ø9.52
		ガス配管	ø19.05
	280形	液配管	ø9.52
		ガス配管	ø22.22

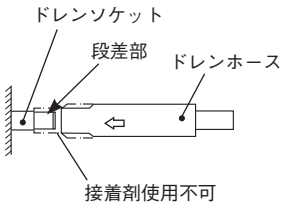
⑧ドレン配管

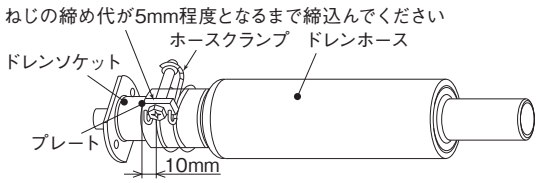
ドレン配管時の注意事項

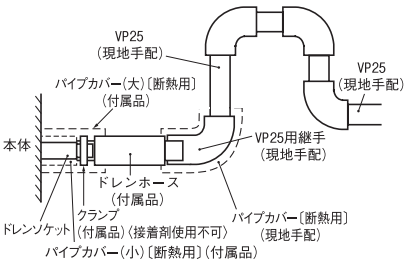
●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

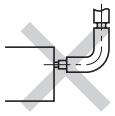
1．付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm 程度のところに取付け、ねじの締め代が 5mm 程度となるまで締込んでください。
●接着剤使用不可

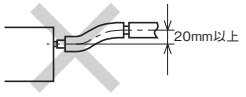




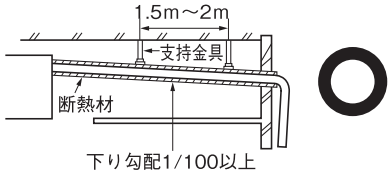


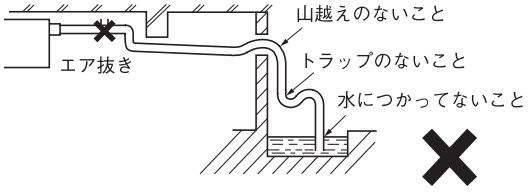
2．ドレンホース（硬質塩ビ端）に、ＶＰ２５用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、ＶＰ２５（現地手配）を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２５を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。

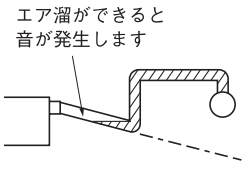




3．ドレン配管は下り勾配（1／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力が加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。

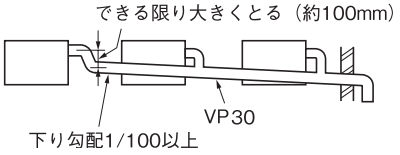






⑧ドレン配管のつづき

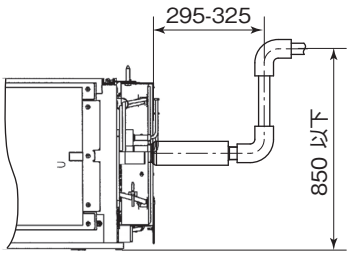
●複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約１００ｍｍ下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はＶＰ３０以上を使用してください。

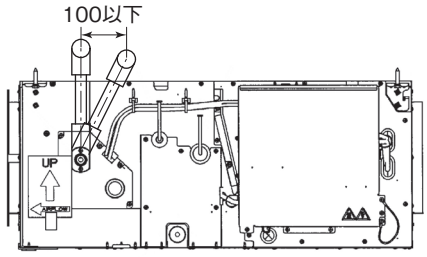


4．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー（大）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

●ドレン配管の出口高さは、天井面より８５０ｍｍまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

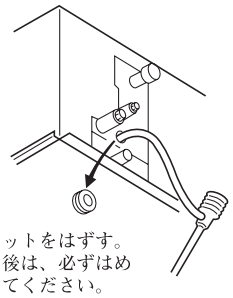




ドレン排水テスト

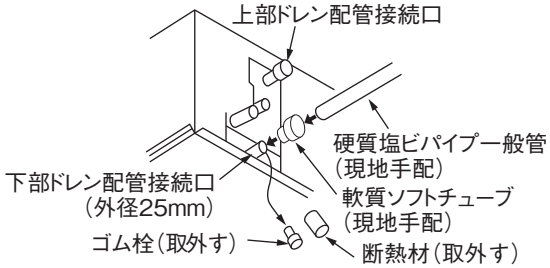
●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部および室内ユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1．右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約１０００ｃｃほどの水を注入してください。注水ホースを 50 ｍｍ位差し込んで注水してください。（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）
2．ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3．排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。


グロメットをはずす。テスト後は、必ずはめておいてください。

下部ドレン配管工事要領〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配（１／５０～１／１００）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



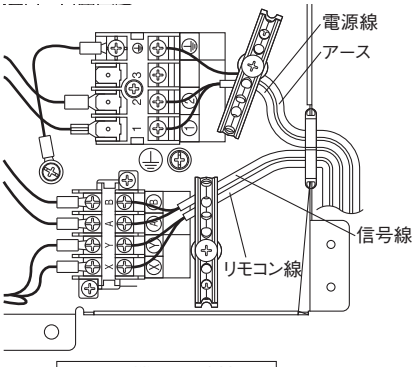
ドレンモータ用のコネクタ CnR の取外し
下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタ CnR を取り外してください。

注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

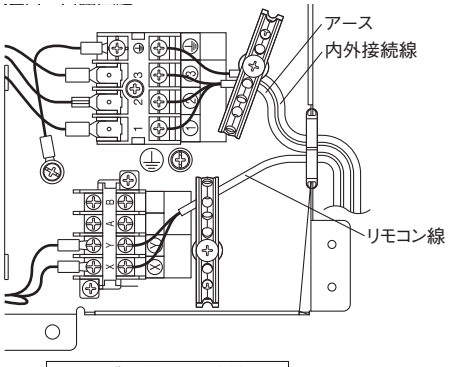
⑨電気配線取出位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．電装箱の蓋 (ねじ２本) を取外し、上部の引掛けを外してください。
2．各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板参照ください。
3．各配線をクランプで固定してください。
4．取外した部品を元通りに取付けてください。



マルチ機の配線接続



シングル機の配線接続

⑩機外静圧設定

ecoタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

● ecoタッチリモコンからの設定方法

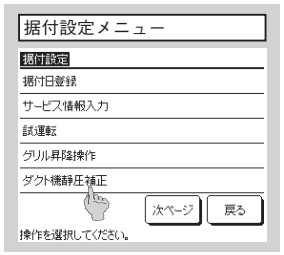
①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、150Pa で設定されます。）
詳細な設定方法については、ecoタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。
風量特性については、技術資料を参照ください。



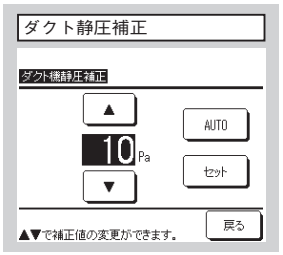
［メニュー］ボタンをタッチしてください。



［据付設定］ボタンをタッチしてください。



選択した画面に移ります。



機外静圧を選択し、［セット］をタッチしてください。

注意

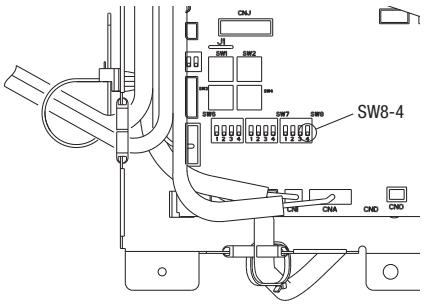
・RC-DX2 以降の ecoタッチリモコン以外からは設定できません。

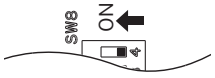
静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

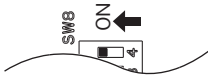
工場出荷状態では上記のリスクを減らすため､機外静圧設定範囲を 80-150Pa(給気処理ユニットは 10-120Pa)としております。実際の機外静圧は 80-150Pa（給気処理ユニットは 10-120Pa）の範囲で使用してください。実際の機外静圧が 80Pa（給気処理ユニットは 10Pa）より低い場合には水漏れとなる恐れがあります。
(機外静圧設定を10～70Paで設定した場合、機外静圧設定は 80Pa となります。
機外静圧設定を 160～200Paで設定した場合、機外静圧設定は 150Pa となります。また給気処理ユニットは 130 ～ 200Pa で設定された場合、機外静圧設定は 120Pa になります。)

また、コントローラの SW8-4 を ON にすることにより、機外静圧設定範囲を 10-200Pa に変更することが可能です。ただし、上記リスクが高くなるため、実際の機外静圧を把握してない場合には使用しないでください。





SW8-4:OFF（機外静圧設定範囲：80～150Pa）



SW8-4:ON（機外静圧設定範囲：10～200Pa）

⑪室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑺ 天吊形（FDE）

PFA012D637

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。 また海外においてはアフターサービスもできません。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない ／ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書等をお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。

●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると破裂·ケガの原因となり、また水漏れや感電·火災等の原因になります。

●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れや、火災、感電等の原因になります。

●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下等により、ケガの原因になります。

●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。

●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因になります。

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用のものを使用する。
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。

●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。

●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。

●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。

●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

●改修は絶対にしないでください。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず落とす。
点検・修理にあたって、室内ユニット電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になることがあります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガス等）、可燃性ガス（シンナー、ガソリン等）の発生、滞留の可能性のある場所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損等の原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室等、水の掛かる場所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災等の原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下等の原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音等弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場等）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダー等が浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。(機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと)。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載の場合は次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガ等の原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れ等の原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は充分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギ等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとケガをする恐れがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

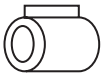
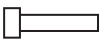
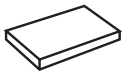
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

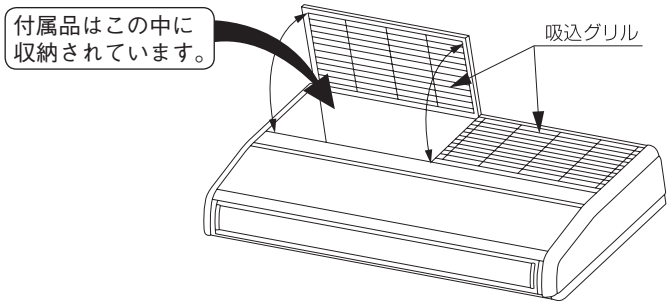
●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

付属品

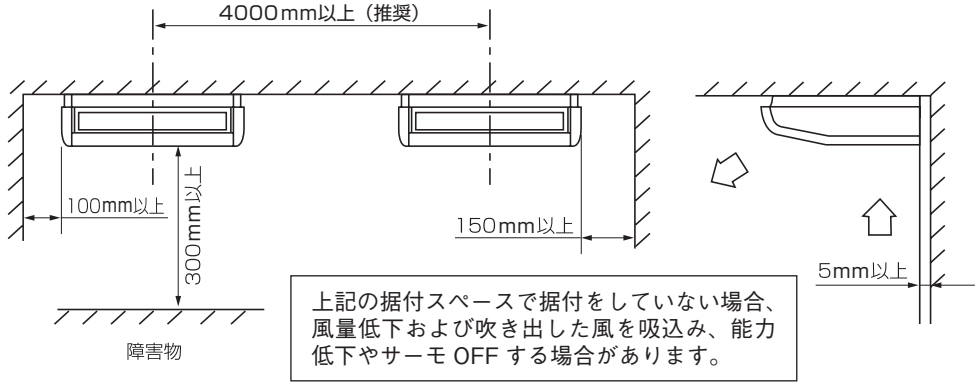
本体吊り込み用		冷媒配管用			ドレン配管用					吸込グリル用
平座金（M10）	型紙	パイプカバー（大）	パイプカバー（小）	バンド	ドレンホース（クランプつき）	ホースクランプ	固定金具	ねじ	断熱材	ねじ
										
8個	1個	1個	1個	4本	1個	1個	1個	2個	1個	4個
室内ユニット吊り下げ用	室内ユニット吊り込み調整用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用	ドレン配管接続用	ドレンホース取付用	ドレンホース固定用	固定金具取付用	ドレンホース断熱用	グリル固定用



②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・人感センサ搭載の場合据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。　・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が 28℃以下、相対湿度 80% 以下の所。
〔本室内ユニットはJIS露付条件（室内：27℃/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。〕
・テレビ、ラジオより 1m 以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接、吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下により、ケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離は４ｍ以上を推奨します。

室内ユニット据付スペース



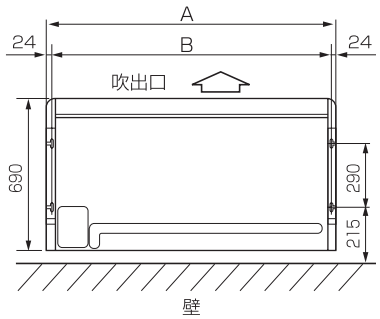
上記の据付スペースで据付をしていない場合、風量低下および吹き出した風を吸込み、能力低下やサーモ OFF する場合があります。

③据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
　○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）５００mm以上または天井ふところ高さ７００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
　○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
　　吊り長さ（吊りボルト長さ）１０００mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
●吊りボルト・ナット・バネ座金（Ｍ１０）を４組現地にて手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置

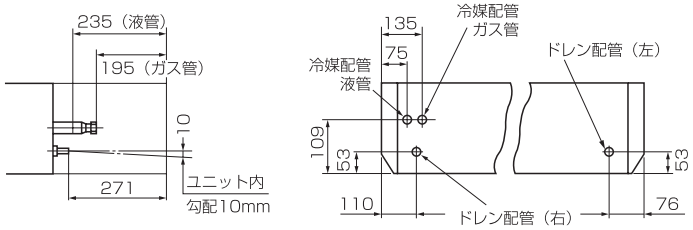
天井開口穴・吊りボルトピッチ



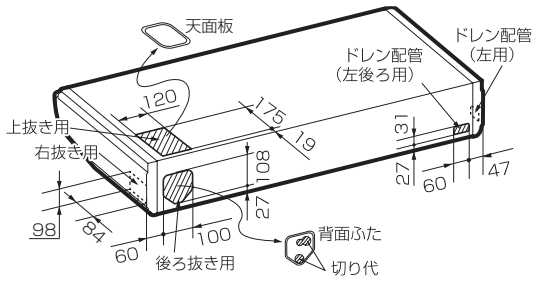
〔mm〕

店舗	40～56型	63～80型	112～160型
ビル空調 ガスヒートポンプ	36～56型	71～90型	112～160型
A	1070	1320	1620
B	1022	1272	1572

冷媒配管位置



配管取出し位置



※配管取り出しは３方向（後・右・上）より行えます。
・穴はニッパ等により切り落としてください。
・背面ふたは切り代にしたがって配管取出し穴を切り抜いてください。
・上取出しの場合は、天面板を取外してください。
・右取出しの場合は、サイドパネル内側の溝に沿って切り抜いてください。
・配管・配線の据付後、埃などが侵入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。

室内ユニット内への埃の侵入およびエッジ部での配線損傷防止のため、背面・天面ふたは、必ず取付けてください。右取出しの場合、切抜部は、バリ等取除いてください。

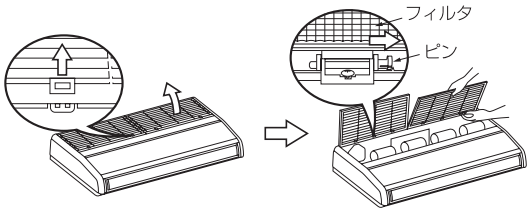
室内ユニットの搬入、据付

●搬入時はできるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
●開梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み、室内ユニットを傷つけないよう注意してください。
　※サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。
●開梱後室内ユニットをおく場合は、必ず吸込グリル側を上にして置いてください。

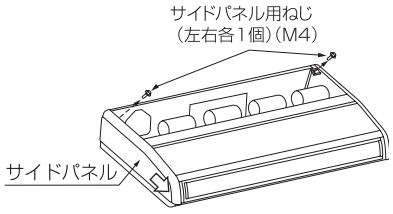


吊り込み前の準備

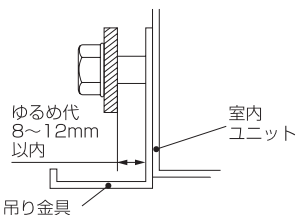
１．吸込グリルの取外し
ストッパーをスライドさせ、ピンを抜いてください。

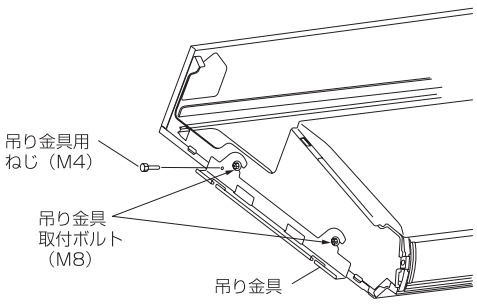


２．サイドパネルの取外し
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。



３．吊り金具の取外し
ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。

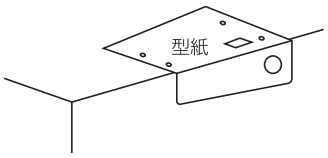




④室内ユニットの据付

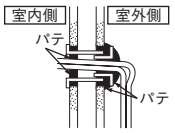
作業手順

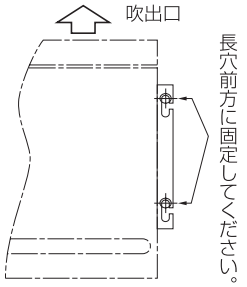
1．吊りボルト位置、配管位置を選定してください。
⑴ 付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトと配管用の穴あけを行ってください。
※注意：位置決定は、実測により行ってください。
⑵ 位置決定後、型紙は取外してください。
2．所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3．吊りボルトは４本使用してください。
4．吊りボルト長さは下図の寸法を厳守ください。
5．吊り金具を吊りボルトに固定してください。



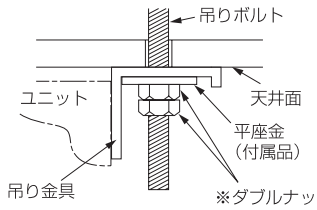
⚠警告
壁穴をパテで完全にシールしてください。
（ホコリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内ユニット内に流入し、火災の原因になることがあります。）

⚠注意
壁穴をパテで完全にシールしてください。
（水漏れ・露たれし、家財等を濡らす原因になることがあります。）

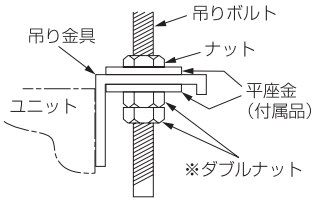


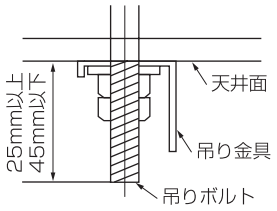


＜天井材が有る場合＞



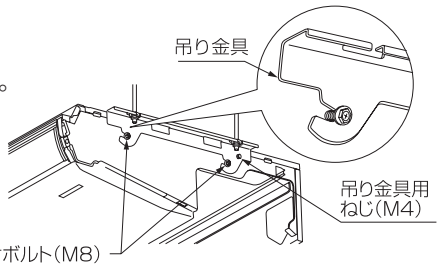
＜天井材が無い場合＞



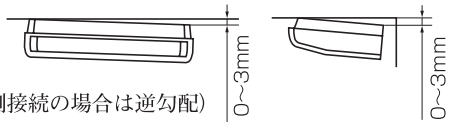


※ダブルナットで確実に固定してください。

6．室内ユニットを金具に据付けてください。（右図参照）
⑴ 吊り金具前方より、室内ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
⑵ 取付ボルト（M8）を左右４箇所確実に締め付けてください。
⑶ ねじ（M4）を左右２箇所締め付けてください。
⚠警告：サイドパネルは前から後方へ向け引っかけた後、本体に確実にねじ止めしてください。
ねじ止めされない場合、本体が落下し、ケガの原因になります。



※ドレン水を流れやすくするために室内ユニットを排水側に下り勾配を設け、据付けてください。
⚠注意：逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

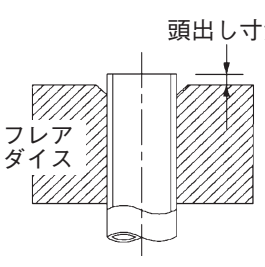


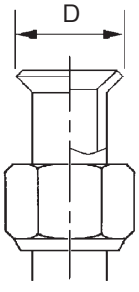
（左側接続の場合は逆勾配）

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1）再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。
2）再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32用またはR410A用のフレア加工をしてください。





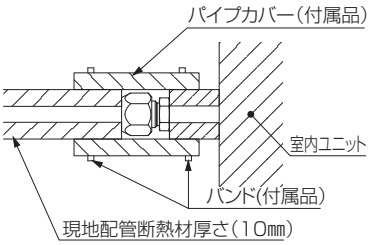
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
		リジッド（クラッチ式）			
		R32用 R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0～0.5	0.7～1.3	8.9～9.1	14～18
9.52	0.8			12.8～13.2	34～42
12.7	0.8			16.2～16.6	49～61
15.88	1			19.3～19.7	68～82
19.05	1.2			23.6～24.0	100～120

⑤冷媒配管の続き

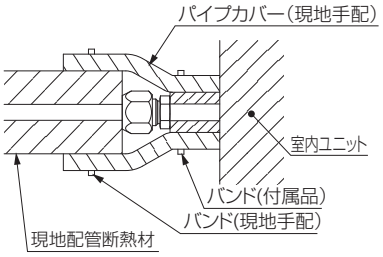
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（Ｃ１２２０Ｔ、ＪＩＳ Ｈ ３３００）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●Ｒ３２またはＲ４１０Ａ以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。
また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

作業手順

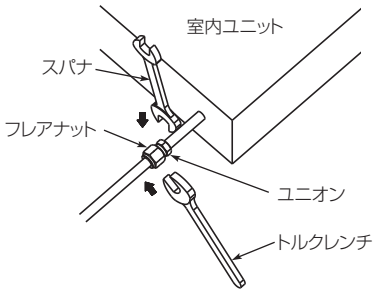
〈断熱材厚さ10㎜を使用する場合〉



〈断熱材を強化する場合〉

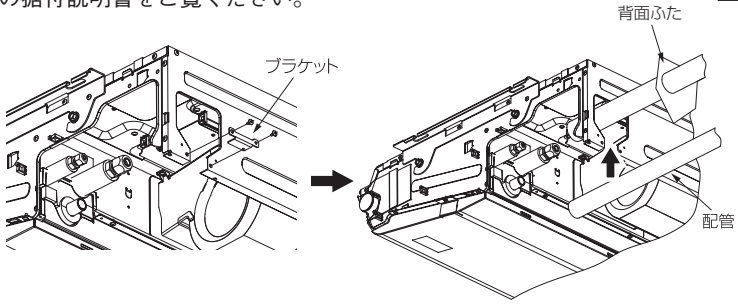


1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。
（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
・後ろ・上取出しの場合は、配管は⑦の電気配線と一緒にして、付属のふたを通して取付けてください。
・埃などが侵入しないよう、隙間をパテなどで塞いでください。
※配管の曲げは４Ｄ以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで左表の締付力で締めてください。



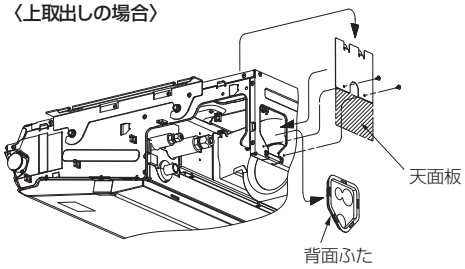
3．室内ユニットのフレア部はガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
●ガス側配管・液側配管ともに断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。
強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。



配管取出しは、後、右、上の３方向より行えます。
後ろ配管の場合、ブラケットを取外すと作業が容易になります。
※配管作業終了後、ブラケットを元通り取付けてください。

〈上取出しの場合〉



1．天面板を取外してください。
2．天面板の斜線部をカットしてください。
3．天面板を背面ふたとして取付けてください。

⑥ドレン配管

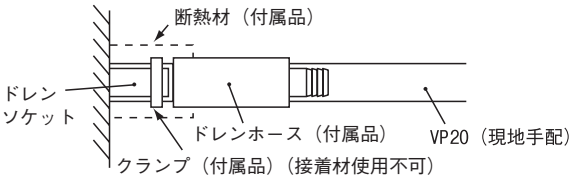
●ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

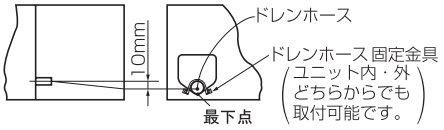
⑥ドレン配管の続き

作業手順



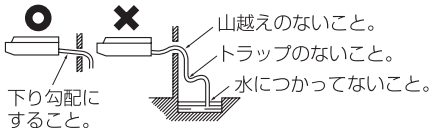
1．付属のドレンホースを本体ドレンソケットの根元まで差込み、付属のクランプで確実に締付けてください。(接着剤使用不可)
※ドレン配管を左側にて行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（筒状）を右側接続口に付け替えてください。
⚠注意：ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

2．ドレンホースを付属の金具で最下点にて固定してください。
※ドレンホースはたるまないように固定し、右図のように１０mmの勾配をつけてください。
●電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。
⚠注意：ドレンホースは必ず金具で固定してください。
ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。



3．ドレンホースにＶＰ２０（現地手配）を接続してください。
(接着剤使用不可)
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ２０を使用してください。

4．ドレン配管は下り勾配（1／１００以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。



5．ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●ドレンホースクランプは付属の断熱材を使用して断熱してください。
●高湿度の環境で使用する等、ドレン配管に結露する恐れがある場合は、ドレン配管に断熱材を追加する等結露に対する配慮をしてください。

ドレン排水テスト

●ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることと、水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

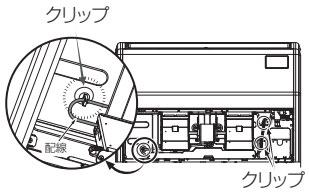
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●Ｄ種設置工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1．配線をクリップから外してください。
2．制御箱 (ねじ① 2本) を取外してください。
3．制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ引き出してください。(Ⓐ→Ⓑの方向)
4．制御箱のふた (ねじ② 2本) を取外してください。
5．各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に接続してください。
6．各配線を電源線クランプで固定してください。
7．制御箱のふた (ねじ② 2本) を取付けてください。
8．制御箱をブラケットの溝に沿ってスライドさせ（Ⓑ→Ⓐの方向)、制御箱を元の位置へ戻してください。
9．取外した部品を元通りに取付けてください。

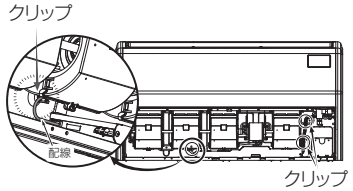
※1 工場出荷時、ワイヤレスキット（オプション）・人感センサキット（オプション）の受信部用配線が接続されています。
ワイヤレスキット、人感センサキットの取付方法は、キット付属の据付説明書を確認してください。
ワイヤードリモコン接続時は外す必要はありません。
ワイヤード／ワイヤレスを併用する場合はリモコンの親子設定が必要となります。

1.

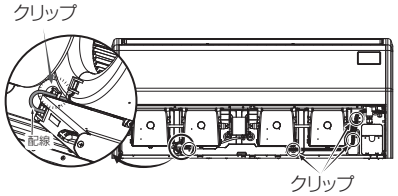
FDE(小)



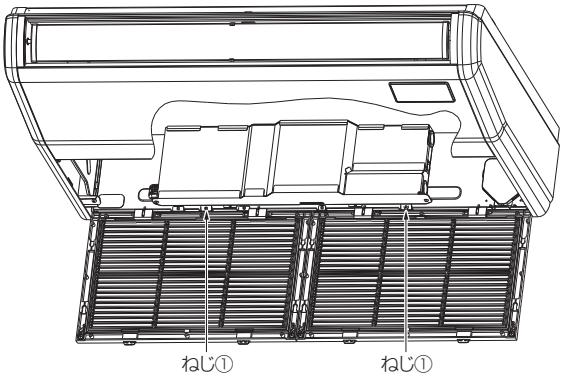
FDE(中)



FDE(大)

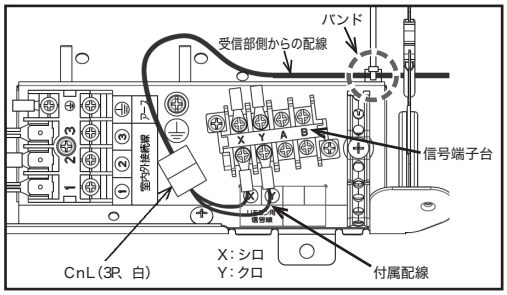


2.



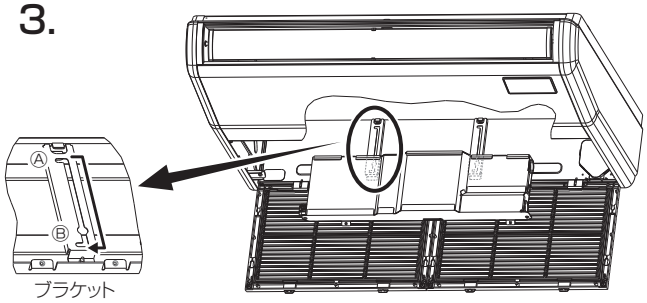
お願い

スーパリンクアダプタ取付の際は、受診部側からの配線を固定しているバンドを取外してください。

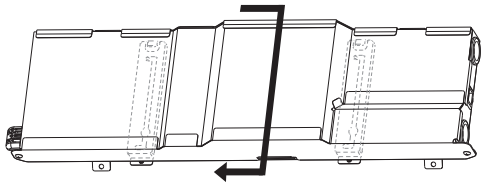


⑦電気配線取出位置および電気配線接続の続き

3.

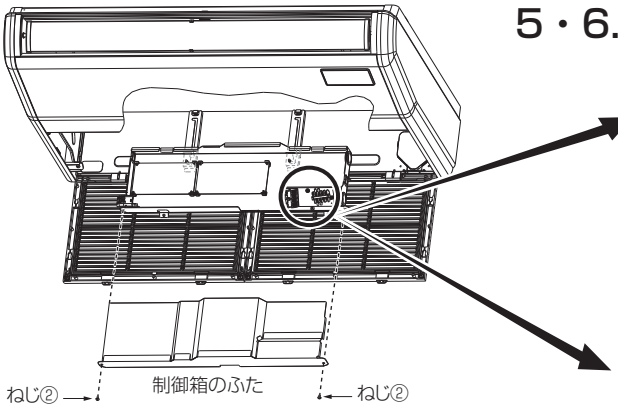


制御箱のスライド方法



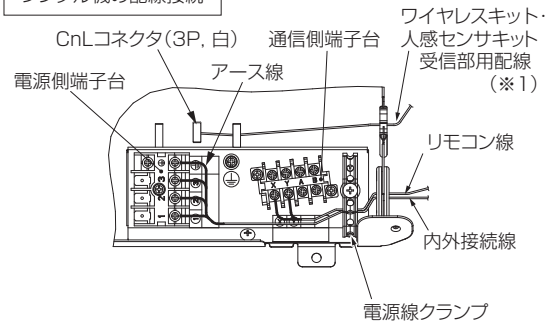
※制御箱を引き出す前に配線をクリップから外してください。

4.

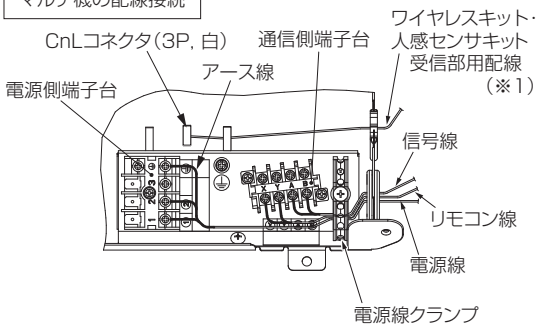


5・6.

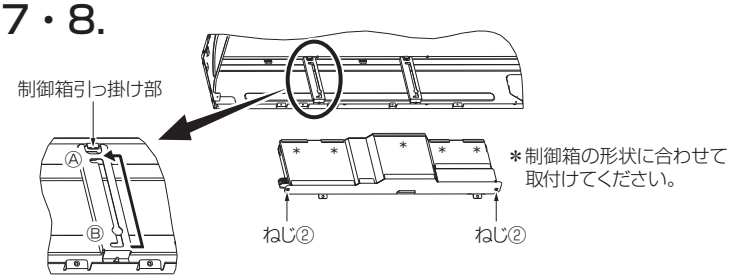
シングル機の配線接続



マルチ機の配線接続



7・8.

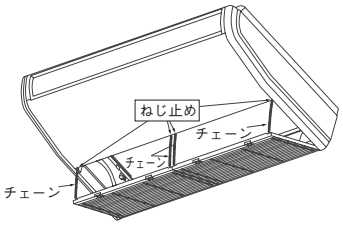


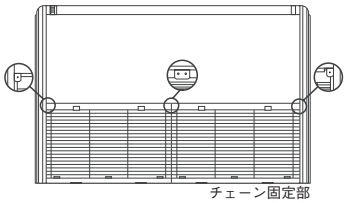
＊制御箱の形状に合わせて
取付けてください。

⑧吸込グリルの固定

●電気配線工事完了後、吸込グリルを固定してください。

1．吸込グリルに固定されているチェーンを、付属のねじで室内ユニット本体に取付け、吸込グリルを閉じてください。





⑨室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

(8) 壁掛形（FDK）

PHA012D404

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。
リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 絶対に行わない 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。
●この室内ユニットは､日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13) 限界濃度を超えない対策については､販売店と相談して据付ける｡万一､冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が､「電気設備に関する技術基準」､「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し､冷凍サイクル内が異常高圧になり､破裂､ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗
●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。 修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	⃠
●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。 据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。	❗
●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。 点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。	❗
●パネルやガードを外した状態で運転しない。 機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。	⃠
●元電源を切った後に電気工事を行う。 感電、故障や動作不良の原因になります。	❗

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器＋Ｂ種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
・高周波を発生する機械を使用する所
・海浜地区等塩分の多い所
・煙突の煙がかかる所
・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
・車両・船舶等移動するものへの設置
・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
・積雪の多い所
・標高１０００m以上の所
性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内ユニットの据付は避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと）。
・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
・強度が不十分で振動が発生する所
・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
・ドレンの排水がとれない所
性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
・長時間振動が加わる状態
・静電気や強い電磁波のある場所
・長時間高温、多湿になる場所
・塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの侵入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●ＧＨＰ〔ガスヒートポンプ〕の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井･床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として２人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

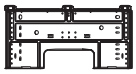
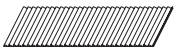
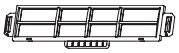
●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
　○機種・電源仕様　　○配管・配線・小物部品　　○付属品

据付関係

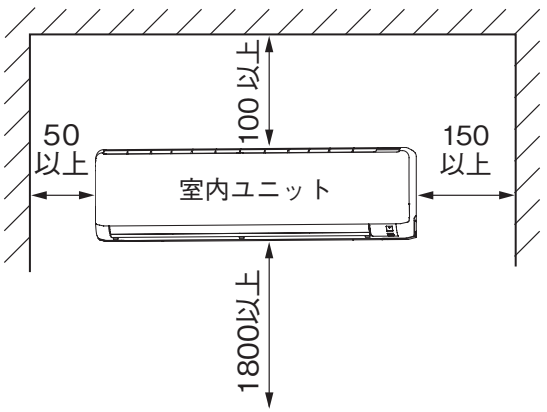
1	据付板		1 個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンねじ		10 個	据付板用　径 4mm× 長さ 25mm
3	インシュレーション		1 個	断熱用　50mm×100mm
4	空気清浄フィルタ		2 個	付属品
5	フィルタホルダ		2 個	付属品

②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが３ｍを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
・人感センサを取付ける場合据付高さは 4m 以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
・侵入外気の影響のない所。
・直射日光の当たらない所。
・周囲の露点温度が２３℃以下、相対湿度８０％以下の所。
〔本室内ユニットはJIS露付条件（室内：27℃/78%RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに１０～２０ｍｍの断熱材を取付けてください。〕
・テレビ、ラジオより１ｍ以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
③ワイヤレス機種を２台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を６ｍ以上離してください。

室内ユニット据付スペース

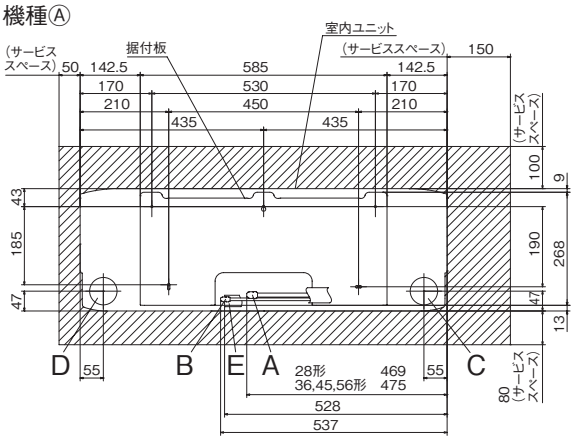
単位：〔mm〕



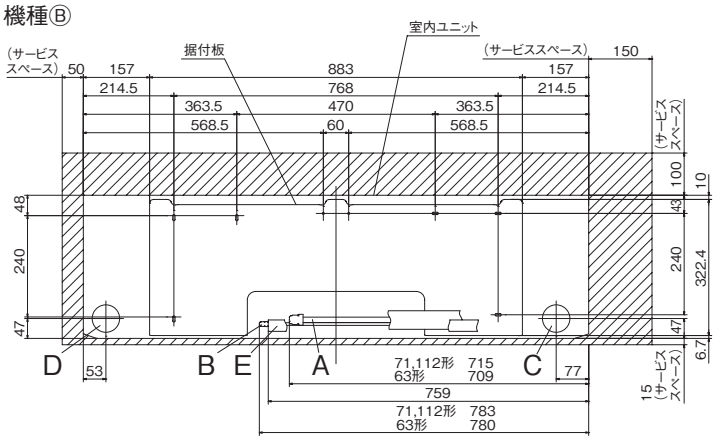
お願い
●点検、メンテナンス作業のため
　スペースを確保してください。

③据付前の準備

機種Ⓐ



機種Ⓑ



正面から見た据付位置図および据付スペース　　単位：〔mm〕

機種Ⓐ：店舗シリーズ 56 形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 28 ～ 56 形
機種Ⓑ：店舗シリーズ 63，112 形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 71 形

記号		記号	
A	ガス側配管	D	左配管後方抜壁穴
B	液側配管	E	ドレンホース
C	右配管後方抜壁穴		

④室内ユニットの据付

搬　入



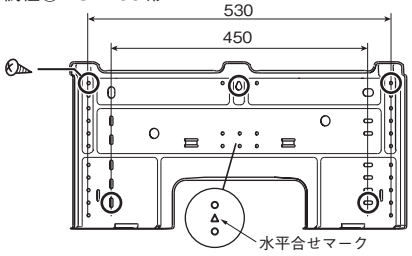
お願い
- ●搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- ●やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包み室内ユニットを傷つけないように注意してください。
  注）吹出ルーバ部分を持たないでください。
- ●解梱後室内ユニットを置く場合は、必ず室内ユニットの前面側を上にしておいてください。

据付板の取付

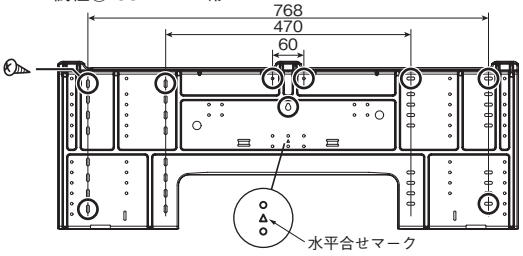
お願い
- ●この室内ユニットを直接壁面等に据付けることはできません。
  いずれの場所に据付ける場合にも**必ず付属の据付板を使って据付けてください。**

○据付板の水平調節は 5 ～ 9 本のねじを仮締めした状態で行います。

機種Ⓐ 28 ～ 56 形

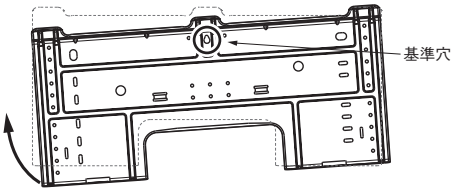


機種Ⓑ 63 ～ 112 形

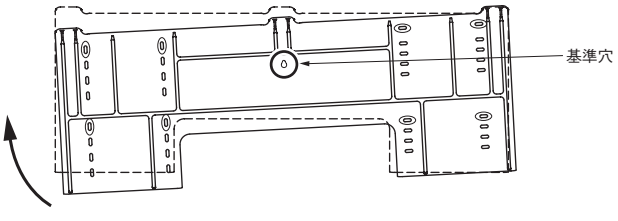


○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。

機種Ⓐ 28 ～ 56 形



機種Ⓑ 63 ～ 112 形

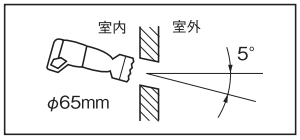


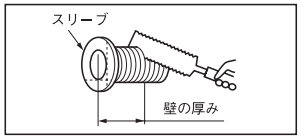
○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。

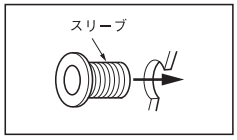
④室内ユニット据付のつづき

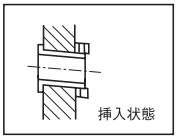
壁の穴孔け要領

●接続配線が壁の中のラスメタルなどに接触して危険が生じる場合がありますのでスリーブは必ず使用してください。
●左後抜き配管の場合、スリーブのツバが本体よりはみ出る場合がありますので、その場合はツバを切断してください。







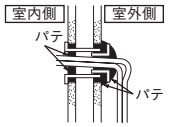


● φ65のホールコアドリルで穴あけをします。

●右後抜き配管の場合はスリーブのツバの下部および右側薄肉部を切りとります。（破線指示箇所）

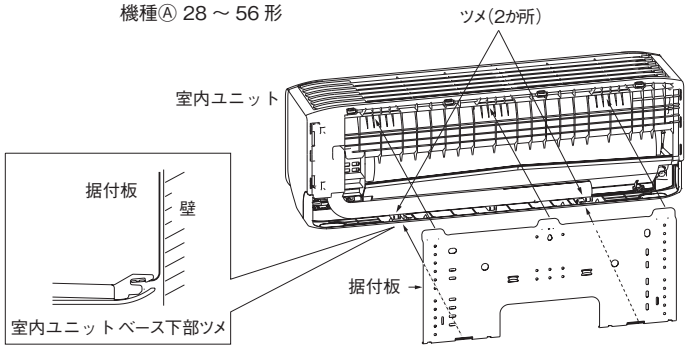
⚠警告
壁穴をパテで完全にシールしてください。（ホコリ・昆虫・小動物・高湿度の外気が室内ユニット内に流入し、火災の原因になることがあります。）

⚠注意
壁穴をパテで完全にシールしてください。（水漏れ・露たれし、家具等を濡らす原因になることがあります。）

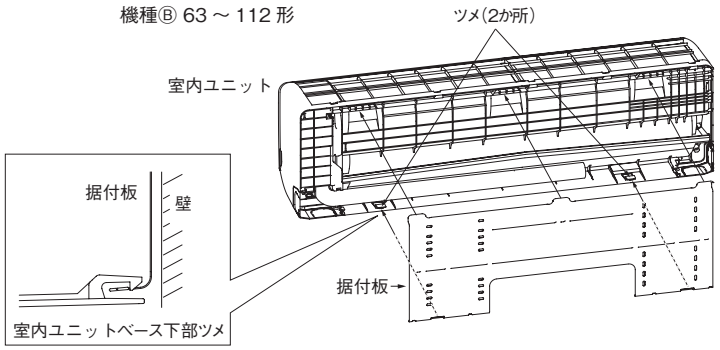


室内ユニットの据付

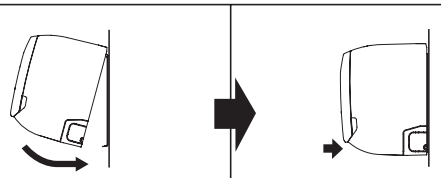
機種Ⓐ 28 ～ 56 形



機種Ⓑ 63 ～ 112 形



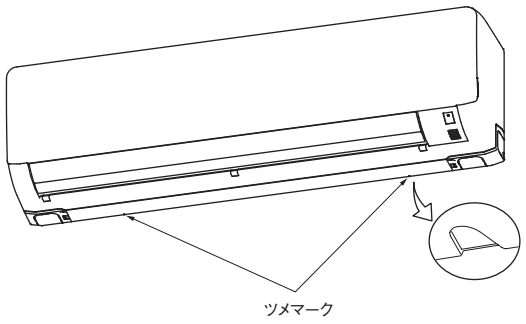
据付作業手順



①据付板に室内ユニット上部を引っ掛ける。

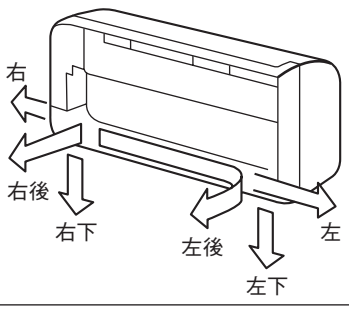
②室内ユニット下部を軽く押せばワンタッチで固定できます。

●室内ユニットを据付板から取外す場合
室内ユニットベース下部ツメ位置マーク部を指で上方向に押しながら、室内ユニット下部両端を引き上げてください。
室内ユニットベース下部ツメが据付板から外れます。

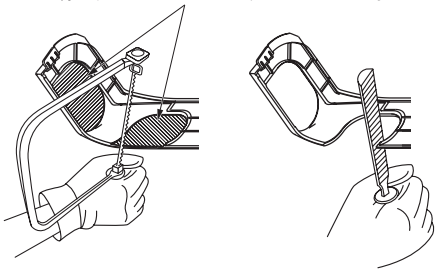


⑤配管・ドレンホースの整形

配管は、後、左、左後、右、下から取出せます。



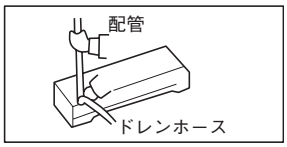
横または下部に配管する場合は、パネルを線に沿ってスムーズに切ってください。



⑤配管・ドレンホースの整形のつづき

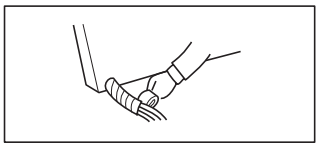
〈後ろ取出しの場合〉

○配管の整形



●配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する

○テープ巻き

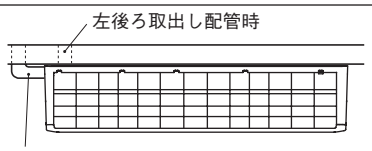


●壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
●塗り配線は必ず配管とテーピングしてください。
●テープ巻きの際，ドレンホースが引っ張られないように注意してください。

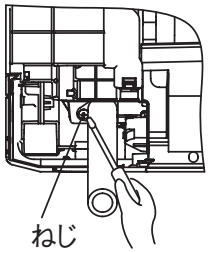
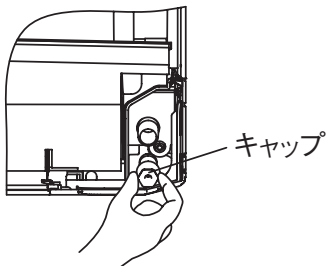
配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

〈左取出し・後ろ取出し時の注意事項〉

〈上から見たところ〉

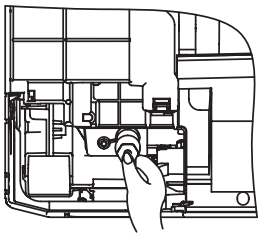
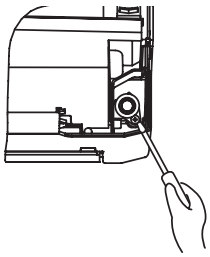
左引き配管時	右引き配管時
	

〈ドレンホース付替え作業手順〉

1．ドレンホースを外します。	2．ドレンキャップを外します。
	

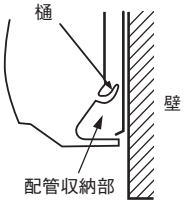
●ドレンホース固定用ねじを外しドレンホースを回転させながら外してください。

●手または、ペンチ等で外してください。

3．ドレンキャップを差込みます。	4．ドレンホースを接続します。
	

●2. で外したドレンキャップを六角レンチ等をもちいて確実に差込んでください。
注：確実に差込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

●ドレンホースを回転させながら確実に差込んだあと、固定用ねじを取付けてください。
注：確実に差込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

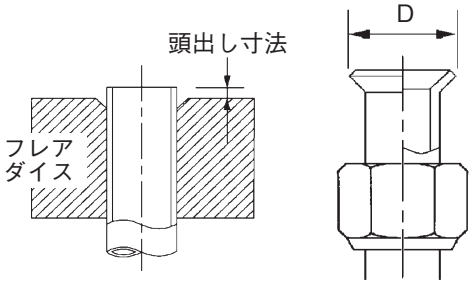


このエアコンは背面についた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、樋より上方に電源コード等を収納しないでください。

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの (JIS B 8607 2種適合品) をご使用ください。他のフレアナット（1 種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
既設配管再利用の可否および洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書またはカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



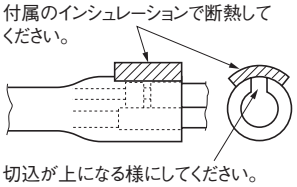
配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） R32 用 R410A 用	フレア加工 頭出し寸法 mm リジッド（クラッチ式） 従来ツール	フレア外径 D mm	フレアナット締付トルク N·m
6.35	0.8	0 ～ 0.5	0.7 ～ 1.3	8.9 ～ 9.1	14 ～ 18
9.52	0.8			12.8 ～ 13.2	34 ～ 42
12.7	0.8			16.2 ～ 16.6	49 ～ 61
15.88	1			19.3 ～ 19.7	68 ～ 82
19.05	1.2			23.6 ～ 24.0	100 ～ 120

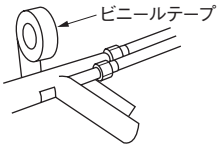
●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
●指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付する直前までシールしてください。
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
●工具はＲ３２用またはＲ４１０Ａ用の工具を使用してください。

作業手順

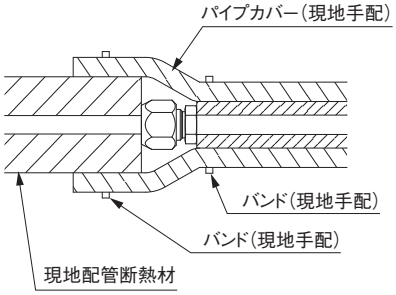
1．室内ユニットのフレアナットおよびキャップを取外してください。
※ 室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2．液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続してください。
※ 配管の曲げは４D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※ フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けで上表の締付力で締めてください。
3．室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、下図に示すように室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込部を断熱してからテーピングしてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※ 配管は断熱しないと結露し水漏れします。
●ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
●高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4．冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

注意
同一締付トルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、またはフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

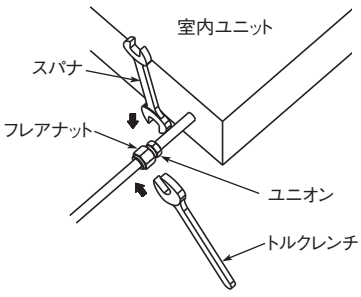




<室内ユニットの外部で配管接続し、断熱を強化する場合>



<2丁スパナ掛け>



⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
●接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
●水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
●施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口およびドレン配管最終出口部で確認してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時に排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

1．ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管ＶＰ１６が接続可能です。
2．ドレン配管は**ドレン水が流れやすいように下り勾配にし、**配管途中に**トラップをつくったり山越え配管をしないように**してください。
（左、右、後、下方向に取出し可能）
室内に施工の硬質塩ビパイプ（VP16）は確実に断熱してください。
3．熱交換器の下のドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。（前面パネルの取付け取外しについては本説明書 ⑨電気配線取出位置および電気配線接続 をご覧ください。）

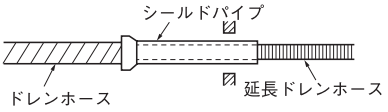
ドレン排水について

●ドレンホースは必ず下り勾配を付けてください。
●次のようなドレン排水は行わないでください。



高くなっている　ドレンホースの先が水につかっている　波打っている　地面とのすきまが5cm以下　ドレンホースの先が排水溝の中にある

●延長ドレンホースが室内にある場合は必ず、シールドパイプ（現地手配）を使用して確実に断熱してください。

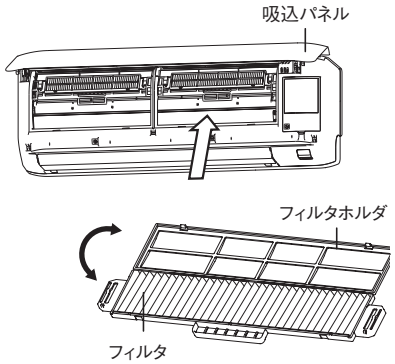


室内に露出している場合

●高気密住宅や高層マンション等に据付ける場合、または強風の影響で部屋が負圧になる場合は別売部品 “エアーカットバルブ(EA455A)” をご使用ください。

⑧空気清浄フィルタの取付

下記の手順に従って室内ユニットに取付けてください。



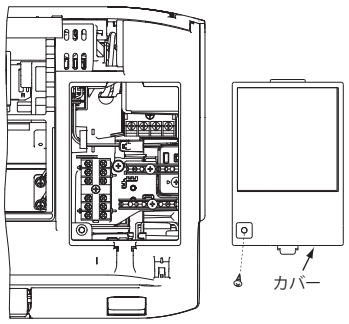
1　吸込パネルを開け、エアフィルタを取外します。
2　付属品に同梱されている水洗いサンフィルタ（オレンジ）と酵素強力除菌フィルタ（グリーン）をフィルタホルダに取付けます。
空気清浄フィルタ交換時は室内ユニット本体からフィルタホルダを取外し、新しい空気清浄フィルタと取替えてください。
※ 酵素強力除菌フィルタはプリーツ（ひだ形状）が手前側になるように取付けてください。水洗いサンフィルタはどちらをおもてにしていただいても結構です。
3　空気清浄フィルタを取付けたフィルタホルダをエアコン本体に取付けてください。
※ 水洗いサンフィルタ、酵素強力除菌フィルタは左右どちらへ装着いただいても結構です。
4　エアフィルタを取付け、吸込パネルを閉じます。

⑨電気配線取出位置および電気配線接続

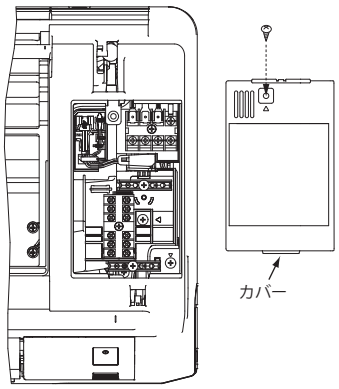
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
●D種接地工事を必ず行ってください。
●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

機種　Ⓐ：店舗シリーズ 56 形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 28 ～ 56 形
　　Ⓑ：店舗シリーズ 63、112 形／ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ 71 形
①吸込パネルを手前に引上げてください。
　左右側面の凹部に手をかけ手前に引上げますと約 60 ～ 70° 開いた状態で静止します。
②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
③各配線を端子台に確実に接続してください。
④各配線をバンドで確実に固定し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにしてください。
⑤カバーを取付け、ねじを締めます。
⑥吸込パネルを締めます。
　（注意）　・配線を端子台に取付けるときは、端子番号を確認してから取付けてください。

機種Ⓐ 28 ～ 56 形

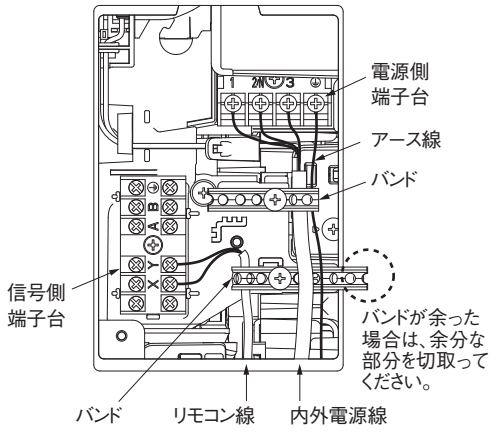


機種Ⓑ 63 ～ 112 形

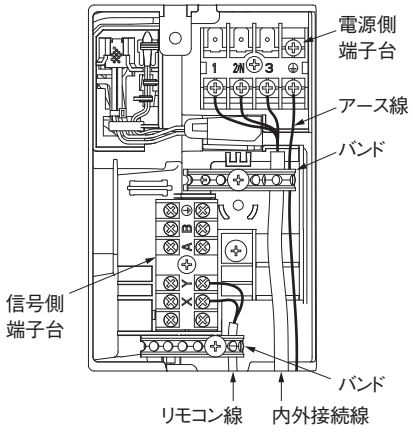


店舗シリーズ

機種Ⓐ 56形

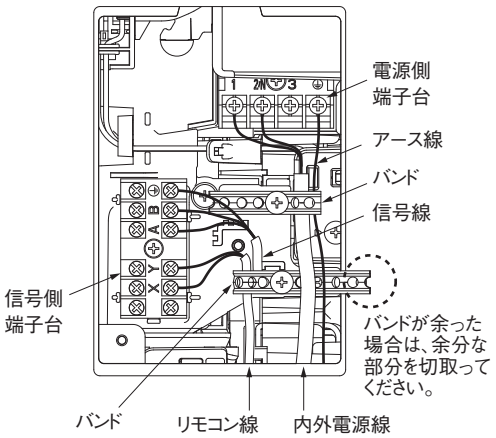


機種Ⓑ 63、112形

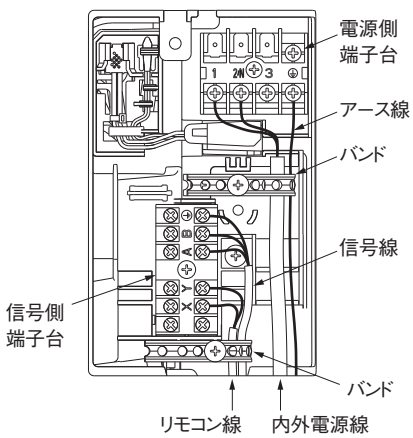


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ

機種Ⓐ 28～56形



機種Ⓑ 71形



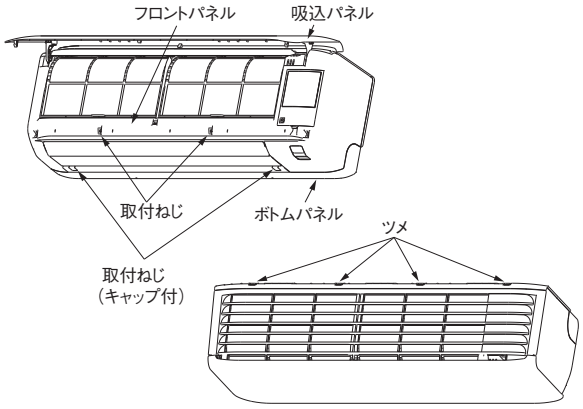
⑨電気配線取出位置および電気配線接続のつづき

●アドレス設定

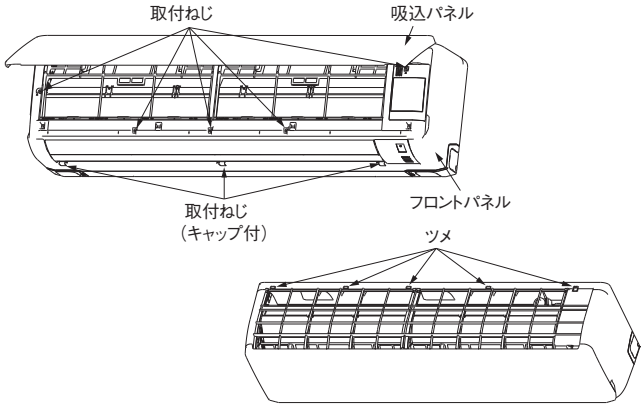
室内ユニット本体のフロントパネルと、コントロールボックスのふたを取外すことでアドレススイッチの設定が可能です。

1. フロントパネルの取外し順序
   ①吸込パネルを取外してください。
   ②ボトムパネルの取付ねじを外してください。（機種Ⓐのみ、キャップ付き）
   ③ボトムパネルの両側にあるツメ（2か所）を取外し、ボトムパネルのを取外してください。（機種Ⓐのみ）
   ④取付ねじを取外してください。（機種Ⓐ2か所、機種Ⓑ5か所・キャップ付3か所）
   ⑤上部のツメ（機種Ⓐ4か所、機種Ⓑ5か所）を外し、フロントパネルを取外してください。
2. フロントパネルの取付順序
   ①フロントパネルを室内ユニットにかぶせ、上部のツメ（機種Ⓐ4か所、機種Ⓑ5か所）を引っ掛けてください。
   ②取付ねじを締めます。（機種Ⓐ2か所、機種Ⓑ5か所・キャップ付3か所）
   ③ボトムパネルの両側にあるツメ（2か所）を引っ掛け、ボトムパネルを取付けてください。（機種Ⓐのみ）
   ④ボトムパネルの取付ねじを締めてください。（機種Ⓐのみ、キャップ付き）
   ⑤吸込パネルを取付けてください。

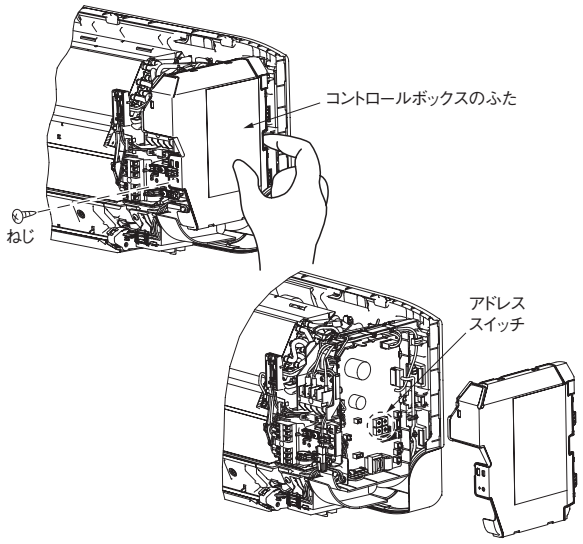
機種Ⓐ 28 ～ 56 形



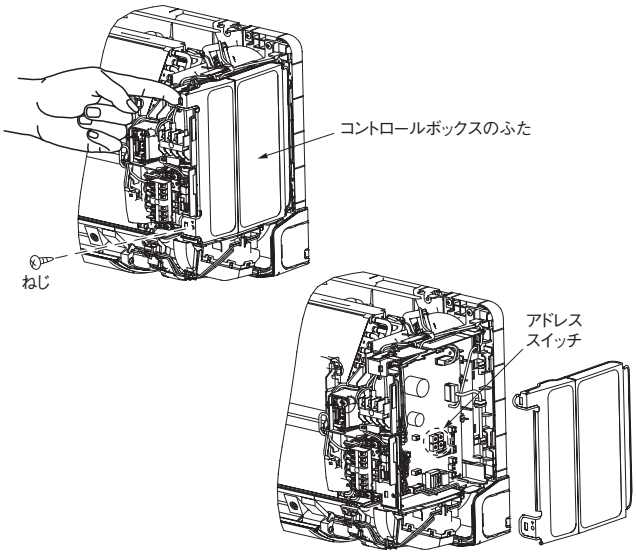
機種Ⓑ 63 ～ 112 形



機種Ⓐ 28 ～ 56 形



機種Ⓑ 63 ～ 112 形



⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

(9) 床置ダクト形（FDAS）

PAA012D028

本説明書は、床置形室内機の据付方法を記載してあります。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）および冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、技術資料をご覧ください。本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

安全上のご注意

●据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意、に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に⚠警告の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●ここで使われる"図記号"の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う
●据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

●据付は、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。 ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。	❗
●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付に不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。	❗
●小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。（JRA GL-13） 限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。	❗
●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。 当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。	❗
●作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。 冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度が不足している場合は、ユニットの落下・転倒などにより、ケガの原因になります。	❗
●台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。 据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。	❗
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを入れない。 空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	⃠
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。	❗
●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。 接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。	❗
●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。 カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。	❗
●据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒が室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。	❗
●配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。 既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。	❗
●フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。 フレアナットの締付過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。	❗
●ドレン配管は硫黄系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。 室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内ユニットを腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。	⃠
●据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。 冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後、配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。	❗
●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付は専門業者に依頼する。 ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。	❗

●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。

●ユニット搬入する際、重量に適合したロープをユニット所定位置に掛けて行う。
搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因となります。

●電源接続部にはほこりの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、確実に接続する。
ほこりの付着、詰まり、がたつきがあると感電、火災の原因になります。

⚠注意

●アース(接地)を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース(接地)が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●漏電しゃ断器は必ず取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ(漏電しゃ断器・手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)・配線しゃ断器)を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。

●腐食性ガス(亜硫酸ガスなど)、可燃性ガス(シンナー、ガソリンなど)の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付、使用は行わない。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。

●工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。

●洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしておりません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。

●食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。

●病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。

●直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

●次の場所への据付は避ける。
- 可燃性ガスの漏れる恐れがある所
- 硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、機器に影響する物質の発生する所
- 油の飛沫や蒸気が多い所(調理場、機械工場など)
- 高周波を発生する機械を使用する所
- 海浜地区等塩分の多い所
- 煙突の煙がかかる所
- カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
- 車両・船舶等移動するものへの設置
- 化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
- 積雪の多い所
- 標高1000m以上の所

性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

●次の場所への室内機の据付は避ける。(機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと)。
- 吸込口、吹出口に風の障害物がある所
- 強度が不十分で振動が発生する所
- ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当らない所
- 高周波に影響される機器のある所(TVおよびラジオ等の近傍)
- ドレンの排水がとれない所

性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。

●エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。

●長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。

●ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

●冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。

●ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

●冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。

●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

●製品の運搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPバンドなど所定の位置以外を持って製品を動かさないで下さい。素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。

●梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。

●フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。

●濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。

●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。

●エアコンを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
電気ヒータ等のオプション品を接続する場合は、5分以上の残留運転をすることがありますので、付属の説明書に従ってください。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

●空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒータなどの別売品は、必ず当社指定の製品を使用する。
また、取付工事は販売店または専門業者に依頼する。ご自身で工事され、不備があると、水漏れ、感電、火災の原因になります。

●室外ユニットを屋上あるいは高所に設置する場合は、転落防止のため、通路には恒久ハシゴ、手すり等を、また室外ユニットの周囲にはフェンス、手すり等を設ける。

●据付・点検・修理時に取外したパネルは安定した場所に置く。
不安定な場所に置くと、落下・転倒などによる受傷の原因となります。

●ダクトまたは吹出チャンバ（オプション）を接続して使用する。
吹出口から、ファンに巻き込まれによるケガの原因となります。

●包装用のバンドを持って荷扱いしない。

●素手で梱包用の木材を扱わない。

●動植物に直接ファン吹出し風が当たる場所には設置しない。
吹出し風による植木等への被害の原因になります。

●室外ユニット・室内ユニットの上に物を置いて運転を行わない。
落下物により物が破損したり、ケガの原因となります。

●室外ユニット・室内ユニットの上に乗らない。
落下、転倒等によりケガの原因となります。

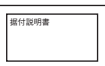
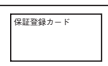
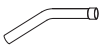
①据付のまえに

▶据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。　▶まず下記項目を確認してください。

●機種・電源仕様　●配管・配線・小物部品　●付属品

<付属品>

付属品はユニット内(ドレンパンの上)にあります。

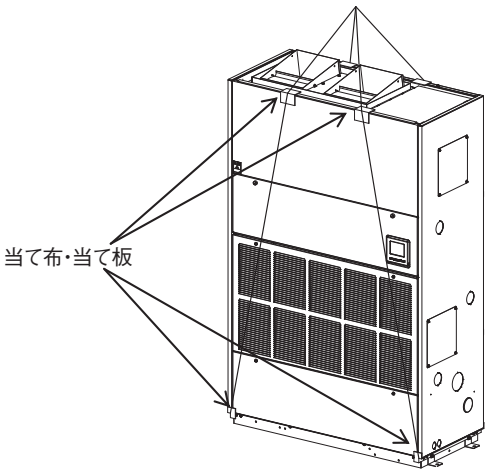
1	据付説明書(本書)		1	3	保証書		1	5	グロメット(大)		1
2	取扱説明書		1	4	パイプ (P140, 224, 280のみ)		1	6	グロメット(小)		2

②運搬・搬入

●搬入経路を決めて、出来るだけ梱包状態のまま据付位置近くまで搬入してください。

●吊り上げる場合は、梱包状態のままロープをかけるか、図のように当て板・当て布で室内ユニットを傷つけないよう保護し、2本ロープにて吊り上げてください。

●ユニットとロープの接触面は当て板、当て布を添えて傷つかないようにしてください。



【ユニット上下分割搬入方法】 P450, 560のみ

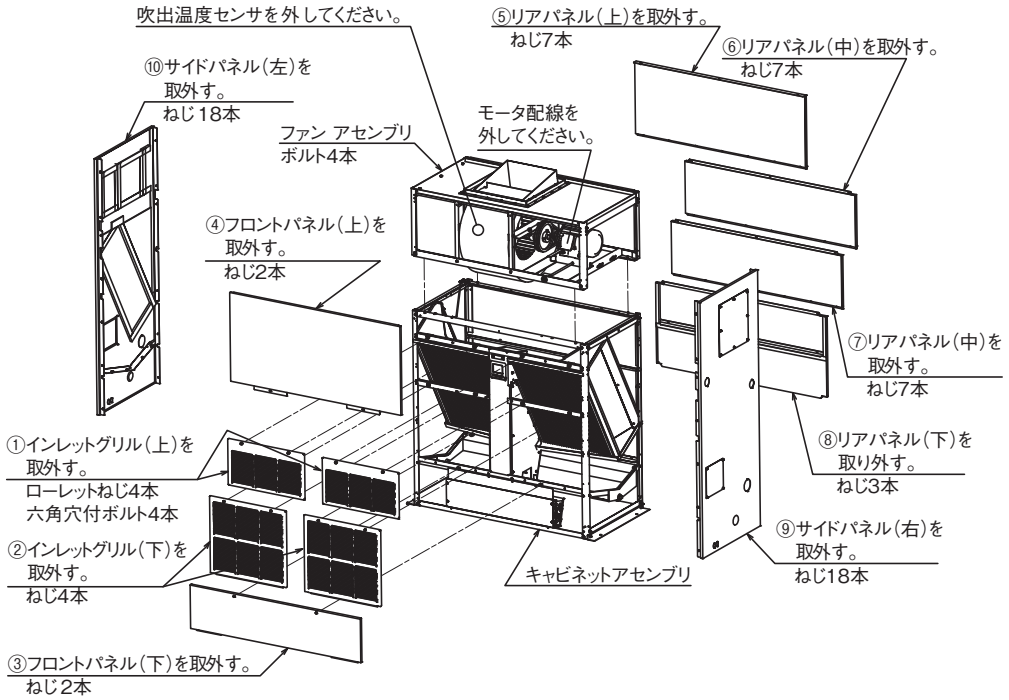
搬入経路の高さ方向に制限がある場合は以下の手順でユニットを上下分割して搬入してください。

搬入後は、逆の手順で元の状態に組み立ててください。

1.パネルを取外してください(①～⑩)。

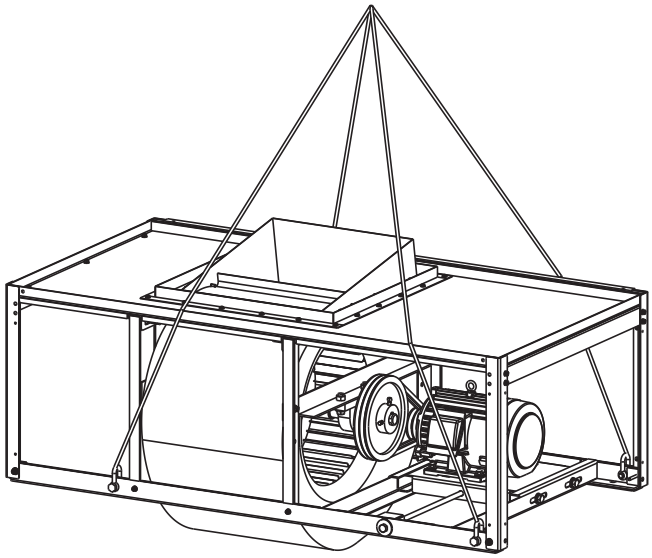
2.モータ配線および吹出温度センサを外してください。

3.ファンアセンブリをキャビネットアセンブリから外し上下分割してください。



ファンアセンブリ吊り上げ要領

ファンアセンブリを吊り上げる際には、下側フレームにある4つの穴（φ11）に呼び8のシャックルを取付け、2本ロープにて吊り上げてください。



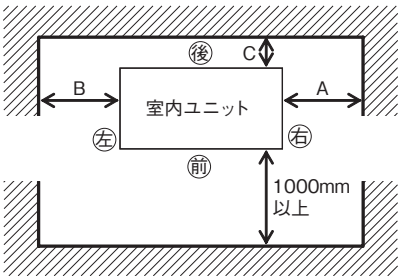
注意事項

1. モータ配線および吹出温度センサは、出荷時の配線経路で必ず固定してください。
   配線経路の変更や固定位置変更は故障の原因となります。
2. 取外したねじ等は保管して搬入後速やかにもとの位置にしっかり固定してください。
   ねじ取付忘れ等は故障の原因となります。
3. ファンアセンブリを搬入または仮保管する際は方向にご注意ください。
   傾けて搬入または仮保管するとプーリのゆるみ等が発生し故障の原因となります。
   現地取付後必ずプーリベルトのテンション確認を行ってから運転してください。
   プーリベルトがゆるんだ状態で運転すると故障の原因となります。

③据付場所の選定と据付

1. 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
   - ●冷風または温風が十分に行きわたる所。
   - ●据付・サービス時の作業スペースが確保出来る所。
   - ●ドレン排水が確実に出来る所。ドレン勾配のとれる所。
   - ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
   - ●侵入外気の影響のない所。
   - ●直射日光の当たらない所。
   - ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
     本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、問題のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニット本体の全て及び配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。
   - ●テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
   - ●調理器具が発する熱の影響を受けない所。
   - ●油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
   - ●ユニットの上に物を置かないようにしてください。

2. 据付けようとする場所はユニット重量に耐えることができ、水平な場所としてください。危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
3. ユニットは水平に設置してください。（ベース面で左右の差は5mm以下。ドレン勾配を設けてください。）
4. 点検メンテナンスのためのスペースを確保してください。



【P140, 224, 280の場合】 (mm)

配管取出方向	A	B	C	H
左	500(100)以上※1	500 以上	500(100)以上※2	200 以上
右	500 以上	100 以上	500(100)以上※2	200 以上

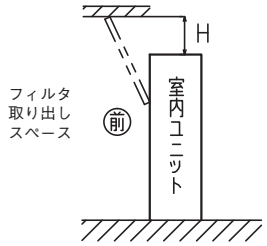
【P450, 560の場合】 (mm)

配管取出方向	A	B	C	H
左	100 以上	500 以上	500(100)以上※2	100 以上
右	500 以上	100 以上	500(100)以上※2	100 以上

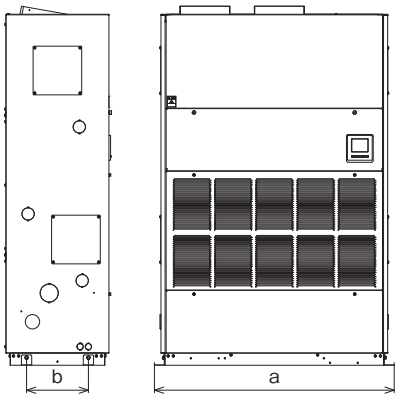
※1（ ）内の設定条件では、熱交温度センサの交換作業等をする場合、A寸法を500mm程度確保する必要があります。作業時は、ユニット移動等で対応お願いいたします。

※2（ ）内の設定条件では、ファンデッキの交換や熱交洗浄作業等によりリアパネルを取外す場合、C寸法を500mm程度確保する必要があります。作業時は、ユニット移動等で対応お願いいたします。

図は標準状態での必要スペースを示しています。後ろ吸込やOA取込みをする場合は、ダクト大きさに応じてスペースを確保してください。

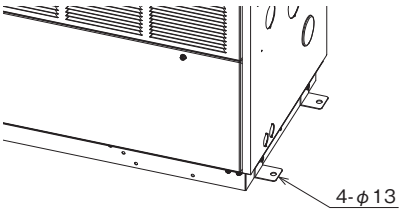


5. 固定金具と床面を固定してください。
固定ボルトの位置は下図の様になっています。

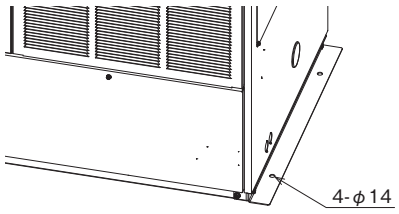


(mm)

機種	a	b
P140	837	300
P224, 280	1137	300
P450, 560	1537	500



【P140, 224, 280】



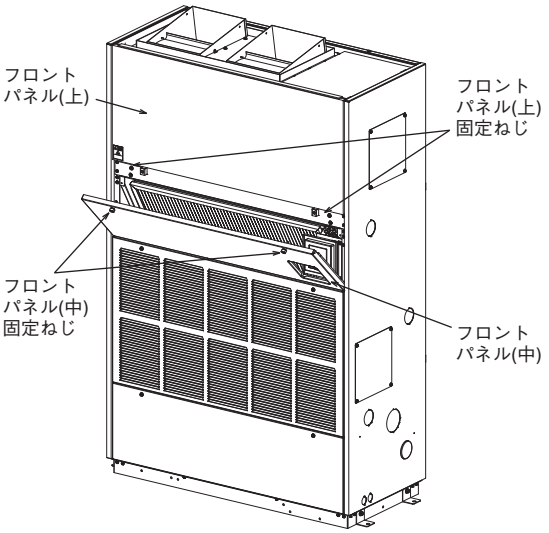
【P450, 560】

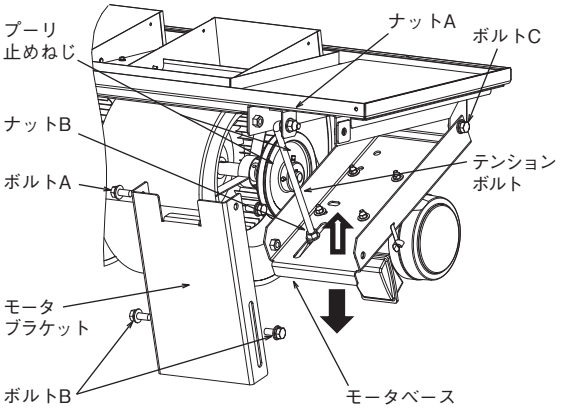
④プーリ・ベルト交換要領

プーリ･ベルトを交換することで風量･機外静圧を調整することが可能です。プーリ･ベルトを変更する場合は以下の手順で変更してください。プーリは重量物ですので扱いに注意してください。なお、風量･機外静圧を変更した場合は、本体に変更後の値を記録してください。

【P140, 224, 280の場合】

1. フロントパネル(中)を開けてください。
2. フロントパネル(上)を外してください。
   開いているフロントパネル(中)を一度閉めてください。
3. 工具の落下などにより、熱交換器を傷付けることを防止するため、十分に強度のある鉄板やベニヤ板などを熱交換器の上に置いてください。
4. ボルトA、Bをゆるめ、モータブラケットを外してください。
5. モータベースが可動できるよう、ボルトC、ナットAをゆるめてください。
6. ナットBをゆるめて、モータベースを上(⇨印)方向へ動かし、プーリ間距離を縮めてベルトを取外してください。この際、プーリ間距離を縮めずに、無理に棒などを差込んでベルトを取外すことはやめてください。
7. ファンプーリ、モータプーリの止めねじをゆるめてプーリを取外してください。
8. 交換するプーリに付替えてください。
   プーリの傾きは●プーリの傾きの項目に示す図のようにしてください。止めねじは緩み止め剤を塗布の上、シャフトのキー・Dカット部で止めてください。
9. ベルトをかけ、ナットBを締めてモータベースを下(➡印)方向へ動かしてベルトを張ります。
   Vベルト1本当たりの張力(張り具合)はたわみ量Lの値を①式にて計算し、その時のたわみ荷重が表①の範囲となるようにセットしてください　。
10. ボルトC、ナットAを締付けて固定した後、モータブラケットを取付けてボルトA、Bを締付けてください。

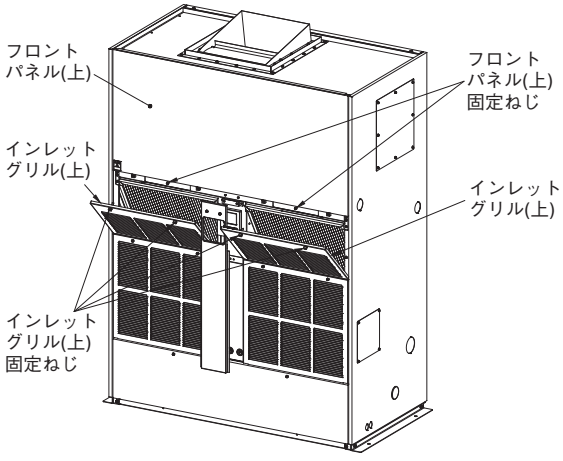


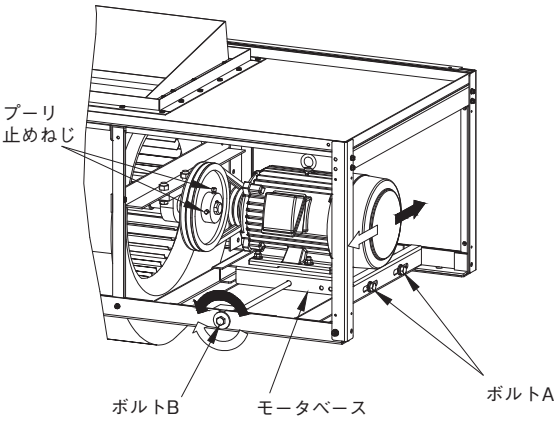


【P140, 224, 280】

【P450, 560の場合】

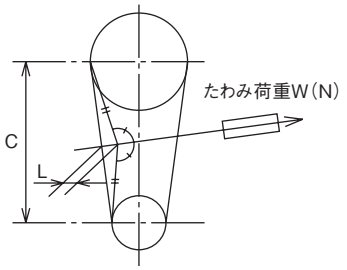
1．インレットグリル（上）を開けてください。
2．フロントパネル（上）を外してください。開いているインレットグリル（上）を一度閉めてください。
3．工具の落下などにより、熱交換器を傷付けることを防止するため、十分に強度のある鉄板やベニア板などを熱交換器の上に置いてください。
4．ボルトAをゆるめて、モータベースの固定を外してください。
5．ボルトBを時計回りに回して、モータベースを手前（⇒印）方向へ動かし、プーリ間距離を縮めてベルトを取外してください。この際、プーリ間距離を縮めずに、無理に棒などを差込んでベルトを取外すことはやめてください。
6. ファンプーリ、モータプーリの止めねじをゆるめてプーリを取外してください。
7. 交換するプーリに付替えてください。プーリの傾きは●プーリの傾きに示す図のようにしてください。止めねじは緩み止め剤を塗布の上、シャフトのキー、Dカット部で止めてください。
8. ベルトをかけ、ボルトBを反時計回りに回しモータベースを奥（➡印）方向へ動かしてベルトを張ります。Vベルト1本当たりの張力（張り具合）はたわみ量Lの値を①式にて計算し、その時のたわみ荷重が表①の範囲となるようにセットしてください。
9. ボルトAを締付け、モータベースを固定してください。





【P450, 560】

●ベルト張力は下記のようにしてください。



$L = 0.016 \times C$ ——— ①

C ： プーリの軸間距離(mm)

表①　　ベルトはレッド仕様をご使用ください。

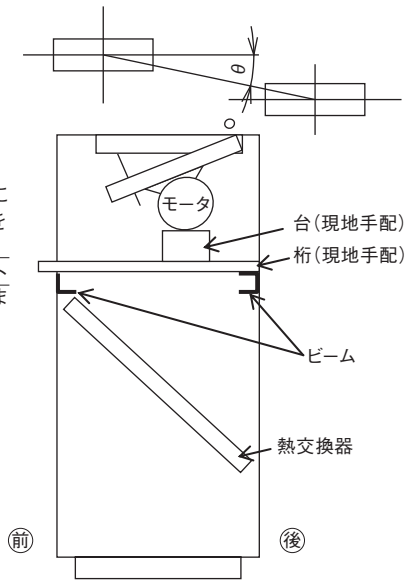
Vベルト種類	モータプーリ径 (mm)	新しいベルトを張るとき	張り直しを行うとき
		たわみ荷重W(N/本)	たわみ荷重W(N/本)
A形	65～80	16	11～14
	81～90	19	13～17
	91～105	23	16～20
	106～	26	19～24
B形	115～135	32	22～28
	136～160	38	26～33
	161～	41	28～36

●プーリの傾き
プーリ同士の傾き(平行度、偏心度)はθ＜1/3°以下となるようにしてください。

●モータの交換
モータは重量物ですので扱いに注意してください。
P140，224，280のモータ交換をする場合は、図のように室内ユニット前後にあるビームに桁をかけて、その上に台を置き、モータを支えて交換してください。
P450，P560のモータ交換をする場合は、④プーリ・ベルト交換要領に従いモータベースを移動させ交換が容易な位置まで移動してからモータ交換してください。

(参考)モータ重量

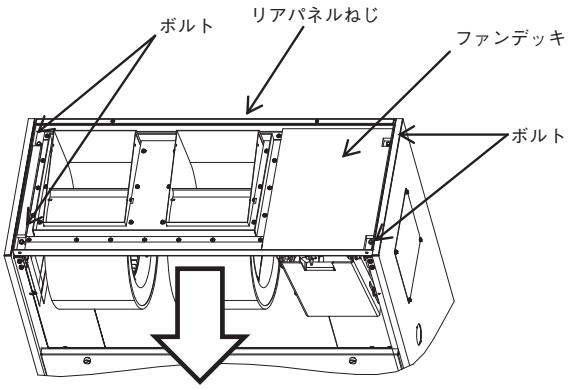
機種	重量
P140, P224	約13kg
P280	約23kg
P450	約36kg
P560	約48kg



【P140, 224, 280】

●ファンを交換する場合は、ファンデッキを本体から取外して作業してください。
【P140, 224, 280の場合】
ファンデッキを取外すには、上部ボルトとリアパネル上部のねじを取外す必要があります。
【P450, 560の場合】
②運搬・搬入の【ユニット上下分割搬入方法】に従いファンデッキを本体から取外してください。

⚠ 重量物のため扱いに注意し、二人以上で作業する。
P450, P560は、クレーン・ハンドリフトなどを利用して作業する。



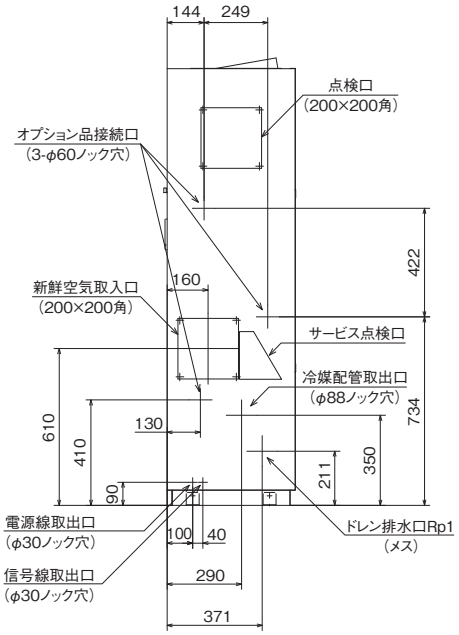
(参考)ファンデッキ重量

機種	重量
P140	約23kg
P224	約56kg
P280	約66kg
P450	約132kg
P560	約144kg

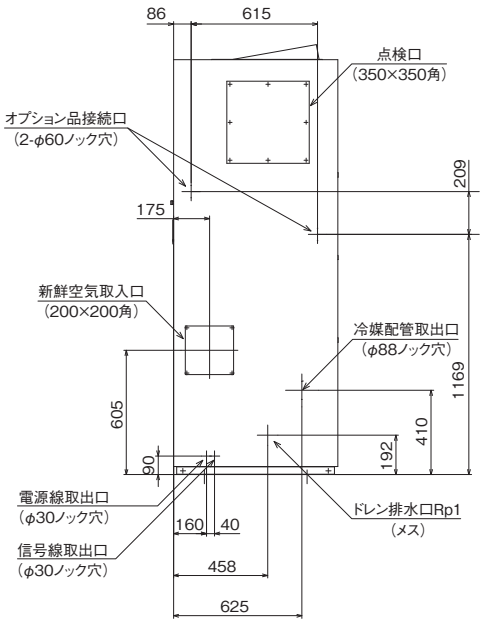
⑤冷媒配管工事

配管は下図に示す冷媒配管取出口より取出してください。

P140, 224, 280配管等接続穴位置

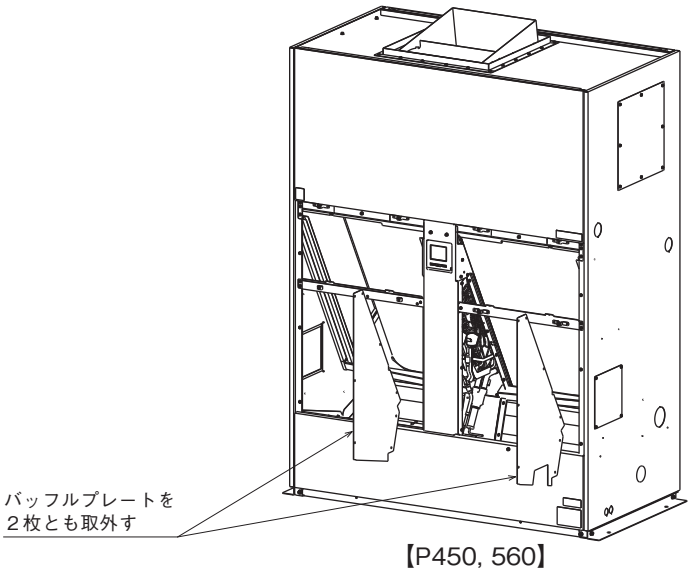


P450, 560配管等接続穴位置



冷媒配管工事時の注意事項

●配管は下記材質のものをご使用ください。(材質)リン脱酸銅継目無配管
φ15.88以下：C1220T, JIS H 3300、φ19.05以上：C1220T-1/2H, JIS H 3300
●配管の曲げは出来るだけ大きな半径(配管径の4倍以上)で行ってください。
●配管の曲げ直しを何回も行わないでください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。
●本機はR410Aを使用してください。
●気密試験は室外ユニットの据付説明書に従い行ってください。
1. エアフィルタを取外してください。ろう付の火炎が当たるとフィルタを溶かしてしまいます。
2. P450, 560の場合、膨張弁の左右にあるバッフルプレートを２枚とも取外してください。

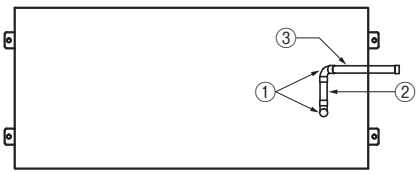


【P450, 560】

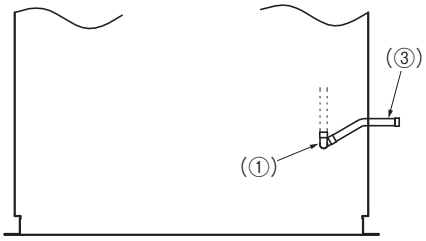
3．ドレンパン・樹脂部品・断熱材・膨張弁にろう付の火炎が当たらぬよう、当て板などをして保護してください。
4．ガス管・液管の管端部のつぶし配管を取外してください。
5．付属配管と現地手配配管を使い、図のように接続してください。配管工事に必要となる現地手配配管の長さおよびサイズは表に従い準備してください。各継手と配管の接続はろう付にて行ってください。
●冷媒配管は室内ユニット内側が下りとなるよう勾配をつけてください。室内ユニット外側に下り勾配が付いていると、室内ユニット内部で発生した結露水が室内ユニット外側に漏れ出す原因となります。
●ろう付は必ず窒素ガスを流しながら行ってください。窒素ガスを流さないと多量の異物（酸化被膜）が生成され、キャピラリチューブまたは膨張弁詰まりによる致命的故障の原因となります。

【P140, 224, 280】
【右抜き配管の場合】
●冷媒配管接続位置（点線部はユニット本体の配管を示します。）

・ガス管



［ユニット上面］

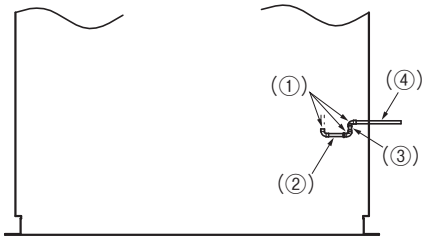


［ユニット正面］

・液管



［ユニット上面］



［ユニット正面］

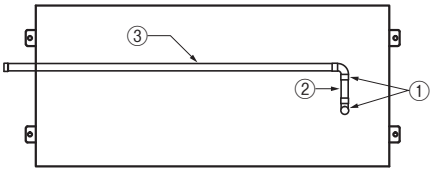
●現地手配配管および継手

	ガス管	液管
P140	① 継手（φ15.88用）×2個 ② 104 配管（φ15.88用）×1個 ③ 【付属配管】	① 継手（φ9.52用）×3個 ② 63 ③ 34.6 ④ 148 配管（φ9.52用）×各1個
P224 P280	① 継手（φ22.22用）×2個 ② 91 配管（φ22.22用）×1個 ③ 【付属配管】	① 継手（φ9.52用）×3個 ② 63 ③ 34.6 ④ 148 配管（φ9.52用）×各1個

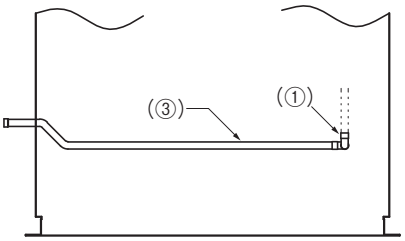
【左抜き配管の場合】

●冷媒配管接続位置（点線部はユニット本体の配管を示します。）

・ガス管

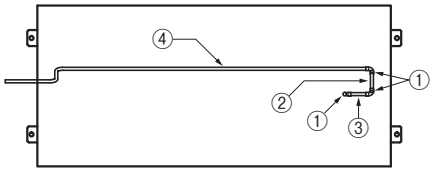


［ユニット上面］

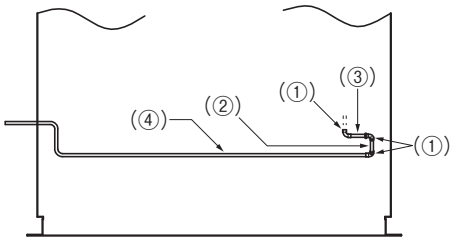


［ユニット正面］

・液管



［ユニット上面］



［ユニット正面］

●現地手配配管および継手

	ガス管	液管
P140	① 継手（φ15.88用）×2個 ② 104 配管（φ15.88用）×1個 ③ 745, 70, 内径φ15.88 配管（φ15.88用）×1個	① 継手（φ9.52用）×3個 ② 77.2 ③ 63 配管（φ9.52用）×各1個 ④ 830, 671.1, 107.3 配管（φ9.52用）×1個
P224 P280	① 継手（φ22.22用）×2個 ② 91 配管（φ22.22用）×1個 ③ P224: 内径φ19.05 P280: 内径φ22.22 1038, 70 配管（φ22.22用）×1個	① 継手（φ9.52用）×3個 ② 77.2 ③ 63 配管（φ9.52用）×各1個 ④ 1130, 971.1, 107.3 配管（φ9.52用）×1個

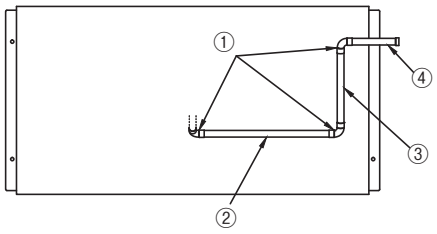
【P450,560】

パン形加湿器、蒸気スプレー式加湿器を取付ける場合には、それぞれの据付説明書に従い冷媒配管の接続をしてください。

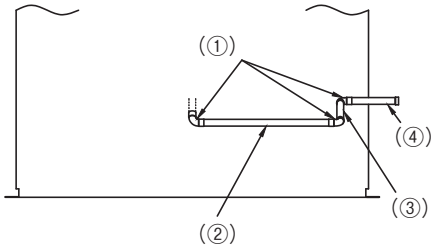
【右抜き配管の場合〈左抜き配管は左右対称形〉】

●冷媒配管接続位置（点線部はユニット本体の配管を示します。）

・ガス管

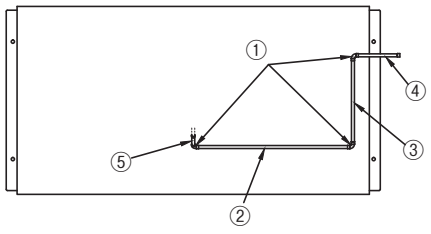


［ユニット上面］

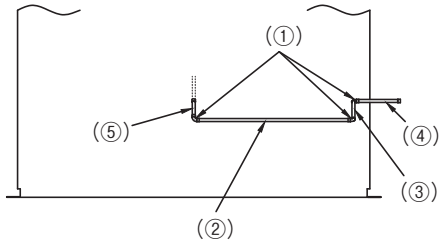


［ユニット正面］

・液管



［ユニット上面］



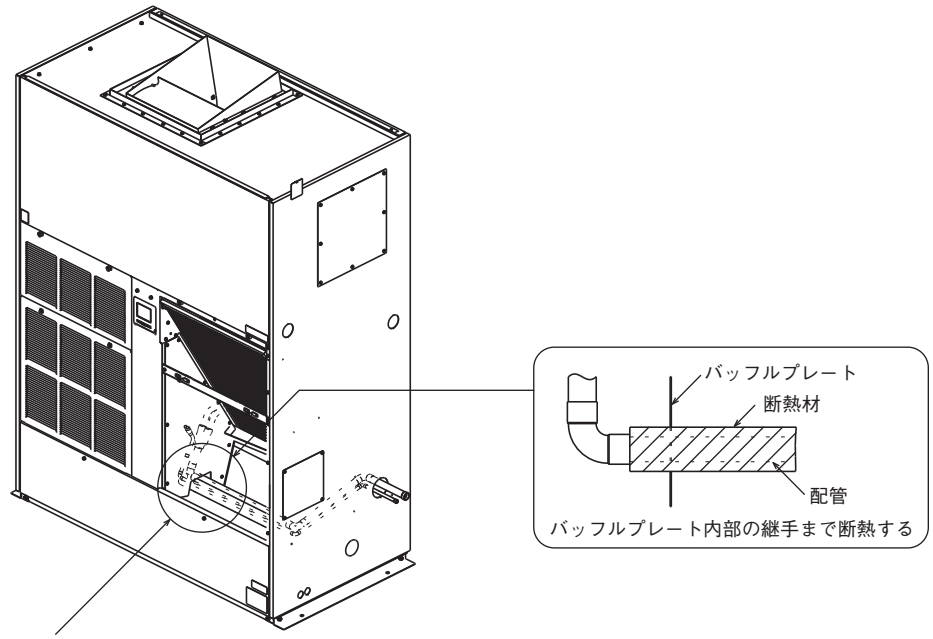
［ユニット正面］

●現地手配配管および継手

	ガス管	液管
P450 P560	① 継手（φ28.58用）×3個 ② 574 配管（φ28.58用）×1個 ③ 347 配管（φ28.58用）×1個 ④ 220 （片側拡管）配管（φ28.58用）×1個	① 継手（φ12.7用）×3個 ② 652 配管（φ12.7用）×1個 ③ 371 配管（φ12.7用）×1個 ④ 186 （片側拡管）配管（φ12.7用）×1個 ⑤ 86 （片側拡管）配管（φ12.7用）×1個

6. ガス側配管・液側配管ともに断熱を行ってください。断熱材厚さは20mm以上としてください。断熱はユニット内部の継手まで行ってください。P450，560の場合はバッフルプレート内部の継手まで断熱を行ってください。

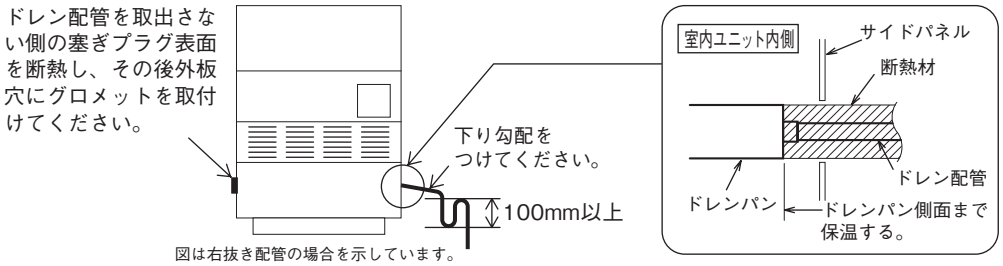
7. P450，560の場合は、取外したバッフルプレートを取付けてください。その際にバッフルプレートの切欠部に配管が通るようにしてください。出荷時は、右抜き用に切欠部のあるバッフルプレートが取付けられていますので、左抜きとする場合は、切欠部のあるバッフルプレートを左右で付替えてください。



【P450, 560】

8. 配管取出部より埃・小動物の侵入を防ぐため、パテなど（現地手配）で配管取出口の隙間を埋めてください。

⑥ドレン配管工事



●ドレン配管は必ず断熱してください。断熱は室内ユニット内のドレンパン側面のソケット部まで行ってください。 配管工事に不備があると、水を漏らし家財等を濡らす原因となります。

●ドレン配管を接続する場合、室内ユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、出来る限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。

●ドレン配管は、室内ユニット外側に下り勾配（1/50～1/100）とし、100mm以上の水封が作れるトラップを設けてください。（臭気止め、逆流防止の為）

●ドレン配管を取出さない側の塞ぎプラグ表面を断熱してください。その後、外板穴にグロメットを取付けてください。

●配管施工後、排水が良好に行われていることと、水漏れのないことをご確認ください。

●ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。

●ドレンパンは定期的に清掃してください。

●ドレン配管サイズは途中で細くしないでください。またドレン配管が集合する場合は十分な大きさとしてください。

⚠ 警 告

ドレン配管は、硫黄系ガス等有害ガスおよび可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有害ガスおよび可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

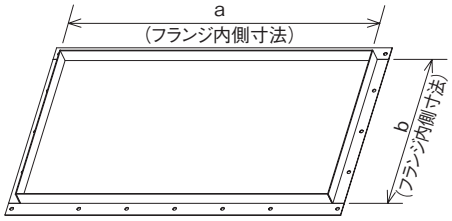
⑦ダクト工事

1. ダクト接続

●図に示すダクトフランジが室内機上部に取り付けられています。接続するダクトに合わせて、側面に穴をあけて接続してください。

●室内ユニットとダクト、ダクトのサポート等は必要に応じて防振キャンバス、防振ゴム等により接続・支持し振動の伝播及び騒音の増幅等にならないよう施工してください。

●ダクト接続後、ダクトフランジが露出している部分は断熱を施してください。



(mm)

機種	a	b
P140	350	350
P224, 280	650	350
P450, 560	529	533

⑧電気配線工事

●電気配線工事は電気設備技術基準および内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。
本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

1）電線は銅線以外のものを使用しないでください。

2）電源は、室外ユニット・室内ユニットそれぞれ別電源とし、専用回路かつ定格の電圧を使用してください。

3）電気ヒータ(別売品)は含んでおりません。

注)電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますのでご注意ください。
詳細は、電気ヒータの据付説明書をご覧ください。

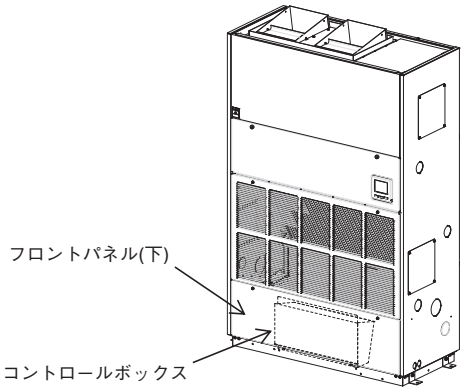
4）信号線用端子台に電源線を接続しないでください。

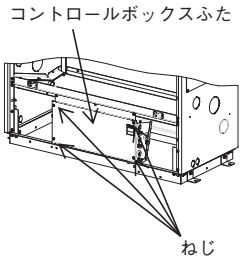
電源線の接続を間違え接続しますと、基板が焼損してしまいます。

Ⓐ 電源・室内外接続線

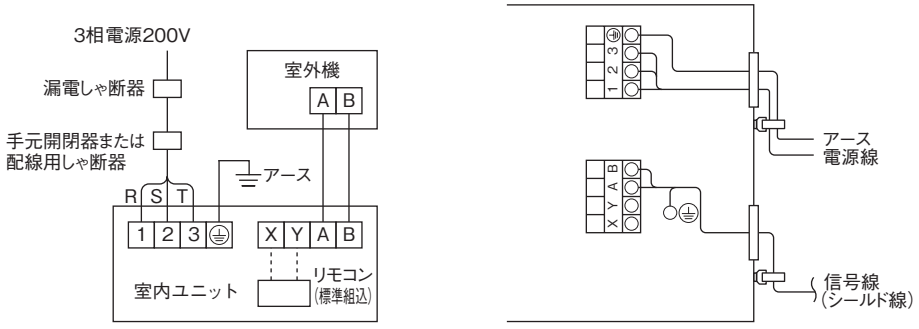
※室外ユニットの電源仕様と配線仕様については室外ユニットの据付説明書をご覧ください。

コントロールボックスはフロントパネル(下)を外したユニット下部にあります。
コントロールボックスのふたを外し、電源線・アース・信号線を接続してください。
電源線・アース・信号線を接続する際は、必ずコントロールボックスに装着されたバンドに通してください。





フロントパネル(下)を外した状態



電源仕様

機種	漏電しゃ断器(地落、過負荷、短絡保護兼用)			ヒューズ付開閉器(A)		配線用しゃ断器(A)
	定格電流(A)	感度電流(mA)	動作時間(sec)	開閉器容量	過電流しゃ断器(B種ヒューズ容量)	
P140,P224,P280	15	30	0.1以下	15	15	15
P450	20			30	20	20
P560	30				30	30

●漏電しゃ断器を使用する場合は、地落・過負荷・短絡保護兼用タイプを使用してください。
●地落保護専用のものを選定する場合は、ヒューズ付き開閉器または配線用しゃ断器を組合わせて使用してください。

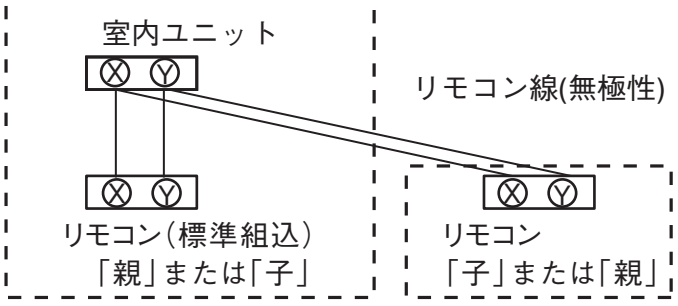
配線仕様

機種	電源用配線太さ(mm^2)	配線こう長(m)	信号線太さ(mm^2)	アース線太さ(mm^2)
P140, P224	2.0	38	0.75又は1.25×2本(シールド線)	2.0
P280	2.0	21		2.0
P450	3.5	32		3.5
P560	5.5	32		5.5

●電気配線は、電源配線接続口より電源線を、連絡線接続口より信号線を取出してください。
●外板貫通部は、配線保護と埃・小動物の侵入を防ぐため、付属のゴム製グロメットを取付けてください。
グロメットはカッターナイフ等で切込を入れて配線を通してください。

Ⓑ リモコン

室内ユニット1台または1グループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。
片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。リモコンは、親・子で操作できる範囲が異なります。



リモコン機能	親	子
運転/停止　室温　操作	○	○
ハイパワー　省エネ運転操作	○	○
省エネ運転設定	○	-
リモコンセンサ	○	-
試運転メニュー操作	○	-
室温設定範囲の設定	○	-
室内ユニットの設定	○	-
運転データ表示	○	-
異常履歴の表示	○	○

電源投入時の表示に従って親子リモコン設定を行います。
親子入力画面を表示し、[親][子]どちらかをタッチしてください。
ecoタッチリモコン2個を親子接続する場合は、1個目を[親]で設定開始すると2個目は自動で[子]になります。
追加するリモコンの据付説明書を参照してください。

Ⓒ アドレス設定

アドレス設定は、（1）手動アドレス設定、（2）自動アドレス設定の2つの方法が可能です。自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。
P450,560は、制御基板を2枚搭載しています。手動アドレス設定の場合、その2枚の制御基板それぞれにアドレス設定が必要です。

⑨制御の切換

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。
各機能の詳細は技術資料を参照してください。

スイッチNo.	制御内容	
SW1, SW2	室内アドレス(10位)、室内アドレス(1位)	
SW3, SW4	室外アドレス(10位)、室外アドレス(1位)	
SW5-1	ON	旧SL通信仕様固定
	OFF	新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW5-2	室内アドレス(100位)	
SW6-1～4	機種容量	
SW7-2	ON	床置形16･20HP設定
	OFF	床置形5･8･10HP設定

⑩注意点

電源ON後1回目の冷房運転時の注意点

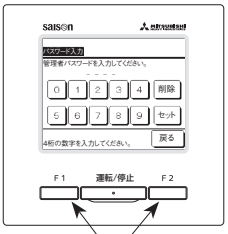
電源ON後の1回目の冷房時に、保護制御により室内ファンが停止する事がありますが、そのまま運転を続けてください。保護制御完了後(数十秒～数分)にファンが回ります。

お知らせ　パスワード初期化

管理者パスワード(日常使用する項目設定用)と
サービスパスワード(据付・試運転・メンテナンス用)があります。

●管理者パスワード初期値は、0000です。設定変更ができます(取扱説書参照)。
管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面で［F1］(または［ハイパワー］)と［F2］(または［省エネ］)ボタンを同時に5秒長押しするとパスワードは初期化されます。

●サービスパスワードは、9999です。設定変更ができません。
管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受付られます。



［F1］［F2］スイッチ

電気ヒータの取付に際して

●消防署への届出について

お願い　本機が下記のいずれかに該当するような場合，電気ヒータの取付を計画されるお客様は，あらかじめその旨所轄消防署長に届け出て審査を受けなければならないよう各市町村の火災予防条例で決められています。所轄の消防署にご相談され所定の手続きをしてください。

□届け出の必要な場合

1. 風道(ダクト)を使用する場合。
2. 劇場，映画館，演芸場，観覧場，公会堂，集会場，カフェー，キャバレー，ナイトクラブ，遊技場，ダンスホールなどで使用する場合。
3. 最大消費熱量が69.8kW以上になる場合。

(注) 上記「届け出の必要な場合」は，各市町村の火災予防条例により異なる場合がありますので，所轄の消防署にお問い合わせください。

●電気ヒータについてのお願い

電気ヒータ用ヒューズが働いた場合は，必ずお買い上げの販売店に点検整備をご依頼ください。電気ヒータ用ヒューズは，万一の異常時に火災等の災害を防止する重要な保護装置です。

⑽ リモコン据付

ⓐ ワイヤードリモコン（RC-DX3A,B）の場合

PJZ012D116 A

PJZ012D126

この据付説明書は、リモコン関連の据付方法・注意事項を記載しております。
室内ユニット・室外ユニット・他に付属の説明書と合わせてご覧ください。
正しく工事していただくために、工事前に、必ずこの説明書をよくお読みください。



（RC-DX3Bの場合を示します。）

1．安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠**警告**　誤った取扱をしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。

⚠**注意**　誤った取扱をしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。

状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠警告	
❗	**●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。** ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。** 据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。** 当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
❗	**●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。** 強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
❗	**●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。** 電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
❗	**●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。** 感電、故障や動作不良の原因になります。
⃠	**●改造は絶対にしない。** 感電、火災、故障の原因になります。
❗	**●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。** 修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
⃠	**●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。** 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス(アンモニア・硫黄化合物・酸など)の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下･腐食による感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●洗濯室など水のかかる所では使用しない。** 感電、火災、故障の原因になります。
⃠	**●ぬれた手で操作しない。** 感電の原因になることがあります。

⚠警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●リモコンケーブル引込口をパテでシールする。
水分・ホコリ・虫などが侵入すると、感電・火災・故障の原因になります。
また、水分が浸入すると画面表示不良の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●リモコンの上ケースおよび USB 端子カバーを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが混入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠注意

●リモコンを下記場所に設置しない。
(1) リモコンの変形・誤動作・故障の原因になる場合があります。
・直射日光のあたる場所。
・周囲温度が 0℃以下、40℃以上になる場所。
・取付面に凹凸のある場所。
・取付部が強度を有しない場所。
(2) リモコン内部部品へ水分が付着し、画面表示不良の原因になります。
・リモコンが結露する湿度の高い場所。
・水がかかる場所。
(3) リモコンの温度センサを使用して室内温度を検知する場合、正確な室温を検知できない場合があります。
・部屋の平均的な温度を検知できない場所。
・熱源の影響を受ける場所。
・ドアの開閉による室外空気の影響を受ける場所。
・直射日光やエアコンから吹出した風が直接当たる場所。
・壁面温度と室内温度の差が大きい場所。
(4) 室内ユニットにラクリーナパネルを使用する場合、昇降動作を確認できない場合があります。
・室内ユニットが見えない場所。

●パソコンに USB で接続する場合、専用のソフトウェアを使用する。
パソコンに他の USB 機器とリモコンを同時に接続しない。
リモコン・パソコンの誤動作・故障の原因になります。

2．部品確認

下記が付属されています。

付属品	リモコン本体、木ねじ(φ 3.5 × 16)2 本、取扱説明書・据付工事説明書

現地手配部品は、以下です。各々の据付方法に従い準備してください。

品　名	所要量	記　事
スイッチボックス 1 個用　または　2 個用(JIS C 8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。
薄鋼電線管（JIS C 8305）	必要量	
ロックナット・ブッシング (JIS C 8330)	必要量	
モール(JIS C 8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。
パテ	適量	隙間シール用
モリーアンカー	必要量	
リモコンケーブル(0.3mm^2×2線)	必要量	100mを超える場合は右表

延長距離が100mを超える場合リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線する際は水分等が浸入しないような処置を行ってください。

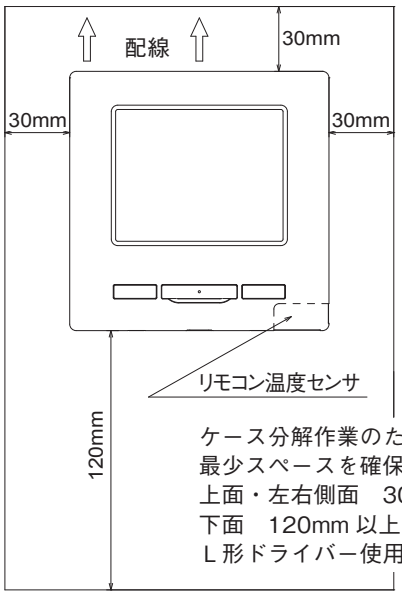
200m 以内	0.5mm^2 × 2 心
300m 以内	0.75mm^2 × 2 心
400m 以内	1.25mm^2 × 2 心
600m 以内	2.0mm^2 × 2 心

3．据付場所

図の設置スペースを確保してください。
また、据付方式は「スイッチボックスを使用」の場合、「壁面に直接据付」の場合の選択が可能です。
配線取出方向は「背面」、「上面中央」または「上面左」の場合の選択が可能です。
据付方式と配線取出場所を考慮のうえ、据付場所を決めてください。

室内ユニットにラクリーナパネルを採用される場合は、グリルの昇降が確認しやすい場所としてください。

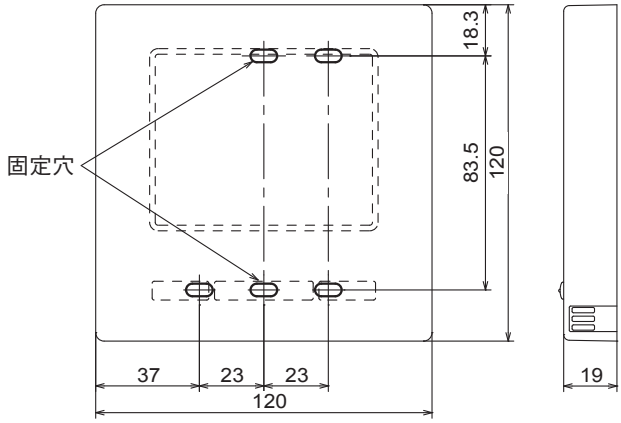
設置スペース



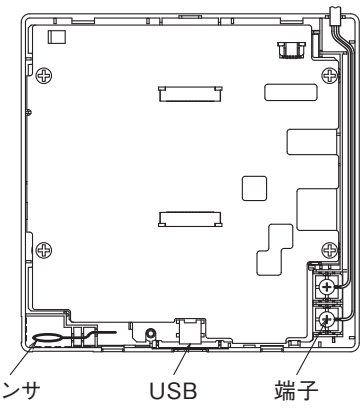
ケース分解作業のため
最少スペースを確保してください。
上面・左右側面　30mm 以上
下面　120mm 以上
L 形ドライバー使用の場合は、50mm 以上

4．据付・配線工事

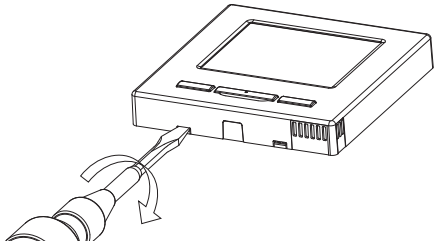
リモコンの据付・配線工事は下記に従って実施ください。
正面から見た取付寸法図



裏面から見た基板面

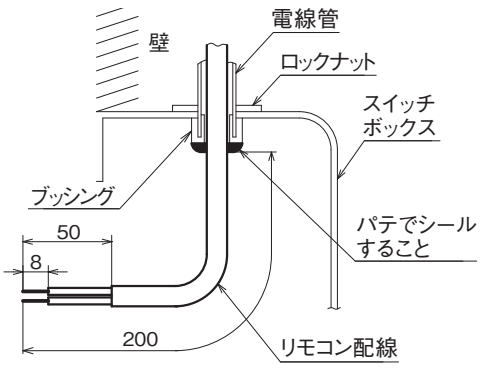


リモコンの上下ケースを組立後、再度取外す場合
・リモコン下面の凹部にマイナスドライバー等を挿込んで軽くねじって外してください。ケースを傷つけないよう、ドライバー先端にテープなどを貼ることをおすすめします。
　取外した上ケースは 、水分・ゴミが付かないようにしてください。



スイッチボックスを使用する場合（配線方向「背面」の場合）

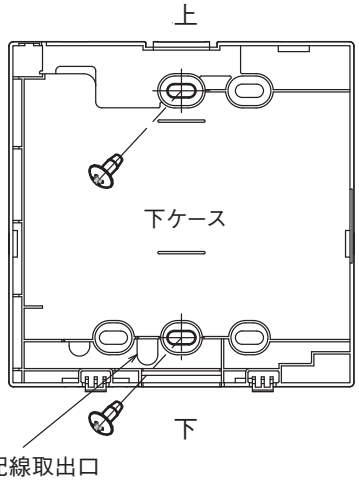
①スイッチボックスとリモコン配線をあらかじめ埋込んでおきます。
　リモコン配線引込口はパテでシールしてください。



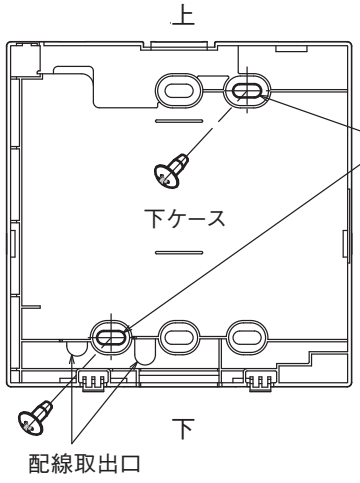
4．据付・配線工事（つづき）

②下ケースに配線を通した後、スイッチボックスに２箇所固定してください。

1個用
スイッチボックス
の場合



２個用
スイッチボックス
の場合

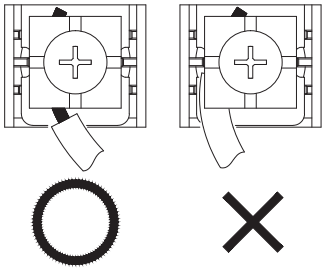


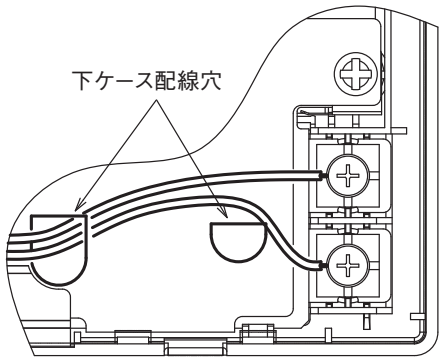
ねじ取付部の
薄肉部分を
ナイフ等で、
切りとって
からねじを
しめてくだ
さい。

③リモコン端子 X, Y と室内ユニットの端子 X, Y を接続してください。配線 X、Y の極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
④リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。

配線接続時のご注意

リモコンケース内を通る配線は 0.5 ㎟以下とし、シースをかみこまないように接続してください。
配線接続は、手締め（0.7N·m 以下）で行ってください。
電動ドライバーを使用すると、故障や変形の原因になることがあります。

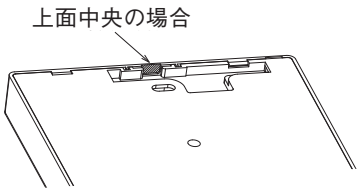


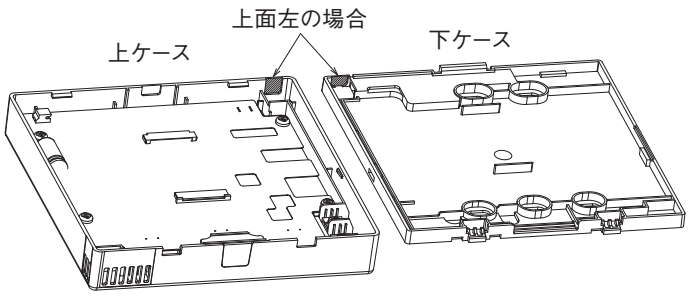


スイッチボックスを使用しない場合（配線取出「上面中央」「上面左」の場合）

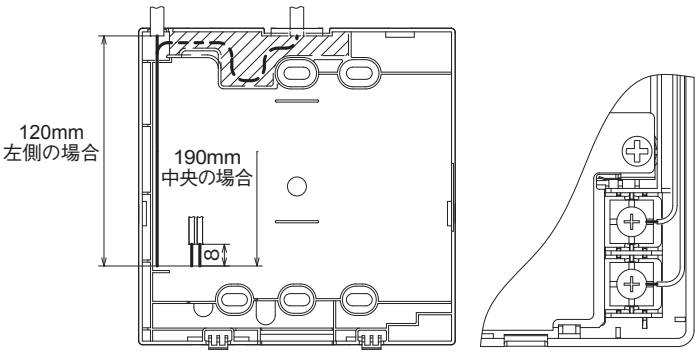
①ケース薄肉部を配線太さに合わせ切取ってください。

上面中央の場合は、上下ケース分解前に切取ってください。基板内部への影響が少なく作業がやり易くなります。
上面左の場合は、基板内部への影響を与えないように切取ってください。破片が内部に残らないように注意してください。



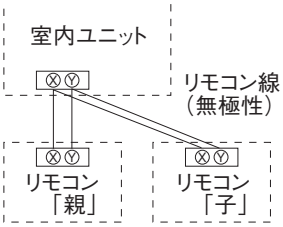


②リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で平らな面に固定してください。
③上面中央の場合はケース背面に配線を通してください。（斜線部分）
④リモコン端子 X, Y と室内ユニットの端子 X, Y を接続してください。配線 X、Y の極性はありません。リモコン上ケース端子ねじで配線を固定してください。
⑤リモコン配線が噛みこまないように、上ケースを取付けてください。
⑥①で切り取った部分をパテでシールしてください。



5．複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台または1グループに対して最大2個までのリモコンを接続できます。
片側が親リモコン、反対側が子リモコンになります。
右表のように子リモコンは操作できる機能に制限があります。



6 項の操作で「親」「子」の設定をしてください。

○：操作可能、×：操作不可

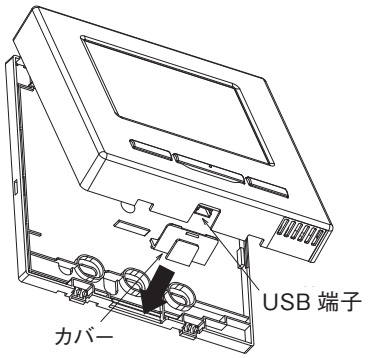
リモコン操作			親	子
運転 / 停止、設定温度切換、風向切換・オートスイング、風量切換　操作			○	○
エアフレックス ON/OFF			○	×
ハイパワー運転、省エネ運転			○	○
室外静音制御			○	×
便利機能	フリーフロー設定		○	×
	エアフレックス（風よけ）設定		○	×
	タイマー設定		○	○
	おこのみ設定		○	○
	ウィークリータイマー		○	×
	るす番運転		○	×
	換気		○	○
	言語切換設定		○	○
	室外静音制御		○	×
	見てみて		○	×
	消費電力量表示		○	×
省エネ設定			○	×
お手入れ	フィルターサインリセット		○	○
	グリル昇降		○	○※
	お掃除パネル操作		○	×
ユーザー設定	初期設定		○	○
	管理者設定	操作制限設定	○	×
		室外静音タイマー	○	×
		設定温度範囲	○	×
		温度設定刻み切換	○	×
		設定温度表示切換	○	○
		リモコン表示設定	○	○
		管理者パスワード変更	○	○
		スイッチ機能変更	○	○

※リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、子リモコンから室内ユニットの選択はできません。全台同時に昇降します。

リモコン操作				親	子
サービス設定	据付設定	据付日登録		○	×
		サービス情報入力		○	○
		試運転		○	×
		ダクト機静圧補正		○	×
		自動アドレス変更		○	×
		親室内機アドレス設定		○	×
		バックアップ制御		○	×
		人感センサー設定		○	×
		グリル昇降操作		○	○
	リモコン設定	リモコン親子設定		○	○
		吸込センサー制御		○	×
		リモコンセンサー		○	×
		リモコンセンサー補正		○	×
		運転モード選択		○	×
		温度設定単位		○	×
		ファン速度		○	×
		外部入力設定		○	×
		上下ルーバ制御		○	×
		左右ルーバ制御		○	×
		換気設定		○	×
		停電補償		○	×
		設定温度自動設定		○	×
		風量自動設定		○	×
	室内設定			○	×
	サービス・メンテナンス	エアコン No. 表示		○	○
		次回点検日		○	×
		運転データ表示		○	×
		点検表示	異常履歴表示	○	○
			異常時運転データ表示・消去	○	×
			定期点検リセット	○	○
		室内設定保存		○	×
		特殊操作	室内機アドレス消去	○	×
			CPU リセット	○	○
			初期化設定	○	×
			タッチパネル調整	○	○
		室内機容量表示		○	×
		お掃除パネル点検		○	×

お知らせ　パソコン接続について

USB コネクタ（mini-B）を介してパソコンからの設定が可能です。
上ケース下面カバーを外して接続してください。
使用後はカバーを元の位置にはめてください。
接続には、専用のソフトが必要です。
詳細は、ホームページを参照してください。



お知らせ　パスワード初期化

管理者パスワード（日常使用する項目設定用）と
サービスパスワード（据付・試運転・メンテナンス用）があります。
○管理者パスワード初期値は、0000 です。設定変更ができます（取扱説明書参照）。
　管理者パスワードを忘れた場合は、管理者パスワード入力画面で［F1］［F2］スイッチを同時に５秒長押しするとパスワードは初期化されます。
○サービスパスワードは、9999 です。設定変更ができません。
　管理者パスワード入力の時、サービスパスワードでも受付られます。



［F1］［F2］スイッチ

おねがい

1 つのリモコンに複数台の FDT、FDTC を接続する場合、パネルの種類をエアフレックス機能のあるパネルか、標準パネルのどちらかに統一してください。

6．電源投入初期設定

電源投入時の表示に沿って親子リモコン設定を行います。

・親子が設定されていない場合⇒(1)

・親子が設定されている場合　⇒(2)

(1)　**親子が設定されていない場合**

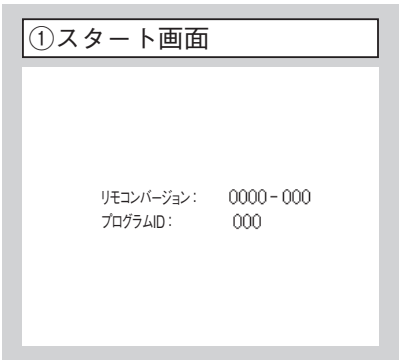
①⇒②親子入力画面を表示します。

枠で囲まれた 親 子 どちらかをタッチしてください。初期設定作業を開始します。

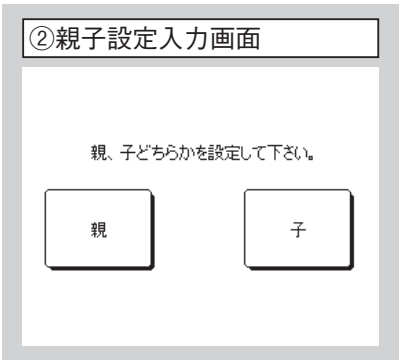
誤ってタッチした場合は、初期設定作業が終了後に設定変更することができます。(8. リモコン機能設定④)

室内ユニット1台または、1グループに、2個の eco タッチリモコンが接続されている場合、1個目を 親 で設定開始すると 2個目は自動で 子 になります。

①スタート画面



②親子設定入力画面



ご注意

リモコン1台の場合は、親 をタッチしてください。
初期状態では、どちらか選択されるまで、待ち続けます。

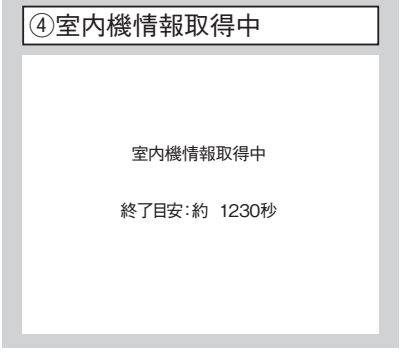
親を選択した場合　③⇒④⇒⑤の順で画面が遷移します。

子を選択した場合　①⇒⑧⇒⑤の順で画面が遷移します。

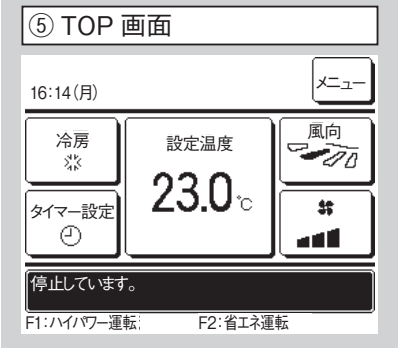
③室内機検索中



④室内機情報取得中



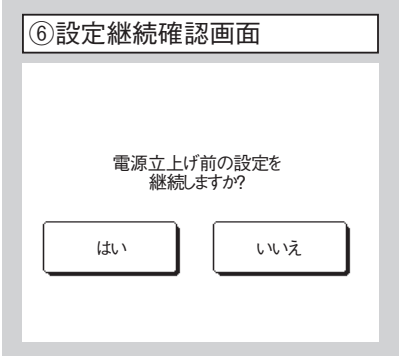
⑤ TOP 画面



通信が 10 分間確定しない場合、赤 LED が点滅します。

(2)　**リモコンの親子設定がされている場合**

⑥設定継続確認画面

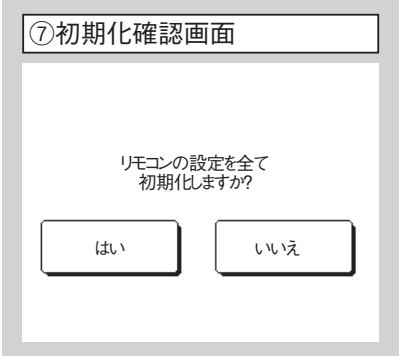


はい　⑧⇒⑤の順で画面が遷移します。

いいえ　⑦に画面が遷移します。

表示が 15 秒間タッチされない場合は はい 継続を認識して⑤画面に変わります。

⑦初期化確認画面

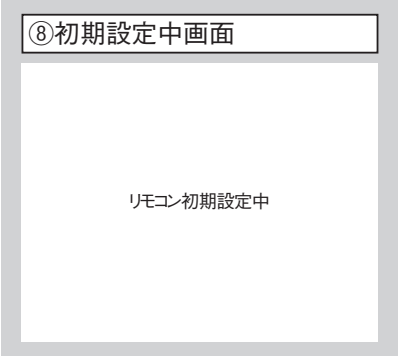


はい　①⇒②の順で画面が遷移します。

いいえ　⑥に画面が遷移します。

初期化すると出荷状態に戻ります。

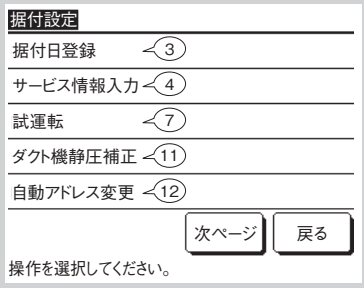
⑧初期設定中画面



7．据付設定　試運転

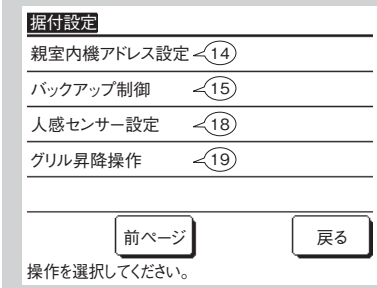
ＴＯＰ画面　メニュー　⇒　サービス設定　⇒　据付設定　⇒　サービスパスワード

①据付設定メニュー＃１



選択した画面に移ります。

②据付設定メニュー＃２



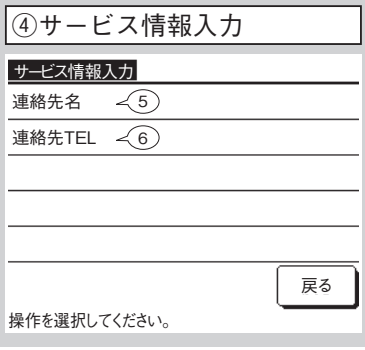
選択した画面に移ります。

③据付日登録



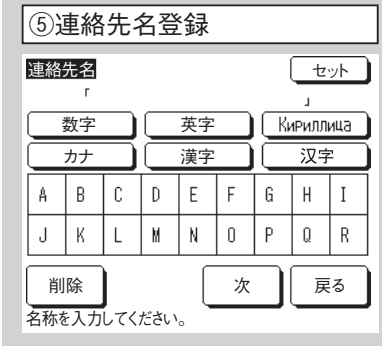
▲ ▼で設定してください。
セットで登録されます。

④サービス情報入力



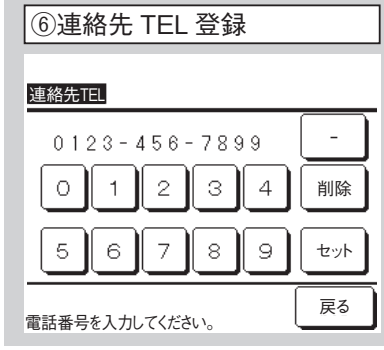
お客様がサービスを依頼される際の連絡先を入力してください。

⑤連絡先名登録



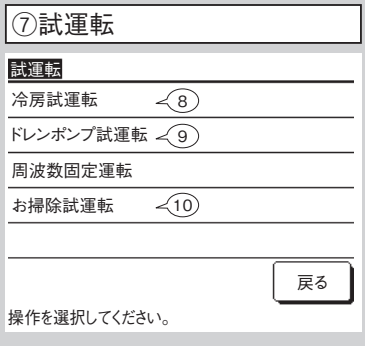
連絡先名を半角 26 文字相当以内で入力し、セットボタンをタッチしてください。数字、英字、カナ、漢字、キリル文字、中国文字での入力ができます。

⑥連絡先 TEL 登録



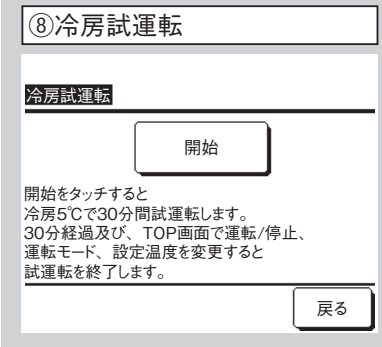
連絡先電話番号を 13 文字以内で入力し、セットボタンをタッチしてください。

⑦試運転



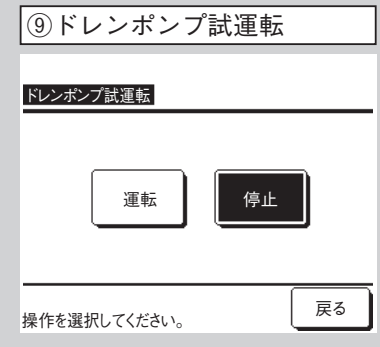
選択した画面に移ります。

⑧冷房試運転



冷房の停止中に操作可能です。室温が低く冷房試運転ができない場合、室温設定を 30 分間 5℃に下げて運転します。

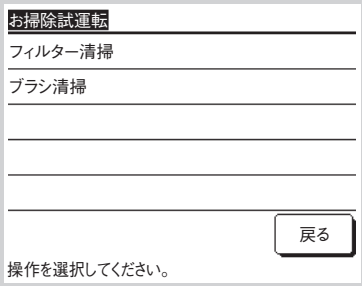
⑨ドレンポンプ試運転



ドレンポンプのみで運転が可能です。(FDASでは設定できません。)

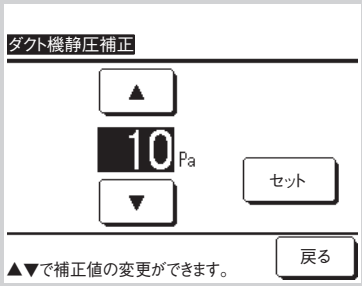
7．据付設定　試運転（つづき）

⑩お掃除試運転



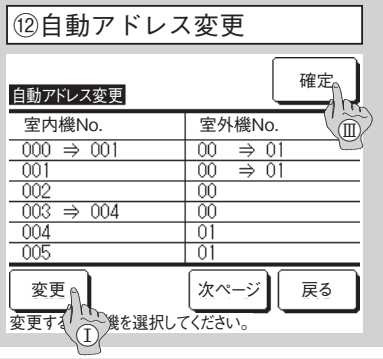
FDT お掃除パネルを組合せる場合に操作できます。
詳細は、お掃除パネルの説明書をご覧ください。

⑪ダクト機静圧補正

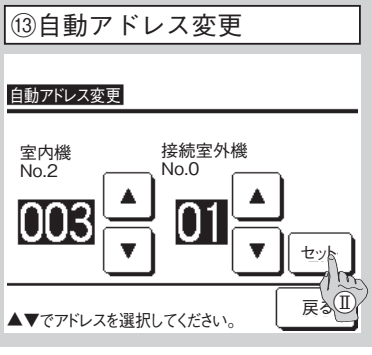


機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニットを組合せる場合に操作できます。機外静圧を選択し、セットボタンをタッチしてください。

⑫自動アドレス変更

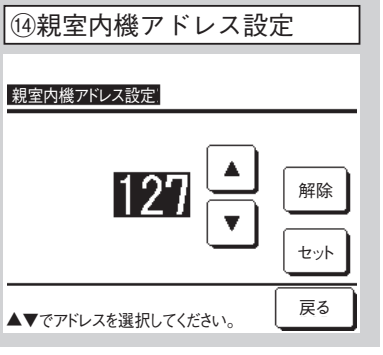


⑬自動アドレス変更



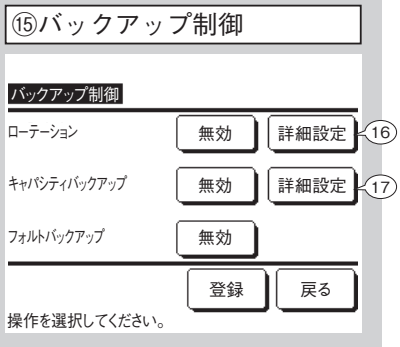
個別発停マルチシリーズで使用の際に自動アドレス設定で登録されている場合に操作できます。
室内ユニット毎の室内外アドレスを変更するための機能です。室内ユニットを選択して
① 変更 をタッチすると⑬に画面が遷移します。
Ⅱ セット をタッチすると⑫に画面が遷移し、新アドレスが表示されます。
Ⅲ 確定 をタッチすると登録されます。

⑭親室内機アドレス設定



個別発停マルチシリーズで親室内ユニットのみ、冷房 - 暖房運転モードの選択を許可します。子とする室内ユニットに対し、親室内機アドレスを設定します。親室内機アドレスが設定された子室内ユニットは、親室内ユニットの設定に追従します。

⑮バックアップ制御

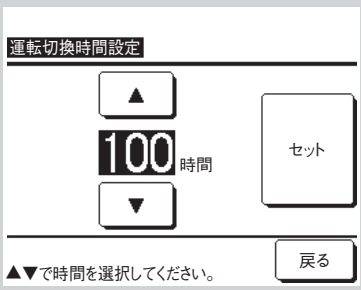


1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）が接続されている時に、以下の制御が可能です。
1. ローテーション：2 台の室内ユニットが設定した時間毎に、交互に運転します。
2. キャパシティバックアップ：設定温度と室温の温度差により、室内ユニットの運転台数を 1 台⇔ 2 台へ切り換えます。
3. フォルトバックアップ：室内ユニット 2 台中 1 台が運転している場合、運転している室内ユニットが異常停止すると、もう 1 台の室内ユニットが運転を開始します。

有効 / 無効 を選択し（ 無効 をタッチすると 有効 に変わります。）、 登録 ボタンをタッチすると、設定内容が確定します。

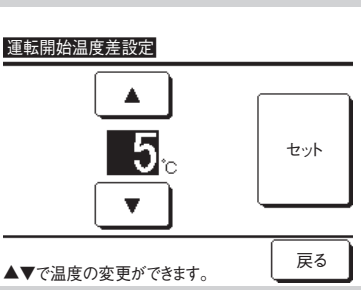
7．据付設定　試運転（つづき）

⑯ローテーション詳細設定



ローテーションの運転を切り換える時間を設定します。
1 ～ 999 時間の間で 1 時間刻みで設定可能です。
時間切換後、セットで仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って登録をタッチしてください。

⑰キャパシティバックアップ詳細設定

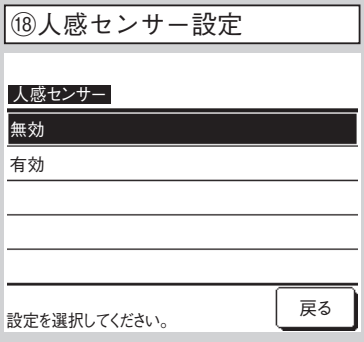


キャパシティバックアップの 1 台⇔ 2 台を切り換える設定温度と室温の温度差を設定します。
2 ～ 5℃の間で 1℃刻みで設定可能です。温度切換後、セットで仮設定してください。仮設定後バックアップ制御画面に戻って登録をタッチしてください。

バックアップ制御の制約条件

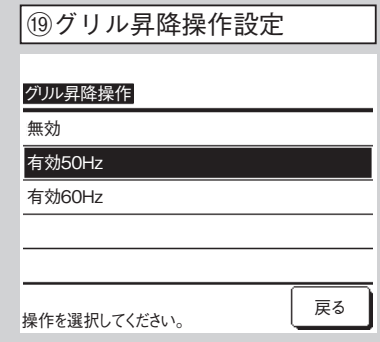
1. 運転モードが「自動」の場合、バックアップ制御はできません。運転モードが「自動」に設定された空調機にバックアップ制御を設定すると、運転モードは自動的に「冷房」モードに切り換わります。
2. ローテーション制御を設定した場合は、自動的にフォルトバックアップ制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。ローテーション運転を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
3. キャパシティバックアップ制御を設定した場合は、自動的にフォルトバック制御も有効に設定されます。この場合、フォルトバックアップ制御のみを無効にすることはできません。キャパシティバックアップ制御を無効にした場合は、フォルトバックアップ制御も無効になります。
4. フォルトバック制御を単独で有効に設定することも可能です。
5. るす番運転、ウォームアップ設定、外部入力設定は、バックアップ制御と同時に設定することはできません。
6. ローテーション運転制御または、フォルトバックアップ制御設定時には、設定対象となっている室内ユニット2台（2グループ）の内、どちらか一方のみが運転します。両方同時に運転することはありません。
7. いずれの制御も、室内アドレスの若い室内ユニットが先に運転開始します。

⑱人感センサー設定



リモコンに接続されている室内ユニットの赤外線センサーの有効/無効かを選択します。

⑲グリル昇降操作設定



ラクリーナパネルを組合せる場合は、据付場所電源周波数をタッチしてください。

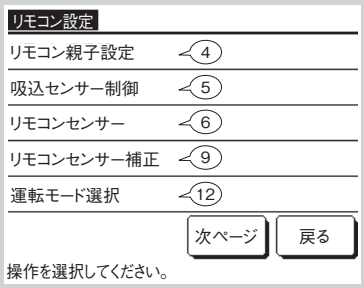
・ 人感センサーを採用のお客様は上記の設定を行ってください。
人の活動量を検知させたい室内ユニットを有効にしてください。
赤外線センサー（人感センサー）設定が無効の場合には、人の活動量を検知しないため赤外線センサー制御（パワーセーブ、オートオフ）を行いません。
・ 4 形以前の室内ユニットおよびFDASは、赤外線センサー（人感センサー）設定を有効にできません。
赤外線センサー（人感センサー）設定をタッチすると、「操作無効です」と表示されます。

ラクリーナパネルを採用のお客様は、上記の設定を行ってください。

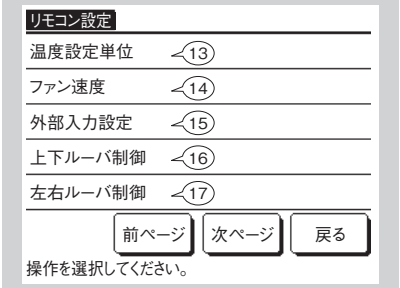
8．リモコン機能設定　お知らせ：停止中のみ操作可能

ＴＯＰ画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード]

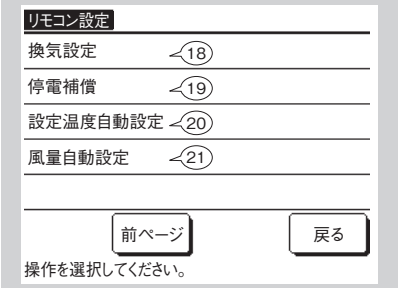
①リモコン設定メニュー＃１



②リモコン設定メニュー＃２

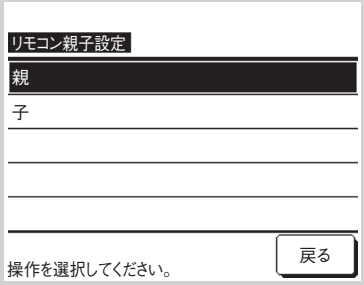


③リモコン設定メニュー＃３



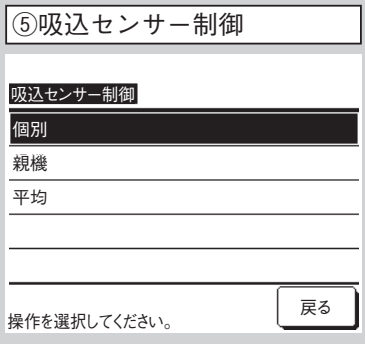
選択した画面に移ります。

④リモコン親子設定



リモコンの親子設定を変更する場合に操作します。

⑤吸込センサー制御

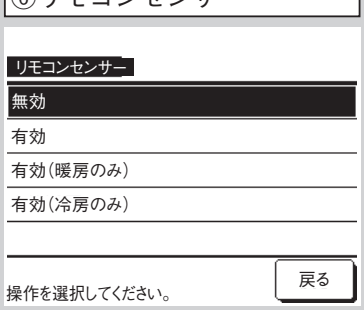


室内ユニットの吸込センサーの検知温度によりサーモ判定を行います。
1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込温度センサーを選択できます。

1. [個別]：各々の室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。プルーラル接続されている場合はプルーラル親機の吸込温度を基準とします。
2. [親機]：接続されている室内ユニットの中で、アドレスの若い室内ユニットの吸込温度でサーモ判定します。
   1台のリモコンに、プルーラル接続が複数接続されている場合は、プルーラル親機間でアドレスが若い室内ユニットの吸込温度を基準とします。
3. [平均]：接続されている室内ユニットの吸込温度を平均し、サーモ判定します。

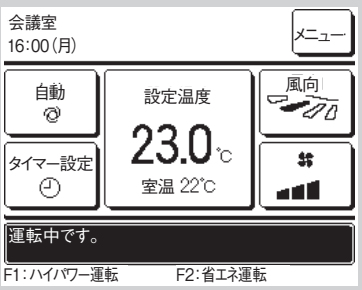
8．リモコン機能設定（つづき）

⑥リモコンセンサー



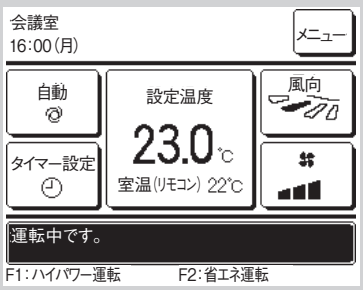
室内ユニット本体吸込センサーをリモコン側に変更できます。
無効 室温表示は、本体側センサーになります。⇒ ⑦
有効 室温表示は、リモコン側センサーになります。⇒ ⑧
有効(暖房のみ) 室温表示は、暖房中のみリモコン側センサーになります。
有効(冷房のみ) 室温表示は、暖房以外で運転中にリモコン側センサーになります。

⑦ TOP 画面(本体側センサーの場合)



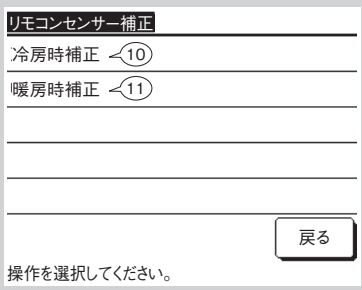
リモコンセンサー無効時は、TOP画面で“室温○℃”と表示されます。

⑧ TOP 画面(リモコン側センサーの場合)



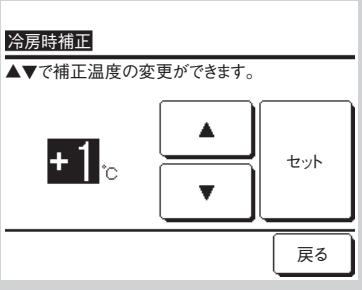
リモコンセンサー有効時は、TOP画面で“室温(リモコン）○℃”と表示されます。

⑨リモコンセンサー補正



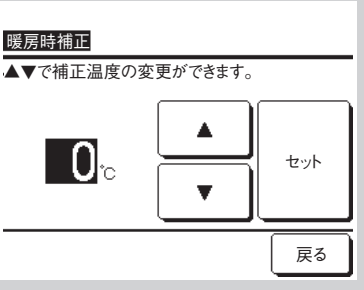
リモコンセンサー検知温度の補正ができます。
冷房時補正 ⇒ ⑩
暖房時補正 ⇒ ⑪

⑩冷房時補正



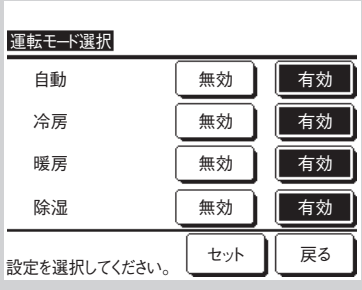
冷房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。
－３～＋３の範囲で設定します。

⑪暖房時補正



暖房運転中のリモコンセンサー検知温度補正ができます。
－３～＋３の範囲で設定します。

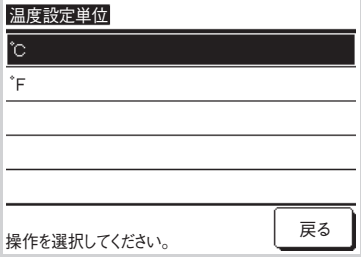
⑫運転モード選択



各運転モード毎に有効・無効を設定可能です。
冷房または暖房を無効にした場合、自動も無効になります。

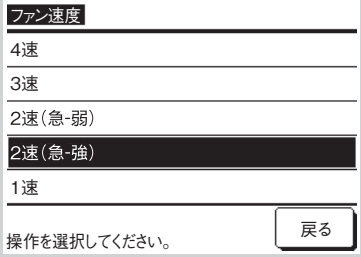
8．リモコン機能設定（つづき）

⑬温度設定単位



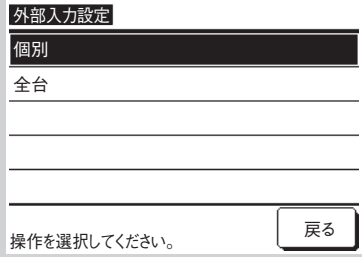
設定温度の単位を設定します。

⑭ファン速度



ファン速度選択の変更が可能です。室内ユニットにより対応できない場合があります。（FDASでは設定できません。）

⑮外部入力方式

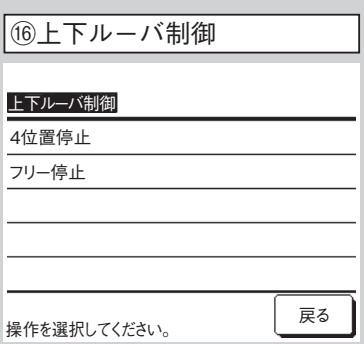


1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、運転／停止に対して CnT の入力の適用範囲を設定できます。

個別 CnT入力された室内ユニットのみに適用されます。

全台 リモコンが接続されている室内ユニット全てに適用されます。

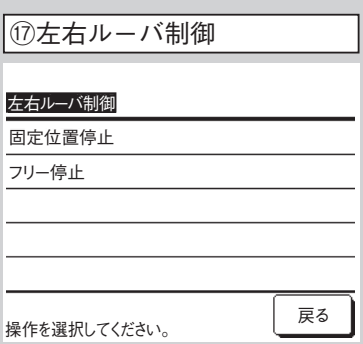
⑯上下ルーバ制御



4位置停止 上下吹出ルーバを 4 段階で設定可能。

フリー停止 リモコンＳＷ操作直後の位置に停止します。

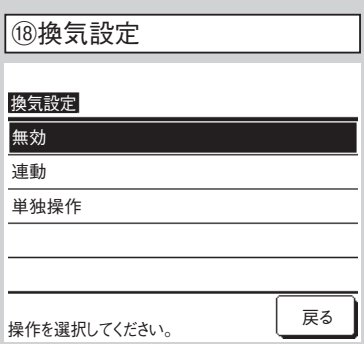
⑰左右ルーバ制御



固定位置停止 左右吹出ルーバを 8 パターンで設定可能。

フリー停止 リモコンＳＷ操作直後の位置に停止します。

⑱換気設定



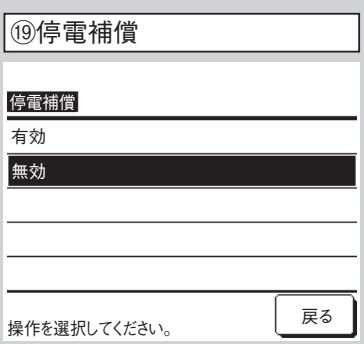
換気機器組合せの設定ができます。

無効 接続無し。

連動 エアコン運転／停止に連動し、換気出力（CnT）に出力します。CNDコネクタのある機種はCNDに出力します。

単独操作 メニューから換気を選択により換気単独で運転 / 停止出力を行います。

⑲停電補償

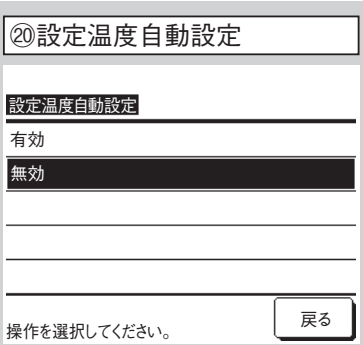


運転中に停電した場合、

有効 停電復旧（電源投入後の制御終了）しだい、停電前の状態に戻ります。

無効 停電復旧後、停止します。

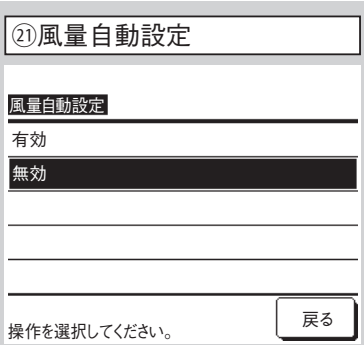
⑳設定温度自動設定



有効 室温設定画面から自動の選択が可能になります。

無効 室温設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。

㉑風量自動設定



有効 風量設定画面から自動の選択が可能になります。

無効 風量設定の画面上に自動の選択スイッチが表示されません。（FDASでは設定できません。）

9．室内機能設定

お知らせ：停止中のみ操作可能

TOP画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [室内設定] ⇒ [サービスパスワード]

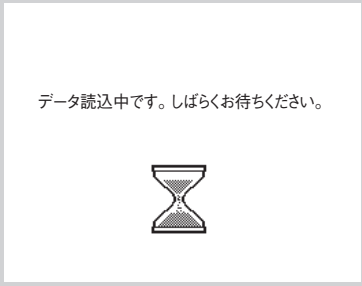
①室内機選択



②室内機選択 2



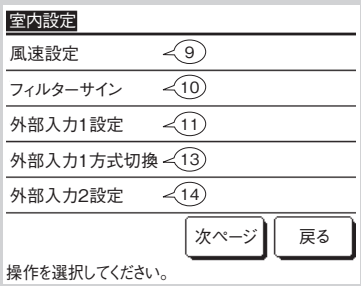
③データ読込中



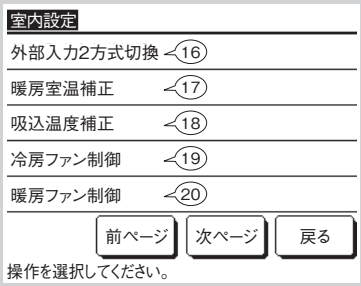
複数室内ユニットを接続の場合、接続された室内ユニットが表示されます。
[000]～[015] 各室内ユニット毎に個別設定されます。
[全台] 全台同一設定されます。

室内ユニットからデータ受信後に④に画面が切換わります

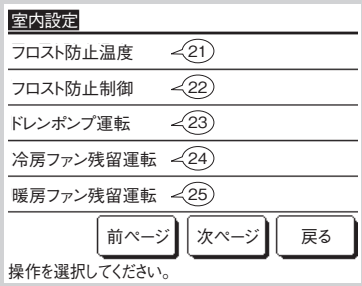
④室内設定メニュー＃1



⑤室内設定メニュー＃2

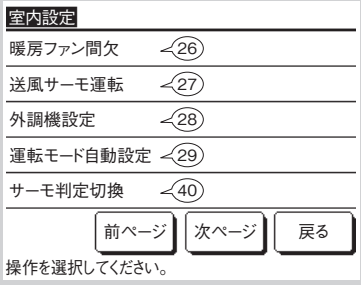


⑥室内設定メニュー＃3

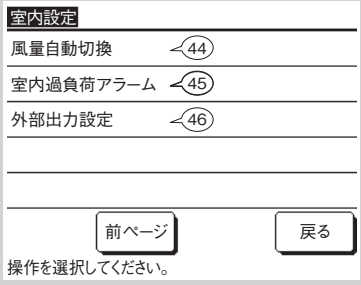


選択した画面に移ります。

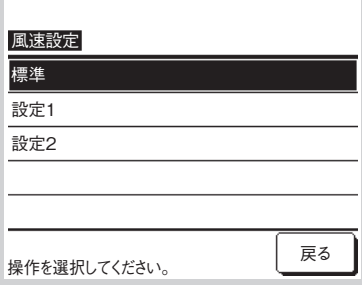
⑦室内設定メニュー＃4



⑧室内設定メニュー＃5

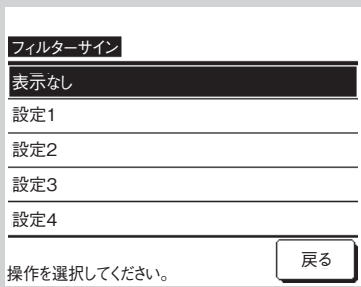


⑨風速設定



室内ユニットの風速設定を設定します。詳細は、341ページを参照ください。
（FDASでは設定できません。）

⑩フィルターサイン

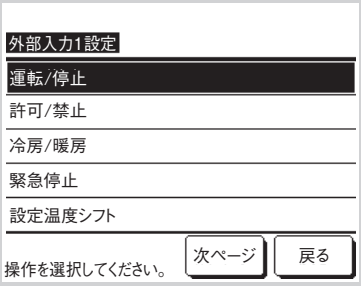


フィルターサイン点灯時間を設定します。

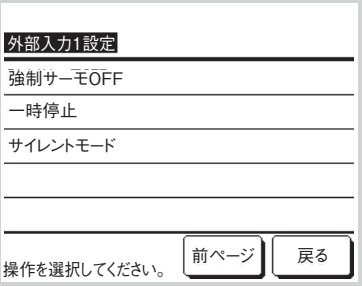
	標準	FDTお掃除
表示なし	無し	無し
設定 1	180Hr	1,000Hr
設定 2	600Hr	2,000Hr
設定 3	1,000Hr	2,500Hr
設定 4	1,000Hr後運転停止	2,500Hr後運転停止

9．室内機能設定（つづき）

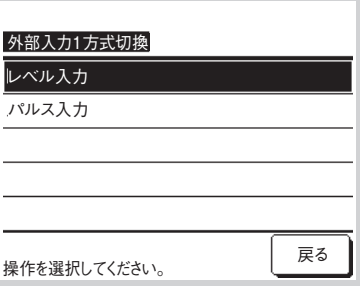
⑪外部入力 1 設定 #1



⑫外部入力 1 設定 #2



⑬外部入力 1 方式

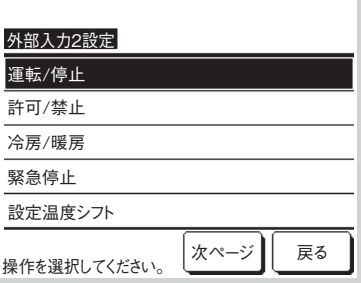


室内ユニット CnT 入力時の制御を設定します。
詳細は 、342ページを参照ください。
（FDASでは、“設定温度シフト”、“強制サーモØFF”、“一時停止”、“サイレントモード”は設定できません。）

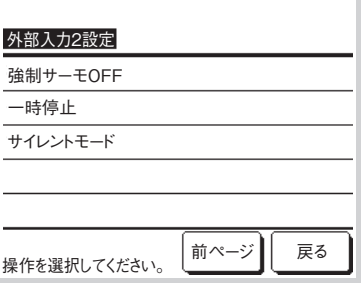
室内ユニットCnTへの入力信号方式を設定します。
詳細は 、342ページを参照ください。

外部入力２を装備している室内ユニットと組合せた場合に操作できます。詳細は 、72ページを参照ください。

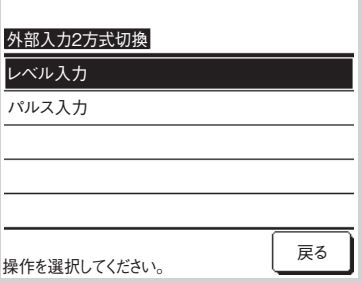
⑭外部入力２設定 #1



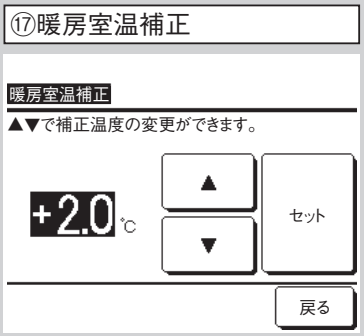
⑮外部入力２設定 #2



⑯外部入力２方式

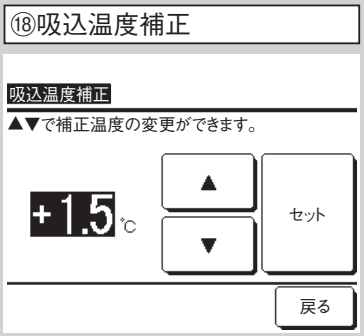


⑰暖房室温補正



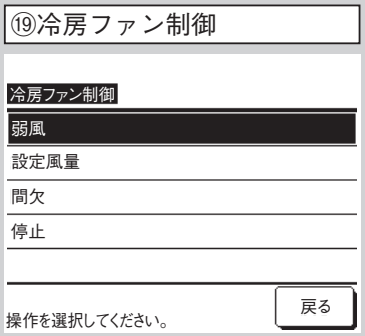
暖房サーモ判定温度を補正します。
0℃／ +1℃／ +2℃／ +3℃

⑱吸込温度補正



本体吸込センサー検知温度を補正します。
-2℃／ -1.5℃／ -1℃／ 0℃／ +1℃／ +1.5℃／ +2℃

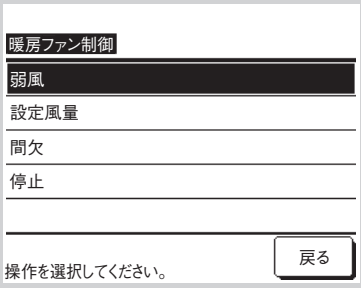
⑲冷房ファン制御



冷房サーモ OFF 中のファン速度設定
弱風　弱風運転
設定風量　サーモ ON 中と同風量
間欠　2 分Lo（ULo）運転／5 分停止
停止　停止
（FDASは 弱風 、間欠 の場合もサーモON中と同風量となります。）

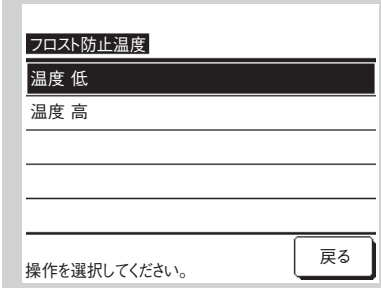
9．室内機能設定（つづき）

⑳暖房ファン制御



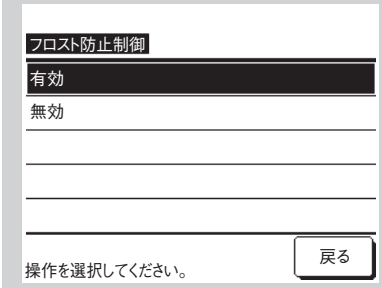
暖房サーモ OFF 中のファン速度を設定します。
弱風　弱風運転
設定風量　サーモ ON 中と同風量
間欠　2 分 Lo(ULo)運転／ 5 分停止
停止　停止
(FDASは弱風、間欠の場合もサーモON中と同風量となります。)

㉑フロスト防止温度



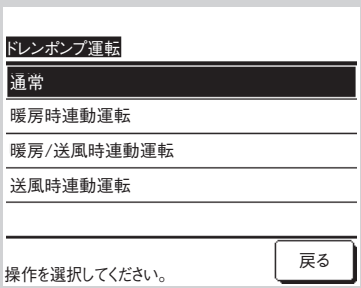
フロスト防止制御温度の切換ができます。

㉒フロスト防止制御



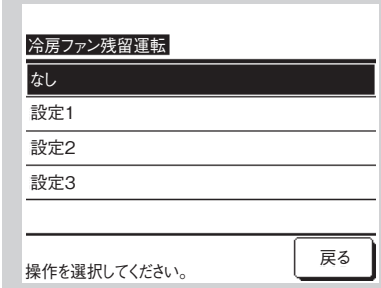
フロスト防止制御後、ファン速度が
有効　アップします。
無効　変化しません。
(FDASでは設定できません。)

㉓ドレンポンプ運転



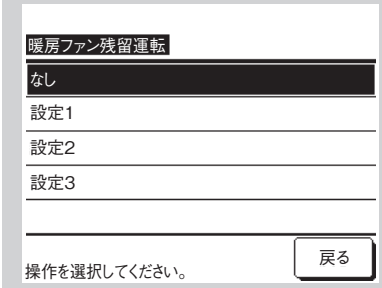
通常　冷房・除湿時に運転
暖房時連動　通常＋暖房
暖房 / 送風時連動　全運転中
送風時連動　通常＋送風

㉔冷房ファン残留運転



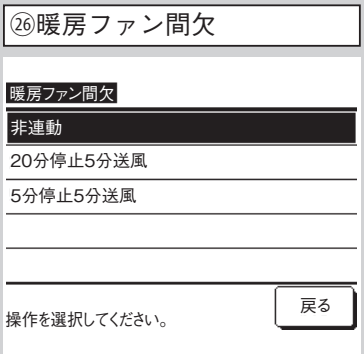
冷房運転、停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。
なし　ファン残留運転なし
設定 1　0.5 時間
設定 2　2 時間
設定 3　6 時間
※残留時間が異なる場合があります。

㉕暖房ファン残留運転



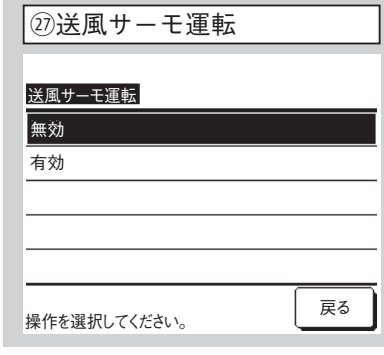
暖房運転、停止またはサーモ OFF 後のファン残留運転時間を設定します。
なし　ファン残留運転なし
設定 1　0.5 時間
設定 2　2 時間
設定 3　6 時間

㉖暖房ファン間欠



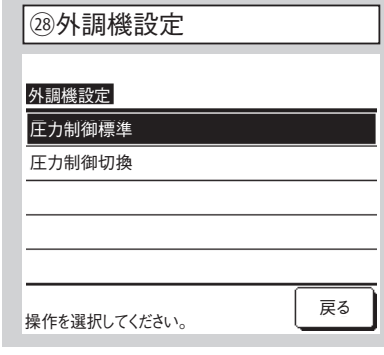
暖房運転、停止またはサーモOFF後のファン制御を設定します。
非連動　停止
20分停止 5分送風　25分毎に条件チェックして 5 分送風
5分停止 5分送風　10分毎に条件チェックして 5 分送風

㉗送風サーモ運転



サーキュレーター運転として使用する場合
無効　送風時連続運転
有効　送風時リモコンと本体の温度差を見て送風運転／停止します。

㉘外調機設定



マルチシステムにて、外調機の場合に設定します。
圧力制御標準　通常
圧力制御切換　運転中の室内ユニットが全て、この設定の場合、圧力制御値が変わります。

9．室内機能設定（つづき）

㉙運転モード自動設定

運転モード自動設定
- 自動1･2･3切換 ㉚
- 自動1関連設定 ㉛
- 自動2関連設定 ㉜
- 自動3関連設定 ㉝

戻る

操作を選択してください。

㉚自動 1･2･3 切換

自動1･2･3切換
- 自動1
- 自動2
- 自動3

戻る

操作を選択してください。

自動１　設定温度と室温の温度差で、冷房／暖房が切換わります。

自動２　設定温度と室温の温度差及び外気温度で冷房／暖房が切換わります。

自動３　室温および外気温度で、冷房／暖房が切換わります。

運転モード自動での冷房／暖房切換方式を３方式から選択できます。
各方式の条件を設定をします。

㉛自動 1 関連設定

自動1関連設定
- 冷房切換温度 ㉞
- 暖房切換温度 ㉟

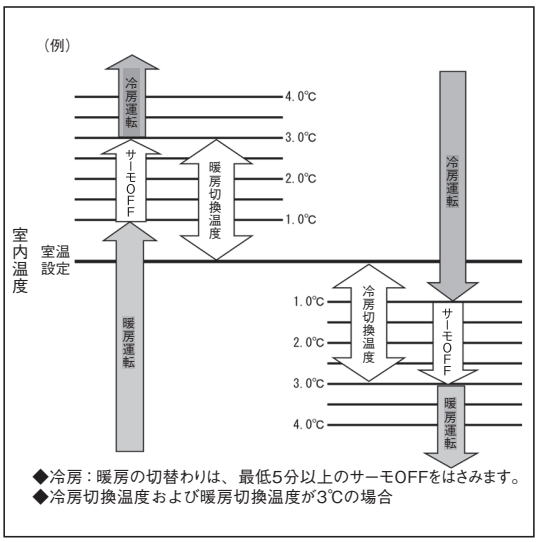
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度を設定します。
切換温度は１～４℃の範囲で設定できます。

設定温度－冷房切換温度＜室内吸込温度の場合
⇒運転モード：冷房

設定温度＋暖房切換温度＞室内吸込温度の場合
⇒運転モード：暖房



◆冷房：暖房の切替わりは、最低5分以上のサーモOFFをはさみます。
◆冷房切換温度および暖房切換温度が3℃の場合

㉜自動２関連設定

自動2関連設定
- 冷房切換温度 ㉞
- 暖房切換温度 ㉟
- 冷房室外温度 ㊱
- 暖房室外温度 ㊲

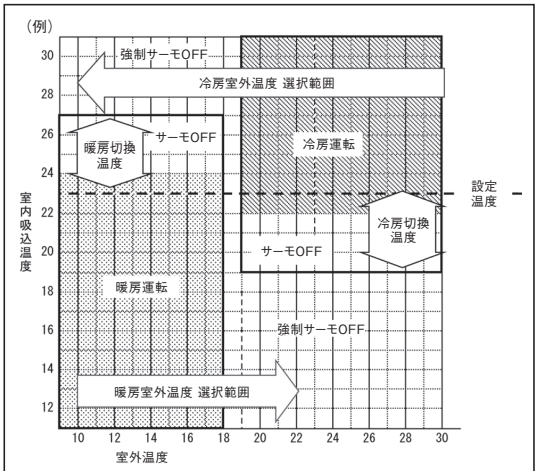
戻る

操作を選択してください。

冷房／暖房の切換温度、冷房／暖房室外温度を設定します。

「設定温度－冷房切換温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

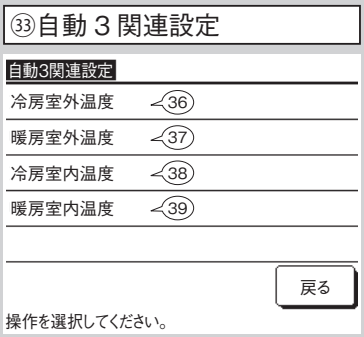
「設定温度＋暖房切換温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房



◆冷房切換温度および暖房切換温度が4℃で、
冷房室外温度が19℃、暖房室外温度が18℃の場合。

9．室内機能設定（つづき）

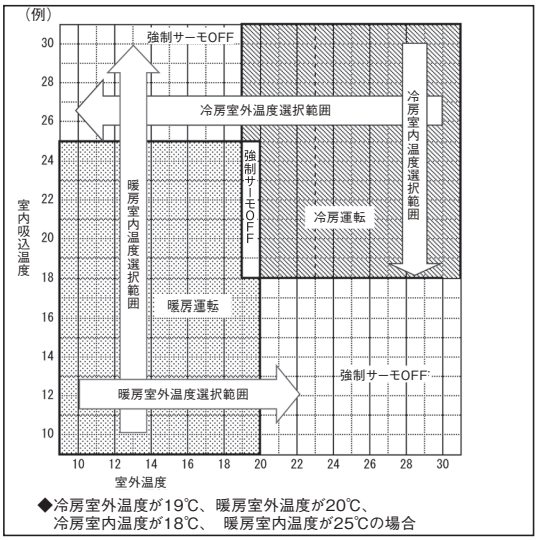
㉝自動３関連設定



冷房／暖房室外温度、冷房／暖房室内温度を設定します。

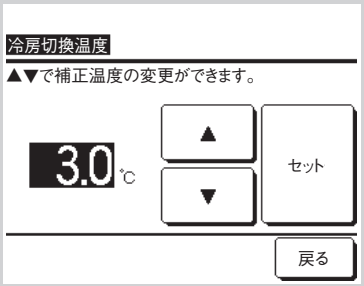
「設定した冷房室内温度＜室内吸込温度」かつ「設定した冷房室外温度＜室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：冷房

「設定した暖房室内温度＞室内吸込温度」かつ「設定した暖房室外温度＞室外吸込温度」の場合
⇒運転モード：暖房



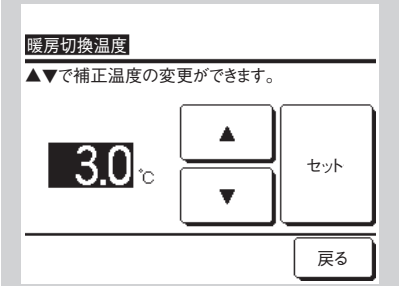
◆冷房室外温度が19℃、暖房室外温度が20℃、
冷房室内温度が18℃、 暖房室内温度が25℃の場合

㉞冷房切換温度



自動１、自動２で冷房切換温度を設定します。
１～４℃の範囲で設定できます。

㉟暖房切換温度



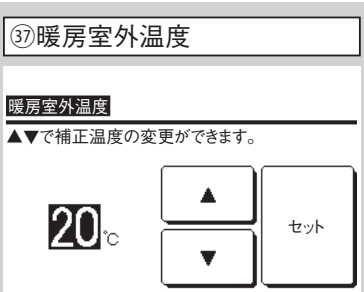
自動１、自動２で暖房切換温度を設定します。
１～４℃の範囲で設定できます。

㊱冷房室外温度



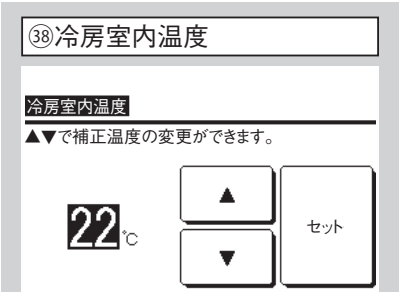
自動２、自動３で冷房室外温度を設定します。
10～30℃の範囲で設定できます。

㊲暖房室外温度



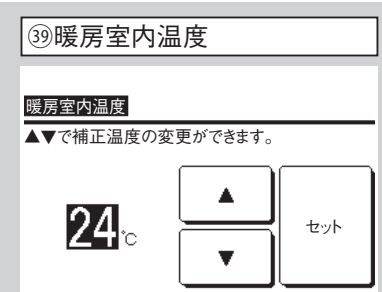
自動２、自動３で暖房室外温度を設定します。
10～22℃の範囲で設定できます。

㊳冷房室内温度



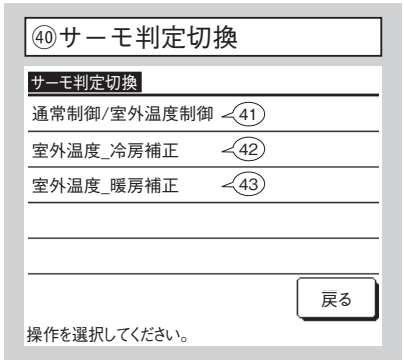
自動３で冷房室内温度を設定します。
18～30℃の範囲で設定できます。

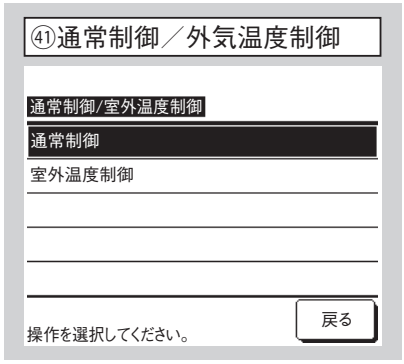
㊴暖房室内温度



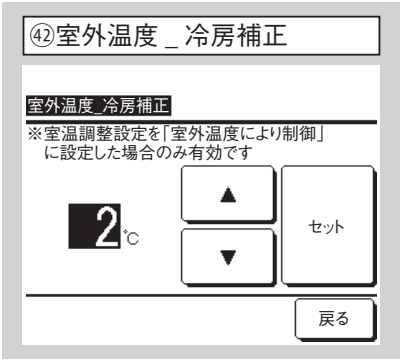
自動３で暖房室内温度を設定します。
10～30℃の範囲で設定できます。

9．室内機能設定（つづき）



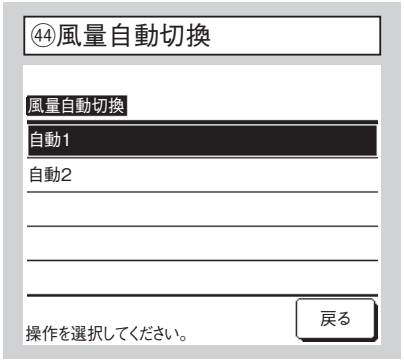


室温制御、サーモ ON ／ OFF 切換方式・条件を設定します。
通常制御　室内温度と設定温度の差でサーモ判定をします。
室外温度制御　室外温度±補正値と室内温度でサーモ判定します。
室温設定は無効となります。

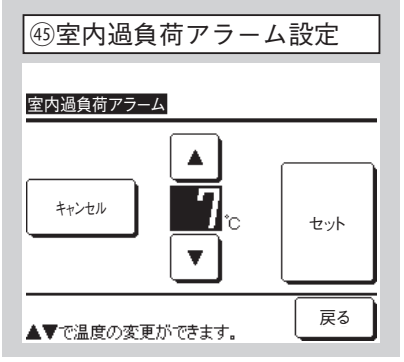




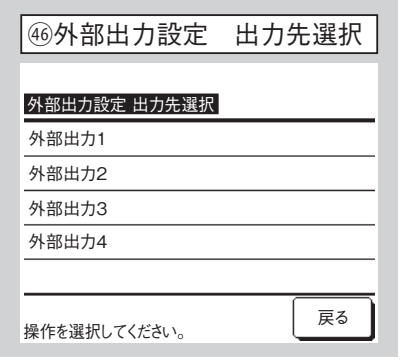
室外温度と冷房／暖房補正値によりサーモ判定します。
(a) 室外温度 _ 冷房補正：冷房中にサーモ判定します。
　室内温度＞（室外温度－冷房補正値）でサーモ ON します。
　冷房補正値は 0 ～ 10℃で設定できます。
(b) 室外温度 _ 暖房補正：暖房中にサーモ判定します。
　室内温度＜（室外温度＋暖房補正値）でサーモ ON します。
　暖房補正値は 0 ～ 5℃で設定できます。



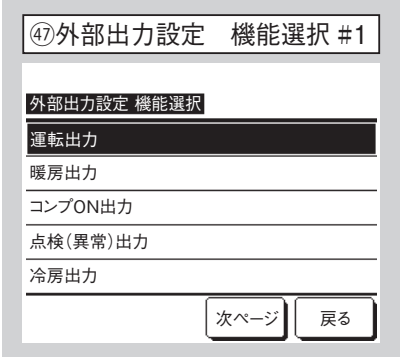
風量自動の切換範囲を設定
自動 1　急⇔強⇔弱
自動 2　P 急⇔急⇔強⇔弱
（FDASでは設定できません。）



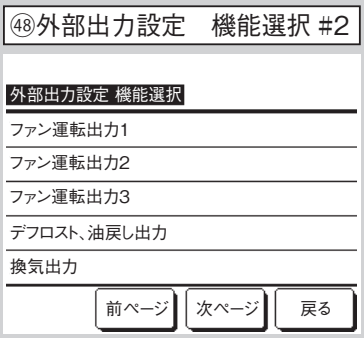
運転開始 30分後、設定温度と吸込温度差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CnT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。



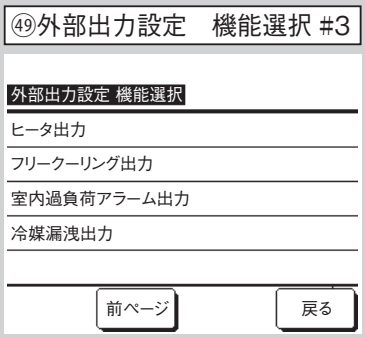
変更する出力先を選択後、選択した出力に割当てる機能を選択します。
各出力のコネクターと初期設定は下記です。
外部出力 1　CnT -2　運転出力
外部出力 2　CnT -3　暖房出力
外部出力 3　CnT -4　サーモON 出力
外部出力 4　CnT -5　点検（異常）出力
詳細は339ページを参照願います。
（FDASでは設定できません。）



㊽外部出力設定　機能選択 #2



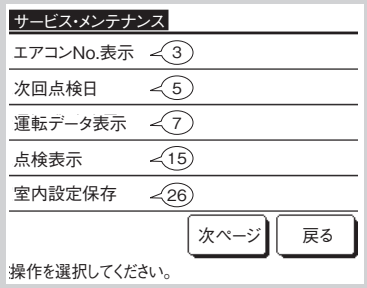
㊾外部出力設定　機能選択 #3



10. サービス・メンテナンス方法

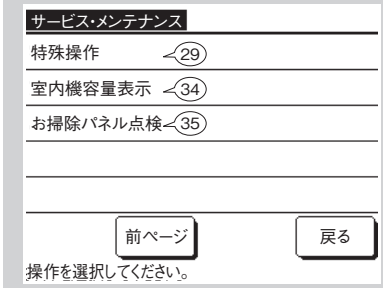
TOP画面 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード]

①サービス・メンテナンス　メニュー



選択した画面に移ります。

②サービス・メンテナンス　メニュー



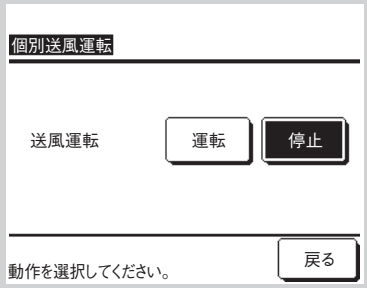
選択した画面に移ります。

③エアコン No. 表示



８台以上接続の場合は、次ページ以降に表示がでます。室内ユニット選択後 [個別送風] ボタンをタッチすると、選択した室内ユニットが送風運転します。⇒④

④個別送風運転



[運転] 送風運転開始。
[停止] 送風運転停止。

⑤次回点検日

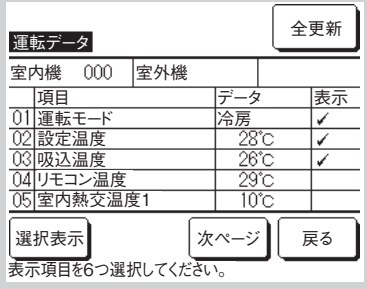


⑥点検メッセージ

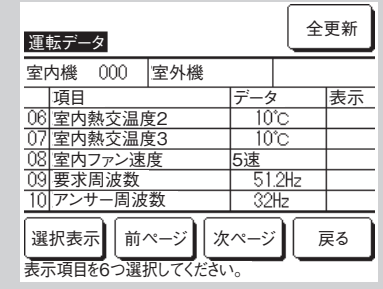


次回点検日を入力すると、点検月の運転開始／停止時にメッセージが表示されます。
表示は 、次回点検日を更新するとリセットされます。
[設定なし] をタッチするとメッセージは表示されません。

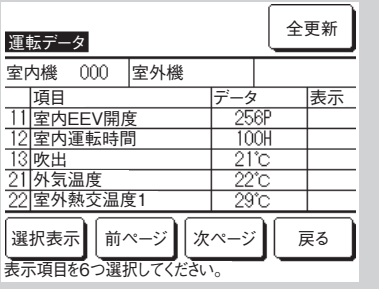
⑦運転データ画面 #1



⑧運転データ画面 #2



⑨運転データ画面 #3

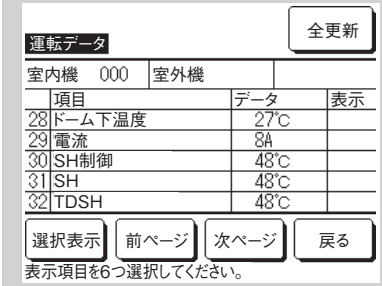


運転データが表示されます。[全更新] タッチで全データが更新されます。
データを自動更新させて表示したい場合、６項目まで選択できます。６項目選択後、[選択表示] ボタンをタッチすると⑭の画面に変わります。

⑩運転データ画面 #4



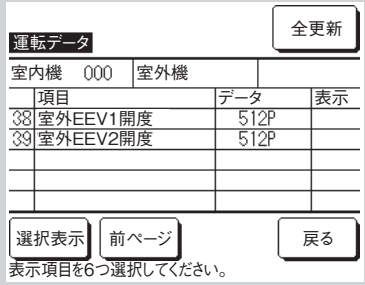
⑪運転データ画面 #5



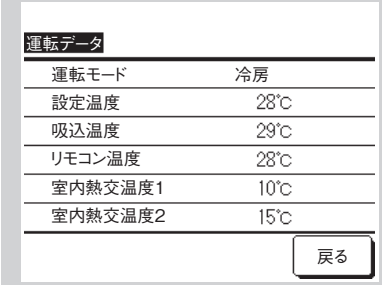
⑫運転データ画面 #6



⑬運転データ画面 #7

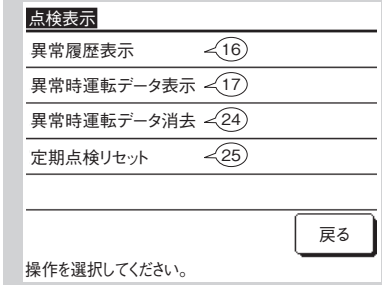


⑭運転データ個別表示画面



選択した６つの項目を自動更新して表示します。

⑮点検表示



⑯異常履歴表示（例）



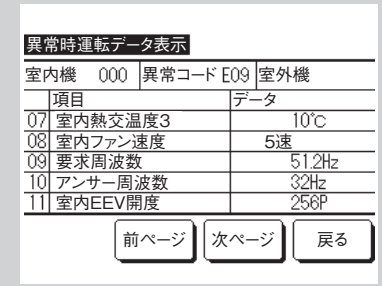
異常発生日時・室内アドレス・異常コードを表示します。

消去 ボタンをタッチすると、異常履歴を消去します。

⑰異常時運転データ表示 #1



⑱異常時運転データ表示 #2

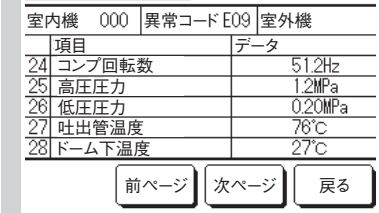


異常発生直前の運転データが表示されます。

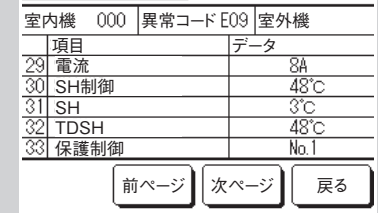
⑲異常時運転データ表示 #3



⑳異常時運転データ表示 #4

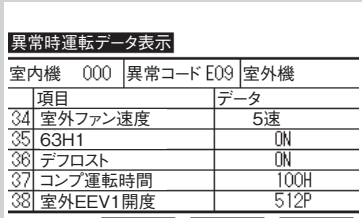


㉑異常時運転データ表示 #5



異常発生直前の運転データが表示されます。

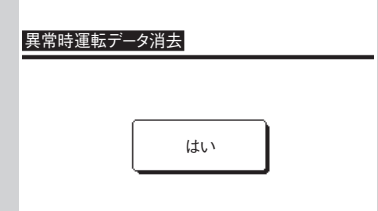
㉒異常時運転データ表示 #6



㉓異常時運転データ表示 #7

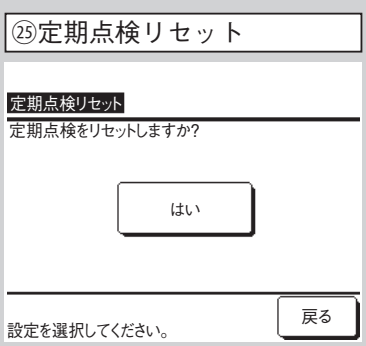


㉔異常時運転データ消去



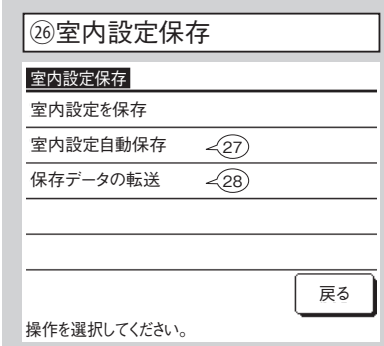
異常時運転データが消去されます。

㉕定期点検リセット



定期点検リセット操作により、時間カウントがリセットされます。

㉖室内設定保存

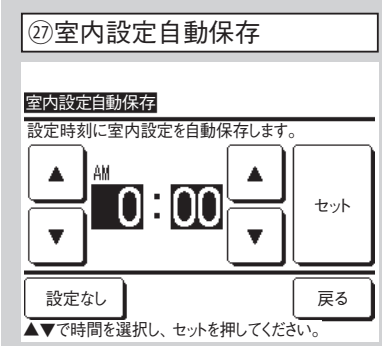


室内設定を保存 リモコンに接続されている室内ユニットすべての設定をリモコンに保存します。

室内設定自動保存 毎日の自動保存時刻を設定します。

保存データの転送 リモコンに保存した室内設定データを室内ユニットに転送します。

㉗室内設定自動保存



毎日の自動保存時刻を設定します。

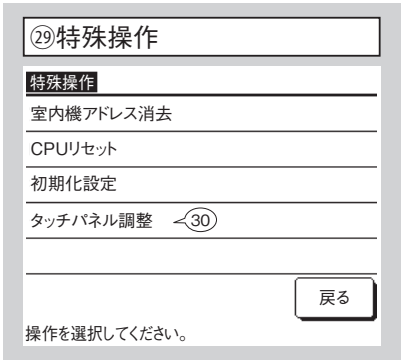
設定なし を選択すると、自動保存は行いません。



転送する室内ユニットを選択すると、確認画面が表示されますので、データ転送を行ってください。

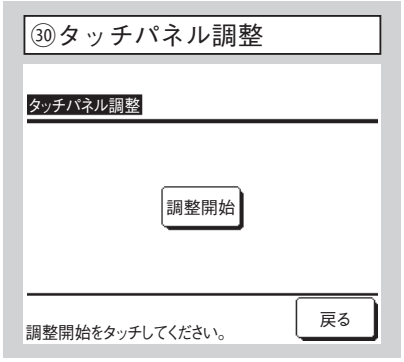
お知らせ

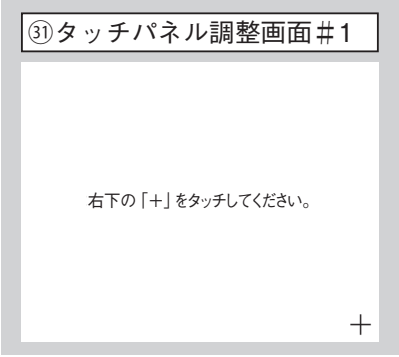
室内ユニット基板を交換したが、設定内容が判らなくなったことはありませんか？
リモコンに室内機設定を保存しておくと、[保存データの転送] により、保存されたデータが室内ユニットに書込まれます。

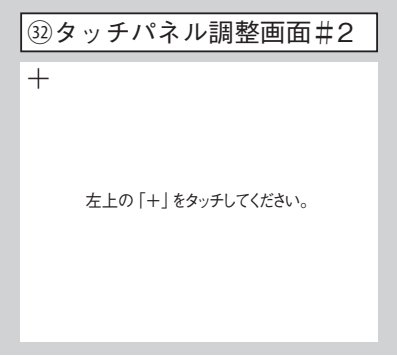


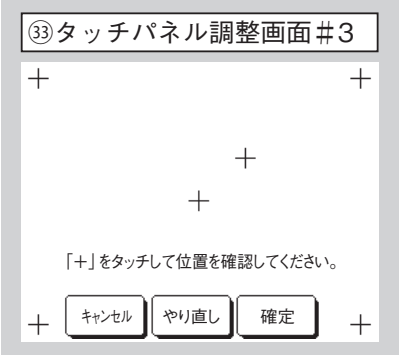
選択した画面に移ります。

室内機アドレス消去　マルチ室内ユニットの記憶が消去されます。
CPU リセット　接続されている、室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット（停電復帰状態）されます。
初期化設定　接続されている、リモコン・室内ユニットの設定が初期値（出荷状態）になります。
タッチパネル調整　表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。









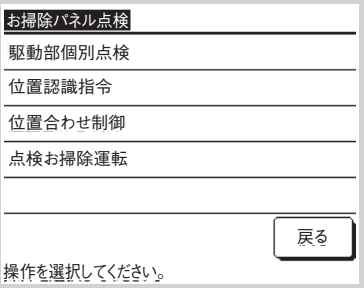
表示とタッチ位置が一致しない場合に調整します。
画面の指示にそって、[+] マーク中心をタッチしてください。
確定 で終了します。

㉞室内機容量表示



リモコンに接続されている室内ユニットの容量を表示します。
7 台以上接続の場合は、次ページ 以降に表示がでます。
室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。

㉟お掃除パネル点検



FDT お掃除パネルを組合せる場合に操作できます。詳細は、お掃除パネル説明書を参照ください。

(b) RC-D4G リモコンの場合

(i) 取付場所の選定

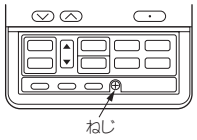
リモコンを下記の場所に設置しないでください。
(リモコンの故障や変形の原因になることがあります。)

1) 直射日光の当たる場所
2) 発熱器具の近く
3) 湿気の多い所･水の掛かる所
4) 取付面が発熱･結露する場所
5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
6) 取付面に凹凸がある所

(ii) 取付要領

1) 露出取付の場合

a) リモコンの蓋を開け，スイッチ下部のねじを必ず外してください。

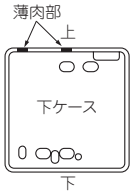


b) リモコンの上ケースをはずしてください。

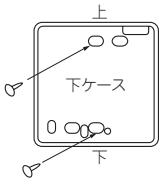
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバー等を差込んで軽くねじると，容易にはずれます。



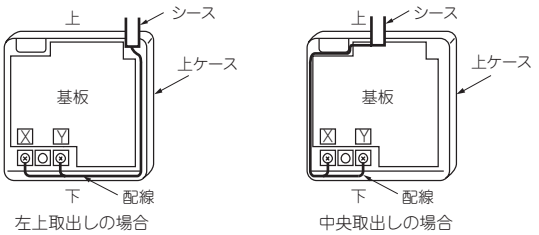
c) リモコンコードの取出方向は，上部左上または，中央から可能です。
リモコン下ケースの上方の薄肉部をニッパー･ナイフ等で切取った後，ヤスリ等でバリを取ってください。



d) リモコンの下ケースを付属の木ねじ2本で平らな壁に取付けます。

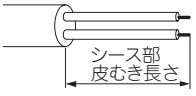


e) リモコンコードを端子台に接続してください。リモコンの端子(X,Y)と室内ユニットの端子(X,Y)とを接続してください。(X,Yの極性はありません。)
取出方向によって，配線経路は下図の通りとなります。



●リモコン内部のリモコンコードは，0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また，リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは 下記の通りです。

左上取出の場合	中央取出の場合
X配線：215mm	X配線：170mm
Y配線：195mm	Y配線：190mm

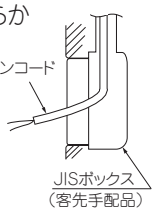


f) リモコンコードが噛みこまないように，上ケースを元通り取付，外したねじで固定してください。

g) 露出取付けの場合は，リモコンコードがたるまないようにコードクランプ等で壁面に固定します。

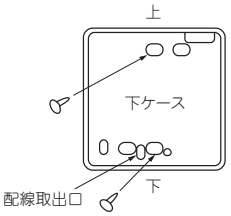
2) 埋込取付の場合

a) JISボックスとリモコンコードをあらかじめ埋込んでおきます。
［使用可能なJISボックス］
JIS C 8340 1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス

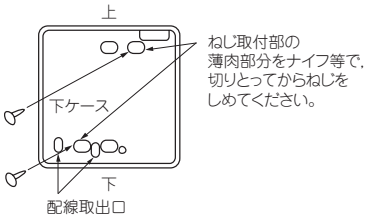


b) M4ねじ2本(推奨長さ12～16mm)を用意して，下ケースをJISボックスに取付けてください。

1個用スイッチボックスの場合

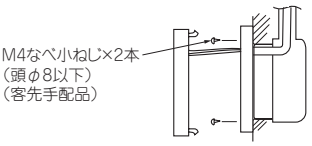


2個用スイッチボックスの場合



c) リモコンコードを端子台に接続してください。リモコンの端子(X,Y)と室内ユニットの端子(X,Y)とを接続してください。(X,Yの極性はありません。)
取出方向およびリモコン内部配線については，露出取付の項をご覧ください。

d) リモコンコードが噛みこまないように，上ケースを元通り取付，外したねじで固定してください。



リモコンコードを延長する場合の注意

最大総延長600m

●リモコンコードは0.3mm²×2心です。
延長距離が100mを超える場合は，下記サイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズ変更してください。配線接続する際は,水分等が浸入しないような処置を行ってください。また，配線の接続は，接触不良のないように確実に行ってください。

100～200m以内……0.5mm²×2心
300m以内……0.75mm²×2心
400m以内……1.25mm²×2心
600m以内……2.0mm²×2心

(iii) 機能設定

(a) 室内ユニットの機能や用途に合わせ，リモコンより機能設定をすることができます。
リモコンより設定可能な項目は下記の通りです。
「○」印の設定内容が工場出荷時の設定です。
「※」印の項目は接続する室内ユニットおよび室外ユニットにより工場出荷時に自動設定されます。

(b) 機能設定のながれ
開始：エアコン停止状態で セット ＋ 運転切換 ボタンを同時に3秒押します。
確定： セット ボタンを押します。
戻る： リセット ボタンを押します。
選択： ▲ ▼ ボタンを押します。
終了： 運転／停止 ボタンを押します。

注(1) 設定の途中でも終了しますが，設定が完了していない場合は無効になります。

①【リモコン機能】

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定	
01	グリル昇降設定	昇降無効	○	
		有効50Hz地区		←50Hz地区で使用の場合。
		有効60Hz地区		←60Hz地区で使用の場合。
02	自動運転設定	自動運転有効	※	
		自動運転無効		←自動運転不可
03	温度設定	温度設定有効	○	
		温度設定禁止		←温度設定ボタンの操作禁止
04	運転切換	運転切換有効	○	
		運転切換禁止		←運転切ボタンの操作禁止
05	運転／停止	運転／停止有効	○	
		運転／停止禁止		←運転／停止ボタンの操作禁止
06	風量切換	風量切換有効	※	
		風量切換禁止		←風量調整ボタンの操作禁止
07	風向切換	風向切換有効	※	
		風向切換禁止		←風向調整ボタンの操作禁止
08	タイマー	タイマー有効	○	
		タイマー禁止		←タイマー操作禁止
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○	
		リモコンセンサ有効		
		リモコンセンサ+3.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+3.0℃温度補正する。
		リモコンセンサ+2.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+2.0℃温度補正する。
		リモコンセンサ+1.0℃		←リモコンセンサ有効かつ+1.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー1.0℃		←リモコンセンサ有効かつ−1.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー2.0℃		←リモコンセンサ有効かつ−2.0℃温度補正する。
		リモコンセンサー3.0℃		←リモコンセンサ有効かつ−3.0℃温度補正する。
10	停電補償設定	停電補償無効	○	
		停電補償有効		
11	換気設定	換気なし	○	
		換気連動		←室内基板CNDに換気機器を接続すると,室内ユニットの運転に連動し,換気機器の運転／停止を行います。
		換気連動なし		←室内基板CNDに換気機器を接続すると,換気ボタンの操作により,換気機器が単独で運転／停止を行います。
12	温度範囲設定	表示変更有り	○	←温度設定範囲を変更した場合,設定温度表示は制御に追従し変化ます。
		表示変更無し		←温度設定範囲を変更した場合,設定温度表示は制御に追従せず，設定した温度のままとなります。
13	室内ファン	3速HI-ME-LO	※	←ファン風量が,急-強-弱の3速,またはP急-急-強-弱の4速となります。
		2速HI-LO		←ファン風量が,急-弱の2速となります。
		2速HI-ME		←ファン風量が,急-強の2速となります。
		1速		←ファン風量が1速のみで固定されます。
14	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	※	←ルーバの停止位置は,4位置より選択します。
		ルーバフリー停止		←ルーバの停止位置は,任意の位置に停止します。
15	冷専／ヒーポン	ヒーポン	※	
		冷専		
16	外部入力設定	一台運転	○	←室内基板CnTに外部入力すると,その室内ユニットが単独で外部入力に従い運転します。
		全台同一運転		←室内CnTに外部入力すると,同一リモコンネットワークの全台が,外部入力に従い運転します。
17	室温表示設定	室温表示無し	○	
		室温表示有り		←通常の運転表示において,風量表示の代わりに室温を表示します。
18	暖房準備表示	表示有り	○	
		表示無し		←暖房準備表示を出さないようにします。

注(1) ルーバ制御設定を変更する場合は,②室内機能04番「ルーバ制御設定」も変更してください。

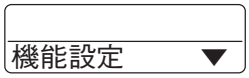
②【室内機能】

機能番号 A	機能内容 B	設定内容 C	出荷時設定	
02	高天井設定	標準	※	←機種によって,初期設定が高天井設定の機種もあります。
		高天井1		
		高天井2		
03	フィルターサイン設定	表示なし		
		設定1	○	←180時間でフィルタサインを表示します。
		設定2		←600時間でフィルタサインを表示します。
		設定3		←1000時間でフィルタサインを表示します。
		設定4		←1000時間でフィルタサインを表示し,その後24時間経過したら強制停止します。
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	※	←ルーバの停止位置は,4位置より選択します。
		ルーバフリー停止		←ルーバの停止位置は,任意の位置で停止します。
05	外部入力切換	レベル入力	○	
		パルス入力		
06	運転許可／禁止	無効	○	
		有効		←運転許可／禁止制御を有効にします。
07	緊急停止	無効	○	
		有効		←同一室外ユニットに接続された全室内ユニットを緊急停止させる時に使用します。遠方発停端子「CnT-6」から停止信号が入った場合，全室内ユニットが緊急停止します。
08	暖房室温補正	補正なし	○	
		室温補正+1.0℃		←暖房時の設定温度を+1.0℃補正します。
		室温補正+2.0℃		←暖房時の設定温度を+2.0℃補正します。
		室温補正+3.0℃		←暖房時の設定温度を+3.0℃補正します。
09	吸込温度補正	吸込補正+2.0℃		←室内ユニットの吸込温度を+2.0℃補正します。
		吸込補正+1.5℃		←室内ユニットの吸込温度を+1.5℃補正します。
		吸込補正+1.0℃		←室内ユニットの吸込温度を+1.0℃補正します。
		補正なし	○	
		吸込補正−1.0℃		←室内ユニットの吸込温度を−1.0℃補正します。
		吸込補正−1.5℃		←室内ユニットの吸込温度を−1.5℃補正します。
		吸込補正−2.0℃		←室内ユニットの吸込温度を−2.0℃補正します。
10	暖房ファン制御	弱風	○	←暖房サーモOFF時,弱風で運転します。
		設定風量		←暖房サーモOFF時,設定風量で運転します。(電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。)
		間欠		←暖房サーモOFF時,間欠運転します。
		停止		←暖房サーモOFF時,ファンは停止します。(リモコンセンサ有効時は,自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は,設定しないでください。)
11	フロスト防止温度	温度　高		
		温度　低	○	
12	フロスト防止制御	ファン制御有効	○	←フロスト防止制御時に,室内ファンタップを上げます。
		ファン制御無効		
13	ドレンポンプ	標準	○	←冷房・除湿時ドレンポンプON
		暖房		←冷房・除湿+暖房時ドレンポンプON
		暖房　送風		←冷房・除湿+暖房+送風時ドレンポンプON
		送風		←冷房・除湿+送風時ドレンポンプON
14	冷房ファン運転	連動なし	○	←冷房停止または冷房サーモOFF後,ファン残留運転なし。
		0.5時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,0.5時間ファン残留運転する。
		1時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,1時間ファン残留運転する。
		6時間		←冷房停止または冷房サーモOFF後,6時間ファン残留運転する。
15	暖房ファン運転	連動なし	○	←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファン残留運転なし。
		0.5時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,0.5時間ファン残留運転する。
		2時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,2時間ファン残留運転する。
		6時間		←暖房停止または暖房サーモOFF後,6時間ファン残留運転する。
16	暖房ファン間欠	連動なし	○	
		20休5送風		←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファンは20分OFF5分弱風の間欠運転。
		5休5送風		←暖房停止または暖房サーモOFF後,ファンは5分OFF5分弱風の間欠運転。
17	外機制御	圧力制御標準	※	
		圧力制御切換		←吸気処理室内ユニットを接続すると,圧力制御切換に自動的に設定されます。

注(1)ルーバ制御設定を変更する場合は,①リモコン機能14番「ルーバ制御設定」も変更してください。

（c）機能設定の仕方

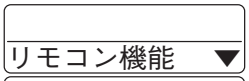
1）エアコンを停止させて，セットと運転切換ボタンを同時に長押しする。
表示が「機能設定　▼」となります。



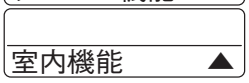
2）セットボタンを押す。

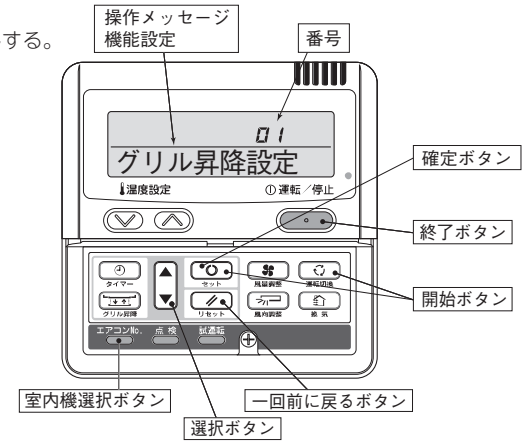
3）設定したい内容が【リモコン機能】か【室内機能】かを確認する。

4）▲または▼ボタンを押す。
【リモコン機能▼】または【室内機能▲】を選びます。



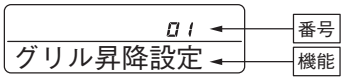
5）セットボタンを押す。





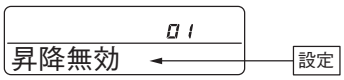
6)【リモコン機能】を選んだ場合

①「データ確認中」（約2秒間点滅表示）
↓
「01　グリル昇降設定」と表示が切換わります。

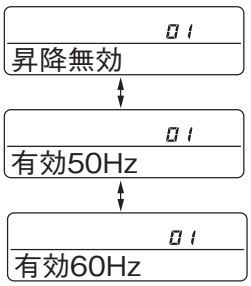


② ▲または▼ボタンを押す。
リモコン機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので，機能を選びます。

③ セットボタンを押す。
選択した機能の,現在の設定が表示されます。
（例）「昇降無効 」← 「 01　グリル昇降設定 」を選択した場合。



④ ▲または▼ボタンを押す。
設定を選びます。

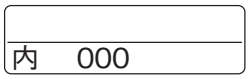


⑤ セットボタンを押す。
「設定完了」が表示され,設定が完了します。その後,「番号と機能」の表示に戻りますので，続けて設定する場合は,同じ要領で設定してください。
終了する場合は,7)へお進みください。



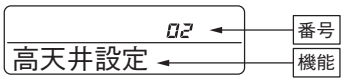
6）【室内機能】を選んだ場合

①「データ確認中」（データを読み込む間約2～23秒点滅）
↓
「01　お掃除自動」と表示が切換わります。
②へお進みください。
〈注意〉
（1）室内ユニットをリモコンに複数台接続している場合は,下記表示となります。
「内　000」（点滅）← 接続されている室内ユニットの最も若い番号を表示。

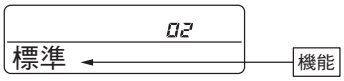


（2）▲または▼ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「全台▼」を選択すると,全台同一の設定ができます。
（3）セットボタンを押す。

② ▲または▼ボタンを押す。
室内機能一覧表の「番号と機能」が順番に表示されますので，機能を選びます。
（例）

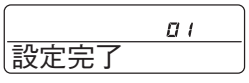


③ セットボタンを押す。
選択した機能の,現在の設定が表示されます。
（例）「標準」← 「 02　高天井設定 」を選択した場合。



④ ▲または▼ボタンを押す。設定を選びます。

⑤ セットボタンを押す。
「設定完了」が表示され,設定が完了します。その後,「番号と機能」の表示に戻りますので，続けて設定する場合は,同じ要領で設定してください。終了する場合は,7)へお進みください。



※室内ユニット複数台接続時,エアコンNo.ボタンを押すと室内ユニット選択表示(例「内　000」)に戻りますので,室内ユニットを換えて設定する場合は,同じ要領で設定してください。

7）運転／停止ボタンを押します。
設定を終了します。

·設定の途中で，運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし,設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
·設定途中で，リセットボタンを押すと,一回前の設定画面に戻ります。
·セット内容は,コントローラ内部に記憶され停電しても保存されています。

《現在設定の確認方法》
上記操作により,「番号と機能」を選び，セットボタンを押した時に,最初に表示される「設定」が,現在設定されている内容です。
（ただし,「全台▼」を選んだ場合は,室内番号の最も若い機種の設定が表示されます。）

(d) リモコン設定温度範囲の変更

工場出荷時の設定温度範囲は，運転モードによって異なり下記のようになっています。

暖房時：18～28℃

暖房以外(冷房，送風，除湿，自動)：20～30℃

1) リモコンから，設定温度の上限および下限を設定することができます。

・上限値設定…暖房運転時に有効。20～30℃の範囲で設定可能です。

・下限値設定…暖房以外（自動，冷房，送風，除湿）時に有効。18～26℃の範囲で設定可能です。

本機能により，上限および下限を設定した場合，下記制御となります。

a) 機能設定モードの【リモコン機能】⑫温度範囲設定が〈表示変更有り〉のとき(工場出荷時設定)

〔上限値を設定すると〕

① 暖房時，リモコンから上限値より高い温度が設定された場合:
30分間設定値温度で運転し，その後自動的に上限値温度を送信します。リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房時，上限値以下の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

〔下限値を設定すると〕

① 暖房以外の運転モードのとき，リモコンから下限値より低い温度が設定された場合:
30分間設定温度で運転し，その後自動的に下限値温度を送信します。リモコン表示もそれに付随します。

② 暖房以外の運転モードのとき，下限値以上の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

b) 機能設定モードの【リモコン機能】⑫温度範囲設定が〈表示変更無し〉のとき

〔上限値を設定すると〕

① 暖房時，リモコンから上限値より高い温度が設定された場合:
上限値を送信します。ただし，リモコン表示はそれに付随せず，設定した温度のままです。

② 暖房時，上限値以下の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

〔下限値を設定すると〕

① 暖房以外の運転モードのとき，リモコンから下限値より低い温度が設定された場合:
下限値を送信します。ただし，リモコン表示はそれに付随せず，設定した温度のままです。

② 暖房以外の運転モードのとき，下限値以上の温度が設定された場合:
設定温度を送信します。

2) 上限値，下限値の設定方法

a) エアコンを停止させて，[セット]と[運転切換]ボタンを同時に3秒以上押します。
表示が「機能設定▼」となります。

b) [▼]ボタンを一度押し，「温度範囲▲」表示に切換えます。

c) [セット]ボタンを押して，温度範囲設定モードに入ります。

d) [▲][▼]ボタンにより，「上限設定▼」または「下限設定▲」を選びます。

e) [セット]ボタンを押して確定します。

f)「上限設定▼」を選んだ場合（暖房時に有効となります）

① 表示:「∨∧で設定」→「上限28℃∨∧」

② 温度設定[∧][∨]ボタンにより，上限値を選びます。表示例:「上限26℃∨∧」(点滅)

③ [セット]ボタンを押して確定します。表示例:「上限26℃」(2秒間点灯)
確定した上限値を2秒間点灯後，表示は「上限設定▼」に戻ります。

g)「下限設定▲」を選んだ場合（冷房，除湿，送風時に有効となります。）

① 表示:「∨∧で設定」→「下限20℃∨∧」

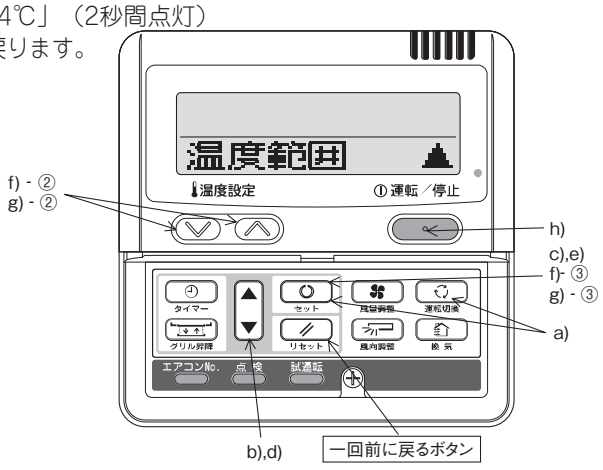
② 温度設定[∧][∨]ボタンにより，下限値を選びます。表示例:「下限24℃∨∧」(点滅)

③ [セット]ボタンを押して確定します。表示例:「下限24℃」（2秒間点灯）
確定した下限値を2秒間点灯後，表示は「下限設定▲」に戻ります。

h) [運転／停止]ボタンを押して，終了します。

·設定の途中で[運転／停止]ボタンを押しても終了します。ただし,設定が完了していない内容は無効となりますので,ご注意ください。

·設定の途中で,[リセット]ボタンを押すと,一回前の設定画面に戻ります。



⑽ 電気配線工事（FDAS は除く）

PSC012D116

電気配線工事は電気設備技術基準および内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。
安全のため必ずお守りください。

●誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「⚠**警告**」と「⚠**注意**」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。

●「⚠**警告**」「⚠**注意**」の意味

⚠警告	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。
⚠注意	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

●ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。 ⃠ 絶対に行わない ❗ 必ず指示に従い行う

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電または過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

⚠警告

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付が不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

●別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付は専門業者に依頼する。
ご自分で取付をされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

●室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがＯＮのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

●元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

●アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。

●電源には必ず漏電しゃ断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電しゃ断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。

●正しい容量の全極しゃ断するブレーカ（漏電しゃ断器・手元開閉器（開閉器+B 種ヒューズ）・配線しゃ断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。

●電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。

●室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。

●運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。

●電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

制御の切換

●室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。（[ ]は工場出荷時の設定）

スイッチNo.		制御内容
SW1		室内アドレス(10位)
SW2		室内アドレス(1位)
SW3		室外アドレス(10位)
SW4		室外アアドレス(1位)
SW5−1 (注1)	ON	旧SL通信仕様固定
	[OFF]	新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW5−2		室内アドレス(100位)
SW6−1〜4		機種容量
SW7−1	ON	運転チェック･ドレンポンプ運転試
	[OFF]	通常運転

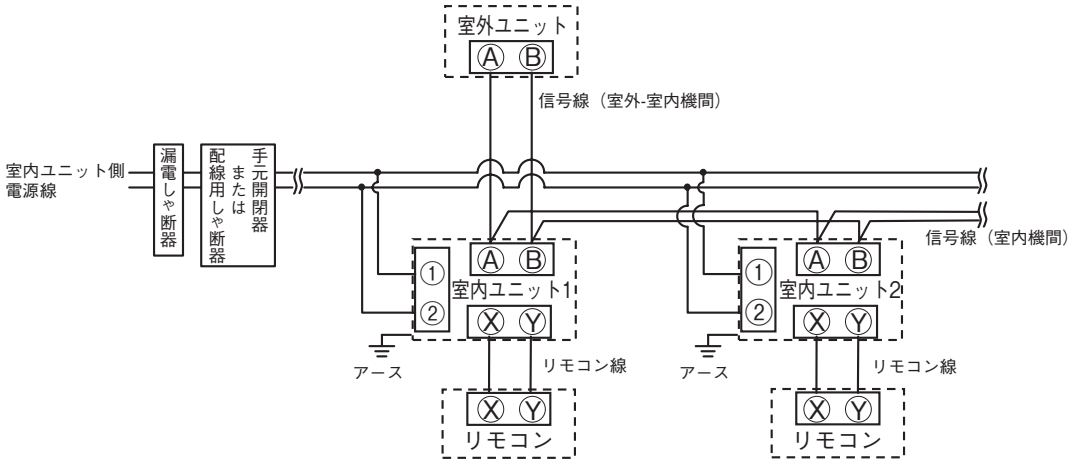
注 1：通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。
旧 SL：ビル空調 2LX シリーズ，ガスヒートポンプ M7 シリーズ以前
新 SL：ビル空調 3LX シリーズ，ガスヒートポンプ M8 シリーズ以降
SW5-1 が OFF（工場出荷設定）の場合は，通信仕様（新 SL/ 旧 SL）を自動判別します。
旧 SL 通信仕様固定で使用する場合は，SW5-1 を ON にしてください。
各通信仕様の特徴，制限は室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

①電源・室内外配線の接続

●電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
②電源は、室外ユニット、室内ユニット各々別電源としてください。
③電気ヒータ（別売品）はなしにて記載してあります。
注：電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
④同一系統内の室内ユニットの電源は、必ず全て同時 ON、同時 OFF になるようにしてください。
●アース線は室内外接続線および室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
●電源は工事が完了するまで入れないでください。
●D種接地工事を必ず行ってください。



●端子台への接続は、丸型圧着端子を接続してください。
●専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害は生じる恐れがあります。
●機種毎に設定された過電流および漏洩しゃ断器を設置してください。
●室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
●天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
●室内ユニットに接続する電源線は 3.5mm² まで使用可能です。5.5mm² 以上の配線を使用する場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
●信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、ご注意ください。
① A-B 信号線に誤って、200V 電源を接続しても初めの 1 回は保護します。
②電源投入 15 分経過後リモコンからユニット No.(アドレス）が確認できない場合は、全ての信号線を確認して誤接続を修復してください。
③焼損基板のジャンパ線 J10SL1 を切り、コネクタ CnK（黄）CnK1（白）を CnK2（黒）に差替える。
④ A-B 端子台から基板までの配線に異常があれば交換してください。
●室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
●リモコン用端子台には、200V 電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
●ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
①ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース線に接続してください。
②電源には必ず漏洩しゃ断器を取付けて下さい。漏洩しゃ断器は、インバータ回路用しゃ断器（三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品）を選定してください。
③漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合には、漏洩しゃ断器と直列に手元しゃ断器（開閉器＋ B 種ヒューズ）または、配線用しゃ断器が必要となります。
④手元開閉器はユニットの近傍に設置ください。
●配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
●補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。



①電源・室内外配線の接続（つづき）

電源仕様

●室内ユニットを個別に電源に接続する場合

①室内ユニット電源 使用（②～③以外の機種）								
機種容量	漏電遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
22-36形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	298m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
45-56形					275m			
71-90形					179m			
112-160形					123m			
②高静圧ダクト、給気処理ユニット、加湿器付外気処理ユニット								
45-90形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	149m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
112-160形					85m			
224,280形					28m			
③床置形システムパッケージ								
112形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm²×2	51m	0.75～1.25mm²×2	0.3mm²×2心	2.0mm²
140,160形					34m			
224,280形	20A 30mA 0.1sec		20A	3.5mm²×2	32m			

注 1. 配線こう長は、電圧降下２％とした場合を示します。上記の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

注 2. リモコン線の延長距離が100mを越える場合は、③リモコンの取付 に従い、配線太さを見直してください。

●複数の室内ユニットを一つの電源に接続する場合

室内ユニット合計電流	配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	配線用しゃ断器定格電流
7A以下	2	21	20A
11A以下	3.5	21	20A
12A以下	5.5	33	20A
16A以下	5.5	24	30A
19A以下	5.5	20	40A
22A以下	8	27	40A
28A以下	8	21	50A

注1. 表中のこう長は、室内ユニットを直列に接続した場合の値を示します。また、室内ユニット合計電流別に電圧降下を2%以内とした場合の配線太さとこう長を示しています。電流が左表の値を超える場合、内線規程に従い配線太さを見直してください。

注2. サービス時（電源OFF時）のため、別の冷媒配管系統の室内ユニットを同一電源とすることは避けてください。

漏電しゃ断器の定格感度電流は、下記計算式と判定方法を参照ください。

注3. 下記に示す計算式は目安であり、現地設備、工事内容により異なる場合があります。漏電しゃ断 器が頻繁に作動する場合は、現地設備、工事内容に適した漏電しゃ断器を選定してください。

<計算式>　必要感度電流 ＝（各室内ユニットの機種係数　×台数）の合計値　＋ (配線係数×配線長[km])

<機種係数>

機種	係数
FDT,FDTC	3.5
FDTW,FDTS,FDR,FDU,FDE,FDK,FDU-F	2.5

<配線係数>

電源配線径	係数
2.0mm²	50
3.5mm²	60
5.5mm²	60
8.0mm²	60

<判定方法>

(ⅰ) 必要感度電流≦30　　定格感度電流30mA（0.1s以下）品をご使用ください。

(ⅱ) 30<必要感度電流≦100　　原則、必要感度電流が30mA以下となるよう漏電しゃ断器の系統分割をしてください。系統分割が難しい場合は、接地抵抗値が内線規程に基づいた値以下となる様確実に接地工事を行った場合に限り、定格感度電流100mA（0.1s以下）品の使用が可能です。

(ⅲ) 100<必要感度電流　　漏電しゃ断器の系統分割（追加）が必要です。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）に付属の据付説明書をご覧ください。

②アドレス設定

アドレス設定は、（1）手動アドレス設定、（2）自動アドレス設定の２方法ができます。
自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。
設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

③リモコンの取付（別売部品）

●次の位置へ取付けないでください。

○直射日光の当たる所
○発熱器具に近い所
○湿気の多い所、水が飛散する所
○取付面が発熱・結露する所
○油の飛沫や蒸気が直接触れる所
○取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

①リモコンの取付は、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、０．３mm^2×２心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は 1mm 以上のものを使用してください。（現地手配）

③リモコン線の総延長は６００mです。

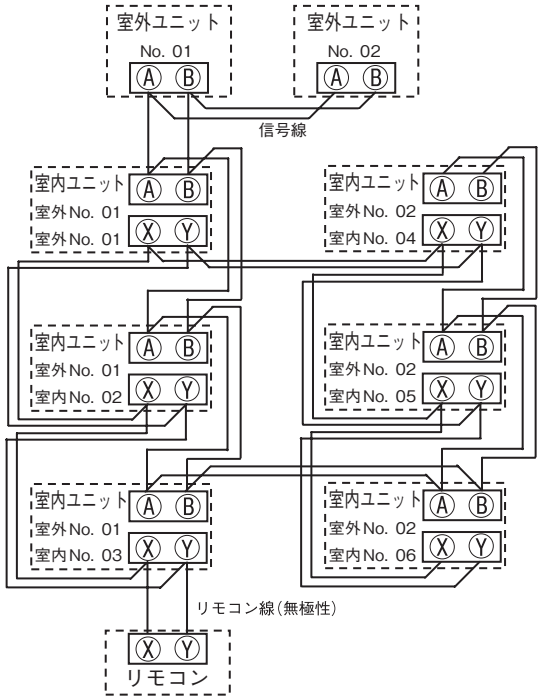
延長距離が１００mを超える場合は、下記サイズに変更してください。ただし､リモコンケース内を通る配線は最大０．５mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

１００～２００m以内・・・・・０．５mm^2× ２心
３００m以内・・・・・０．７５mm^2× ２心
４００m以内・・・・・１．２５mm^2× ２心
６００m以内・・・・・２．０mm^2× ２心

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。

⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）



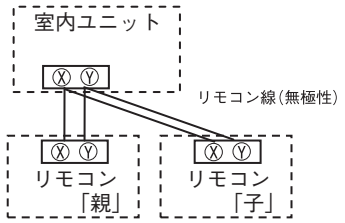
１リモコンによる複数台室内ユニット制御

①１つのリモコンで複数台のユニット（最大１６台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間を２心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内・室外Ｎｏ．を手動アドレス設定にてセットしてください。
○室内ユニット基板上のロータリスイッチＳＷ１, ＳＷ２及びディップスイッチＳＷ5-2により、室内Ｎｏ．を重複しないように設定してください。

④右図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。



複数リモコン使用時の親子設定

室内１台（または１グループ）に対して、最大２個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン２台、あるいはワイヤードリモコン＋ ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット２台のいずれかの組合せができます。

１個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

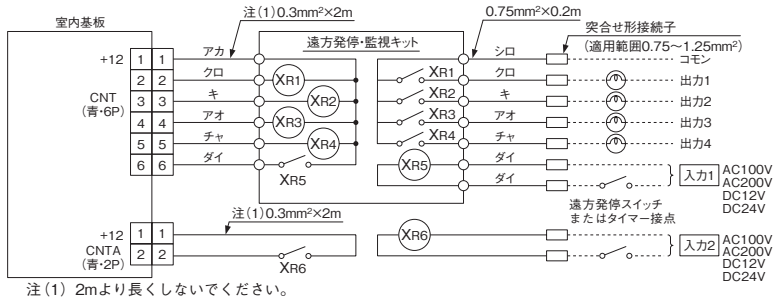
○ 注意　リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

③リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作（RC-DX シリーズ）	標準リモコンから操作（RC-D シリーズ）
1	リモコン系統内の接続ユニットの接続台数確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを 1 台ずつ確認してください。
2	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③ [運転切換] を押してください。送風運転します。
3	親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ（SW1）を「子」に設定してください。
4	運転データの確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒室内機選択⇒▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒▲▼データ選択
5	点検表示の確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒運転データ表示▼⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲⇒ [セット] ⇒ データ確認中⇒データ表示
6	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。 ② [運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③ [試運転] を３秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④「冷房試運転▼」の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
7	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	① [運転 / 停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ② [▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③ [セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。 表示 :「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

④室内基板CnTコネクタの機能



注（1）2mより長くしないでください。

●XR1～4はDC12Vリレー（オムロン製LY2F相当品）
●XR5は、DC 12, 24 Vまたは100Vリレー（オムロン製MY 2F相当品）
●CnTコネクタ（現地側）メーカ、形式
コネクタ :モレックス製 ５２６４－０６
端　　子:モレックス製 ５２６３T
別売品（PCZ006A043）を準備しておりますのでご利用ください。
●遠方発停・監視キットを別売品にて準備しておりますのでご利用ください。
●CnTAコネクタは、FDT他に搭載<仕様書で確認願います>（現地側）メーカ、形式
コネクタ:日本圧着端子JST製　ＸＡＰ０２Ｖ－１－Ｅ
端　　子: 日本圧着端子JST製　ＳＸＡ－０１Ｔ－Ｐ０.６
別売品（PCZ006A053）を準備しておりますのでご利用ください。

●出力1～4, 入力1・2を下記の項目より自由に選択・設定することができます。
工場出荷時は下記のように設定されています。

出力

①	運転出力	⑧	ファン運転出力3
②	暖房出力	⑨	デフロスト , 油戻し出力
③	圧縮機ON出力	⑩	換気出力
④	点検 (異常) 出力	⑪	ヒータ出力
⑤	冷房出力	⑫	フリークーリング出力
⑥	ファン運転出力1	⑬	室内過負荷異常出力
⑦	ファン運転出力2		

入力

①	運転 / 停止	⑤	設定温度シフト
②	運転許可禁止	⑥	強制サーモ OFF
③	緊急停止	⑦	一時停止
④	冷房 / 暖房	⑧	静音モード

工場出荷時の設定

CNT-2	出力 1	運転出力	CNT-5	出力 4	点検 (異常) 出力
CNT-3	出力 2	暖房出力	CNT-6	入力 1	運転 / 停止
CNT-4	出力 3	圧縮機ON 出力	CNTA	入力 2	運転 / 停止

●設定の方法は技術資料をご覧ください。

⑤リモコンからの操作・設定

〈ecoタッチリモコンの凡例〉
A：eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。
B：eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。
C：インターネットよりユーティリティーソフトを配信中です。

〈標準リモコンの設定操作可否〉
○：eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。
△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。
空欄：標準リモコンには、この機能はありません。

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
1. リモコンネットワーク					
1	複数室内機制御		リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内機を接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。		○
2	親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン (含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
2.TOP 画面・SW 操作					
1	メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2	運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3	設定温度		室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4	風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効 / 無効を設定します（FDK の場合）。※2	A	△
5	風量		風量を設定します。	A	○
6	タイマー設定		タイマー運転を設定します。	A	○
7	運転／停止 SW		運転を開始します。／停止します。	A	○
8	F1 スイッチ ※ 1		F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
9	F2スイッチ ※ 1		F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
10	言語切換 ※ 3		リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語	A	
3. 便利機能					
1	フリーフロー設定		各ルーバの可動範囲（上限位置―下限位置）を設定します。 FDK の場合は左限位置 - 右限位置も設定します。 ※2	A	△
2	エアフレックス（風よけ）設定※ 1 エアフレックスパネル組合せの場合※ 3		・詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効・無効を設定します。 ・ON/OFF 切換：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF（作動中 / 停止中）を切換えます。	A	
3	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。	A	△
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。	A	
4	おこのみ設定 ※ 1 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 のそれぞれに設定が可能です。	A	
5	ウィークリータイマー		1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
6	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温 / 低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房 / 暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A	
7	換気 換気機器組合せの場合		換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転 / 停止ができます。	A	○

※ 1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 4：標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
8	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / ※2 トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語	A	
9	室外静音設定 ※3		室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	
10	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
11	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
4. 省エネ設定			管理者パスワード		
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ～ 240 分 (10 分単位）まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	△
2	ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0,40 ～ 80% (20%単位）から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード / 冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 20 ～ 120 分（10 分単位）まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4	人感センサ制御 ※1 人感センサ付パネル組合せの場合		人感センサを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効／無効を設定します。	A	
5. お手入れ					
1	フィルタサイン リセット	フィルタサインの解除	フィルターサインの解除を行います。	A	
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。	A	
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル 組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリル昇降操作] の設定が必要です。	A	○
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・0.1 ～ 4.0 mの範囲で設定できます。 ・設定長さは 0.1 m単位で設定可能です。 ・接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
3	お掃除パネル設定 管理者パスワード	お掃除自動設定	自動清掃の有効 / 休止を設定します。	A	
		清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。	A	
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。	A	
6. ユーザ設定					
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ・80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
		時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12 H／ 24 H、AM/PM 位置、を設定します。	A	
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1 時間の補正を行います。	A	
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。	A	
		バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。	A	
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。	A	
		運転ランプ輝度 ※1	運転ランプの輝度の調整を行います。	A	

※ 1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 4：標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定	・操作の許可 / 禁止を設定します。 [運転 / 停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示]　※ 1　※ 4 ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定]　[言語切換設定] [ドラフト防止設定]　※ 1　※ 4	A	△
		室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△
		設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
		温度設定刻み切換	設定温度の刻み (0.5℃ /1.0℃) を設定します。	A	
		設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切り換えます。	A	
		リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。	A	△
		管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。	A	
			管理者パスワードのリセットを行います。	B	
		スイッチ機能変更※ 1	F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF]　※ 3 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転1][おこのみ設定運転 2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示]	A	
7. サービス設定					
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録	据付日を登録した場合、点検表示を行います。	B	
		サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
		試運転	試運転の開始／停止を制御できます。	B	△
		冷房試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。		
		ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。		
		お掃除試運転	フィルタ清掃　ブラシ清掃運転します。　お掃除パネル組合せの場合	B	
		ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
		自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
		親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ　設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△
		バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。	B	
		人感センサ設定　※ 1 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内機の人感センサ検知の有効／無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。	B	
		グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目			詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
		吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B	
		リモコンセンサー	リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。	B	△
		リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房　別々に補正可能です。	B	△
		運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△
		設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／℉の選択が可能です。	B	
		ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○
		外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○
		上下ルーバ制御	上下ルーバの [4 位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	○
		左右ルーバ制御 ※ 2	左右ルーバの [固定位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	
		換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
		停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
		設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B	
		風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B	
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
		フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
		外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。	B	○
		外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。	B	○
		外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。	B	
		外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。	B	
		暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ～ +3℃の範囲で補正できます。	B	△
		吸込温度補正	吸込センサー検知温度を± 2℃の範囲で補正できます。	B	△
		冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
		フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
		フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
		ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
		冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
		暖房ファン間欠	暖房停止･暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
		送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。	B	
		外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
		運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
		サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
		風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
		室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5) から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
		外部出力設定　※ 1	外部出力 1 ～ 4 に割り当てる機能を換えられます。	B	

※ 1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 4：標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目				詳細内容	RC-DX3B	RC-D4G
4	サービス・メンテナンス		エアコンNo. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。 個別送風運転で確認できます。	B	○
		サービスパスワード	次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	○
			運転データ表示	室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
			点検表示			
				異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。	B	△
				異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。		
				異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
				定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
			室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
			特殊操作	[室内アドレス消去][CPU リセット][初期化設定][タッチパネル調整] の操作ができます。	B	△
			室内機容量表示 ※1	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。	B	
			お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B	○
8. 困ったときは・・・						
1	連絡先表示			登録した連絡先・TEL番号、 サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2	サービスを依頼される前に Q & A			Q &Aが表示されます。	A	
9. 点検表示						
	点検表示確認			異常発生時の表示	A	△
10. パソコン接続						
	USB 接続			ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。	C	

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

10. マイコン運転制御機能

ESP-FP-2298 AP

10.1 室内コントローラによる運転制御機能

(1) 自動運転モード（冷暖フリーマルチ LXR シリーズのみ）

リモコンで「自動」モードを選択すると，外気温度と設定温度または設定温度と吸込温度の差温に応じ自動的に冷房・暖房に切換えます。（冷房⇔暖房切換が3分以内に行われる場合は3分タイマにより3分間圧縮機は運転しません。）

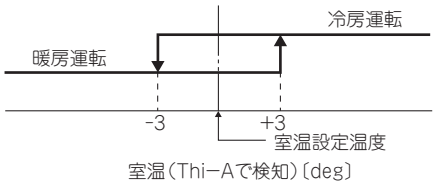
中間期等における冷/暖切換え操作を簡便にできると共に，店舗等（銀行のATMコーナー）の無人運転に対応できます。

RC-DX3Bリモコンを使用する場合，設定により(a)～(c)の自動運転が選択できます。（初期設定は(a)）。

RC-D4Gリモコンの場合，(a)のみとなります。

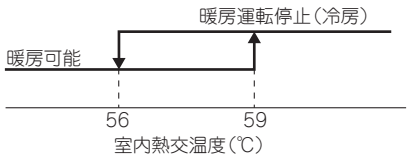
(a) 自動運転1：設定温度と吸込温度の差により，冷暖運転モードを判定します。

運転モード切換温度差はリモコン設定により変更可能です（RC-D4Gを除く）。



注(1) 自動冷房／暖房時の室温制御は，室温設定温度により行います。（DIFF：±1deg）

(2) 暖房時室内熱交温度が59℃以上になると自動的に冷房に切換えます。またこの切換後1時間以内は右記の温度にかかわらず暖房運転を行いません。



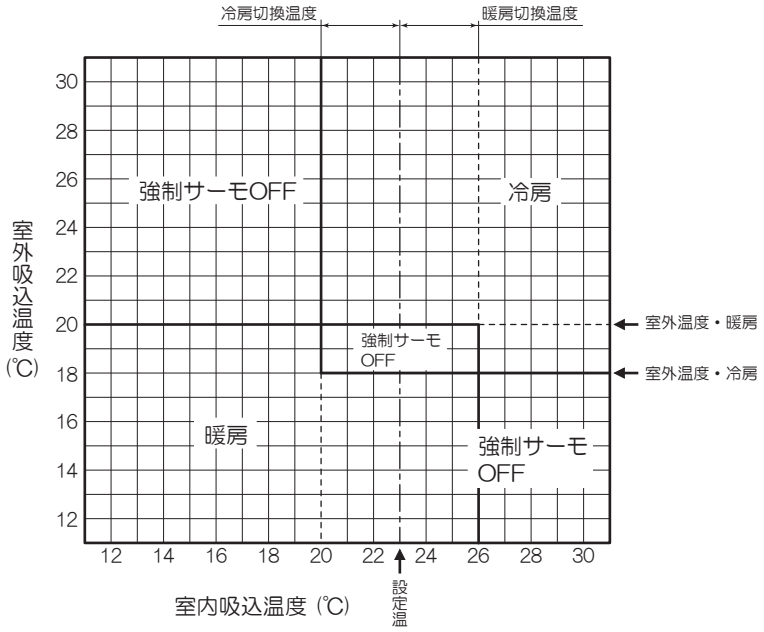
(b) 自動運転2：「設定温度＋冷房切換温度と室内吸込温度による判定」と「室外温度による判定」との条件により，冷暖運転モードを判定します。冷房切換温度，暖房切換温度，室外温度・冷房，室外温度・暖房はリモコン設定により変更可能です。

1) 「設定温度－冷房切換温度＜室内吸込温度」かつ「室外温度・冷房＜室外吸込温度」⇒運転モード：冷房

2) 「設定温度＋暖房切換温度＞室内吸込温度」かつ「室外温度・暖房＞室外吸込温度」⇒運転モード：暖房

3) 上記判定条件の室外吸込温度は，10分毎にサンプリングをします。

4) 上記の冷房・暖房領域が重なる範囲の場合 ⇒ 強制サーモOFF



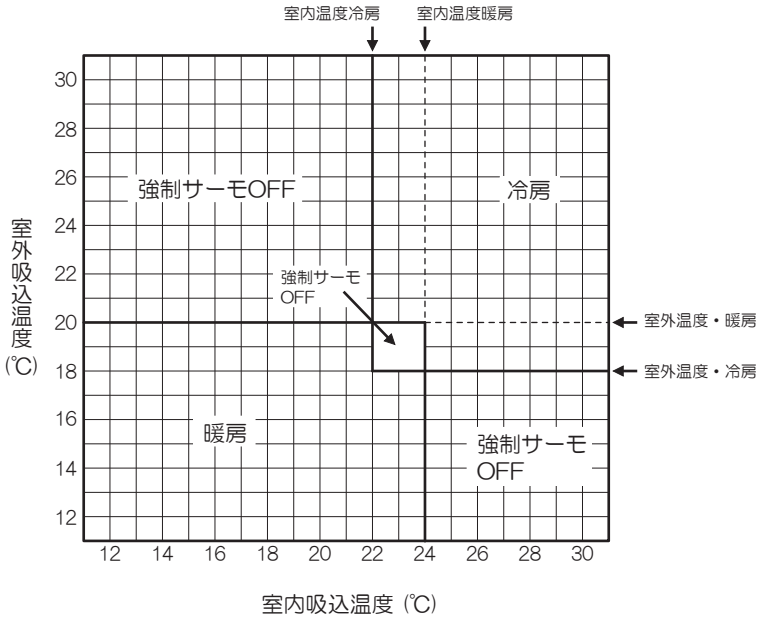
(c) 自動運転3：設定温度によらず，「室内温度・冷房または暖房と室外温度・冷房または暖房による判定により，冷暖運転モードを判定します。室内温度冷房，室内温度暖房，室外温度冷房，室外温度暖房はリモコン設定により変更可能です。

1）「室内温度・冷房＜室内吸込温度」かつ「室外温度・冷房＜室外吸込温度」の場合 ⇒ 運転モード：冷房

2）「室内温度・暖房＞室内吸込温度」かつ「室外温度・暖房＞室外吸込温度」の場合 ⇒ 運転モード：暖房

3） 上記判定条件の室外吸込温度は，10分毎にサンプリングをします。

4） 上記の冷房・暖房領域が重なる範囲の場合 ⇒ 強制サーモOFF



(2) 冷房・暖房運転時の機能品動作

動作 / 機能品	冷房		送風	暖房			除湿
	サーモON	サーモOFF		サーモON	サーモOFF	ホットスタート（デフロスト）	
圧縮機	○	×	×	○	×	○	○／×
四方切換弁	×	×	×	○	○	○（×）	×
室外送風機	○	×	×	○	×	○（×）	○／×
室内送風機	○	○	○	○／×	○／×	○／×	○／×
ルーバモータ	○／×			○／×	○／×	○／×	○／×
ドレンポンプ(3)	○	×(2)	×(2)	○／×(2)			サーモON：○ サーモOFF：×(2)

注(1) ○：運転　×：停止　○／×：室温制御以外の制御により運転／停止します。
(2) ドレンポンプ遅延制御中はON。
(3) ワイヤードリモコンの室内機能設定によりドレンポンプON設定の選択が可能です。

(3) 除湿運転

(a) FDT, FDTC, FDKシリーズ

吸込口に設置された相対湿度センサ［HS］および吸込空気温度センサ〔Thi-A（リモコンセンサ有効時はリモコン温度センサによる）〕により，室内の温湿度環境を同時に制御します。

(i) 冷房運転で運転を開始し，吸込空気温度と設定温度の差が2℃以内の場合は，室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

(ii) 上記成立後，吸込温度と設定温度の差が３℃以下，かつ，相対湿度が目標相対湿度より高い場合は，室内ファンタップを１タップダウンします。吸込温度と設定温度との差が３℃より大きい場合，室内ファンタップを１タップアップします。

室内ファンタップ切換え後３分間はタップを保持します。

(iii) 相対湿度センサの検知湿度が目標相対湿度以下になった場合，室内ファンタップを保持します。

(iv) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合，サーモON時の室内ファンタップを保持します。

(b) その他のシリーズ

吸込空気温度センサ〔Thi-A（リモコンセンサ有効時はリモコン温度センサによる）〕により，室内の温度環境を同時に制御します。

(i) 冷房運転で運転を開始し，吸込空気温度と設定温度の差が2℃以内の場合は，室内ファンタップを1タップダウンします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

注(1) 「P急」の場合「急」にタップダウンします。

(2) 室内風量のダウンは弱タップを下限とします。

(ii) 除湿運転中に吸込空気温度が設定温度より3℃より大きくなった場合，室内ファンタップを1タップアップします。室内ファンタップ切換え後3分間はタップを保持します。

注(1) 室内風量のマップは設定風量を上限とします。

(iii) 上記制御中にサーモOFFが成立した場合，サーモOFF中はサーモON時の室内ファンタップを保持します。

(iv) 冷房停止後室内ファンをLoで15秒間残留運転を行います。

(4) タイマー運転

(a) RC-DX3A, Bリモコンの場合

(i) 切忘れタイマー

運転開始してから停止するまでの時間を設定します。設定時間は30～240分（10分単位）まで選択可能です。

注(1) リモコンより「切忘れタイマー」設定を有効にしてください。有効の場合，毎回タイマーが作動します。

(ii) 時間切タイマー

運転後，停止させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。

(iii) 時間入タイマー

停止後，運転させたい時間を1～12時間の範囲（1時間単位）で設定します。また，同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

(iv) 時刻入タイマー

運転開始時刻を設定します。設定時刻は5分単位で設定可能で，1回のみ／毎日の切換が可能です。また，同時に室内温度・運転モード・風量・ウォームアップ有効／無効の設定が可能です。

注(1) 時刻入タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(v) 時刻切タイマー

運転停止時刻を設定します。設定時刻は5分単位で設定可能で，1回のみ／毎日の切換が可能です。

注(1) 時刻切タイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vi) ウィークリータイマー

1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。１日最大８パターンまでの設定が可能で，祭日および臨時休業など休日設定が可能です。

注(1) ウィークリータイマーを使用するには，時刻設定が必要です。

(vii) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

	切忘れタイマー	時間切タイマー	時間入タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
切忘れタイマー		×	×	○	○	○
時間切タイマー	×		×	×	×	×
時間入タイマー	×	×		×	×	×
時刻切タイマー	○	×	×		○	×
時刻入タイマー	○	×	×	○		×
ウィークリータイマー	○	×	×	×	×	

注(1) ○：可，×：不可

(b) RC-D4Gリモコンの場合

(i) 時間タイマー

現在よりエアコンOFFの時間を設定します。

「１時間後切」から「10時間後切」の10段階での選択が可能です。時間タイマー設定後は，現在時刻の経過とともに１時間単位で残り時間の表示を行います。

(ii) 時刻切タイマー

エアコンOFF時刻を10分単位で設定が可能です。

(iii) 時刻入タイマー

エアコンON時刻を10分単位で設定が可能です。また，同時に室内温度も1℃単位で設定が可能です。

(iv) ウィークリータイマー

各曜日毎に，一日最大４回タイマー運転（入タイマー，切タイマー）の設定が可能です。

(v) タイマー運転の併用設定可能な組合せ

	時間タイマー	時刻切タイマー	時刻入タイマー	ウィークリータイマー
時間タイマー		×	○	×
時刻切タイマー	×		○	×
時刻入タイマー	○	○		×
ウィークリータイマー	×	×	×	

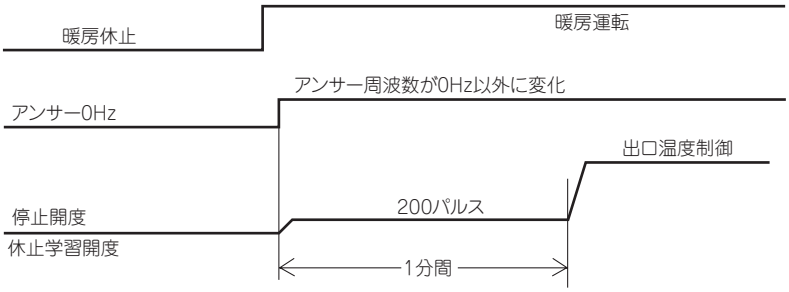
注(1) ○：可，×：不可

(2) 時刻入タイマーと時間タイマーおよび時刻切タイマーが併用設定されており、タイマー入時刻とタイマー切時刻（または切時間）が同時刻に設定された場合は、タイマー切設定が優先されます。

(5) ホットスタート（暖房時コールドドラフト防止）

(a) 開始条件

暖房運転開始時、アンサー周波数が0Hzから0Hz以外に変化した時、1分間は膨張弁開度を200パルスに固定します。



(b) 制御内容

(i) ホットスタート時の室内ファンモータ制御

1) 暖房運転開始後7分以内，サーモ状態（暖房サーモOFF時のファン制御）によりファンモードを決定します。

a) サーモOFFの場合

ⅰ）暖房サーモOFF時の室内ファン制御設定により運転します。

ⅱ）サーモOFFからサーモONに変化してもファンは室内熱交温度センサ（Thi-R1、R2の何れか高い方）が35℃以上になるまでサーモOFF時のファン制御で運転を続けます。

ⅲ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時，設定風量で運転します。

b) サーモONの場合

ⅰ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以下の時，ファンは運転しません。

ⅱ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が25℃以上になった時，暖房サーモOFF時ファン制御で運転します。

ⅲ）室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか高い方）が35℃以上になった時，設定風量で運転します。

c) ワイヤードリモコン室内機能設定から「暖房ファン制御」を「設定風量」に設定している場合は，サーモON／OFFに関わらずファンは設定風量で運転します。

2) サーモON中に1度ファンモータがOFFからONとなると，室内熱交温度センサが25℃以下となっても室内ファンモータをOFFしません。

（注）デフロスト制御受信時はデフロスト時のファン制御に従います。

3) 一旦ホットスタートを終了すると室内熱交温度センサの温度が低下してもホットスタートを再開しません。

(ii) ホットスタート作動時はルーバは水平位置となります。

(iii) デフロスト終了後，連続7分間室内ファンがOFFの場合は，室内熱交温度センサ（Thi−R1，R2）の検知温度に係わらずONします。

(c) 終了条件

(i) ホットスタート制御中に下記の何れかの条件が成立した時，本制御を終了し室内ファンは設定風量で運転します。

1) 室内熱交温度センサ（Thi−R1，R2の何れかが高い方）が35℃以上のとき。

2) ホットスタート制御開始7分経過したとき。

(6) ホットキープ

デフロスト制御開始時にホットキープ制御を行います。

(a) 制御内容

(i) 室内熱交温度(Thi-R1またはR2で検知)が35℃以下となった場合，室内ファンを各設定の低速タップにします。

(ii) ホットキープ時は，ルーバは水平位置となります。

(7) フィルターサイン（お掃除パネル対応機は349ページ参照）

運転時間(運転／停止スイッチがONとなっている時間)が180時間(1)になるとリモコン上の「フィルター清掃」を表示します。(運転／停止に関係なく，故障時，集中制御時も表示します。)

注(1) フィルターサインの時間設定はワイヤードリモコン室内機能「フィルターサイン設定」により下表の様に設定可能です。(工場出荷時は，設定1に設定されています)

フィルターサイン設定	機　　能
設定1	設定時間：180時間(工場出荷時)
設定2	設定時間：600時間
設定3	設定時間：1,000時間
設定4	設定時間：1,000時間(ユニット停止)(2)

(2) 設定4では，設定時間経過後フィルター清掃を表示させ更に24時間(停止中もカウント)経過後ユニットを停止します。

(8) オートスイング制御

ご注意 RC-DX3Bリモコンは，機能設定で「ドラフト防止設定」が有効の時，オートスイングを選択してもドラフト防止設定が有効なルーバはスイングせず水平位置となります。オートスイングさせる場合は「ドラフト防止設定」を解除してください。

(a) RC-DX3Bリモコンの場合

(i) ルーバ制御

1) エアコンが運転している時に，ルーバを動かすときは，リモコンのTOP画面の「風向」ボタンをタッチすると風向切換画面が表示されます。

2) ルーバをスイングさせる場合は「オートスイング」ボタンをタッチしてください。ルーバが上下に連動して動きます。
ルーバ位置を固定する場合は 1 ～ 4 ボタンをタッチしてください。ルーバが指定の位置でとまります。

3) ルーバ4位置制御機の電源投入時のルーバ動作
電源投入時，ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。
これは，ルーバ位置をマイコンが確認するため，ルーバモータ（LM）の位置をマイコンに入力させるための動作です。

(ii) 暖房時のルーバ自動水平セット
ホットスタートおよび暖房サーモ時は，(コールドドラフトを防ぐため）オートスイング操作(オートスイングまたはルーバ停止)に関わらずルーバは水平位置となります。またルーバ位置の液晶は本制御に入る前の表示を継続します。

(iii) ルーバフリー停止制御
リモコンのTOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「リモコン設定メニュー #2」順にボタンをタッチして行くと「上下ルーバ制御」画面が表示されます。この画面にてフリー停止を選択するとリモコンより停止信号があった場合ルーバモータを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合，停止前の位置よりオートスイングを始めます。

(b) RC-D4Gリモコンの場合

(i) ルーバ制御

1) エアコンが運転している時に，スイングルーバを動かすときは，風向調整ボタンを押します。
「スイング」表示し，スイングルーバが上下に連続して動きます。

2) スイングルーバの位置を固定するときは，スイングルーバが動いているときに，風向調整ボタンを一度押すと，4位の停止位置が1秒ごとに順番に表示されます。
停止させたい位置に表示がきたときに，再度風向調整ボタンを押します。表示が停止し，「ルーバ停止」表示を5秒間表し，スイングルーバが停止します。

3) ルーバ4位置制御機の電源投入時のルーバ動作
電源投入時，ルーバは自動的に（リモコン操作なし）1回スイングします。
これは，ルーバ位置をマイコンが確認するため，ルーバモータ(LM)の位置をマイコンに入力させるための動作です。

(ii) 暖房時のルーバ自動水平セット
ホットスタートおよび暖房サーモOFF時はオートスイングスイッチの操作（オートスイングまたはルーバ停止）に関わらずルーバは水平位置となります。(コールドドラフトを防ぐため）またルーバ位置表示のLCDは本制御に入る前の表示を継続します。

(iii) ルーバフリー停止制御

ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」でルーバフリー停止を選択した場合，リモコンより停止信号があった場合ルーバモータを停止します。さらにリモコンよりオートスイング信号があった場合，停止前の位置よりオートスイングを始めます。

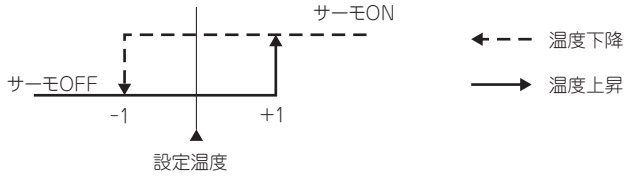
注(1) ワイヤードリモコン室内機能「ルーバ制御設定」を切換えた場合は，リモコン機能「ルーバ制御設定」も同様に切換えてください。

(9) サーモ動作

(a) 冷房

(i) 室温制御（ファジー制御）によりサーモを動作させます。

(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。

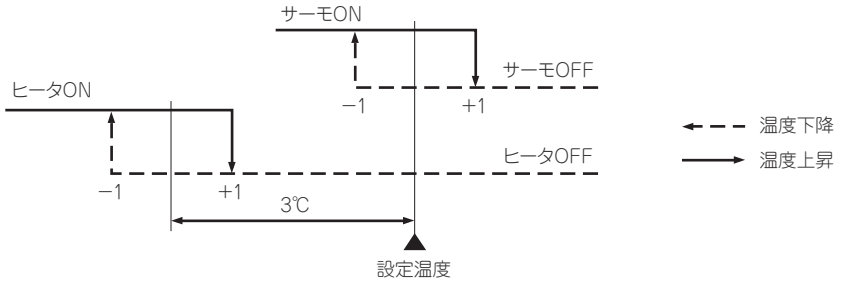


(iii) 冷房運転開始時（暖房から冷房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(b) 暖房

(i) 室温制御（ファジー制御）によりサーモを動作させます。

(ii) 設定温度に対し，サーモONとOFFは次の通りです。



(iii) 暖房運転開始時（冷房から暖房も含む）室温が−1＜設定温度＜＋1の間はサーモONとします。

(c) 暖房サーモOFF中のファン制御

(i) 暖房サーモOFF時のファン制御は下記がワイヤードリモコンの室内機能設定から選択が可能です。

① 弱風（工場出荷時），② 設定風量，③ 間欠，④ 停止

(ii)「弱風（工場出荷時）を選択した場合下記のタップで運転します。

・DCモータの場合：ULoタップ

・ACモータの場合：Loタップ

(iii)「設定風量」を選択した場合、サーモOFF時も設定風量で運転します。

(iv)「間欠」を選択した場合，下記の制御を行います。

1) 暖房運転中にサーモOFFした室内ユニットは，室内ファンをOFFします。
2) 室内ファンOFFを5分間固定とし，5分後に室内ファンULo（Lo）運転を2分間行い，ここでルーバは水平制御とします。
3) 室内ファンULo（Lo）運転2分後に1）項へ移行します。
4) サーモONであれば，ホットスタート制御へ移行します。
5) 暖房サーモOFFとなった場合，リモコンに表示する温度は室内ファンが停止となった時点とし，以後，ファンがULo（Lo）→停止のタイミングでのみ更新します。
   リモコンでは運転データ表示操作により温度表示を行い，ファンOFF中も値を更新します。
6) 暖房サーモOFF中にデフロストに入った場合，またはデフロスト中にサーモOFFした場合の室内ファンはOFFとします。（ホットスタート制御を優先する）ただし，吸込温度の更新は7分毎とします。
7) 暖房サーモONとなった場合，または他の運転モード（含む停止）に切換えた場合は，その時点で本制御を中止し，それから運転状態に復帰します。

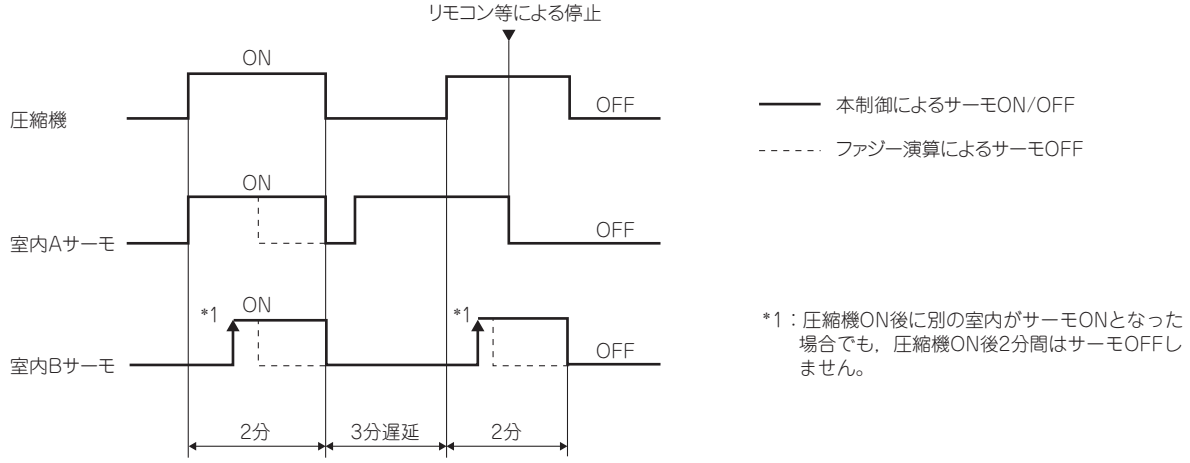
注(1) 本項のサーモOFF中とは暖房運転で要求周波数＝0Hzとなった時点から要求周波数≠0，かつアンサーバック周波数≠0となるまでの間をいいます。従って室外ユニットの制御による圧縮機OFF，または要求周波数≠0でアンサーバック周波数＝0の場合は本制御せず室内ファンはホットスタートによります。

注(2) （ ）内の室内ファンタップはACモータの場合を示します。

(v) 「停止」を選択した場合，サーモOFFした室内ユニットのファンをOFFします。
また、リモコンセンサ有効の場合もサーモOFFした室内ユニットのファンをOFFします。

(10) 圧縮機インチング防止制御

(a) 室内ユニットは一旦サーモONとなった場合は，(9)項でサーモOFFとなっても圧縮機ON後2分間（*1）は，サーモOFFしません。圧縮機ON後2分以内にサーモOFFとなる場合は，その機種に定められた0Hz以外の最低要求周波数を出力します。



(b) 室内ユニットは一旦サーモONとなった場合は，(9)項でサーモOFFとなってもサーモON後2分間は，サーモOFFしません。サーモON後2分以内にサーモOFFとなる場合は，その機種に定められた0Hz以外の最低要求周波数を出力します。

(c) サーモON中に油戻し制御を開始したユニットは油戻し制御中に－1℃になってもサーモOFFしません。

(11) ドレンポンプ制御

(a) 冷房運転，自動の冷房および除湿運転にてインバータ周波数が0Hz以外の場合に作動します。

(b) ドレンポンプがONし，(a)項によりOFFの領域となってから5分間ドレンポンプONを継続し，その後停止します。また，異常停止の場合も5分間遅延を継続します。

(c) 圧縮機ON→OFF時にドレンポンプを5分間遅延運転させます。

(d) 上記以外の状態（暖房，送風，停止，冷房サーモOFF）でもドレン検知によりドレンポンプ制御を行います。

(e) 油戻し制御の(a)(i)項の冷房時において，そのユニットのドレンポンプを油戻し制御時間＋5分遅延（FDUP2805LXAの場合は+20分遅延）の間ONします。

(f) ワイヤードリモコン室内機能設定により下記設定が可能です。

(i) 標準：冷房時ドレンポンプON（出荷時）

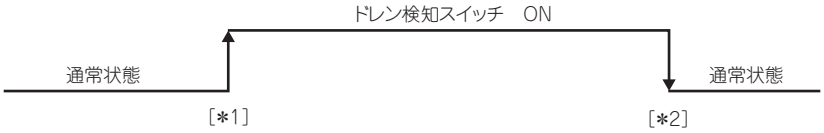
(ii) 暖房：(i)＋暖房時ドレンポンプON

(iii) 暖房　送風：(i)＋暖房時、送風時ドレンポンプON

(iv) 送風：(i)＋送風時ドレンポンプON

(12) ドレン異常検知

(a) フロートスイッチ（FS）とタイマによりドレン検知スイッチをON-OFFします。



［＊1］ドレン検知可能区間においてフロートスイッチ「開」を3秒間連続検知した時、ドレン検知スイッチを「ON」にします。

［＊2］フロートスイッチ「閉」を10秒間連続検知した時、ドレン検知スイッチを「OFF」にします。

(i) 電源ON後30秒以降常時検知します。

(ii) ドレンポンプOFF後10秒間はドレン異常検出を行ないません。

(iii) ドレン検知スイッチ「ON」により、ドレンポンプを強制ONにします。

(iv) ドレン検知スイッチ「OFF」により、ドレンポンプ強制ONを解除します。

(b) 室内ユニットは、各運転状態によりA制御またはB制御を行ないます。

室内ユニットの運転モード					
	停止(1)	冷房	除湿	送風(2)	暖房
圧縮機ON中		A 制 御			
圧縮機OFF中	B 制 御				

注(1) 冷房，除湿，送風，暖房からの停止，異常停止を含む
(2) 運転モード不一致による「送風」運転を含む

(i) A制御
1) フロートスイッチがドレン異常を検知すると異常停止（E9 表示）します。異常検知後，ドレンポンプモータは ON を継続します。
2) フロートスイッチがドレン異常を検知している間は運転します。

(ii) B制御
フロートスイッチがドレン異常を検知するとドレンポンプモータを5分間ONしドレンポンプモータOFF後10秒の時点でフロートスイッチをチェックし正常ならば通常の停止，異常ならばE9を表示しドレンポンプモータをONします。（ドレン検知中はONのまま。）

⑬ 運転チェック／ドレンポンプ試運転モード

(a) 室内基板上のディップスイッチ（SW7-1）をON状態で電源を投入することにより運転チェック／ドレンポンプ試運転モードに入ります。なお，電源投入後の切換えは無効（禁止）です。

(b) ディップスイッチ（SW7-1）がONで電源投入後60秒以内にリモコン通信が確定した場合は，運転チェックモードに入ります。また，リモコン通信が確定しない場合は，ドレンポンプ試運転モードに入ります。
注(1) ドレンポンプ試運転モードを選択する場合は，室内基板上のリモコン用コネクタ（CnB）を抜きリモコン通信を断ってください。

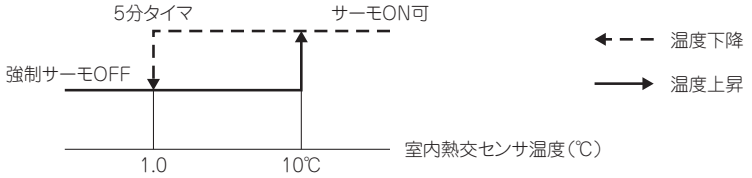
(c) 運転チェックモード
室外ユニットとの通信は行われず，リモコン操作により各運転モードを行います。

(d) ドレンポンプ試運転モード
ドレンポンプ試運転確定後ドレンポンプのみ運転を行い，運転中は，室内ユニットのマイコンによる保護機能は無効となります。

⑭ 室内熱交アンチフロスト（凍結防止制御）

サーモOFF制御

(a) 「冷房」「除湿」運転中，熱交センサ（Thi-R1, 2）の検知温度により，サーモOFFを行います。



(b) サーモON後4分間は，凍結防止保護の強制サーモOFF制御を動作させません。サーモON4分経過時点で，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の検知温度が，強制サーモOFF温度（1.0℃）以上の場合は，サーモON可の状態から検知を開始します。

(c) サーモONから4分経過後，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2の何れか）が5分連続して強制サーモOFF温度（1.0℃）以下となると強制サーモをOFFさせます。
また，室内熱交温度センサ（Thi-R1，R2）の温度が10℃以上になるとサーモをONさせます。

(d) 室外ユニットへ『アンチフロスト』信号を送ります。

(e) ワイヤードリモコン室内機能設定フロスト防止温度により強制サーモOFF温度の切換ができます。
温度　低：1.0℃（工場出荷時）
温度　高：2.5℃
・FDT, FDTC, FDKシリーズ
相対湿度が50%RH以下を連続3分間検知した場合，強制サーモOFF温度は下記となります。
温度　低：-0.5℃（工場出荷時）
温度　高： 1.0℃

⑮ 加湿器対応制御（オプション加湿器組込時の対応）

(a) **ワイヤードリモコン室内機能設定で下記を設定し加湿器対応制御を行います。**

(i) ドレンポンプ連動設定

(ii) 暖房ファン残留運転

(iii) 暖房ファン間欠運転

㈱ 「残留運転」「間欠運転」両方を実施する場合は「残留運転」終了後「間欠運転」を行います。

(b) 開始条件

(i) 暖房運転休止（「暖房停止」または「暖房サーモ OFF」）になったとき。

(ii) 室外ユニットが「冷房モード」から「暖房モード」に変わったとき。

(c) 優先度

(i) ヒータ残留運転を優先します。

(ii) 暖房モーサOFF時のファン制御より本制御を優先します。
ただし，暖房サーモOFF時のファン制御において，設定風量選択時は，設定風量を優先します。

(iii) デフロスト中，室内熱交温度が25℃以下の場合は，室内ファンをOFFします。

(iv) 異常停止「E16」（ファンモータ異常），「E20」（ファンモータ回転異常）「E63」（緊急停止）の場合はファンを停止します。

(v) その他異常停止時は本制御を行います。
(注) 熱交温度センサ（Thi-R3）が断線した場合は，温度条件が成立しないため停止します。温度情報に左右されない暖房ファン残留運転は行います。

(vi) 室外温度ユニットからの膨張弁開度指令を優先します。

(d) ドレンポンプ連動制御

(i) 開始条件
リモコン設定により下記のいずれかの条件時にドレンポンプをONします。
① 標準：冷房運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON〕
② 暖房：①＋暖房運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON，暖房サーモ（圧縮機）ON ／ OFF共〕
③ 暖房　送風：①＋暖房運転中＋送風運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON，暖房サーモ（圧縮機）ON ／ OFF共〕
④ 送風：①＋送風運転中〔冷房サーモ（圧縮機）ON ／ OFF共〕

(ii) 制御内容
・ドレンポンプを運転

	冷房サーモ（圧縮機）ON	冷房サーモ（圧縮機）OFF	暖房サーモ（圧縮機）ON	暖房サーモ（圧縮機）OFF	送風
①標準	○	×	×	×	×
②暖房	○	×	○	○	×
③暖房　送風	○	×	○	○	○
④送風	○	○	×	×	○

(iii) 終了条件
リモコン設定により下記のいずれかの条件が成立してから5分間ドレポンプはONを継続します。
① 運転停止（異常停止を含む）
② 上表の○→×に切換えた場合

(e) 暖房ファン残留運転：0.5時間

(i) 開始条件
(b)開始条件から30分間

(ii) 制御内容
① 風量弱で送風運転
② ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）
③ 90パルスに固定
④ 圧縮機OFF時も有効

(iii) 終了条件
① 30分経過後
② 運転を開始

(f) 暖房ファン残留運転：2時間／6時間

30分間は，「暖房ファン残留運転：0.5時間」を行います。

① 開始条件（下記条件を全て満たした場合）
1) 『暖房ファン残留運転：0.5時間』終了後
2) (i)開始条件から120分間／360分間
3) 熱交温度センサ（Thi-R3）温度が40℃以上

② 制御内容
1) 風量弱で送風運転
2) ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）
3) 90パルスに固定

③ 制御休止条件
1) 熱交温度センサ（Thi-R3）温度が35℃未満に下がった場合120分／360分タイマーのカウントを止めて送風運転を停止します。
膨張弁は，『休止及び停止ユニットの膨張弁制御』によります。

④ 終了条件
1) 積算で120分／360分経過後送風運転を停止します。
膨張弁は，『休止及び停止ユニットの膨張弁制御』によります。
2) 運転を開始した場合
120分／360分タイマーをクリアして終了。

⑹ 暖房ファン間欠運転

① 開始条件（下記条件が全て成立した場合）
1) ⑹開始条件から
2) パネルスイッチ（CN-YまたはCN-V1-5）がONの時。
3) A 分毎に温度判定する。前回判定から A 分経過後，温度判定します。

制御	A
5休5風	10
20休5風	25

4) 熱交温度センサ（Thi-R3）検知温度が＞25℃以上高い場合。
（間欠送風運転開始の都度判定し，判定後は次判定まで保持）

② 制御内容
1) ルーバ位置水平（フリー停止，4位置によらず）
2) 風量弱で送風　5分運転。

③ 休止条件（下記いずれかが成立した場合）⇒次回判定まで休みます。
1) パネルスイッチ（CN-YまたはCN-V1-5）がON→OFF
2) デフロスト信号受信中

④ 終了条件
1) 送風運転を積算し，600分間経過後　タイムUP
2) 運転開始（停止→停止以外のモードへ変わった時）
3) 室外ユニットが暖房から暖房以外のモードに変更の時。

⑯ ファンモータ異常

ⓐ DCモータの場合

(i) ファンモータ運転後，30秒間運続して回転数が200min^{-1}未満を60分以内に4回検知した時は異常停止「E16」をします。

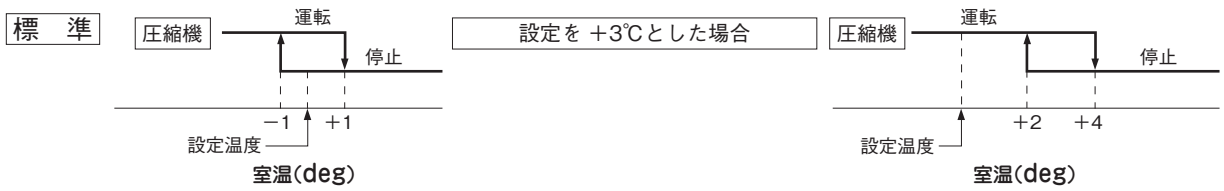
(ii) ファンモータが回転指令出力後，2分間連続して要求回転数-50min^{-1}（FDU形：500min^{-1}）に達しないことを検出すると，ファンモータ異常として異常停止「E20」します。

ⓑ FDASシリーズ

ファンモータの過電流継電器（51F）の作動により，CNIコネクタを介して異常停止「E9」をします。

⑰ 暖房時室温検知温度補正

標準仕様では，サーモの設定温度で圧縮機をON ／ OFFしていますが天井に暖気がこもり易い据付状況で早目にサーモOFFしてしまう場合，ワイヤードリモコン室内機能「暖房室温補正」により設定の変更が可能です。設定温度+3，+2，+1℃のいずれかの温度で圧縮機およびヒータをON ／ OFFさせ，暖房フィーリング向上させることができます。ただし設定温度の上限を30℃とします。



⑱ 吸込温度補正

吸込温度センサの検知温度とユニット据付後の計測温度との誤差が生じて，補正が必要となった場合に補正する機能です。

ⓐ ワイヤードリモコン室内機能「吸込温度補正」により 0.5℃単位で変更が可能です。

・＋ 1.0℃，＋ 1.5℃，＋ 2.0℃，　　・－ 1.0℃，－ 1.5℃，－ 2.0℃，

ⓑ 補正後の温度をリモコンや室外ユニットに送信し，補正後の温度で制御を行います。

注⑴ 検知温度補正は室内ユニットセンサのみ有効です。

⑲ 風速制御

高天井に設置された室内ユニットで風量が不足する場合にファンタップを変更することにより風量のアップが可能です。
ワイヤードリモコン室内機能の「風速設定」によりファンタップが変更できます。（FDAS の場合，本機能は使用できません。）

		室内風量設定				適用機種
		P急 - 急 - 強 - 弱	急 - 強 - 弱	急 - 弱	急 - 強	
風速設定	標準	P-Hi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDTC,FDTW, FDTS, FDR, FDU, FDK, FDU-Fシリーズ
		P-Hi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDEシリーズ
		P-Hi2 - Hi - Me - ULo	Hi - Me - ULo	Hi - ULo	Hi - Me	FDTシリーズ
	設定１	P-Hi1 - PHi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Me	P-Hi1 - Hi	FDTC, FDR, FDU, FDU-Fシリーズ
		P-Hi1 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDEシリーズ
		P-Hi2 - PHi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Hi - Me	P-Hi1 - Me	P-Hi1 - Hi	FDT, FDTW, FDTS, FDKシリーズ
	設定２	P-Hi2 - Hi - Me - Lo	Hi - Me - Lo	Hi - Lo	Hi - Me	FDT, FDTW, FDTS, FDE, FDKシリーズ

注⑴ 出荷時標準に設定されています。

⑵ ホットスタートおよび暖房サーモOFF時等は室内ファンを各設定の低速タップで運転します。

⑳ 温度センサ（吸込・室内熱交）断線・短絡検知

ⓐ 断線検知

吸込温度センサが断線を連続5秒間検知した場合は異常停止（E7）します。熱交温度センサが，圧縮機ON2分後20秒間に断線を連続5秒間検知した場合は異常停止（E6）します。

ⓑ 短絡検知

熱交温度センサが，冷房運転で圧縮機ON2分後20秒間に短絡を連続5秒間検知した場合は異常停止（E6）します。

㉑ 外部入力（遠方表示）／遠方操作

外部入出力端子CnTおよび入力端子CnTA（FDASの場合，CnZ）により，運転状態の出力およびエアコンの発停入力をすることができます。

ⓐ 外部制御（遠方表示）用出力（オプションの遠方発停監視キットが利用できます。）

（ⅰ）出荷状態の出力

1） 室内制御基板上に下記の出力用コネクタ（CnT）を持っています。遠方発停監視キットを接続して各々の無電圧接点を取出してください。

2） 出荷状態では，以下の４つの出力が割当てられています。

・運転出力（CnT1-2）：運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・暖房出力（CnT1-3）：暖房運転中，かつサーモ ON 時リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・サーモ ON 出力（CnT1-4）：圧縮機が運転中，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
・異常出力（CnT1-5）：異常発生時，リレー駆動用出力DC12Vを出力します。
FDASの場合，ワイヤードリモコンで室内過負荷アラームを有効に設定すると，運転開始30分以降で，設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度以上になった場合も出力します。

（ⅱ）出力コネクタの変更（FDASは 使用できません。）

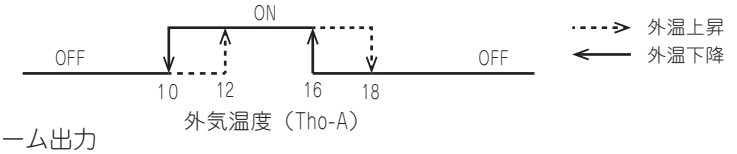
1） ワイヤードリモコンの室内機能設定により，出力コネクタの変更および（ⅲ）項の出荷状態以外の出力に変更することができます。ワイヤードリモコンRC-DX3Bでの設定は可能ですが，ワイヤードリモコンRC-D4Gでは設定ができません。

2） 設定は，ワイヤードリモコンの室内機能「外部出力設定 」で出力先を選択してください。ワイヤードリモコンでの設定名とコネクタは以下のようになります。
①外部出力１：CnT1-2 ②外部出力2：CnT1-3 ③外部出力3：CnT1-4 ④外部出力4：CnT1-5

（ⅲ）出荷状態以外の出力（FDASは 使用できません。）

1） 冷房出力：冷房モード中（自動の冷房運転，デフロスト，暖房油戻しを含む）に出力します。
2） ファン運転出力1：室内ファンの速度タップによらず，ファン運転中に出力します。
3） ファン運転出力2：室内ファンが，Hiタップ以上で運転中に出力します。
4） ファン運転出力3：室内ファンが，Hiタップ未満で運転中に出力します。
5） デフロスト，油戻し出力：室外ユニットからのデフロスト信号または，暖房油戻し信号を受信中に出力します。
6） 換気出力：ワイヤードリモコンからの換気指令により出力します。
7） ヒータ出力：⑼項のⓑ条件により出力します。

8） フリークーリング出力
運転モードが冷房または送風の場合，外気温度により出力します。（外気導入による温度調整用）



9） 室内過負荷アラーム出力
運転開始30分以降で，設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上となった場合，出力します。

⑹ 遠方操作用入力（CnT1-6 または CnTA1-2）

（ⅰ）リモコンによる設定方法

1） ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転/停止モードおよび入力方式を設定します。出荷状態で，外部入出力1，2の設定は運転/停止，外部入力1，2の方式はレベル入力となっています。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3A, B（ワイヤードリモコン）	RC -D4G（ワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：運転/停止	運転許可/禁止:無効
	CnTA	外部入力２設定：運転/停止	設定項目はありませんが、出荷状態のままで使用可能です。
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“	外部入力切換え：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“	設定項目はありませんが、出荷状態のままでレベル入力です。

（ⅱ）外部入力による動作

1） 運転・停止の切換え

a） レベル入力の場合
外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2は閉）の場合は運転となります。
外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2は開）の場合は停止となります。

b） パルス入力の場合
外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで運転と運転停止を反転します。

外部入力機能切換	外部入力方式	動作	
運転/停止	①レベル	外部端子入力（CnT または CnTA）	ON OFF ON OFF ↑運転指令エッジ ↑停止指令エッジ
		運転/停止	停止 運転 停止 運転
		運転/停止（競合）	停止 運転 停止 運転 ↑リモコン停止 ↑リモコン運転
	②パルス	外部端子入力（CnT または CnTA）	ON OFF ON OFF 運転/停止反転ONエッジ 運転/停止反転ONエッジ
		運転/停止	停止 運転 停止
		運転/停止（競合）	停止 運転 停止 運転 停止 ↑リモコン停止 ↑リモコン運転

（ⅲ）注意事項

1） ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。
2） エアコンの操作が「センターモード」となっている時は，CnT または CnTA による遠方操作は無効となります。
3） コネクタの部品番号（別売品，配線長さ 500mm）

コネクタ	部品番号
CnT	PCZ006A043
CnTA	PCZ006A053

4） ワイヤードリモコンRC-DX3A, Bの機能設定「外部入力設定：全台」に設定することにより，１台の室内ユニットへの入力により，同じワイヤードリモコンに接続された複数の室内ユニットを同時に運転/停止します。
「外部入力設定：個別」の場合（出荷時設定），入力を入れる室内ユニットのみ運転/停止します。

㉒ 運転許可・禁止（コインタイマー用制御）

リモコンで設定を変更することで，(21)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA（FDASの場合，CnZ）の機能切換えを行い，外部信号の入力によりエアコンの操作可能・操作不可を制御することができます。
市販のコインタイマーの信号等によりエアコン使用可能・使用不可を制御することができます。

(i) リモコンによる設定方法

1) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，運転許可・禁止モードおよび入力方式を設定します。

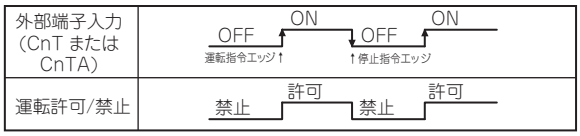
	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3A, B（ワイヤードリモコン）	RC -D4G（ワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：許可/禁止	運転許可/禁止:有効
	CnTA	外部入力２設定：許可/禁止	設定できません。
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力 “または ” パルス入力 “	外部入力切換え：“レベル入力 “または ” パルス入力 “
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力 “または ” パルス入力 “	設定できません。

(ii) 外部入力による動作

1) 運転許可・禁止の切換え

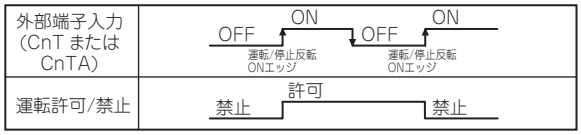
a) レベル入力の場合

外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は，運転許可となります。
外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は，運転禁止となります。



b) パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで運転許可と運転禁止を反転します。



2) 運転許可の場合の動作

a) エアコンは，リモコンからの操作が可能です。
b) 「センター」モード設定時は，センターからのみ操作可能がとなります。

3) 運転禁止時の場合の動作

a) エアコンは，リモコンからの操作ができません。
b) エアコン運転中に運転禁止となった場合は，エアコンは停止します。

(iii) 注意事項

1) ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉓ 冷房・暖房外部入力機能切換え

リモコンで設定変更することで，(21)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA（FDASの場合，CnZ）の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを冷房/暖房に切換えることができます。

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，冷房/暖房モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3A, Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3A, Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：冷房/暖房
	CnTA	外部入力２設定：冷房/暖房
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力 “または” パルス入力 “
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力 “または” パルス入力 “

(b) 外部入力による動作

(i) 冷房/暖房の切換え

1) レベル入力の場合

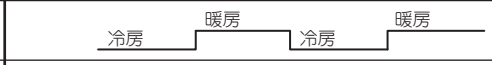
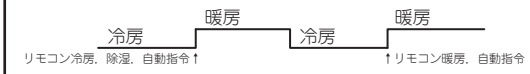
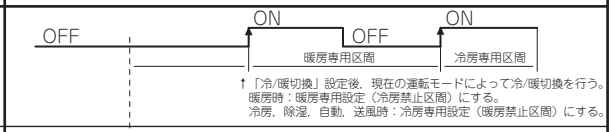
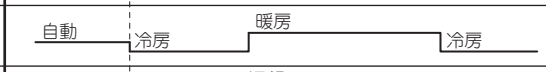
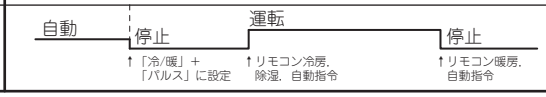
a) 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は暖房となります。

b) 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は冷房となります。

2) パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで冷房と暖房を反転します。

(c) 外部入力により冷房 / 暖房の切換えを受けた場合は，リモコンに運転モードを送信します。

<table>
<tr><th>外部入力機能切換</th><th>外部入力方式</th><th colspan="2">動　　作</th></tr>
<tr><td rowspan="5">冷房/暖房切換</td><td rowspan="3">⑤レベル</td><td>外部端子入力
(CnT または
CnTA)</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>冷房/暖房</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>冷房/暖房
(競合)</td><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="3">⑥パルス</td><td>外部端子入力
(CnT または
CnTA)</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>冷房/暖房</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>冷房/暖房
(競合)</td><td> 
</td></tr>
</table>

(d) 注意事項

(i) ワイヤードリモコンは必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと本制御は行えません。

(24) 設定温度シフト入力

リモコンで設定変更することで，(21)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを設定温度シフト入力に切換えることができます。（FDASの場合，本機能は使用できません。）

(a) リモコンによる設定方法

(i) ワイヤードリモコンの室内機能設定により，設定温度シフト入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

(b) 外部入力による動作

(i) 設定温度シフト入力の切換え

1) レベル入力の場合

a) 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b) 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2) パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

(ii) 注意事項

1) ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉕ 強制サーモ OFF 入力

リモコンで設定変更することで，(21)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを強制サーモOFF入力に切換えることができます。（FDASの場合，本機能は使用できません。）

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，強制サーモOFF入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

ⓑ 外部入力による動作

（i）強制サーモOFF入力の切換え
1） レベル入力の場合
a） 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。
b） 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。
2） パルス入力の場合
外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii）注意事項
1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉖ 一時停止入力

リモコンで設定変更することで，(21)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを一時停止入力に切換えることができます。（FDASの場合，本機能は使用できません。）

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，一時停止入力モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

ⓑ 外部入力による動作

（i） 一時停止入力の切換え
1） レベル入力の場合
a） 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。
b） 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。
2） パルス入力の場合
外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） 注意事項
1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉗ 静音モード入力

リモコンで設定変更することで，(21)項の遠方制御/遠方操作用端子CnT，CnTA の機能切換えを行い，外部信号の入力により運転モードを静音モード入力に切換えることができます。（FDASの場合，本機能は使用できません。）

ⓐ リモコンによる設定方法

（i）ワイヤードリモコンの室内機能設定により，静音モードおよび入力方式を設定します。
RC-DX3Bのリモコンで設定可能です。RC-D4Gリモコンでは設定できません。

	入力端子	室内機能設定（RC-DX3Bワイヤードリモコン）
モード設定	CnT	外部入力１設定：制御が有効
	CnTA	外部入力２設定：制御が有効
入力方式	CnT	外部入力１方式：“レベル入力“または”パルス入力“
	CnTA	外部入力２方式：“レベル入力“または”パルス入力“

⑹ 外部入力による動作

（i）静音モード入力の切換え

1） レベル入力の場合

a） 外部入力ON（CnT1-6：閉またはCnTA1-2:閉）の場合は制御が有効となります。

b） 外部入力OFF（CnT1-6：開またはCnTA1-2:開）の場合は制御が無効となります。

2） パルス入力の場合

外部入力（CnT1-6またはCnTA1-2）がOFF（開）からＯＮ（閉）のタイミングで制御の有効／無効を反転します。

（ii） 注意事項

1） ワイヤードリモコンは，必ず接続してください。ワイヤードリモコンを接続しないと，本制御は行えません。

㉘ 緊急停止信号処理

リモコンで設定変更することで、(21) 項の遠方制御 / 遠方操作用端子 CnT、CnTA（FDAS の場合，CnZ）の機能切換えを行い、外部信号の入力により、室外ユニットを緊急停止させます。

⑹ リモコンによる設定方法

ワイヤードリモコンの室内機能設定により、緊急停止モードを設定します。

	入力端子	室内機能設定	
		RC-DX3A, B	RC-D4G
モード設定	CnT	外部入力 1 設定：緊急停止	緊急停止：有効
	CnTA	外部入力 2 設定：緊急停止	設定できません

⑹ 緊急停止信号による動作

外部入力 OFF(CnT1-6 または CnTA1-2：開) の場合、緊急停止します。

入力を入れた室内ユニットは停止し、接続している室外ユニットは [E-63] を発報して緊急停止します。

㉙ 外部入力機能と優先順位

⑹ CnTとCnTA（FDASの場合，CnZ）の組合せ優先順位

■CnTとCnTAの組合せ優先順位

		CnTA						
		①運転停止レベル	②運転停止パルス	③運転許可/禁止レベル	④運転許可/禁止パルス	⑤冷暖切換レベル	⑥冷暖切換パルス	⑦緊急停止
CnT	①運転停止レベル	CnT①	CnT①	CnT①+CnTA③	CnT①	CnT①／CnTA⑤	CnT①／CnTA⑥	CnT①<CnTA⑦
	②運転停止パルス	CnT②	CnT②	CnT②+CnTA③	CnT②	CnT②／CnTA⑤	CnT②／CnTA⑥	CnT②<CnTA⑦
	③運転許可/禁止レベル	CnT③>CnTA①	CnT③>CnTA②	CnT③+CnTA③	CnT③	CnT③／CnTA⑤	CnT③／CnTA⑥	CnT③<CnTA⑦
	④運転許可/禁止パルス	CnT④	CnT④	CnT④+CnTA③※	CnT④	CnT④／CnTA⑤	CnT④／CnTA⑥	CnT④<CnTA⑦
	⑤冷暖切換レベル	CnT⑤／CnTA①	CnT⑤／CnTA②	CnT⑤／CnTA③	CnT⑤／CnTA④	CnT⑤	CnT⑤	CnT⑤／CnTA⑦
	⑥冷暖切換パルス	CnT⑥／CnTA①	CnT⑥／CnTA②	CnT⑥／CnTA③	CnT⑥／CnTA④	CnT⑥	CnT⑥	CnT⑥／CnTA⑦
	⑦緊急停止	CnT⑦>CnTA①	CnT⑦>CnTA②	CnT⑦>CnTA③	CnT⑦>CnTA④	CnT⑦／CnTA⑤	CnT⑦／CnTA⑥	CnT⑦+CnTA⑦

注(1) ※部のCnTAによる運転禁止設定中は，以下の運転指令を受け付けます。
・リモコンからの個別運転指令,室外からの試運転指令およびオプションからの運転指令

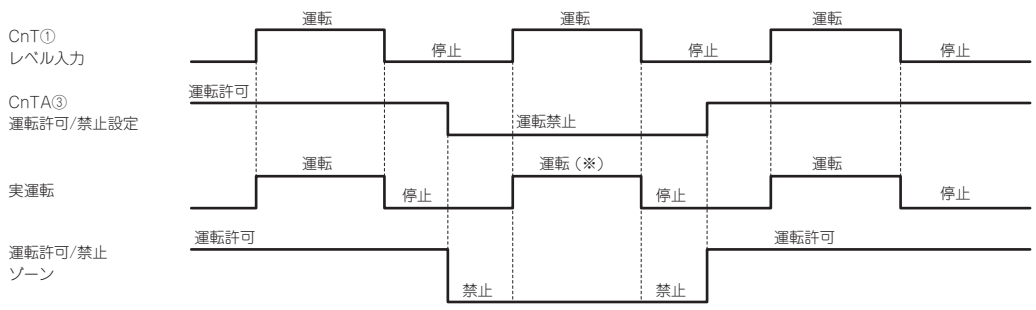
参考:上記記号および組合せ記号の説明

1. CnT"番号"の場合，CnT"番号"採用しCnTAを無効とする。
2. CnTA"番号"の場合，CnTA"番号"採用しCnTを無効とする。
3. CnT"番号"／CnTA"番号"の場合，CnT"番号"とCnTA"番号"は共に独立した機能とする。
4. CnT"番号"+CnTA"番号"の場合，CnT"番号"とCnTA"番号"は競合機能
5. CnT"番号">CnTA"番号"の場合，CnT"番号"はCnTA"番号"より機能の優先順位が高い。
6. CnT"番号"<CnTA"番号"の場合，CnTA"番号"はCnT"番号"より機能の優先順位が高い。

（上記"番号"の部分には,①～⑦の番号が入ります。）

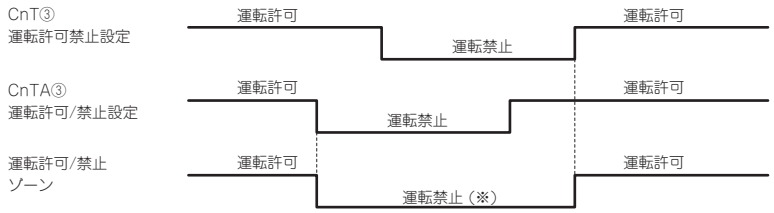
⑹ CnTとCnTA（FDASの場合，CnZ）での優先順位例

（i） CnT①運転停止レベル＞CnTA③運転許可／禁止レベルの場合



（※）CnTレベル入力をCnTA運転禁止よりも優先する。

(ii) CnT③運転許可／禁止レベル + CnTA③運転許可／禁止レベルの場合



（※）運転禁止ゾーンはCnT運転禁止ゾーンとCnTA運転禁止ゾーンのOR判定とする。

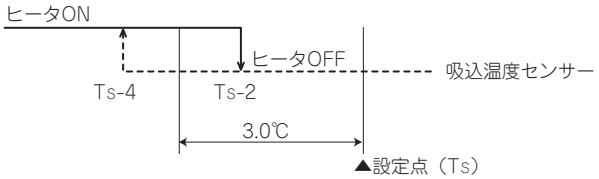
⑶0 補助電気ヒータ出力（CnO）制御（FDAS シリーズのみ）

室内ユニットの CnO 出力にて、補助電気ヒータを制御します。暖房能力を補う際に使用し、下記条件を満たすと CnO 出力が ON となります。

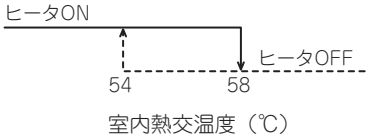
①暖房モード（自動運転の暖房運転も含む）中

②ファン運転中

③室内空気温度（Thl-A）が下図を満足したとき



④室内熱交温度（Thl-R1、R2）が下図を満足したとき



⑶1 グリル昇降制御

・子リモコンでは操作できません。親リモコンで操作してください。

・オートリフトモード中は、エアコンは運転可能です。（除く上昇・下降中）

(a) オートリフトモード

リモコンの「グリル自動昇降」を押すことにより、室内ユニットは停止し、オートリフトモードになります。

(b) グリル下降制御

リモコンの下降信号により、設定された長さに相当する時間分、グリルが下降します。
設定された長さに相当する時間以上になった場合、それ以上グリルは下降しません。

(c) グリル上昇制御

リモコンの上昇信号により、グリルが上昇します。パネルスイッチが ON になるまでか，または、設定された長さに相当する時間分、グリルが上昇し、グリル収納制御を行います。

(d) グリル収納制御

グリル上昇制御でパネルスイッチが ON になるか、設定された長さに相当する時間になったら、グリル収納制御を行います。収納位置を補正するため、下降・上昇制御を 2 回繰り返します。

(e) ワイヤゆるみ検知機構

(i) グリル停止中に、ワイヤ緩み検知スイッチが OFF の場合は、グリル上昇制御・下降制御を行いません。

(ii) グリル上昇制御・下降制御・グリル収納制御中に、ワイヤ緩み検知スイッチが OFF した場合は、1 秒後にグリル昇降モータを OFF します。

(iii) (ii)でモータ停止後、ワイヤ緩み検知スイッチが ON になると、再度リモコンにより上昇制御・下降制御を行います。

(f) グリル開時のエラー表示（お掃除パネル対応機のみ）

エアコン運転中に 1 秒以上パネルスイッチ〔PS〕が開を検知した場合エアコンを停止し，リモコンに E21 を表示します。

注(1) リモコンによる自動下降制御で，自動昇降モードに入っている場合は除きます。

㉜ 複数台制御 ―― 1 リモコンによる 16 台グループ制御

ⓐ 機　　能

1個のリモコンスイッチで複数台のユニット（室内ユニット・最大16台）をグループ制御できます。リモコンスイッチでセットした「運転モード」でグループの全ユニットは号機No.(1)順に順次運転・停止させることができます。

各ユニットのサーモ，保護機能は独立して機能します。

注(1)　号機No.は室内制御基板上のロータリースイッチSW1，SW2，ディップスイッチSW5-2で設定します。

ⓑ リモコンへの表示

（i）**センターまたはリモート別，暖房準備：**運転中のユニットでリモートモードの（リモートモードが無い時は，センターモード）最若号機ユニットの表示

（ii）**点検表示，フィルターサイン：**いずれか初発のユニット対応で表示

ⓒ 接続ユニットの確認

（i）RC-DX3A, Bリモコンの場合

リモコンのTOP画面より「メニュー」→「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」→「サービスパスワード」入力→「エアコンNo.表示」の順にボタンをタッチして行くと接続室内ユニットが表示されます。

（ii）RC-D4Gリモコンの場合

リモコンの エアコンNo. ボタンを押すと，室内ユニットアドレスが表示されます。その後▲ ▼ボタンを押すと最若号機から順に表示されます。

ⓓ 異常時

（i）グループの一部ユニットに異常が発生した場合（保護装置作動）当該ユニットは異常停止しますが, 他の正常なユニットはそのまま運転を継続します。

（ii）配線要領

各ユニットの室内・外接続線は各ユニット毎に通常と同じ配線をしてください。グループ制御用にリモコンの端子台（X，Y）を使用し各室内ユニット間に渡り配線をしてください。

リモコン信号用配線は電源電線または他の電気機械器具電線（AC100V以上）とは分離して配線してください。

㉝ 分流コントローラ制御（冷暖フリーマルチLXRシリーズのみ）

ⓐ 新分流コントローラによる新制御（新スーパーリンク制御）

CnT2による制御（冷暖切換時に圧縮機を止めない）

CnT出力は，XR2：暖房出力，XR3：圧縮機ONサーモ出力

ⓑ 新分流コントローラによる旧制御（旧スーパーリンク制御）

CnT2による制御（冷暖切換時に圧縮機を止める）

ⓒ CnT2入出力にて冷暖切換時の分流コントローラの制御

① 20S制御（CnT2−2：XB1）

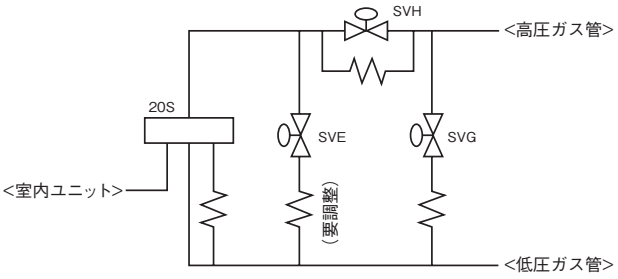
② SVH制御（CnT2−3：XB2）

③ SVG制御（CnT2−4：XB3）

④ SVE制御（CnT2−5：XB4）

・XB1 ～ XB4出力組合せ表〔(Ⅰ)～(Ⅴ)の状態で冷暖フリーマルチ用分流コントローラを制御します。〕

運転状態	XB1	XB2	XB3	XB4	モード
冷房 （全停止、デフロスト）	×	×	×	×	Ⅰ
暖房	○	○	×	×	Ⅱ
油戻し	×	○	○	×	Ⅲ
均圧 1 （冷→暖ほか）	○	×	×	×	Ⅳ
均圧 2 （暖→冷）	○	×	×	○	Ⅴ



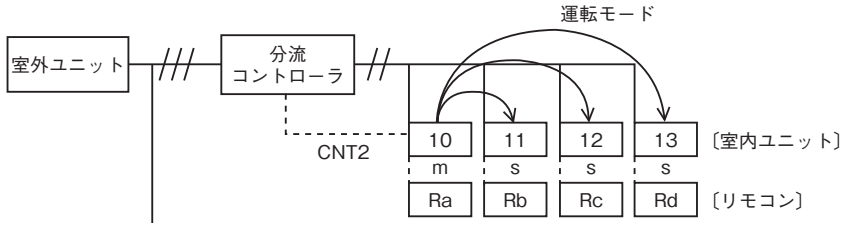
㉞ 冷暖フリーマルチにおける室内ユニット複数台制御（LXRシリーズのみ）

(a) 分流コントローラを直接制御する室内ユニットを親ユニットとします。
同一分流コントローラに接続されている他室内ユニットを子ユニットとします。
リモコンより室内ユニットに対し「親」か「子」を設定する。

(b) リモコンやオプションコントローラ等の外部操作による運転モードの変更は親ユニットのみ可とします。
子ユニットの運転モードの変更は禁止します。

(c) 子ユニットの運転モードは常に親ユニットと同一にします。
ただし，自動については親ユニットが決定した冷/暖どちらかのモードとします。

(d) 運転モード以外については親子ユニット個別に設定可とします。



(i) リモコンRaより室内ユニット10に「親」設定

(ii) リモコンRb ～ Rdより各室内ユニット11 ～ 13に「子」設定

(iii) リモコンRaより室内ユニット10の運転モードを冷房に設定
⇒室内ユニット10は「子」室内ユニットの運転モードを冷房に指令。
停止「子」室内ユニットの運転モードも変更します。
集中制御機器より室内ユニット10の運転モード変更指令があった場合も同様に「子」室内ユニットへ運転モード指令を実施します。

(iv) 「子」室内ユニット11，12，13へリモコンRb，Rc，Rdもしくは集中制御機器より運転モード変更指令があっても運転モードは変更しません。

㉟ お掃除パネル対応機能制御

(a) フィルターサイン

(i) 運転時間（「運転／停止」スイッチがONとなっている時間）が下記設定時間になると，リモコンの液晶に「フィルター清掃」を表示します。（運転・停止に関係なく，故障時，集中制御時も表示します。）

注(1) フィルターサインの時間設定は，ワイヤードリモコン室内機能「フィルターサイン設定」により下表のように設定可能です。

フィルターサイン設定	機　　能
設定１	設定時間： 1,000時間
設定２	設定時間： 2,000時間
設定３	設定時間： 2,500時間
設定４	設定時間： 2,500時間（ユニット停止）

注(1) 設定4では，設定時間経過後フィルター清掃を表示させ，更に24時間（停止中も含む）経過後ユニットを停止します。
(2) RC-D4Gリモコンは工場出荷時，設定3（2500時間）に設定されていますが，RC-DX3Bリモコンについては工場出荷時の設定はされていません。

(ii) フィルターサインが点灯すると，お掃除パネルは，表示部に黄色を点灯します。RC-DX3Bリモコンは，「ホコリを回収してください」を表示します。

㊱ ハイパワー運転〔適用形式：RC-DX3A, Bリモコンのみ〕

最大能力で，最長15分間運転します。

㊲ 省エネ運転〔適用形式：RC-DX3A, Bリモコンのみ〕

設定温度を冷房28℃，暖房22℃，自動25℃で固定して運転します。
ワイヤードリモコンの機能設定「冷房/暖房ファン制御：設定風量」で，サーモOFFする場合，室内ファンをULoで運転します。

㊳ ピークカットタイマー〔適用形式：RC-DX3A, Bリモコンのみ〕

最大能力を制限することで消費電力を削限します。

㊴ ウォームアップ制御〔適用形式：RC-DX3A, Bリモコンのみ〕

運転開始設定時間にお部屋が設定温度近くになるように，マイコンが運転開始時間を予測して，5 ～ 60分前から運転を開始します。

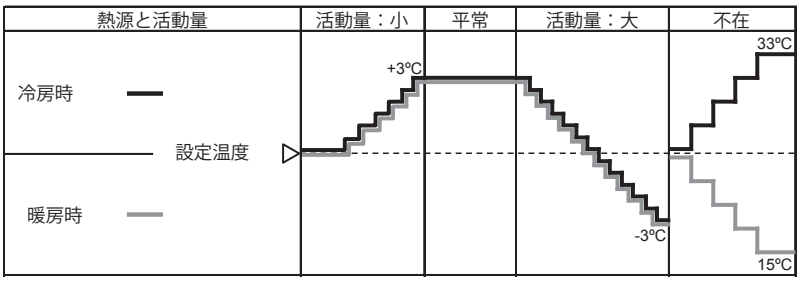
㊵ 人感センサ制御（FDASは除く）

人感センサにより人の有無および活動量をセンサで判定し，下記制御を行います。

① **パワーコントロール制御（省エネ制御/快適制御）**

赤外線センサにより人の活動量および人の有無を検知し，設定温度を補正します。

運転モード（自動／冷房／暖房）と制御

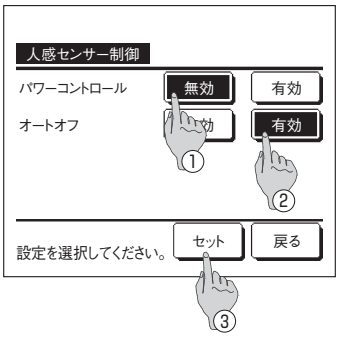


② **オートオフ制御**

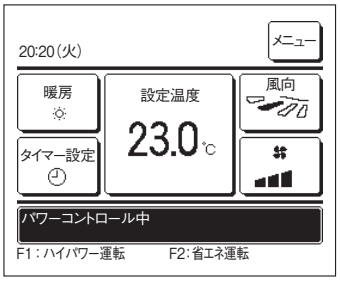
1時間不在の場合は，運転を停止して運転待機状態となります。待機状態が12時間継続した場合は，運転を停止します。

ⓐ RC-DX3Bから設定する場合

設定は、TOP画面の「メニュー」より「メニュー画面」→「サービス設定」→「据付設定」→「サービスパスワード」→「据付設定メニュー」→「人感センサー設定」の順に選択し、有効・無効の設定をしてください。
次に「メニュー画面」→「省エネ設定」→「人感センサー制御」を選択します。

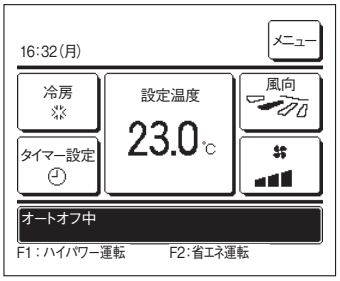


①パワーコントロールの有効/無効を設定します。
②オートオフの有効/無効を設定します。
③各項目設定後、セットボタンをタッチしてください。
省エネ設定メニュー画面に戻ります。



・パワーコントロール有効の場合

設定温度を補正中はメッセージ表示部に「パワーコントロール中」を表示します。



・オートオフ有効の場合

『運転待機』･･･エアコンは停止しますが、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』･･･エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

(b) ワイヤレスリモコンから設定する場合

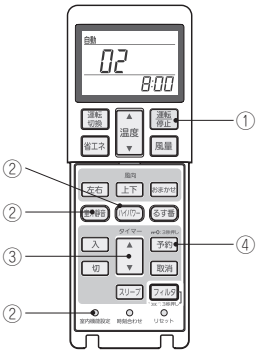
(i) 室内機能設定のしかた

① 運転/停止を押し、停止状態にします。

② 室内機能設定スイッチを押しながら、(ii)項に示すボタンを押します。

③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更します。

④ 予約ボタンを押します。
リモコン信号受信部より、ピッピッと２回ブザーが鳴り、
LEDは２秒毎に４回点滅します。



(ii) 設定内容

ボタン	番号表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ

(41) 疑似異常発報制御（FDAS は除く）

試運転などの異常時の信号確認を簡単に行います。

(a) 開始条件

(i) 冷房試運転を行います。

(ii) 冷房試運転開始30分以内に「フィルターサインリセット」を操作します。

(b) 制御内容

異常停止“E-80”を発信して運転停止します。

(c) 終了条件

異常表示は、運転/停止スイッチで復帰します。

注(1) エコタッチリモコンに異常履歴が記憶されます。確認終了後は異常履歴表示画面から消去してください。

10.2 リモコン機能

(1) RC-DX3A，B リモコンの場合

(a) リモコンの運転モード選択

(i) TOP画面上より「運転モード」ボタンをタッチしてください。

(ii) 「運転モード」選択画面が表示されますので，ご希望の運転モードをタッチしてください。

(iii) 運転モード選択後，TOP画面に戻ります。



(RC-DX3Bの場合を示します。)

注(1) 室内ユニット-室外ユニットの組合せにより，選択できない運転モードは表示されません。

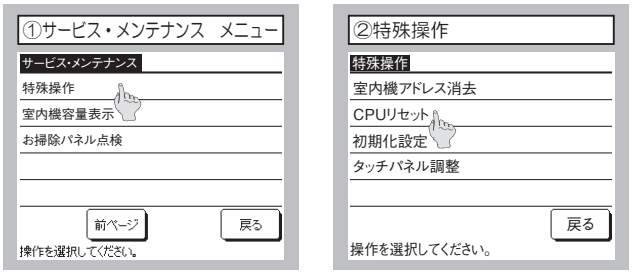
(2) 自動を選択すると，室温と外温に応じて，冷房・暖房自動切換運転を行います。

(b) CPUリセット

下記手順にてリモコンよりCPUをリセットしてください。

(i) TOP画面の「メニュー」より「サービス設定」→「サービス・メンテナンス」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「サービス・メンテナンス メニュー」より「特殊操作」→「CPUリセット」の順に選択すると接続している室内ユニット・室外ユニットのマイコンがリセット(停電復帰状態)されます。

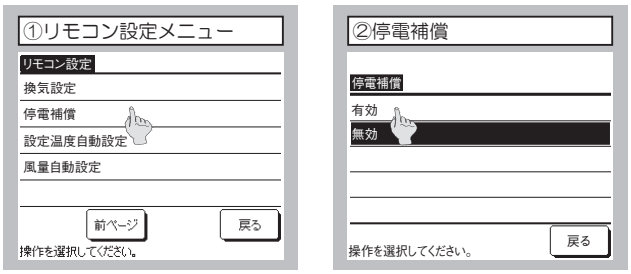


(c) 停電補償機能

下記手順にてリモコンより停電補償機能を有効設定してください。

(i) TOP画面上の「メニュー」より「サービス設定」→「リモコン設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。

(ii) 「リモコン設定 メニュー」より「停電補償」を選択し「有効」に設定してください。運転中に停電した場合は，停電復旧(電源投入後の制御終了)後に，停電前の状態に戻ります。



●常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後，記憶内容により運転を再開します。ただしタイマーモードはキャンセルされますが，ウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーについては下記内容となります。

・時計機能が有効の場合：設定された内容により機能します。

・時計機能が無効の場合：時計機能を再設定し，リモコンの機能設定によりウィークリータイマー，ピークカットタイマーおよび室外静音タイマーの設定を「有効」にすると記憶された内容で機能します。

●停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥，⑦項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶されます。

① 停電時　運転中／停止中
時刻切タイマーモード，時間タイマーモードで運転中は，停止中を記憶します。

② 運転モード

③ 風量モード

④ 室温設定

⑤ ルーバのオートスイング／停止
ただし停止位置(4位置)はキャンセルされます。

⑥ 「お掃除パネル設定」「管理者設定」「据付設定」「室内設定」により設定された内容は，室内ユニットが記憶します。

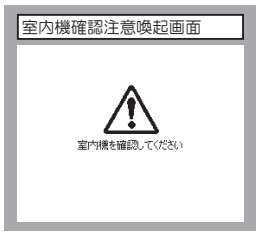
⑦ ウィークリータイマー，ピークカットタイマー，室外静音タイマー

⑧ リモコン設定

(d) 注意喚起表示

下記(ⅰ)～(ⅲ)が表示される場合，以下のとおり確認，処置してください。

(ⅰ) 室内機確認注意喚起



●リモコンと室内ユニット間の通信が確立できない場合に表示します。
システム（室内ユニット，室外ユニット，リモコン）として正しく接続されているか，室外ユニットの電源が接続されているかを確認してください。

(ⅱ) タイマー時刻設定警告



●時刻未設定でタイマー設定をしたときに表示します。
時刻設定を行ってください。時刻設定を行わないとタイマー設定ができません。

(ⅲ) 誤接続



●リモコンに空調機以外のものが接続されたとき本表示を行います。
リモコンの接続先を確認してください。

(e) 設定および表示項目

(i) RC-DX3Bリモコンの場合 (FDAS シリーズ以外)

●接続する機種により設定できる項目が異なります。

PJZ000Z332

設定および表示項目			詳細内容
1.リモコンネットワーク			
1	複数室内機制御		リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大16台室内ユニットを接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。
2	親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に2個のリモコン(含むワイヤレスリモコン)を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。
2.TOP画面・SW操作			
1	メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。
2	運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。
3	設定温度		室温を0.5℃単位で設定します。
4	風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効/無効を設定します(FDKの場合)。
5	風量		風量を設定します。
6	タイマー設定		タイマー運転を設定します。
7	運転/停止SW		運転を開始します。/停止します。
8	F1スイッチ		F1スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
9	F2スイッチ		F2スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
10	言語切換		リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語/日本語 ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/オランダ語/ トルコ語/ポルトガル語/ロシア語/ポーランド語/中国語
3.便利機能			
1	フリーフロー設定		各ルーバの可動範囲(上限位置−下限位置)を設定します。 FDKの場合は左限位置−右限位置も設定します。
2	エアフレックス(風よけ)設定 エアフレックスパネル組合せの場合		・ 詳細設定:各運転モード、各吹出口のエアフレックス(風よけ)機構動作の有効・無効を設定します。 ・ ON/OFF切換:詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックスON/OFF(作動中/停止中)を切換えます。
3	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・ 1〜12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
		時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・ 1〜12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 1回のみ/毎日の切換が可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 1回のみ/毎日の切換が可能です。
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。
4	おこのみ設定 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定1、おこのみ設定2のそれぞれに設定が可能です。
5	ウィークリータイマー		1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・ 1日最大8パターンまで設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
6	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温/低温にならないように温度を保ちます。 ・ 外温と制御温度により冷房/暖房を行います。 ・ 設定温度、風量の設定が可能です。
7	換気 換気機器組合せの場合		換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[リモコン設定]⇒[換気設定]の設定が必要です。 ・ 換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。
8	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・ 選択できる言語は下記です。 英語/日本語 ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/オランダ語/ トルコ語/ポルトガル語/ロシア語/ポーランド語/中国語
9	室外静音設定		室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・ 室外静音運転の開始・停止を設定します。
10	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・ 室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。
11	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・ 室内ユニット—室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。

設定および表示項目			詳細内容
4.省エネ設定			管理者パスワード
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・ 設定時間は30～240分(10分単位)まで選択可能です。 ・ 設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。
2	ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・ 1日最大4パターンまで設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 能力制限率は0,40～80%(20%単位)から選択可能です。 ・ 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・ 暖房モード/冷房モード他、各々設定可能です。 ・ 設定時間は20～120分(10分単位)まで設定可能です。 ・ 設定時刻は10分単位で設定可能です。
4	人感センサー制御 人感センサー付パネル組合せの場合		人感センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートセーブの有効／無効を設定します。
5.お手入れ			
1	フィルターサインリセット	フィルターサインの解除	フィルターサインの解除を行います。
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・ 0.1～4.0mの範囲で設定できます。 ・ 設定長さは0.1m単位で設定可能です。 ・ 接続室内ユニット毎に設定できます。
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。
3	お掃除パネル設定 管理者パスワード	お掃除自動設定	自動清掃の有効/休止を設定します。
		清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。
6.ユーザ設定			
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ・ 80時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。
		時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12H／24H、AM/PM位置、を設定します。
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1時間の補正を行います。
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。
		バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。
		運転ランプ輝度	運転ランプの輝度の調整を行います。
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定	・ 操作の許可/禁止を設定します。 [運転/停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示] ・ 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定] [言語切換設定] [ドラフト防止設定]
		室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・ 静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。
		設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・ 運転モードによる温度範囲の制限が可能です。

設定および表示項目				詳細内容
2	管理者設定 管理者パスワード	温度設定刻み切換		設定温度の刻み(0.5℃/1.0℃)を設定します。
		設定温度表示切換		設定温度の表示の仕方を切り換えます。
		リモコン表示設定		リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり/なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり/なしを設定します。
		管理者パスワード変更		管理者パスワードの変更を行います。
				管理者パスワードのリセットを行います。
		スイッチ機能変更		F1、F2スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 「エアフレックスON/OFF」 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転1][おこのみ設定運転2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示]
7.サービス設定				
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録		据付日を登録した場合、点検表示を行います。
		サービス情報入力		リモコンに連絡先を登録することができます。 ・ 連絡先を半角26文字相当以内で登録できます。 ・ 連絡先TEL番号を13文字以内で登録できます。
		試運転		試運転の開始／停止を制御できます。
			冷房試運転	設定5℃ 30分間運転します。
			ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。
			お掃除試運転	フィルタ清掃　ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合
		ダクト機静圧補正		機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・ 接続室内ユニット毎に個別に設定できます。
		自動アドレス変更		個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。
		親室内機アドレス設定		個別発停マルチシリーズ　設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。
		バックアップ制御		1台のリモコンに室内ユニット2台(2グループ)が接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。
		人感センサー設定 人感センサー付パネルの組合せの場合		リモコンに接続された室内ユニットの人感センサー検知の有効／無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサー制御を行うことができません。
		グリル昇降操作		ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定		リモコン親子設定の変更ができます。
		吸込センサー制御		1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・ 個別／親機／平均の選択が可能です。
		リモコンセンサー		リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。
		リモコンセンサー補正		リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房　別々に補正可能です。
		運転モード選択		各運転モード毎に有効／無効を設定できます。
		設定温度単位		設定温度の単位を設定します。 ・ ℃／℉の選択が可能です。
		ファン速度		ファン速度の選択が可能です。
		外部入力設定		1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT入力の適用範囲が設定されます。
		上下ルーバ制御		上下ルーバの[4位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。
		左右ルーバ制御		左右ルーバの[固定位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。
		換気設定		換気ユニット組合せ制御が設定できます。
		停電補償		停電復帰した場合の制御内容を設定できます。
		設定温度自動設定		設定温度自動の有効／無効を選択できます。
		風量自動設定		風量自動の有効／無効を選択できます。
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定		室内ユニットの風量タップを設定します。
		フィルターサイン		フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。
		外部入力1設定		外部入力1の制御内容を換えられます。
		外部入力1方式切換		外部入力1の信号方式を換えられます。
		外部入力2設定		外部入力2の制御内容を換えられます。
		外部入力2方式切換		外部入力2の信号方式を換えられます。
		暖房室温補正		暖房サーモ判定値を0～+3℃の範囲で補正できます。
		吸込温度補正		吸込センサー検知温度を±2℃の範囲で補正できます。

設定および表示項目				詳細内容
3	室内設定 サービスパスワード	冷房ファン制御		冷房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		暖房ファン制御		暖房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		フロスト防止温度		冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。
		フロスト防止制御		冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。
		ドレンポンプ運転		冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。
		冷房ファン残留運転		冷房停止・冷房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン残留運転		暖房停止・暖房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン間欠		暖房停止・暖房サーモOFFファン残留運転後のファン運転を設定できます。
		送風サーモ運転		送風時のサーキュレータ運転を設定できます。
		外調機設定		マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。
		運転モード自動設定		運転モード自動判定方法を3種類から選択できます。
		サーモ判定切換		サーモ判定を室外温度で補正することができます。
		風量自動切換		風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。
		室内過負荷アラーム		運転開始30分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5)から過負荷アラーム信号を送信します。
		外部出力設定		外部出力1～4に割り当てる機能を換えられます。
4	サービス・メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示		リモコン1台に16台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。
		次回点検日		次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。
		運転データ表示		室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。
		点検表示		
			異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。
			異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。
			異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。
			定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。
		室内設定保存		接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。
		特殊操作		[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。
		室内機容量表示		リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。
		お掃除パネル点検		お掃除パネルの詳細点検操作ができます。
8.困ったときは・・・				
1	連絡先表示			登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。
2	サービスを依頼される前にQ＆A			Q＆Aが表示されます。
9.点検表示				
	点検表示確認			異常発生時の表示
10.パソコン接続				
	USB接続			ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。

(ii) RC-DX3Aの場合 (FDAS シリーズ)

●接続する機種により設定できる項目が異なります。

PJZ000Z320 A

設定および表示項目			詳細内容
1.リモコンネットワーク			
1	複数室内機制御		リモコン1台(リモコンネットワーク内)に最大16台室内ユニットを接続制御できます。室内ユニット側にアドレスを設定します。
2	親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に2個のリモコン(含むワイヤレスリモコン)を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。
2.TOP画面・SW操作			
1	メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。
2	運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。
3	設定温度		室温を0.5℃単位で設定します。
4	風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効/無効を設定します(FDKの場合)。※1
5	風量		風量を設定します。※1
6	タイマー設定		タイマー運転を設定します。
7	運転／停止SW		運転を開始します。／停止します。
8	F1スイッチ		F1スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
9	F2スイッチ		F2スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。
3.便利機能			
1	フリーフロー設定		各ルーバの可動範囲(上限位置―下限位置)を設定します。 FDKの場合は左限位置-右限位置も設定します。※1
2	ドラフト防止設定(エアフレックス設定) エアフレックスパネル組合せの場合		エアフレックスパネルを使用の場合、各運転モード、各吹出口のエアフレックス(ドラフト防止)機構:動作の有効・無効を設定します。※1
3	タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・ 1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
		時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・ 1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。
		時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 1回のみ／毎日の切換が可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
		時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 1回のみ／毎日の切換が可能です。
		タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。
4	おこのみ設定 管理者パスワード		おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定1、おこのみ設定2のそれぞれに設定が可能です。
5	ウィークリータイマー		1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・ 1日最大8パターンまで設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・ 運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。
6	るす番運転 管理者パスワード		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温/低温にならないように温度を保ちます。 ・ 外温と制御温度により冷房/暖房を行います。 ・ 設定温度、風量の設定が可能です。
7	換気 換気機器組合せの場合		換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[リモコン設定]⇒[換気設定]の設定が必要です。 ・ 換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転/停止ができます。
8	言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・ 選択できる言語は下記です。 英語/日本語 ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/オランダ語/ トルコ語/ポルトガル語/ロシア語/ポーランド語/中国語
9	見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・ 室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。
10	消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・ 室内ユニット―室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。

設定および表示項目			詳細内容
4.省エネ設定			管理者パスワード
1	切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・ 設定時間は30～240分(10分単位)まで選択可能です。 ・ 設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。
2	ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・ 1日最大4パターンまで設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・ 能力制限率は0,40～80%(20%単位)から選択可能です。 ・ 祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。
3	設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・ 暖房モード/冷房モード他、各々設定可能です。 ・ 設定時間は20～120分(10分単位)まで設定可能です。 ・ 設定時刻は10分単位で設定可能です。
4	赤外線センサー制御(人感センサー制御) 人感センサー付パネル組合せの場合		人感センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートセーブの有効／無効を設定します。※1
5.お手入れ			
1	フィルターサインリセット	フィルターサインの解除	フィルターサインの解除を行います。
		次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合	ラクリーナパネル　グリルの昇降操作をします。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。※1
		降下長設定 管理者パスワード	グリル昇降長さを設定します。 ・ 0.1～4.0mの範囲で設定できます。 ・ 設定長さは0.1m単位で設定可能です。 ・ 接続室内ユニット毎に設定できます。※1
		ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。※1
3	お掃除パネル設定 管理者パスワード	お掃除自動設定	自動清掃の有効/休止を設定します。※1
		清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。※1
		清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。※1
		ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。※1
		ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。※1
6.ユーザ設定			
1	初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定および修正を行います。 ・ 80時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。
		時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12H／24H、AM/PM位置、を設定します。
		サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1時間の補正を行います。
		コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。
		バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。
		ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。
		運転ランプ輝度	運転ランプの輝度の調整を行います。
2	管理者設定 管理者パスワード	操作制限設定	・ 操作の許可/禁止を設定します。 [運転/停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示] ・ 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定] [言語切換設定] [ドラフト防止設定]
		室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・ 静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・ 設定時刻は5分単位で設定可能です。
		設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・ 運転モードによる温度範囲の制限が可能です。

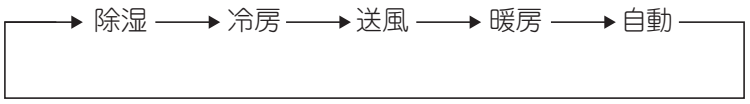
設定および表示項目				詳細内容
2	管理者設定 管理者パスワード	温度設定刻み切換		設定温度の刻み(0.5℃/1.0℃)を設定します。
		設定温度表示切換		設定温度の表示の仕方を切換えます。
		リモコン表示設定		リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり/なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり/なしを設定します。
		管理者パスワード変更		管理者パスワードの変更を行います。
				管理者パスワードのリセットを行います。
		スイッチ機能変更		F1、F2スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転1][おこのみ設定運転2][フィルターサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示]
7.サービス設定				
1	据付設定 サービスパスワード	据付日登録		据付日を登録した場合、点検表示を行います。
		サービス情報入力		リモコンに連絡先を登録することができます。 ・ 連絡先を半角26文字相当以内で登録できます。 ・ 連絡先TEL番号を13文字以内で登録できます。
		試運転		試運転の開始／停止を制御できます。
			冷房試運転	設定5℃ 30分間運転します。
			ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。※1
			お掃除試運転	フィルター清掃 ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合
		ダクト機静圧補正		機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・ 接続室内ユニット毎に個別に設定できます。
		自動アドレス変更		個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。
		親室内機アドレス設定		個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。
		バックアップ制御		1台のリモコンに室内ユニット2台(2グループ)は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。
		赤外線センサー設定(人感センサー設定) 人感センサー付パネルの組合せの場合		リモコンに接続された室内ユニットの人感センサー検知の有効／無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の赤外線センサー制御を行うことができません。※1
		グリル昇降操作		ラクリーナパネル操作を有効に設定します。※1 ラクリーナパネル組合せの場合
2	リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定		リモコン親子設定の変更ができます。
		吸込センサー制御		1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・ 個別／親機／平均の選択が可能です。
		リモコンセンサー		リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。
		リモコンセンサー補正		リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房 別々に補正可能です。
		運転モード選択		各運転モード毎に有効／無効を設定できます。
		設定温度単位		設定温度の単位を設定します。 ・ ℃／℉の選択が可能です。
		ファン速度		ファン速度の選択が可能です。※1
		外部入力設定		1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT入力の適用範囲が設定されます。
		上下ルーバ制御		上下ルーバの[4位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。※1
		左右ルーバ制御		左右ルーバの[固定位置停止]／[フリー停止]の切換ができます。※1
		換気設定		換気ユニット組合せ制御が設定できます。
		停電補償		停電復帰した場合の制御内容を設定できます。
		設定温度自動設定		設定温度自動の有効／無効を選択できます。
		風量自動設定		風量自動の有効／無効を選択できます。※1
3	室内設定 サービスパスワード	風速設定		室内ユニットの風量タップを設定します。※1
		フィルターサイン		フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。
		外部入力1設定		外部入力1の制御内容を換えられます。
		外部入力1方式切換		外部入力1の信号方式を換えられます。
		外部入力2設定		外部入力2の制御内容を換えられます。
		外部入力2方式切換		外部入力2の信号方式を換えられます。
		暖房室温補正		暖房サーモ判定値を0～+3℃の範囲で補正できます。
		吸込温度補正		吸込センサー検知温度を±2℃の範囲で補正できます。

設定および表示項目				詳細内容
3	室内設定 サービスパスワード	冷房ファン制御		冷房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		暖房ファン制御		暖房サーモOFF時のファン制御を変更できます。
		フロスト防止温度		冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。
		フロスト防止制御		冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。
		ドレンポンプ運転		冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。※1
		冷房ファン残留運転		冷房停止・冷房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン残留運転		暖房停止・暖房サーモOFF後のファン残留運転を設定できます。
		暖房ファン間欠		暖房停止・暖房サーモOFFファン残留運転後のファン運転を設定できます。
		送風サーモ運転		送風時のサーキュレータ運転を設定できます。
		外調機設定		マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。
		運転モード自動設定		運転モード自動判定方法を3種類から選択できます。
		サーモ判定切換		サーモ判定を室外温度で補正することができます。
		風量自動切換		風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。
		室内過負荷アラーム		運転開始30分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CnT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。
		外部出力設定		外部出力1～4に割り当てる機能を換えられます。※1
4	サービス・ メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示		リモコン1台に16台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。
		次回点検日		次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。
		運転データ表示		室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。
		点検表示		
			異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。
			異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。
			異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。
			定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。
		室内設定保存		接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。
		特殊操作		[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。
		室内機容量表示		リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。
		お掃除パネル点検		お掃除パネルの詳細点検操作ができます。※1
8.困ったときは・・・				
1	連絡先表示			登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。
2	サービスを依頼される前にQ＆A			Q＆Aが表示されます。
9.点検表示				
	点検表示確認			異常発生時の表示
10.パソコン接続				
	USB接続			ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。

※1：FDAS シリーズの場合、本機能は使用できません。

(2) RC-D4G リモコンの場合

(a) リモコンの運転モードスイッチ切換順



(b) CPU リセット

リモコンの点検 グリル昇降ボタンを同時に押した場合に機能します。電源リセットと動作は同じです。

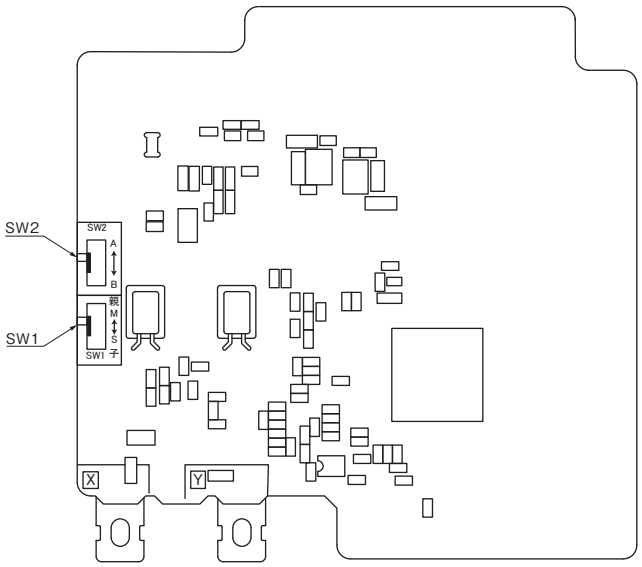
(c) 停電補償機能

- リモコン機能設定により「停電補償有効」の設定をすると有効となります。
- 常にリモコンの状態を記憶しており停電から復帰後，記憶内容により運転を再開します。ただしオートスイング停止位置，タイマーモードはキャンセルされますがウィークリータイマー設定は全曜日とも休日設定で復帰します。
  復電後，時刻合わせを行い，各曜日の休日設定を解除することにより，ウィークリータイマーの設定が有効となります。
- 停電補償で記憶される内容は以下のとおりです。

注(1) ⑥，⑦，⑧項は停電補償有効・無効にかかわらず記憶され，静音モード設定は停電補償有効・無効にかかわらずキャンセルされます。

① 停電時　運転中／停止中
　時刻切タイマーモード，時間タイマーモードで運転中は，停止中を記憶します。（復電時タイマーモードはキャンセルされますが，ウィークリータイマー設定は全曜日が休日設定となります。）
② 運転モード
③ 風量モード
④ 室温設定
⑤ ルーバのオートスイング／停止
　ただし停止位置（4 位置）はキャンセルされます。
⑥ リモコン機能設定により設定された「リモコン機能項目」（「室内機能項目」は室内ユニットが記憶します。）
⑦ 温度設定制御で設定した上限値，下限値。
⑧ 時間タイマー，ウィークリータイマー設定（その他のタイマー設定は記憶しません。）

リモコン基板の部品配置



■制御切換スイッチ（SW1）

スイッチ	設定	機能内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン

注(1) SW2 は，通常使用しませんので，切換えないでください。

11. 電装品故障診断要領

11.1 故障診断の基本

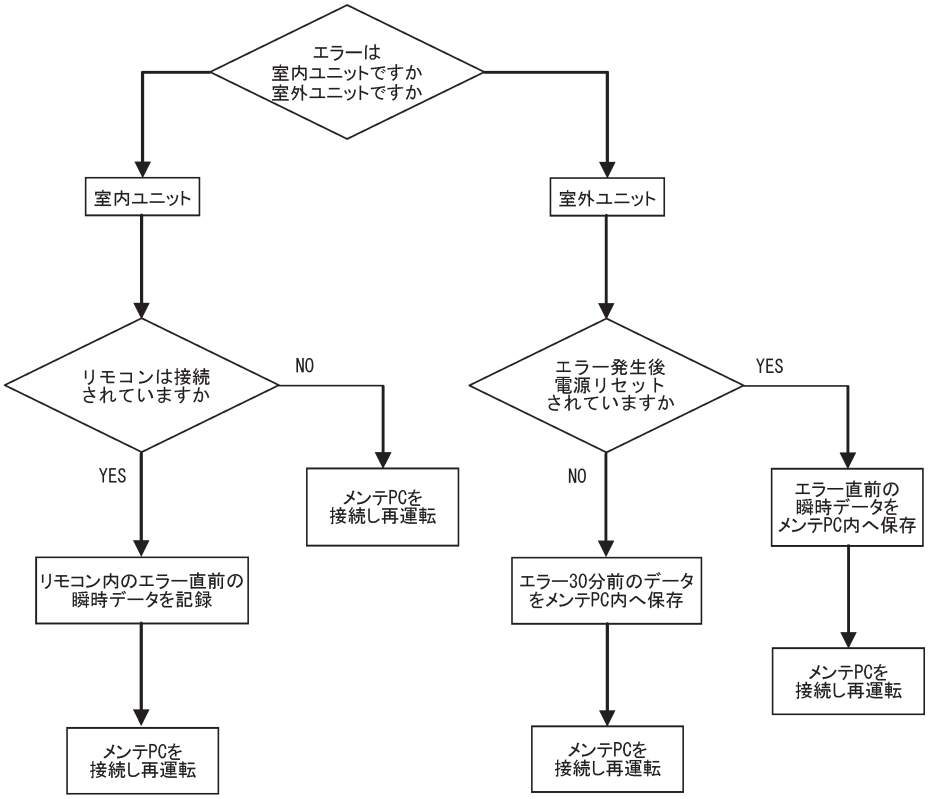
故障診断の基本はメンテ PC を接続してデータを確認／分析／記録することです。

現地に着いたら必ずメンテ PC を接続して作業してください。

エラーデータの分析方法（基本的な進め方）

- エラーは運転中に発生したのか停止時に発生したのか
- 室外ユニット／室内ユニットの設置条件によるものか（冷媒量，配管長，ショートサーキット，フィルタのつまり等）
- 設置上の初歩的なミスはないか（アドレスミスや配管と配線のテレコ等）
- ハード面（部品）の故障かどうか（SV 本体，コイル，キャピラリ，逆止弁，センサ等）
- 要注意部品かどうか

  圧縮機，インバータ基板，室外 DC ファンモータ
- 電装品部品の故障かどうか



11.2 故障診断の内容

(1) 点検表示一覧

リモコン表示	7 セグメント表示	内容	分類	記載ページ
なし	−	運転するが，冷えない	システム異常	365
なし	−	運転するが，暖まらない	システム異常	366
なし	−	漏電ブレーカ作動	システム異常	367
なし	−	音・振動が非常に大きい（その 1）	現地設置不良	368
なし	−	音・振動が非常に大きい（その 2）	ユニット異常	369
なし	−	音・振動が非常に大きい（その 3）	ユニット異常	370
なし	−	ルーバモータが回らない	ルーバモータ異常	371
なし	−	ラクリーナパネルが動かない	ラクリーナモータ異常	372
なし	−	電源系統異常（室内基板への電源供給）	配線接続不良	373~376
なし	−	電源系統異常（リモコンへの電源供給）	配線不良	377~380
なし	−	内機確認中	通信不良	381~386
無表示	−	〔無表示〕	通信不良	387
E1	−	リモコン通信回路不良	通信異常	388
E2	−	室内アドレス重複	アドレス設定不良	389
E3	−	室外・信号系統異常	アドレスペアリング設定不良	390
E5	−	運転中に通信異常	通信異常	391
E6	−	室内熱交温度センサ不良	センサ断線	392
E7	−	室内吸込温度センサ不良	センサ断線	393
E9	−	ドレン不良（ドレンポンプ搭載機）	システム異常	394
	−	室内ファンモータ異常（51F 作動）（FDAS のみ）	室内ファンモータ異常	395
E10	−	1 リモコン複数台制御時接続台数オーバ（17 台以上）	通信異常	396
E11	−	室内ユニットアドレス設定不良	アドレス設定不良	397
E12	−	室内ユニットでのアドレス設定不良	アドレス設定不良	398
E16	−	室内ファンモータ異常（室内 DC ファンモータ機）	室内ファンモータ異常	399~401
E18	−	親子室内アドレス設定不良	システム異常	402·403
E19	−	運転チェックモード異常	設定不良	404
E20	−	室内ファンモータ回転数異常	室内ファンモータ異常	405~407
E21	−	ラクリーナパネル収納不良 パネルスイッチ動作不良	システム異常	408
E28	−	リモコン温度センサ断線	センサ断線	409
E63	E63	緊急停止	現地設定不良	410

(2) 故障診断

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容
運転するが，冷えない

1．対象機種

全機種

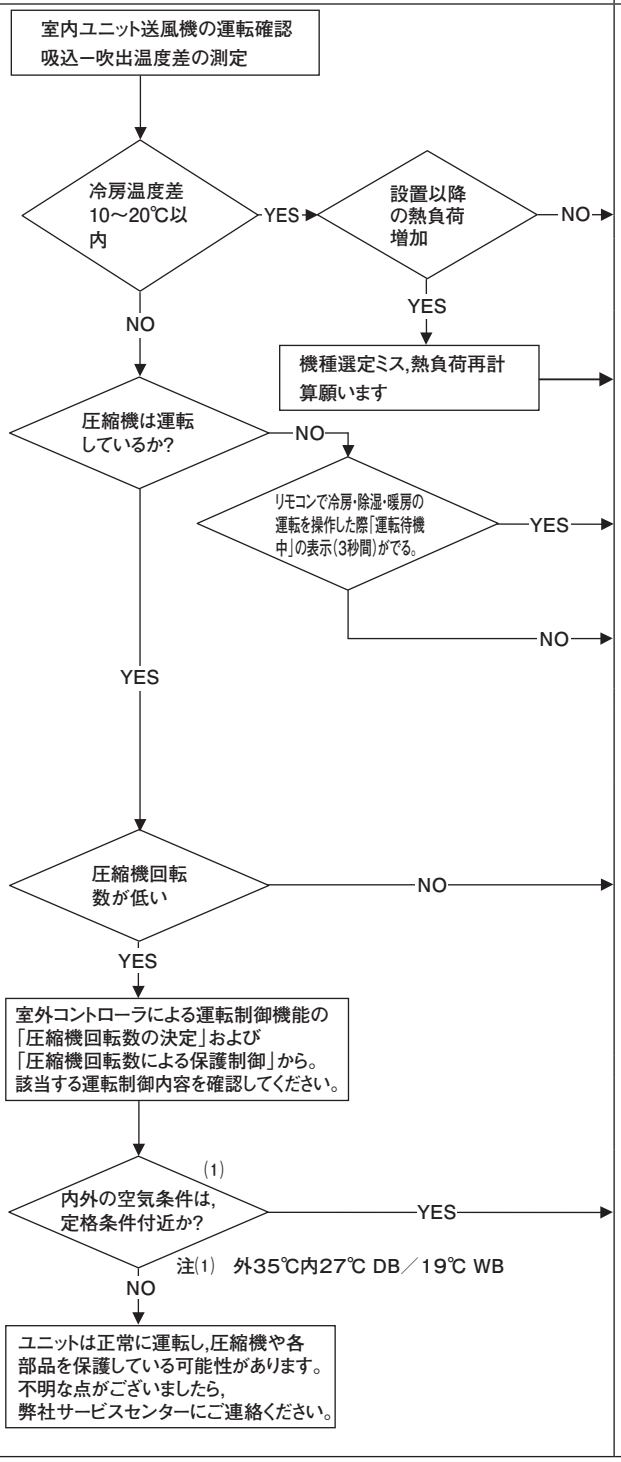
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	正常です。 (本ユニットは，電源リセット後再スタートする場合圧縮機ドーム温度検知によりソフトスタートします。) 増設の検討が必要です。 圧縮機の冷凍機油保護制御が作動しています。 制御内容は，マイコン制御機能の圧縮機始動制御をご覧ください。 異常検出制御により圧縮機を停止させている可能性があります。 マイコン制御機能の圧縮機回転数による異常停止制御の内容をご確認ください。 下記点検を行う ・軽度フィルタの詰り ・軽度熱交換器の汚れ ・軽度ショートサーキット ・軽度冷媒量過不足 ・圧縮機圧縮不良 該当する運転制御より原因と思われる箇所の点検を行う。 下記は参考にしてください。 ・重度のフィルタ詰り ・重度の熱交換器の汚れ ・重度のショートサーキット ・重度の冷媒量過不足 ・圧縮機保護始動中 ・室内ユニットファンタップ ・サイレントモードの有効設定

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容

運転するが，暖まらない

1．対象機種

全機種

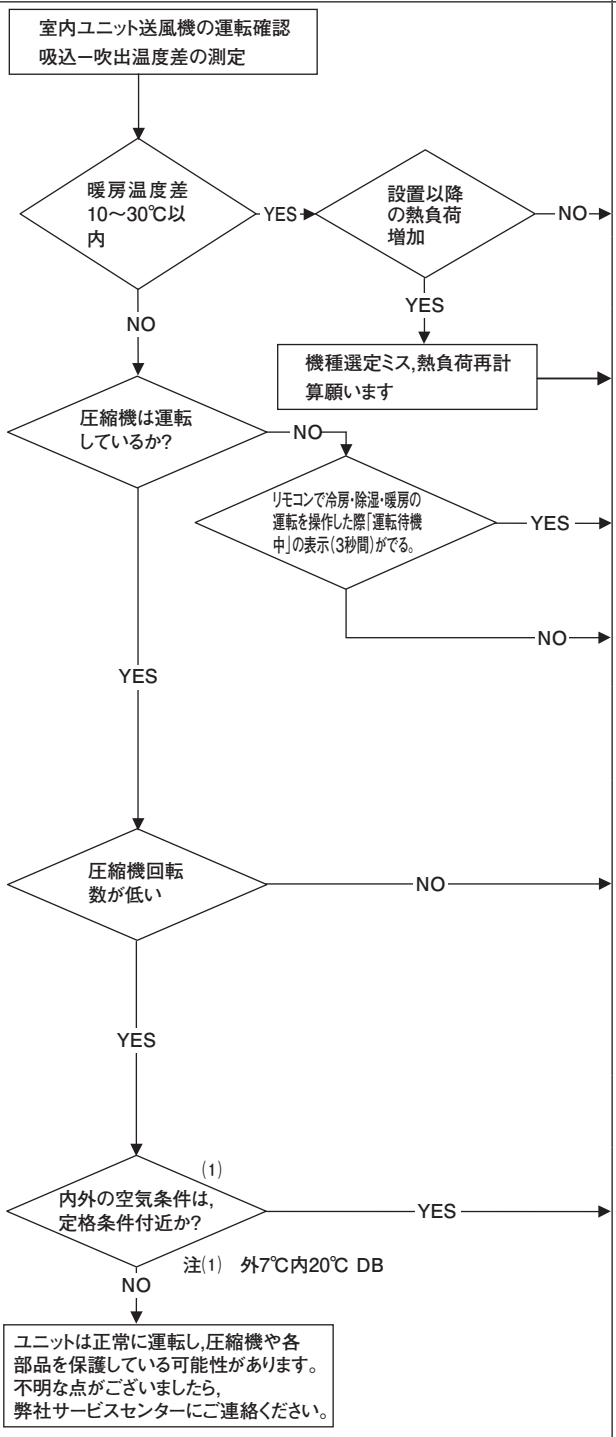
2．異常検出方法

3．異常発生条件

4．予想原因

・四方切換弁動作不良
・圧縮機の圧縮不良
・膨張弁動作不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	正常です。 (本ユニットは，電源リセット後再スタートする場合圧縮機ドーム下温度検知によりソフトスタートします。) 増設の検討が必要です。 圧縮機の冷凍機油保護制御が作動しています。 制御内容は，マイコン制御機能の圧縮機始動制御をご覧ください。 異常検出制御により圧縮機を停止させている可能性があります。 下記点検を行う ・軽度フィルタの詰り ・軽度熱交換器の汚れ ・軽度ショートサーキット ・軽度冷媒量過不足 ・圧縮機圧縮不良 該当する運転制御より原因と思われる箇所の点検を行う。 下記は参考にしてください。 ・重度のフィルタ詰り ・重度の熱交換器の汚れ ・重度のショートサーキット ・重度の冷媒量過不足 ・圧縮機保護始動中 ・室内ユニットファンタップ ・サイレントモードの有効設定

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	消灯

内容

漏電ブレーカ作動

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

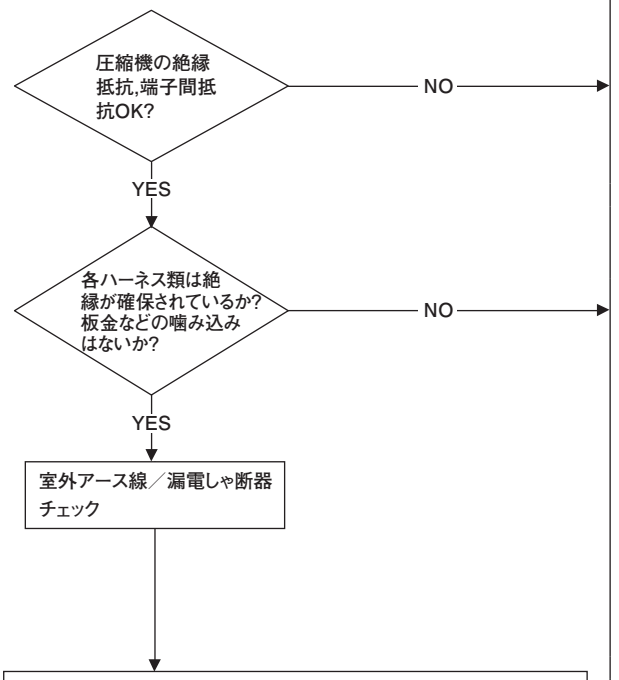
3. 異常発生条件

4. 予想原因

・圧縮機不良
・ノイズ

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
圧縮機の絶縁抵抗,端子間抵抗OK? → NO	圧縮機交換※
各ハーネス類は絶縁が確保されているか? 板金などの噛み込みはないか? → NO	絶縁抵抗確保



室外アース線／漏電しゃ断器チェック

①アース線は，室外ユニットのアースねじ部から配電盤のアース端子まで，単独の線で工事してください。(他のアース線との接続はしないでください。)
②漏電しゃ断器自体の誤作動を防止するため，高調波対応品であるか確認してください。

※圧縮機の絶縁抵抗について
●据付直後，もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合，圧縮機に冷媒が溜まることにより，絶縁抵抗が数MΩまで低下することがあります。絶縁抵抗が小さく，漏電ブレーカが作動する場合は，以下の事項を確認ください。
①電源を投入し，6時間程度経過後，絶縁抵抗が復帰するか確認する。
電源を投入することにより，圧縮機に通電加熱を行い，圧縮機に溜まった冷媒を蒸発させます。
②漏電ブレーカが高調波対応品であるか確認する。
本ユニットはインバータを装備しており，漏電ブレーカの誤動作を防止するため，高調波対応品を使用してください。

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その1）
	室内	ー	ー	
	室外	ー	ー	

1. 対象機種

全機種

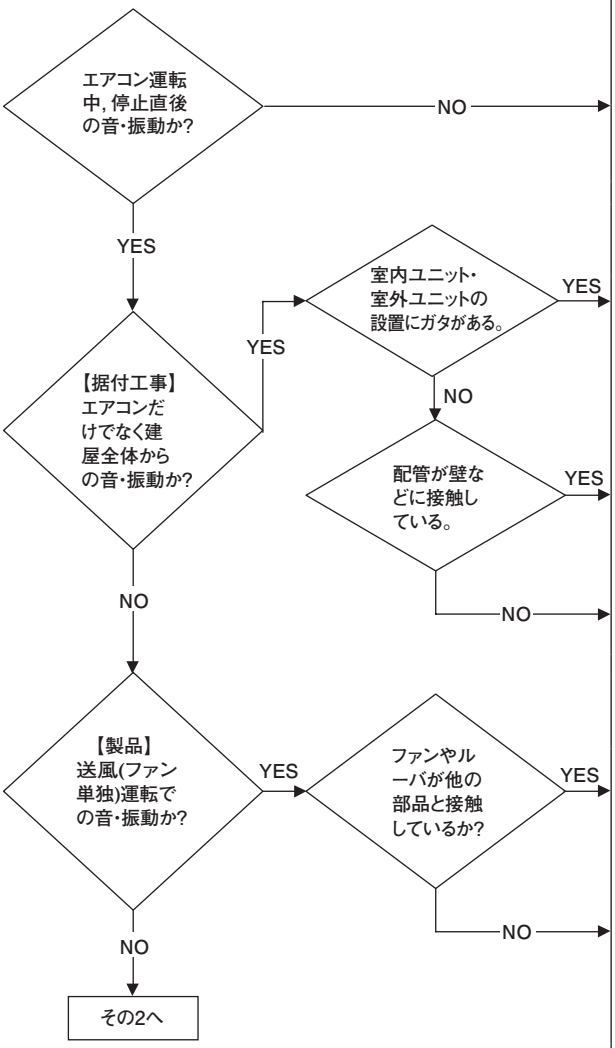
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

①据付工事不良
・設置時の防振対策不良
・取付面の強度不足
②製品不良
・工場出荷前／後不良
③運転調整不良
・冷媒の過多／不足など

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	ー	ー
室外	ー	ー

内容
音・振動が非常に大きい（その2）

1. 対象機種

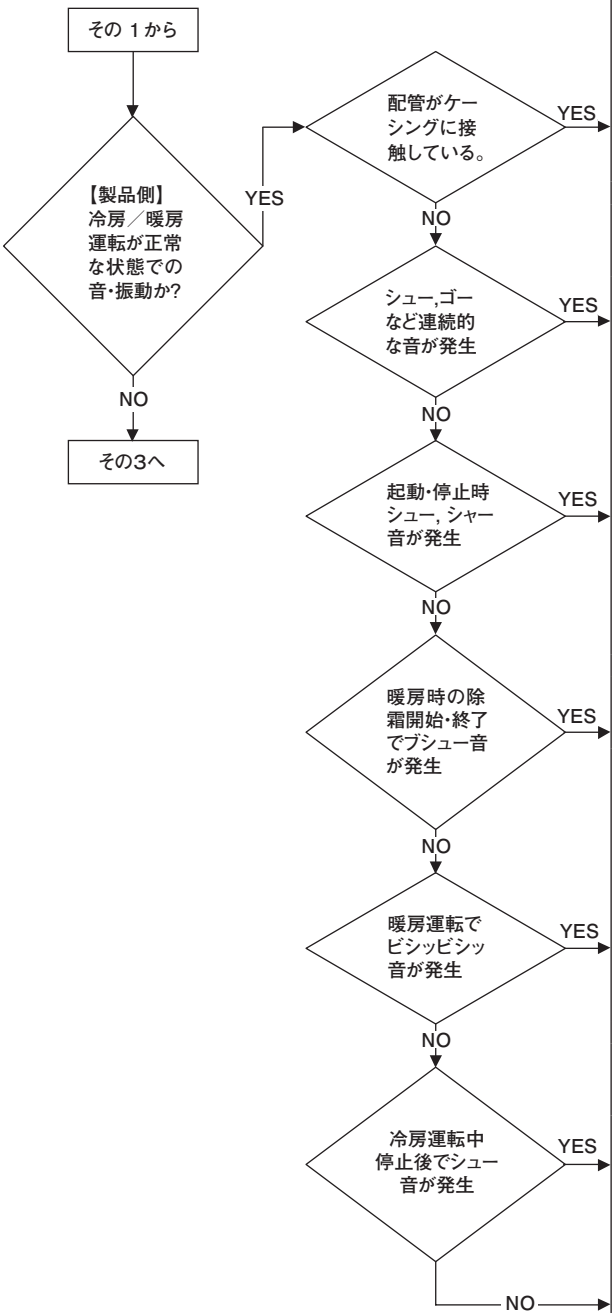
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	ケーシングに接触しないように配管引き回しを修正します。 エアコン内部の配管中をガス冷媒や液冷媒が流れることで発生する音・振動です。特に冷房中や暖房時の除霜中は発生しやすく異常ではありません。 冷媒が流れ始めたり流れが止まることで発生する音・振動です。異常ではありません。 暖房時の除霜開始・終了では四方弁の切替によって冷媒の流れ方向を反転させています。この際，配管内に大きな圧力変化が起きるためブシューといった音色の音が発生します。また，上記のシャー，シュー音も発生します。異常ではありません。 暖房運転開始・停止後や除霜中において，急激な温度変化により樹脂部品が収縮・膨張することで発生する音です。異常ではありません。 室内ユニットドレン水を排出するドレンポンプの運転音です。冷房運転停止後も 20 分間運転します。異常ではありません。 減圧 (膨張弁)，キャピラリ部など発生源と考えられる部位に防音用ダンパシーラントを貼付けてください。

注記：

表示 リモコン:なし	LED	緑	赤	内容 音・振動が非常に大きい（その3）
	室内	ー	ー	
	室外	ー	ー	

1. 対象機種

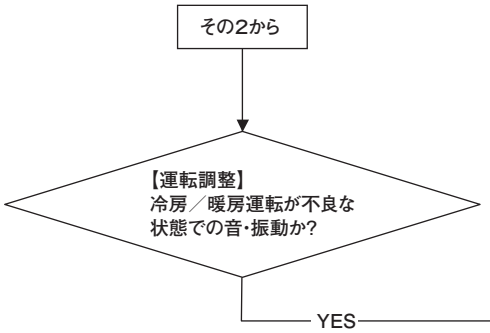
全機種

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	冷房／暖房運転で温度が適正でない不良な状態の場合，以下の懸念があります。 ・冷媒の過多充填 ・冷媒の不足充填 ・空気，窒素などの混入 このため，冷媒回収，真空乾燥，冷媒再充填を実施してください。 ※音・振動はさまざまなことが原因となって発生するため，上記の内容に当てはまらない場合があると思われます。 その場合，以下の点を確認・メモした後弊社に相談願います。 ・室内／室外ユニット ・冷房／暖房／送風 ・起動／停止／運転中 ・運転状態（室内外温度，圧力） ・発生時間 ・圧縮機回転数，熱交センサ温度，電子膨張弁開度等のリモコンによる運転データ ・音色 ・その他気付き事項

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容

ルーバモータが回らない

1. 対象機種

FDT, FDTC, FDTW, FDTS, FDE, FDK シリーズ

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ルーバモータ不良
・ルーバモータ配線断線
・室内ユニット基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
▲室内ユニット側で点検してください。 1分以上経過してから操作してください。 電源投入時ルーバが動作するか? NO ルーバモータ配線は断線しているか? NO ルーバモータ配線は断線しているか? YES	配線修理
ルーバモータはロックしているか? NO	室内ユニット基板交換
ルーバモータはロックしているか? YES	ルーバモータ交換
YES リモコンでルーバモータは動作するか? YES	正常
リモコンでルーバモータは動作するか? NO	ルーバモータ交換 (ルーバモータを交換しても異常が出る場合には, 室内ユニット基板を交換してください。)

注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	消灯

内容

ラクリーナパネルが動かない

1. 対象機種

FDT, FDTW, FDE シリーズのみ

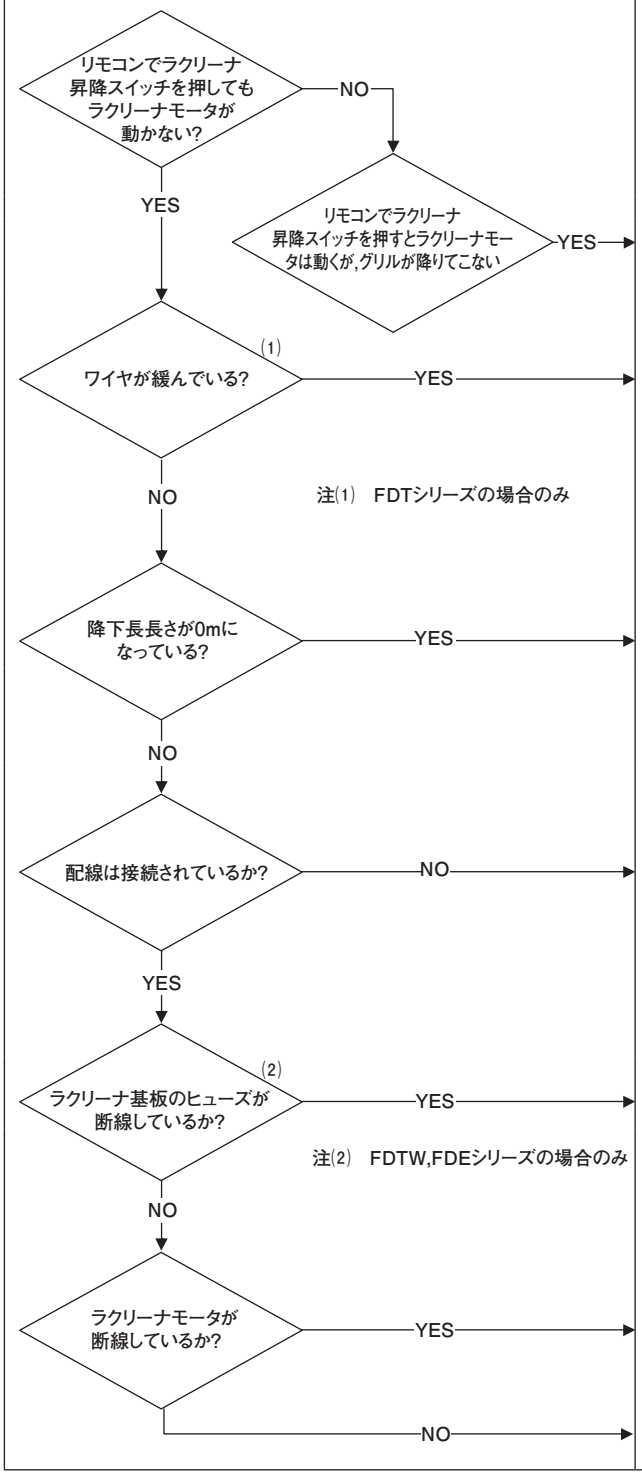
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

- ワイヤゆるみ検知機構が働いている(FDT シリーズのみ)
- 誤配線
- 誤接続
- ラクリーナモータ不良
- ワイヤの絡まり
- ヒューズ切れ(FDTW, FDE のみ)

5. 故障診断と処置



注記:

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	2回点滅

内容

電源系統異常
（室内基板への電源供給）

1. 対象機種

FDT，FDTC，FDK シリーズ

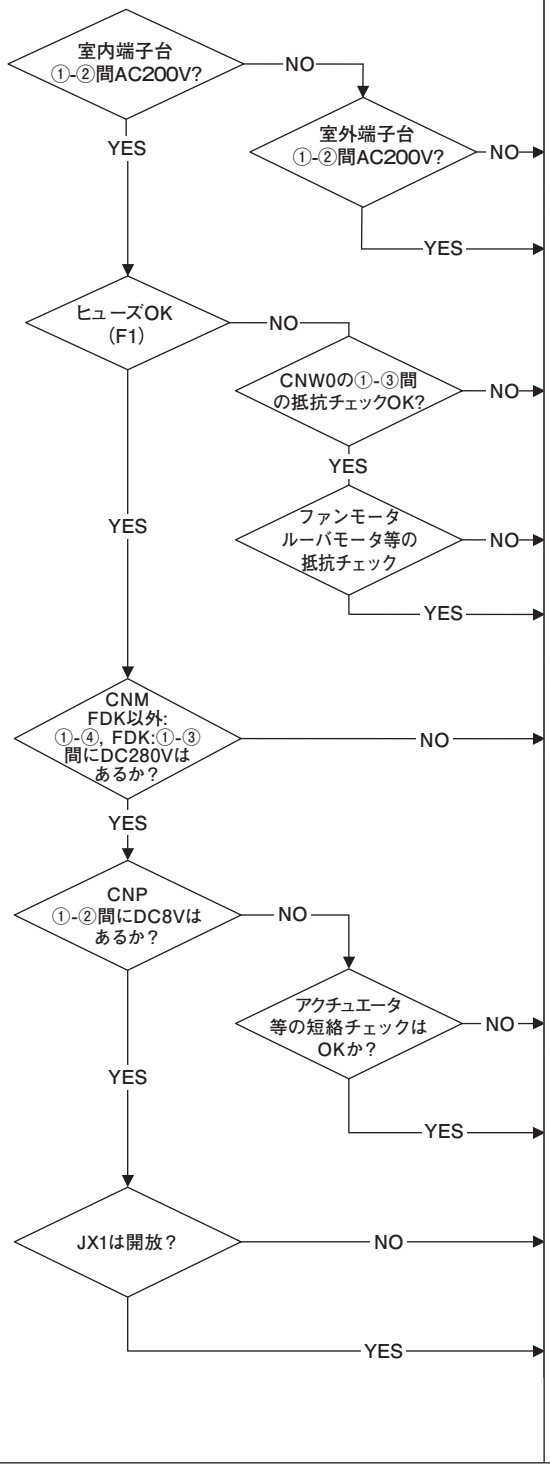
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・渡り配線，誤接続 or 断線
・ヒューズの断線
・トランスの故障
・室内ユニット基板故障
・ハーネス断線

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	2回点滅

内容

電源系統異常
（室内基板への電源供給）

1. 対象機種

FDTW，FDTS，FDR,
FDU22 ～ 160 形,
FDE シリーズ

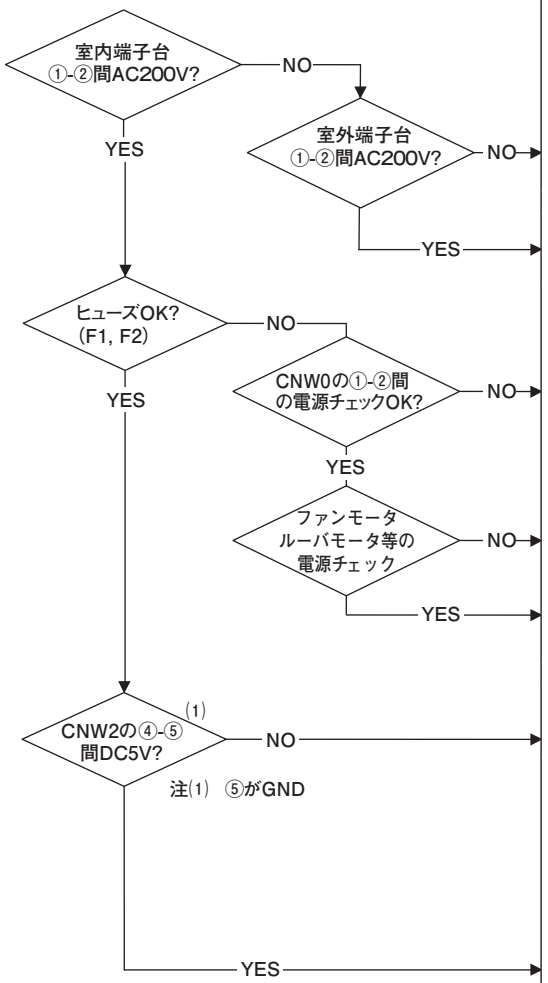
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・渡り配線，誤接続 or 断線
・ヒューズの断線
・トランスの故障
・室内電源基板故障
・ハーネス断線
・室内制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	2回点滅

内容

電源系統異常
（室内基板への電源供給）

1. 対象機種

FDU224，280形
FDUP905 ～ 2805FLXA

2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ハーネス断線
・室内電源基板故障
・ヒューズの断線
・渡り配線, 誤接続 or 断線

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
・FDU, FDU-F (224, 280) 形	
室内端子台 ①-②間AC200V? NO → 室外端子台 ①-②間AC200V? NO	室外基板（ノイズフィルタ）不良
室外端子台 ①-②間AC200V? YES	渡り配線，誤接続断線
室内端子台 ①-②間AC200V? YES → ヒューズOK? (F3) NO	ヒューズ交換
ヒューズOK? (F3) YES → 電源基板の T1-T2間の電源チェックOK? NO	室内電源基板不良 →交換
電源基板の T1-T2間の電源チェックOK? YES → ファンモータ用 ヒューズOK? (F1,2) NO	ヒューズ交換
ファンモータ用 ヒューズOK? (F1,2) YES	ファンモータ交換
・FDU-F (90, 140) 形	
室内端子台 ①-②間AC200V? NO → 室外端子台 ①-②間AC200V? NO	室外基板（ノイズフィルタ）不良
室外端子台 ①-②間AC200V? YES	渡り配線，誤接続断線
室内端子台 ①-②間AC200V? YES → CNW0の③-⑤間の電源チェックOK? NO	室内電源基板不良 →交換
CNW0の③-⑤間の電源チェックOK? YES → ヒューズOK? (F1) NO	ヒューズ交換
ヒューズOK? (F1) YES → ファンモータ用 ヒューズOK? (F3,4) NO	ヒューズ交換
ファンモータ用 ヒューズOK? (F3,4) YES	ファンモータ交換

注記：

表示
リモコン: なし

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	2回点滅

内容

電源系統異常
（室内基板への電源供給）

1. 対象機種

FDAS シリーズのみ

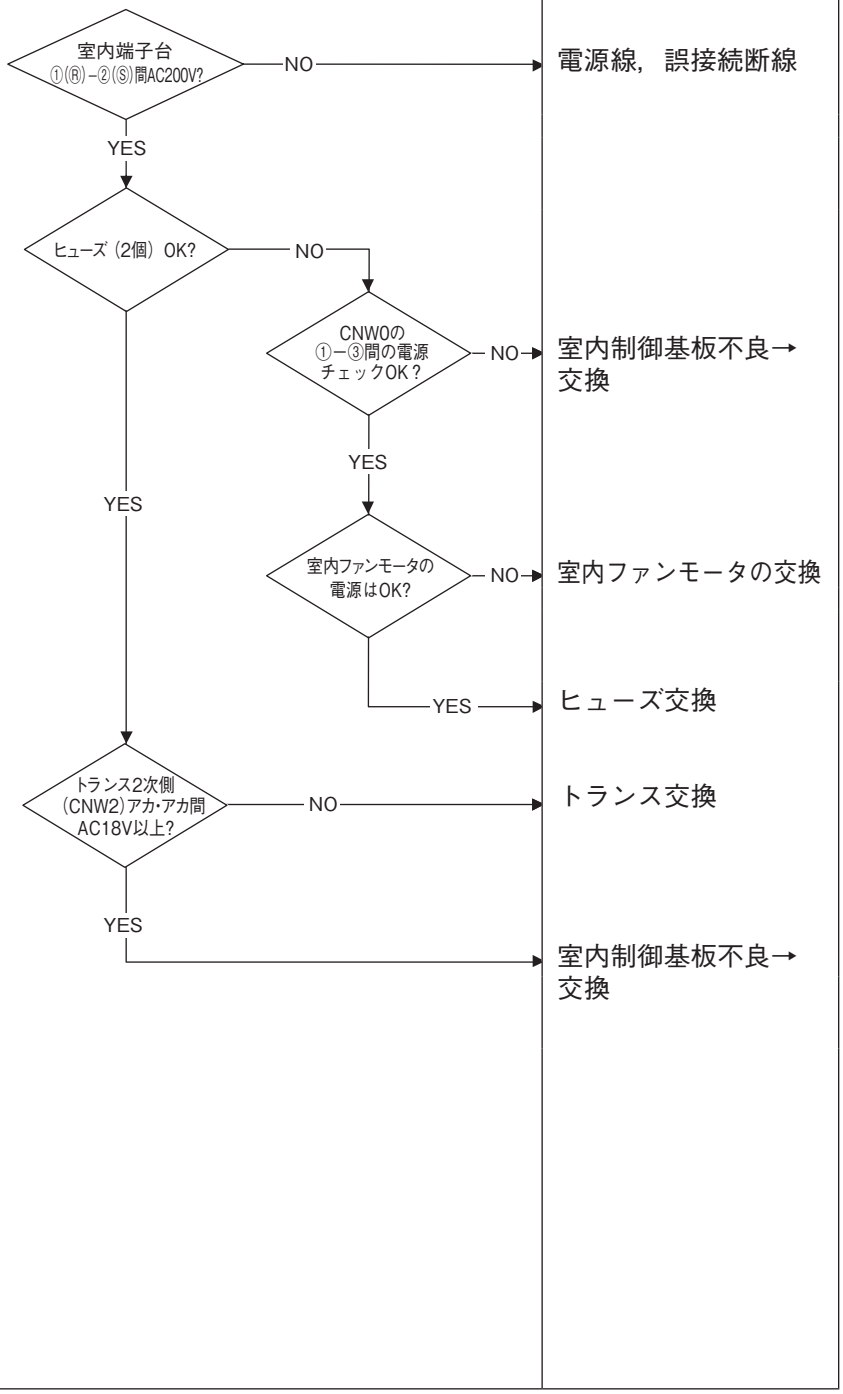
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・渡り配線, 誤接続or 断線
・ヒューズの断線
・トランスの故障
・室内電源基板故障
・ハーネス断線
・室内制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	連続点滅
室外	消灯	連続点滅

内容

電源系統異常
（リモコンへの電源供給）

1. 対象機種

FDT,FDTC シリーズ

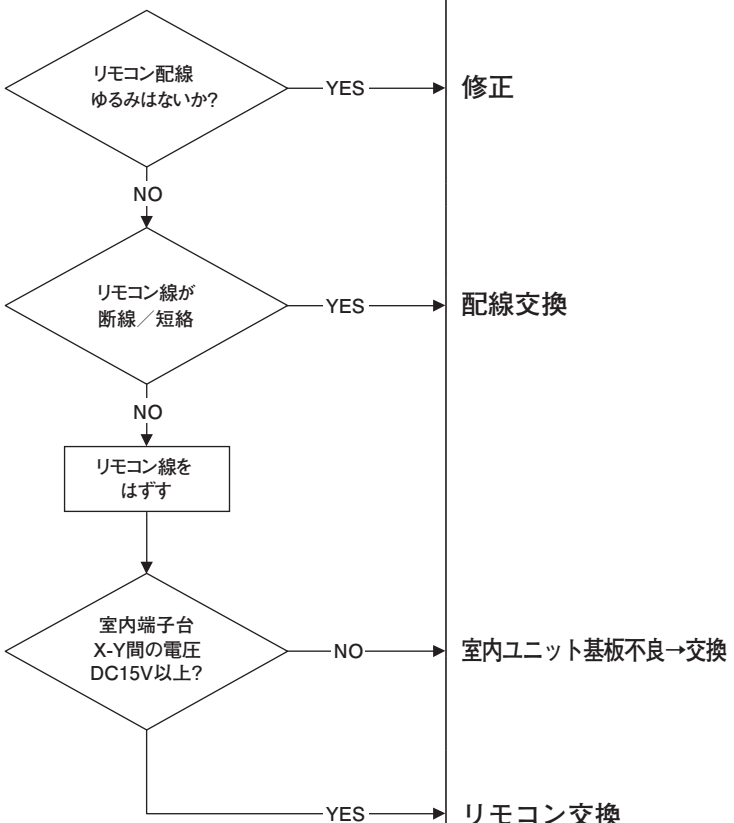
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・リモコン線断線／短絡
・リモコン不良
・ノイズ誤動作
・室内ユニット基板故障
・ハーネス断線

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	連続点滅
室外	消灯	連続点滅

内容

電源系統異常
（リモコンへの電源供給）

1. 対象機種

FDTW，FDTS，FDR，
FDU，FDE シリーズ，
FDUP905 ～ 2805FLXA

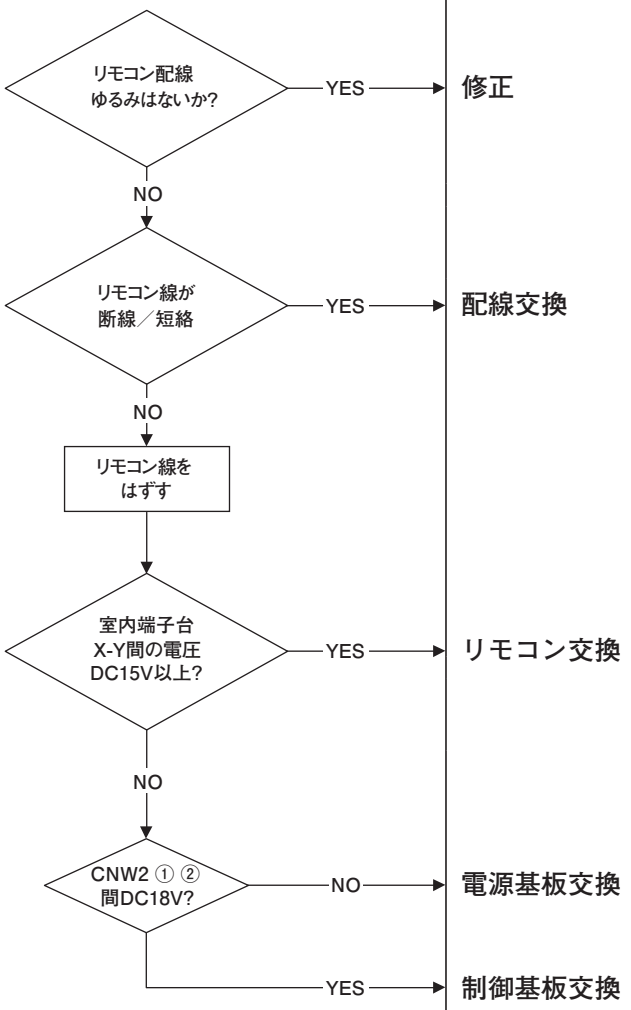
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・リモコン線断線／短絡
・リモコン不良
・ノイズ誤動作
・室内電源基板故障
・ハーネス断線
・室内制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	2回点滅

内容

電源系統異常
（リモコンへの電源供給）

1. 対象機種

FDK シリーズ

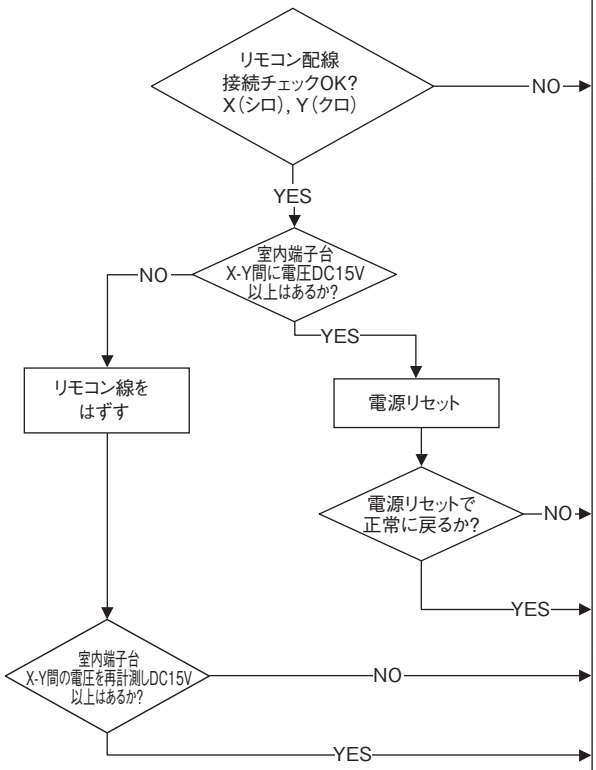
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・リモコン線断線／短絡
・リモコン不良
・ノイズ誤動作
・ハーネス断線
・室内ユニット基板不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:なし

LED	緑	赤
室内	消灯	連続点滅
室外	消灯	連続点滅

内容

電源系統異常
（リモコンへの電源供給）

1. 対象機種

FDAS シリーズ

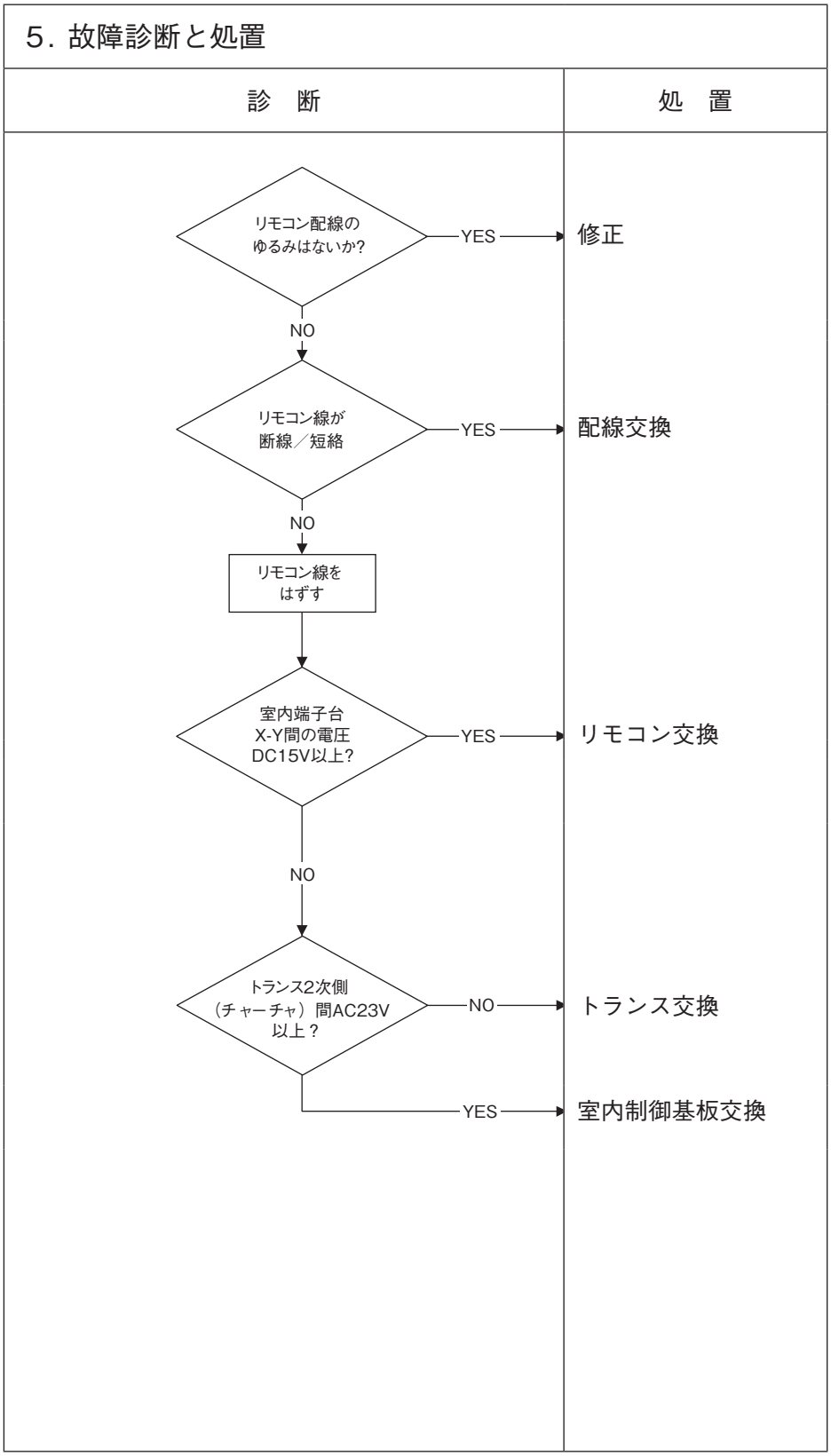
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・リモコン線断線／短絡
・リモコン不良
・ノイズ誤動作
・ハーネス断線
・室内制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:内機確認中

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	連続点滅

内容

内機確認中

1. 対象機種

全機種
（電源投入後２分待ってもリコモンLCD「内機確認中」表示のままの場合）

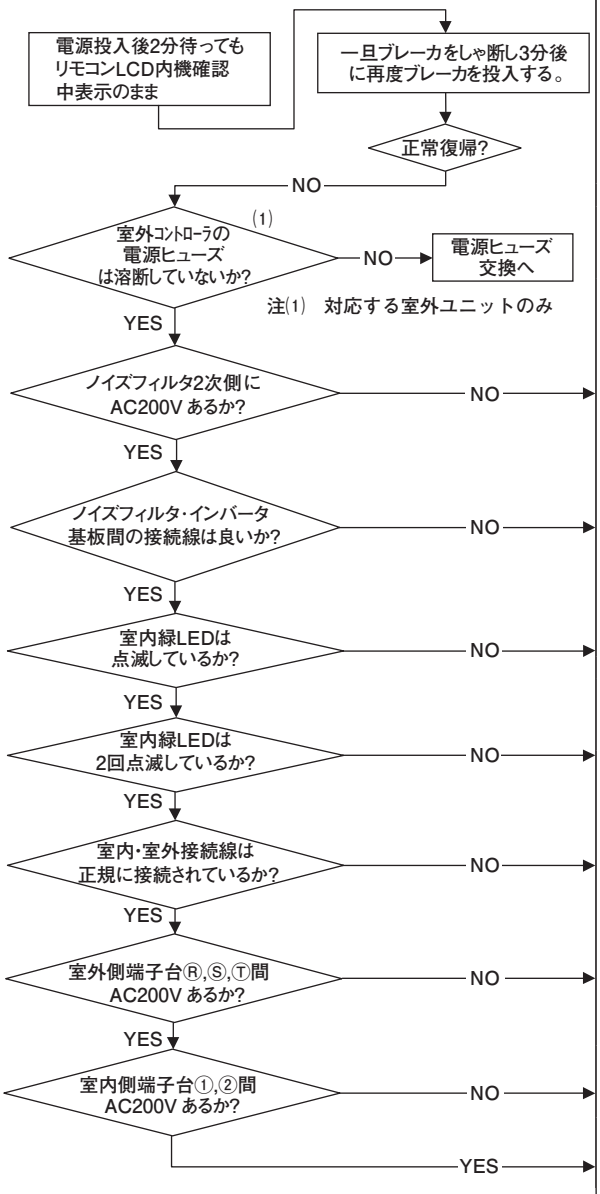
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：通信中に異常が発生した場合は故障記号 E5 を表示します。（室外赤 LED2 回点滅）点検要領は上記と同一です。（ただし，接続関連は除く）また，E5 発生後電源リセットした場合，異常が継続しておればリモコン LCD「内機確認中」表示になります。短時間（1 分以内）にブレーカ電源投入を繰り返すと内機確認中表示することがあります。この場合，ブレーカを OFF して 3 分お待ちください。

表示
リモコン:内機確認中

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	連続点滅

内容

内機確認中

1. 対象機種

全機種
(ヒューズ溶断の場合,
電源ヒューズ交換前の
インバータ点検方法)

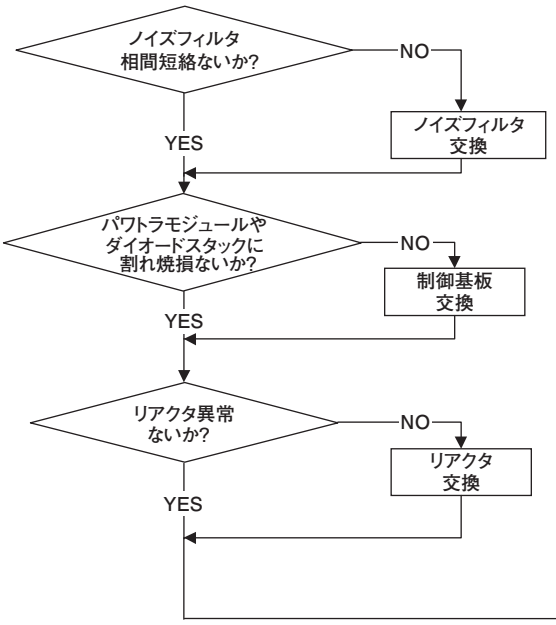
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	ヒューズ交換

注記：

表示
リモコン:内機確認中

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	連続点滅

内容

内機確認中

1. 対象機種

全機種
(電源投入後リモコン無表示の場合)

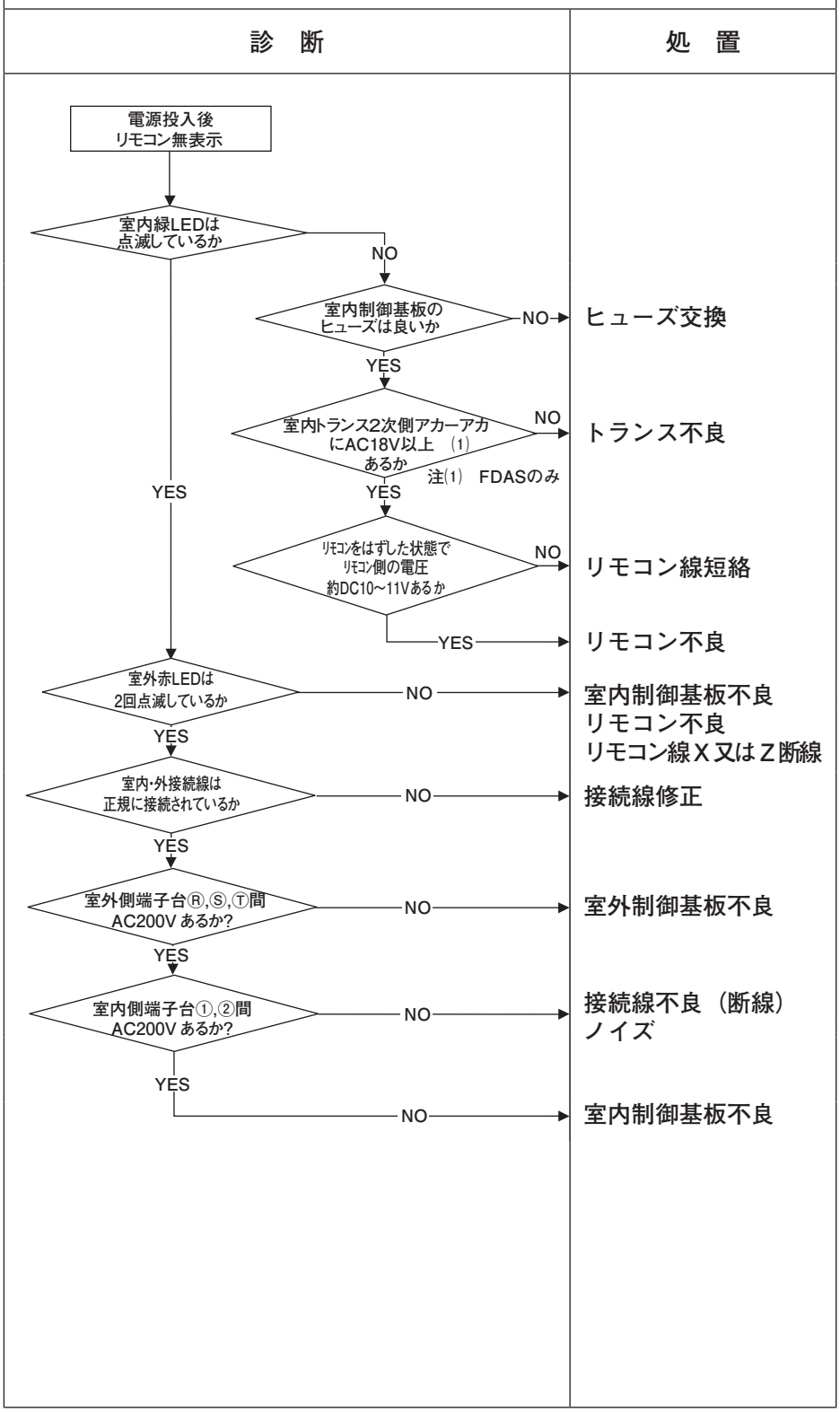
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内制御基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:内機確認中

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	連続点滅

内容

内機確認中

1. 対象機種

全機種
（電源投入後２分待ってもリモコンLCD「内機確認中」表示のままの場合）

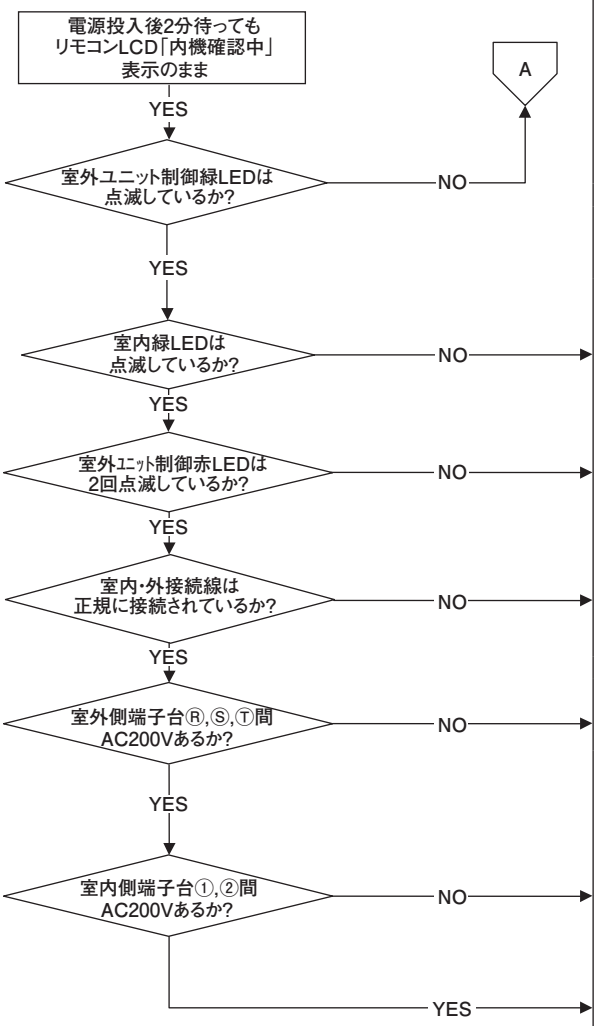
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:内機確認中

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	消灯

内容

内機確認中

1. 対象機種

全機種
（室外ユニット制御基板LEDが消灯している場合の診断）

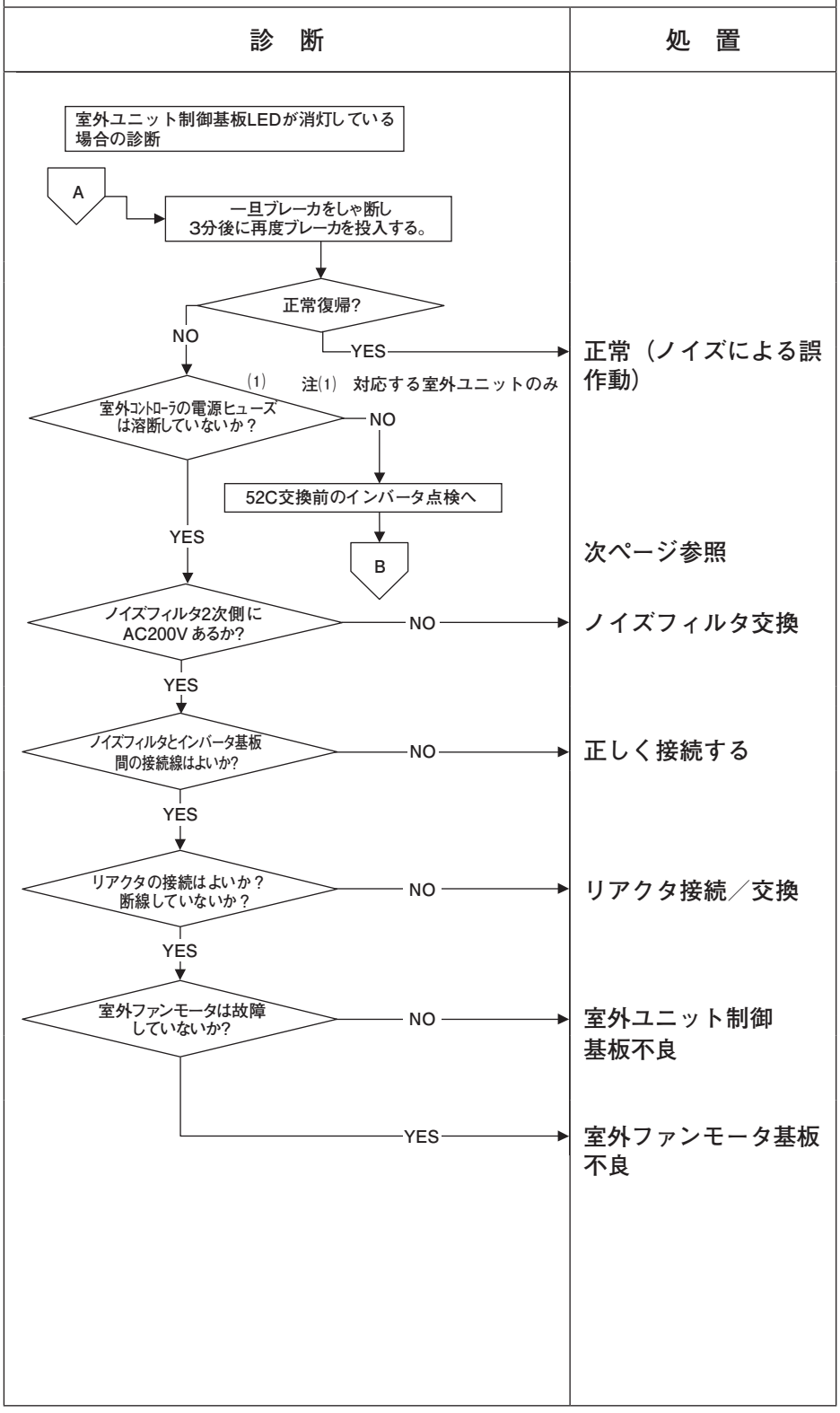
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:内機確認中	室内	消灯	消灯	内機確認中
	室外	消灯	消灯	

1. 対象機種

全機種
(ヒューズ溶断の場合,
電源ヒューズ交換前の
インバータ点検方法)

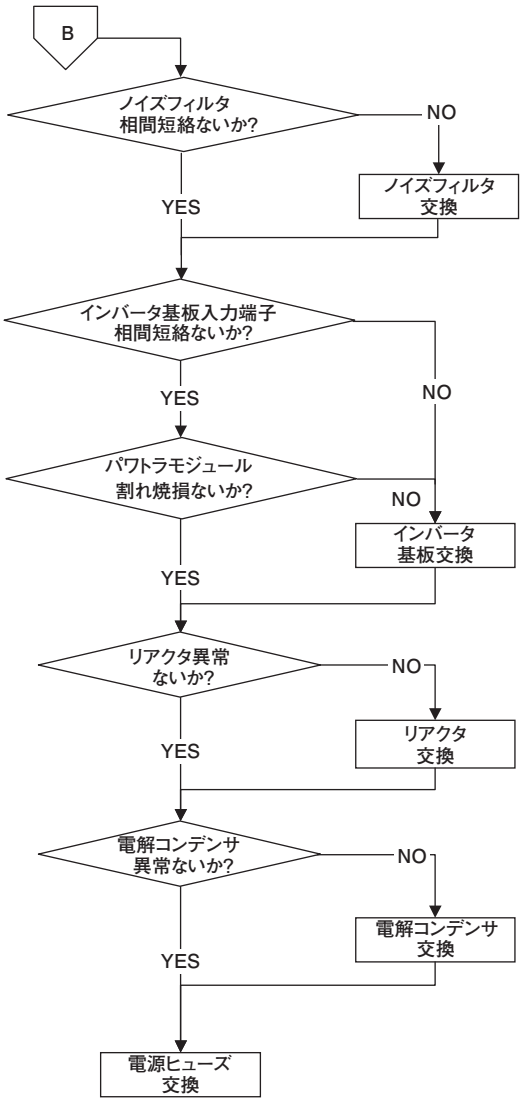
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示
リモコン:無表示

LED	緑	赤
室内	消灯	消灯
室外	消灯	消灯

内容

〔無表示〕

1. 対象機種

全機種
(電源投入後リモコン無表示の場合)

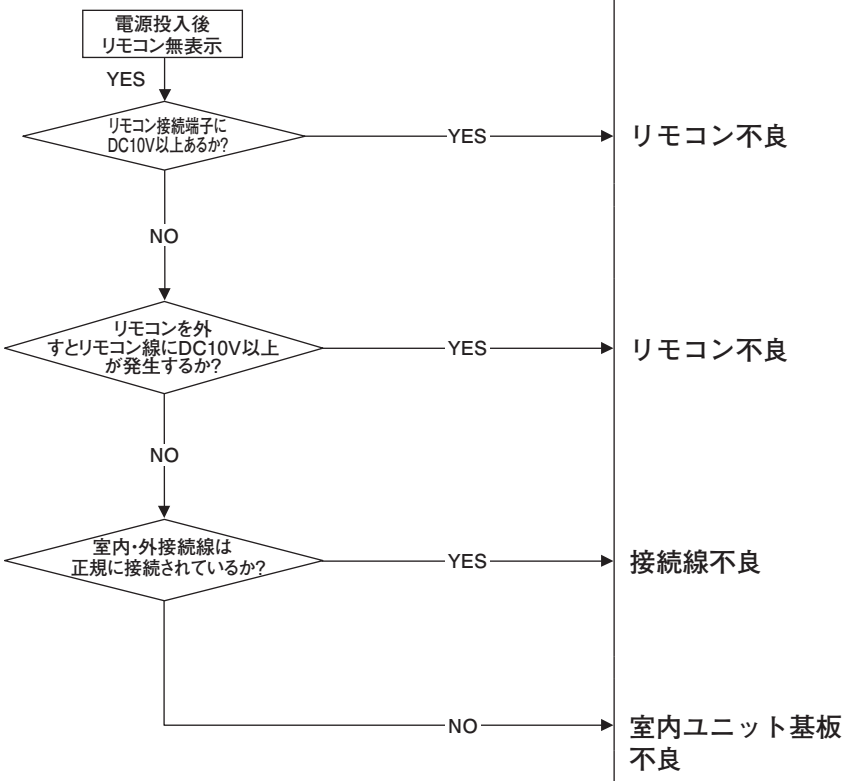
2. 異常検出方法

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・ヒューズの断線
・ノイズフィルタの故障
・基板間の接続
・室内ユニット基板故障
・リモコン不良
・リモコン線断線
・室外ユニット制御基板故障

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:E1

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容

リモコン通信回路不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

リモコン－室内ユニット間の通信が運転中に2分以上正常にできない場合（リモコンでのみ検出）

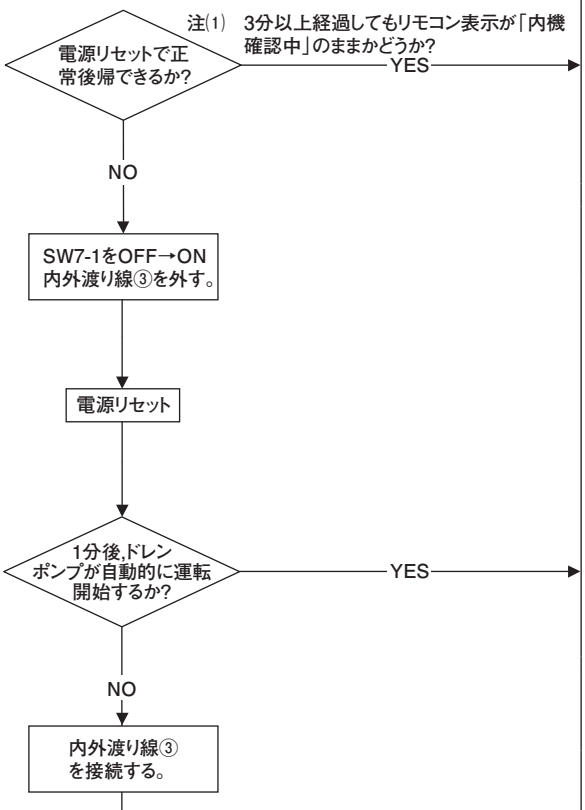
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・リモコン－室内ユニット間通信回路不良
・ノイズ

5. 故障診断と処置



注記：室内側ではリモコンと 180 秒間正常に通信できない場合，室内ユニットの基板は自動的にリセットスタートします。

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E2 7セグメント:−	室内	連続点滅	連続点滅	室内アドレス重複
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

同一系統内で室内ユニットが**129台以上接続**
室内アドレス重複

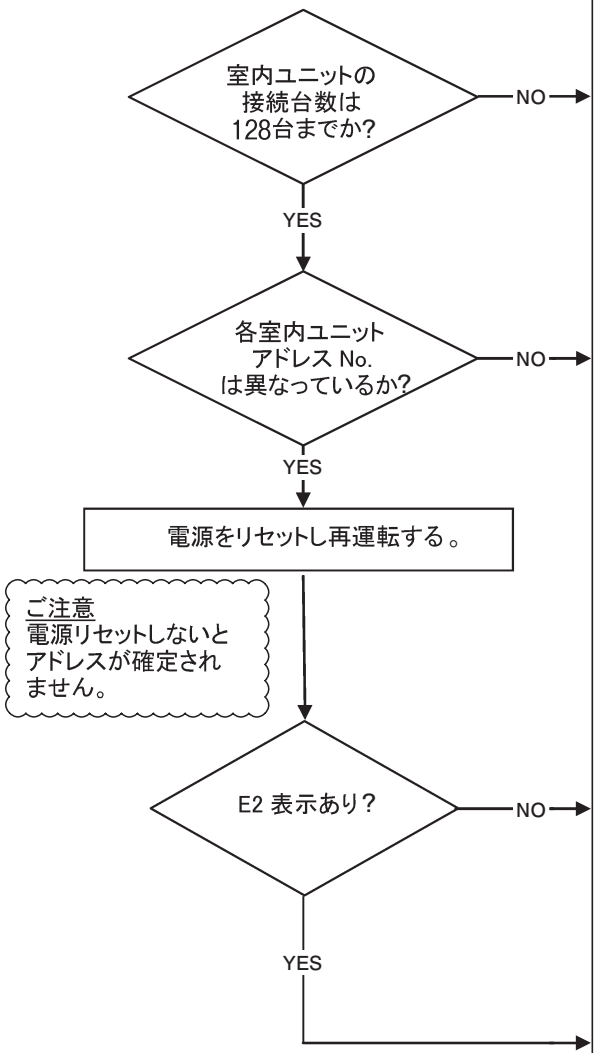
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

①室内接続台数制限オーバ
②室内アドレスNo.重複
③室内ユニット基板不良

5. 故障診断と処置



※交換前にアドレス設定のロータリスイッチが壊れていないか確認ください。(過去に5番が壊れていた例があります。)

注記:

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E3/5 7セグメント:-	室内	連続点滅	連続点滅	室外・信号系統異常
	室外	連続点滅	消灯	

1．対象機種

全機種

2．異常検出方法

同一系統内に室外ユニットがない

3．異常発生条件

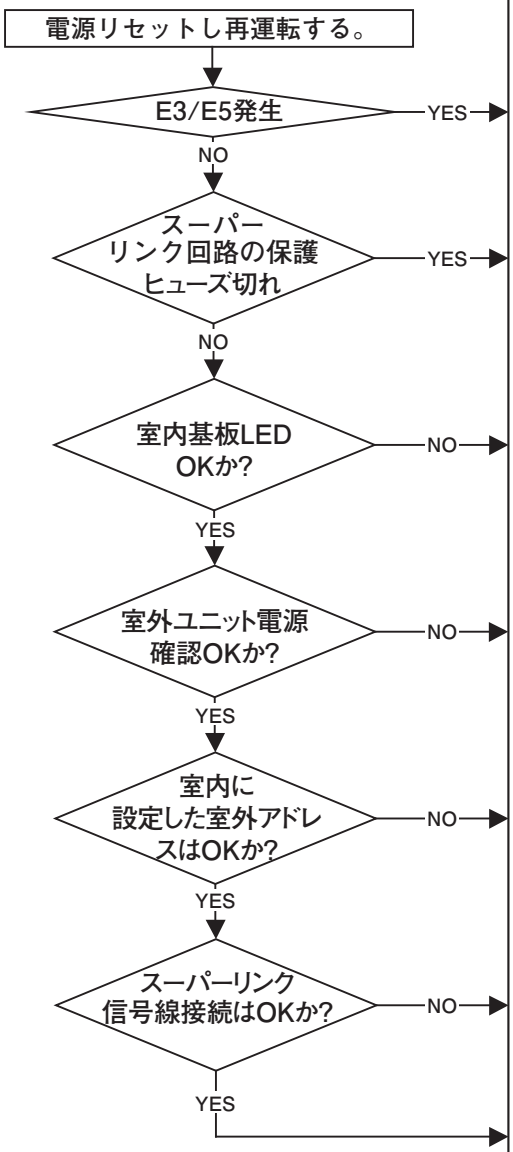
同上

4．予想原因

・室外ユニットの電源未投入
・室内・外のペアリング不適合
・室内ユニット基板不良
・室外ユニット基板不良
・現地配線未接続

5．故障診断と処置

E3は室内外の通信が一度も成立しない時に発生する通信エラーです。一旦室内外の通信が成立すればE5となります。共に，現地通信用配線を確認してください。



注記：

表示
リモコン:E5

LED	緑	赤
室内	連続点滅	下記参照
室外	連続点滅	2回点滅

内容

運転中に通信異常

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内ー室外が2分以上正常に通信ができない場合

3. 異常発生条件

運転中に同上を検知

4. 予想原因

・号機設定ミス
・リモコン配線断線
・リモコン配線接続不良
・室内ユニット基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室内赤LEDが2回点滅の場合	
注(1)　室外端子台での接続不良(外れ,緩み)を点検 室外ユニット側で信号線の接続OK?	
NO	信号線修理
YES 注(2)　室内～室外ユニット間信号線の接続不良または断線を点検。 室内～外ユニット間信号線の接続OK?	
NO	信号線修理
YES 電源リセット リモコンLCDは正常に戻ったか?	
NO	「内機確認中」表示の診断へ
YES	ユニットは正常です。(一過性ノイズ等による誤作動)
室内赤LEDが消灯 電源リセット NO リモコンLCDは正常に戻ったか?	
NO	室外ユニット基板不良(ネットワーク通信回路不良)→交換
YES	ユニットは正常です。(一過性ノイズ等による誤作動)

注記：ポンプダウンスイッチを押すと，室内ユニットとの通信をキャンセルするため，リモコンには“伝送異常・E5”が表示されますが異常ではありません。

表示
リモコン:E6

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内熱交温度センサ不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内熱交温度センサ
(Thi-R1, R2, R3)
の異常低温および異常高温(抵抗)を検知

3. 異常発生条件

・温度センサが,圧縮機ON2分後の20秒間に断線を連続5秒間検知
・冷房運転で圧縮機ON2分20秒間に短絡を連続5秒間検知

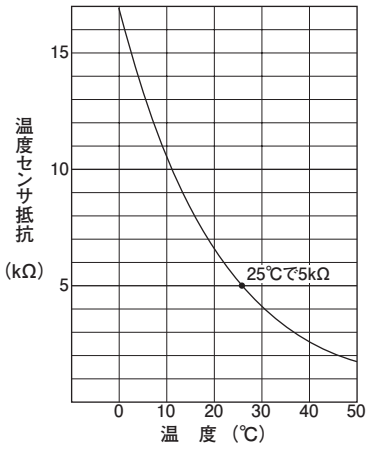
4. 予想原因

・室内熱交センサコネクタ不良
・室内熱交センサ不良
・室内ユニット基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
室内熱交温度センサコネクタの接続はOKか? NO	修正→コネクタ接続
室内熱交温度センサの特性はOKか? NO	室内熱交温度センサ不良→交換
YES	室内ユニット基板不良→交換 (室内熱交温度センサ入力回路不良)

室内熱交温度センサ(Thi-R1,R2,R3)
温度ー抵抗特性



注記：

表示
リモコン:E7

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内吸込温度センサ不良

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内吸込温度センサ（Thi-A）の異常低温および異常高温（抵抗）を検知

3. 異常発生条件

・温度センサが断線を連続5秒間検知

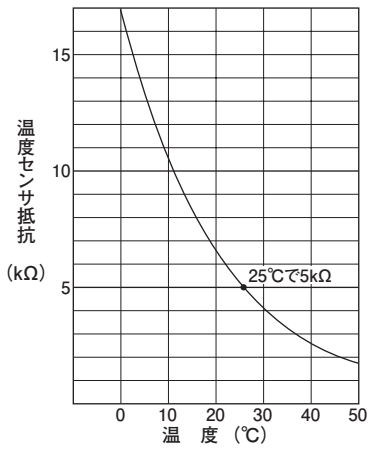
4. 予想原因

・吸込温度センサコネクタ不良
・吸込温度センサ不良
・室内ユニット基板故障

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
吸込温度センサコネクタの接続はOKか? NO	修正→コネクタ接続
吸込温度センサの特性はOKか? NO	吸込温度センサ不良→交換
YES	室内ユニット基板不良→交換（吸込温度センサ入力回路不良）

室内吸込温度センサ（Thi-A）
温度ー抵抗特性



注記：

表示
リモコン:E9

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

ドレン不良

1. 対象機種

ドレンポンプ塔載機

2. 異常検出方法

フロートスイッチ作動

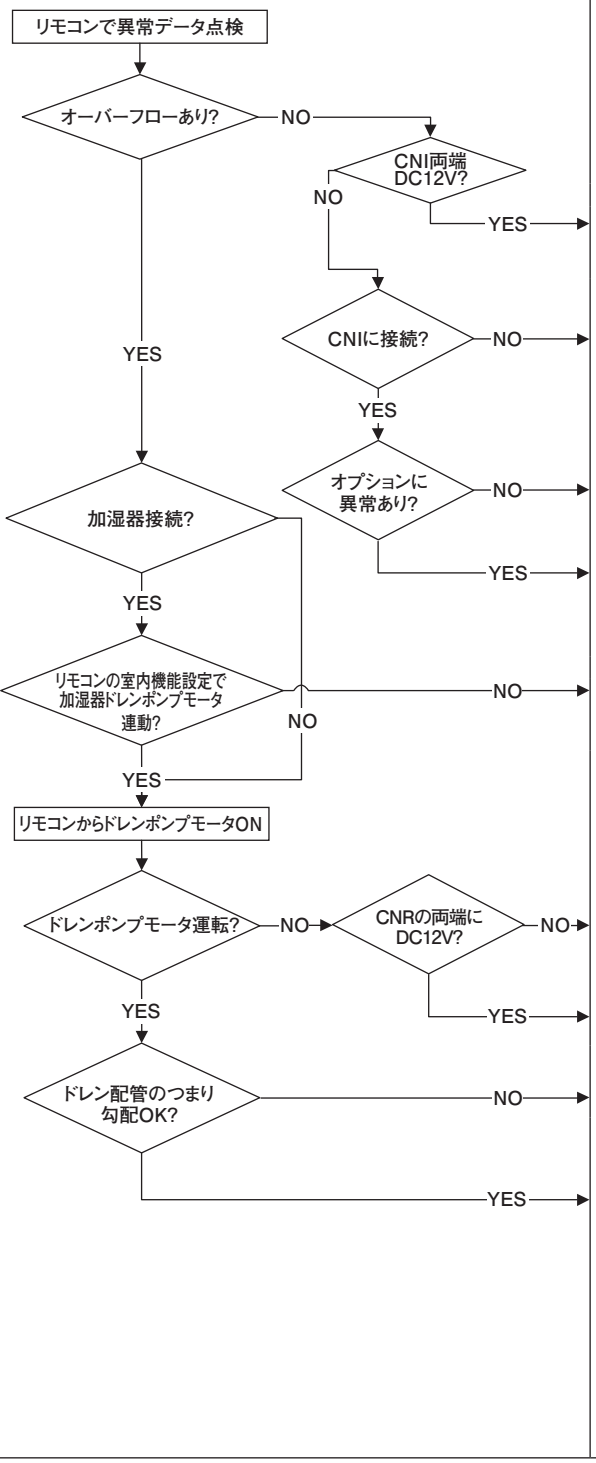
3. 異常発生条件

フロートスイッチ開を3秒間連続検知したとき，またはフロートスイッチの未接続時・断線時。

4. 予想原因

・室内ユニット基板不良
・フロートスイッチ設定ミス
・加湿器ドレンポンプモータ連動設定ミス
・オプション設定ミス
・ドレン配管ミス
・ドレンポンプモータ不良
・モータ配線ドレンポンプモータ不良

5. 故障診断と処置



注記：電源投入時に発生した場合は，フロートスイッチの断線・接点不良が考えられます。点検修正（交換）してください。

表示
リモコン:E9

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1 回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容 **室内ファンモータ異常**
（51F作動）（FDAS のみ）

1. 対象機種

FDAS シリーズのみ

2. 異常検出方法

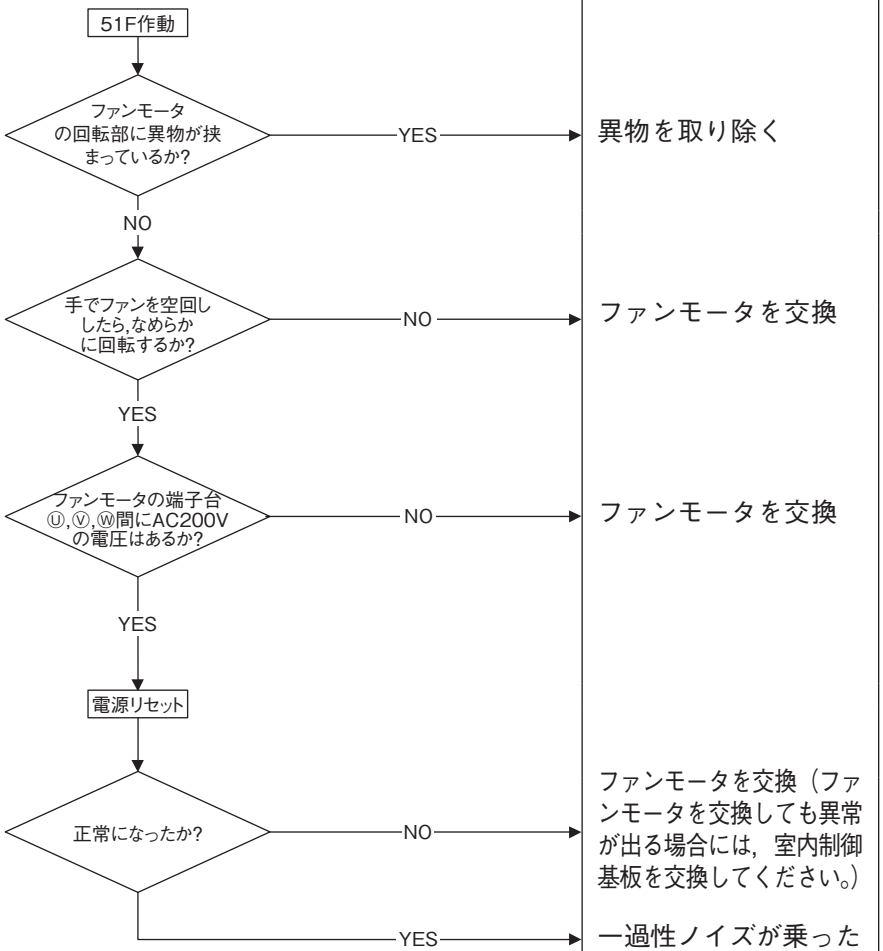
室内ファンモータ回転数

3. 異常発生条件

4. 予想原因

・室内制御基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・室内制御基板の塵埃
・外来ノイズ，サージ

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:E10

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容 **1リモコン複数台制御時 接続台数オーバー（17台以上）**

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

1リモコンで室内ユニット17台以上を検知したとき

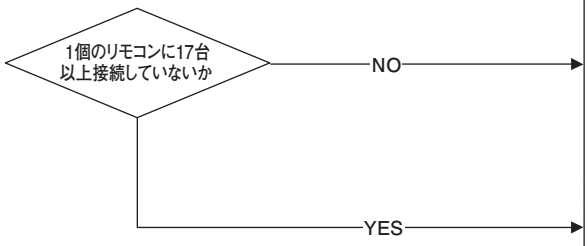
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・接続台数オーバー
・リモコン不良

5. 故障診断と処置



注記：

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E11 7セグメント:−	室内	連続点滅	消灯	室内ユニットアドレス設定不良
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

複数室内ユニットを1リモコンで結線し, リモコンでアドレス設定した場合

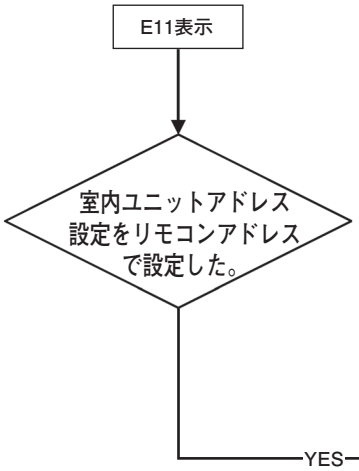
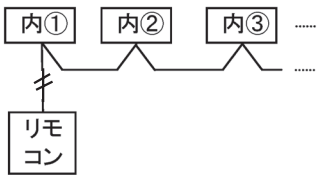
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

アドレス設定方法のまちがい
1リモコンで複数の室内ユニットを制御する場合、リモコンアドレス設定はできない。手動または自動アドレス設定のみ（冷媒系統を信号線がまたがない場合のみ）

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
	リモコン交換
下図リモコンの結線で、リモコンアドレス設定するとE11 発生。 	室内ユニット基板上のロータリースイッチSW1, 2およびディップスイッチSW5-2でアドレス設定を行う。

注記:

表示	LED	緑	赤	内容
リモコン:E12 7セグメント:−	室内	連続点滅	連続点滅	室内ユニットでのアドレス設定不良
	室外	連続点滅	消灯	

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

室内ユニットでのアドレス設定時に自動と手動が混在。

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

室内ユニットでのアドレス設定ミス

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
室内ユニットアドレス設定で自動･手動が混在していないか?※ NO	アドレス設定を見直す。
YES	室内ユニット基板交換

※アドレス設定方法一覧（ ）内は旧SL用の数値

	新SL対応機			新SL未対応機		
	室内ユニットアドレス設定		室外ユニットアドレス設定	室内ユニットアドレス設定		室外ユニットアドレス設定
	室内No.スイッチ	室外No.スイッチ	室外No.スイッチ	室内No.スイッチ	室外No.スイッチ	室外No.スイッチ
手動アドレス（旧SL/新SL）	000~127「47」(1)	00~31「47」	00~31「47」	00~47	00~47	00~47
1冷媒系統自動アドレス(旧SL/新SL)	000	49	49	49	49	49
複数冷媒系統自動アドレス(新SLのみ)	000	49	00~31	不可	不可	不可

注記:

表示
リモコン:E16

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ異常

1. 対象機種

FDT, FDTC, FDK シリーズのみ

2. 異常検出方法

室内ファンモータ回転数

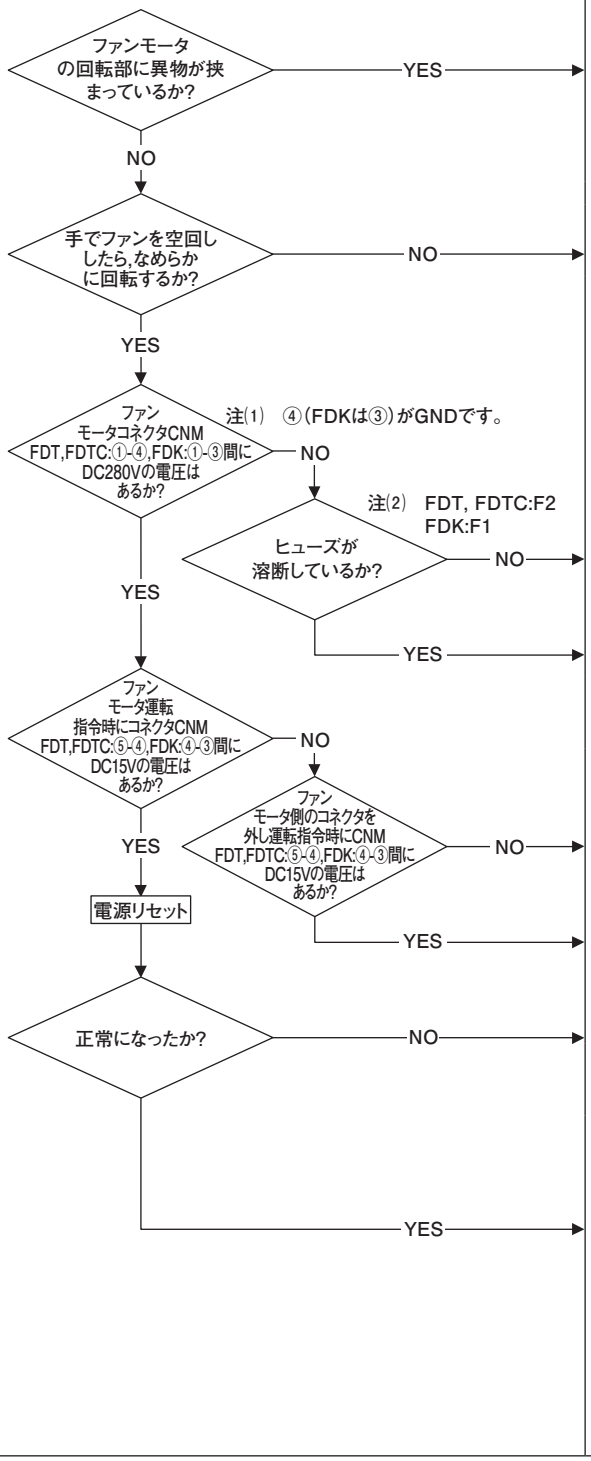
3. 異常発生条件

室内ファンモータの実回転が 30 秒連続して 200min^{-1} 以下になると圧縮機，室内ファンモータを停止します。2 秒遅延後自動復帰しますが 60 分以内に 4 回作動した場合は，異常停止します。

4. 予想原因

・室内ユニット基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:E16

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ異常

1. 対象機種

FDTW, FDTS, FDR, FDE, FDU22 ～ 160 形

2. 異常検出方法

室内ファンモータ回転数

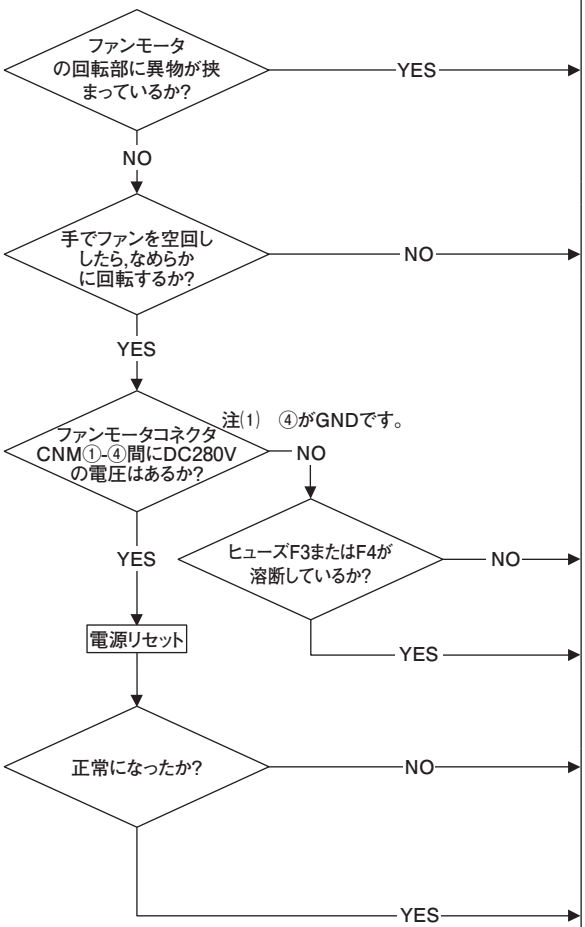
3. 異常発生条件

室内ファンモータの実回転が 30 秒連続して 200min^{-1} 以下になると圧縮機，室内ファンモータを停止します。2 秒遅延後自動復帰しますが 60 分以内に 4 回作動した場合は，異常停止します。

4. 予想原因

・室内電源基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・制御基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5. 故障診断と処置



注記：

表示 リモコン:E16	LED	緑	赤
	室内	連続点滅	1 (2)回点滅
	室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ異常

注(1)（　）内数値は FM2 の場合を示します。

1．対象機種

FDU224，280 形
FDUP905 ～ 2805FLXA

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

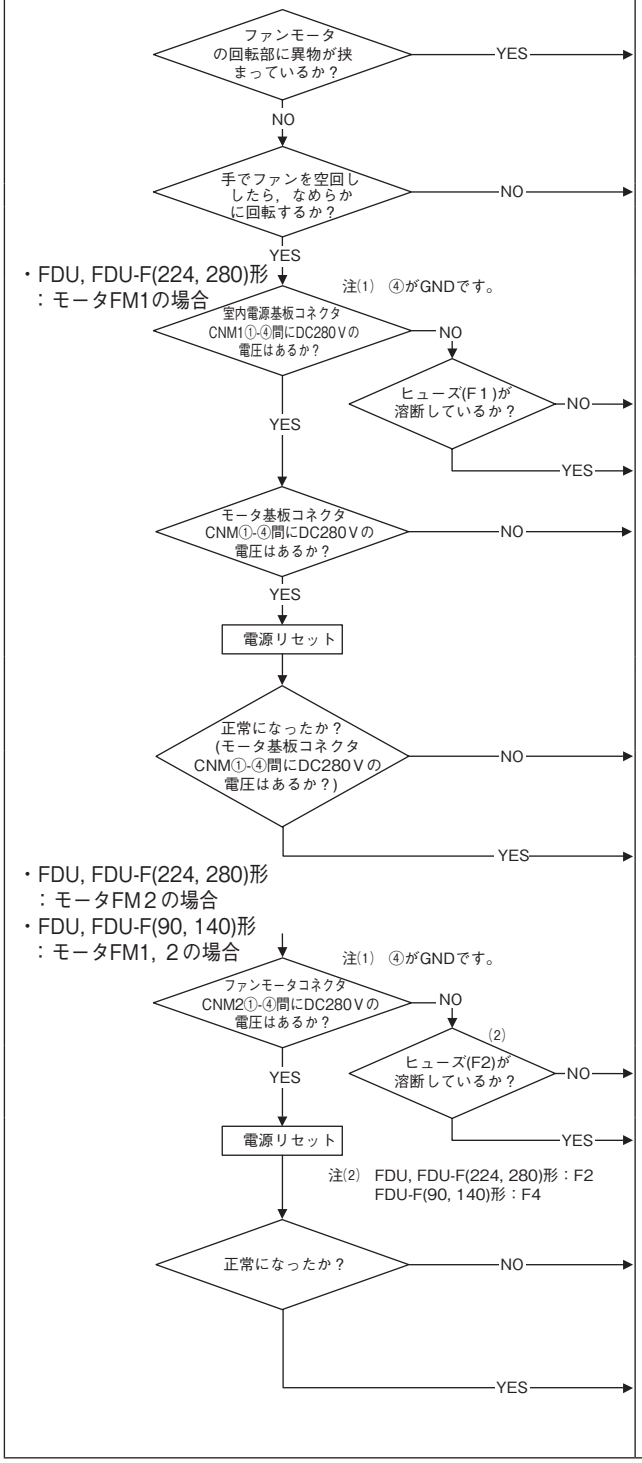
3．異常発生条件

室内ファンモータの実回転が 30 秒連続して 200min^{-1} 以下になると圧縮機，室内ファンモータを停止します。2 秒遅延後自動復帰しますが 60 分以内に 4 回作動した場合。

4．予想原因

・室内電源基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・制御基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ
・室内制御基板不良
・モータ基板不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示
リモコン:E18

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

親子室内アドレス設定不良

1. 対象機種

冷暖フリーマルチシリーズのみ
（分流コントローラを共有し，室内ユニット同士を同一モードで運転する場合）

2. 異常検出方法

(1) 設定した親室内ユニットアドレスが、同一のSL信号線のネットワーク上に存在しない場合。
(2) 子室内ユニットアドレスとして設定したアドレスを親室内ユニットアドレスとして重複して設定した場合。

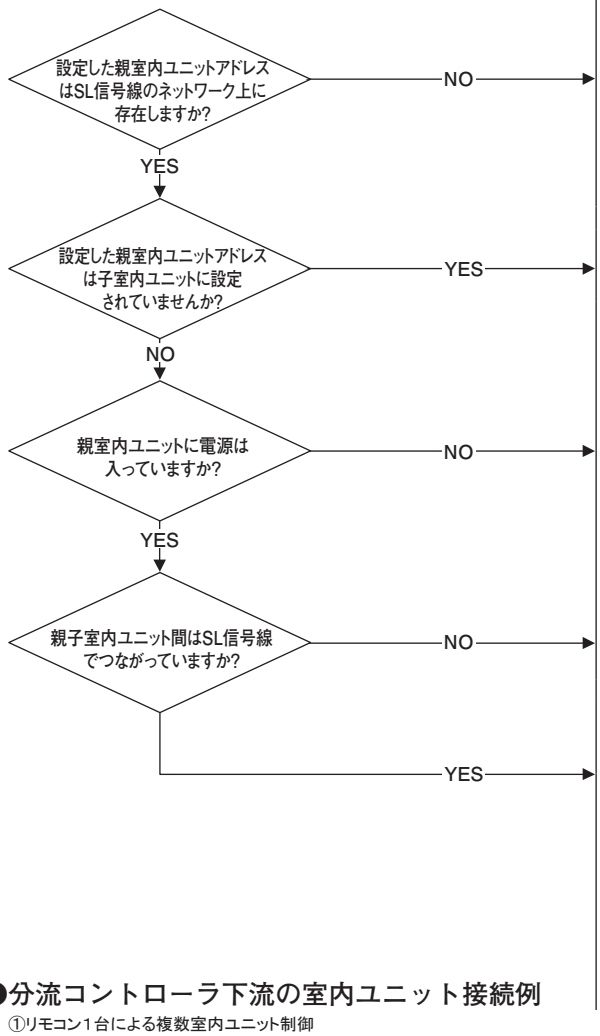
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

- 親室内ユニットアドレスの設定ミス
- 親室内ユニットの電源が入っていない。
- 親子室内ユニット間にSL信号線がつながっていない。
- 子室内ユニットまたは親室内ユニットまたは両方の基板が故障。

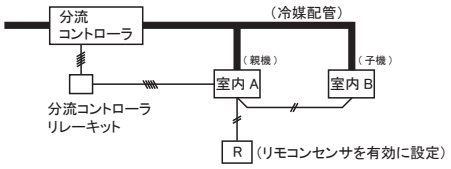
5. 故障診断と処置



●分流コントローラ下流の室内ユニット接続例

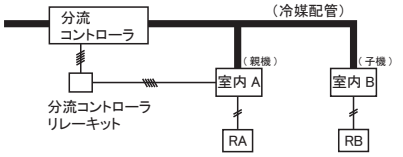
①リモコン1台による複数室内ユニット制御

（1台のリモコンにより全ての室内ユニットの運転 / 停止・冷房 / 暖房モードおよび設定温度等を同一に制御）



②室内ユニット親機および子機それぞれにリモコンを接続

（冷房 / 暖房モードは親機室内ユニットで設定し，冷房 / 暖房モード以外は個別に設定可能）



注記：

表示
リモコン:E18

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

親子室内アドレス設定不良

1. 対象機種

冷暖フリーマルチシリーズ以外

2. 異常検出方法

⑴設定した親室内ユニットアドレスが、同一のSL信号線のネットワーク上に存在しない場合。
⑵子室内ユニットアドレスとして設定したアドレスを親室内ユニットアドレスとして重複して設定した場合。

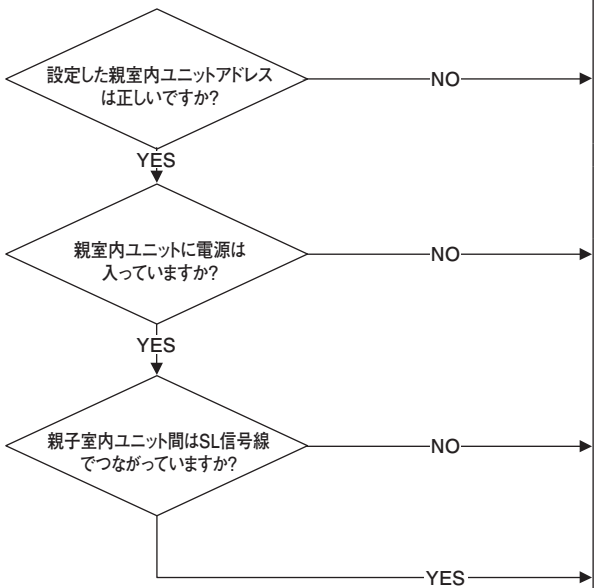
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・親室内ユニットアドレスの設定ミス
・親室内ユニットの電源が入っていない。
・親子室内ユニット間にSL信号線がつながっていない。
・子室内ユニットまたは親室内ユニットまたは両方の制御基板が故障。

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	正しい親室内ユニットアドレスに設定し直してください。 親室内ユニットに電源を入れてください。 SL信号線をつないでください。 室内制御基板の故障 →基板交換 （先ず最初に子室内ユニットの基板を交換してください。 復旧しなければ、親室内ユニットの基板を交換してください。）

注記：

表示
リモコン:E19

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

運転チェックモード異常

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

E19 発生

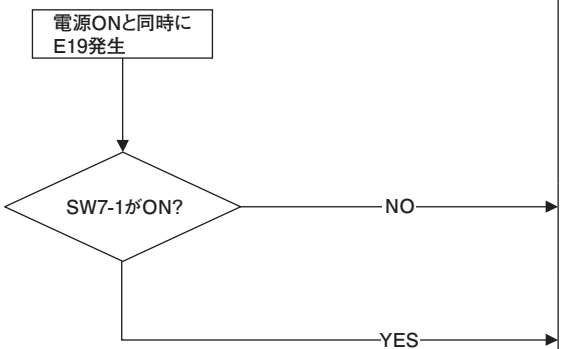
3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

・スイッチSW7-1 設定ミス
（スイッチSW7-1の戻し忘れ）
・室内ユニット基板不良
（スイッチ SW7-1 不良）

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
	

注記：

表示 リモコン:E20	LED	緑	赤	内容	室内ファンモータ回転数異常
	室内	連続点滅	1回点滅		
	室外	連続点滅	消灯		

1. 対象機種

FDT, FDTC, FDK シリーズのみ

2. 異常検出方法

室内ファンモータ回転数

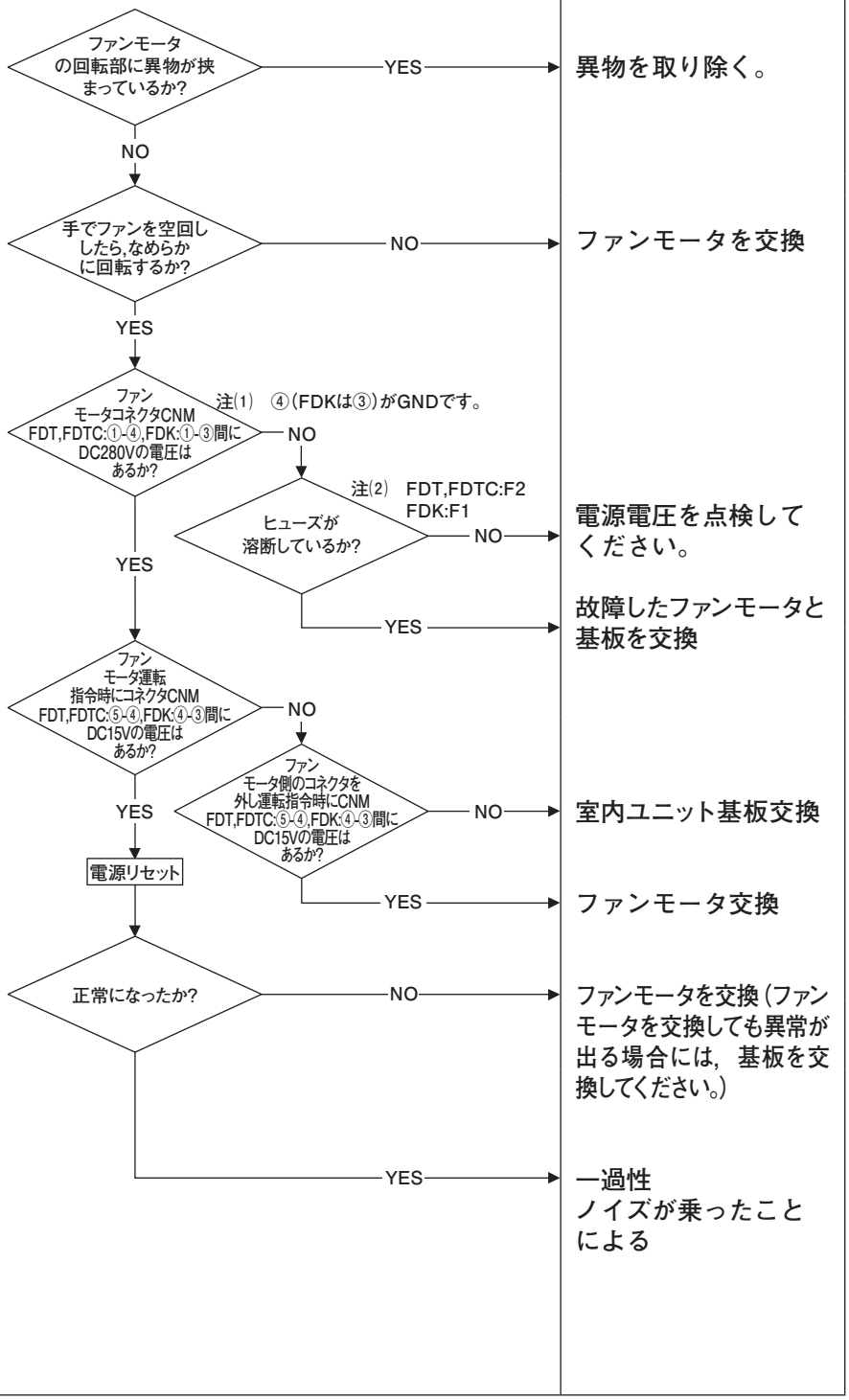
3. 異常発生条件

ファンモータ回転数指令が出力された後，2分経過しても実回転数〔要求回転数−50 min^{-1}〕に達しないときはファンモータ異常を検出し停止します。

4. 予想原因

・室内ユニット基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5. 故障診断と処置



注記：

表示
リモコン:E20

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ回転数異常

1. 対象機種

FDTW, FDTS, FDR, FDE, FDU22 ～ 160 形

2. 異常検出方法

室内ファンモータ回転数

3. 異常発生条件

ファンモータ回転数指令が出力された後，2分経過しても実回転数〔要求回転数 -50 min^{-1} (FDU：500min^{-1})〕に達しないときはファンモータ異常を検出し停止します。

4. 予想原因

・室内電源基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・制御基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
ファンモータの回転部に異物が挟まっているか? YES	異物を取り除く。
手でファンを空回ししたら,なめらかに回転するか? NO	ファンモータを交換
ファンモータコネクタCNM①-④間にDC280Vの電圧はあるか? 注(1) ④がGNDです。 NO	
ヒューズF3またはF4が溶断しているか? NO	電源電圧を点検してください。
YES 電源リセット	
YES	故障したファンモータと電源基板を交換
正常になったか? NO	ファンモータを交換(ファンモータを交換しても異常が出る場合には，制御基板を交換してください。)
YES	一過性ノイズが乗ったことによる

注記：

表示
リモコン:E20

LED	緑	赤
室内	連続点滅	1 (2)回点滅
室外	連続点滅	消灯

内容

室内ファンモータ回転数異常

注(1)（　）内数値は FM2 の場合を示します。

1．対象機種

FDU224，280 形
FDUP905 ～ 2805FLXA

2．異常検出方法

室内ファンモータ回転数

3．異常発生条件

室内ファンモータ回転指令が出力された後２分経過しても実回転数が要求回転数 500min^{-1}〔FDU-F(90～280)形：-50min^{-1}〕に達しないときは，ファンモータ回転異常を検出し停止します。

4．予想原因

・室内電源基板不良
・ファンモータの回転部の異物
・ファンモータ不良
・制御基板の塵埃
・ヒューズ溶断
・外来ノイズ，サージ
・室内制御基板不良
・モータ基板不良

5．故障診断と処置

診　断	処　置
ファンモータの回転部に異物が挟まっているか？ YES	異物を取り除く。
手でファンを空回ししたら，なめらかに回転するか？ NO	ファンモータを交換
・FDU, FDU-F(224, 280)形：モータFM1の場合　注(1)　④がGNDです。 室内電源基板コネクタ CNM1①-④間にDC280Vの電圧はあるか？ NO	
ヒューズ(F1)が溶断しているか？ NO	電源電圧を点検してください。
YES	故障したファンモータと室内電源基板を交換
モータ基板コネクタ CNM①-④間にDC280Vの電圧はあるか？ NO	室内電源基板とモータ基板間のハーネスを交換
YES 電源リセット	
正常になったか？(モータ基板コネクタ CNM①-④間にDC280Vの電圧はあるか？) NO	ファンモータを交換（ファンモータを交換しても異常が出る場合には，室内制御基板およびモータ基板を交換してください。）
YES	一過性（ノイズが乗ったことによる。）
・FDU, FDU-F(224, 280)形：モータFM2の場合 ・FDU, FDU-F(90, 140)形：モータFM1，2の場合　注(1)　④がGNDです。 ファンモータコネクタ CNM2①-④間にDC280Vの電圧はあるか？ NO	
(2) ヒューズ(F2)が溶断しているか？ NO	電源電圧を点検してください。
YES	故障したファンモータと室内電源基板を交換
電源リセット 注(2)　FDU, FDU-F(224, 280)形：F2 FDU-F(90, 140)形：F4	
正常になったか？ NO	ファンモータを交換（ファンモータを交換しても異常が出る場合には，室内制御基板を交換してください。）
YES	一過性（ノイズが乗ったことによる。）

注記：

表示	LED	緑	赤	内容	ラクリーナパネル収納不良 ・パネルスイッチ動作不良
リモコン: E21	室内	連続点滅	消灯		
	室外	連続点滅	消灯		

1. 対象機種

FDTシリーズのみ

2. 異常検出

1秒以上パネルスイッチ(PS)が開を検知

3. 異常発生条件

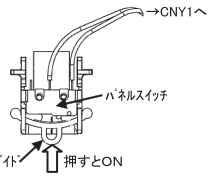
同上

4. 予想原因

・パネルスイッチ(PS)不良
・配線断線
・基板不良

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
＜ﾗｸﾘｰﾅﾊﾟﾈﾙの場合＞ ｸﾞﾘﾙが下がった状態か？ YES	ｴﾗｰ解除・ｸﾞﾘﾙ閉操作をする。
NO ｴﾗｰを解除した上で、ﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁを強制的にON状態として、改善するか。 YES	ｸﾞﾘﾙ内面でのﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁの押込み量不足 →ｸﾞﾘﾙ内側のﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁの当たる部分に厚さ3mmのｺﾞﾑｼｰﾄを貼付けて，ｸﾞﾘﾙ閉操作をする。
NO 基板上の右記コネクタは差込み正常か。 NO	コネクタの外れ、差込み不足 →きちんと差込み直す。
YES ﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁの動作ﾁｪｯｸにより、ﾊﾟﾈﾙ基板上のCNY1の1-2間は導通するか。 NO	ﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁまたはﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁ配線不良→ﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁ交換
YES ﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁの動作ﾁｪｯｸにより、ﾊﾟﾈﾙ基板上のCNV3の1-4間は導通するか。 NO	ﾊﾟﾈﾙ基板不良→ﾊﾟﾈﾙ基板交換
YES ﾊﾟﾈﾙｽｲｯﾁの動作ﾁｪｯｸにより、室内制御基板上のCNVの1-4間は導通するか。 NO	ﾊﾟﾈﾙ基板(CNV3)－室内ユニット基板(CNV)間の配線断線。 →配線の修復または交換
YES	室内ユニット基板不良 →室内ユニット基板交換
＜標準ﾊﾟﾈﾙの場合＞ 基板上のｺﾈｸﾀCNVにｼｮｰﾄｺﾈｸﾀがきちんと差込まれているか。 NO	CNVの外れ、差込み不足 →きちんと差込み直す。
YES CNVのｼｮｰﾄｺﾈｸﾀの導通はよいか。 NO	配線断線→断線の修正
YES	室内ユニット基板不良 →室内ユニット基板交換



注記：お掃除パネル装着時のみ，パネルの表示部で緑のLEDが4回点滅します。

表示
リモコン:E28

LED	緑	赤
室内	連続点滅	消灯
室外	連続点滅	消灯

内容

リモコン温度センサ断線

1. 対象機種

全機種

2. 異常検出方法

リモコン温度センサ (Thc) の異常低温 (抵抗) を検知

3. 異常発生条件

温度センサが-50℃以下を連続 5 秒間検知した場合は圧縮機を停止します。3 分遅延後に圧縮機を再起動させ，1 回目の検知から 60 分以内に再検知した場合。

4. 予想原因

・リモコン温度センサ接続不良
・リモコン温度センサ不良
・リモコン基板不良

5. 故障診断と処置

診　断	処　置
リモコン温度センサの接続はよいか? NO	修正
リモコン温度センサの特性は良いか 断線は無いか? NO	リモコン温度センサ不良→交換
YES	リモコン基板不良→交換 (リモコン温度センサ入力回路不良)

リモコン温度センサ抵抗温度特性（Thc）

温度 (℃)	抵抗値 (k Ω)	温度 (℃)	抵抗値 (k Ω)	温度 (℃)	抵抗値 (k Ω)	温度 (℃)	抵抗値 (k Ω)
0	65	14	33	30	16	46	8.5
1	62	16	30	32	15	48	7.8
2	59	18	27	34	14	50	7.3
4	53	20	25	36	13	52	6.7
6	48	22	23	38	12	54	6.3
8	44	24	21	40	11	56	5.8
10	40	26	19	42	9.9	58	5.4
12	36	28	18	44	9.2	60	5.0

注記：リモコンセンサ無効→有効切り替えの 10 秒間以降は，断線しても E28 は表示しません。同時に使用するセンサをリモコン→室内吸込温度センサに変更します。リモコンセンサを有効にしても点検表示の吸込温度表示は室内吸込温度センサの値となります。

表示 リモコン:E63 7セグメント:E63	LED	緑	赤	内容
	室内	連続点滅	消灯	緊急停止
	室外	連続点滅	1回点滅	

1. 対象機種

室内ユニット

2. 異常検出方法

室内ユニット基板CnT端子への接点入力

3. 異常発生条件

同上

4. 予想原因

緊急停止要因の発生

5. 故障診断と処置

診 断	処 置
停止 30 分前データをメンテ PC に保存する。	運転状態の確認，記録 運転中か電源投入時かを確認する。
リモコンに緊急停止「有効」となってないか？ NO	リモコン基板交換
YES	
室内基板 CnT に接点信号が入っているか NO	室内制御基板交換
YES	緊急停止発生原因を調査する （設備業者と打合せする時，停止30分前のデータがあるほうがよい。）

注記：緊急停止を検知した室内ユニットが指令し，全停止となる。

11.3 室内ユニット基板交換要領

(1) FDT, FDTC シリーズ

お願い **ワイヤードリモコン使用機種は制御基板交換後，電源を投入した後に「リモコンによる機能設定」を参照し室内ユニットの機能や用途に合せて設定を行ってください。**

安全上のご注意

- 交換工事は，この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は，安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後，試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は，販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると，感電や火災の原因になります。
- 作業は，この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると，感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後，交換工事をする。（電源を切って1分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は，感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し，端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は，発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後，電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると，感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

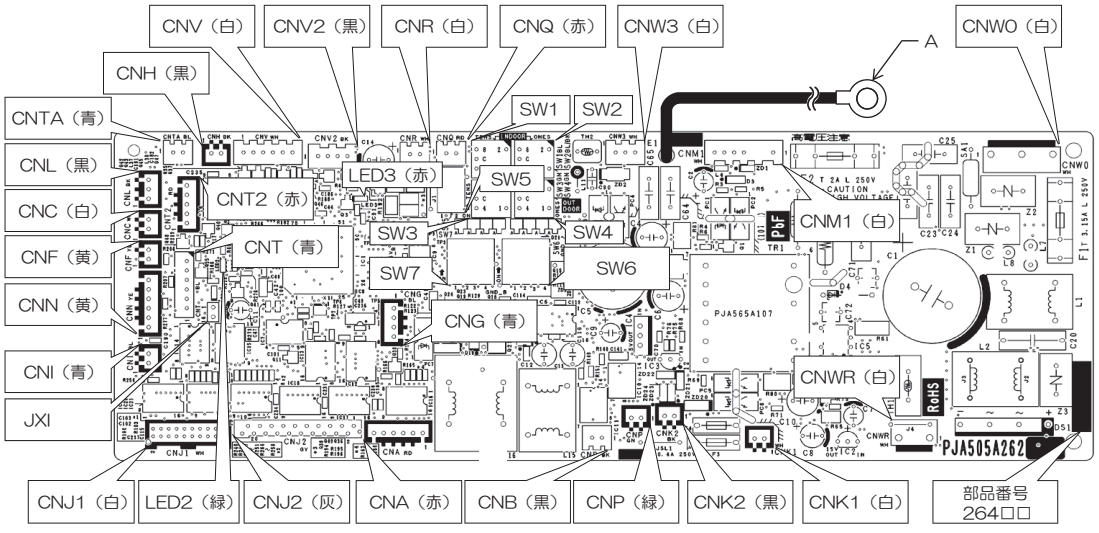
- 基板にコネクタを接続する際は，基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは，確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は，かみ込んだり，つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

本品は、共通基板です。本要領書にて設定を行って基板交換してください。

1）基板を交換してください。

① 基板に接続されているE1配線(黄／緑)のねじ止め部のねじ(矢視Ａ)を外してください。
② 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
③ 基板は，配線類をかみ込まないように固定してください。
④ スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
⑤ 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
⑥ ①項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください(矢視Ａ)。

2）基板
基板の種類により部品実装が異なります。



PSC012D050B△

■制御切換えスイッチ（交換する基板と設定を同一にしてください。）

1）アドレス設定・仕様切換えスイッチ設定をしてください。
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容	
アドレス	SW1,2（青）	室内アドレス　00～99	
	SW5-2	OFF	室内アドレス　100未満
		ON	室内アドレス　100以上
	SW3,4（緑）	室外アドレス	

項目	スイッチ	制御内容	
新旧	SW5-1	OFF	新旧SL通信自動判定
		ON	旧SL通信に固定
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

2）容量設定

(a) FDTシリーズの場合

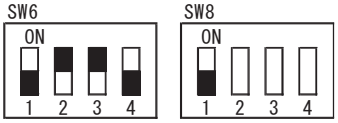
容量切換えスイッチ(SW6, 8)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

機種設定	SW6 -1	SW6 -2	SW6 -3	SW6 -4	SW8 -1
P28	○	－	－	－	－
P36	－	○	－	－	－
P45	－	－	○	－	－

機種設定	SW6 -1	SW6 -2	SW6 -3	SW6 -4	SW8 -1
P56	－	○	○	－	－
P71	－	－	－	○	－
P80	○	－	－	○	－
P90	－	○	－	○	－

機種設定	SW6 -1	SW6 -2	SW6 -3	SW6 -4	SW8 -1
P112	○	○	－	○	－
P140	－	－	○	○	－
P160	○	－	○	○	－

○：ON　　－：OFF



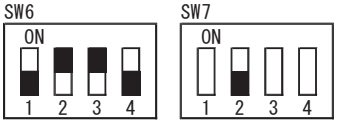
（P56の場合）

(b) FDTCシリーズの場合

容量切換えスイッチ(SW6, 7)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

機種設定	SW6 -1	SW6 -2	SW6 -3	SW6 -4	SW7 -2
P22	－	－	－	－	－
P28	○	－	－	－	－
P36	－	○	－	－	－
P45	－	－	○	－	－
P56	－	○	○	－	－

○：ON　　－：OFF



（P56の場合）

(2) FDTW・FDTS・FDR・FDU・FDE シリーズ（FDUP224, P280 は除く）

(a) 制御基板

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（高電圧のため電源切断後１分間は作業をしないこと。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

- マイコン基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパが掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

本要領書にて設定を行って基板交換してください。

①アドレス設定・仕様切換えスイッチ設定をしてください。
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容	
アドレス	SW1,2（青）	室内アドレス　00～99	
	SW5-2	OFF	室内アドレス　100未満
		ON	室内アドレス　100以上
	SW3,4（緑）	室外アドレス	

項目	スイッチ	制御内容	
新旧	SW5-1	OFF	新旧SL通信自動判定
		ON	旧SL通信に固定
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

②容量切換えスイッチ(SW6,8)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

機種設定	SW6 -1	-2	-3	-4	SW8 -1
P15	－	－	－	－	○
P22	－	－	－	－	－
P28	○	－	－	－	－
P36	－	○	－	－	－
P45	－	－	○	－	－

機種設定	SW6 -1	-2	-3	-4	SW8 -1
P56	－	○	○	－	－
P71	－	－	－	○	－
P80	○	－	－	○	－
P90	－	○	－	○	－

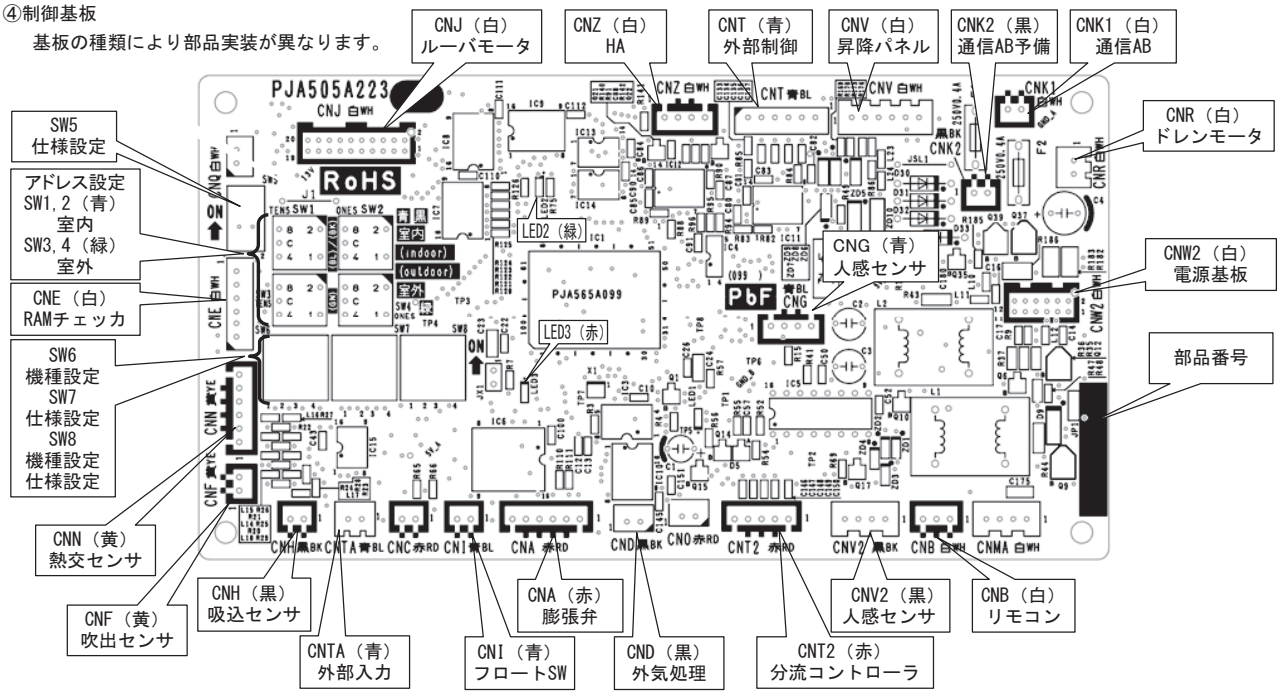
機種設定	SW6 -1	-2	-3	-4	SW8 -1
P112	○	○	－	○	－
P140	－	－	○	○	－
P160	○	－	○	○	－
P224	－	○	○	○	－
P280	○	○	○	○	－



（P56の場合）

③基板を交換してください。
i) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取り外した後、基板を交換してください。
ii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
iii) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

④制御基板
基板の種類により部品実装が異なります。



PSB012D991C

(b) **電源基板**

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

1） FDTS, FDE

a) 基板を交換してください。

i) 端子台（CNW0）に接続されている配線(黄／緑)のBOXねじ止め部のねじを外してください。

ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。

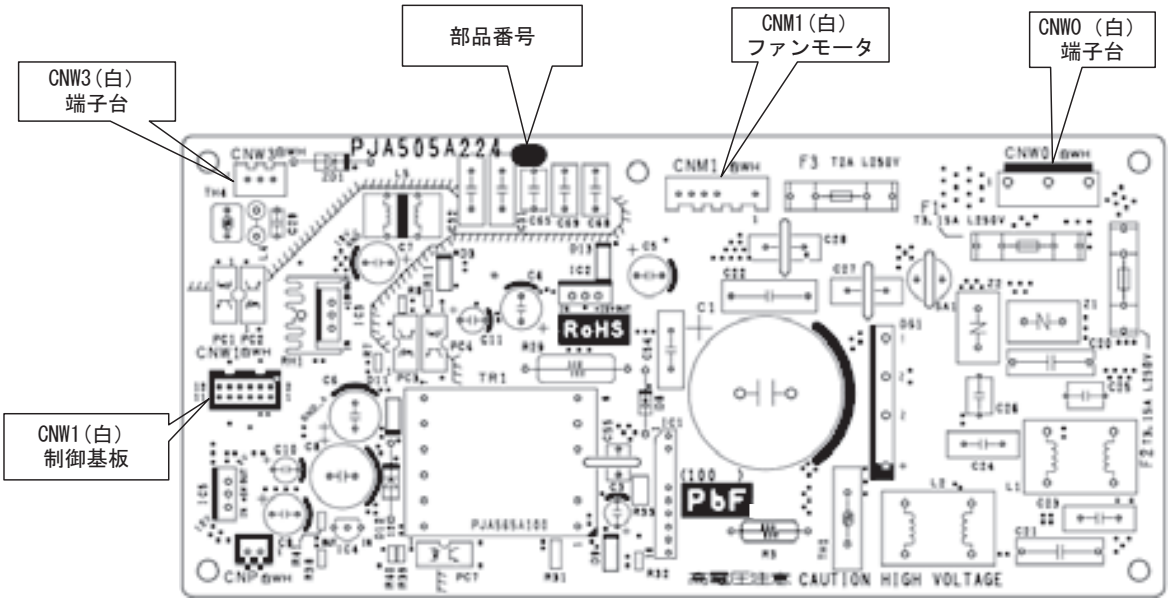
iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

v) i) で外した配線を元の場所にねじ止めしてください。

b) 電源基板

基板の種類により部品実装が異なります。



PSB012D992

2) FDTW・FDRP22～P56

a) 基板を交換してください。

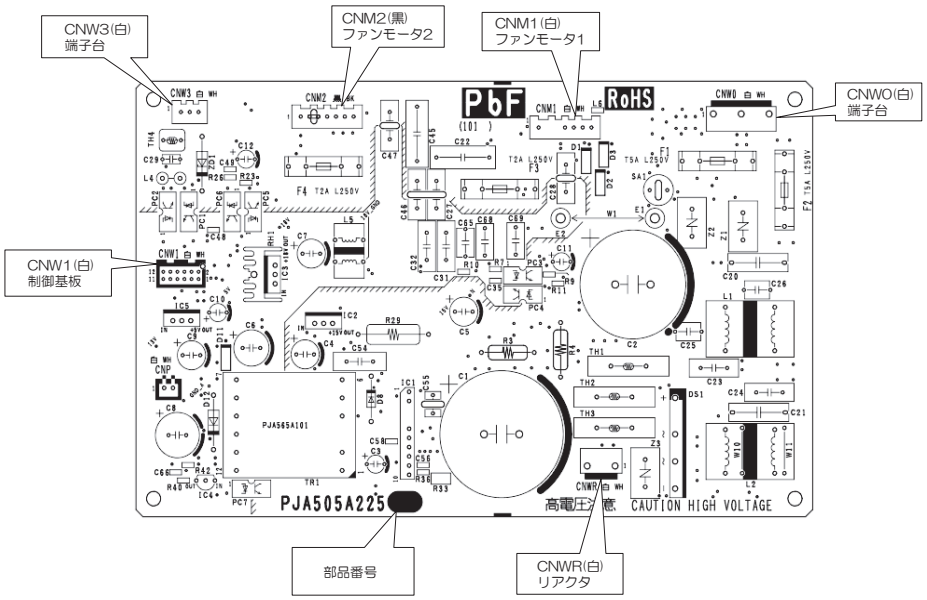
ⅰ) 端子台（CNWO）に接続されている配線(黄／緑)のBOXねじ止め部のねじを外してください。

ⅱ) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。

ⅲ) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

ⅳ) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

ⅴ) ⅰ) 項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください。



PSB012D993

3) FDRP71～P140, FDUP22～P160

a) 基板を交換してください。

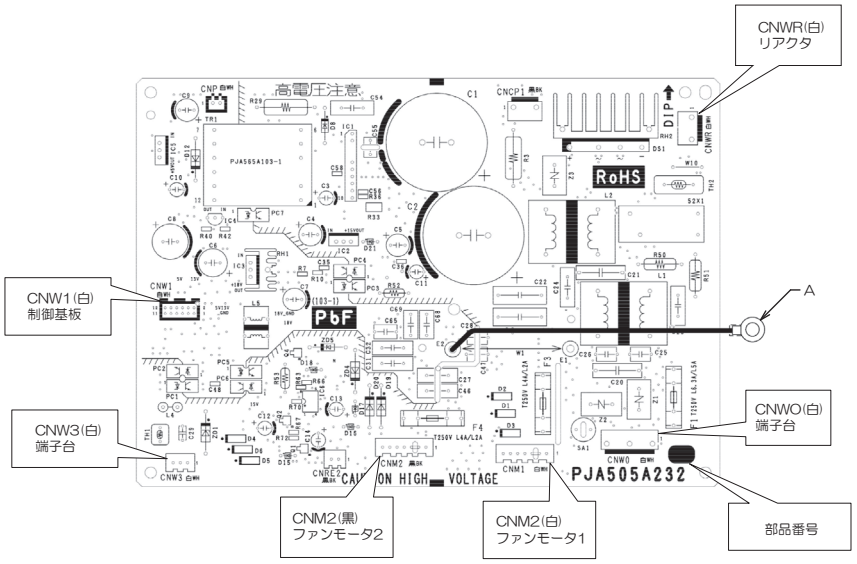
ⅰ) 基板に接続されているE2配線(黄／緑)のねじ止め部のねじ(矢視A)を外してください。

ⅱ) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。

ⅲ) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

ⅳ) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

ⅴ) ⅰ) 項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください(矢視A)。



PSC012D021 B

(3) FDK シリーズ

(a) FDKP285，365，455，565LXA

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警　告

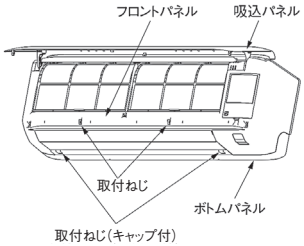
- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

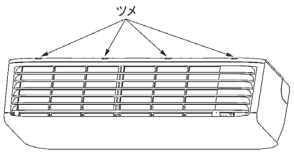
⚠ 注　意

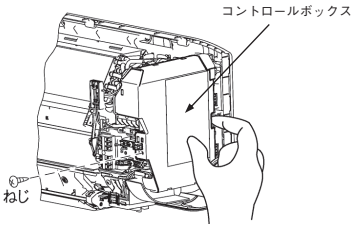
- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

下記の要領で基板交換を行ってください。

①吸込パネルを取外してください。
②ボトムパネルの取付ねじ（キャップ付）を外してください。
③ボトムパネルの両側にあるツメ（２か所）を外し、ボトムパネルを取外してください。
④取付ねじを外してください。（２か所）
⑤上部のツメ（４か所）を外し、フロントパネルを取外してください。
⑥ねじを外し、コントロールボックスのふたを取外してください。

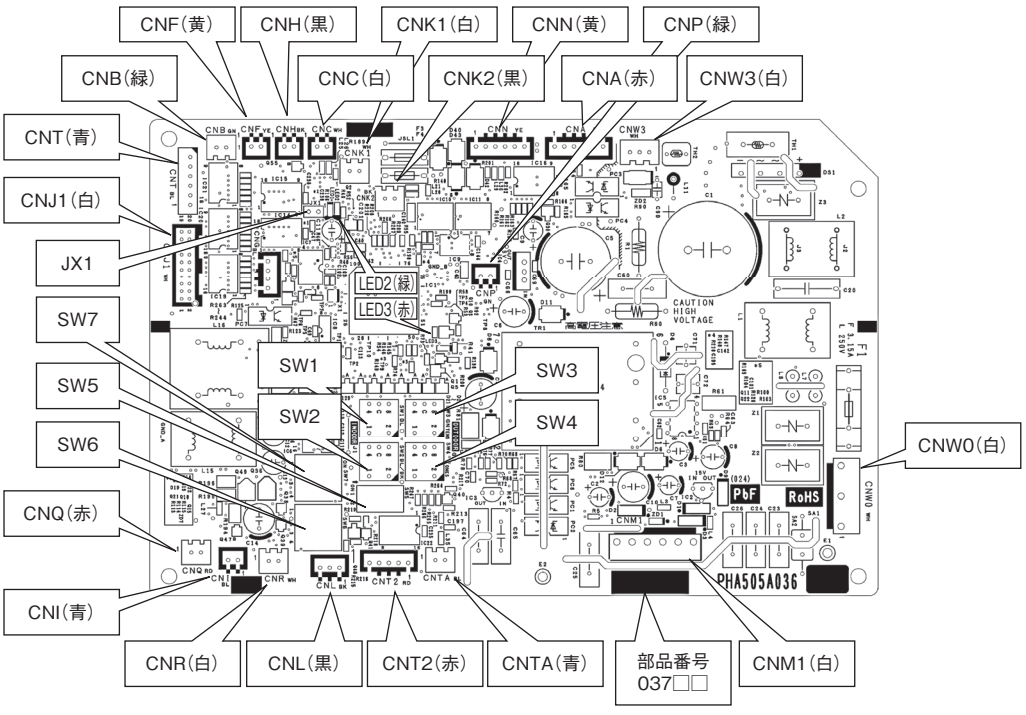






⑦基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
⑧基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
⑨スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
⑩基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

※基板の種類により部品実装が異なります。



PHA012D050AA

(b) FDKP715LXA

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

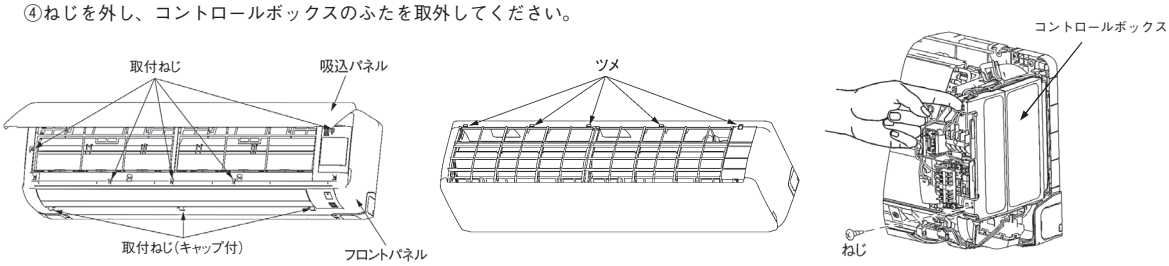
- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

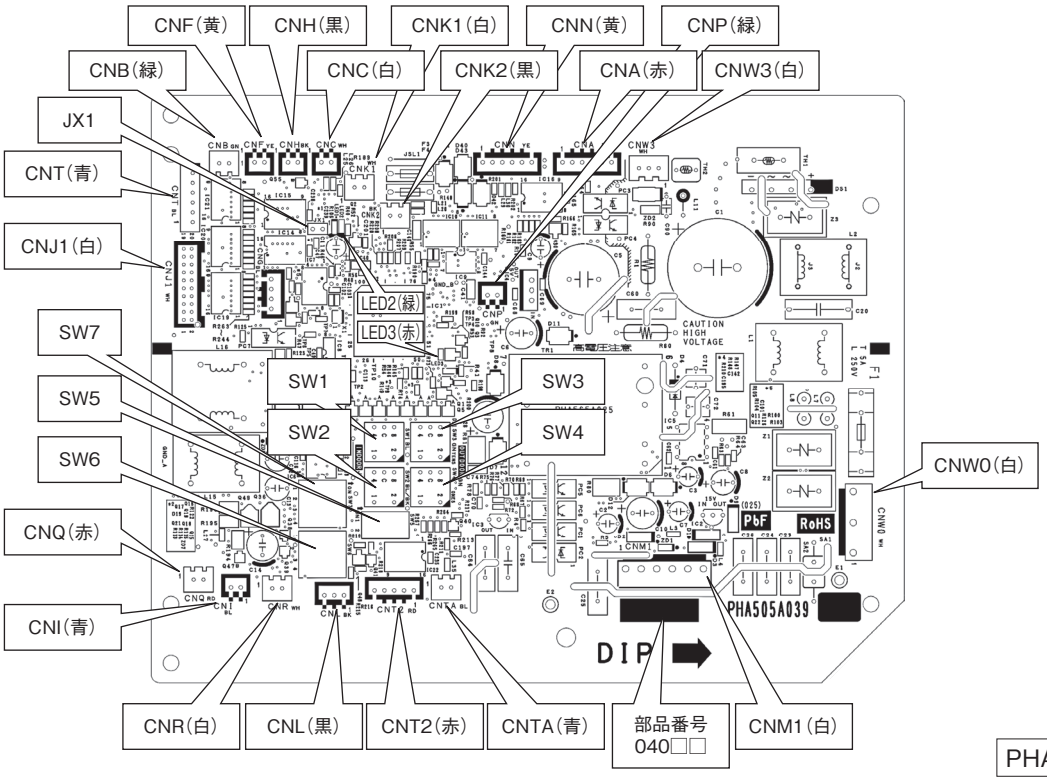
下記の要領で基板交換を行ってください。

①吸込パネルを取外してください。
②取付ねじを外してください。（５か所）
③上部のツメ（５か所）を外し、フロントパネルを取外してください。
④ねじを外し、コントロールボックスのふたを取外してください。



⑤基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
⑥基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
⑦スイッチ設定は、交換する基板と同一設定としてください。
⑧基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

※基板の種類により部品実装が異なります。



PHA012D051AA

■制御切換えスイッチ（交換する基板と設定を同一にしてください。）

・SW1～4（機能切換え）

	内　容
SW1	室内アドレス（10位）
SW2	室内アドレス（1位）
SW3	室外アドレス（10位）
SW4	室外アドレス（1位）

・SW6（機種切換え）

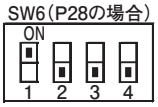
スイッチ ＼ 機種	P28	P36	P45	P56	P71
SW6-1	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
SW6-2	OFF	ON	OFF	ON	OFF
SW6-3	OFF	OFF	ON	ON	OFF
SW6-4	OFF	OFF	OFF	OFF	ON

・SW5,7（機能切換え）

スイッチ		内　容
SW5-1	ON	旧SL通信に固定
	OFF	新SL通信自動判定(★)
SW5-2	ON	室内アドレス 100以上
	OFF	室内アドレス 100未満(★)
SW7-1	ON	運転チェック/ドレンポンプ運試運転有効
	OFF	運転チェック/ドレンポンプ運試運転無効(★)

注（1）★は出荷時設定を示します。

SW6（P28の場合）



(4) FDAS シリーズ

安全上のご注意

- 工事は，この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は､安全に関する重要な内容を記載していますので､必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後，試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 作業は，販売店または専門業者にて実施してください。
- この作業要領書に従って確実に行ってください。　作業に不備があると，感電や火災の原因になります。
- 基板交換時は，必ず電源が切れていることを確認してから行ってください。
  通電状態での基板交換は，感電の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 基板交換の作業終了後，電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認してください。
  交換作業に不備があると，感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

- プリント基板にコネクタを接続する際は，基板が変形しないように接続してください。
- コネクタは，確実に挿入しストッパが掛かったことを確認してください。
- 配線は，つっぱらないように結束してください。感電の原因になることがあります。

① アドレス設定・仕様切換えスイッチおよびジャンパ

交換する基板と同一設定になります。

項目	スイッチ	制御内容	
アドレス	SW1，2(青)	室内アドレス　00～99	
	SW5-2	OFF	室内アドレス　100未満
		ON	室内アドレス　100以上
	SW3，4(緑)	室外アドレス	

項目	スイッチ		制御内容
新旧	SW5-1	OFF	新旧SL通信自動判定
		ON	旧SL通信に固定
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック／ドレンポンプ試運転
床置形設定	SW7-2	OFF	床置ダクト形5・8・10HP設定
		ON	床置ダクト形16・20HP設定

② 容量切換えスイッチ

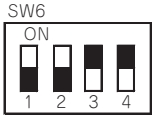
ＳＷ６，７により容量を設定してください。
交換する基板と同一設定になります。
P450，560は，制御基板を2枚搭載しています。
その2枚の制御基板それぞれに容量を設定してください。

床置形設定

機種容量	SW6				SW7
	-1	-2	-3	-4	-2
P140	－	－	○	○	－
P224	－	○	○	○	－
P280	○	○	○	○	－
P450	－	○	○	○	○
P560	○	○	○	○	○

○：ON　－：OFF

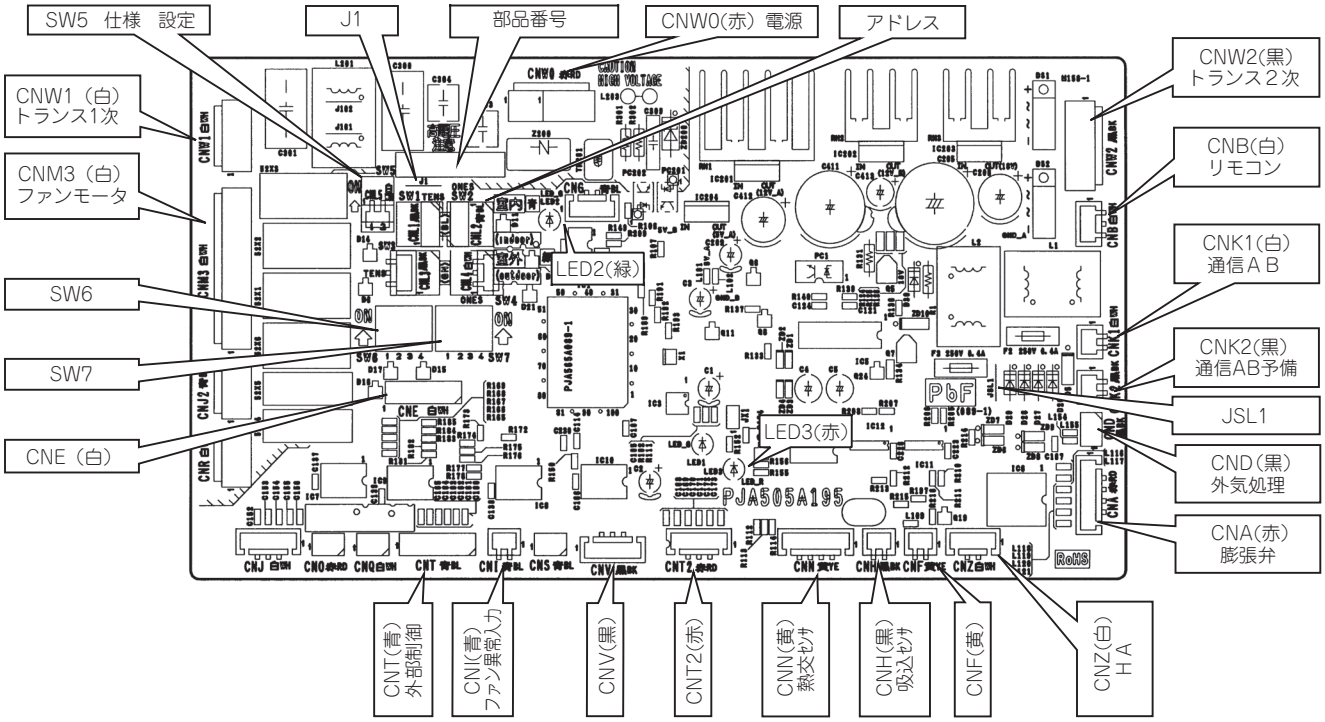
（P140の場合）



③ 基板交換

1) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後，基板を交換してください。
2) 基板は，配線類をかみ込まないように固定してください。
3) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

④ プリント基板



PSB012D975K

(5) FDU（P224，P280），FDU-F シリーズ

(a) 制御基板

FDU，FDU-F 共通

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（高電圧のため電源切断後１分間は作業をしないこと。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注 意

- マイコン基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

本要領書にて設定を行って基板交換してください。

① アドレス設定・仕様切換えスイッチ設定をしてください。
交換する基板と同一設定としてください。

項目	スイッチ	制御内容	
アドレス	SW1,2（青）	室内アドレス　00～99	
	SW5-2	OFF	室内アドレス　100未満
		ON	室内アドレス　100以上
	SW3,4（緑）	室外アドレス	

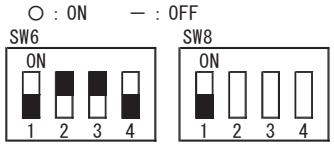
項目	スイッチ	制御内容	
新旧	SW5-1	OFF	新旧SL通信自動判定
		ON	旧SL通信に固定
試運転	SW7-1	OFF	通常運転
		ON	運転チェック/ドレンポンプ試運転

② 容量切換えスイッチ(SW6,8)により容量を設定してください。
交換する基板と同一になります。

機種設定	SW6 −1	−2	−3	−4	SW8 −1
P15	−	−	−	−	○
P22	−	−	−	−	−
P28	○	−	−	−	−
P36	−	○	−	−	−
P45	−	−	○	−	−

機種設定	SW6 −1	−2	−3	−4	SW8 −1
P56	−	○	○	−	−
P71	−	−	−	○	−
P80	○	−	−	○	−
P90	−	○	−	○	−

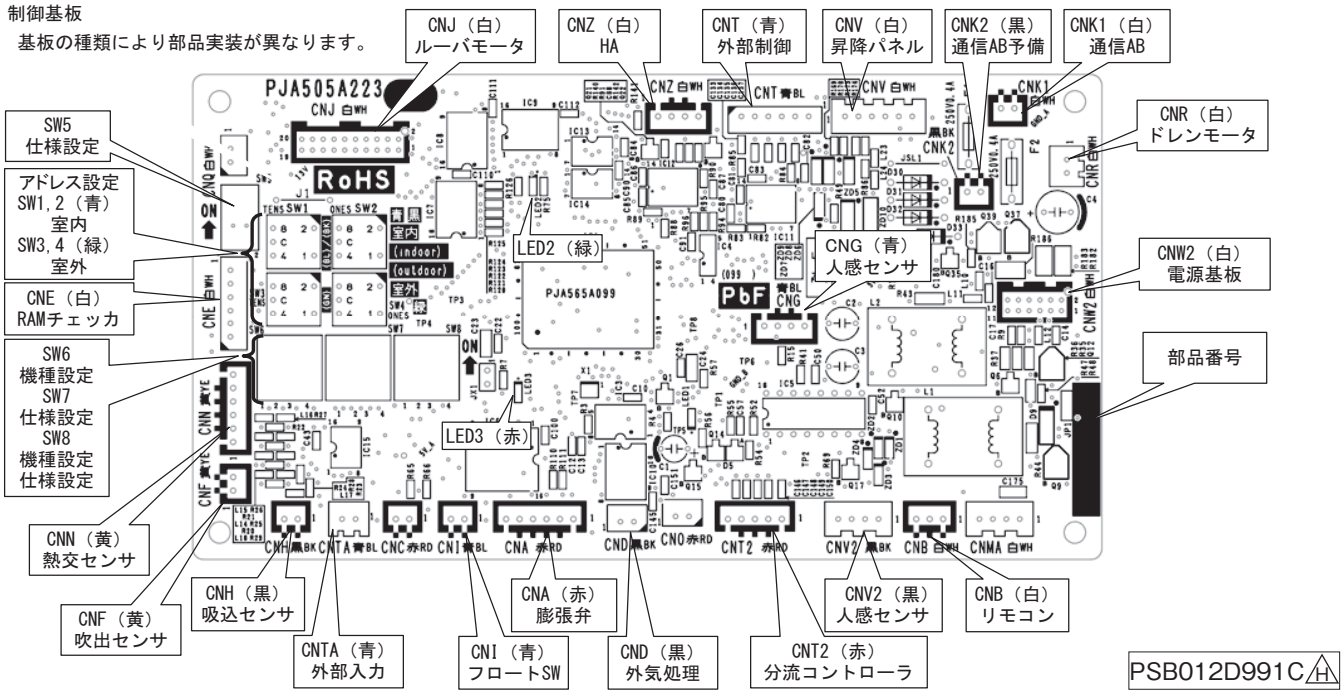
機種設定	SW6 −1	−2	−3	−4	SW8 −1
P112	○	○	−	○	−
P140	−	−	○	○	−
P160	○	−	○	○	−
P224	−	○	○	○	−
P280	○	○	○	○	−



（P56の場合）

③ 基板を交換してください。
i) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
ii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
iii) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
iv) 各スイッチの設定は交換前の基板に合わせてください。

④ 制御基板
基板の種類により部品実装が異なります。



(b) 電源基板

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警 告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

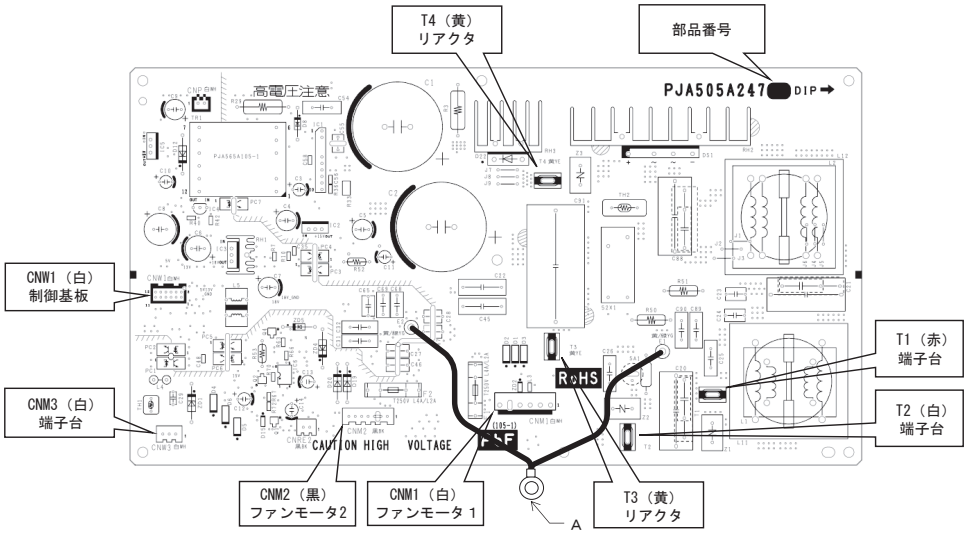
⚠ 注 意

- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

(i) FDU, FDU-F（P224, P280）形

1) 基板を交換してください。
   i) 基板に接続されているE1, E2配線（黄／緑）のねじ止め部のねじ（矢視Ａ）を外してください。
   ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。
   iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。
   iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。
   v) i)で外した配線を元の場所にねじ止めしてください（矢視Ａ）。

2) 電源基板部品配置図



PSC012D035

(ii) FDU-F (P90, P140) 形

1) 基板を交換してください。

i) 基板に接続されているE2配線(黄／緑)のねじ止め部のねじ(矢視Ａ)を外してください。

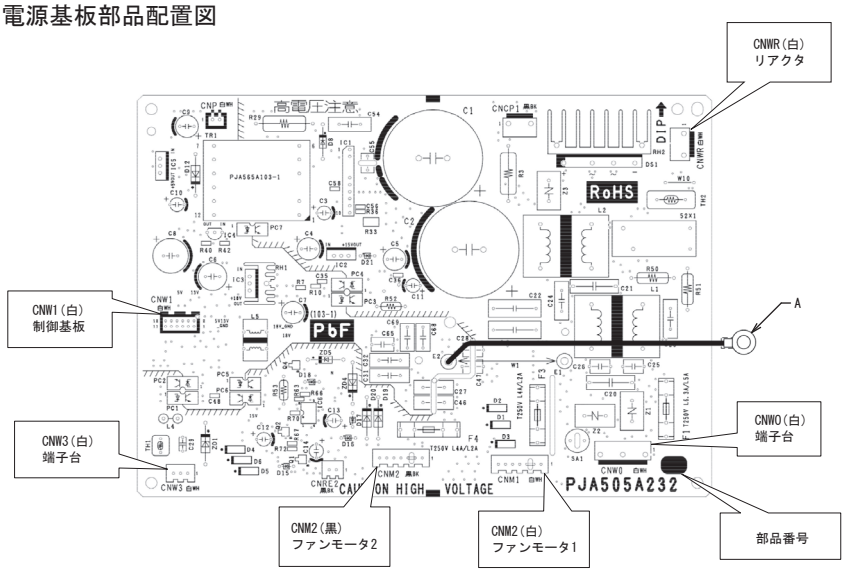
ii) 基板にコネクタ接続されている配線を全て取外した後、基板を交換してください。

iii) 基板は、配線類をかみ込まないように固定してください。

iv) 基板へコネクタ接続してください。基板上のコネクタ色と配線コネクタ色を合わせて接続してください。

v) i)項で外した配線を元の場所にねじ止めしてください(矢視Ａ)。

2) 電源基板部品配置図



PSC012D021 B

(c) モータ基板

FDU，FDU-F（224，280）形のみ

安全上のご注意

- 交換工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行なってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
  表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	誤った作業を行った時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠ 注意	誤った作業を行った時に、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- 基板交換完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。

⚠ 警　告

- 交換作業は、販売店または専門業者に依頼する。
  ご自分で作業をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 作業は、この交換要領書に従って確実に行う。
  作業に不備があると、感電や火災の原因になります。
- 元電源を切った後、交換工事をする。（電源を切って１分以上経過後に実施してください。）
  通電状態での基板交換は、感電・故障・動作不良の原因になります。ファンモータ他の接続機器破壊の原因になります。
- 配線は確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
  接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災の原因になります。
- 基板交換の作業終了後、電源投入前に基板と配線が正しく接続されていることを確認する。
  交換作業に不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠ 注　意

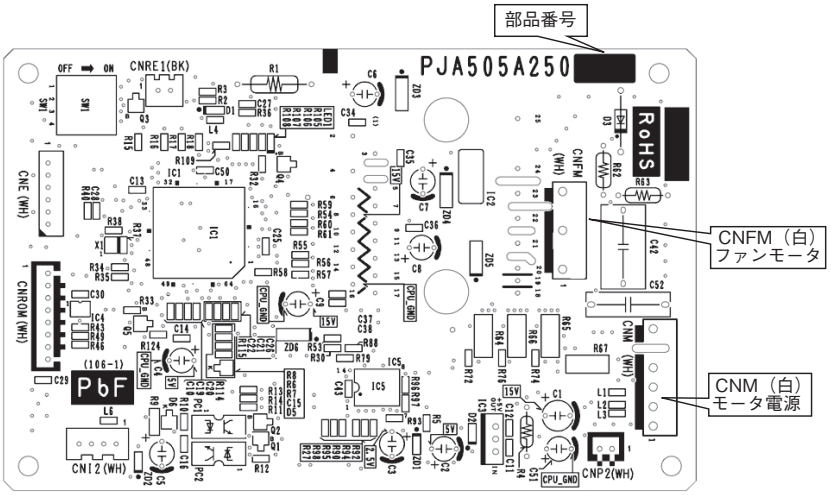
- 基板にコネクタを接続する際は、基板が変形しないように接続する。破損・故障の原因になります。
- コネクタは、確実に挿入しストッパを掛ける。火災・動作不良の原因になります。
- 配線は、かみ込んだり、つっぱらないように結束する。断線・変形して不具合・感電の原因になることがあります。

（ｉ） 基板のコネクタおよびパワトラ取付用のねじを外し、基板を取外してください。外した時、既に塗布されているシリコングリスはコントロールの放熱フィンよりきれいに拭き取ってください。

（ii） 新しい基板のパワトラ表面に、同梱の**シリコングリスを均一に塗布**し、配線類をかみ込まないように基板を取付けてください。塗布しないと**パワトラが破損することがあります。**その時、シリコングリスは使い切ってください。

（iii） 基板のパワトラ取付用のねじを締め、コネクタを接続してください。
接続後に締め忘れ、半挿しがない様確認してください。**特にパワトラは緩みない様に取付ねじで締付けてください。**
締付けないと**パワトラが破損することがあります。**（推奨パワトラ締付トルク：０．５９～０．７８Ｎ・ｍ）

モータ基板部品配置図



PSC012D036

12. 別 売 品

(1) ワイヤレスキット

(a) FDT シリーズ

ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-T-5W，LA-T-5SB）

PJF012D034

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-T-5W, LA-T-5SB

① 受信部		1
② 据付説明書 (本紙)		1

ワイヤレスリモコン (別売品)
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

現地設定

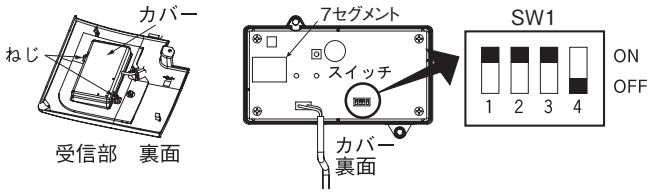
受信部基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [　] で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON : 通常]	OFF : 切換
SW1-2	受信部の親子切換	[ON : 親]	OFF : 子
SW1-3	ブザー音	[ON : 有効]	OFF : 無効
SW1-4	停電補償	ON : 有効	[OFF : 無効]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のねじ(2 本)を外し、カバーを取外してください。
2. カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

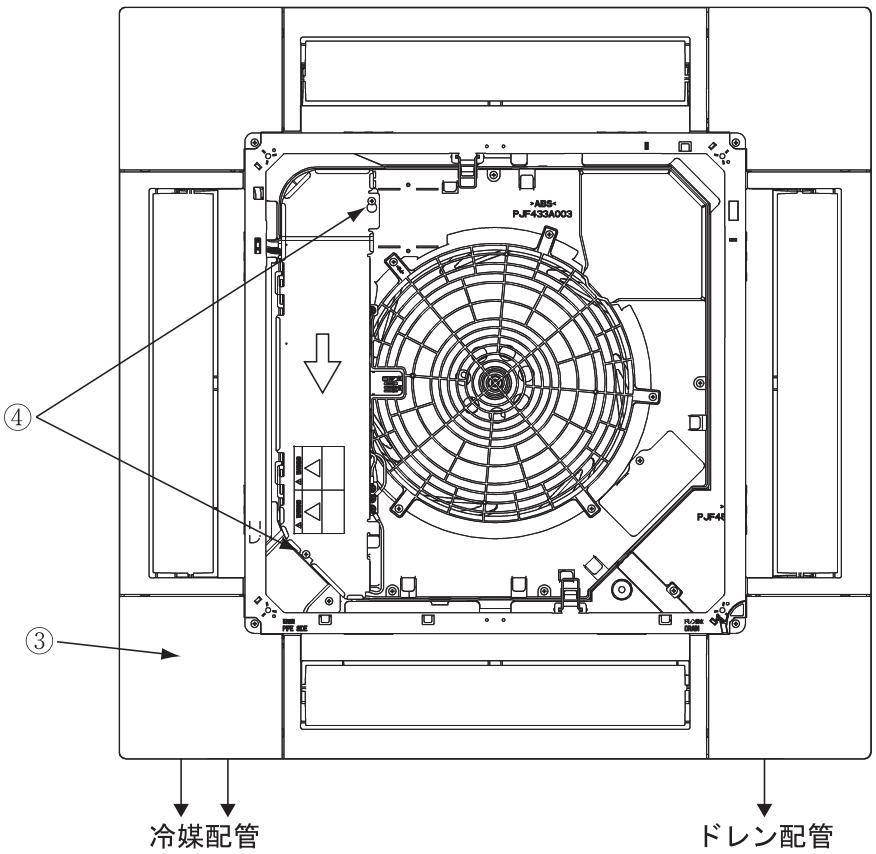
複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

③ 受信部の取付

取付前の準備

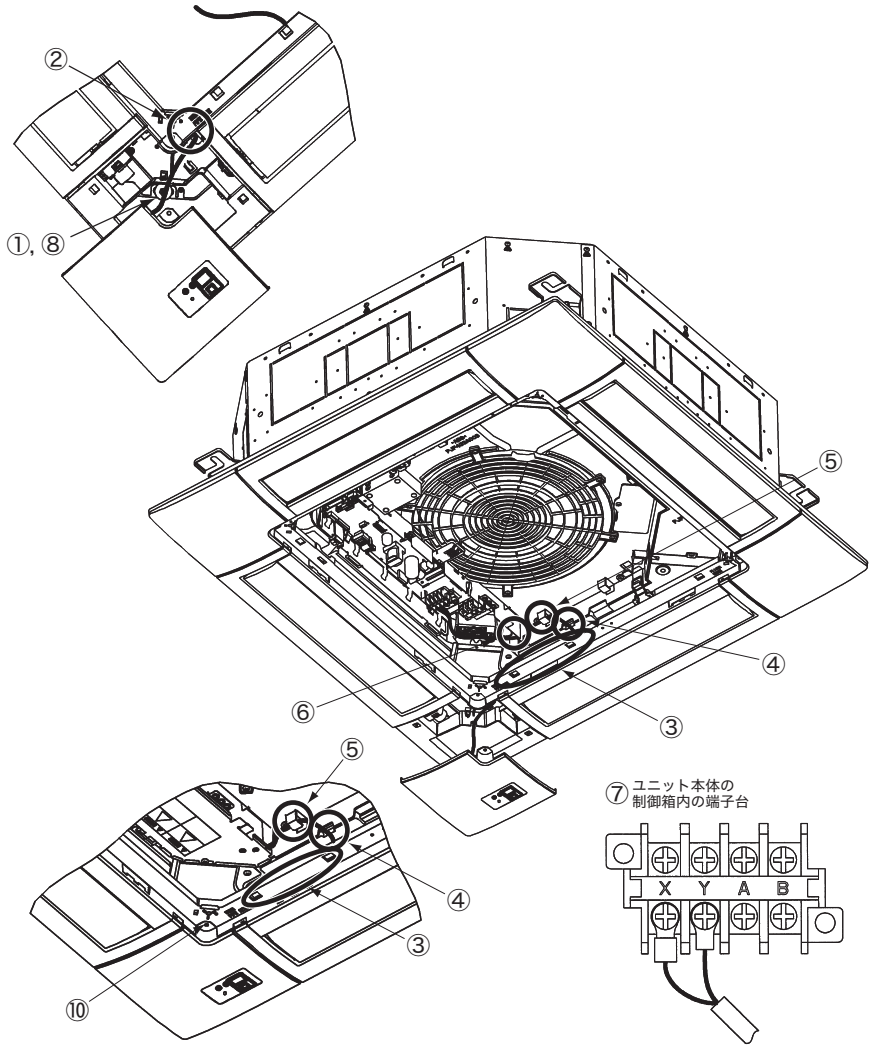
① パネルに付属の据付説明書に従って、パネルをユニット本体に取付けてください。
②吸込グリルを取外してください。
③冷媒配管部のコーナリッドを取外してください。
④ユニット本体の制御箱の蓋のねじ (2本) を緩め、図の矢印方向に蓋をスライドさせて取外してください。



③ 受信部の取付の続き

受信部の取付

① パネル固定用ボルトを緩めて、パネルとユニット本体との隙間を開けてください。
②受信部の配線を開口部に通してください。
③パネルのユニット側にあるフックに配線を引掛けてください。
④図の位置より配線を引出してください。
⑤配線をユニット本体のフックに引掛けてください。
⑥図の位置より配線を制御箱の中に通してください。
⑦配線の丸端子を制御箱内の端子台（X、Y）に接続してください。配線に極性はありません。
⑧パネル固定用ボルトを締付けてください。
⑨受信部をパネルに取付けてください。
⑩パネルに付属のねじで受信部を固定してください。
⑪配線を噛込まないように、ユニット本体の制御箱の蓋を取付け、ねじ (2本) を締付けてください。

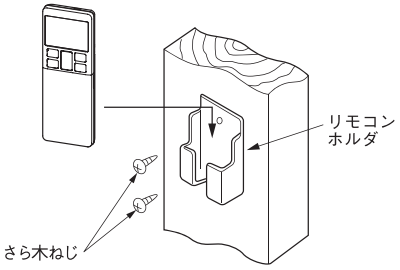


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

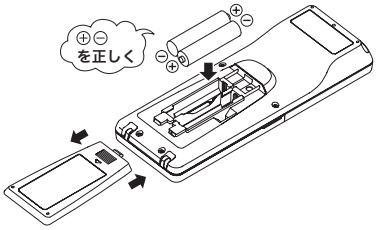
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



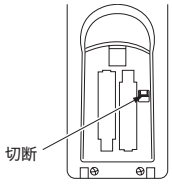
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

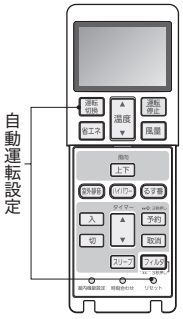
1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

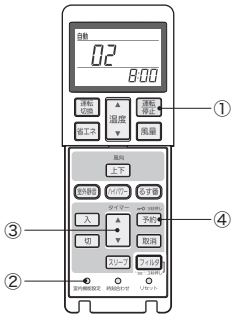
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定1　※
	02	風速設定：設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：+1℃
	02	暖房室温補正：+2℃
	03	暖房室温補正：+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180時間
	02	フィルターサイン表示：600時間
	03	フィルターサイン表示：1000時間
	04	フィルターサイン表示：1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5時間
	02	冷房ファン残留運転：2時間
	03	冷房ファン残留運転：6時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5時間
	02	暖房ファン残留運転：2時間
	03	暖房ファン残留運転：6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は341ページを参照ください。

⑤ 受信部

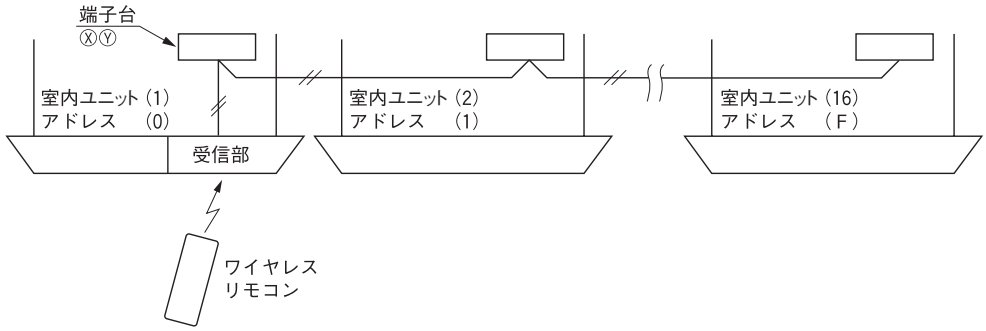
1リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大600m）	
標準	0.3 mm^2 ×100m 以内
	0.5 mm^2 ×200m 以内
	0.75mm^2 ×300m 以内
	1.25mm^2 ×400m 以内
	2.0 mm^2 ×600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

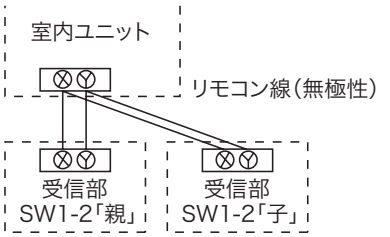


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

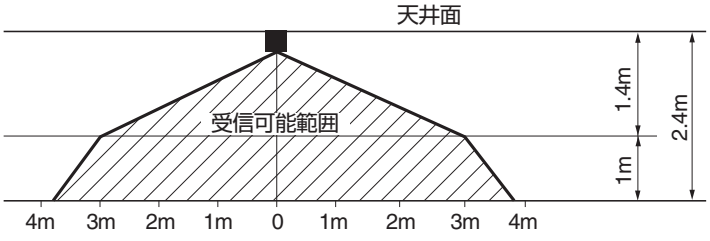
室内ユニット1台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

ワイヤレスリモコンの操作距離

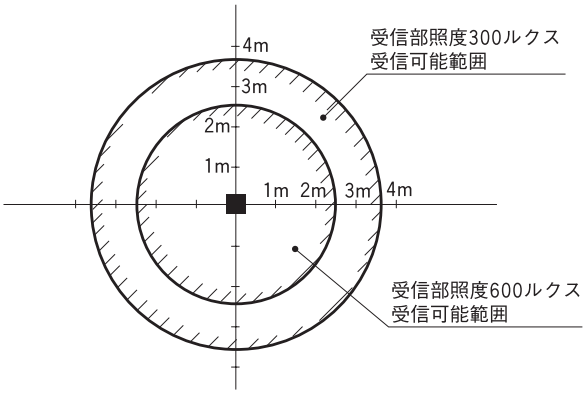
1. 標準的な受信距離
   ［条件］受信部照明度300ルクス
   （一般事務所で受信部周辺1m以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

［条件］天井高さ 2.4m、床面より 1.0m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となる。



3. 複数台近接設置の注意

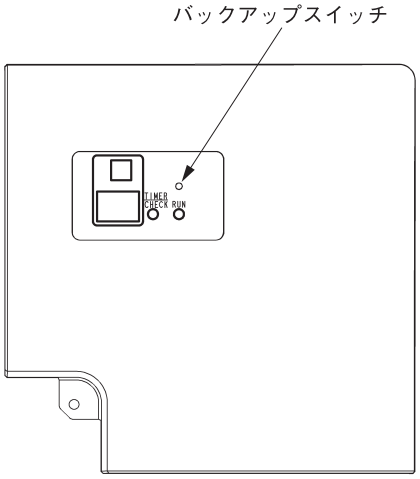
［条件］　受信部照明度300ルクス
（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）

［複数台近接設置］リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5 mです。

バックアップスイッチ操作

受信部の表面にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコンで操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
   風量「急」温度設定「23℃」ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. 2 秒以上押し続けてから離した場合、自動昇降パネル上昇となります。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. リモコンから「停止」送信または、バックアップスイッチ「停止」操作後 3 分間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
4. 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

(b) FDTC シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-TC-5W）

PJF012D505

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取扱をしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取扱をしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

🚫	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

🚫 **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

🚫 **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

🚫 **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

🚫 **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

🚫 **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近く あるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-TC-5W

① 受信部		1	⑤ ブラケット取付用ねじ		1
② 基板		1	⑥ 配線（通信用）		1
③ 基板取付用サポート		2	⑦ 配線（受信用）		1
④ ブラケット（板金）		1	⑧ 据付説明書		1

ワイヤレスリモコン（別売品）
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

基板の設定

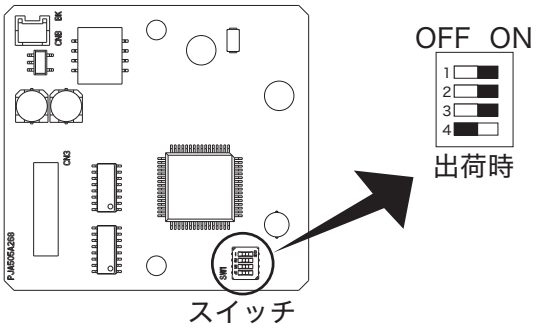
付属品の基板上のスイッチの設定は
右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [ ] で囲まれた
設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON：通常] OFF：切換
SW1-2	受信部の親子切換	[ON：親] OFF：子
SW1-3	ブザー音	[ON：有効] OFF：無効
SW1-4	停電補償	ON：有効 [OFF：無効]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 付属品の基板上のスイッチを変更してください。



複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで
ワイヤレスリモコン（受信部）・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は、いずれか一方を、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

2. SW1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更 してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

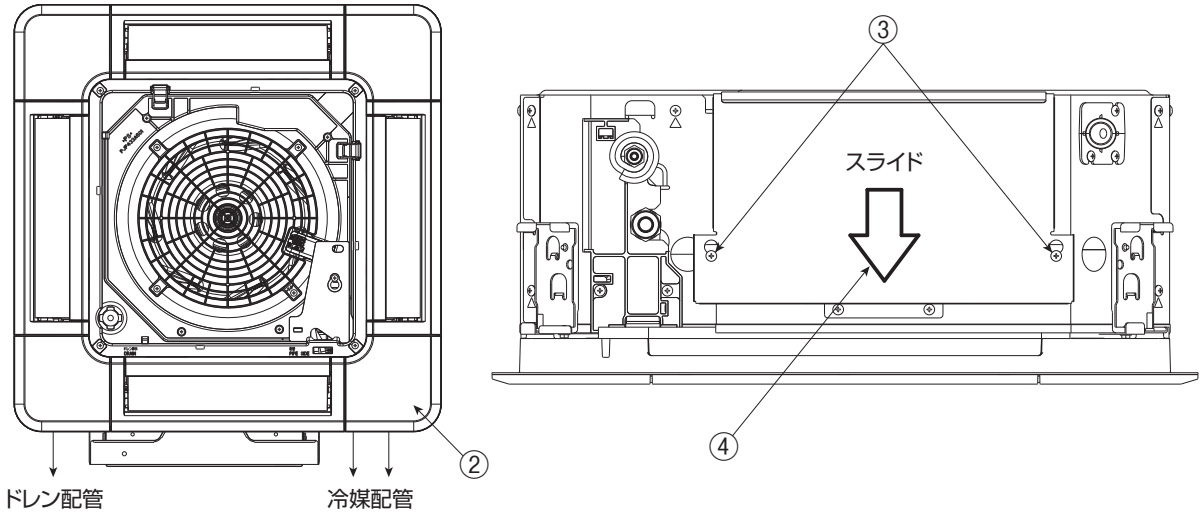
※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、対応パネルのコーナリッドと交換することにより取付可能です。

取付前の準備

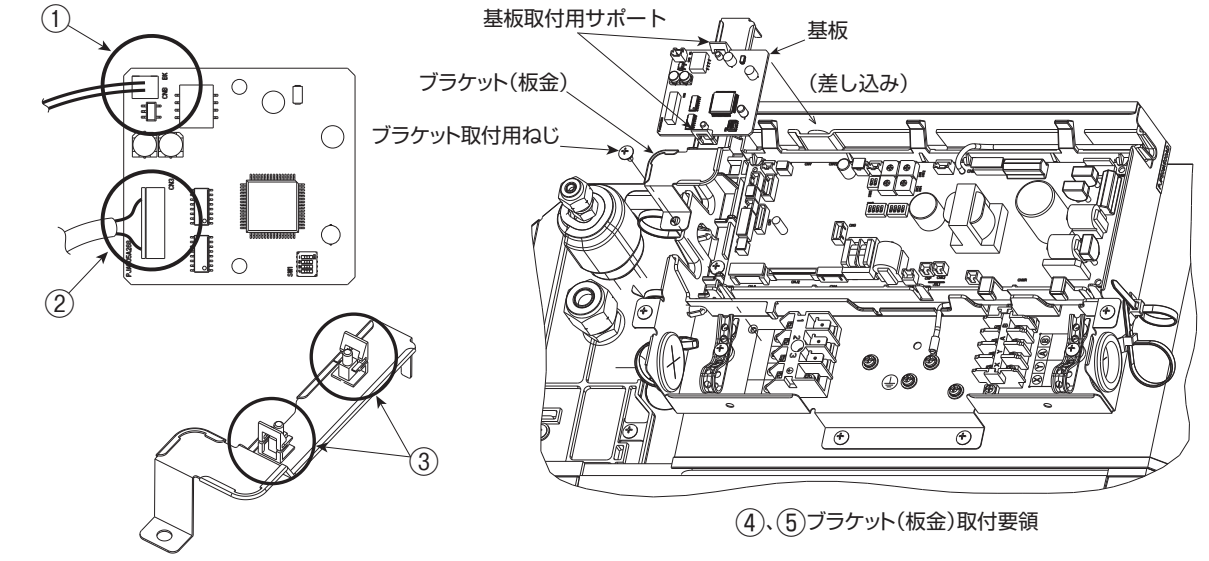
① パネル据付説明書に従って、吸込グリルを取外してください。
② 冷媒配管側のコーナリッドを取外してください。
③ ユニット本体の制御箱の蓋のねじ（2 本）を緩めてください。
④ 制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて、取外してください。



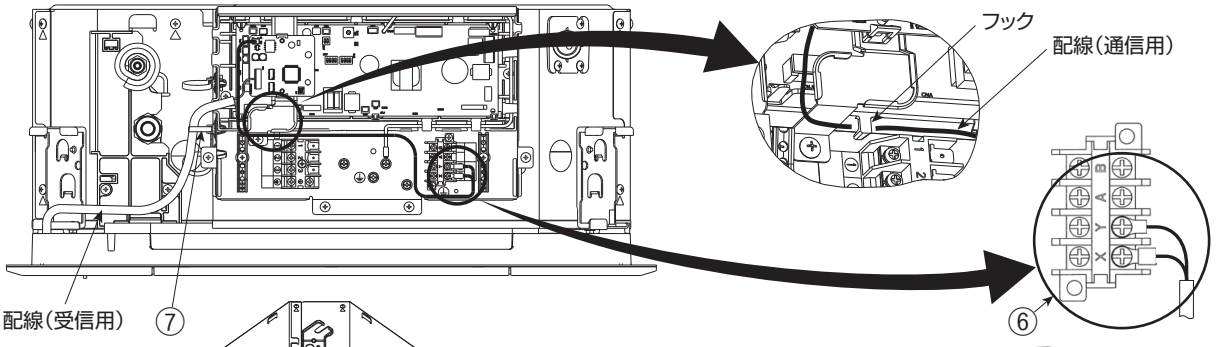
③ 受信部の取付の続き

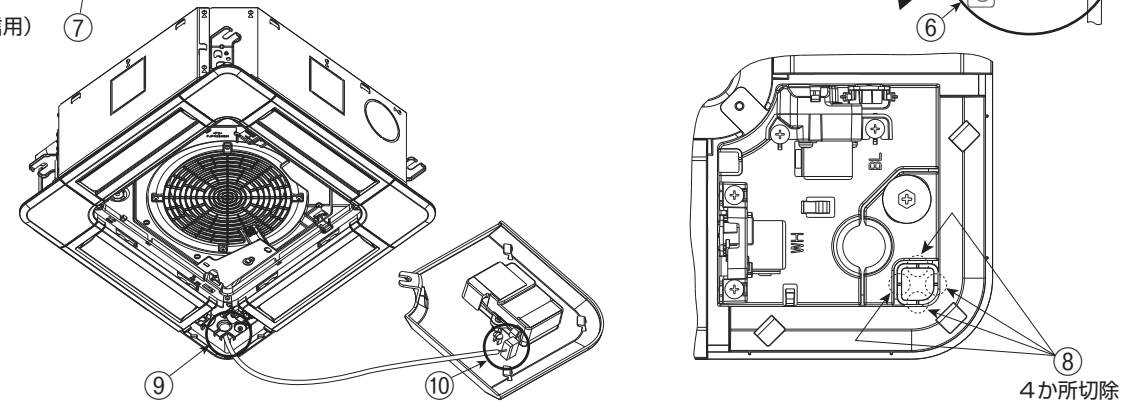
受信部の取付

① 配線（通信用）のコネクタを基板の CNB に接続してください。
② 配線（受信用）のコネクタを基板の CN3 に接続してください。
③ ブラケット（板金）に基板取付用サポートを取付けてください。
④ 基板取付用サポートに基板を取付けてください。
⑤ 図のようにブラケット（板金）を制御箱片側に差込み、もう片側をねじで締付けてください。
⑥ 配線（通信用）の丸端子を制御箱内の端子台（X、Y）に接続してください。配線に極性はありません。
⑦ 図のように配線をバンドで固定してください。
⑧ 図に示すパネルのハーフブランク（4か所）を切除してください。
⑨ 配線（受信用）をパネル開口部に通してください。
⑩ 配線（受信用）と受信部のコネクタを接続してください。
⑪ 受信部をパネル据付説明書に従って、パネルに取付けてください。
⑫ 配線を噛込まないように制御箱の蓋を取付け、ねじ（2 本）で締付けてください。



④、⑤ブラケット(板金)取付要領



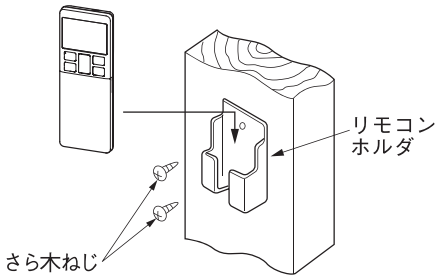


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

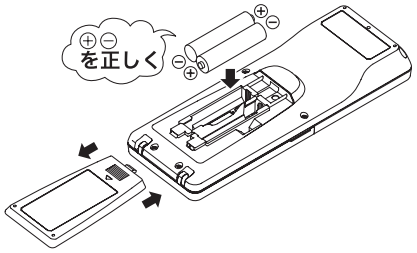
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



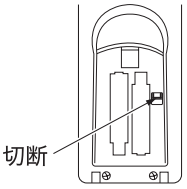
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

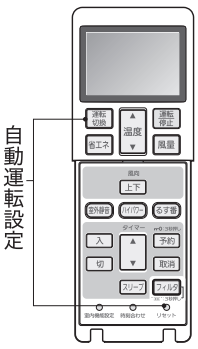
1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

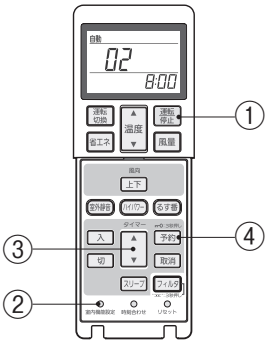
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定１　※
	02	風速設定：設定２　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：＋ 1℃
	02	暖房室温補正：＋ 2℃
	03	暖房室温補正：＋ 3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180 時間
	02	フィルターサイン表示：600 時間
	03	フィルターサイン表示：1000 時間
	04	フィルターサイン表示：1000 時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5 時間
	02	冷房ファン残留運転：2 時間
	03	冷房ファン残留運転：6 時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5 時間
	02	暖房ファン残留運転：2 時間
	03	暖房ファン残留運転：6 時間
るす番	00	リモコン信号受信部 LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部 LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部 LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1 m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2 m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0 m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9 m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0 m
運転 / 停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は341ページを参照ください。

⑤ 受信部

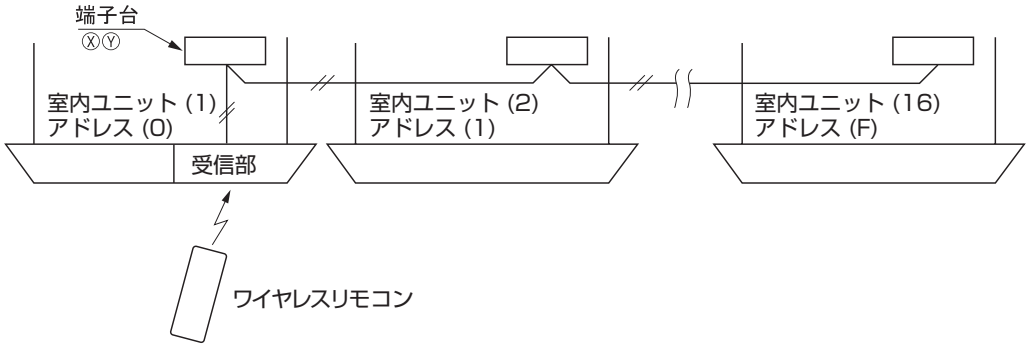
1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）	
標準	0.3 mm^2 × 100m 以内
	0.5 mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0 mm^2 × 600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に
設定してください。

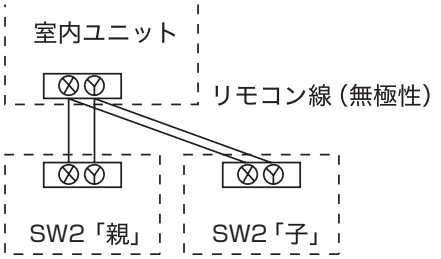


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット 1 台（または 1 グループ）に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。



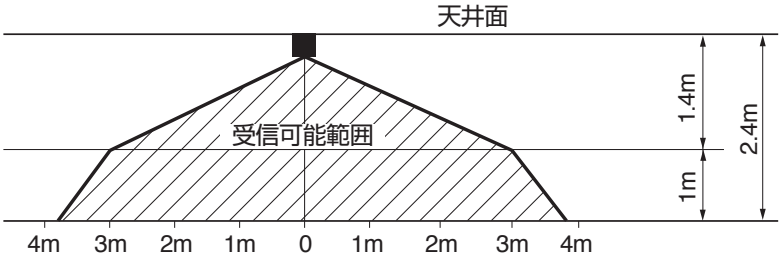
スイッチ	設定	機能内容
SW2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離

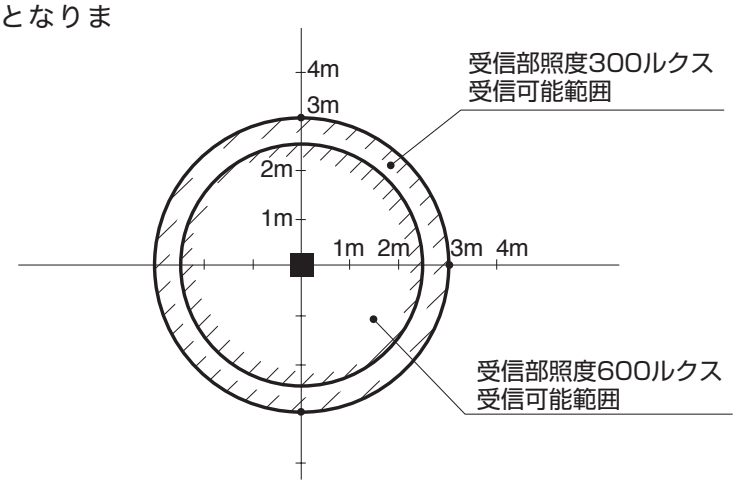
［条件］受信部照明度 300 ルクス

（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
［条件］天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。 照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となります。

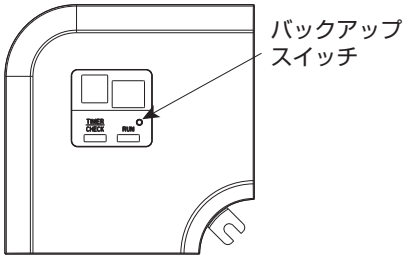


3. 複数台近接設置の注意
［条件］受信部照明度 300 ルクス
（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）
［複数台近接設置］リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5m です。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
2. 運転中にバックアップスイッチを押すことにより「停止」します。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. リモコンから「停止」送信または、バックアップスイッチ「停止」操作後 3.5 秒間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
4. 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

(c) FDTW シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-TW）

PJB012D307

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

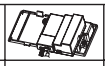
●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-TW

① 受信部		1
② パーツセット		1
③据付説明書		1

① 配線クランプ		2
② 同上ねじ		2
③グロメット		1

ワイヤレスリモコン (別売品)
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

受信部の設定

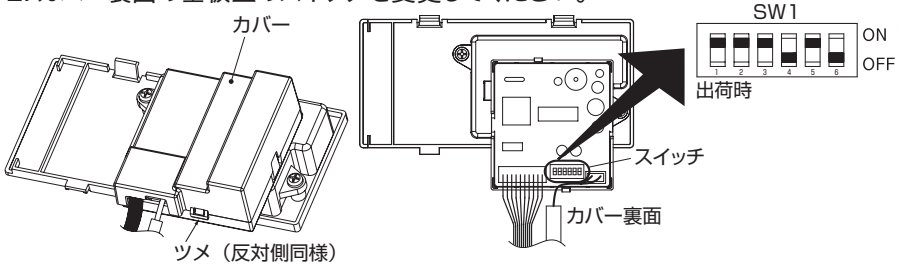
受信部基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [ ] で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON : 通常] OFF : 切換
SW1-2	受信部の親子切換	[ON : 親] OFF : 子
SW1-3	ブザー音	[ON : 有り] OFF : 無し
SW1-4	停電補償	ON : 有効 [OFF : 無効]
SW1-5	点検表示	[ON : 有効] OFF : 無効
SW1-6	機種	ON : FDK [OFF : FDTW]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のカバーを取外してください。
2. カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



3. SW1-1 を OFF にする場合はリモコン側も設定変更 してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

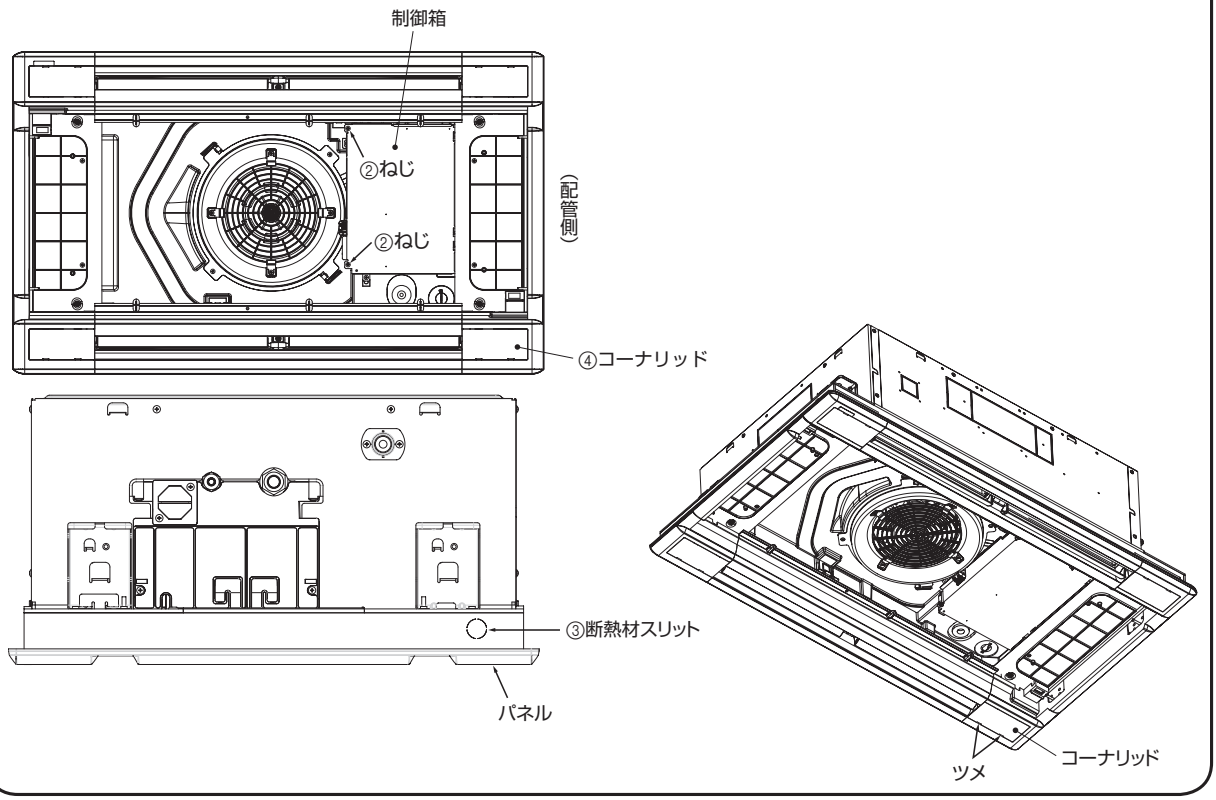
1つのグループに対して最大2個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は2つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、対応パネルのコーナリッドと交換することにより取付可能です。

取付前の準備

① サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
② エアコン本体の制御箱の蓋（ねじ2個）を取外してください。
③ パネル側面に貼り付けられた断熱材のスリットを切取ってください。
④ コーナリッドのツメをマイナスドライバー等で取外してください。

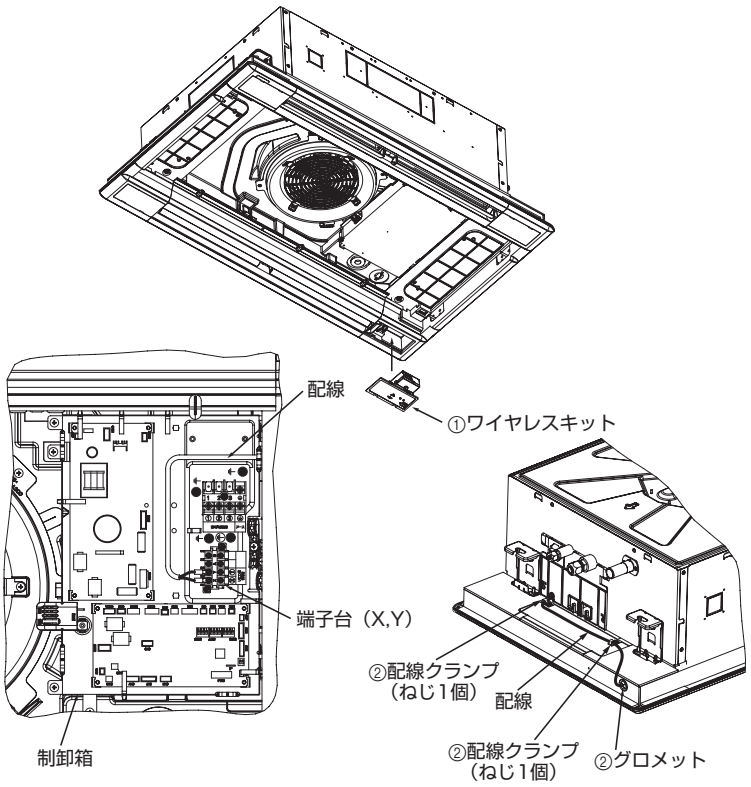


③ 受信部の取付の続き

受信部の取付

① 下図に示すようにワイヤレスキットをパネルに取付けてください。
② グロメットおよび配線クランプを取付けてください。
③ ワイヤレスキットの配線を下図に示すように、コントロールボックスに入れてください。
④ 配線を制御箱内の端子台 (X、Y) に接続してください。(無極性)
⑤ 制御箱の蓋を外したねじ (2 本) を用いて取付けてください。

※ ご注意 : 取付の際、配線をはさまないようにしてください。

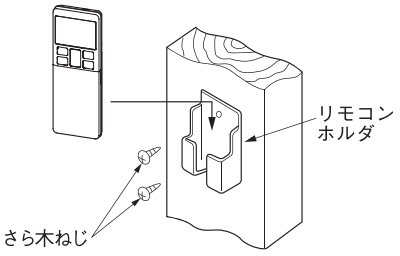


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

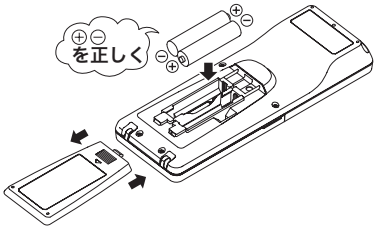
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



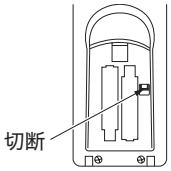
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

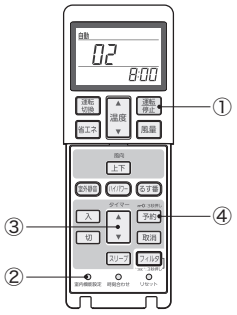
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定1　※
	02	風速設定：設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：+1℃
	02	暖房室温補正：+2℃
	03	暖房室温補正：+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180時間
	02	フィルターサイン表示：600時間
	03	フィルターサイン表示：1000時間
	04	フィルターサイン表示：1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5時間
	02	冷房ファン残留運転：2時間
	03	冷房ファン残留運転：6時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5時間
	02	暖房ファン残留運転：2時間
	03	暖房ファン残留運転：6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は341ページを参照ください。

⑤ 受信部

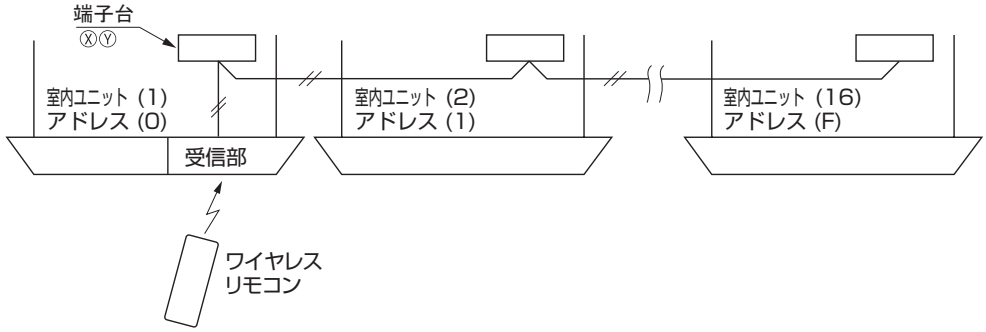
1リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大600m）	
標準	0.3 mm^2 ×100m 以内
	0.5 mm^2 ×200m 以内
	0.75mm^2 ×300m 以内
	1.25mm^2 ×400m 以内
	2.0 mm^2 ×600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に
設定してください。

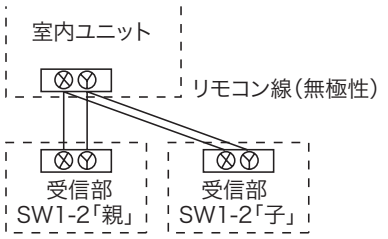


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

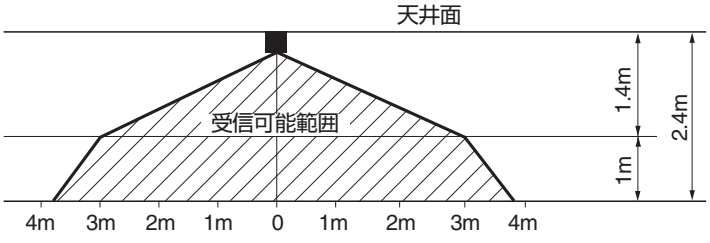
室内ユニット1台（または1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

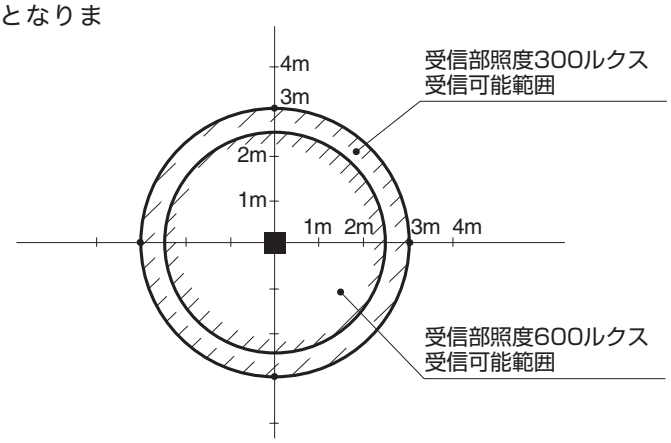
ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離
   ［条件］受信部照明度 300 ルクス
   （一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係
［条件］天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。 照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となります。

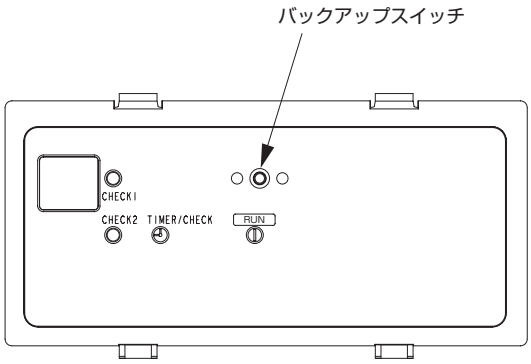


3. 複数台近接設置の注意
［条件］受信部照明度 300 ルクス
（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）
［複数台近接設置］リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5m です。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. ラクリーナパネル使用時、2 秒以上押し続けてから離した場合、自動昇降パネル上昇となります。



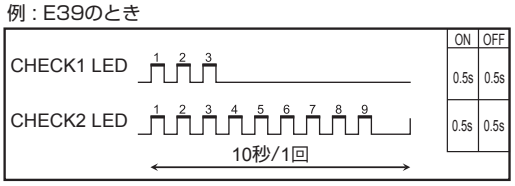
冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

点検表示の見方

- 点検 LED 表示 “CHECK1” ／ “CHECK2” の LED がエラーコードの “ 十の位 ” ／ “ 一の位 ” の数だけ点滅します。

例 : E39のとき



⑷ FDTS シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-TS）

PJC012D309

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下･腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータータイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-TS

① 受信部		1
② 据付説明書 (本紙)		1

ワイヤレスリモコン（別売品）
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

現地設定

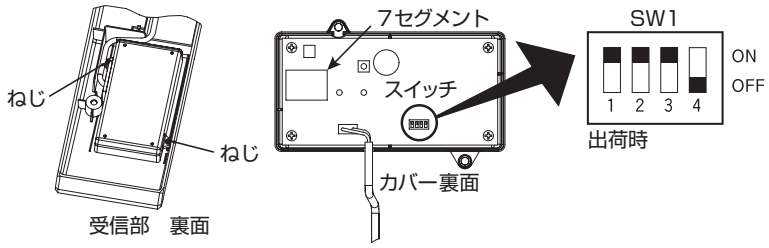
受信部基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [ ] で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON：通常]	OFF：切換
SW1-2	受信部の親子切換	[ON：親]	OFF：子
SW1-3	ブザー音	[ON：有効]	OFF：無効
SW1-4	停電補償	ON：有効	[OFF：無効]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のねじ 2 本を外し、カバーを取外してください。
2. カバー裏面の基板上のスイッチを変更してください。



3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

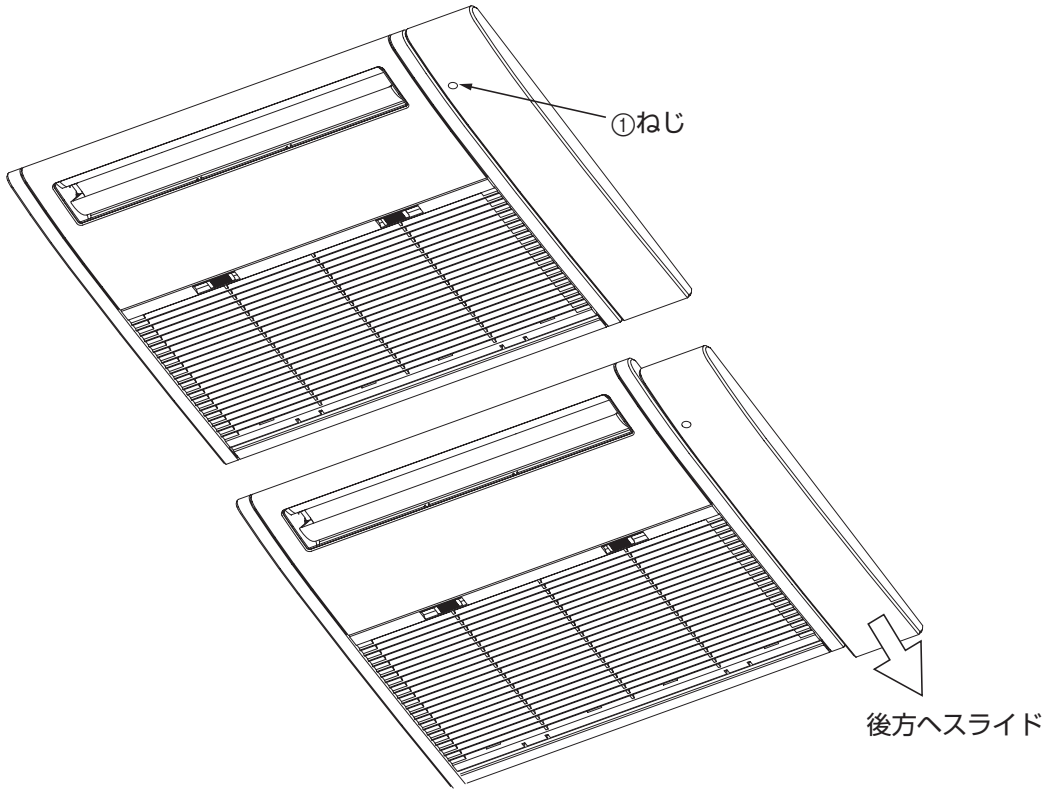
1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、冷媒配管側のサイドパネルと交換することにより取付可能です。

取付前の準備

① 冷媒配管側のサイドパネルのねじを1本外してください。
② サイドパネルを後方にずらし、取外してください。
③ ねじ2本を外して、エアコン本体のコントロールボックスのカバーを取外してください。

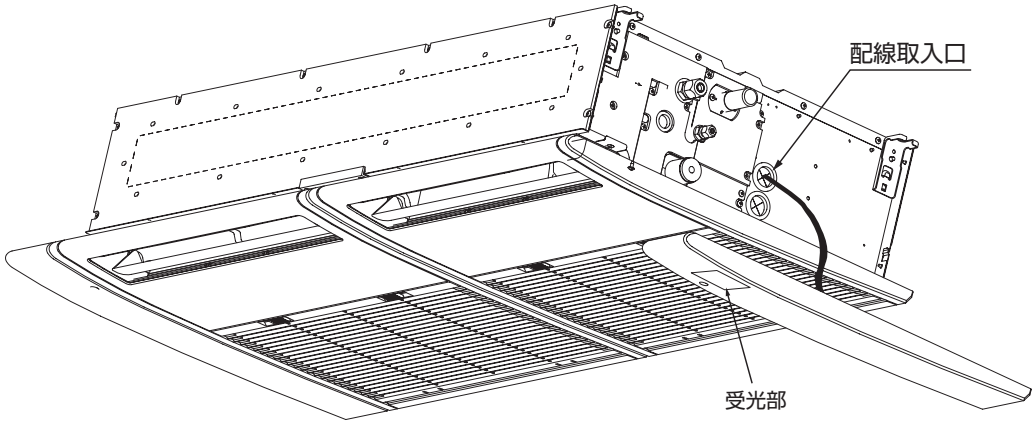


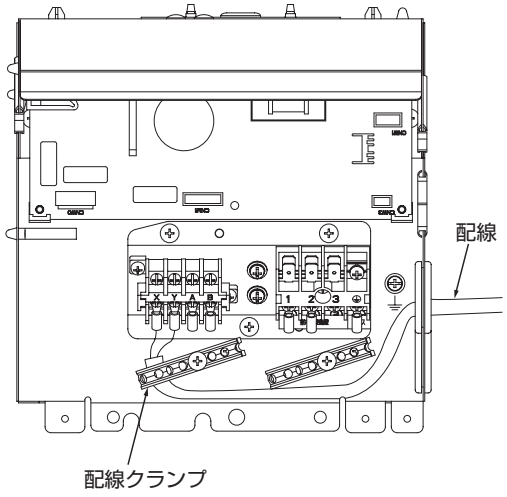
③ 受信部の取付の続き

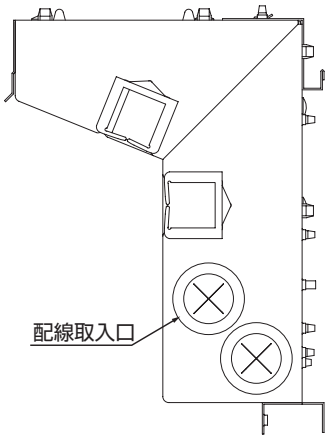
受信部の取付

① 受信部の配線を下図に示すように、現地配線と一緒にコントロールボックスに入れてください。
② 配線をコントロールボックス内の端子台 (X、Y) に接続してください。(無極性)
③ 下図に示すように、配線をクランプで固定してください。
④ コントロールボックスのカバーを元通りに取付けてください。
⑤ 受信部をパネルにひっかけ、ねじ (1 本) を用いて取付けてください。

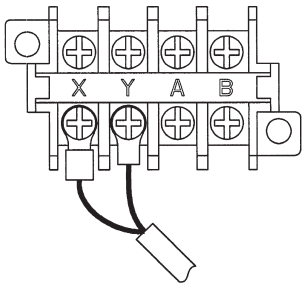
※ ご注意 : 取付の際、配線をはさまないようにしてください。







エアコン本体のコントロール
ボックス中の端子台

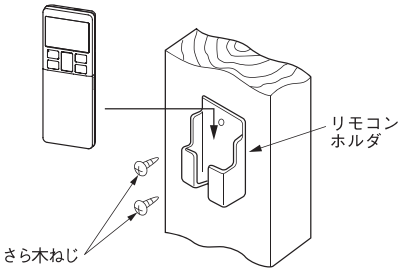


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

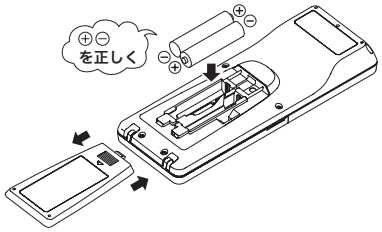
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



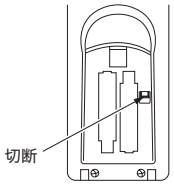
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

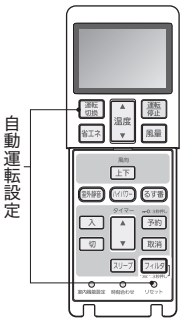
1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

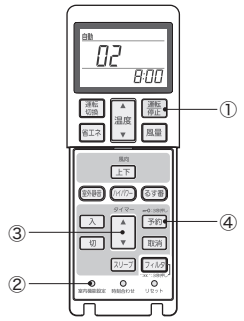
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
　機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定1　※
	02	風速設定：設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：+1℃
	02	暖房室温補正：+2℃
	03	暖房室温補正：+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180時間
	02	フィルターサイン表示：600時間
	03	フィルターサイン表示：1000時間
	04	フィルターサイン表示：1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5時間
	02	冷房ファン残留運転：2時間
	03	冷房ファン残留運転：6時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5時間
	02	暖房ファン残留運転：2時間
	03	暖房ファン残留運転：6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は341ページを参照ください。

⑤ 受信部

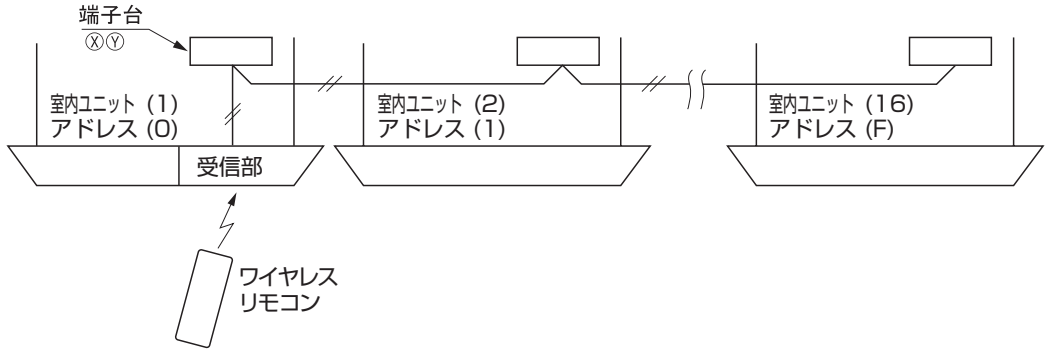
1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1 つのリモコンで複数台のユニット (最大 16 台) を
   グループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を
   2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）	
標準	0.3 mm^2 ×100m 以内
	0.5 mm^2 ×200m 以内
	0.75mm^2 ×300m 以内
	1.25mm^2 ×400m 以内
	2.0 mm^2 ×600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に
設定してください。

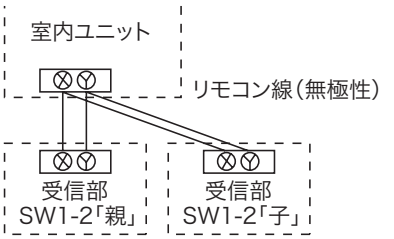


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

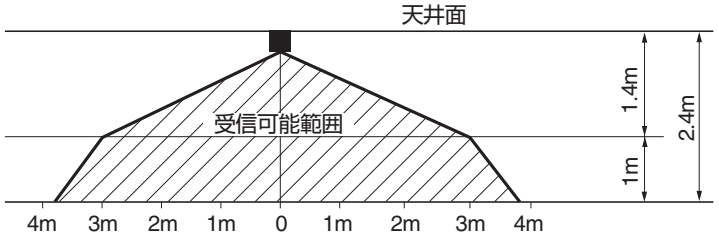
室内ユニット 1 台 (または 1 グループ) に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

ワイヤレスリモコンの操作距離

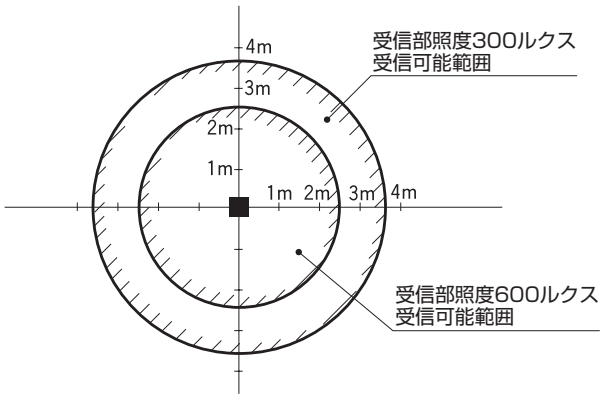
1. 標準的な受信距離
   [条件] 受信部照明度 300 ルクス
   (一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合)



⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

［条件］天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。照度が 2 倍になると受信距離は 2 ／ 3 となります。



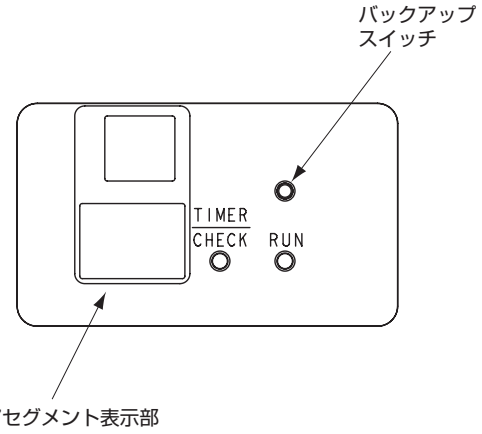
3. 複数台近接設置の注意

［条件］受信部照明度 300 ルクス
（一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）
［複数台近接設置］リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5m です。

バックアップスイッチ操作

受信部の表面にバックアップスイッチを装備しています。ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。操作は、手で直接してください。

1. 停止中にバックアップスイッチを押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
   風量「急」温度設定「23℃」ルーバ「水平」
2. 運転中にバックアップスイッチを押すことにより「停止」します。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. リモコンから「停止」送信または、バックアップスイッチ「停止」操作後 3.5 秒間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
4. 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

(e) FDR，FDU，FDU-F シリーズ
RCN-KIT4

PJZ012D111

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設･修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液･特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下･腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータータイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

① 受光アダプタ	1
② 配線 (3m)	1
③ パーツセット (A)	1
④ パーツセット (B)	1
⑤ パーツセット (C)	1
⑥ 据付説明書 (本紙)	1

① ワイヤレスリモコン	1
② リモコン用ホルダ	1
③ 同上用木ねじ	2
④ リモコン用電池	2
⑤ 取扱説明書	1

① 受光アダプタ用ねじ	2
② バンド	1
③ クランプ	5
④ 同上用ねじ	5

① 受光部取付用ブラケット	1
② 同上用ねじ	2
③ 取付金具	2
④ JISボックス取付用ねじ	2

② 取付前の準備

現地設定

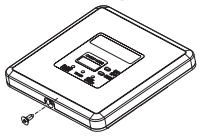
受信基板上のスイッチの設定は右記の通りです。

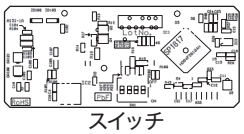
SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON : 通常]	OFF : 切換(2ch)
SW1-2	受信部の親子切換	[ON : 親]	OFF : 子
SW1-3			
SW1-4	停電補償	ON : 有効	[OFF : 無効]

② 取付前の準備の続き

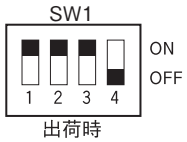
現地設定の変更方法

1. 受信部下面のねじ（1 本)を外し、基板を取外してください。
2. 基板上（7 セグメント表面側）のスイッチを変更してください。





スイッチ



出荷時

3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

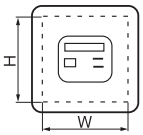
③ 受信部の取付

天井あるいは、壁面（以後あわせて壁面と呼ぶこととします）への取付方法として下記３種類の取付が可能です。設置場所に応じて選んでください。

〈取付け方法〉 (A) 壁面への木ねじによる直接取付
(B) JIS ボックス（現地手配）による取付
(C) 付属ブラケットによる取付

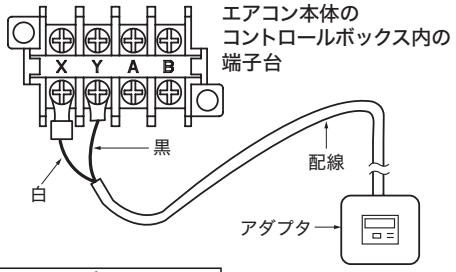
(1) 壁面への穴あけ（壁面開口）

取付用の穴を付属配線（3 m）で接続可能な壁面位置に、右表の寸法にてあけてください。



(A) 壁面への木ねじによる直接取付	88mm(H)×101mm(W)
(B) JIS ボックスによる取付 (C) 付属ブラケットによる取付	108mm(H)×108mm(W)

(2) 受光アダプタ用配線



⚠注意
配線を端子台 200V に接続しないこと。
プリント基板が焼損します。

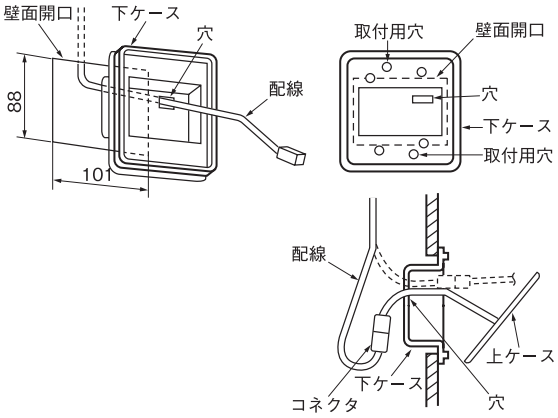
(3) 受光アダプタ取付

側面についているねじをはずし、上ケースと下ケースに分割してください。
下記４種（A～D）のうちのいずれかの方法により取付けてください。

(A)　壁面への木ねじによる直接取付

▷ 壁面が木製などのもので、直接木ねじにより取付けても強度的に問題のない場合にこの方法で取付けてください。

① 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
② 下ケースを壁面開口にはめてください。この時、下ケース後面凸部と壁面開口とのすきまは両側ともできるだけ等しくなる様にしてください。
③ 上図 2 か所の取付用穴を用いて付属の木ねじにより下ケースを壁に固定してください。（他の 4 か所の穴は使用しません。）
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。



③ 受信部の取付の続き

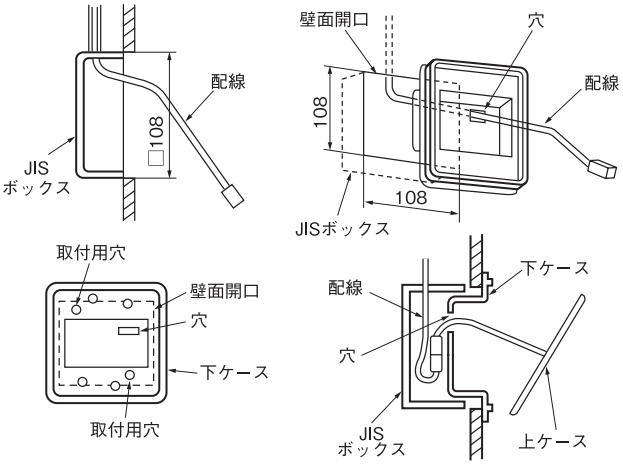
⑤ 接続したコネクタを①項にて配線を通した下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。

(B)　JIS ボックスによる取付（JIS ボックス：現地手配）

① JIS ボックスと配線をあらかじめ設置しておきます。

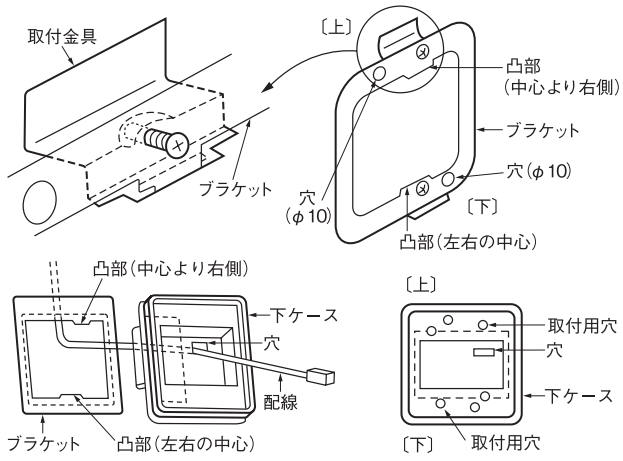
〔使用可能 JIS ボックス〕
JIS C 8435
埋込用四角アウトレットボックス中浅形
JIS C 8340
中形四角アウトレットボックス

② 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
③ 右図 2 か所の取付用穴を用いて付属しているねじにより下ケースは JIS ボックスに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません。)
④ 配線と上ケースから出ている配線とをコネクタにより接続してください。
⑤ 接続したコネクタを②項にて配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスの間へ入れていってください。
⑥ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじをしめてください。



(C)　付属ブラケットによる取付

① 上図の様に付属ブラケットの凸部（2 か所）に取付金具を引掛け、ねじにより仮止めしてください。(ブラケットには上下および表裏があります。上下凸部の位置およびブラケットにあるφ 10 の穴と取付金具の取付面との位置関係を上図にてご確認願います。)
② 壁面開口より取付金具の端部を壁面裏側へ入れ、さらにねじを締めてブラケットを壁面に固定してください。
③ 配線を裏面側から下ケースの穴に通してください。
④ 下ケースをブラケットにはめ込み、上図 2 か所の取付用穴を用いて下ケースをブラケットに固定してください。(他の 4 か所の穴は使用しません)
⑤ 以降Ⓐの①～⑥を参照して取付けてください。

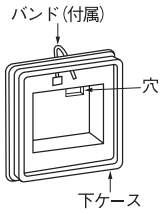


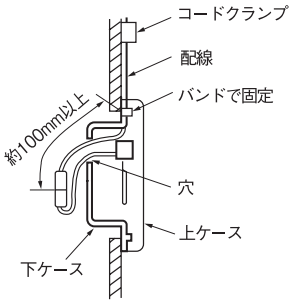
③ 受信部の取付の続き

(D)　配線露出取付

配線を露出させて取付ける場合は下記の通りに行なってください。

① 上ケース側面の薄肉部をニッパー、ナイフ等で切取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。(この部分に配線を通します。)
② 下ケースの配線取出部の穴に付属のバンドを通します。
③ 3 項の受光アダプタ取付方法 (A ～ C) のいずれかの方法に従い、下ケースを壁面に固定してください。ただし、配線は下ケースの穴に通さないでください。
④ バンドでの固定部から配線のコネクタの先端までの長さを 100 mm以上とした状態でバンドにより配線を固定してください。(ただし、JIS ボックスにより下ケースを取付けた場合は約 100 mmとしてください。)
⑤ 配線と上ケースより出ている配線をコネクタにより接続してください。
⑥ 接続したコネクタおよび不要な配線を下ケースの穴より裏側へ出してください。
⑦ 上ケースを下ケースに元通りはめ込み、ねじを締めてください。
⑧ 配線は付属のコードクランプで適宜固定してください。



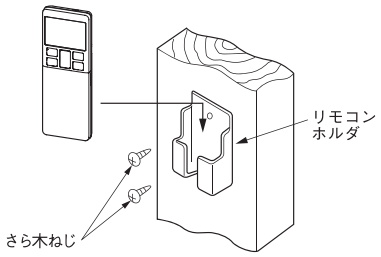


④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

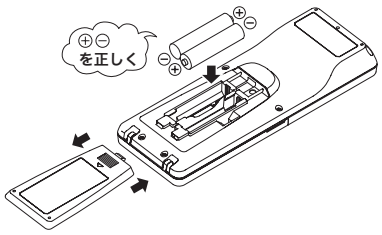
1. リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



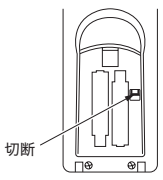
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。

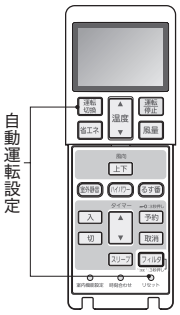


④ ワイヤレスリモコンの続き

リモコンの設定変更

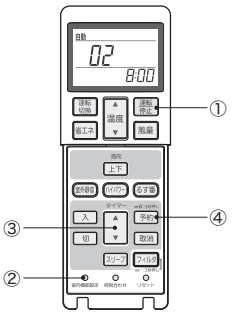
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容
   機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定　標準
	01	風速設定　設定1　※
	02	風速設定　設定2　※
運転切換	00	暖房室温補正　無効
	01	暖房室温補正　+1℃
	02	暖房室温補正　+2℃
	03	暖房室温補正　+3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示　なし
	01	フィルターサイン表示　180時間
	02	フィルターサイン表示　600時間
	03	フィルターサイン表示　1000時間
	04	フィルターサイン表示　1000時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　有効
室外静音	00	人感センサー設定　無効
	01	人感センサー設定　有効
ハイパワー	00	人感センサー制御　無効
	01	人感センサー制御 パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御 オートオフのみ
	03	人感センサー制御 パワーコントロール+オートオフ

ボタン	番号表示部	機能設定
入	00	冷房ファン残留運転　無効
	01	冷房ファン残留運転　0.5時間
	02	冷房ファン残留運転　2時間
	03	冷房ファン残留運転　6時間
切	00	暖房ファン残留運転　無効
	01	暖房ファン残留運転　0.5時間
	02	暖房ファン残留運転　2時間
	03	暖房ファン残留運転　6時間
るす番	00	リモコン信号受信部LED　輝度明
	01	リモコン信号受信部LED　輝度暗
	02	リモコン信号受信部LED　消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長　0.1m
	0.2	グリル自動昇降降下長　0.2m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長　2.0m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長　3.9m
	4.0	グリル自動昇降降下長　4.0m
運転/停止	50	グリル自動昇降周波数　50Hz
	60	グリル自動昇降周波数　60Hz

※　詳細は341ページを参照ください。

⑤ 受信部

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

① 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

② グループ制御用に各室内ユニット間を
2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

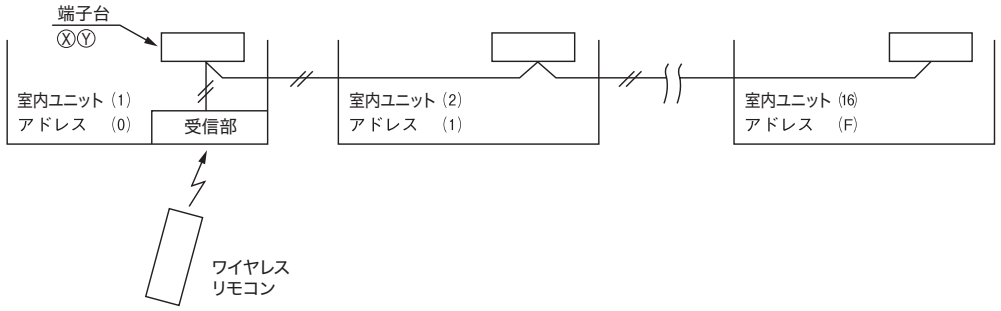
渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）

標準	0.3 mm^2 ×100m 以内
	0.5 mm^2 ×200m 以内
	0.75mm^2 ×300m 以内
	1.25mm^2 ×400m 以内
	2.0 mm^2 ×600m 以内

⑤ 受信部の続き

店舗シリーズの場合

③ 室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

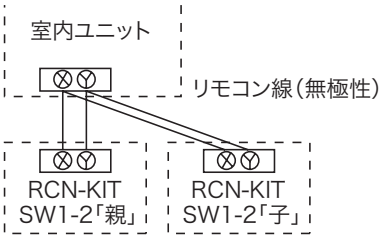


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

④ 室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット 1 台（または 1 グループ）に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。

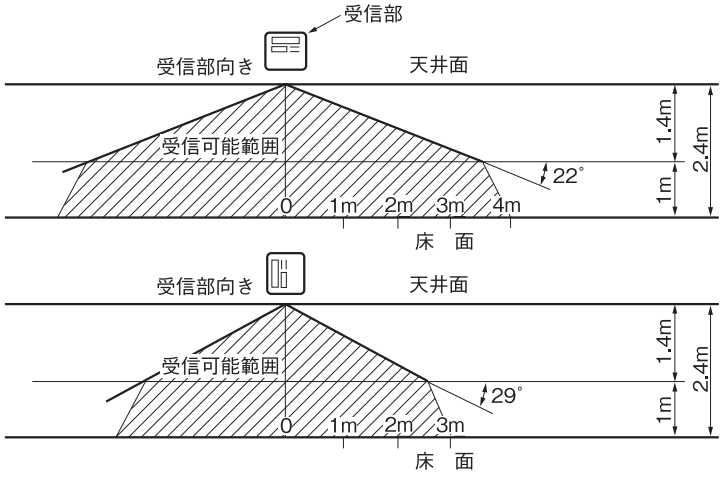


スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

天井面に取付けた場合

① 標準的受信距離

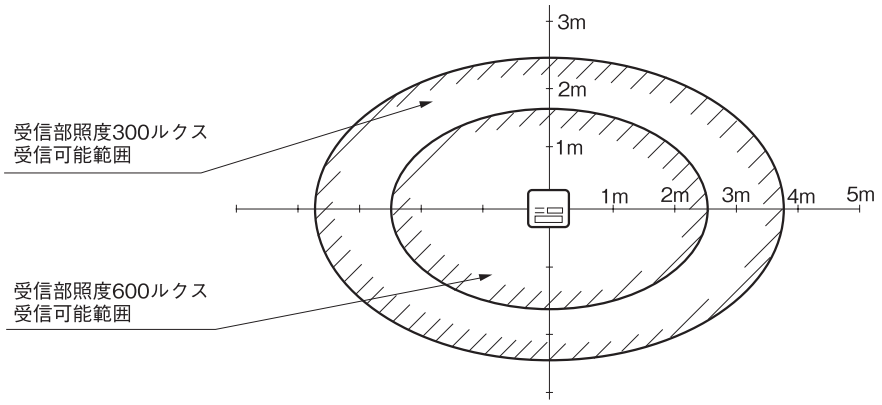
条件 受信部照明度 **300 ルクス**（一般事務所で受信アダプタ周辺 1 m以内の天井面に照明がない場合）



② 平面から見た時の受信部照度と受信距離の関係

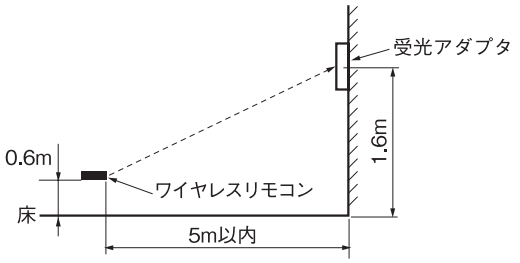
条件 天井高さ 2.4 m、床面より 1 mの高さより、リモコン操作をした場合の受信部照度と受信距離との関係。照度が 2 倍になると受信距離は 2/3 となる。

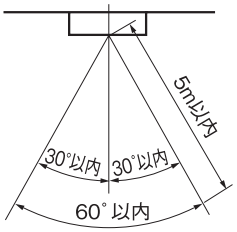
⑤ 受信部の続き



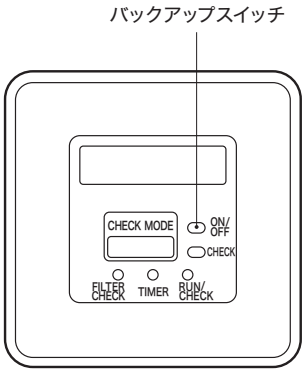
壁面に取付けた場合

条件 受信部照度 800 ルクス





バックアップスイッチ操作



表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に
応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

⑴ 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
　風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
⑵ 運転中に押すことにより「停止」します。

冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

6 桁表示の見方

受信部は 6 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

⑴ 表示は電源投入後 1 時間表示します。
⑵ エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により 3.5 秒間表示します。
⑶ 上記の表示は、運転開始により消灯します。
⑷ 異常履歴がない場合は、接続台数分のアドレスを表示します。
⑸ 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
⑹ 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信により
　クリアされます。

(f) FDE シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5）・ワイヤレス受信部（LA-E1）

PFA012D634

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取扱をしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取扱をしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯（特にインバータタイプ）の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部
LA-E

① 受信部		1
② 据付説明書		1
③ 配線		1

ワイヤレスリモコン（別売品）
RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

受信部の設定

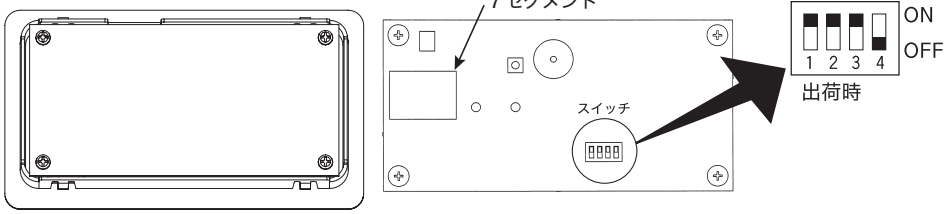
受信基板上のスイッチの設定は
右記の通りです。
なお、出荷時の設定は [　] で
囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON：通常] OFF：切換
SW1-2	受信部の親子切換	[ON：親] OFF：子
SW1-3	ブザー音	[ON：有り] OFF：無し
SW1-4	停電補償	ON：有効 [OFF：無効]

② 取付前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 受信部裏面のねじ（4 本）を外し、基板を取外してください。
2. 基板上（7 セグメント表面側）のスイッチを変更してください。



受信部裏面

複数リモコン使用時の親子設定

1 つのグループに対して最大 2 個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。その際は 2 つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

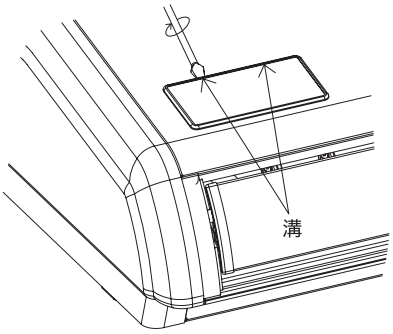
3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。

※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

③ 受信部の取付

本ワイヤレスキットの受信部は、パネルのカバーと交換することにより取付可能です。

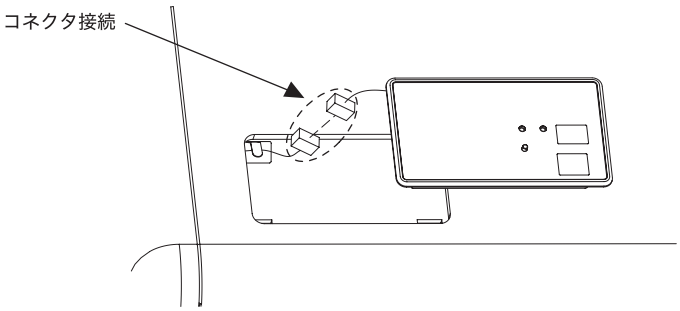
注意：**本体吊り込み前に受信部を取付けください。**
吊り込み後に取付ける場合、高所作業となり、転倒などによりケガの恐れがあります。

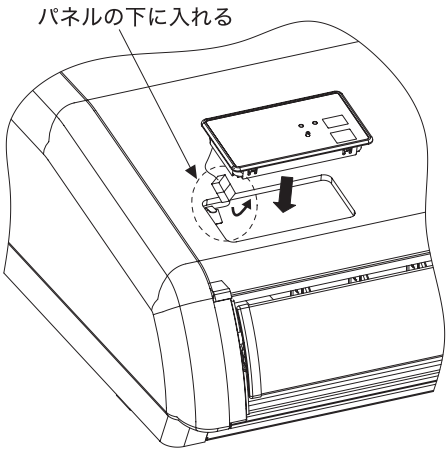


① カバーを取外し
カバーの溝（2 か所）に工具を挿し、パネル塗装面を傷付けないように軽くねじると外れます。

② 配線の接続
受信部の配線とパネル穴部の配線を接続してください。

注意：**配線を固定しているクランプは外さないでください。**



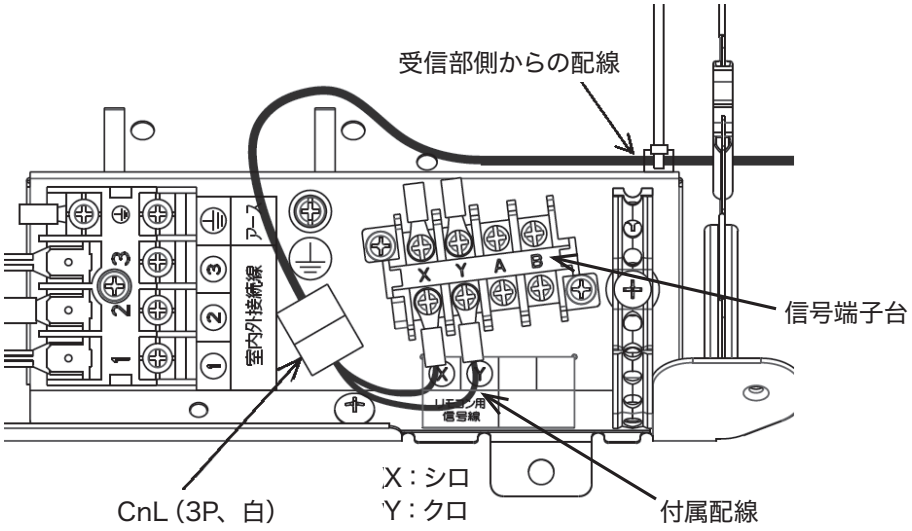


③ 受信部の取付
右図の様にコネクタをパネルの下に入れ、受信部の向きに注意し、パネルへ取付けてください。

注意：コネクタは受信部を取付ける前に接続してください。
取付後にコネクタを接続する場合、パネルを外す必要があります。

④ コントロールボックス側の配線接続

コントロールボックス内信号端子台ⓍⓎの1次側（吸込グリル側）に付属配線を接続し、
受信部側からの配線コネクタ CnL（3P 白）と接続してください。
※既に信号端子台からワイヤレス受信部側へ配線がつながっている機種は、この作業は不要です。

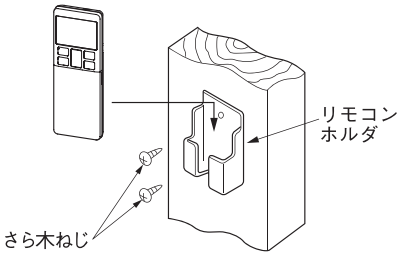


⑤ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

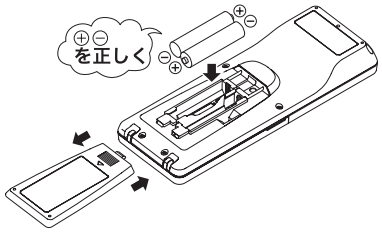
リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



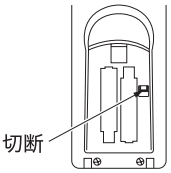
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

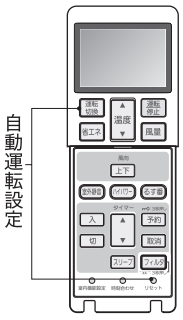
1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



リモコンの設定変更

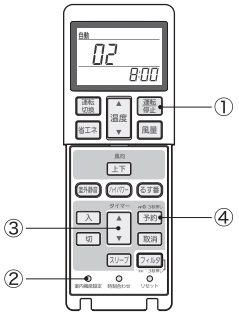
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



⑤ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容
　機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定１　※
	02	風速設定：設定２　※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：＋ 1℃
	02	暖房室温補正：＋ 2℃
	03	暖房室温補正：＋ 3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180 時間
	02	フィルターサイン表示：600 時間
	03	フィルターサイン表示：1000 時間
	04	フィルターサイン表示：1000 時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）：有効
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5 時間
	02	冷房ファン残留運転：2 時間
	03	冷房ファン残留運転：6 時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5 時間
	02	暖房ファン残留運転：2 時間
	03	暖房ファン残留運転：6 時間
るす番	00	リモコン信号受信部 LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部 LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部 LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1 m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2 m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0 m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9 m
	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0 m
運転 / 停止	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※　詳細は341ページを参照ください。

⑥ 受信部

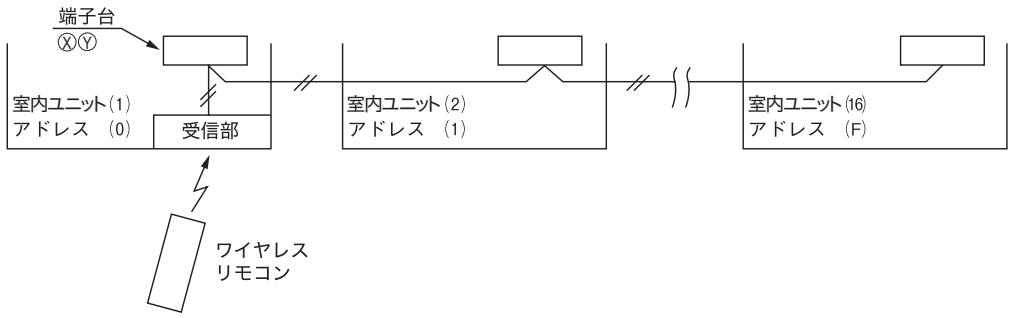
1リモコンによる複数台室内ユニット制御

1. 1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。
   同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限（最大600m）	
標準	0.3 mm^2 × 100m 以内
	0.5 mm^2 × 200m 以内
	0.75mm^2 × 300m 以内
	1.25mm^2 × 400m 以内
	2.0 mm^2 × 600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上のロータリスイッチSW２により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

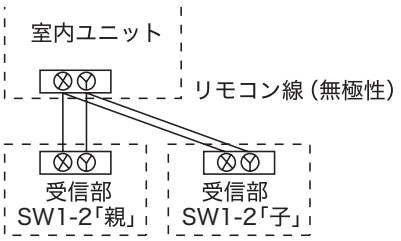


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット１台（または１グループ）に対して最大２個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

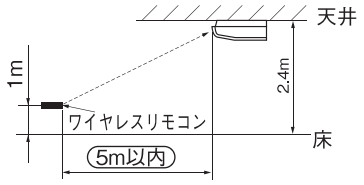
⑥ 受信部の続き

ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離

［条件］受信部照明度 300 ルクス

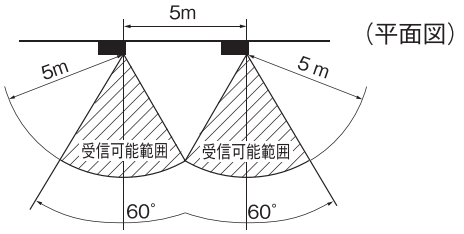
（一般事務所でユニット周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合）

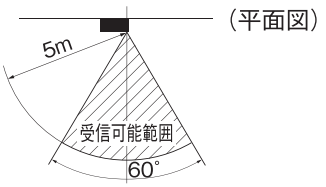


2. 複数台近接設置時の注意

［条件］受信部照明度 300 ルクス

同一動作を防止できるユニット間最小距離は 5m です。





お願い

○リモコンを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。

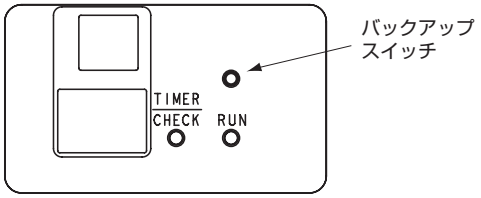
○操作距離は、受信部照明度、部屋壁面の反射状態により変化します。

○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合、操作距離の縮小、また、受信不良が起こる場合があります。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
   風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
2. 運転中に押すことにより「停止」します。
3. ラクリーナパネル使用時、2秒以上押し続けてから離した場合、自動昇降パネル上昇となります。



冷房試運転操作

- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。

2 桁表示の見方

受信部は 2 桁表示（7 セグメント）を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により 3.5 秒間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始により消灯します。
4. 異常履歴がない場合は、接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信によりクリアされます。

(g) FDK シリーズ
ワイヤレスリモコン（RCN-D5K）・ワイヤレス受信部（LA-SK，LA-BK）

PHA012D048

安全上のご注意

●工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
⚠ **警告**　誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
⚠ **注意**　誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。
状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

⃠	絶対にしないでください。	❗	必ず指示どおりに行ってください。

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠ 警告

❗ **●据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。**
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。**
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。**
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。

❗ **●据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。**
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。

❗ **●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

❗ **●据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。**
感電、故障や動作不良の原因になります。

⃠ **●改造は絶対にしない。**
感電、火災、故障の原因になります。

❗ **●修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。**
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。

⃠ **●特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。**
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●洗濯室など水のかかる所では使用しない。**
感電、火災、故障の原因になります。

⃠ **●ぬれた手で操作しない。**
感電の原因になることがあります。

⚠ 警告

●本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●病院・通信事業所などに据付ける場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバータ機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。

●基板のケースを取外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。

⚠ 注意

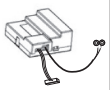
●ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所

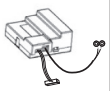
① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受光部
LA-SK

① コントローラ		1
② ディスプレイASSY		1
③ 据付説明書 (本紙)		1

LA-BK

① コントローラ		1
② ディスプレイ		1
③ 据付説明書		1

ワイヤレスリモコン (別売品)
RCN-D5K

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダ		1
③ 同上用木ねじ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取付前の準備

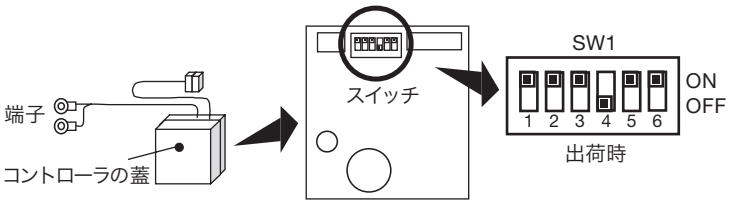
現地設定

受信基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出庫時の設定は [ ] で囲まれた設定になっています。

SW1-1	複数台設置時の混信誤動作防止	[ON：通常]	OFF：切換
SW1-2	受信部の親子切換	[ON：親]	OFF：子
SW1-3	ブザー音	[ON：有効]	OFF：無効
SW1-4	停電補償	ON：有効	[OFF：無効]
SW1-5	点検表示	[ON：有効]	OFF：無効
SW1-6	機種	[ON：FDK]	OFF：FDTW

現地設定の変更方法

1. ワイヤレスインターフェースの上蓋を取外してください。
2. 基板上のスイッチを変更してください。



複数リモコン使用時の親子設定

1つのグループに対して最大2個まで受信部・ワイヤードリモコンを接続できます。
その際は2つの受信部・ワイヤードリモコンのうち、いずれか一方の基板上のスイッチを変更し、子機設定とする必要があります。
ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

3. SW1-1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更してください。
   設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の [**混信防止設定**] をご覧ください。

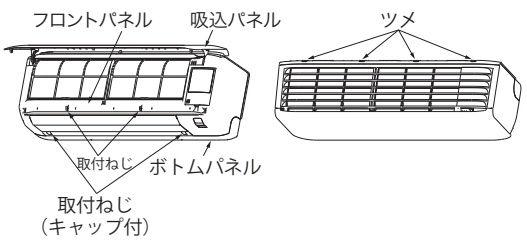
※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

③ 受信部の取付

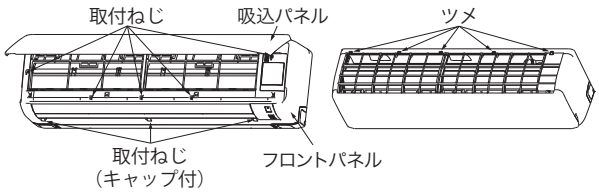
コントローラとディスプレイASSYは室内ユニットの中に据付が可能です。
電源を落とし、安全を確認したうえで行ってください。

①フロントパネルの取外し順序

(a) 吸込パネルを取外してください。
(b) ボトムパネルの取付ねじを外してください。(P56のみ、キャップ付き)
(c) ボトムパネルの両側にあるツメ(2か所)を取外し、ボトムパネルを取外してください。(P56のみ)
(d) 取付ねじを取外してください。(P56：2か所、P63, P112：5か所・キャップ付3か所)
(e) 上品のツメ(P56：4か所、P63, P112：5か所)を外し、フロントパネルを取外してください。



P56



P63, P112

③ 受信部の取付の続き

②ディスプレイ ASSY の取付

(a) ユニットのコントロール ボックスの蓋を外し、ルーバ線を基板のコネクタ（CnJ1）から外す。

(b) ディスプレイホルダーに引っ掛けてあるルーバ線を外す。

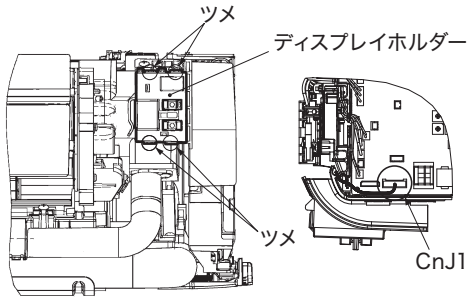
(c) ディスプレイホルダーのツメを外し、ディスプレイホルダーを取外します。（P56：４か所、P63， P112：６か所）

※ディスプレイホルダーのツメを外すときは、マイナスドライバ等を使用してください。

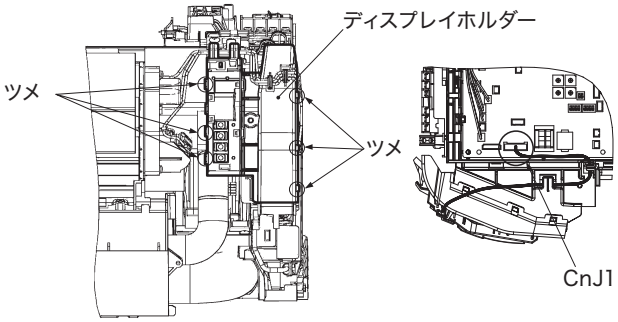
(d) ディスプレイASSYのツメを引っ掛け、ユニットに取付けてください。（P56：４か所、P63， P112：６か所）

(e) ルーバ線をディスプレイ ASSY に引っ掛けてください。

(f) ルーバ線を基板のコネクタ（CnJ1）に差し、コントロールボックスの蓋を閉めます。



P56



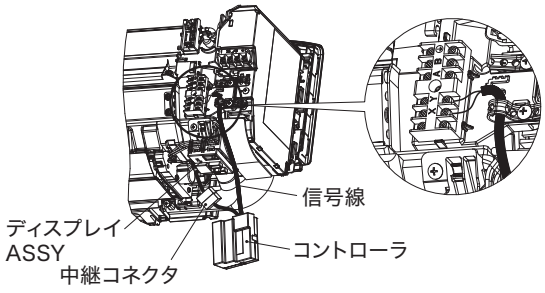
P63，P112

③配線接続とコントローラの取付

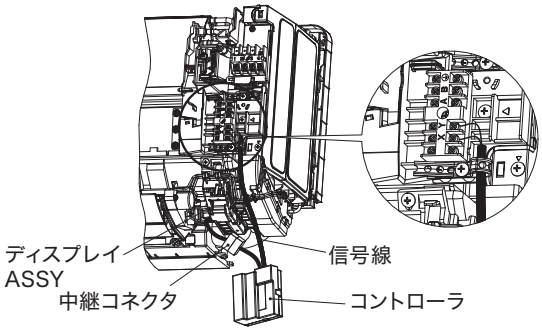
(a) 信号線（X、Y）をユニットの端子台に接続します。(無極性)

(b) 図に示すように配線をとりまわします。

(c) ディスプレイ ASSY とコントローラの中継コネクタを接続してください。



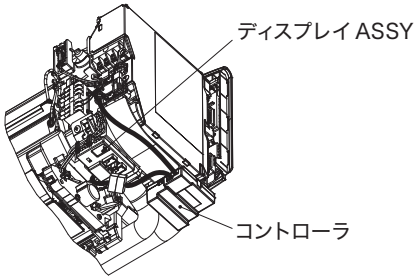
P56



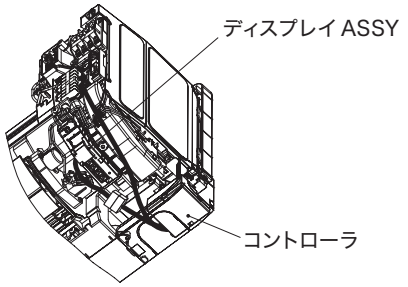
P63，P112

(d) コントローラの据付場所は下記を参照してください。

左引き配管の場合



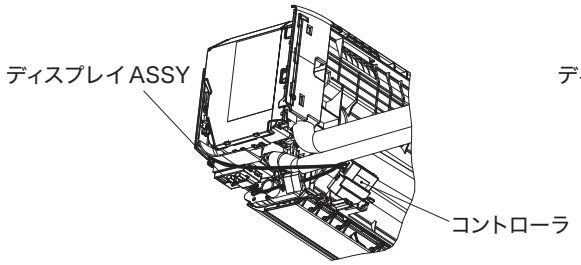
P56



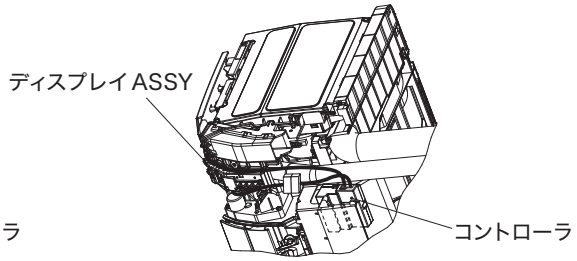
P63，P112

③ 受信部の取付の続き

右引き配管の場合



P56



P63, P112

④フロントパネルの取付順序

（a） フロントパネルをユニットにかぶせ、上部のツメ(P56：4か所、P63, P112：5か所) を引っ掛けてください。

（b） 取付ねじを締めます。(P56：2 か所、P63, P112：5 か所・キャップ付 3 か所)

（c） ボトムパネルの両側にあるツメ（2か所）を引っ掛け、ボトムパネルを取付けてください。(P56のみ)

（d） ボトムパネルの取付ねじを締めてください。(P56・キャップ付き)

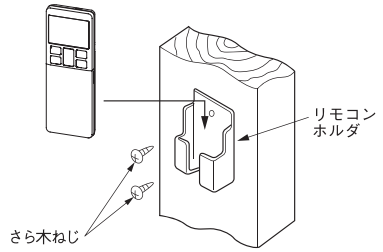
（e） 吸込パネルを取付けてください。

④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダの据付

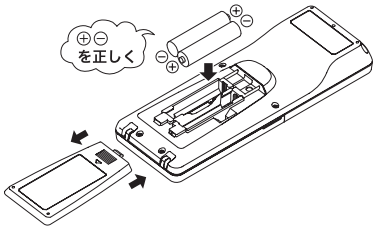
1. リモコンホルダを付属のねじで固定してください。

※ホルダ取付時の注意
・垂直になるよう調節してください。
・ねじ頭が出ないようにしてください。
・土壁等へは取付けないでください。



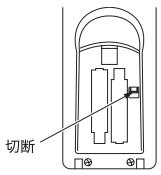
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取付ける。



④ ワイヤレスリモコンの続き

リモコンの設定変更

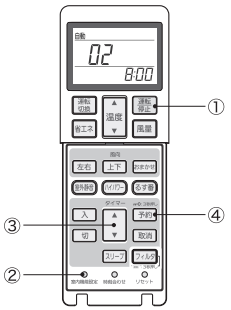
自動運転の設定変更のしかた
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ（除く冷暖フリーマルチ）は自動運転ができません。
これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります。
電池を取外した時は、再度上記操作を行ってください。



室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
   ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
   ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
   ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
   ④ 予約ボタンを押す。
   リモコン信号受信部より、ピッピッと 2 回ブザーが鳴り、
   LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



2. 設定内容
   機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定　標準
	01	風速設定　設定 1　※
	02	風速設定　設定 2　※
運転切換	00	暖房室温補正　無効
	01	暖房室温補正　＋ 1℃
	02	暖房室温補正　＋ 2℃
	03	暖房室温補正　＋ 3℃
フィルター	00	フィルターサイン表示　なし
	01	フィルターサイン表示　180 時間
	02	フィルターサイン表示　600 時間
	03	フィルターサイン表示　1000 時間
	04	フィルターサイン表示　1000 時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　無効
	01	ドラフト防止設定（エアフレックス設定）　有効
室外静音	00	人感センサー設定　無効
	01	人感センサー設定　有効
ハイパワー	00	人感センサー制御　無効
	01	人感センサー制御 パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御 オートオフのみ
	03	人感センサー制御 パワーコントロール＋オートオフ

ボタン	番号表示部	機能設定
入	00	冷房ファン残留運転　無効
	01	冷房ファン残留運転　0.5 時間
	02	冷房ファン残留運転　2 時間
	03	冷房ファン残留運転　6 時間
切	00	暖房ファン残留運転　無効
	01	暖房ファン残留運転　0.5 時間
	02	暖房ファン残留運転　2 時間
	03	暖房ファン残留運転　6 時間
るす番	00	リモコン信号受信部 LED　輝度明
	01	リモコン信号受信部 LED　輝度暗
	02	リモコン信号受信部 LED　消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長　0.1 m
	0.2	グリル自動昇降降下長　0.2 m
	・	・
	・	・
	2.0	グリル自動昇降降下長　2.0 m
	・	・
	・	・
	3.9	グリル自動昇降降下長　3.9 m
	4.0	グリル自動昇降降下長　4.0 m
運転 / 停止	50	グリル自動昇降周波数　50Hz
	60	グリル自動昇降周波数　60Hz

※　詳細は341ページを参照ください。

⑤ 受信部

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

① 1 つのリモコンで複数台のユニット（最大 16 台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。

② グループ制御用に各室内ユニット間を
2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

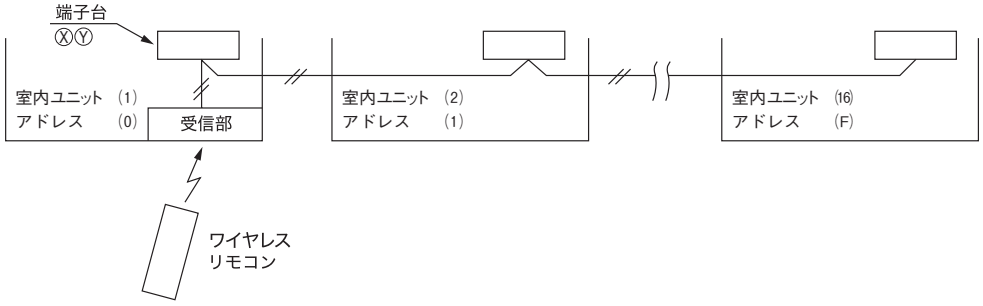
渡り配線の太さと長さの制限（最大 600m）

標準	0.3 mm² × 100m 以内
	0.5 mm² × 200m 以内
	0.75mm² × 300m 以内
	1.25mm² × 400m 以内
	2.0 mm² × 600m 以内

⑤ 受信部の続き

店舗シリーズの場合

③ 室内基板上のロータリスイッチSW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

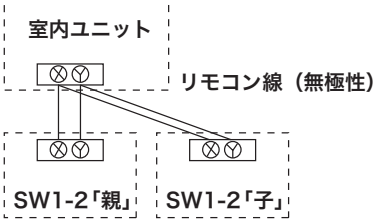


ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

④ 室内・室外No. を手動アドレス設定にてセットしてください。
室内ユニット基板上のロータリスイッチSW1、SW2により、室内No. を重複しないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット 1 台（または 1 グループ）に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。

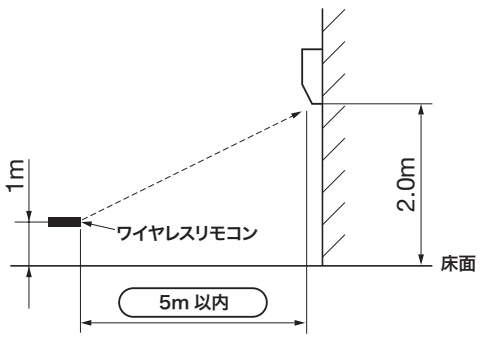


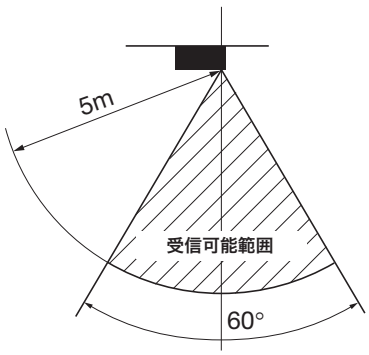
スイッチ	設定	機能内容
SW1-2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

壁掛の場合

① 標準的受信距離

条件 受信部照明度 360 ルクス（一般事務所で受信アダプタ周辺 1 m以内の天井面に照明がない場合）

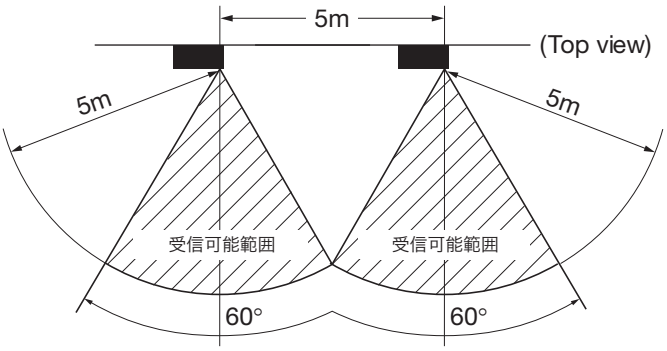




⑤ 受信部の続き

② 隣接設置時の受信部照度と受信距離の関係

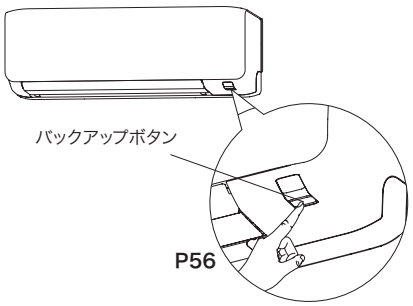
条件 **受信部照明度 360 ルクス**



バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。
操作は手で直接操作してください。

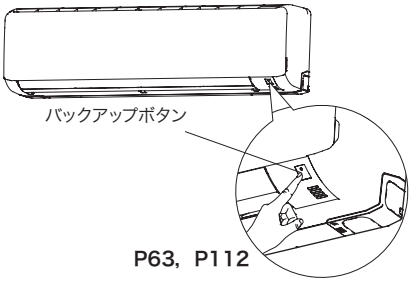
⑴ 停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
⑵ 運転中に押すことにより「停止」します。



P56

冷房試運転操作

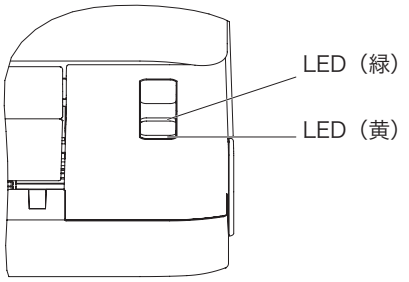
- 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。
- 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。
- 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼付の結線銘鈑の点検表示を参照し、点検してください。



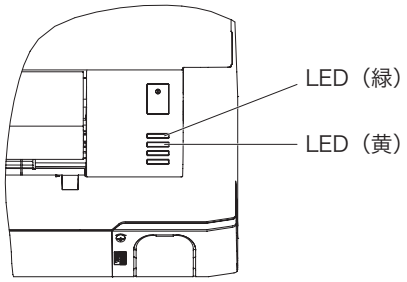
P63, P112

注意

・LED（緑）と LED（黄）はエラーコードを示します。
・点滅する回数でエラーコードを表示し、LED（緑）は 10 の位、LED（黄）は 1 の位を示します。

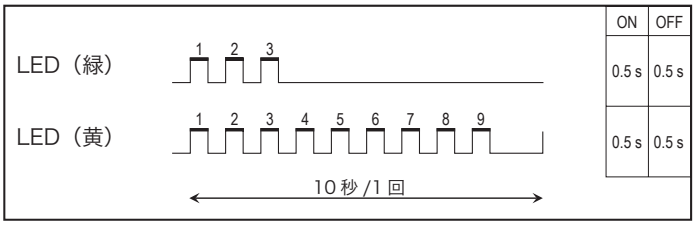


P56



P63, P112

表示方法
例：E39 エラーの場合



(2) 人感センサキット

(a) FDTW シリーズ（LB-TW-6W）

PJB012D310 A

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

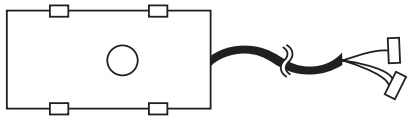
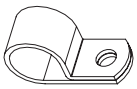
●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

(1) 直射日光の当たる場所
(2) 発熱器具の近く
(3) 湿気の多い所・水のかかる所
(4) 取付面が発熱・結露する場所
(5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
(6) 取付面に凹凸がある所
(7) 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
(8) 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が当たる場所
(9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
(10) 長時間振動が加わる場所
(11) 静電気や強い電磁波のある場所
(12) 塵埃の多い場所､レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

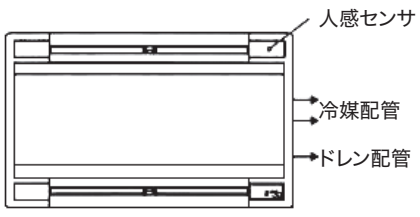
① 付属品

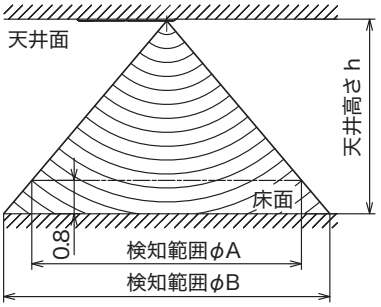
次の付属品を確かめてください。

受信部	グロメット	配線クランプ	ねじ	説明書
				

② 人感センサ据付場所、検知範囲

・据付高さは床面より４m以内としてください。
センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。





高さ　h〔m〕	2.7	3.5	4.0
検知範囲 φA〔m〕	4.5	6.4	7.6
検知範囲 φB〔m〕	6.4	8.3	9.5

③ 受信部の取付＜パネル吊り込み前の作業＞

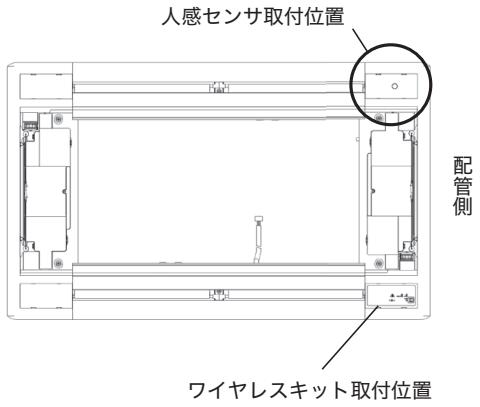
※注意： 下図に示すコーナーリッド部にのみ、人感センサを取付けることが可能です。
受信部の取付向きに注意してください。

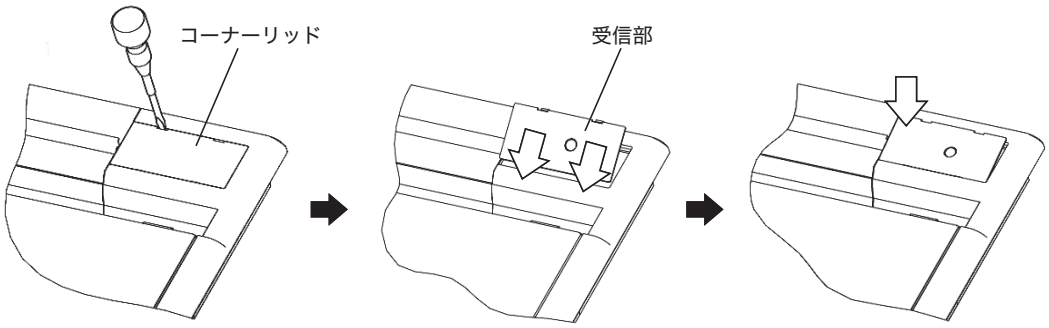
① 人感センサ取付位置のコーナーリッドを取外してください。
溝に工具を挿し、フレームを傷付けないように軽く外側に倒してください。

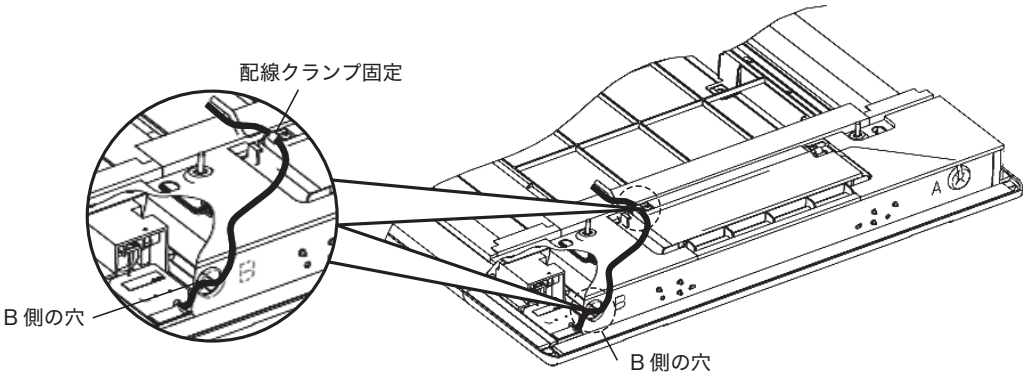
② パネル側面に貼付けられた断熱材のスリット（丸穴（φ 25）、B側）を切取り、付属のグロメットを取付けてください。

③ 受信部の配線を B 側の穴に通した後、受信部のツメ部（2 か所）をフレームに挿しながら外側を押込み取付けます。

④ パネル天井裏側図に示すように配線を通し、付属の配線クランプ・ねじにて固定します。





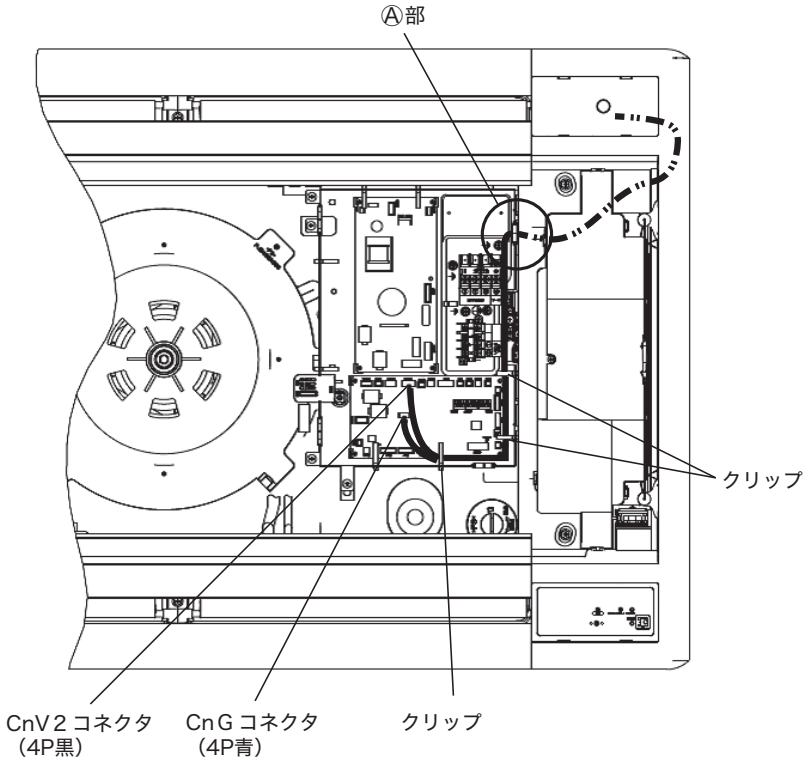


④ パネル付属の説明書を参照して、室内ユニットへパネルを装着してください。

※注意： パネル取付時、配線を挟込まないようにしてください。

⑤ コントロール ボックス内の配線接続

① サービスパネルとエアフィルタを取外してください。
② ユニット本体のコントロール ボックスの蓋を取外してください。(ねじ 2 か所)
③ Ⓐ部から配線をコントロール ボックス内へ入れてください。
④ 配線をクリップ (3 か所) で固定してください。
⑤ CnG コネクタ (4P 青) を制御基板に接続してください。
⑥ CnV2 コネクタ (4P 黒) を制御基板に接続してください。



⑹ FDTS, FDR, FDU, FDK（LB-KIT）

⑻ 据付要領

PJZ012D121 A

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯(特にインバータタイプ)の近くあるいは、直射日光が当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ 長時間振動が加わる場所
⑾ 静電気や強い電磁波のある場所
⑿ 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所
⒀ 室内ユニットの電源線などの強電圧線と並走する場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

① 取付前の準備

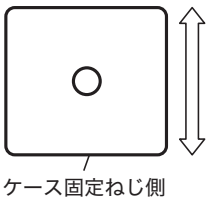
次の付属品を確かめてください。

受信部	配線〈1〉	配線〈2〉	木ねじ 2 本	説明書
	室内ユニット基板にCnLコネクタがある場合(FDT･FDK) 	室内ユニット基板にCnLコネクタがない場合 		

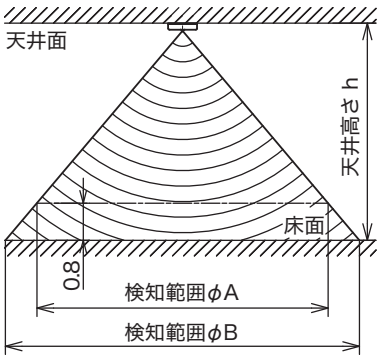
※受信部と室内ユニット間の中継配線は現地手配してください。(0.2mm^{2}以上 3心(赤､白､黒)通信用ケーブル 最大8m)

② 人感センサ検知範囲・設置場所

・据付高さは床面より4m以内としてください
　センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・⇔印方向の動きをより検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。
・本製品は壁面にも設置可能ですが、天井面設置を推奨します。
・壁面設置の場合、検知範囲は正面で約 5m、左右約 100° です。



高さ　h〔m〕	2.7	3.5	4.0
検知範囲 φA〔m〕	4.5	6.4	7.6
検知範囲 φB〔m〕	6.4	8.3	9.5



③ 受信部の取付

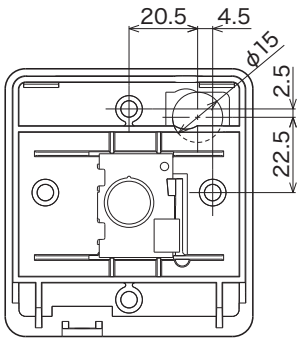
天井面あるいは壁面（以後あわせて天井面と呼ぶこととします）への取付方法として、下記3種類の取付が可能です。設置場所に応じて選んでください。

〈取付方法〉

（A）天井面への木ねじによる直接取付、配線を天井面内に収める場合

（B）天井面への木ねじによる直接取付、配線を部屋内にはわせる場合

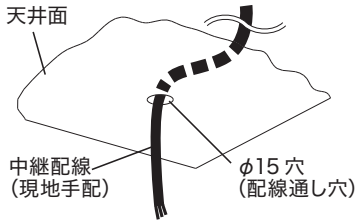
（C）JIS ボックス（現地手配）による取付の場合



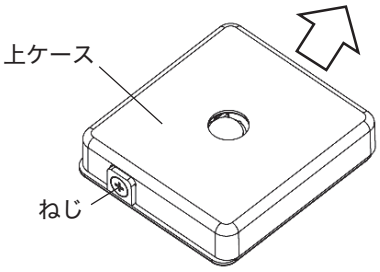
中継配線の取出穴とねじ取付穴との位置関係

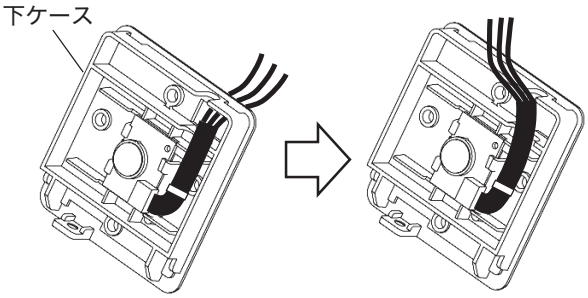
（A）の場合

▸天井面に、人感センサキットを直接木ねじで取付けても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

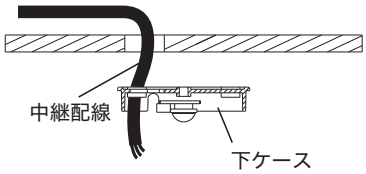


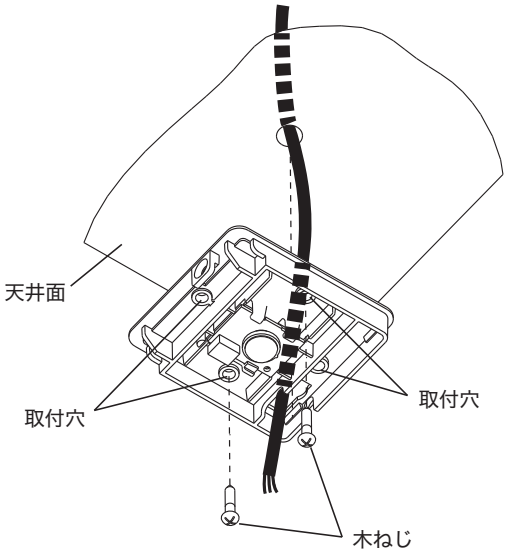
① 現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。
② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。
③ 受信部側の配線を下図のように手前へ取出してください。





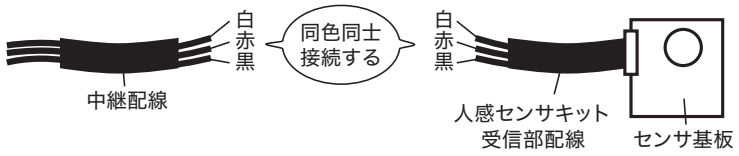
④ 中継配線を下ケース穴に通してください。
⑤ 下ケースを天井面に固定する際は、右図の取付穴（4か所）のうち、対辺2か所を付属の木ねじにより締付けてください。



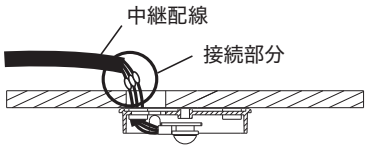


③ 受信部の取付の続き

⑥ 圧着端子等を用いて、現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。



⑦ 配線の接続部分を天井面の内側へ入れてください。
⑧ 下ケースの配線貫通穴をパテでシールしてください。
⑨ 配線をかみこまないよう注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。

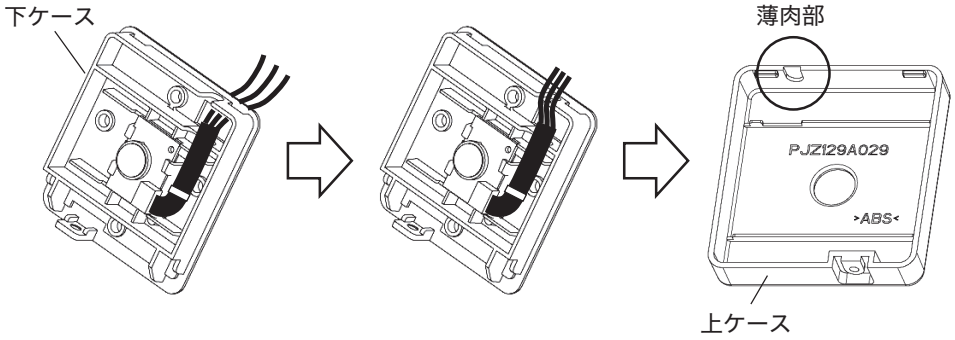


注意：トラッキング防止のため、接続部分にほこり等がつもらないよう施工してください。

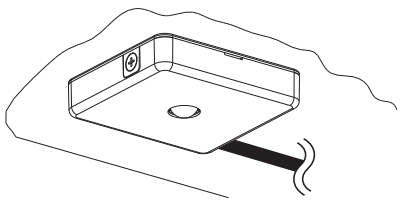
(B) の場合

►天井面に、人感センサキットを直接木ねじで取付けても強度的に問題ない場合はこの方法で取付けてください。

① 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。(A ②と同じ)
② 受信部の配線を側面方向へ取出します。
上ケースの薄肉部を削り取って使用してください。



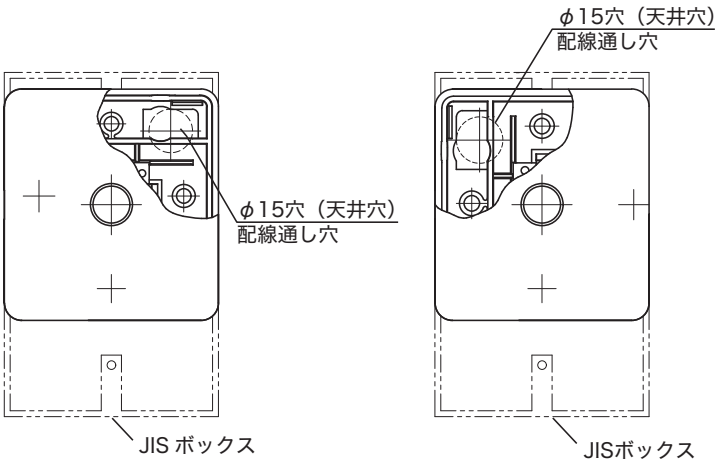
③ 下ケースを天井面に固定する際は、取付穴(4 か所)のうち、対辺 2 か所を付属の木ねじにより締付けてください。((A) ⑤と同じ)
④ 圧着端子等を用いて現地手配の中継配線と受信部の配線を同色同士で接続してください。
((A) ⑥と同じ)
⑤ 配線をかみこまないように注意しながら上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。((A) ⑨と同じ)
⑥ ②で切取った部分をパテでシールしてください。



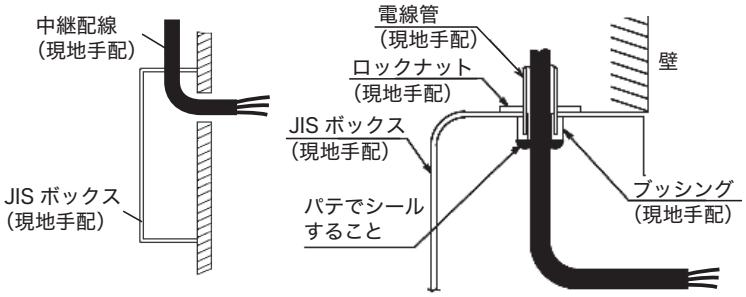
③ 受信部の取付の続き

（C）の場合

① JIS ボックスと現地手配の中継配線をあらかじめ設置しておきます。中継配線引込口はパテでシールしてください。（右図参照）



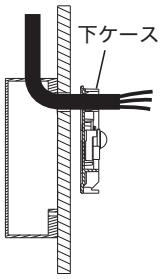
JIS ボックスと配線通し穴との位置関係



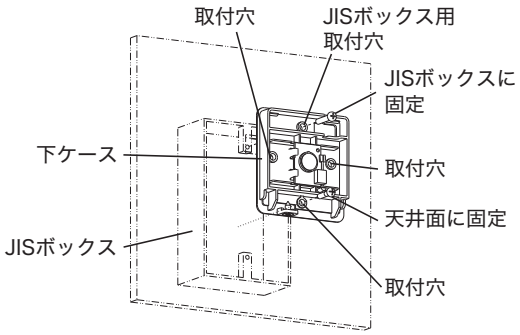
② 受信部側面のねじを外し、上ケースを矢印の方向へスライドさせ取外します。（（A）②と同じ）

③ 受信部側の配線を手前へ取出してください。（（ A ）③と同じ）

④ 中継配線を JIS ボックス側から下ケース穴に通してください。



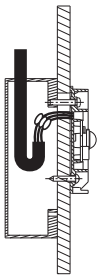
⑤ 右図の取付穴（1 か所）を用いて、下ケースを JIS ボックスに固定してください。



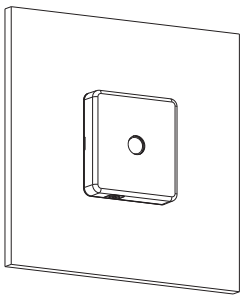
③ 受信部の取付の続き

⑥ 現地手配の中継配線と受信部側の配線を同色同士で接続してください。((A) ⑥と同じ)

⑦ 配線の接続部分を④項で配線を通した下ケースの穴より、下ケースと JIS ボックスとの間へ入れてください。



⑧ 配線をかみこまないように注意しながら 上ケースを下ケースにはめ込み、ねじを締めてください。((A)⑨と同じ)

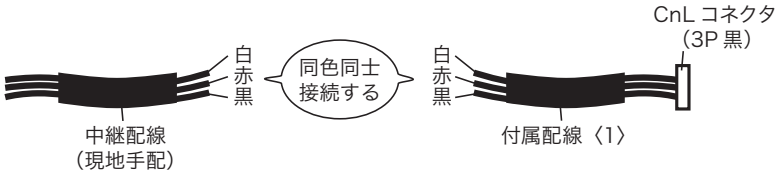


④ 本体コントロールへの配線接続

注意：人感センサ付属配線は、室内ユニットの機種ごとに使用する配線が異なります。配線取付前に、確認してください。

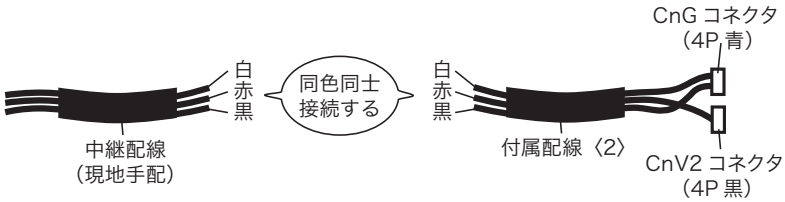
〈室内ユニット基板に CnL コネクタがある場合（FDT、FDK）〉

① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈1〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロール ボックスの蓋を取外してください。
③ CnL コネクタ（3P 黒）を基板へ接続してください。

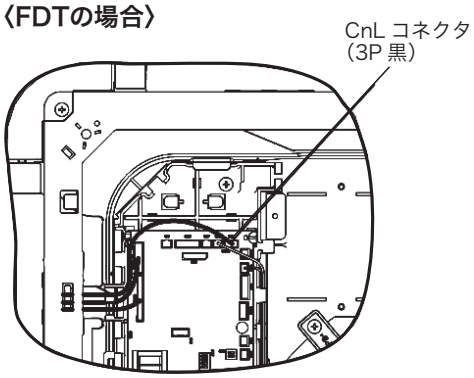


〈室内ユニット基板に CnL コネクタがない場合〉

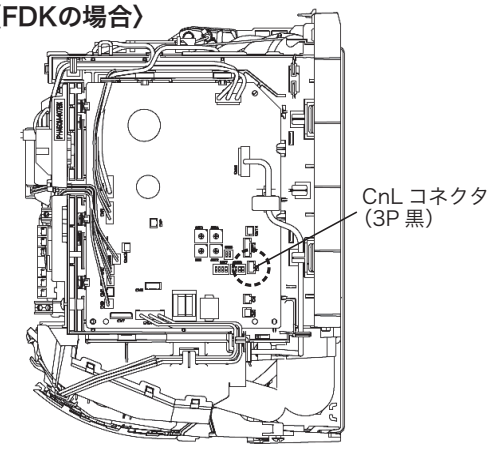
① 現地手配の中継配線と、人感センサ付属配線〈2〉を同色同士で接続してください。
② ユニット本体のコントロール ボックスの蓋を取外してください。
③ CnG コネクタ（4P 青）を制御基板へ接続してください。
④ CnV2 コネクタ（4P 黒）を制御基板へ接続してください。



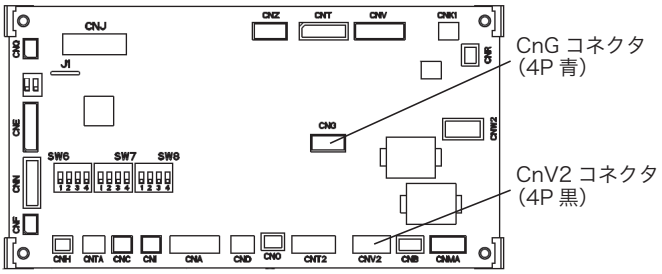
〈FDTの場合〉



〈FDKの場合〉



〈その他室内ユニットの場合〉



(c) FDE シリーズ（LB-E）

PFA012D632 A

⚠ 警告

●室内ユニットのコントロールボックス内にあるプリント基板に配線を接続し、基板に想定外の負荷がかからないように、配線を確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合は、異常発熱や火災の原因になります。

●電気配線作業の際は、必ず電源を OFF にすること。
電気配線作業にあたって電源が ON のままだと、感電・故障・誤作動の原因になります。

⚠ 注意

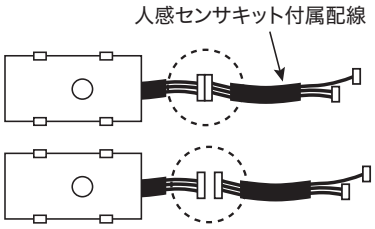
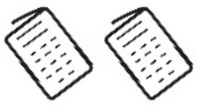
●人感センサキットを下記場所に設置しない。
人感センサキット故障や変形の原因、誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。

⑴ 直射日光の当たる場所
⑵ 発熱器具の近く
⑶ 湿気の多い所・水のかかる所
⑷ 取付面が発熱・結露する場所
⑸ 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
⑹ 取付面に凹凸がある所
⑺ 室内ユニットの吹出空気が当たる場所
⑻ 蛍光灯（特にインバータタイプ）の近くあるいは、直射日光が当たる場所
⑼ 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
⑽ 長時間振動が加わる場所
⑾ 静電気や強い電磁波のある場所
⑿ 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れおよび損傷を与える恐れのある場所

●人感センサをカバーを付けずに放置しない。
カバーを取外す場合は、梱包や袋を使用して人感センサを保護してください。水やほこりとの接触をさけてください。

① 付属品

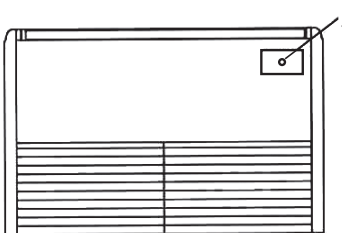
次の付属品を確かめてください。

受信部（※）	説明書
	

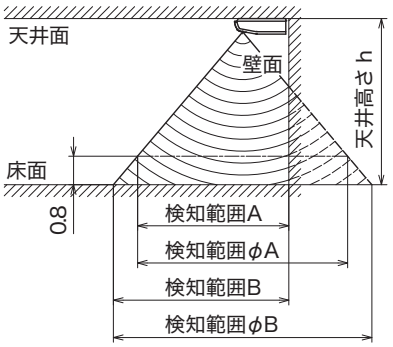
※受信部側配線と付属配線はコネクタ接続した状態で出荷しています。
○印部分のコネクタを取外してから室内ユニット付属配線へ接続し、使用します。

② 人感センサ据付場所、検知範囲

・据付高さは床面より4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
・周囲との温度差のある物体が動くことにより、センサが検知します。
・小さな子供や動きの少ない乳児は検知できない場合があります。
・人の活動範囲の近くで人感センサを使用したい場合は、別置形の人感センサを使用してください。
・ワイヤレスリモコンと人感センサを併用する場合は、別置形の人感センサを使用してください。



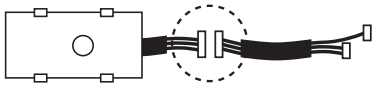
天井高さ　h〔m〕	2.7	3.5	4.0
検知範囲　A〔m〕	2.9	3.9	4.5
検知範囲 φA〔m〕	4.5	6.4	7.6
検知範囲　B〔m〕	3.9	4.8	5.4
検知範囲 φB〔m〕	6.4	8.3	9.5



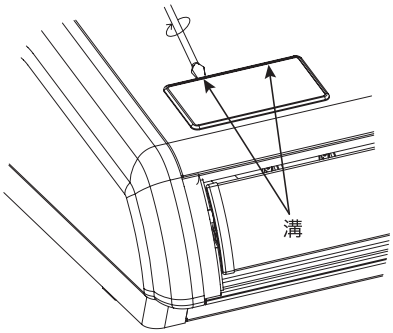
③ 受信部の取付＜ユニット吊り込み前の作業＞

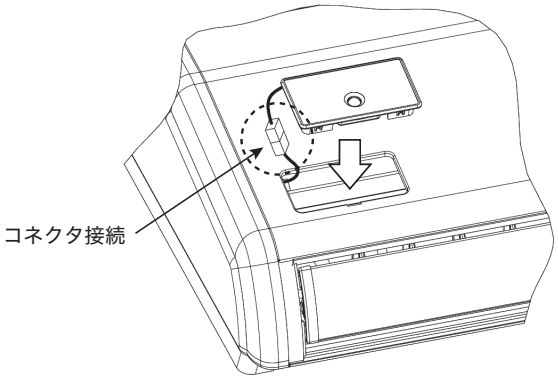
人感センサーキットの受信部は、パネルのカバーと交換することにより取付可能です。
注意：**本体吊り込み前に受信部を取付けてください。**
　　吊り込み後に取付ける場合、高所作業となり、転倒などによりケガの恐れがあります。

① 受信部と配線のコネクタを取外してください。



② パネルのカバーの溝（2 か所）に工具を挿し、
　パネル塗装面を傷付けないように軽くねじり、カバーを取外してください。
③ パネル穴部の配線（室内ユニット付属、配線色：白・赤・黒、コネクタ：3P 白）と受信部の配線を装着してください。受信部の取付向きに注意してください。
注意：**配線を固定しているクランプは外さないでください。**





④ 受信部の取付
　コネクタをパネルの下に入れ、受信部の向きに注意し、パネルへ取付けてください。

注意：コネクタは受信部を取付ける前に接続してください。
　　取付後にコネクタを接続する場合、パネルを外す必要があります。

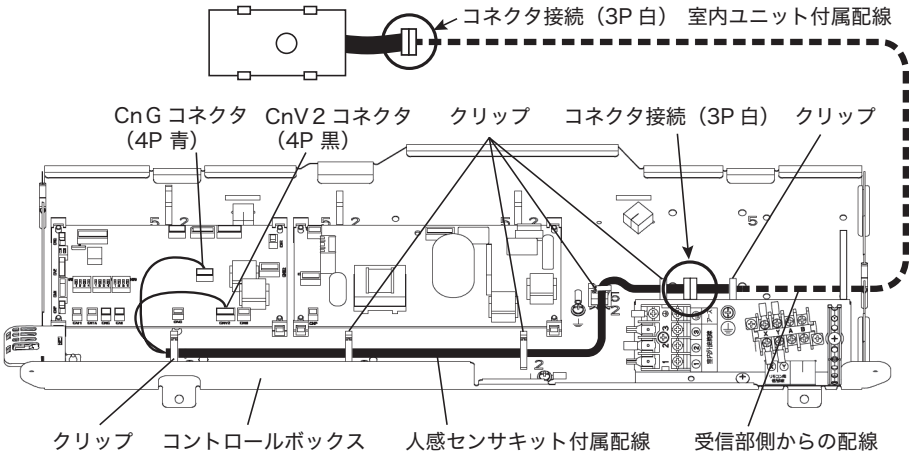
④ コントロール ボックス内の配線接続

① 受信部からの配線（室内ユニット付属、配線色：白・赤・黒、コネクタ：3P 白）と人感センサキット付属の配線を接続してください。

② 配線をクリップ（6 か所）で固定してください。

③ CnG コネクタ（4P 青）を制御基板に接続してください。

④ CnV2 コネクタ（4P 黒）を制御基板に接続してください。



⑷ **共通事項（取扱方法）**

PJZ012A163

ご使用上のご注意

⚠ 警告

●子供・病気の方など 補助を必要とする人が使う場合、周囲の人が十分注意する。
異常や人感センサ制御などにより空調機が停止した場合、体調不良や事故の原因になることがあります。

お知らせ

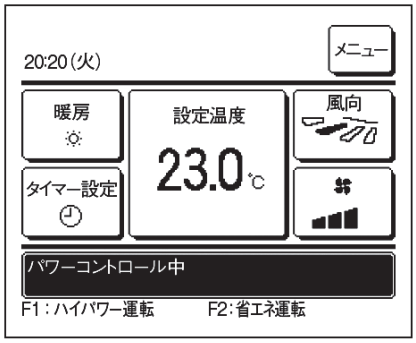
・検知エリアの隅では人を検知しにくくなります。
・周囲と温度差のある物体が動く場所に据付けた場合「人がいる」と検知する場合があります。
・設定温度の補正に伴い、肌寒く感じる場合があります。

本品は、赤外線センサを利用して検知範囲内の人の活動量を検知し、エアコンの制御を補助するものです。
リモコンからご希望の制御を設定して頂き、ご使用ください。

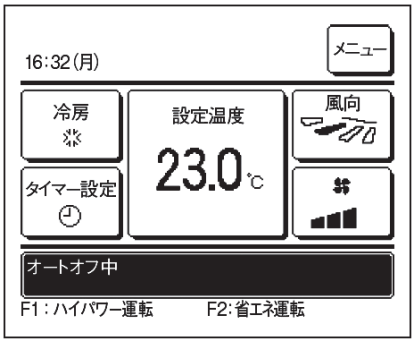
室内ユニット制御	検知状況	制御内容	エコタッチリモコン表示
①パワーコントロール	活動量が多い時	快適性を重視して室温設定を下げる。	パワーコントロール中
	活動量が少ない時	省エネ重視して室温設定を上げる。	パワーコントロール中
②オートオフ	検知無し 1 時間経過	運転停止＋待機状態	オートオフ中
	検知無し 12 時間経過	運転停止	ー
①＋②	上記の組合せ	上記のいづれか	上記のいづれか
全て無効（出荷時）	ー	標準制御	ー

センサ未接続・センサ不良の場合は活動量検知無し（少ない）状況の制御になります。

設定方法は、次項を参照してください。



・パワーコントロール有効の場合
人感センサにより人の活動量を検知し、
設定温度を補正します。
設定温度を補正中はメッセージ表示部に
「パワーコントロール中」を表示します。



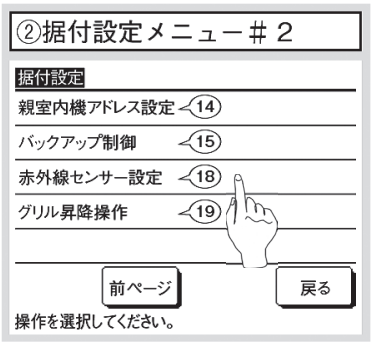
・オートオフ有効の場合
人が不在となって、1 時間すると『運転待機』状態、
さらに 12 時間経過すると『完全停止』します。
『運転待機』…エアコンは停止しますが 、人が戻ると運転を再開します。
メッセージ表示部に「オートオフ中」を表示します。
『完全停止』…エアコンを停止します。人が戻っても運転を再開しません。
メッセージ表示部の「オートオフ中」表示が消え、運転ランプが消灯します。

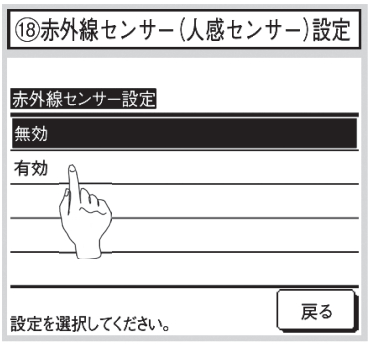
制御設定 <エコタッチリモコンから設定する場合>

●エコタッチリモコン付属の据付説明書を参照して、赤外線センサ（人感センサ）を有効に設定する。

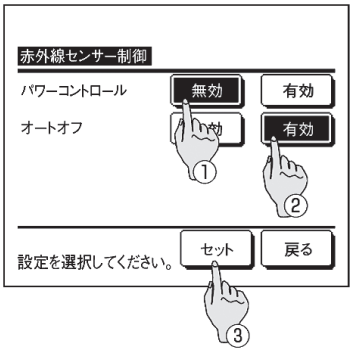
TOP 画面 **メニュー** ⇒ **サービス設定** ⇒ **据付設定** ⇒ **サービスパスワード**







●エコタッチリモコン付属の取扱説明書を参照して、制御モードを設定する。
■赤外線センサ（人感センサ）制御
人感センサにより人の有無・活動量をセンサで判定し、各制御を行います。
■リモコンが子リモコン設定されている場合、赤外線センサ（人感センサ）制御の設定はできません。



TOP 画面 **メニュー** ⇒ **省エネ設定** ⇒ **管理者パスワード** ⇒ **赤外線センサー制御**または **人感センサー制御** を選択してください。
赤外線センサ制御画面と現在の設定内容が表示されます。

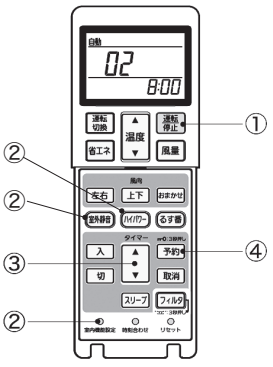
① パワーコントロールの有効 / 無効を設定します。
② オートオフの有効 / 無効を設定します。
③ 各項目設定後、**セット** ボタンをタッチしてください。
省エネ設定メニュー画面に戻ります。

制御設定 <ワイヤレスリモコンから設定する場合>

●ワイヤレスリモコン付属の据付説明書を参照して、**室内機能設定** の人感センサを有効に設定する。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた
① 運転／停止を押し、停止状態にする。
② 室内機能設定スイッチを押しながら、２項に示すボタンを押す。
③ 選択ボタン▲、▼で設定番号を選択する。
④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピッピッと２回ブザーが鳴り、LED は２秒毎に４回点滅します。



2. 設定内容

ボタン	番号 表示部	機能設定
室外静音	00	人感センサー設定：無効
	01	人感センサー設定：有効
ハイパワー	00	人感センサー制御：無効
	01	人感センサー制御：パワーコントロールのみ
	02	人感センサー制御：オートオフのみ
	03	人感センサー制御：パワーコントロール＋オートオフ

(3) コンパクトリモコン（RCH-D3）

PJZ012D068 A

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

⚠警告

- **配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。**
  接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- **元電源を切った後に電気工事をする。**
  感電、故障や動作不良の原因になります。

⚠注意

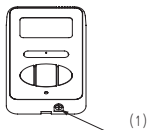
- **下記の様な所にリモコンを設置しない。**
  リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
  (1) 直射日光の当たる場所
  (2) 発熱器具の近く
  (3) 湿気の多い所・水の掛る所
  (4) 取付面が発熱・結露する場所
  (5) 油の飛沫や蒸気が直接触れる場所
  (6) 取付面に凹凸がある所
- **リモコンの上ケースを取外したまま放置しない。**
  上ケースを取外した場合は、内蔵の基板にゴミや水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包袋に入れて保護してください。

付属品	リモコン本体、 木ねじ（φ3.5 × 16） 2 本
客先手配品	リモコンコード （2 心）(「2. リモコンコードを延長する場合の注意」を参照ください。) ［ 埋込取付の場合 ］ JIS ボックス、M4 ねじ（2 本） ［ 露出取付の場合 ］ コードクランプ （適時）

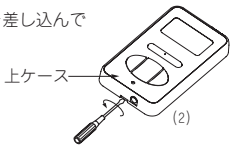
1. 取付要領

埋込取付けの場合

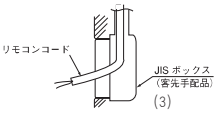
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



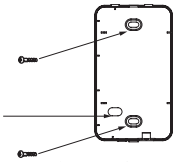
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。

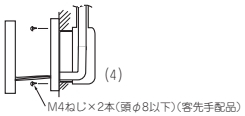


(3) JIS ボックスとリモコンコードをあらかじめ埋め込んでおきます。
［ 使用可能 JIS ボックス ］
JIS C 8336 1 個用スイッチボックス



(4) M4 ねじ 2 本（推奨長さ 12～16mm）を用意して、下ケースを JIS ボックスに取付けてください。
ねじ穴の周囲の壁の高さより、ねじ頭の大きなねじを、使用しないでください。



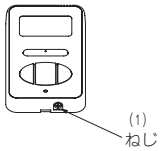


(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。
（X，Y の極性はありません。）

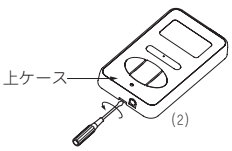
(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

露出取付の場合

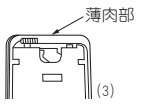
(1) リモコンの下面のねじを必ず外してください。



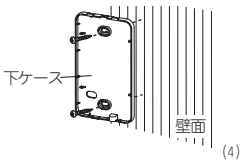
(2) リモコンの上ケースを外してください。
リモコン下面の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースを外します。



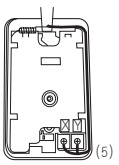
(3) リモコンコードの取出方向は、上部中央から可能です。
リモコン上ケースの上方の薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。



(4) リモコンの下ケースを付属の木ねじ 2 本で平らな壁に取付けます。

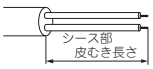


(5) リモコンコードを端子台に接続してください。
リモコンの端子（X，Y）と室内ユニットの端子（X，Y）とを接続してください。(X，Y の極性はありません。)
配線経路は右図の通りとなります。



リモコンケース内を通る配線は、0.3mm^2（推奨）～最大 0.5mm^2 以下としてください。
また、シース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは、下記の通りです。

X 配線：160mm Y 配線：150mm



(6) リモコンコードが噛みこまない様に、上ケースを元通り取付け、外したねじで固定してください。

(7) 露出取付の場合は、リモコンコードがたるまないように、コードクランプ等で壁面に固定します。

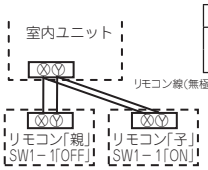
2. リモコンコードを延長する場合の注意

最大総延長 600m

(1) リモコンコードは 0.3mm^2×2 心です。
延長距離が 100m を超える場合は、下記サイズに変更してください。
ただし、リモコンケース内を通る配線は0.3mm^2（推奨）～最大0.5mm^{2}以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。配線接続する際は、水分等が浸入しない様な処置を行ってください。また、配線の接続は、接触不良のない様確実に行ってください。
100～200m 以内 ……0.5mm^2 × 2 心
300m 以内 ……0.75mm^2 × 2 心
400m 以内 ……1.25mm^2 × 2 心
600m 以内 ……2.0mm^2 × 2 心

3. 複数リモコン使用時の親子設定

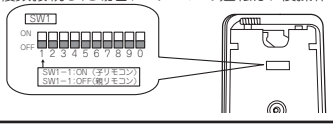
(1) 室内ユニット 1 台（または 1 グループ）に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。



スイッチ	設定	機能内容
SW1−1	ON	子リモコン
	OFF	親リモコン

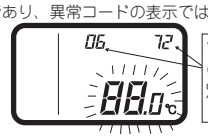
(2) 子リモコンの切換スイッチ SW1-1 を「子」(ON) に設定してください。工場出荷時は「親」(OFF)設定です。

(注)・リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
・親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください
・リモコンを複数接続した場合、エアコンの運転は、後操作したリモコンに従います。



4. 電源投入時の表示

(1) 電源投入時、最初の２秒間全点灯した後、下記表示となります。
リモコンLCD 上部に表示される番号は、ソフトウェアの管理番号を表示させて
いるものであり、異常コードの表示ではありません。



ソフトウェア管理番号
（左記記号は一例です。
別の番号が出る場合もあ
ります。）

(2) その後、リモコンと室内ユニットの通信が確定するまで、リモコンには、「88.0℃」
が点滅します。

(3) 室内ユニット１台（または１グループ）に、１個のリモコンを接続する場合は、
必ず親リモコン（出荷時設定）としてください。
子リモコンにすると通信ができません。

(4) リモコンと室内ユニットの通信ができない
状態が30 分程度続くと、「 E」表示がでます。
室内ユニットおよび室外ユニットの配線、および
リモコンの親子設定等をご確認願います。



5. 吸込温度の確認方法

リモコン操作により、吸込温度の確認ができます。

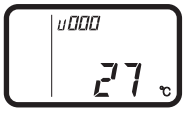
(1) **エアコンNo ボタンを５秒以上押す。**
温度設定表示部に、「88」が点滅します。
（データを読み込む間約２秒間点滅）
↓
その後、吸込温度を表示します。
（例）吸込温度：「27℃」（点灯）
（注）吸込温度は、通常の場合室内ユニットの吸込温度を表示しますが、リモコ
ンセンサ有効の場合は、リモコンセンサ検知温度が表示されます。



(2) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

【リモコンセンサが無効で､一つのリモコンに複数台の室内ユニットが接続されている場合】

(1) **エアコンNo ボタンを５秒間押す。**
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの､最も若い番号を表示。）



(2) **TEMP △ または TEMP▽ ボタンを押す。**
室内ユニットの番号を選びます。

(3) **MODE ボタンを押す。**
室内ユニットNoを確定します。

（例）室内ユニットNo表示部：「U 000」
温度設定表示部に､「88」が点滅します。（データを読み込む間約2～10秒間点滅）
その後、吸込温度を表示します。 エアコンNo ボタンを押すと、室内ユニット選択表示
（例「U 000」）に戻ります。

(4) **運転／停止 ボタンを押す。**
終了します。

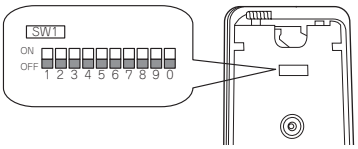
6. 機能設定

リモコンと室内ユニットの各機能は、リモコンと室内ユニットを接続した際に、標準的な使い方である初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更はいりません。ただし、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。**設定内容は記録して保管してください。**

(1) 基板上の切換スイッチによる機能設定項目

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1－1	ON	子リモコン	
	OFF	親リモコン	○
SW1－2	ON	リモコンセンサ有効	
	OFF	リモコンセンサ無効	○
SW1－3	ON	「運転切換」ボタン禁止	
	OFF	「運転切換」ボタン有効	○
SW1－4	ON	「運転／停止」ボタン禁止	
	OFF	「運転／停止」ボタン有効	○

スイッチNo	設定	設定内容	初期設定
SW1－5	ON	「温度設定」ボタン禁止	
	OFF	「温度設定」ボタン有効	○
SW1－6	ON	「風量調整」ボタン禁止	※注１
	OFF	「風量調整」ボタン有効	※注１
SW1－7	ON	停電補償有効	
	OFF	停電補償無効	○
SW1－8, 9, 0	ON OFF	未使用	



・子リモコンは SW1-1 以外は設定無効です。
・風量1速の室内ユニットは「風量調整」ボタン有効にはできません。

(2) ボタン操作による機能設定項目

分類	機能番号	機能	設定番号	設定	初期設定	備考
リモコン機能	01	室内ファン速度	01	ファン速度３速	※注１	ファン風量が、急 - 強 - 弱の３速となります。
			02	ファン速度２速（Hi-Lo）	※注１	ファン風量が、急 - 弱の２速となります。
			03	ファン速度２速（Hi-Me）		ファン風量が、急 - 強の２速となります。
			04	ファン１速	※注１	ファン風量が１速のみで固定されます。
	03	冷房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		冷房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	04	暖房時 リモコンセンサ	01	リモコンセンサ補正なし	○	
			02	リモコンセンサ＋３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋３．０℃温度補正する。
			03	リモコンセンサ＋２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋２．０℃温度補正する。
			04	リモコンセンサ＋１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、＋１．０℃温度補正する。
			05	リモコンセンサ－１．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－１．０℃温度補正する。
			06	リモコンセンサ－２．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－２．０℃温度補正する。
			07	リモコンセンサ－３．０℃		暖房時、リモコンセンサ有効の場合、－３．０℃温度補正する。
	05	換気設定	01	換気接続なし	○	
			02	エアコンと連動		シングル機は室内基板 CnT、マルチ機は室内基板 CND に換気機器を接続すると、室内ユニットの運転に連動し、換気機器の運転／停止を行います。
	06	「自動」運転設定	01	「自動」運転有効	※注１	
			02	「自動」運転無効	※注１	「自動」運転不可
室内機能	07	運転許可 / 禁止	01	無効	○	
			02	有効		運転許可／禁止制御を有効にします。
	08	外部入力切替	01	レベル入力	○	
			02	パルス入力		
	09	高天井設定	01	標準	注２	
			02	高天井１	注２	
			03	高天井２	注２	
	10	冷房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	冷房停止後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		冷房停止後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	１時間		冷房停止後、１時間ファン残留運転する。
			04	６時間		冷房停止後、６時間ファン残留運転する。
	11	暖房時 ファン残留運転	01	残留運転なし	○	暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、ファン残留運転なし。
			02	０．５時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、０．５時間ファン残留運転する。
			03	２時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、２時間ファン残留運転する。
			04	６時間		暖房停止、または暖房サーモ OFF 後、６時間ファン残留運転する。
	12	暖房室温補正	01	補正なし	○	
			02	室温補正＋３．０℃		暖房時の設定温度を＋３．０℃補正します。
			03	室温補正＋２．０℃		暖房時の設定温度を＋２．０℃補正します。
			04	室温補正＋１．０℃		暖房時の設定温度を＋１．０℃補正します。
	13	暖房ファン制御	01	弱風	○	暖房サーモ OFF 時、弱風で運転します。
			02	設定風量		暖房サーモ OFF 時、設定風量で運転します。電気集塵機を取付けた場合は「設定風量」に設定してください。
			03	間欠運転		暖房サーモ OFF 時、間欠運転します。
			04	停止		暖房サーモ OFF 時、ファンは停止します。 リモコンセンサ有効時は、自動的に「停止」に設定されます。本体サーモの時は、設定しないでください。
	14	吸込温度補正	01	補正なし	○	
			02	吸込温度補正＋２．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋２．０℃補正します。
			03	吸込温度補正＋１．５℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．５℃補正します。
			04	吸込温度補正＋１．０℃		室内ユニットの吸込温度を＋１．０℃補正します。
			05	吸込温度補正－１．０℃		室内ユニットの吸込温度を－１．０℃補正します。
			06	吸込温度補正－１．５℃		室内ユニットの吸込温度を－１．５℃補正します。
			07	吸込温度補正－２．０℃		室内ユニットの吸込温度を－２．０℃補正します。

注１：「※」印の初期設定は、接続される室内ユニットおよび室外ユニットにより異なり、下記の通り自動判別されます。

スイッチNo 機能番号	機能	設定	機種
SW1－6	風量調整	「風量調整」ボタン禁止	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
		「風量調整」ボタン有効	室内ファン風量切換えが２速または３速の機種
リモコン機能 01	室内ファン速度	ファン速度３速	室内ファン風量３速の機種
		ファン速度２速（Hi-Lo）	室内ファン風量２速の機種
		ファン速度２速（Hi-Me）	
		ファン１速	室内ファン風量切換えが１速のみの機種
リモコン機能 06	「自動」運転設定	「自動」運転有効	「自動」モード選択可能な機種
		「自動」運転無効	「自動」モードの無い機種

注２：高天井設定時のファンタップ

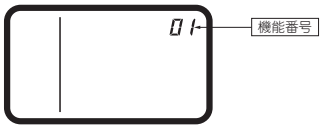
ファンタップ	室内風量設定		
	急 - 強 - 弱	急 - 弱	急 - 強
標準	Hi － Me － Lo	Hi － Lo	Hi － Me
高天井１・２	UHi － Hi － Me	UHi － Me	UHi － Hi

機種によって、初期設定が高天井設定の機種もあります。

注３：ツイン・トリプル・ダブルツイン機の場合、室内機能設定は親室内ユニット・子室内ユニット各々設定してください。ただし、「07 運転許可／禁止」「08 外部入力切替」は親室内ユニットのみで設定可能です。

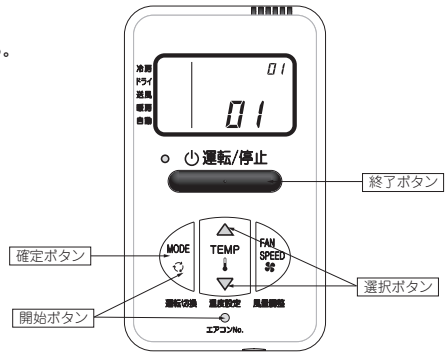
7. ボタン操作による機能設定の仕方

(1) **エアコンを停止させて、エアコンNoとMODEボタンを同時に長押しする。**
右上に、機能番号「01」が点滅します

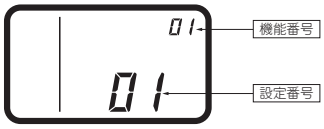


(2) **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
機能番号を選択します。

(3) **MODEボタンを押す。**
機能番号を確定する。

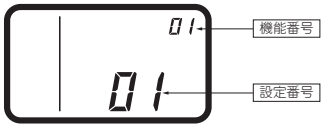


(4) **【リモコン機能（01～06）を選んだ場合】**
① 選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「01」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）



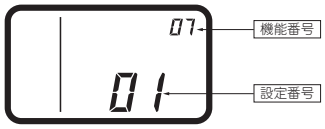
② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。

③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した機能番号と、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
機能番号：「01」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、
続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。
終了する場合は、(5)へお進みください。

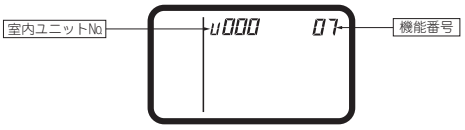
【室内機能（07～14）を選んだ場合】
① **温度設定表示部に、「88」が点滅します。**
（データを読み込む間約2～10秒点滅）
↓
その後、選択した機能番号の現在の設定番号が点滅します。
（例）
機能番号：「07」（点灯）
設定番号：「01」（点滅）



② へお進みください。

【注意】

a. 一つのリモコンに、室内ユニットを複数台接続している場合は、下記表示となります。
室内ユニットNo表示部：「U 000」（点滅）
（接続されている室内ユニットの、最も若い番号を表示。）

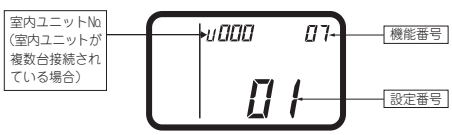


b. TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。
設定したい室内ユニットの番号を選びます。
「U ALL」を選択すると、全台同一の設定ができます。

c. MODEボタンを押す。
室内ユニットNoを確定します。
温度設定表示部に、「88」が点滅します。（データを読み込む間2～10秒点滅）
エアコンNoボタンを押すと室内ユニット選択表示（例「U 000」点滅）に戻ります。

② **TEMP△またはTEMP▽ボタンを押す。**
設定番号を選択します。

③ **MODEボタンを押す。**
設定が完了します。
確定した室内ユニットNo、機能番号、設定番号をデータを送信する間約3～20秒間点灯します。
（例）
室内ユニットNo：「U 000」（3～20秒間点灯）
機能番号：「07」（3～20秒間点灯）
設定番号：「01」（3～20秒間点灯）



その後、機能番号の点滅表示(1)に戻りますので、続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。終了する場合は、(5)へお進みください。

(5) **運転／停止ボタンを押す**
設定を終了します。

・設定の途中で、運転／停止ボタンを押しても終了します。ただし、設定が完了していない内容は無効となりますのでご注意ください。
・設定内容は、コントローラ内部に記憶され停電しても保存されております。

【現在設定の確認方法】
上記操作により、「機能番号」を選び、MODEボタンを押した時に、最初に表示される「設定番号」が、現在設定されている内容です。
（ただし、「U ALL」（全台）を選んだ場合は、室内ユニットNoの最も若い機種の設定番号が表示されます。）

(4) ラクリーナ用リモコン（CRC-L）

外観図



外形寸法：86×40×6.2(H×W×D)mm

適用形式 FDT, FDTW, FDEシリーズ

〔備考〕ラクリーナ用リモコンを使用する場合は、必ず別売のワイヤレスキットを装着してください。

付属品

名称		個数
リモコン		1
リチウムコイン電池 (CR2025)		1
ストラップ		1

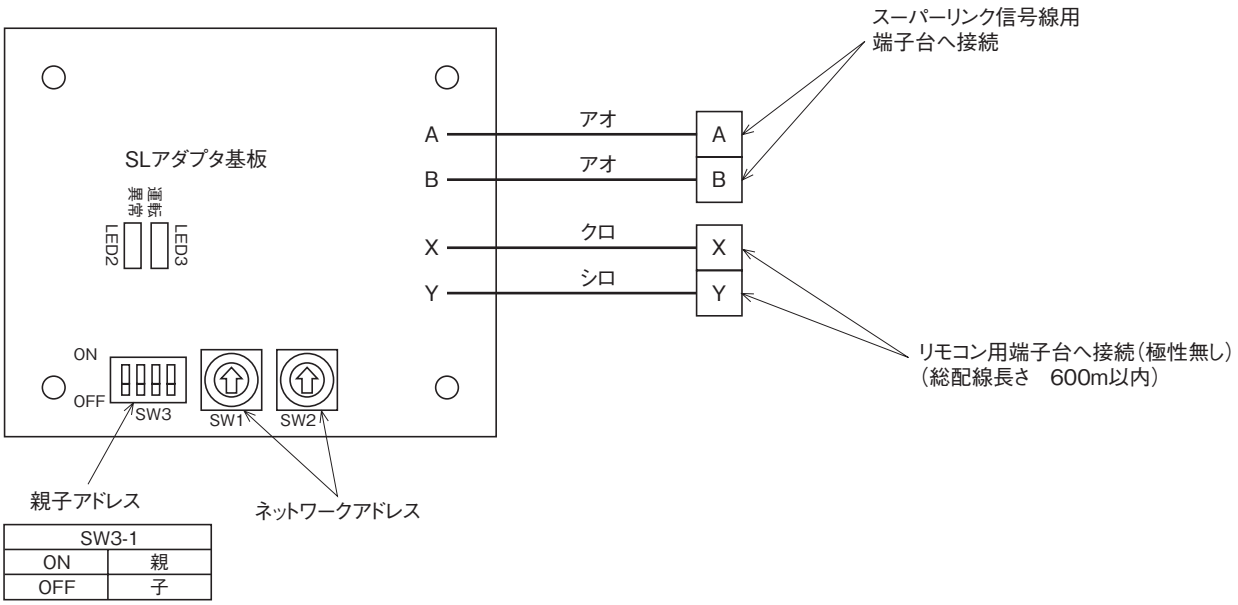
コンパクトサイズでラクリーナパネルの昇降操作を手軽に行えます。

- リモコン通信線上に，ワイヤードリモコン，ワイヤレス受信部は，合計2セットまで接続可能です。ただし，グリル昇降は「親」設定側のみ可能です。本機からグリル昇降させる時は，ワイヤレス受信部基板上の SW2 を「親」設定とし，ワイヤードリモコン側を「子」設定してください。
- 送信距離は最大で約 5m です。受信部に垂直に送信できなかったり，また受信部照度が大きくなると送信距離は短くなる場合があります。
- グリル昇降中はエアコンを停止させてください。

(5) スーパーリンクアダプタ（SC-ADNA）

仕様		機能	
名称	スーパーリンクアダプタ		(1) スーパーリンクオプションからの設定内容を各室内ユニットに送信 (2) スーパーリンクオプションからのデータ要求に対し優先室内ユニットのデータを返信 (3) 接続室内ユニットの異常状態を点検コードでスーパーリンクオプションに送信
形式	SC-ADNA		
適用機種	室外-室内　2心通信仕様		
外形寸法（mm）	プリント基板　65×80×20 板金ボックス100×85×35		
制御可能な室内機台数	最大16台 （同一運転モード）		

接続要領



SW3-1	
ON	親
OFF	子

●信号線

0.75mm^2～1.25mm^{2}のシールド線（MVVS 2心）

注(1)　線径が0.75mm^{2}時で1500mまで，1.25mm^{2}時で1000mまでとなります。
2.0mm^{2}は使用しないでください。誤動作となる場合があります。

注(2)　シールド線は，両端をアースしてください。

リモコンコードを延長する場合の注意

●コードは必ずシールド線を使用してください。

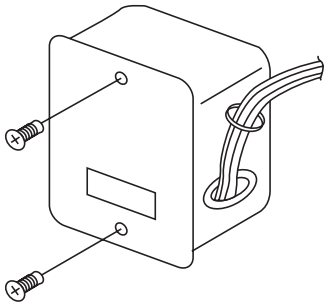
• 0.3mm^2×2心

注(1)　延長距離が100mを超える場合は下記のサイズに変更してください。ただし，リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm^{2}以下とし，リモコン外部の近傍で配線接続により，サイズを変更してください。

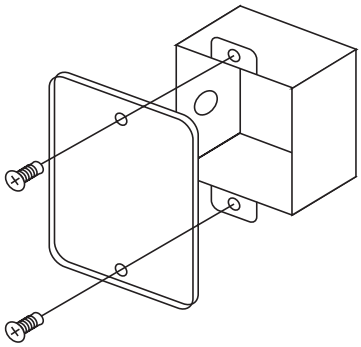
100～200m以内…0.5mm^2×2心
～300m以内…0.75mm^2×2心
～400m以内…1.25mm^2×2心
～600m以内…2mm^2×2心

取付要領

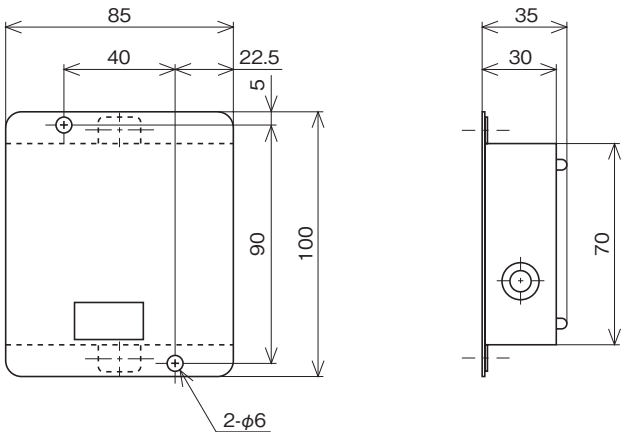
► 室内ユニット外へ設置する場合は，板金カバーを取付けてください。



► リモコン背面へ取付の場合は，直接リモコン下ケースへ取付けてください。



板金ボックス外形図



(6) FDT お掃除ラクリーナパネル（T-PSCLS-5AW）

安全上のご注意

PJF012D039

■工事前に，この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく据付けしてください。お掃除ラクリーナパネル関連事項を抜粋しています。必ず室内ユニットの取扱説明書「安全上のご注意」もお読みください。
■ここに示した注意事項は，「⚠警告」，「⚠注意」に区分していますが，誤った取扱いをしたときに，死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「⚠警告」の欄にまとめて記載しています。しかし，「⚠注意」の欄に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので，必ず守ってください。
■絵表示の例



△記号は，危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



○記号は，禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



●記号は，行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合はアースを行なってください）が描かれています。

■お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。また，お使いになる方が代わる場合は，必ず本書をお渡しください。

据付上の注意事項

⚠警告

据付は，販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると，水漏れや感電， 火災，エアコン落下によるケガの原因になります。

配線は，確実に接続し，端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は，発熱，火災等の原因になります。

元電源を切った後に電気工事をする。
感電，故障や動作不良の原因になります。

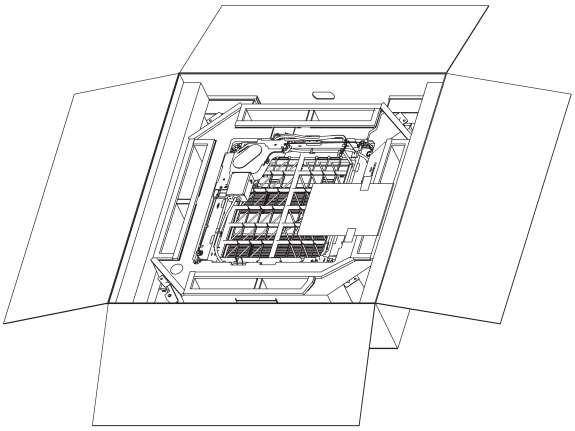
⚠注意

次の場所への設置は避けてください。故障の原因になります。
・油煙が発生する作業場
・粉が浮遊する作業場
・タバコの煙が多いところ
・水蒸気の発生，湿気の多いところ
・化粧品・特殊なスプレーを使用するところ

温度制御が重要なところへの設置は避けてください。
トラブルの原因になります。
エアコン運転中に清掃運転を開始すると，風量 Lo・風向制御停止となります。24 時間運転等のところでは，自動清掃中（約 1 時間）運転状態（能力低下）が変わります。なお，清掃運転中は表示部に緑が点灯します。

お願い

吸込グリルの稼働範囲の周辺および下方に障害物を置かないでください。電源投入前にパネルを取付けた場合は吸込グリルの昇降動作・ブラシの試運転はできません。
吸込グリル取付後はリモコン「上がる」の操作を行い，吸込グリルを正規位置に収納してください。（マイコンが収納位置を記憶したのち，ブラシの初期位置設定を行います。）
この間は，風量・風向の変更は入力されますが，終了するまでは実行しません。この間は，表示部に緑が点灯します。



パネル装着手順

パネルからお掃除ユニットを分離
パネル裏面の突起で床を傷つける場合があります。
梱包箱から出す前に実施が有効です。

(1)〜(5)

室内ユニットにパネルを装着
室内ユニットと配線接続

(6)〜(10)

パネルにお掃除ユニットを装着

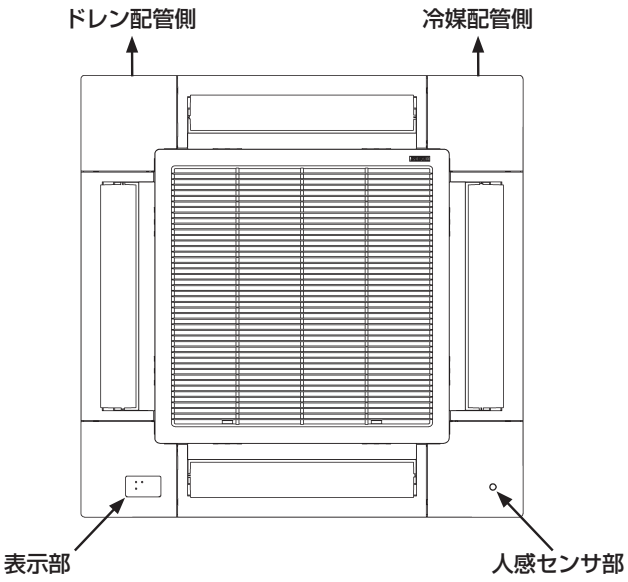
(11)〜(16)

室内ユニット・リモコンの設定
試運転

(17)〜(21)

(I) 据付工事

(1) 据付のまえに



・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
・次の項目を確認してください。
　○パネル・リモコンのタイプ
　○付属品

吸込グリルに方向性があります。
90度回転方向には取付きません。

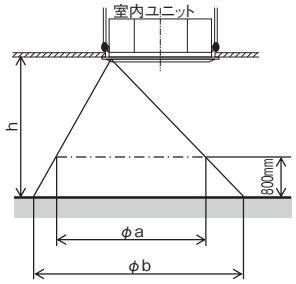
付属品

取扱説明書	1 冊		
据付説明書	1 冊		
電源線（赤，白）	1 本	⑩⑫	
パネル固定ボルト	4 本	⑧	室内ユニットへ取付け用
ストラップ	4 本	⑨	コーナリッド落下防止用
配線カバー	1 個	⑫	電源配線接続部カバー
ねじ（銀色）	6 本	⑨ ⑫	クランプ固定 コーナリッド固定用（共用 4 本） 配線カバー用 2 本
アースねじ（黄銅）	2 本	⑫	
クランプ	4 本		吸込グリル仮止用

機能名称について

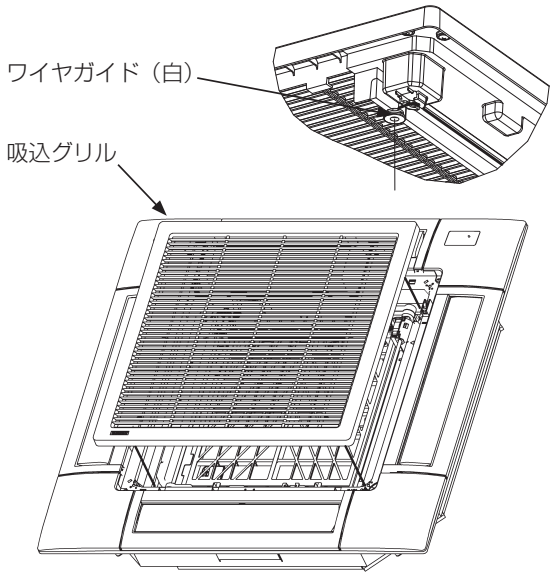
機能の名称の意味は下記のとおりです。
お掃除　　：エアフィルタ自動清掃機能
ラクリーナ　：ダストボックス昇降機能
エアフレックス：ドラフト防止機能

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ　h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①　φa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②　φb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

(2) 吸込グリルの取外し



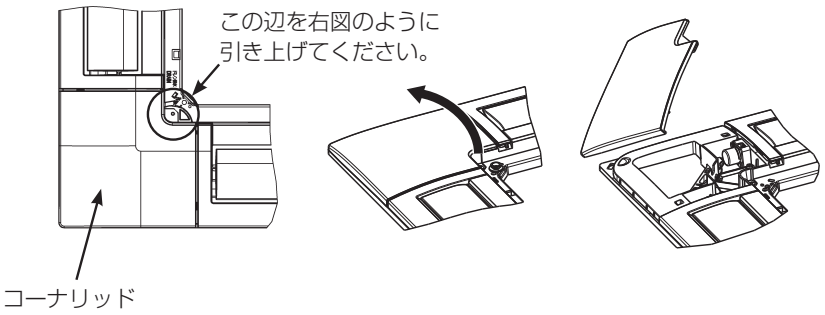
1. 吸込グリルを持ち上げて，吸込グリルを開けます。

2. 吸込グリル 4 コーナに取付けてあるワイヤガイドを外側にスライドさせて外してください。

ご注意
吸込グリルはゆっくり持ち上げてください。
ワイヤおよびワイヤガイドが破損する恐れがあります。

3. 吸込グリル内側のダストボックスの固定に使用していたダンボール・青テープを外してください。

(3) コーナリッドの取外し

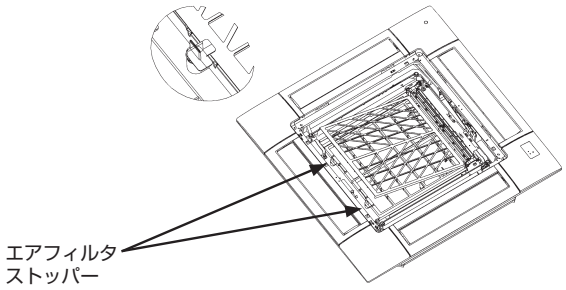


・コーナリッドを矢印の方向へ引き上げて取外してください。(4 コーナとも)

ご注意

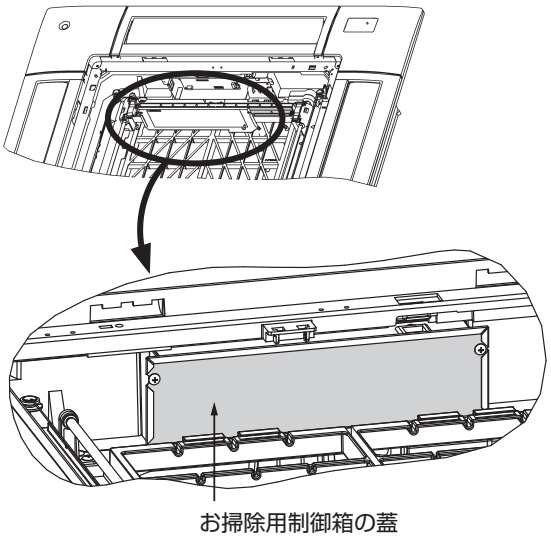
表示部および人感センサ部は，コーナリッド内で配線が接続されています。

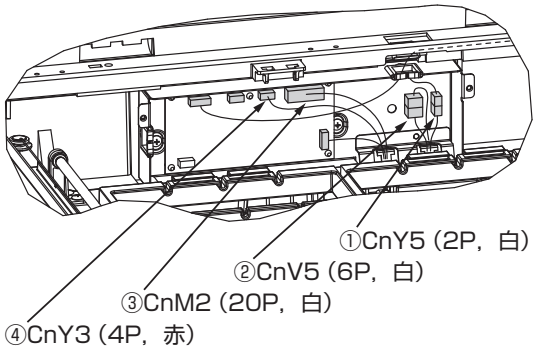
(4) エアフィルタの取外し



・エアフィルタストッパー（2 か所・白）を廻しエアフィルタを手前に引出してください。

(5) お掃除ユニットの取外し





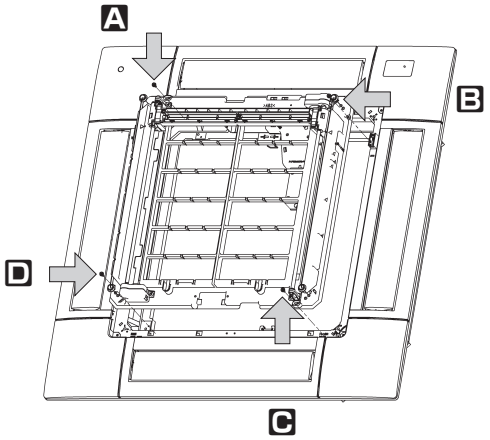
1. パネルのお掃除用制御箱の蓋を取外してください。
   左側のねじを緩め, 右側のねじを取外して, 蓋を取外してください。

2. パネルのお掃除用制御箱内の配線を外してください。
   ①コネクタ CnY5(2P, 白)：グリル用リミットスイッチ
   ②コネクタ CnV5(6P, 白)：ラクリーナ信号線
   ③コネクタ CnM2(20P, 白)：お掃除用モータ線 1
   ④コネクタ CnY3(4P, 赤)：お掃除用モータ線 2

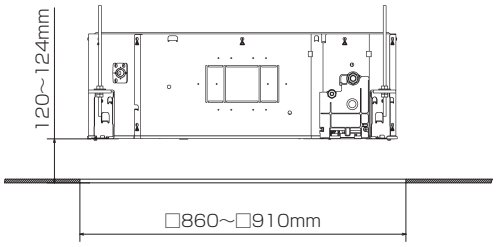
3. **A**・**C** 側のねじ 2 本を緩め，**B**・**D** 側 2 本を外し，お掃除ユニットを外します。

ご注意

ドライブシャフトを持たないでください。変形すると故障の原因になります。



(6) 室内ユニットの取付レベルの確認



・室内ユニット取付高さはパネル取付後，コーナ開口部より微調整ができます。(詳細は(8)パネルの取付をご参照ください。)

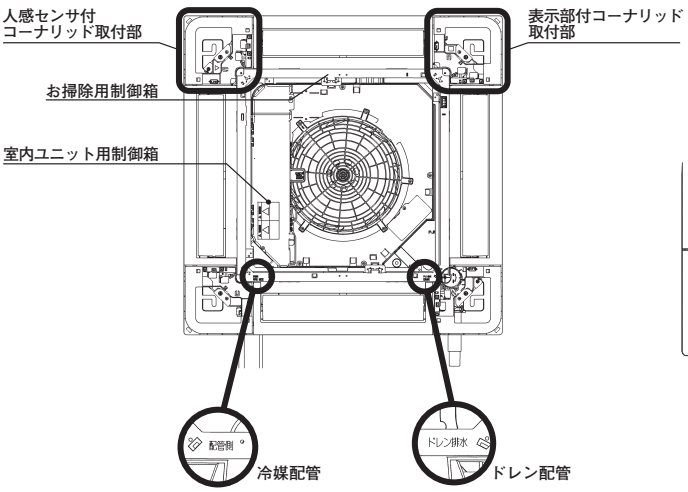
標準 +110 ㎜ 高く

・お掃除ラクリーナパネル据付の場合は，標準パネル据付に対し110㎜天井裏高さが増します。
天井下面と室内ユニット下面のレベル差は，120 ～ 124 ㎜の範囲内としてください。
天井開口は標準パネルと同一，□ 860 ～□ 910 の範囲にしてください。

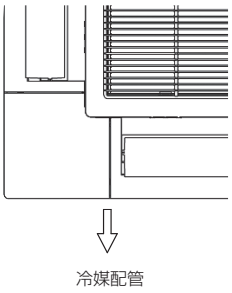
ご注意

室内ユニットと天井材との高さは，パネル取付の際，パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。パネルが変形し破損の恐れがあります。

(7) パネルの取付方向



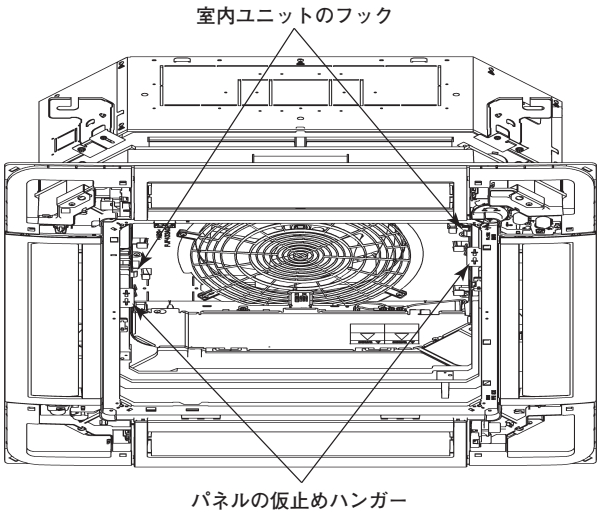
・パネルの取付方向は室内ユニットに対し方向性があります。
・パネルは，図に示す方向で取付けてください。
・パネルの「ドレン排水」と室内ユニットドレン配管の位置を合わせてください。
・パネルの「配管側」と室内ユニット冷媒配管の位置を合わせてください。

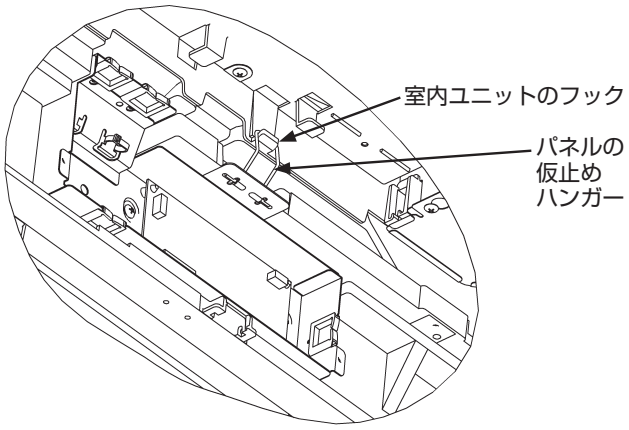


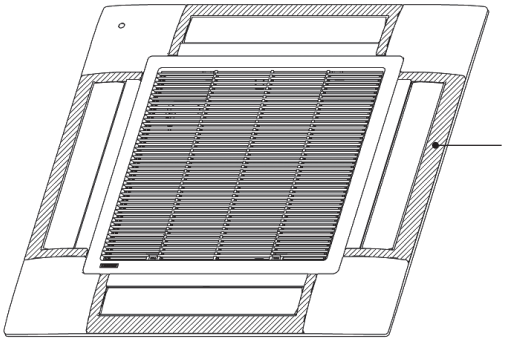
吸込グリルに方向性があります。
90 度回転方向には取付きません。

(8) パネルの取付

1. パネルの仮止め
・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。(2か所)
・パネルの仮止め用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて，パネルを室内ユニットに吊るします。







斜線部(4か所)は可動します。
手で無理に動かすと破損します。

ご注意

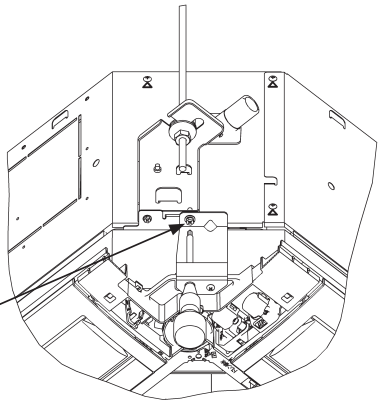
・パネルの吹出口周囲のエアフレックス (斜線部) は別部品です。
パネルを持つ際は取扱いに注意してください。手で無理に動かすと破損します。

2. パネルの室内ユニットへの固定

・付属のパネル固定ボルト 4 本を用いて，室内ユニットに締付けてください。

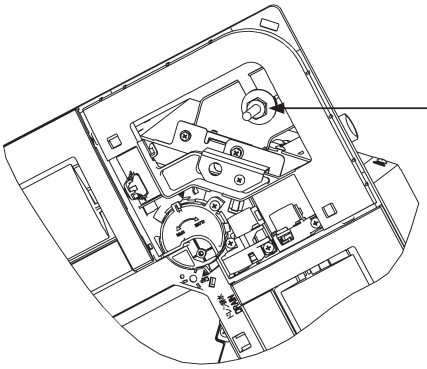
ご注意

仮止め状態のまま，コーナリッドの取外しは大変危険です。
仮止め状態のまま，室内ユニットの調整を行うことは大変危険です。



パネル固定ボルト

・室内ユニットの水平度，ドレン配管などに影響がでない程度であればパネルを取付けたまま，室内ユニットの据付高さを微調整できます。



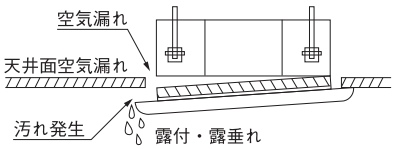
コーナ開口部よりスパナ等の一般工具にて
室内ユニットのナットを微調整してください。

ご注意

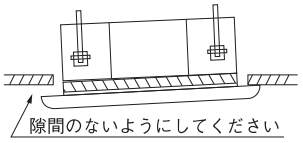
パネル取付の際，パネルに無理な荷重がかからないよう，室内ユニット据付高さを調整してください。
パネルが変形し，吸込グリル，エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

ご注意

・吊りボルトの締込みが不十分な場合，下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締込んでください。

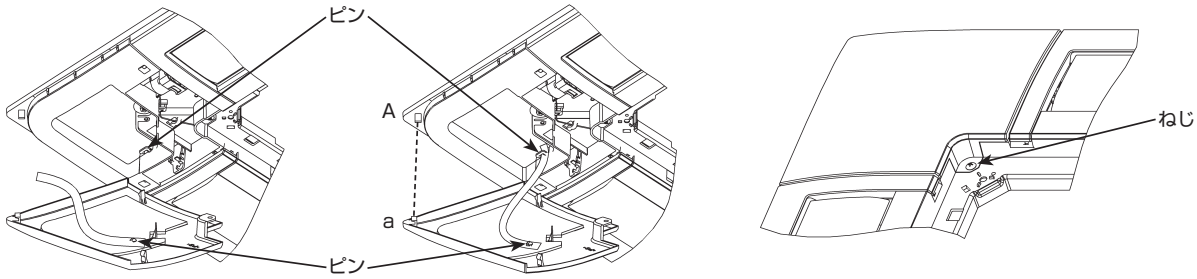


・吊りボルトを締込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は，室内ユニットの高さを再調整してください。

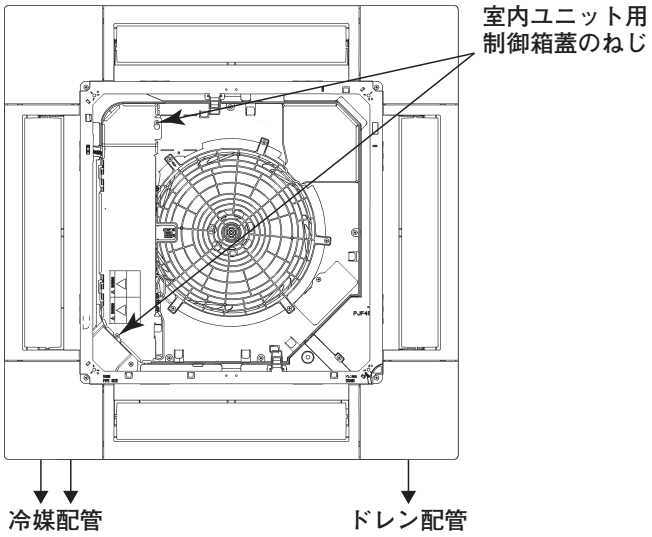


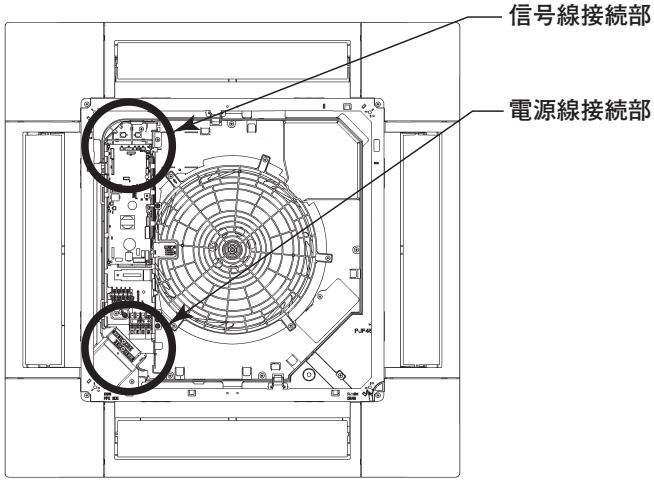
(9) コーナリッドの取付

1. 付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折返して引掛けてください。
2. コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引掛けてください。
3. コーナリッドの a 部をパネルの A 部に挿入してから，コーナリッドのつめ（2か所）をはめてください。
4. 付属のねじで固定してください。

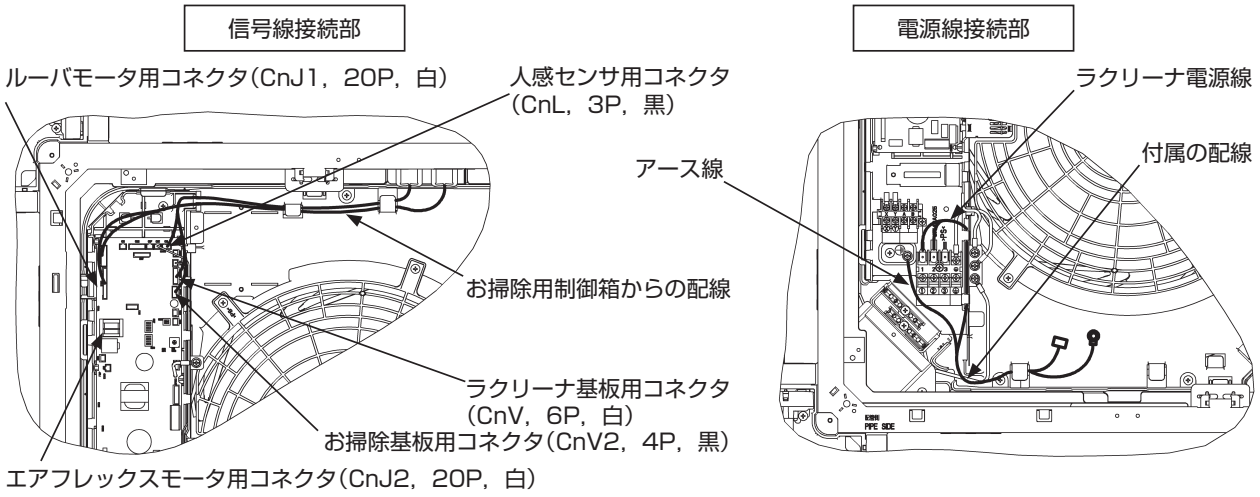


(10) 電気配線



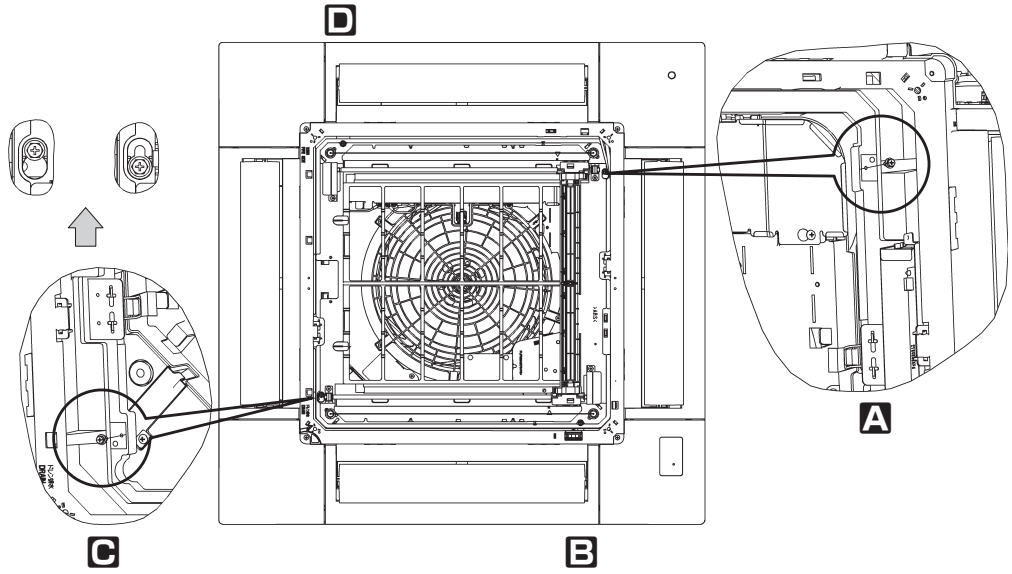


1. 室内ユニットの制御箱の蓋のねじ（2本）を緩め，蓋をスライドして取外してください。
2. ルーバモータ線（20 線）を制御箱のフックに通し，コネクタ CnJ1（20P, 白）を接続してください。
3. エアフレックスモータ線（20 線）を制御箱のフックに通し，コネクタ CnJ2（20P, 白）を接続してください。
4. 人感センサ線（3線）を制御箱の貫通部に通し, コネクタ CnL（3P, 黒）を接続してください。
5. ラクリーナ電源 & アース線（付属品）のファストン端子を室内ユニットの電源端子台の 1 番 , 2番に挿入してください。
   電源線の赤を端子台の 1 番に，白を 2 番に挿入してください。
   アース線 [緑] を室内ユニット制御箱の⏚に接続してください。
6. ラクリーナ基板用信号線（6線）を室内ユニットの制御箱内の基板のコネクタ CnV（6P, 白）に接続してください。
   コネクタ CnV にショートコネクタが接続されている場合は取外しの上，信号線を接続してください。
7. お掃除基板用信号線（4線）を室内ユニットの制御箱内の基板のコネクタ CnV2（4P, 黒）に接続してください。
8. 室内ユニットの制御箱の蓋を取付け，ねじ（2本）を締付けてください。
9. 室内ユニットの形式 , 製造号機を取扱説明書裏ページ等へ控えてください。
   （お掃除ユニットを取付けると室内ユニットの装置銘鈑が見難くなります。）

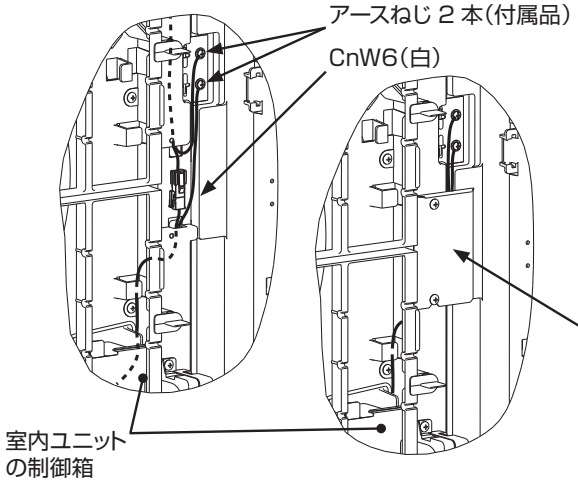


⑾ お掃除ユニットの取付

A·**C**側のM4ボルト2本に仮止めした後, お掃除ユニットをはめ込みボルトを締めてください。残り**B**·**D**側2本のボルトを締めてください。

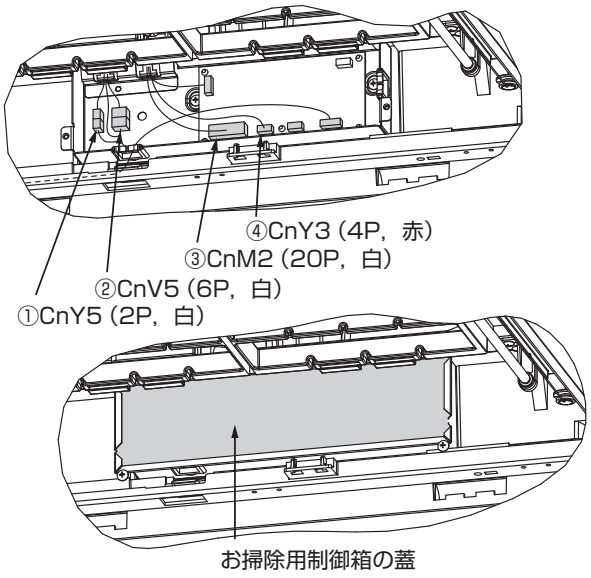


⑿ 電源線の接続



1. お掃除ユニットのアース線 [緑] をパネルの金具部にアースねじ(付属品)を使用して接続してください。
2. 室内ユニットの電源端子台に接続したラクリーナ電源＆アース線(付属品)をお掃除ユニットに接続してください。
   電源線(2線)コネクタ CnW6(2P, 白)を接続してください。
   アース線 [緑] をパネルの金具部にアースねじ(付属品)を使用して接続してください。
3. 配線カバー(付属品)をねじ(2本 , 付属品)で取付けてください。

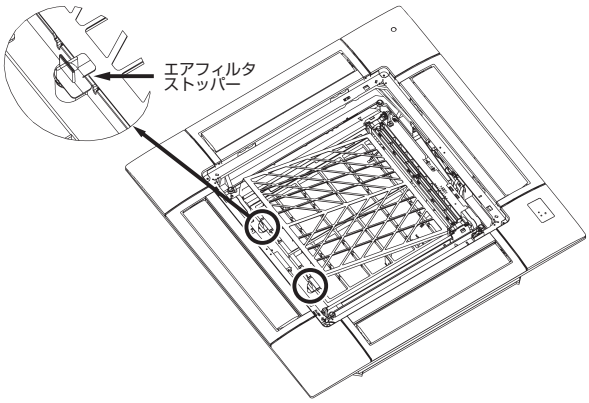
⑬ 制御配線の接続



1. パネルのお掃除用制御箱内の配線を接続してください。
   ①コネクタ CnY5(2P, 白)：グリル用リミットスイッチ
   ②コネクタ CnV5(6P, 白)：ラクリーナ信号線
   ③コネクタ CnM2(20P, 白)：お掃除用モータ線 1
   ④コネクタ CnY3(4P, 赤)：お掃除用モータ線 2

2. パネルのお掃除用制御箱の蓋を取付けてください。

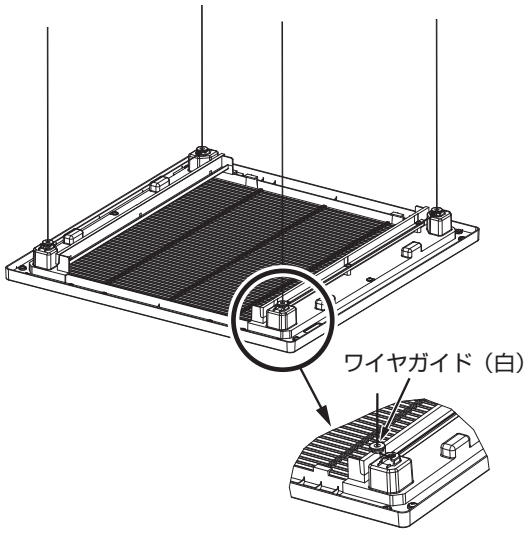
⑭ エアフィルタの取付



1. ブラシ組立とフレームの間にエアフィルタを装着してください。

2. エアフィルタストッパーで固定してください。

⑮ 吸込グリルの取付



1. 吸込グリル取付方向には方向性が有ります。吸込グリル方向を決定してください。
   90 度回転方向には取付けられません。

2. ワイヤを通してあるワイヤガイドを吸込グリルの 4 コーナの取付部に固定して装着します。

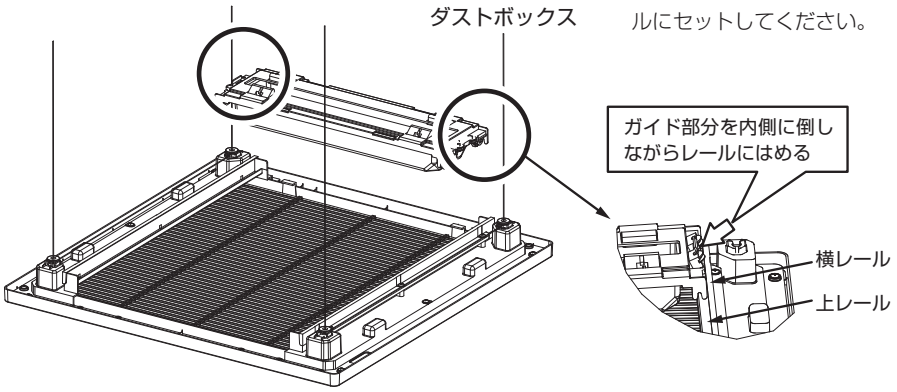
3. ワイヤガイドを吸込グリルに外側から内側にスライドさせながら装着してください。
   装着の際，取付部の隙間をワイヤが通過する様にワイヤの向きに注意して確実に取付けてください。

4. ワイヤガイド装着後，ワイヤの曲り・ねじり・噛込みがないことを確認してください。

ご注意

ワイヤガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと，吸込グリルの自動昇降ができなくなったり，吸込グリルが落下する恐れがあります。
ワイヤがお掃除部品に引掛かっていないか確認してください。引掛かりがあると吸込グリルの昇降・収納ができなくなったりします。

⑯ ダストボックスの取付



・ダストボックスのガイド部を内側に倒しながら，吸込グリルのレールにセットしてください。

ご注意

ボックス取付後，レールに沿ってダストボックスが端から端まで滑らかに移動できるか確認してください。
滑車がレールから外れていると，お掃除運転が正常に作動できなくなりますので確認してください。

⑰ 各種設定

<ルーバ動作範囲の設定（フリーフロー設定）>

ワイヤードリモコンを使用することで，吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると，ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に動作範囲の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

<エアフレックスの設定（ドラフト防止設定）>

お掃除ラクリーナパネルを取付，配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。
エアフレックスを作動させるために，ワイヤードリモコンを使用して，ドラフト防止設定を有効にしてください。
本モードで有効に設定するとエアコンの運転開始時にエアフレックスが作動し，運転中は常時エアフレックスが開いています。また，エアコン停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効 / 無効の設定が可能です。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。
（ワイヤードリモコン RC-DX2，RC-D4G 以前，ワイヤレスリモコン RCN-D3G 以前のリモコンでは設定できません。）

<人感センサの設定>

お掃除ラクリーナパネルを取付，配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。
人感センサを機能させるために，ワイヤードリモコンを使用して，人感センサ設定を有効にしてください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。
（ワイヤードリモコン RC-DX2，RC-D4G 以前，ワイヤレスリモコン RCN-D3G 以前のリモコンでは設定できません。）

<吸込グリル昇降の設定（グリル昇降操作）>

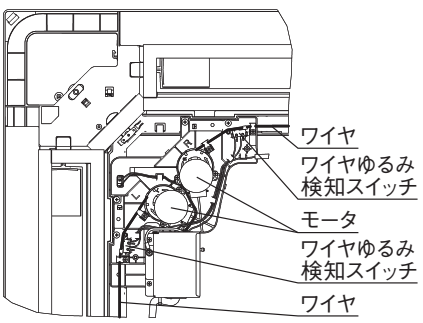
お掃除ラクリーナパネルを取付け，配線接続をするだけでは吸込グリルの昇降はできません。
吸込グリルの昇降を可能にするために，ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して，吸込グリル昇降を有効にしてください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

<吸込グリル下降長さの設定（降下長設定）>

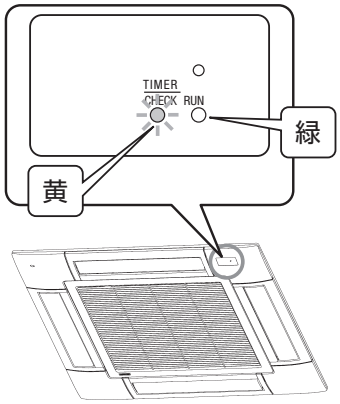
吸込グリルの下降長さをお好みの下降長さに設定することができます。工場出荷時は２mに設定されています。
お好みの下降長さにしたい場合は，ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して，吸込グリルの下降長さを設定してください。
設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

ご注意

<ワイヤゆるみ検知機構について>
ラクリーナパネルには，ワイヤの絡まり防止のため，「ワイヤゆるみ検知機構」を装備しています。吸込グリルを吊ったワイヤがゆるんだ場合，ワイヤゆるみ検知スイッチが働き，自動昇降用モータが自動停止します。
パネル据付後，グリルが動かない場合，「ワイヤゆるみ検知機構」が作動している可能性がありますので，据付時にワイヤの噛込み，絡まり等が無いか，ワイヤ経路をご確認ください。



⑱ 吸込グリルの収納



・リモコンのグリル昇降で「上がる」を選択して吸込グリルを収納してください。吸込グリルが収納されると，自動でダストボックスセッティングの運動を行います。この間は風量・風向の変更は入力できますが，終了するまでは実行しません。風量 Lo での運転は可能です。
・お掃除運転中は，表示部に緑のランプが点灯します。緑の点滅で点検モードを表示します。

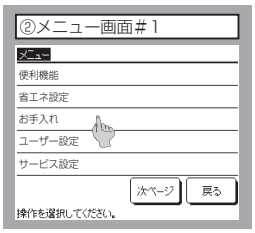
表示部のランプ点灯パターンとその内容		
ランプ点灯パターン	内　容	点検項目
緑と黄の交互点滅	電源投入から 20 秒間	―
消　　灯	室内ユニット - お掃除メカ間の通信異常	配線コネクタの差込を確認
緑の連続点滅		
緑の 1 回点滅	位置検知不能	エアフィルタ装着・ダストボックスとレールの装着を確認
緑の 2 回点滅		
緑の 3 回点滅		
緑の 4 回点滅	グリル収納不良	グリルが正しく収納されていません。ワイヤ・ワイヤガイドを確認

⑲ お掃除パネルの初期設定

・お掃除パネル設定は，FDTお掃除ラクリーナパネル接続時のみ可能です。接続せずにお掃除パネル設定を選択すると「操作無効です。」を3秒間表示します。
・お掃除ラクリーナパネルを使用する場合は，必ず時刻設定を行ってください。
・お掃除パネル設定は，親リモコンのみ可能です。

(a) TOP画面の「メニュー」より→「お手入れ」→「お掃除パネル設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。



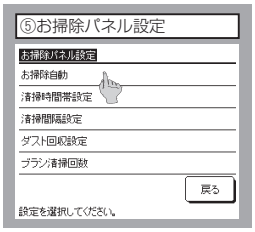






(b) 「お掃除パネル設定」画面より，各項目を選択してください。
設定する項目をタッチしてください。

・お掃除自動……自動清掃運転の有効/休止を設定します。
・清掃時間帯設定……自動清掃を開始する時間帯を設定します。
・清掃間隔設定……自動清掃する最小の間隔を設定します。
・ダスト回収設定……ダスト回収時期を設定します。
・ブラシ清掃回数……ブラシ清掃回数を設定します。



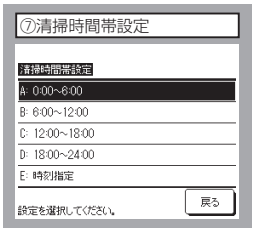
(i) お掃除自動の「制御有効」，「制御休止」を設定します。

・制御有効…自動清掃運転休止を解除します。
・制御休止…自動清掃運転が停止します。
リモコン・バックアップスイッチ操作ができなくなります。



(ii) 清掃時間帯設定

・設定された時間帯内の任意の時刻に自動清掃を開始します。
・エアコンの停止している時間を見計らって開始します。
・エアコンが運転している場合は，風量を弱まで下げ，ルーバを停止してから自動清掃を行ないます。
・お掃除運転中はモータ運転音が発生します。
・お掃除運転が気にならない時間帯（通常不在の時）を選択してください。
・「時刻指定」を選択すると，お掃除自動運転を開始する時刻を設定する画面が表示します。
▲ ▼ ボタンで，ご希望の時刻(5分単位)に合わせてください。
ご希望の時刻後，セット ボタンをタッチしてください。

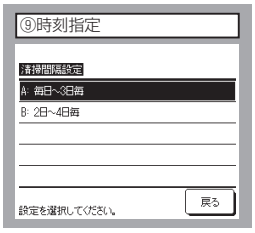




(iii) 清掃間隔設定

自動清掃する最小の間隔を設定します。
エアコン運転時間により，清掃は1～4日間隔で行います。

・A　毎日～3日毎：エアコン運転中は毎日，エアコン停止中は3日毎
・B　2日～4日毎：エアコン運転中は2日毎，エアコン停止中は4日毎

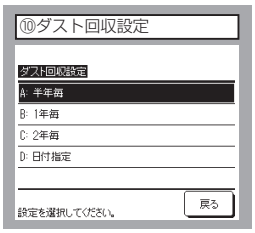


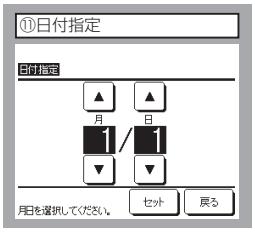
(iv) ダスト回収設定

・設定された日になると，リモコンに『ホコリを回収してください。』を表示します。

・一般事務所で１年毎を想定してダストボックス容量を決めていますが， ホコリの多少により設定してください。

・「日付指定」を選択すると，ダスト回収時期を指定する画面が表示され ▲ ▼ ボタンで，ご希望の日付に合わせてください。ご希望の日付に設定後，セット ボタンをタッチしてください。





(v) ブラシ清掃回数設定

ブラシの清掃回数を設定できます。初期設定は5回ですが，2～9回の範囲で設定できます。

ブラシにホコリが残る場合，回数を増やしてください。

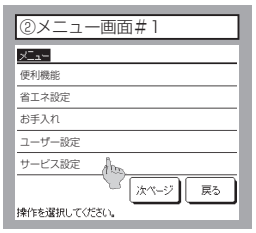


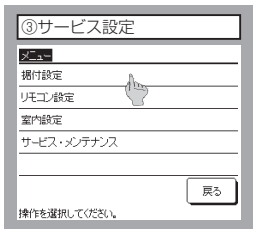
⑳ お掃除パネルの試運転

(a) ecoタッチリモコンを使用する場合の試運転手順

(i) TOP画面の「メニュー」より →「サービス設定」→「据付設定」を選択し，サービスパスワードを入力します。







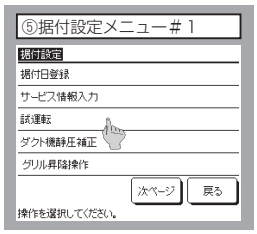


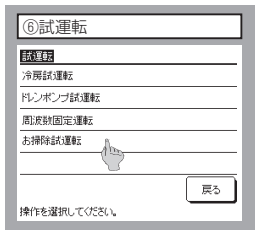
(ii)「据付設定メニュー#1」画面から「試運転」を選択します。

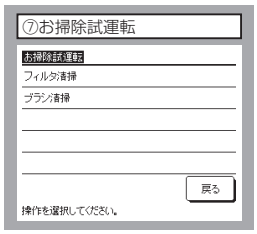
「試運転」画面から「お掃除試運転」を選択します。

「お掃除試運転」画面から「フィルタ清掃」または「ブラシ清掃」 選択し 運転 ボタンをタッチしてください。

清掃運転を開始します。



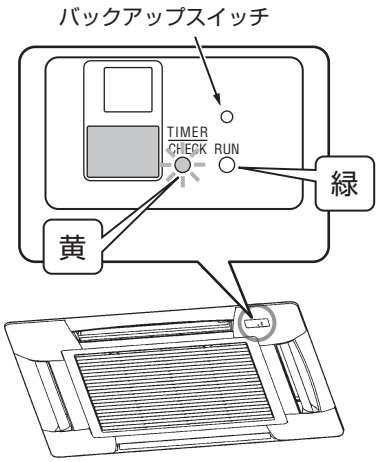








(b) eco タッチリモコンを使用しない場合



バックアップスイッチを押す

パネル表示部のバックアップスイッチを押してください。
バックアップスイッチを押す時間により試運転モードが異なります。

ON 時間	試運転内容
3 秒未満	フィルター清掃開始
3 ～ 6 秒	ブラシ清掃開始
6 秒以上	表示消灯

お掃除試運転中はパネル表示部に緑のランプが点灯します。
緑の点滅で点検モードを表示します。
この間は，風量・風向の変更は入力できますが，終了するまでは実行しません。風量 Lo での運転は可能です。
運転中にバックアップスイッチを押すと停止します。

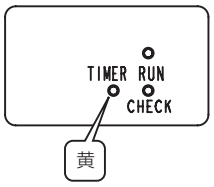
パネル表示部ランプ点灯モードとその内容		
表示パターン	内　容	点検項目
緑と黄の交互点滅	電源投入から 20 秒間	ー
消　　灯	本体 - お掃除間の通信異常	配線コネクタの差込を確認
緑の連続点滅		
緑の 1 回点滅	位置検知不能	フィルタ装着・ダストボックスとレールの装着を確認
緑の 2 回点滅		
緑の 3 回点滅		
緑の 4 回点滅	グリル収納不良	グリルが正しく収納されていません。ワイヤ・ワイヤガイドを確認

お知らせ
フィルタ清掃は、約 1 時間 20 分で終了します。
フィルタ面を 11mm/ 分でゆっくり拭き取ります。

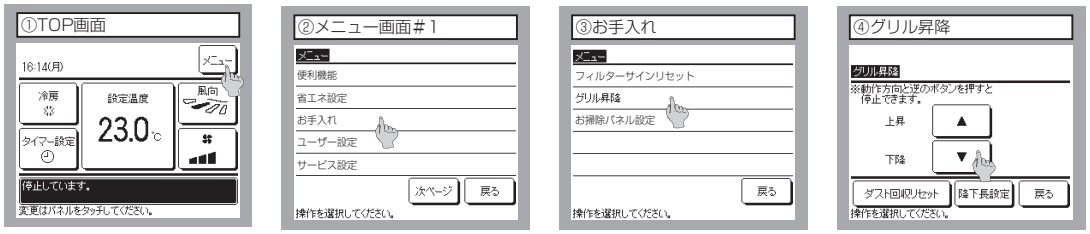
(21) ダスト回収のしかた

お掃除パネル接続ユニットにおいて，ダストボックスのホコリを回収する時期をお知らせするため，設定時間に達すると，「ホコリを回収してください。」を表示します。
以下の操作により，ダストボックス内のホコリを回収し，「ホコリを回収してください。」表示を消してください。

●パネル表示部に黄色の点灯



(a) TOP画面の「メニュー」より「お手入れ」→「グリル昇降」を選択します。
「グリル昇降」画面より降下 ▼ ボタンをタッチして，吸込グリルを下げます。



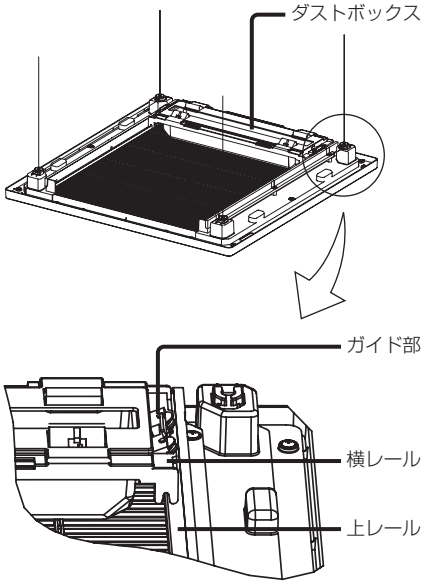
(b) ダストボックスを取外し，ホコリを回収してください。
ホコリを回収後，ダストボックスを元の場所に設置し，吸込グリルを上げてください。

(i) ダストボックスの取外し
吸込グリルが下降停止してから，ダストボックスをレールから取外してください。

(ii) ホコリの回収
ダストボックス内のホコリを回収してください。

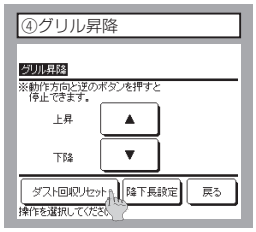
(iii) ダストボックスのセット
ガイド部分を内側に倒しながら，吸込グリルのレールにダストボックスをセットしてください。

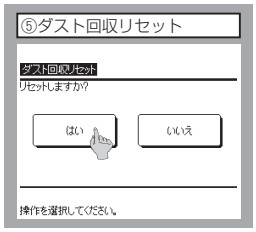
(iv) 吸込グリルを上げる
吸込グリルが収納されると，自動でダストボックスのセッティング運転を行います。
この間は，風量・風向の変更は入力できますが，終了するまでは実行しません。



(c) ダスト回収リセット
「グリル昇降」画面より「ダスト回収リセット」ボタンをタッチしてください。
「ダスト回収リセット」画面より [はい] ボタンをタッチしてください。ダスト回収タイマーがリセットされ，「ホコリを回収してください。」の表示が消えます。

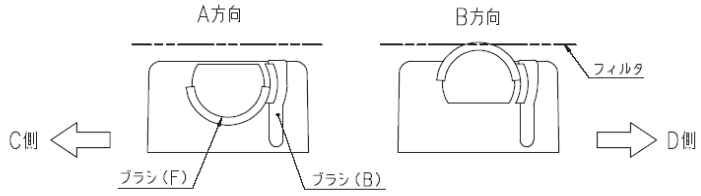
注(1) ダスト回収設定で「日付指定」を選択している場合，次回の「日付指定」設定が必要です。⑲，(b)，(iv)項を参照して設定してください。



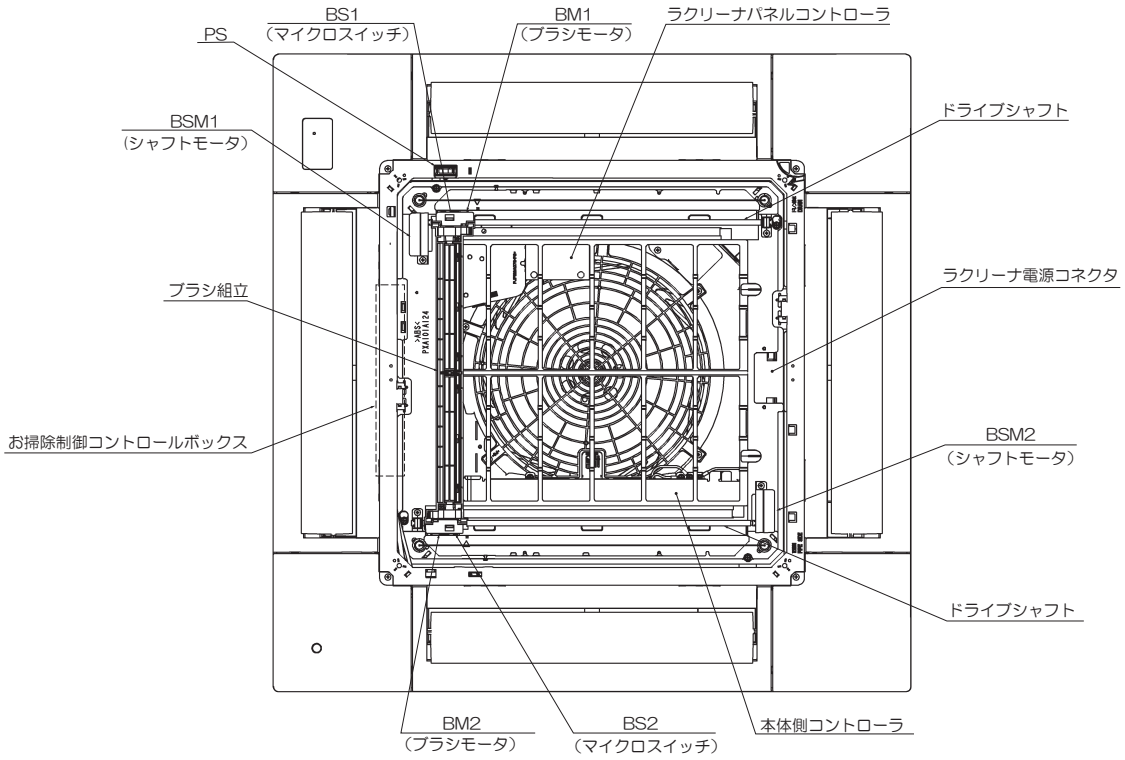


(Ⅱ) サービス関連

(1) 部品・機能



ブラシ組立断面図



据付状態　下から見る

部　　品	仕　様・機　能
フィルタ	ハイメッシュフィルタ　材料ＰＥＴ
ブラシF	フィルタからホコリを拭き取るブラシ
ブラシB	ブラシF・ブラシBが交差してホコリをダストボックスに落とす為のブラシ
ドライブシャフト	ブラシ組立てをC方向⇔D方向へ移動させるシャフト （無理な力が加わると変形するので注意）
BM1,2	ブラシ回転用モータ，ブラシの向き（A方向⇔B方向）を制御します。
BSM1,2	ドライブシャフト回転用モータ，ブラシ組立て位置（C方向⇔D方向）を制御します。
BS1,2	位置検知用スイッチ，ブラシ組立ての位置（C方向⇔D方向）を検知します。
表示部　スイッチ	バックアップスイッチ、お掃除運転・ＬＥＤ消灯を制御します。
表示部　ＬＥＤ４	緑色、お掃除運転表示（点灯）・点検コード表示（点滅）を行います。
表示部　ＬＥＤ５	黄色，ダスト回収表示（点灯）を行います。
お掃除制御コントロールボックス	お掃除用モータ・スイッチ・表示部の制御基板を内蔵
ＰＳ	グリル収納位置検知スイッチ，吸込グリルがパネルに収納したことを検知します。
ラクリーナ電源用コネクタ	本体側からラクリーナパネルコントローラへの電源線中継コネクタです。
ラクリーナパネルコントローラ	グリル自動昇降用モータ・スイッチ・コントローラを収納しています。

注(1) フィルタ，ブラシF・Bは，消耗品です。3年を目安に交換を行ってください。ただし，環境条件や使用条件によっては，想定している交換周期よりも早く消耗が進みフィルタの目詰まり等の影響がでる場合がありますので，定期的な保守点検を行うことをお願いします。

(2) 制御

(a) お掃除運転

・ブラシ組立は，ブラシＦをＢ方向に向けてからＤ方向側へ移動させ，エアフィルタに付いたホコリをふきとります。約10mm/分で移動し，移動の途中でブラシＦとフィルタの接触面を変えています。
・Ｄ方向側に到着後，ブラシＦをＡ方向に向けてからＣ方向側へ約10mm/分で戻ります。
・Ｃ方向側に到着後，ブラシＦを往復回転させながら，ブラシＦとブラシＢを交差させてホコリを圧縮してダストボックスに落とします。往復回転数は２～９の範囲で設定できます。
・終了後，ブラシ組立はブラシＦをＡ方向に向けてからＣ方向側で停止します。

(b) 位置合わせ運転

・ブラシ組立とダストボックスの位置を合わせます。
・ブラシ組立がＤ方向側へ移動し、到着後Ｃ方向側へ約16mm/分で戻ります。
・ダストボックス上部のフックは、ばねで沈みながらブラシ組立に位置を合わせます。
・終了後，ブラシ組立はブラシＦをＡ方向に向けてからＣ方向側で停止します。

(c) 位置認識運転

・ブラシ組立を任意に移動させながら，位置検知スイッチによりマイコンが位置を認識します。
・終了後，ブラシ組立はＣ方向側で停止します。

(d) ラクリーナパネル収納

ラクリーナパネル収納後，パネルスイッチ(PS)により自動的に位置合わせ制御を行います。

(e) エアコン運転中の場合

・お掃除運転中，位置合わせ運転中および位置認識運転中でもエアコンの運転ができます。ただし，風量は自動的にLoに下がり，風向ルーバは上位置で停止します。
・お掃除運転中，位置合わせ運転中および位置認識運転中は，エアコンの性能が充分発揮できない場合が有ります。

<table>
<tr><th>リモコン</th><th>ecoタッチリモコン：RC - DX3B</th><th>RC - D4G (含むワイヤレスリモコン)</th></tr>
<tr><td rowspan="2">清掃間隔</td><td>清掃終了から次回清掃開始までの間隔</td><td rowspan="3">清掃時間帯の設定はできません。
エアコン運転時間が８時間累積後に，停止が30分連続した場合に清掃開始します。
または，エアコン運転時間が１６時間累積後に清掃を開始します。
または，前回の清掃終了から７２時間経過後に清掃を開始します。
例えば，
１日８時間運転後に停止した場合は，停止３０分後から清掃開始します。
連続運転の場合は、１６時間毎に清掃を行います。
停止中でも３日毎に清掃を行います。</td></tr>
<tr><td>・毎日～３日　エアコン運転中は毎日
　　エアコン停止中は３日毎
・２日～４日　エアコン運転中は２日毎
　　エアコン停止中は４日毎</td></tr>
<tr><td>清掃時間帯</td><td>時間帯設定は，４パターンから選択できます。
・設定された時間帯に清掃を開始します。
・エアコンが運転中の場合停止するまで４時間まちます。
・エアコンが停止しない場合は風量をLoに下げてエアコン運転しながら清掃を開始します。
・通常使用時間外（在籍時間外）の選択を推奨します。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ダスト回収タイマー</td><td>時刻設定：設定時刻に清掃を開始します。</td><td>時刻設定はできません。</td></tr>
<tr><td>設定された日になると，リモコンに『グリル昇降操作により、ホコリを回収してください』の表示が出ます。</td><td>フィルターサインの設定により切換可能。
設定１：1000時間，設定２：2000時間
設定３：2500時間，初期設定は2500時間</td></tr>
<tr><td>パネル表示部に黄色の点灯をします。</td><td>パネル表示部に黄色の点灯をします。</td></tr>
<tr><td>ホコリ回収完了をタッチした日から，設定期間をカウントします。</td><td>フィルターサインリセットした日から、設定期間をカウントします。</td></tr>
<tr><td>日付指定 毎年指定日に表示を行います。</td><td>日付指定はできません。</td></tr>
</table>

(3) メンテナンス

ＦＤＴお掃除パネル関連点検コード

(a) 異常を表示して、エアコン運転を停止します。

表 示	内　　容	処　　置
E21	通常パネルが閉じた状態で運転中に，グリルを開いた。 <パネルスイッチ（PS）が開いた場合> 通常パネルが閉じた状態で手動でグリルを開き，運転を開始した。 <パネルスイッチ（PS）が開いているとき> ラクリーナパネル制御で開いた場合は，運転が可能です。	吸込グリルが開いていないか点検してください。 ラクリーナパネルのワイヤ・ワイヤガイド装着方向確認

（b）点検を表示しますが､エアコンは運転を継続します。

表　示	LED表示(1)	内　　容	処　　置
Ｍ１	消灯	本体－お掃除間の通信異常	コネクタの差込を確認
	連続点滅		
	１回点滅	ＢＳＭモータを駆動中，25分間ＢＳが位置検知しないとき	フィルタの装着 （フィルタが変形していないか，引掛け部の外れはないか） ダストボックとレールの装着 （８個のホイールがレールに入っていますか）
	２回点滅	「フィルタ清掃制御」が１時間以内に終了しないとき	
	３回点滅	Ｃ方向端 ～ Ｄ方向端まで２０分以内に，終了したと誤認したとき	

注(1) LEDの点滅は，10秒間隔での点滅回数（青ＬＥＤ）示します。

（c）バックアップスイッチ操作

長押し時間	機　　能
３秒未満	フィルタ清掃開始
３～6秒未満	ブラシ清掃開始
６秒以上	表示消灯

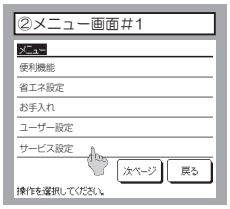
バックアップスイッチでのダスト回収表示（黄LED）消灯は，一時的に消えますが次の午前零時に再点灯します。
ダスト回収リセット・フィルターサインリセットを行ってください。

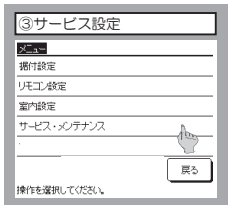
（d）トラブル対応
　ブラシ組立が動かなくなった場合，および斜めに傾いた場合。

1	ブラシ組立は，位置検知を行いながら自動で平行に移動する様に制御しますが，ダストボックスがレールから脱線していたり，その他障害物により移動ができない場合，規定時間内で位置検知信号が入力されなかった場合点検コードを表示します。
2	ブラシ組立は，位置検知を行いながら自動で平行に移動する様に制御します。左右の位置検知スイッチが検知するタイミングが一致する様に先に検知した側が一旦停止して反対側の検知を待ちます。2個の位置検知スイッチが正常に検知できなかった場合，検知できない側のＢＳＭが回り続けブラシが斜めになって停止する場合があります。
3	以上のケースにて，ブラシが停止してしまった場合は、上表の処置を点検してください。
4	ecoタッチリモコン「ＲＣ－ＤＸ３Ｂ」の場合は，メニュー『サービス・メンテナンス』⇒『サービスパスワード』⇒『お掃除パネル点検』から復旧をさせてください。
5	停止している位置がＣ方向側（コントロールボックス側）の場合、個別操作［5］ 　移動できた場合は、位置合わせ指令
6	停止している位置がＤ方向側（反コントロールボックス側）の場合、個別操作［6］ 　移動できた場合は、位置合わせ指令
7	停止している位置がＣ方向側（コントロールボックス側）の場合、位置認識指令 　移動できた場合は、位置合わせ指令
8	移動できない場合は、ドライブシャフトを回転させて、ブラシ組立が中央寄りで平行になるように外側になっている側を修正後、位置認識指令

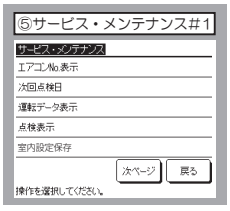
注(1) ブラシ組立および駆動の詳細については(1)項をご覧ください。

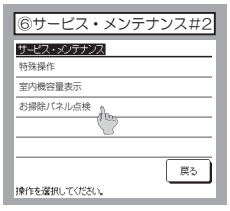


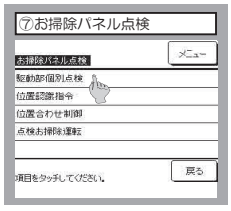














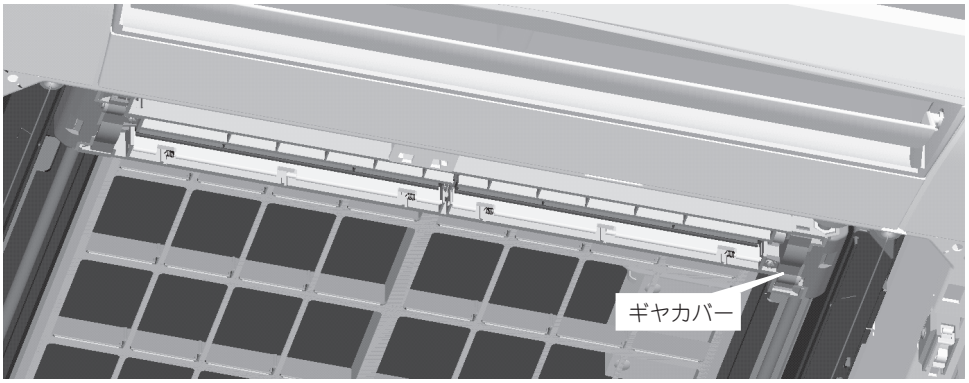
	駆動部個別点検内容
1	ブラシ1回転 A方向 下向
2	ブラシ2回転 A方向 下向
3	ブラシ1回転 B方向 上向
4	ブラシ2回転 B方向 上向
5	ブラシ移動 C方向 ｺﾝﾄﾛｰﾙ側
6	ブラシ移動 D方向 反対側
7	ダスト回収表示黄LED点灯

(4) ブラシ組立分解要領

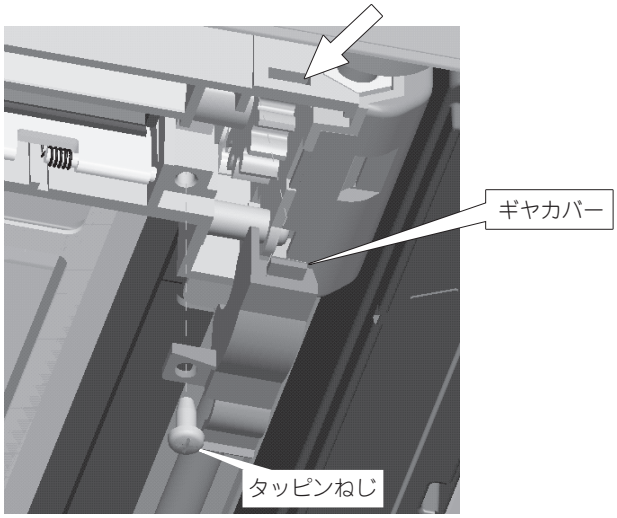
■ブラシセット

名　称	個数	備　考
ブラシ(F)	2	先端の形状が異なるブラシ(F)が各1個
ブラシ(B)	2	
ばねA	4	

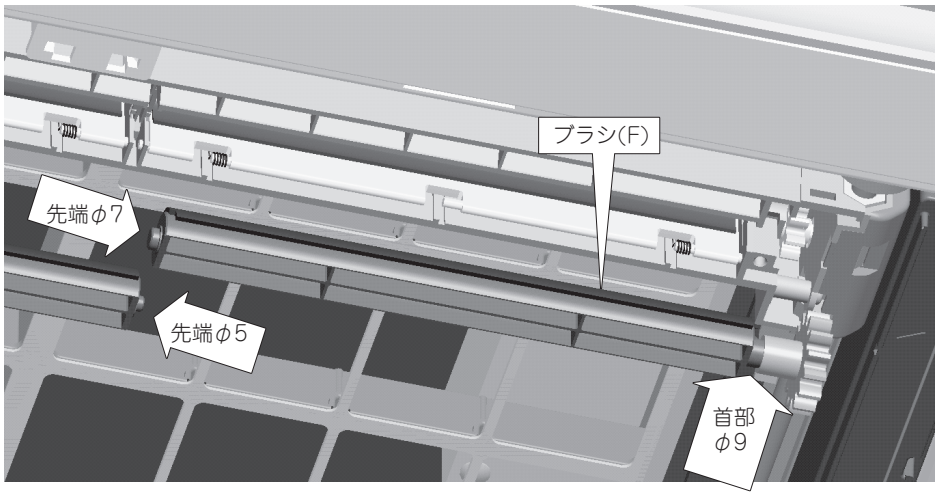
①タッピンねじを外してギヤカバーを取外してください。

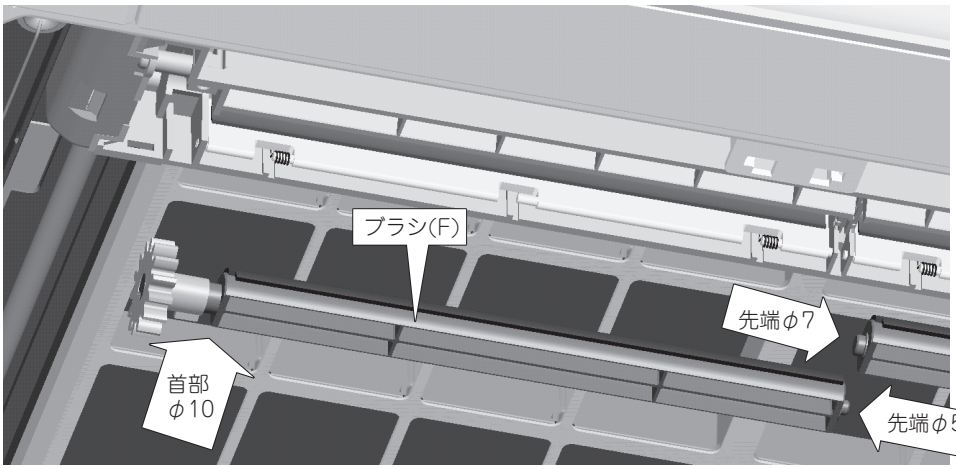


②ギヤカバーの取付は、左右共フレーム角穴(矢印)に爪を掛けてタッピンねじで固定しています。

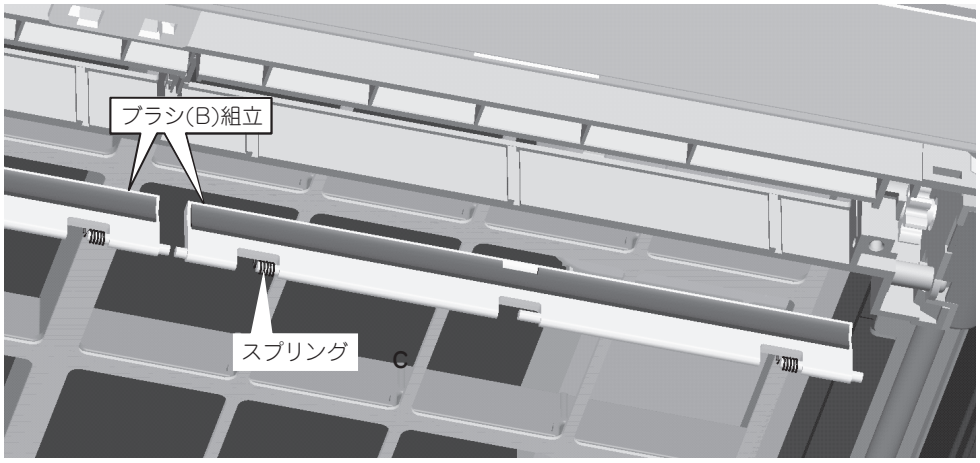


③ブラシ(F)を外します。ブラシ(F)は､左右で先端の形状が異なりますので，組立時は矢印部の先端の形状を確認し受側にあわせてください。

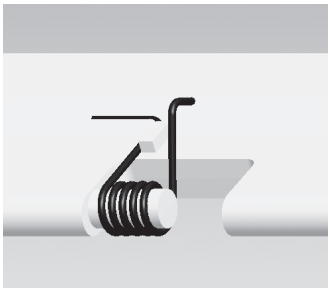


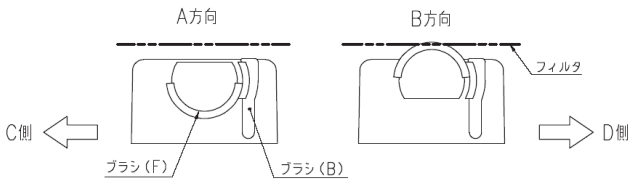


④ブラシ(B)を外します。ブラシ(B)には、左右にばねがあり，ばね取付には方向性がありますので注意してください。また，組立時には，ブラシ(F)とブラシ(B)が向き合うようにしてください。
（下図参照）



ばね取付方向



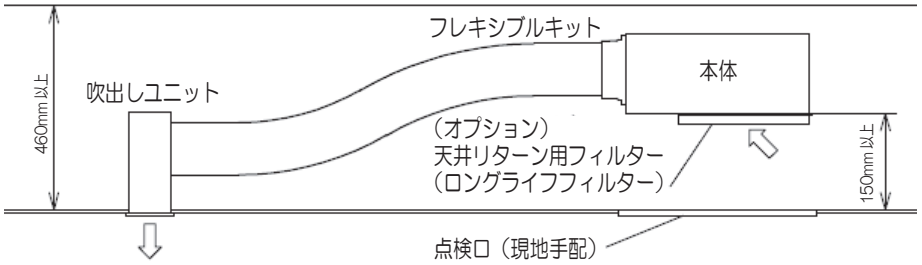


ブラシ組立断面図

(7) フィルターキット（FDR シリーズ）

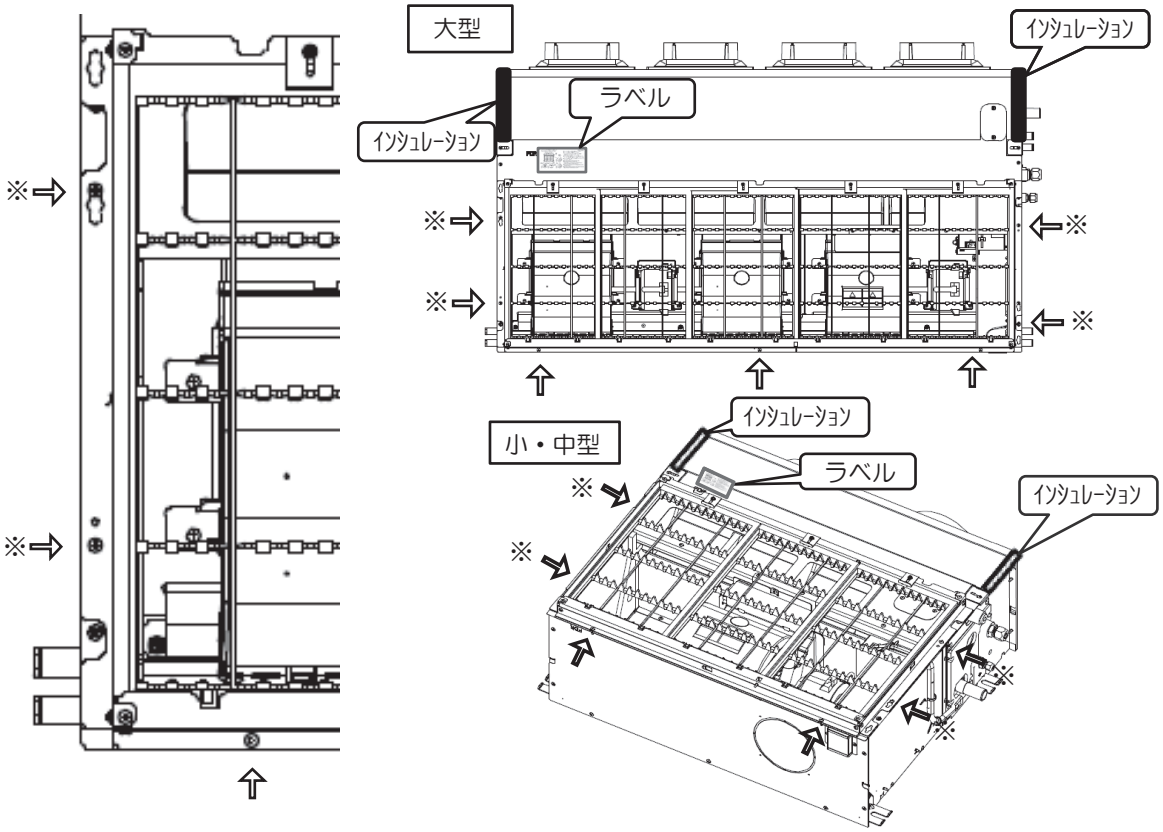
PJG012D011A B

室内ユニット付属の据付説明書と合わせて、ご覧ください。
フィルター清掃用・ユニット点検用に点検口を設置してください。
天井内が負圧にならない様に設計してください。



フィルターキット形式		R-FL-2A							R-FL-3A				R-FL-4A		
		P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160
適用機種	店舗				●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
	ビル空調	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	
	GHP	●	●	●		●		●		●		●	●	●	
内容物	フィルター	フィルター小　3枚							フィルター大　3枚				フィルター小 2枚 フィルター大 3枚		
	ねじ	6本							6本				7本		
	インシュレーション	2枚							2枚				2枚		

- 付属のラベル『エアフィルターの取付け・取外し方』を貼付けてください。
- ⇨ 矢印部を付属のねじで固定してください。　小型・中型は6本　大型は7本
- 機種によって、※部のねじがユニット側のねじと重なる場合があります。
  その場合はユニット側のねじを取外してから共締めしてください。
- インシュレーションを下図に従って2か所貼付けてください。
- 室内ユニット付属の据付説明書を参照に静圧設定を行ってください。

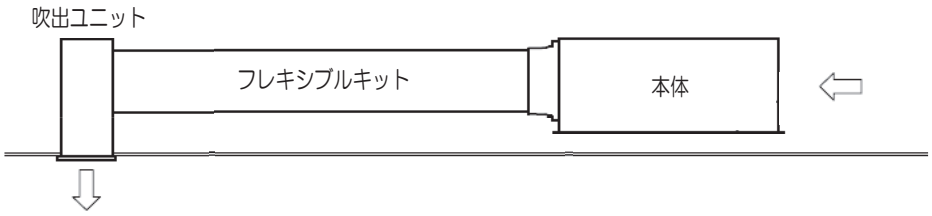


(8) 丸ダクト変換キット（FDU シリーズ）

PJG012D012A △A

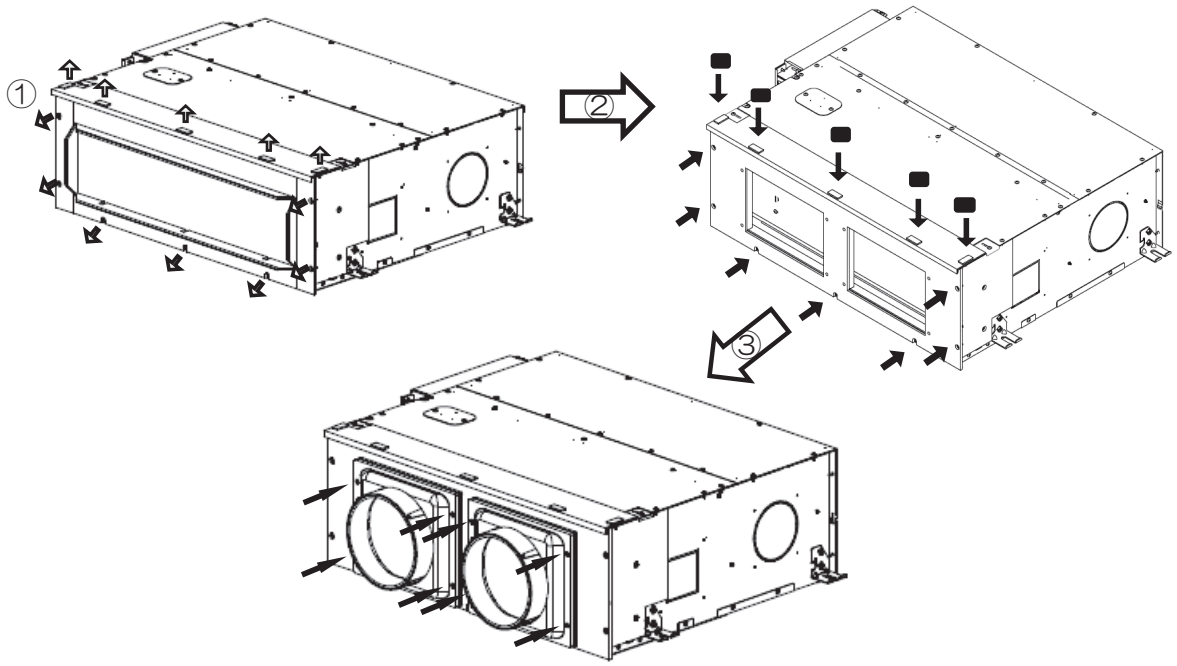
- ○ 室内ユニット付属の据付説明書と合わせて、ご覧ください。
- ○ φ200丸形ダクトを接続してください。
- ○ 各スポット間のダクト長さは、2対1以内としてください。
- ○ ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。
- ○ ４スポットを３スポット、３スポットを２スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれかを塞いでください。
- ○ ２スポットから１スポットへの改修は、行わないでください。
- ○ 室内ユニット付属の据付説明書を参照に静圧設定を行ってください。

注意：丸ダクト仕様の場合、最大機外静圧は、１００Pa以下としてください。



シリーズ展開		小型							中型				大型		
		P22	P28	P36	P40	P45	P50	P56	P63	P71	P80	P90	P112	P140	P160
シリーズ展開	店舗						●	●	●	●	●		●	●	●
	ビル空調	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●
	GHP					●		●		●		●	●	●	
丸ダクト変換キット	丸ダクト	1個	2個						3個				4個		
	形式	U-UM-1A	U-UM-2A						U-UM-3A				U-UM-4A		
付属品	付属ねじ（長さ12mm）	12本	12本						13本				14本		
	付属ねじ（長さ16mm）	4本	8本						12本				16本		
	断熱材	5枚	5枚						6枚				6枚		

- ● 本作業は、本体吊り込み前に実施してください。
- ① 熱交換器側の角ダクトフランジを取外してください。矢印のねじを外してください。 ⇨
- ② フロントパネルを取付けてください。付属のねじ（長さ12mm）を使用してください。 ➡
  付属のインシュレーションを貼付けてください。 ■
- ③ 丸ダクトを取付けてください。付属のねじ（長さ16mm）を使用してください。 ➡



(9) FDAS シリーズ

		FDASP1405TLX	FDASP2245TLX	FDASP2805TLX	FDASP4505TLX	FDASP5605TLX
補助電気ヒータ		HA06600	HA06601	HA06602	HA07389	HA07390
	補助電気ヒータ用電磁接触器	HA05948			HA05949	
	補助電気ヒータ取付キット	−			HA07378	
蒸気用スプレー加湿器		HA05872	HA05873	HA05874	HA07385	
	リレーボックス	SA03401A				
	蒸気用スプレー加湿器取付板 (後ろ吸込時不要)	−			HA07377	
気化式加湿器		HA05877	HA05878		HA07395	
			HA05879			
	気化式加湿器取付キット	−			HA07379	
パン形・超音波加湿器取付板		HA07458	HA07459		HA07460	
プレナムチャンバ		HA07357A	HA07358A		HA07366A	
	接着剤(グラスウール貼付用)	SA08311			−	
背面ダクトフランジ		HA07324	HA07325		HA07326	
	前面ふさぎパネル	HA07327A	HA07328A		HA07329A	
	後ろ吸込用バッフルプレート	HA07332			−	
側面吸込用ダクトフランジ		HA05953A				
OA取入用フィルタ		HA05896				
格上げ用ファンモータ		HA07330		−	HA07331	HA07374
不織布フィルタ(PS/400N)		HA05885	HA05886		HA05887	
デミスタフィルタ		HA06189	HA06190		HA06191	
高性能フィルタ (背面吸込形)	比色法90%	HA06108	HA06110		HA07368	HA07393
	比色法70%	HA06109	HA06111		HA07369	HA07394
背面吸込形電気集塵器		HA06233	HA06234		HA07370	
防振架台	三菱重工冷熱製	HA05967	HA05968		HA07382	
	特許機器製	HA07077	HA07078		HA07442	
	倉敷化工製	HA07777	HA07778		HA07779	
防振ユニット	ハイパット	HA05973	HA05975		−	
	マルチマウント	HA05979	HA05981		HA07436	
架台		HA06073	HA06074		HA07356	
木台(ゴムパット付)		HA05888	HA05889		HA07364	
木台固定金具		HA05891			HA05891A	
転倒防止金具		HS61278				
ふさぎ板(リモコン移設時)		HA06502				
ダクトジョイント		HA06844	HA06845		HA07367	
天板用バッフルプレート		HA07333	HA07334		−	
リモコンレスパネル(リモコン移設時)		HA07335A	HA07336A		HA07337A	
左抜き仕様接続配管		HA07338	HA07339	HA07340	−	
高ヘッドドレンアップセット(単相100/200V共用)		HA07477				
	(出口用)ドレンホース(内径Φ9×10m)	SA03219				
	(出口用)ドレンホース(内径Φ9×30m)	SA04088				
	(出口用)塩ビ配管接続キット(VP13)	SA06487				
高ヘッドドレンアップセット(単相200V)		HA07637				
	(出口用)ドレンホース(内径Φ12×25m)	SA04089				
	(出口用)塩ビ配管接続キット(VP13)	SA03440				

注(1) 機材部品発注時は機材カタログにてご確認願います。

三菱重工サーマルシステムズ株式会社　〒108-8215　東京都港区港南2-16-5
三菱重工冷熱株式会社　〒108-0023　東京都港区芝浦2-11-5

●製品の仕様は改良のため予告なしに変更することがあります。